

# 秋山西部遺跡群

— ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2012

本庄市遺跡調査会

本庄市遺跡調査会報告書  
第43集

**秋山西部遺跡群**

「ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」

二〇一二年

本庄市遺跡調査会

あ き や ま せ い ぶ い せ き ぐ ん  
**秋 山 西 部 遺 跡 群**

— ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2 0 1 2

本 庄 市 遺 跡 調 査 会



## 序

ここに報告する秋山西部遺跡群は、ゴルフ場造成に伴って発掘調査が実施されたもので本庄市児玉町秋山の比較的広い区域に点在する7遺跡に相当しております。発掘調査の結果、山裾に営まれた縄文時代をはじめとする集落遺跡が確認され、山間地域に展開した先人たちの土地利用の一端を垣間見ることができました。

縄文時代は、一般に採集狩猟社会であるとされておりますが、彼らの活動の痕跡からは、自然との共生の中で自然を理解し、動植物のもつ繁殖力を維持し活性化することによって、四季折々の自然の恵みを糧とする豊かな生活をおくっていた様子を窺うことができます。

今回の発掘調査された埋蔵文化財も、このような先人達の営みの一端を垣間見するための基礎資料となるものであり、この秋山西部遺跡群の調査によって、さらに本地区の具体的な姿が明らかとなりました。この発掘の記録は、先人達が本庄の地で生きた証であります。このたび調査報告書という形で永く後世に伝えることになりましたが、今後はさらに、私たちを育ててくれた環境と歴史への理解が徐々に深まっていくことでしょう。

ここに、本書が刊行できましたことは、市川総業株式会社をはじめとする関係各位ならびに関係諸機関の皆様のご協力の賜と深く感謝いたします。この調査報告書がこの地域の皆様はもとより、教育や研究にたずさわる皆様のご参考となりえるならば幸いです。

平成24年3月1日

本庄市遺跡調査会  
会長 茂木孝彦



## 例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町秋山字中山・竹ノ平・神原・北飯盛・天神山地内に所在する秋山西部遺跡群（中山遺跡・竹ノ平遺跡・神原遺跡・般若寺東遺跡・北飯盛遺跡・南飯盛遺跡）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、ゴルフ場建設事業に伴う事前の記録保存を目的として実施した。各遺跡の調査期間は以下の通りである。

中山遺跡・竹ノ平遺跡：平成元年4月10日から平成3年11月14日  
神原遺跡・般若寺東遺跡・北飯盛遺跡・南飯盛遺跡：平成2年4月14日から平成3年3月31日
3. 発掘調査は、旧児玉町遺跡調査会が行い、中山遺跡・竹ノ平遺跡は鈴木徳雄（児玉町教育委員会社会教育課）、神原遺跡・般若寺東遺跡・北飯盛遺跡・南飯盛遺跡は鈴木徳雄・尾内俊彦（児玉町遺跡調査会調査員）・徳山寿樹（児玉町遺跡調査会調査員）が担当した。
4. 発掘調査の面積は以下の通りである。

中山遺跡 4,320 m<sup>2</sup> 竹ノ平遺跡 460 m<sup>2</sup> 神原遺跡 1,300 m<sup>2</sup> 般若寺東遺跡 650 m<sup>2</sup>  
北飯盛遺跡 1,100 m<sup>2</sup> 南飯盛遺跡 2,300 m<sup>2</sup>
5. 整理および報告書にかかる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。発掘調査および整理・報告書刊行に要した経費は、市川総業株式会社の委託金である。
6. 本書の編集は、本庄市教育委員会文化財保護課の指導に基づき、高橋清文（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
7. 本書は、Iを本庄市教育委員会文化財保護課、第II・IX章を鈴木徳雄（本庄市教育委員会文化財保護課）、第III・IV・VII・VIII・X-1・2章を高橋、第X-3章を土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）、第V・VI・X-4章を宮本久子（有限会社毛野考古学研究所）が執筆した。ただし、縄紋時代を高橋、古墳時代以降を宮本、石器を土井が主に担当している。
8. 本書に掲載した出土遺物、遺構や遺物の実測図および写真、その他報告書に関する資料は、本庄市教育委員会において保管している。
9. 発掘調査から整理調査、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重なご意見、ご指導、ご協力を賜りました。ご芳名を記し感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

池田敏宏、梅沢太久夫、江原 英、大倉 潤、小川卓也、金子彰男  
亀井健太郎、坂本和俊、櫻井和哉、澁谷昌彦、菅谷通保、須田晃弘  
関根慎二、外尾常人、谷藤保彦、高橋一夫、田村 誠、千装 智  
寺崎祐助、永井智教、中沢良一、長滝歳康、中村倉司、橋本 淳  
早坂廣人、平田重之、福田貫之、毒島正明、丸山 修、村上泰司  
矢内 勲、山口逸弘、山崎芳春、吉田 学、綿田弘美  
埼玉県教育局生涯学習文化財課、児玉地区文化財保護協会  
日本大学考古学研究会、東海大学考古学研究会



10. 秋山西部遺跡群 発掘調査組織 児玉町遺跡調査会（平成元年度：抜粋）

会 長	野口敏雄	児玉町教育委員会教育長	
理 事	田島三郎	児玉町文化財保護審議委員長	
	清水守雄	児玉町文化財保護審議委員	
	日向國俊	児玉町文化財保護審議委員	
	中兼久偉	児玉町文化財保護審議委員	
	武内和雄	児玉町文化財保護審議委員	
	吉川 豊	児玉町教育委員会社会教育課長	
幹 事	立花 勲	児玉町教育委員会社会教育課長補佐	
	前川由雄	〃	社会教育係長
	金子幸弘	〃	主任
	恋河内昭彦	〃	主事
調査員	鈴木徳雄	〃	主任
	尾内俊彦	児玉町遺跡調査会	調査員
	徳山寿樹	〃	調査員

秋山西部遺跡群 整理・報告組織 本庄市遺跡調査会（平成 23 年度）

会 長	茂木孝彦	本庄市教育委員会教育長	
理 事	清水守雄	本庄市文化財保護審議委員	
	関和成昭	本庄市教育委員会事務局長	（会長代理）
監 事	坂本和雄	本庄市監査委員事務局長	
	田島弘行	本庄市会計課長	
幹 事	金井孝夫	本庄市教育委員会文化財保護課長	（事務局長）
	鈴木徳雄	〃	副参事兼課長補佐
	太田博之	〃	課長補佐兼埋蔵文化財係長
	恋河内昭彦	〃	埋蔵文化財係主幹
	大熊季広	〃	埋蔵文化財係主査
	松澤浩一	〃	埋蔵文化財係主査
	松本 完	〃	埋蔵文化財係主任
	的野善行	〃	埋蔵文化財係臨時職員

## 凡 例

1. 本書中に記載したXY座標値は、日本測地系による座標である。また、各遺構図における方位針は座標北を差す。
2. 本書に掲載した遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は以下を原則とした。各挿図中にはスケールを付して示している。  
【遺構図】 住居跡…1/30・1/60 溝跡…1/60・1/100 集石遺構…1/30 土坑…1/60  
【遺物図】 土器・土師器・須恵器…1/3・1/4 土製品…1/2  
石器…1/1・1/2・1/3・1/4・1/6・1/8 金属製品…1/2
3. 遺構図中のトーンが示す内容は以下の通りである。  
…基盤層 …被熱範囲
4. 遺構断面図の水準値は海拔を示し、単位はmである。数字のないものは標高値が不明となっている。
5. 遺構図中の「P」は小穴（ピット）の略号である。土坑・小穴脇に配した「-」は深さを示す。単位はcmである。
6. 遺物微細図は、土器・土師器・須恵器を細線、石器・礫を太線で表現している。
7. 遺物分布図の記号は、●が土器・土師器・須恵器、○が石器・石製品を示す。
8. 遺物観察表に記した各記号は、以下の項目を示す。  
A－法量。B－成形手法。C－整形・調整の特徴。D－胎土（材質）。E－色調。F－残存度。  
G－備考。H－出土位置・層位。
9. 遺物観察表に記した法量の単位はcm、重さはgである。（ ）内の数値は復元値、[ ] は残存値を示す。「G」はグリッドの略称である。
10. 遺物観察表中の「平行沈線紋」は半截竹管状工具を使用したものに限り、単沈線が併走する「併行沈線紋」と区別した。平行沈線紋に伴う「内皮痕」は半截竹管状工具における内面の痕跡を指す。また、「集合沈線紋」は平行沈線紋を集合させたものに使用した。
11. 遺構ないし遺構外から出土した石器の組成表は各遺跡の章末にまとめて掲載した。
12. 本書中に使用したAs-A・As-B・As-YPは浅間山噴出のテフラを指す。As-Aが浅間A軽石（天明3年：1783年）、As-Bが浅間B軽石（天仁元年：1108年）、As-YPが浅間-板鼻黄色軽石（13,000～14,000年前）に相当する
13. 地形図は、国土交通省国土地理院発行1/25,000「本庄」「寄居」を縮小したもの、位置図は児玉町都市計画図1/2,500に加筆したものをを用いた。
14. 空中写真は、国土地理院・財団法人日本地図センター発行「高崎1974年」に加筆したものをを用いた。



## 目 次

序	4. 土坑	134
例言	5. 性格不明遺構	135
凡例	6. 遺構外出土遺物	135
目次		
挿図目次	第VI章 般若寺東遺跡の調査	137
写真図版目次	第1節 遺跡の概要	137
	第VII章 北飯盛遺跡の調査	138
第I章 調査に至る経緯	第1節 遺跡の概要	138
	第2節 遺構と遺物	139
第II章 遺跡の環境	1. 竪穴住居跡	139
第1節 地理的環境	2. 溝跡	142
第2節 歴史的環境	3. 土坑	142
	4. 遺構外出土遺物	143
第III章 中山遺跡の調査	第VIII章 南飯盛遺跡の調査	146
第1節 遺跡の概要	第1節 遺跡の概要	146
第2節 遺構と遺物	第2節 遺構と遺物	146
1. 竪穴住居跡	1. 竪穴住居跡	146
2. 集石遺構	2. 溝跡	163
3. 土坑	3. 土坑	165
4. 小穴（ピット）	4. 遺構外出土遺物	165
5. 遺構外出土遺物		
第IV章 竹ノ平遺跡の調査	第IX章 般若寺跡の調査	169
第1節 遺跡の概要	第1節 遺跡の概要	169
第2節 遺構と遺物		
1. 竪穴住居跡	第X章 総括	172
2. 集石遺構	第1節 縄紋土器について	172
3. 土坑	第2節 縄紋時代の住居跡および土地利用の 変遷について	178
4. 遺構外出土遺物	第3節 石器について	181
第V章 神原遺跡の調査	第4節 古墳時代以降について	184
第1節 遺跡の概要		
第2節 遺構と遺物	抄録	
1. 竪穴住居跡	写真図版	
2. 竪穴状遺構	奥付	
3. 集石遺構		

## 挿 図 目 次

第1図	調査地点の位置	2	第50図	16号住居跡	49
第2図	埼玉県の地形	3	第51図	16号住居跡出土遺物	50
第3図	本遺跡群の位置と周辺の主要な遺跡	5	第52図	17号住居跡(1)	50
<b>中山遺跡</b>					
第4図	基本層序	12	第53図	17号住居跡(2)	51
第5図	全体図	13	第54図	17号住居跡出土遺物	51
第6図	1号住居跡	15	第55図	18a・18b号住居跡(1)	52
第7図	1号住居跡出土遺物	15	第56図	18a・18b号住居跡(2)	53
第8図	2号住居跡	16	第57図	18a・18b号住居跡(3)	54
第9図	2号住居跡出土遺物(1)	16	第58図	18a・18b号住居跡出土遺物(1)	55
第10図	2号住居跡出土遺物(2)	17	第59図	18a・18b号住居跡出土遺物(2)	56
第11図	3号住居跡(1)	18	第60図	18a・18b号住居跡出土遺物(3)	57
第12図	3号住居跡(2)	19	第61図	18a・18b号住居跡出土遺物(4)	58
第13図	3号住居跡出土遺物(1)	19	第62図	18a・18b号住居跡出土遺物(5)	59
第14図	3号住居跡出土遺物(2)	20	第63図	18a・18b号住居跡出土遺物(6)	60
第15図	4号住居跡	21	第64図	19号住居跡(1)	63
第16図	4号住居跡出土遺物	21	第65図	19号住居跡(2)	64
第17図	5号住居跡	22	第66図	19号住居跡出土遺物	64
第18図	5号住居跡出土遺物(1)	22	第67図	20a・20b号住居跡(1)	65
第19図	5号住居跡出土遺物(2)	23	第68図	20a・20b号住居跡(2)	66
第20図	6号住居跡	24	第69図	20a・20b号住居跡出土遺物	67
第21図	6号住居跡出土遺物	24	第70図	21・22号住居跡	69
第22図	7号住居跡(1)	25	第71図	21号住居跡出土遺物	70
第23図	7号住居跡(2)	26	第72図	22号住居跡出土遺物	70
第24図	7号住居跡出土遺物(1)	26	第73図	23号住居跡	71
第25図	7号住居跡出土遺物(2)	27	第74図	23号住居跡出土遺物	72
第26図	7号住居跡出土遺物(3)	28	第75図	24号住居跡出土遺物	73
第27図	7号住居跡出土遺物(4)	29	第76図	24号住居跡	74
第28図	8a・8b号住居跡(1)	31	第77図	25・26a・26b号住居跡	75
第29図	8a・8b号住居跡(2)	32	第78図	26c号住居跡	76
第30図	8a・8b号住居跡出土遺物	32	第79図	26a・26b・26c号住居跡 出土遺物(1)	76
第31図	9号住居跡(1)	33	第80図	26a・26b・26c号住居跡 出土遺物(2)	77
第32図	9号住居跡(2)	34	第81図	26a・26b・26c号住居跡 出土遺物(3)	78
第33図	9号住居跡出土遺物(1)	34	第82図	27a・27b号住居跡	80
第34図	9号住居跡出土遺物(2)	35	第83図	27a・27b号住居跡出土遺物	81
第35図	10号住居跡(1)	36	第84図	28号住居跡	82
第36図	10号住居跡(2)	37	第85図	28号住居跡出土遺物(1)	82
第37図	10号住居跡出土遺物(1)	38	第86図	28号住居跡出土遺物(2)	83
第38図	10号住居跡出土遺物(2)	39	第87図	29号住居跡	84
第39図	10号住居跡出土遺物(3)	40	第88図	集石遺構	85
第40図	11a・11b号住居跡(1)	42	第89図	土坑(1)	87
第41図	11a・11b号住居跡(2)	43	第90図	土坑(2)	88
第42図	11a・11b号住居跡出土遺物	44	第91図	土坑(3)	89
第43図	12号住居跡	45	第92図	土坑(4)	90
第44図	13号住居跡出土遺物	46	第93図	土坑出土遺物(1)	90
第45図	13号住居跡	46	第94図	土坑出土遺物(2)	91
第46図	14号住居跡	47	第95図	土坑出土遺物(3)	92
第47図	14号住居跡出土遺物	48	第96図	土坑出土遺物(4)	93
第48図	15号住居跡(1)	48			
第49図	15号住居跡(2)	49			

第97図	小穴出土遺物	95	第146図	3号住居跡出土遺物	141
第98図	遺構外出土遺物(1)	97	第147図	3号住居跡	142
第99図	遺構外出土遺物(2)	98	第148図	1号溝跡	142
第100図	遺構外出土遺物(3)	99	第149図	土坑・土坑出土遺物	143
第101図	遺構外出土遺物(4)	100	第150図	遺構外出土遺物	144
第102図	遺構外出土遺物(5)	101	<b>南飯盛遺跡</b>		
第103図	遺構外出土遺物(6)	102	第151図	全体図	147
第104図	遺構外出土遺物(7)	103	第152図	1号住居跡	149
第105図	遺構外出土遺物(8)	104	第153図	1号住居跡出土遺物	149
第106図	遺構外出土遺物(9)	105	第154図	2号住居跡	150
第107図	遺構外出土遺物(10)	106	第155図	3号住居跡出土遺物	150
第108図	遺構外出土遺物(11)	107	第156図	3号住居跡	150
第109図	遺構外出土遺物(12)	108	第157図	4号住居跡出土遺物	151
<b>竹ノ平遺跡</b>			第158図	4号住居跡	151
第110図	基本層序	117	第159図	5号住居跡	152
第111図	全体図	117	第160図	5号住居跡出土遺物	153
第112図	1号住居跡	118	第161図	6号住居跡	154
第113図	1号住居跡出土遺物	119	第162図	6号住居跡出土遺物	155
第114図	2号住居跡	120	第163図	7a・7b・7c・7d号住居跡	156
第115図	2号住居跡出土遺物	120	第164図	7a・7b・7c・7d号住居跡 出土遺物(1)	157
第116図	3号住居跡	121	第165図	7a・7b・7c・7d号住居跡 出土遺物(2)	158
第117図	4号住居跡	121	第166図	7a・7b・7c・7d号住居跡 出土遺物(3)	159
第118図	5号住居跡	121	第167図	8号住居跡	161
第119図	5号住居跡出土遺物	122	第168図	8号住居跡出土遺物	162
第120図	1号集石遺構	122	第169図	溝跡	164
第121図	1号集石遺構出土遺物	122	第170図	土坑	165
第122図	土坑	123	第171図	土坑出土遺物	165
第123図	土坑出土遺物	124	第172図	遺構外出土遺物(1)	166
第124図	遺構外出土遺物(1)	125	第173図	遺構外出土遺物(2)	167
第125図	遺構外出土遺物(2)	126	<b>般若寺跡</b>		
第126図	遺構外出土遺物(3)	127	第174図	般若寺跡	169
<b>神原遺跡</b>			第175図	般若寺跡出土遺物(1)	169
第127図	全体図	129	第176図	般若寺跡出土遺物(2)	170
第128図	Ⅱ区全体図	130	第177図	般若寺瓦(1)	170
第129図	基本層序	131	第178図	般若寺瓦(2)	171
第130図	1号住居跡出土遺物	131	<b>総括</b>		
第131図	1号住居跡	132	第179図	草創期・早期の縄紋土器	173
第132図	2号住居跡	132	第180図	前期初頭・前葉の縄紋土器	173
第133図	2号住居跡出土遺物	133	第181図	前期中葉の縄紋土器	174
第134図	1号竪穴状遺構	133	第182図	宮内上ノ原遺跡の縄文土器	175
第135図	1号集石遺構出土遺物	134	第183図	前期後葉の縄紋土器(1)	175
第136図	1号集石遺構	134	第184図	前期後葉の縄紋土器(2)	176
第137図	1号性格不明遺構	135	第185図	前期末葉の縄紋土器	177
第138図	遺構外出土遺物	136	第186図	中期の縄紋土器	177
<b>般若寺東遺跡</b>			第187図	縄紋時代の変遷	179
第139図	全体図	137	第188図	縄紋時代の竪穴住居跡	180
<b>北飯盛遺跡</b>			第189図	中山遺跡18号住居跡の石器長幅比	183
第140図	全体図	138	第190図	古墳時代・古代の変遷	184
第141図	基本層序	139	第191図	中・近世の変遷	185
第142図	1号住居跡	139	第192図	神原遺跡の段切り遺構内模式図	185
第143図	1号住居跡出土遺物	140			
第144図	2号住居跡	140			
第145図	2号住居跡出土遺物	141			

## 写真図版目次

<b>中山遺跡</b>					23号住居跡
写真図版 1	調査区全景				24号住居跡
	調査区全景				25・26・27・28・29号住居跡
写真図版 2	1号住居跡		写真図版 10	26 a・26 b号住居跡	27 a・27 b号住居跡
	1号住居跡カマド			27 a号住居跡埋設土器	28号住居跡
	2号住居跡			1号集石遺構	4号土坑
	2号住居跡遺物出土状態			51号土坑	126号土坑
	3号住居跡				
	3号住居跡炉		<b>竹ノ平遺跡</b>		
	4号住居跡		写真図版 11	調査区全景	
	4号住居跡カマド			調査区全景	
写真図版 3	5号住居跡			調査区全景	
	5号住居跡遺物出土状態			1号住居跡	
	5号住居跡カマド			1号住居跡遺物出土状態	
	6号住居跡		写真図版 12	2・3号住居跡	
	6号住居跡埋設土器			2号住居跡	
写真図版 4	7号住居跡			2号住居跡埋設土器	
	8 a・8 b号住居跡			2号住居跡遺物出土状態	
	8 a号住居跡埋設土器			3号住居跡	
	8 a号住居跡埋設土器		写真図版 13	4号住居跡	
	8 a号住居跡埋設土器			5号住居跡	
写真図版 5	9号住居跡			1号集石遺構	
	9号住居跡炉			1号土坑	
	10号住居跡			5号土坑	
	10号住居跡遺物出土状態			8号土坑	
	10号住居跡埋設土器			9号土坑	
写真図版 6	11 a・11 b号住居跡			作業風景	
	11 a・11 b号住居跡遺物出土状態		<b>般若寺東遺跡</b>		
	12号住居跡		写真図版 14	調査区全景	
	13号住居跡			調査区全景	
	14号住居跡		<b>北飯盛遺跡</b>		
	14号住居跡カマド		写真図版 15	調査区全景	
	15号住居跡			1号住居跡	
	15号住居跡カマド			2号住居跡	
写真図版 7	16号住居跡			3号住居跡	
	17号住居跡			22号土坑	
	18 a・18 b号住居跡		<b>南飯盛遺跡</b>		
	18 a・18 b号住居跡遺物出土状態		写真図版 16	調査区全景	
	18 a・18 b号住居跡遺物出土状態			1号住居跡	
写真図版 8	18 a・18 b号住居跡遺物出土状態			2号住居跡	
	19号住居跡		写真図版 17	3号住居跡	
	20 a・20 b号住居跡			4号住居跡	
	20 a・20 b号住居跡遺物出土状態			6号住居跡	
	21号住居跡			5号住居跡	
写真図版 9	22号住居跡				
	22号住居跡炉				

- 写真図版18 5号住居跡カマド  
5号住居跡炭化材出土状態  
7a・7b・7c・7d号住居跡  
7a号住居跡埋設土器  
7b号住居跡遺物出土状態
- 写真図版19 8号住居跡  
8号住居跡遺物出土状態  
8号住居跡炉  
3号溝跡  
26号土坑

#### 中山遺跡出土遺物

- 写真図版20 1号住居跡出土遺物  
2号住居跡出土遺物
- 写真図版21 3号住居跡出土遺物  
4号住居跡出土遺物
- 写真図版22 5号住居跡出土遺物  
6号住居跡出土遺物  
7号住居跡出土遺物 (1)
- 写真図版23 7号住居跡出土遺物 (2)
- 写真図版24 7号住居跡出土遺物 (3)
- 写真図版25 7号住居跡出土遺物 (4)  
8a・8b号住居跡出土遺物
- 写真図版26 9号住居跡出土遺物  
10号住居跡出土遺物 (1)
- 写真図版27 10号住居跡出土遺物 (2)
- 写真図版28 10号住居跡出土遺物 (3)
- 写真図版29 11a・11b号住居跡出土遺物  
13号住居跡出土遺物  
14号住居跡出土遺物  
16号住居跡出土遺物
- 写真図版30 17号住居跡出土遺物  
18a・18b号住居跡出土遺物 (1)
- 写真図版31 18a・18b号住居跡出土遺物 (2)
- 写真図版32 18a・18b号住居跡出土遺物 (3)
- 写真図版33 18a・18b号住居跡出土遺物 (4)
- 写真図版34 18a・18b号住居跡出土遺物 (5)  
19号住居跡出土遺物
- 写真図版35 20a・20b号住居跡出土遺物  
21号住居跡出土遺物
- 写真図版36 22号住居跡出土遺物  
23号住居跡出土遺物 (1)
- 写真図版37 23号住居跡出土遺物 (2)  
24号住居跡出土遺物  
26a・26b・26c号住居跡出土遺物 (1)
- 写真図版38 26a・26b・26c号住居跡出土遺物 (2)
- 写真図版39 27a・27b号住居跡出土遺物  
28号住居跡出土遺物
- 写真図版40 集石遺構出土遺物  
土坑出土遺物 (1)

- 写真図版41 土坑出土遺物 (2)
- 写真図版42 土坑出土遺物 (3)
- 写真図版43 土坑出土遺物 (4)  
小穴出土遺物  
遺構外出土遺物 (1)
- 写真図版44 遺構外出土遺物 (2)
- 写真図版45 遺構外出土遺物 (3)
- 写真図版46 遺構外出土遺物 (4)
- 写真図版47 遺構外出土遺物 (5)
- 写真図版48 遺構外出土遺物 (6)
- 写真図版49 遺構外出土遺物 (7)
- 写真図版50 遺構外出土遺物 (8)
- 写真図版51 遺構外出土遺物 (9)

#### 竹ノ平遺跡出土遺物

- 写真図版52 1号住居跡出土遺物  
2号住居跡出土遺物  
5号住居跡出土遺物  
集石遺構出土遺物
- 写真図版53 土坑出土遺物  
遺構外出土遺物 (1)
- 写真図版54 遺構外出土遺物 (2)

#### 神原遺跡出土遺物

- 写真図版55 1号住居跡出土遺物  
2号住居跡出土遺物  
集石遺構出土遺物  
遺構外出土遺物

#### 北飯盛遺跡出土遺物

- 写真図版56 1号住居跡出土遺物  
2号住居跡出土遺物  
3号住居跡出土遺物  
土坑出土遺物  
遺構外出土遺物 (1)

#### 北飯盛遺跡・南飯盛遺跡出土遺物

- 写真図版57 遺構外出土遺物 (2)  
1号住居跡出土遺物  
3号住居跡出土遺物  
4号住居跡出土遺物  
5号住居跡出土遺物  
6号住居跡出土遺物 (1)

#### 南飯盛遺跡出土遺物

- 写真図版58 6号住居跡出土遺物 (2)  
7a・7b・7c・7d号住居跡出土遺物 (1)
- 写真図版59 7a・7b・7c・7d号住居跡出土遺物 (2)
- 写真図版60 8号住居跡出土遺物  
土坑出土遺物
- 写真図版61 遺構外出土遺物

#### 般若寺跡

- 写真図版62 般若寺瓦

# 第 I 章 調査に至る経緯

本報告にかかる発掘調査は、ゴルフ場建設計画に伴って現状変更される埋蔵文化財の記録保存のために実施されたものであり、発掘調査に至る経緯の概要は以下のとおりである。

埼玉県児玉郡児玉町大字秋山（現本庄市児玉町秋山）字竹ノ平 3009 番地外に市川総業株式会社によるゴルフ場建設予定地としての約 1,145,000 m<sup>2</sup>にかかる埋蔵文化財の所在および取り扱いについての照会および試掘調査の依頼が昭和 63 年 7 月 5 日付で提出された。この照会のあったゴルフ場建設予定地が山林であるところから、埋蔵文化財の所在および包蔵状況を把握するための試掘調査が必要であり、試掘調査の条件の整った区域から試掘調査を実施する旨の回答を行うとともに、翌日より現地踏査を実施し、比較的平坦で重機の搬入が可能な地点から試掘調査を実施した。この結果、縄文時代前期を中心とする集落跡である秋山中山遺跡（No. 54-288）、秋山竹ノ平遺跡（No. 54-290）が確認されたところから、7 月 15 日付で試掘調査の結果について回答するとともに、埋蔵文化財の現状変更を最小限に実施するように市川総業株式会社と協議を行った。しかし、埋蔵文化財への影響は避けがたく、ゴルフ場造成計画によって埋蔵文化財に影響の及ぶ区域の発掘調査を実施する必要性が生じた。以上の協議を踏まえて、児玉町教育委員会の指導に基づき、児玉町遺跡調査会と市川総業株式会社との間で埋蔵文化財保存事業委託契約を締結することで、発掘調査を実施することとなり、発掘調査依頼書が市川総業株式会社から児玉町遺跡調査会長宛に提出された。

発掘の実施にあたって、平成元年 4 月 13 日付けで市川総業株式会社代表取締役市川金次郎より、文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が児玉町教育委員会に提出されたので、同日付けで埼玉県教育委員会教育長に申達した。この発掘の届出に基づいて、埼玉県教育委員会教育長から、平成元年 4 月 20 日付け教文第 3-10 号で市川総業株式会社代表取締役市川金次郎に「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の通知があった。

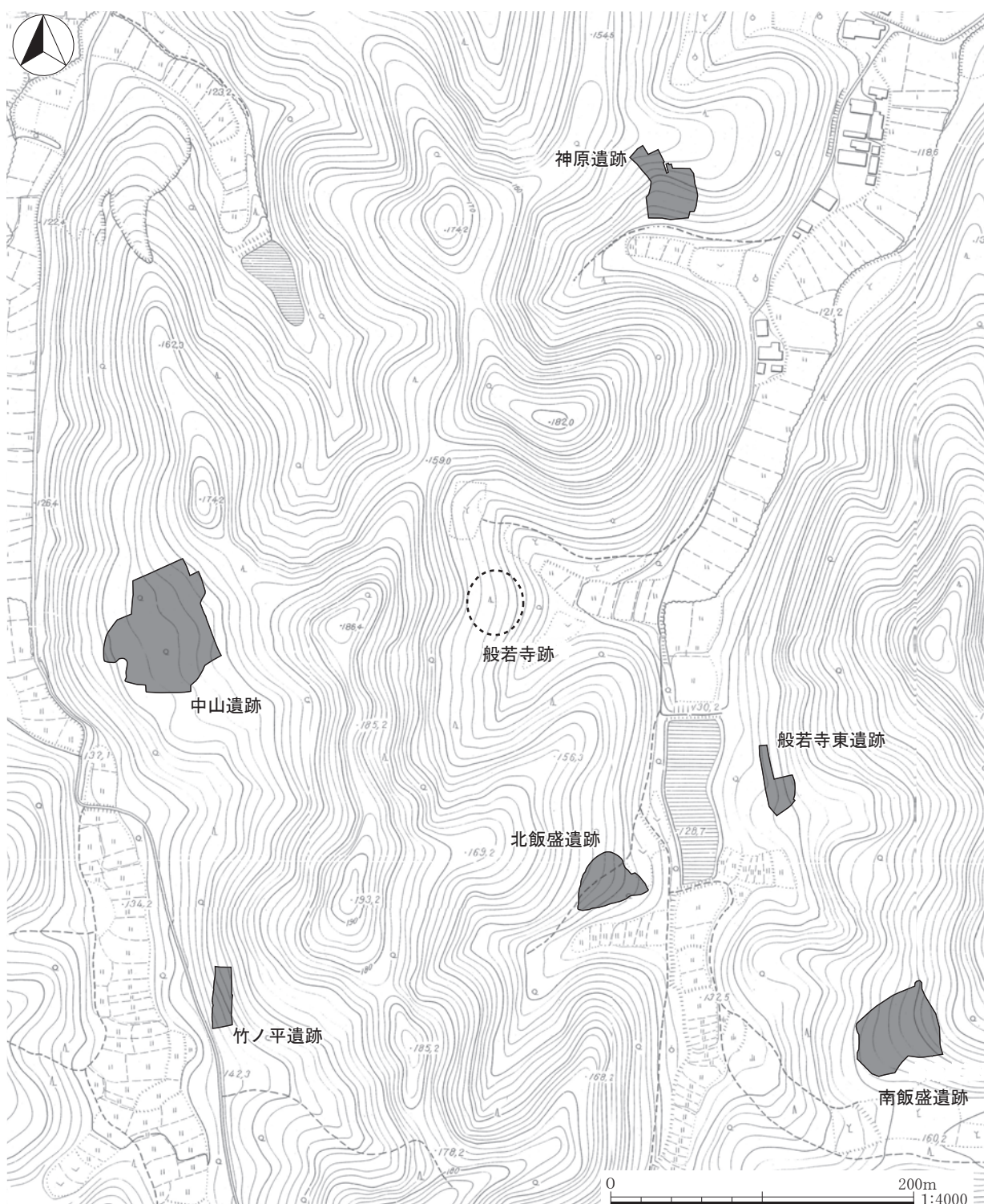
発掘調査の実施にあたっては、児玉町遺跡調査会会長野口敏雄から文化財保護法第 57 条第 1 項の規定に基づいて、平成元年 4 月 13 日付けで「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第 19 号で埼玉県教育委員会教育長に進達した。この届出に基づいて、平成元年 6 月 21 日付け委保第 5 の 540 号で文化庁長官より児玉町遺跡調査会会長野口敏雄宛に「埋蔵文化財の発掘について（通知）」があった旨、埼玉県教育委員会教育長から平成元年 9 月 20 日付け教文第 4-7 号で児玉町教育委員会教育長に通知があった。なお、この 2 遺跡にかかる現地の発掘調査は、平成元年 4 月 10 日に開始され、平成 3 年 11 月 14 日に終了した。

その後、ゴルフ場造成予定地内の試掘調査の進展に伴って発見された神原遺跡（No. 54-290）、般若寺東遺跡（No. 54-291）、北飯盛遺跡（No. 54-292）、南飯盛遺跡（No. 54-293）について平成 2 年 4 月 24 日付けで市川総業株式会社代表取締役市川金次郎より、文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が児玉町教育委員会に提出されたので、同日付けで埼玉県教育委員会教育長に申達した。また、これらの遺跡の発掘調査の実施にあたっては、児玉町遺跡調査会会長野口敏雄から文化財保護法第 57 条第 1 項の規定に基づいて、平成 2 年 4 月 24 日付けで「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第 26-2 号で埼玉県教育委員会教育長に進達した。この届け出に基づいて平成 3 年 5 月 24 日付け委保第 5 の 713 号で

文化庁長官より児玉町遺跡調査会会長に「埋蔵文化財の発掘について（通知）」があった旨、埼玉県教育委員会教育長から児玉町教育委員会教育長に通知があった。なお、現地の発掘調査は、平成2年4月14日に開始され、平成3年3月31日に終了した。

なお、ゴルフ場敷地内に位置する、「般若寺徳治式」の紀年銘をもつ軒平瓦の出土で知られている般若寺廃寺については、環境保全のための残地林内部に現状で保存されている。

(本庄市教育委員会文化財保護課)



第1図 調査地点の位置

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

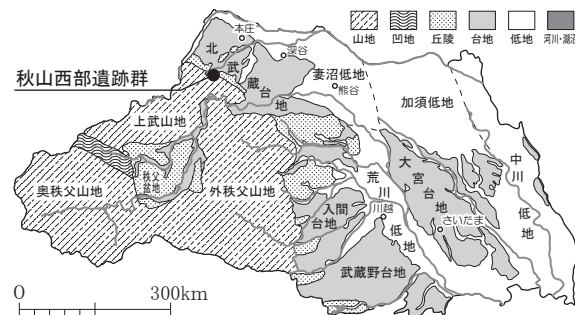
秋山西部遺跡群<sup>1)</sup>の所在する本庄市は、埼玉県の北西部に位置しており、東は深谷市および児玉郡美里町、西は児玉郡神川町、南は秩父郡皆野町および長瀨町、北西は児玉郡上里町、北側は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市に接している。本庄市には、市域の北東部に位置する本庄市街にJR高崎線本庄駅が、南西部に位置する児玉市街にはJR八高線児玉駅がある。さらに、市の北東部には上越新幹線本庄早稲田駅が開業している。本庄市街の北側には国道17号線が、児玉市街には国道254号線が通り、伊勢崎市から本庄市街を経て児玉市街方向に国道462号線が延びている。また、市域の北東部に関越自動車道本庄・児玉インターチェンジがある。

本庄市の地形は、八王子―高崎構造線上の断層崖を境として三波川系結晶片岩帯を基盤層とする上武山地が市域の南東側に位置している。上武山地の南東部においては、十二天山 304 m、陣見山 531 mや不動山 549 mをはじめとする500 m級の山々が連なり、この稜線が荒川と小山川の分水嶺をなし、その南側の秩父郡に接している。また、上武山地に接して第三紀層を基盤にもつ児玉丘陵が平野部に半島状に突出しており、山地付近から流下する小河川の浸食によって幾つもの小支丘に分割されている。児玉丘陵の延長上には、やはり第三紀の丘陵である<sup>なまのやま あざみやま</sup>生野山・浅見山と呼ばれる残丘が点列状に存在している。

本庄市域の北西側には、関東平野西端を構成する神流川扇状地が広がる。また、扇端部に位置する深谷断層を境に妻沼低地の北部を構成する烏川低地が展開しており、近世以降ではこの低地帯に利根川が流下している。神流川扇状地は、本庄台地とも呼称される低位の台地面を構成するが、この扇状地扇央部では、本庄市児玉町宮内地内に水源を発する、かつて「赤根川」と呼ばれた「女堀川」と、<sup>かなさな</sup>神川町大字二宮所在の延喜式内社である金鑽神社付近に水源を発する金鑽川が合流し、これらによって開析された沖積地が形成されている。

児玉丘陵の南側には、上武山地内の秩父郡皆野町金沢付近に水源を発する小山川（旧身馴川）が流れている。この小山川は、山地域の幾つもの沢水を集めて流下しているが、児玉市街南側の長沖付近では伏流しており、美里町十条付近で表流量を増しながら本庄市<sup>いかつこ</sup>五十子付近で女堀川と合流し、深谷市域における志戸川との合流を経て利根川へと注いでいる。この小山川は、その流域の大半が三波川系の結晶片岩帯を流下しているところから、河床礫のほとんどは結晶片岩の礫によって構成されている。

小山川を挟んだ右岸には<sup>まつひさ</sup>松久丘陵および小山川や志戸川・天神川の堆積作用によって形成された扇状地性の台地や天神川・志戸川水系の河川によって開析された低地帯が展開している。また、この扇状地の東側には、諏訪山・山崎山といった第三紀の独立丘が北東方向へ展開しており、小山川左岸の地形と対比し得るような景観を形成して



第2図 埼玉県の地形



いる。この小山川右岸の沖積地には古くから水田が営まれ、圃場整備以前には小山川を利用して灌漑される区域をもつ条里形地割が広汎に展開しており、埼玉県指定史跡「十条条里遺跡」の石碑がかつての景観を偲ばせている。

本遺跡群の西側を流れる小平川は、榎峠付近の「アジサイの小路」として知られる山間部に水源を發し、霊場岩谷堂付近から流れる根岸川を合わせて小山川に注いでいる。また、遺跡群の東側を流れる秋山川は、十二天山の秋山十二天社付近に水源を發し、灌漑用の溜池である十二天池を挟み秋山集落を経て小山川に注いでいる。この小山川に注ぐ秋山川・小平川は、水量が比較的少なく下流域では伏水している。遺跡群は、この両河川間の松久丘陵西端に接する低位の山地内に位置し、遺跡群南側の断層帯によって上武山地の山塊を分断する谷状地形で区分されている。

本遺跡群周辺の潜在的植生については不明な点が多いが、この地域は標高約 250 ～ 500 m 前後の山頂付近まで落葉広葉樹林を主とする内陸性気候に伴う中間温帯林に、標高約 250 m 以下においては常緑広葉樹林を主とする暖温帯林に区分されている（永野 1986）。遺跡の周辺は、暖温帯の二次林としてのコナラ・ヤマツツジ群集およびスギ等の植林帯を主としているが、古環境については推定の域を出ない。

遺跡群の位置する秋山地区は古くから灌漑用水に乏しく、天水による灌漑が主体であり、溜池灌漑が広く認められた。大正 13 年の旱魃を契機に秋山耕地整理組合が結成され、天保 7 年（1836 年）の村絵図にもある「般若寺池」は大正 14 年および昭和 3 年に改修が行われている。また、大正 15 年には十二天山麓に大規模な溜池である十二天池の新設が行われ、秋山地区の比較的安定した用水確保が果たされている。なお、遺跡群の内側に位置する「一の谷」と呼ばれる細い谷戸は、その上流部に位置する「細田の池」によって灌漑されており、この溜池も昭和 4 年に改修されている。その後、この地域の慢性的な灌漑用水の不足は、昭和 12 年に完成した間瀬湖に貯水された用水（現美見沢用水）によって補われることとなった。

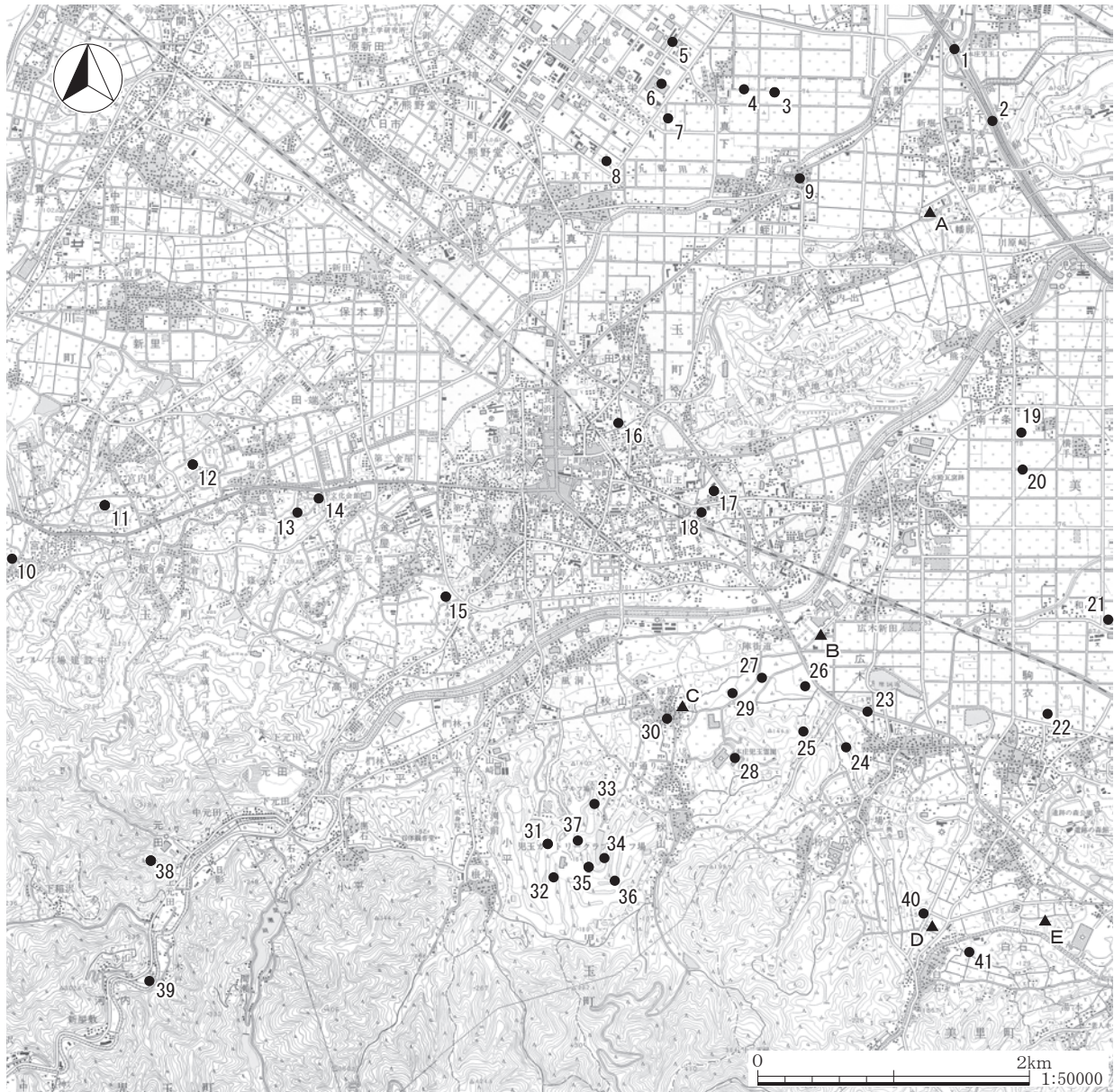
## 第 2 節 歴史的環境

秋山西部遺跡群では、縄紋時代の集落跡等が検出されているところから、まず本庄市域および小山川右岸の美里町を中心とする縄紋時代の遺跡の推移を概観してみたい<sup>2)</sup>。

縄紋草創期では、長沖梅原遺跡や秋山宿田保遺跡において爪形紋や押圧縄紋をもつ土器等の遺物が小範囲に集中して検出されている。また、浅見山丘陵の東側先端部には宥勝寺北裏遺跡（中東 1993 他）があり、爪形紋や押圧縄紋あるいは撚糸紋をもつ土器群等がまとまって出土していることが知られている。同じ浅見山丘陵上に位置する浅見山 I 遺跡（松本他 2009）では、井草式以降の撚糸紋系土器等が検出されており、宮内上ノ原遺跡（松澤 2005・宮田 2008）においては撚糸紋系土器や押型紋系土器をはじめ、早期の貝殻沈線紋系土器あるいは貝殻条痕紋系土器等の各土器群がそれぞれ少数検出されている。なお、天神川右岸の丘陵上には、撚糸紋系無紋土器である「東山式」の標式遺跡である美里町東山遺跡がある。

縄紋早期の遺跡は、このような丘陵部の遺跡とともに山地域においても近年次々と小規模な遺跡が検出されているが、これらの遺物集中地点は何らかの生活痕跡として、居住を伴う生活地点ないしは

比較的長期におよぶ露营地として反復的に利用されたものと捉えることができるであろう。これらの遺跡からは、いわゆる押型紋土器や捺糸紋系無紋土器あるいは沈線紋系土器等が検出されており、各系統の土器群が相次いで錯綜しながら分布している状況が予想される。条痕紋系土器群によって代表される時期には遺跡数が増加し、鶴ヶ島台式等は丘陵部においてしばしば破片の状態で検出される。また、口縁部を中心に絡条体圧痕紋等が施紋される諸型式がそれぞれ少量検出されている。早期終末期においては中部高地や群馬県地域と連動し、塚田式をはじめとする縄紋施紋の尖底土器群が確認さ



1. 後張遺跡 2. 飯玉東遺跡 3. 藤塚遺跡 4. 堀向遺跡 5. 将監塚遺跡 6. 古井戸遺跡 7. 平塚遺跡 8. 新宮遺跡 9. 蛭川館跡
  10. 天田遺跡 11. 宮内上ノ原遺跡 12. 真鏡寺後遺跡 13. 塩谷平氏ノ宮遺跡 14. 塩谷下大塚遺跡 15. 長沖梅原遺跡
  16. 吉田林女池遺跡 17. 児玉清水遺跡 18. 児玉大天白遺跡 19. 新倉館跡 20. 鳥森遺跡 21. 南志渡川遺跡 22. 北貝戸遺跡
  23. 蕨薙神社前遺跡 24. 広木上宿遺跡 25. 秋山諏訪平遺跡 26. 秋山大町東遺跡 27. 秋山大町遺跡 28. 秋山東遺跡
  29. 秋山宿田保遺跡 30. 秋山塚原遺跡 31. 中山遺跡 32. 竹ノ平遺跡 33. 神原遺跡 34. 般若寺東遺跡 35. 北飯盛遺跡 36. 南飯盛遺跡
  37. 般若寺跡 38. 塔ノ入遺跡 39. 河内下ノ平遺跡 40. 登戸遺跡 41. 白石城遺跡
- A. 鷲山古墳 B. 広木大町古墳群 C. 秋山古墳群 D. 白石古墳群 E. 羽黒山古墳群

第3図 本遺跡群の位置と周辺の主要な遺跡

れており、基本的に群馬県西部地域と極めて近い様相であると見做し得るであろう。

縄紋前期になると、この地域の遺跡数は急速に増加するとともに、多くの遺跡から複数の竪穴住居跡が検出され、安定した定住的な集落が営まれた様子が窺える。児玉地域においては、前期初頭以降、前期前半までは、それぞれ一定の遺跡数が確認されているが、爆発的に増加するのは黒浜式期になってからである。宮内上ノ原遺跡では、黒浜式（古い部分）の住居跡から、主に南関東に分布する黒浜式と、群馬県域から長野県域に分布する有尾式が出土した。また、中部地域南部に分布する釈迦堂 Z3 式や上ノ坊式等が確認され、この時期には関東地域を超えたより広域な地域間の交渉が活性化している。なお、この地域では、その直後から黒浜式は後退し、殆どが群馬県域に一般的な有尾式によって占められるようになるが、下大塚遺跡（恋河内 1990）では大木 2a 式も検出されている。

縄紋前期後半には、松久丘陵周辺の丘陵部を中心に住居跡を伴う遺跡が急増する。美里町白石城遺跡（中村他 1979・渡辺 1983）、登所遺跡（長滝 2002）等では諸磯式の遺構等が検出されている。また、児玉丘陵の天田遺跡（恋河内 2000）や脊戸谷遺跡（永井他 2005）においても諸磯式期の住居跡がそれぞれ検出され、宮内上ノ原遺跡では前期初頭から終末期に至る各型式の土器群をはじめとする遺物や竪穴住居跡等の遺構が調査されている。このように遺跡が丘陵部および低位の山地部に占地する傾向が顕著であり、とりわけ丘陵部においては集落遺跡が比較的濃密に分布している。これに対して、広い平坦面をもつ本庄台地や低地域にはこれまでに多くの発掘調査が実施されているにも関わらず集落遺跡等はほとんど検出されておらず、加えて遺物の分布も極めて稀であり、地形による土地利用形態に顕著な偏りが認められる。このような遺跡占地域の偏りは、これらの土地に依存する生業形態との関わりを予想させるものである。なお、美里町北貝戸遺跡（長滝他 2006）では丘陵部下の平坦な台地面で住居跡が検出されており、小山川左岸の台地面には見られない現象として注目される。ともあれ、児玉丘陵から松久丘陵周辺には、竪穴住居跡を伴う縄紋前期の遺跡が稠密な分布を示しており、竪穴住居跡を伴わず小規模な遺物の分布を示す前期以前の遺跡の存在形態とは大きな差異が認められる。

児玉郡地域の丘陵部に占地する前期の集落を見ると、集落を構成する住居跡にしばしば重複が認められ、同一地点に反復的に居住した様子を窺うことができる。これらの集落から検出される土器群は、他地域の系統をもつ土器群も散見されるとはいえ、基本的に群馬県域の様相に近く、移動や相互交渉の範囲が山沿いの丘陵部に沿って展開していたものと推定される。縄紋前期後半の諸磯式諸型式にかかる集落跡も、丘陵部や低位の山地域において安定して存在している。この時期においては、打製石斧が増加しはじめる傾向があり、堅果類に加え根茎類の採集への依存度を高める傾向として捉えることができるであろう。なお、前期後半期においても西日本方面の系統をひく「北白川下層式」類似の土器群が確認され、黒耀石等も増加することなど、様々な地域間の交流が活発に行われていた様子も窺い知ることができる。

このように、当該地域は縄紋前期に入って丘陵部を中心として急速に定住的な集落を伴う土地の用益形態へと移行したことを推定できるが、前期末葉では再び遺跡数は減少に転じている。前期終末（十三菩提式期）では、中山遺跡（本書 12 P）で 2 軒の住居跡等が検出されているとはいえ、この時期においては丘陵部を中心に少量の土器群が散在的に検出されるような状況へと変化し遺跡数は減少している。この動向は汎関東的な現象であるが、関東地域全体の様相から見るならば、この地域はむ

しろ遺跡数の減少の程度は相対的に軽微なものであったと考えてよいであろう。

中期初頭期においてもこの地域では前期末葉と同様に遺跡数は少ない。中期前半期では幾分増加し阿玉台式を中心とする遺物群が散見されるものの、遺跡数が再び増加するのは中期中葉の勝坂式後半期以降であり、その後の加曽利E式諸型式の時期では、発見された遺跡数は検出された住居数とともに爆発的に増加している。縄紋中期の小山川右岸の遺跡は、丘陵部に美里町広木上宿遺跡（上野1997）、甕薺神社前遺跡（中村他1980）、鍛冶屋峯遺跡（中澤他1999）が、山間部には栗山遺跡（鳥羽他1983）等がある。また、児玉丘陵部や台地部で塩谷平氏ノ宮遺跡（恋河内他2006）や大天白遺跡（浅間2010）等の集落遺跡が数多く確認されているが、本庄台地面においては将監塚遺跡（石塚他1986）、古井戸遺跡（宮井他1989）や新宮遺跡（恋河内1995他）等の大規模な「環状集落」が連続して設営されることが特徴的であり、集落の稠密な分布を認めることができる。さらに、この同一の台地面には平塚遺跡（鈴木他1994）等の小規模な集落が認められる点にも注目しておくべきであろう。このほか山地内の尾根筋付近に位置する橋ノ入遺跡（鈴木他1986）等や山地内の河岸段丘上に位置する河内下ノ平遺跡（松澤2005）等が確認されている。

このように縄紋中期には、大規模遺跡が本庄台地面に集中し、あるいは丘陵部への分布が認められるとはいえ、遺跡の分布自体は必ずしも特定の地形区分に偏在するのではなく山地域を含む広範囲に分布している。縄紋中期の集落跡が多様な地形区分に比較的等質な分布を示すことは、特定の生態的環境に直接依存するのではなく、様々な土地においても適応が可能な比較的等質な経済活動のあり方を想定すべきであろう。この時期においては、前期に見られたような丘陵部を中心とする土地利用形態の偏りは失われ、集落の占地域が急速に拡大し、台地部とともに、丘陵部や山地部にも広汎に集落が営まれている。言い換えると、中期においては前期までに見られたような集落占地域の偏りは顕著ではなく、多様な地形や小さな生態系の差異を超えて集落を営むようになる。

この時期においては、打製石斧の増加傾向が顕著であり根茎類の採取が活発に行われたことが推定されるとともに、集落付近の谷部では、この時期の遺物を含む二次堆積層が発達しており、土地に対する働きかけが活発に行われた様子を窺うことができる。おそらく、天然林（極相林）では森林の林床に日光が十分に射さないためヤマイモやクズ、ワラビをはじめとする有用植物の生育は抑制され、森林の内部より日の光が射し込む開地や二次林に食糧となる植物が生育するという、植生についての生態的な知識に基づく土地に対する働きかけが行われたものと考えてよいであろう。この時期には、一定の土地に居住する単位的な集団相互の離合集散と、同一集落地への回帰に基づく反復的な居住形態が予想されるが、これは先の生態的な植生の遷移を意識化することによって安定した食糧を獲得すると同時に、社会的な関係を調整するという適応戦略に基づくものであった可能性が高い（鈴木1986）。縄紋中期末には児玉地域においても「環状集落」が衰退し、数軒の小規模な集落に分解する様子が窺えるところから、この時期には社会的な関係にも一定の変化があったものと考えられるであろう。

縄紋後期では、美里町域においても称名寺式土器等が散発的に検出されているが、この地域では丘陵部や山地域の遺跡において零細な資料が検出されるに過ぎない。当該時期においては旧河道に接して占地する堀向遺跡・藤塚遺跡（鈴木他1997）や「藤池」等の湧水点に接して占地する吉田林女池遺跡（恋河内2001・2004）が検出されており、児玉清水遺跡（鈴木他2007）もまた「清水池」や「思池」

に隣接する同様な占地をとるものである。このように後期においては、それまでの占地とは異なった湧水点や小河川に面する比較的低位の地点に集落が位置していることに注目しておくべきであり、他地域の内陸部における集落の占地傾向と一致している。この地域における後期の遺跡は、このような河川等に近接する地点や低地域等へと集落の占地域を変化させていることが確認されるとともに、それまでこの地域では認めることができなかった漁網錘と推定される石錘が伴うようになり、一定の漁撈活動の活性化が推定され、河川とその周辺の低地域における用益活動を軸に集落が営まれていた様子を窺うことができる。

児玉郡地域の縄紋後期以降の遺跡は、後期前半期までは一定の遺跡数を認めることができるが、それ以降では急速に減少の傾向を辿っている。このように後期では、前期～中期の遺跡数と比較すると稀薄化する傾向が顕著となり、遺跡分布の主体は神流川流域や小山川下流域周辺等の河川に近い区域へと移動する傾向をもっているようである。この地域における縄紋晩期の遺跡は、先に見た藤塚遺跡、児玉清水遺跡等のように後期に形成された遺跡が晩期中葉まで継続する形態で確認され、後期から継続しない遺跡の形成は顕著ではなく、後期中葉～晩期の集落遺跡は、基本的に後期前半からの継続性を認めることができる。しかし、後期中葉以降では、ごく少量の遺物が検出されるだけで明確な遺構を伴わない小規模な遺跡も認められるところから、継続的に営まれている一般の集落跡のほか、比較的短期間の居住にかかる露营地等が営まれていた様子も窺うことができる。晩期後半期以降においては、遺跡分布の主体は神流川流域方面へと移っており、児玉郡では神川町下阿久原平遺跡（日沖他 2007）が認められる。また、これ以外にも美里町如来堂遺跡群においては縄紋晩期最終末から弥生初期への移行期の状況を考える上で重要な遺跡が検出されており、この地域が関東においても初期弥生の先進的な地域のひとつであったことを窺い知ることができるであろう。

本庄市域周辺における弥生時代の遺跡は少なく、中期の遺跡は秋山塚原遺跡や浅見山 I 遺跡、あるいは美里町村後遺跡（細田他 1984）など小山川流域等に小規模な遺跡が点在する状況である。また、天神川流域の丘陵上には環濠をもち栗林式系統の土器群が出土した神明ヶ谷戸遺跡がある。後期に入ると児玉丘陵を中心とした谷戸を臨む丘陵部の真鏡寺後遺跡等や、残丘上およびその縁辺部に位置する浅見山 I 遺跡や飯玉東遺跡のような小規模な遺跡が増加しており、谷水田の開発を前提とした占地であると考えられる。

この地域では、古墳時代前期に入ると急速に低地域周辺に集落遺跡が増加するが、これは低地域が開発が急速に進展するためであり、主として女堀川流域や志戸川流域の低地域の河川等による灌漑を伴う水田の開発を推定することができる。女堀川中流域では、異系統土器を伴う後張遺跡群をはじめとする大規模な集落が形成され、このような低地域が開発と集落の設営に伴って鷺山古墳をはじめとする古式古墳が相次いで築造されることは注目すべき点である。また、女堀川下流域では、北堀新田前遺跡で前方後方周溝墓を含む周溝墓群が、加えて浅見山 I 遺跡でも周溝墓群（松本他 2009）が造営される。なお、小山川右岸に位置する美里町志渡川遺跡では数多くの異系統土器が検出されているところから一定数の入植者を伴う集落と推定されている。重ねて、近傍の南志渡川遺跡ではパレススタイルの壺形土器が供献された前方後方形周溝墓を含む周溝墓群（長滝 2004）が検出されており、小山川右岸においても低地域が開発が異系統土器の出現に伴って開始されている様子を窺うことができる。このような低地域における開発の状況は、日の森遺跡（菅谷 1977）の大溝跡から検出された

木杭列や矢板による護岸と分水堰の存在によって垣間見ることができるであろう。

この小山川右岸の旧「那珂郡」地域では、長胴化した壺形埴輪が出土した川輪聖天塚古墳や、仿製変形方格規矩鏡、獣形鏡各一面をはじめ鉄剣、石製模造品等が副葬された5世紀前半の築造と推定される長坂聖天塚古墳、また、黒斑をもつB種ヨコハケ調整の埴輪が検出された志渡川古墳などの古式古墳が造営されているが、これらの動向は小山川右岸地域のみによって完結した動きと考えることは難しく、小山川左岸の旧「児玉郡」地域と併せて総合的に分析する必要があるだろう。ともあれ、こうした墳墓や集落遺跡の占地の傾向は古墳時代中期以降においても継続するとともに、丘陵部にも新しく開発が及んでいる。

古墳時代後期になると、本遺跡群の周辺に限っても秋山東遺跡（恋河内 1987）、秋山諏訪平遺跡（鈴木他 2007・石丸 2010）、秋山大町遺跡（宮本他 2011）、甕薙神社前遺跡（中村他 1980）、広木上宿遺跡（山本 1996）、広木大町遺跡（小淵他 1980）等が形成されている。また、秋山古墳群（坂本他 1990）がおおむね小山川（旧身馴川）に沿って帯状に展開しており、さらに、小山川に沿った西側には広木大町古墳群（小淵他 1980・長滝他 2004・2005）が位置している。なお、この小山川右岸の区域には小山川に沿って分布する古墳群のほか、松久丘陵を中心とした白石古墳群（長滝 1991 他）や羽黒山古墳群（長滝 1991）等が、また、天神川右岸の猪俣北古墳群（中沢他 1998）や普門寺古墳群等が形成されている。このほか第三紀の残丘である諏訪山丘陵や山崎山丘陵には諏訪山古墳群や西山古墳群等が位置している。このような古墳群のまとまりには幾つかの捉え方があるとはいえ、律令的編成以前にも複数の地域的なまとまりが存在していたと考えてよい。

これらの地域は、飛鳥京跡から「无耶志国仲評中里布奈大贄一斗五升」と記された木簡が検出されており、飛鳥浄御原段階には後の「那珂郡」が既に「仲評」として編成されていたことが明らかとなった。このような「評」にかかる住民の居住区域は、行政的な単位であると同時に地域圏として成立している部分があり、「評」の形成に先行する地域圏のあり方を検討することで、律令的編成の基礎を垣間見ることができるであろう。もちろん、行政単位としての「評」や「郡」の形成後における政治的な編成がその後の地域圏の動向を大きく規定した部分を認めるべきではあるが、地域社会のまとまりの累積的な過程から地域圏の基層に接近することが可能であると思われる。

ちなみに、児玉地域周辺のカマドに設置される土製支脚の集成・分類によって児玉地域と深谷市北部地域との地域差が指摘されており、古墳時代後期における旧郡のエリアに近い「小地域差」の存在として捉えられている（恋河内 2008）。ここでは土製支脚製作に対する土師器工人の関与も想定されているところから、古墳時代後期における土師器の製作に旧郡の範囲に近い地域的な差異のあることを示唆する現象として捉えることができるであろう。もとより、更に詳細な分析を必要としているとはいえ、このことは古墳時代後期において土師器生産の地域差においても、旧「評」単位に近いまとまりがすでに形成されていたことを示唆するものであり、土師器の生産や管理の体制を含めて「建評」ないしは「建郡」が、古い地域圏を再編成したことを示すひとつの徴候であると思われる。したがって、評や郡が単純に地域を政治的に分割したのではなく、このような政治的な編成の中から在地社会の動態の中で形成されてきた地域圏の形成過程を読み解く必要があるだろう。

小山川左岸の旧「児玉郡」については、小山川の灌漑用水としての利用は殆ど認められず、金鑽川・赤根川水系の水源とともに神流川からの導水にかかる「九郷用水」によって条里水田が灌漑されてい

ることが特徴である。これに対して小山川右岸の旧「那珂郡」<sup>3)</sup>については、小山川の伏流水を灌漑用水として利用するという点に特徴をもっている。このことは「児玉郡」側においては小山川に接して丘陵性の地形が展開しており、これらの土地が共同用益にかかる区域であったと推定されるのに対し、「那珂郡」側は低地域が展開し水田耕作にも適した土地であったということが深く関わっていたものと考えられることができる。

ちなみに、小山川右岸の烏森遺跡（長滝他 2011）からは、条里形地割の坪線に近い第 1 号溝跡から 10 世紀代を中心とする土器群が多量に検出されており、この時期にはすでに条里形地割りをもつ水田の灌漑系統に変化のあったことを示唆している。この区域の条里水田の灌漑系統は、水殿瓦窯跡付近の小山川伏流水の湧水を水源とする「烏森用水」を主とするものであり、併せて付近の伏流水源を新倉館跡（長滝他 2011）の外堀に還流させる形態をもっている<sup>4)</sup>。このような館堀のもつ機能は、児玉郡域の真鏡寺館跡や蛭川館跡等と類似したものであり、館のもつ勸農的な性格を見てとることができるであろう（鈴木 1995 他）。

ともあれ、小山川は美里町十条の対岸において生野山丘陵の一支丘が南東側に延びて接近し、河道の狭窄部や蛇行部の存在が想起され、この点が美里町沼上付近から十条地区における沼沢地や池あるいは湧水等の伝説や地名と関わっているものと思われる。なお、小山川の舟運を考えるうえでは一定の水深が必要であるところから、本庄市五十子周辺でもこのような小山川の狭窄部が存在したことも検討しておく必要がある。

本遺跡群の占地する小山川右岸の区域の中世を考える上では、東寺領荘園丹波国大山庄の地頭として知られる中澤氏の存在に注目しておくべきである。中澤氏は、中澤信明譲状によると美里町駒衣付近が本貫地のひとつであったと推定することができるが、広木郷にも中澤氏の居住が知られ、応永 12 年（1405）には中澤四郎によって「廣木郷秋山村」の押領にかかる史料が残されていることから、この地域に勢力をもっていたことが明らかである。なお、身馴川の大蛇と坂上田村麻呂の伝説をもつ秋山十二天社は、応永 24 年（1417）銘「武州那珂郡十二天鰐口」が十二天社直下の林道工事中に発見されており、加えて永正 12 年（1515）銘十二天屏風裏書（行田市長久寺所蔵）には「武州那珂郡中澤郷秋山村云々」（埼玉県 1989）とあり中世にも盛んに信仰されていたことが知られている。

十二天社は、近世において那珂郡 14 カ村の総鎮守となり、寛政 7 年（1795）の火災により本殿のほか太子堂、護摩所が焼失した。また、この時に焼失を免れた養蚕の宮、心庵堂、二天門が存在しており、鐘楼を含めて大規模な伽藍によって構成されていたようである。なお、近世秋山村は、旗本領や天領あるいは川越藩領等の変化があり、村内では養蚕を営み、麦のほか、たばこ、大豆等の畑作物も栽培も盛んであったようである。

秋山地区の近代化の一端は、養蚕業の盛行とともに、「秋山焼」といわれる民窯による窯業生産にも表れている<sup>5)</sup>。「秋山焼」に認められる器種は、播鉢、甕、急須、土瓶、片口鉢、徳利、燈明皿等の日常雑器の組み合わせを基本としており、茶碗、飯茶碗、猪口等の器種が欠落するが、おそらく磁器類において卓越する器種と競合しない製品を基本的な器種構成としていたものと考えてよいであろう。なお、急須には「陸鑛社」等の押印が認められるものがある。「陸鑛社」については、明治 26 年（1893）12 月に株式会社認可願いが提出された「陸鑛株式会社」の定款第二条に「本社ノ目的ハ陶器ヲ製造シ之ヲ販売シ汎ク販路ヲ開クヲ以テ目的トス」とあるところから、基本的に同一の組織と見做

してよいであろう。この「陸鋳株式会社」は、この株式会社認可願の翌年2月に認可されている。なお、明治32年(1899)の工業統計表にも「陸鋳株式会社」が「陶器製造」として見えるところから、少なくともこの期間については操業が行われていたと考えてよいであろう。また、定款には「薪炭買入並駄賃付込帳」があり、燃料が購入等によって確保されていたことが推定される。薪炭の地位が近代以降に急激に変化することは、共有林による自給的薪炭生産体系の崩壊と相関をもつ現象として、一定の分業あるいは商業と交通の発達促進と密接な関係をもつ現象であろう。いずれにしても「秋山焼」の生産は、秋山地区の山あいにおける近代化の一過程として、今後もその盛衰の過程を捉え返す必要がある問題であろう。

ちなみに、「陸鋳株式会社」が認可された明治27年は、児玉町において近代的養蚕業の伝習施設である競進社模範蚕室が木村九蔵によって新築されるなど、近代化が本格的に定着し始めた時期であった。この地域にも次々と高窓と呼ばれる越屋根をもつ近代的な養蚕家屋が建設され、今日の「高窓の里」に見られるような近代の村落景観が形成された。丘陵部にも開墾が進み、懐かしい桑原の広がる風景が形づくられていったのである。(鈴木)

#### 【 註 】

- 1) 「秋山西部遺跡群」は、本報告にかかる発掘調査と行政的な手続きに基づく区分である。したがって所謂「遺跡群研究」によって捉えられた「遺跡群」ではなく、事業区域が秋山地区の西部に位置することによる便宜的な名称に過ぎない。しかし、今後は発掘調査後の遺跡相互のもつ多重な関係の捉え返しによって真の遺跡群として把握していく必要があるだろう。
- 2) 秋山地区を含む那珂郡の歴史的な推移については、旧稿(鈴木1987・2007)で述べたところがある。本章の後半はこの地区の歴史的な環境の概要を記すとはいえ、旧稿で触れていない新資料にかかる諸点について断簡的に補った部分があり記述に偏りが生じている。したがって、歴史的環境の詳細や省略した参考文献については旧稿の参照をお願いしたい。大方のご寛恕を希うものである。
- 3) 本章にかかる武蔵国那珂郡については、しばしば「那賀郡」という表記も認められるが、本章では地域を示すものとして、ここでは暫定的にすべて“那珂郡”と表記した。
- 4) 新倉館跡および周辺の用水路等については、報告書(長滝他2011)の記述を参考にした。なお、かつて身馴川伏流水灌漑区域を概観し、これらの区域について公領的性格の残存した国衙領的な区域である可能性を想定した(鈴木1987)。ここでは新倉館を、15世紀後半期を中心とする国人領主層の居館跡であると考えておきたい。
- 5) 「秋山焼」に関わる発掘調査は、秋山塚原遺跡として道路改良工事に先立って昭和56年度に児玉町教育委員会で実施したものであり、「秋山焼」窯跡の南側に隣接する斜面部の“捨て場”および工房跡の一部が検出された。「秋山焼」の操業期間は「幕末から明治」と伝えられているが、その期間についても幾つかの見解や伝承があり明確ではない。しかし「秋山焼」は、19世紀末葉には株式会社としての操業を確認することができる。「秋山焼」の素地土は、児玉町大字秋山の十二天付近で採取されたものと伝えられており、鉄分が多く赤く発色する特徴があるところから無釉でも茶色の発色をみる。釉薬は、基本的には灰釉と鉄釉で構成されるが、灰釉のほか、塩釉、飴釉、柿釉、青釉などがある。器種の組成比上では、徳利が比較的多く認められるが、幾種類かの銘のあるものが認められることや、これらのうちに「久田」等の酒屋の銘と思われるものがあるところから、これらの酒屋等からの注文・受注生産によってこの器種が多く生産されていたものと推定される。なお、秋山焼の製品には認められない茶碗や飯茶碗等は、捨て場や工房があったと推定される捨て場上の平坦部において磁器の破片資料が出土していることに注意すべきである。なお、「陸鋳株式会社」本社の設置された場所は、谷あいの字「在家」に位置し、秋山の集落に位置する工房や窯からは幾分離れているが、十二天付近から採取されたとされる粘土、あるいは燃料の確保の問題とも関連しているのかも知れない。



## 第Ⅲ章 中山遺跡の調査

### 第1節 中山遺跡の概要

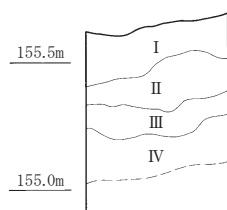
調査区は山地を南北に下刻する谷戸に沿った南西斜面に位置する。標高は147.5～158.5 mで、東から西に傾斜していた。また、南側にも小規模な谷による勾配が見受けられる。

調査区内には表土のⅠ・Ⅱ層や均質で締まりの強いⅢ・Ⅳ層が広範囲に堆積する。表土層には浅間A軽石(As-A)が混入しており、その形成時期は噴出した1783年以降に求められよう。Ⅲ層は縄紋土器を主体とする遺物を含む。Ⅳ層はⅢ層とローム層の漸移層である。Ⅳ層下はローム層や片岩で構成される岩盤層で、一定していない。調査は遺物が散在するⅢ層ないしⅣ層で実施したものの、遺構が不明瞭であることから、遺物のみ柱状に掘り残して確認面をⅣ層下位まで下げた。

検出された遺構は、竪穴住居跡36軒、集石遺構4基、土坑126基および多数の小穴、倒木痕・植栽等の掘り込みである。遺構埋没土と基盤層の区別が難しく、遺構の把握に不明確な部分が残った。

住居跡は縄紋時代前期(2・3・6～11・13・16～24・26～29号住居跡)、古墳時代後期(5・14号住居跡)、平安時代(1・4・15号住居跡)、時期不明(12・25号住居跡)のものが調査され、縄紋時代が大多数を占める。これらは時期を違えず、傾斜がやや緩い標高151.0～154.0 mの調査区中央から南側に集中する。縄紋時代前期の住居跡で細別時期の判明したものには、初頭花積下層式ないし二ツ木式期(2・3・8a・9・16・18b号住居跡)、中葉有尾式期(18a・22号住居跡)、後葉諸磯a式期(6・10・21号住居跡)・諸磯b式期(7・26c号住居跡)・諸磯c式期(20a号住居跡)、末葉十三菩提式期(20b・27a号住居跡)が認められた。土坑は倒木痕や植栽等との区別が難しく、発掘調査時の所見に従っている。分布は調査区全体に広がるものの、住居跡の周辺に集中する傾向がある。縄紋土器を伴出する事例が多い。

検出された遺物は多量で、縄紋土器・石器・土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・古銭等が見受けられた。縄紋土器や石器がほとんどを占める。遺構に伴うものに加えて、包含層から出土したものも多い。包含層出土遺物の分布は調査区中央から南側に集中しており、遺構の傾向に符合する。縄紋土器は前期全般を主体としていた。(高橋)



第4図 基本層序

#### 中山遺跡 基本層序

- I: 暗褐色土層。混入物が多く、均質でない。ローム粒子・白色粒子・浅間A軽石を含む。しまりが無い。
- II: 暗褐色ローム質土層。径3～5mmほどのロームブロック・ローム粒子・浅間A軽石を含む。しまりがほぼ無い。
- III: 暗灰褐色土層。均質で、ローム粒子を若干含む。粘性がややあり、しまりが強い。
- IV: 黄褐色ローム質土層。均質で、ローム粒子・白色粒子を多量含む。粘性・しまりがある。

### 第2節 遺構と遺物

#### 1. 竪穴住居跡

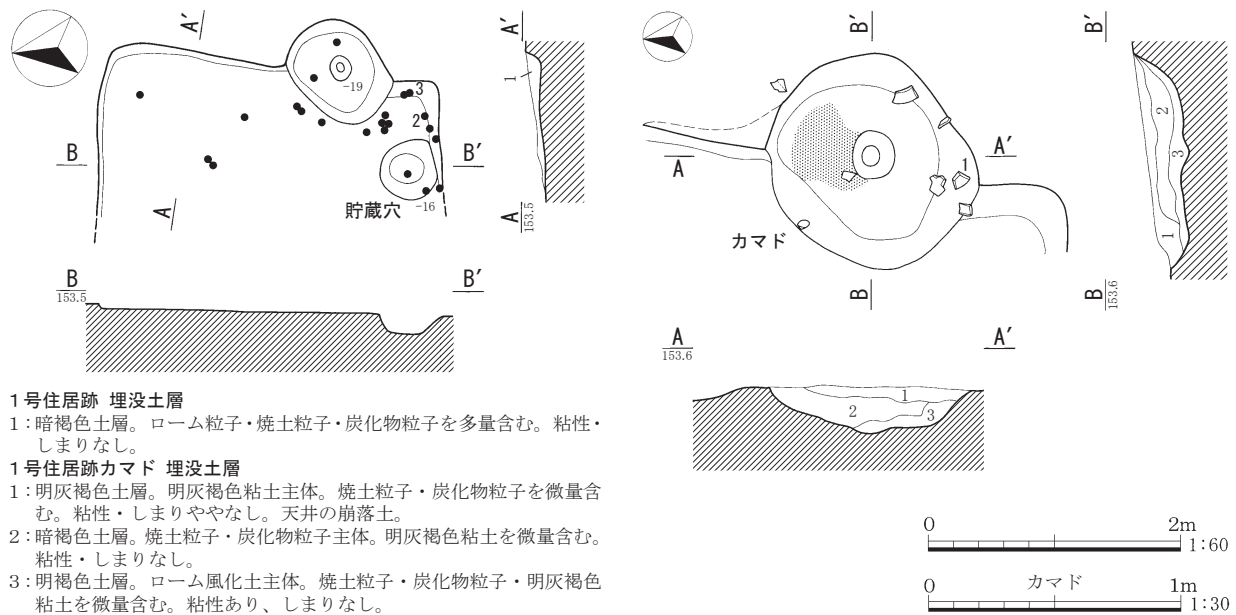
##### 1号住居跡 (第6・7図、写真図版2・20)

**位置:** 調査区の北西側、D4・5グリッドに所在する。**形態:** 西半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は方形ないし長方形を呈するものと推測される。**主軸方位:** N-99°-E。**規模:** 南北軸長2.71 m。**カマド:** 東壁に付設される。カマド全体が土坑状に落ち込んでいた。中心の小穴は支脚の抜き取り痕

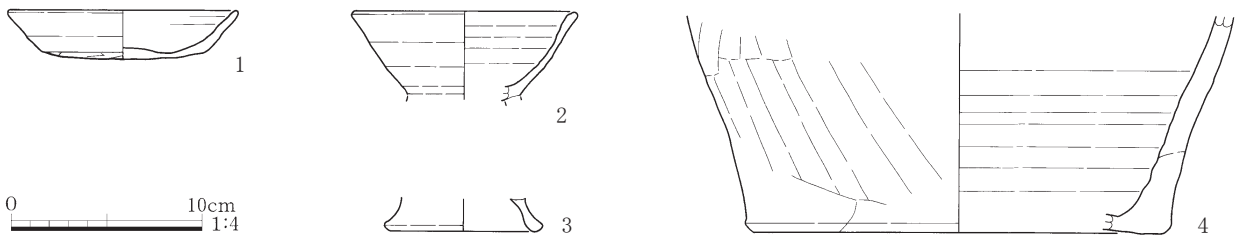


第5图 全体图

に想定されよう。貯蔵穴：カマドの右脇に小穴状の掘り込みが付設される。周溝：未検出。遺物：カマド周辺に集中する。時期：住居跡の形態や出土遺物から平安時代に比定される。（宮本）



第6図 1号住居跡



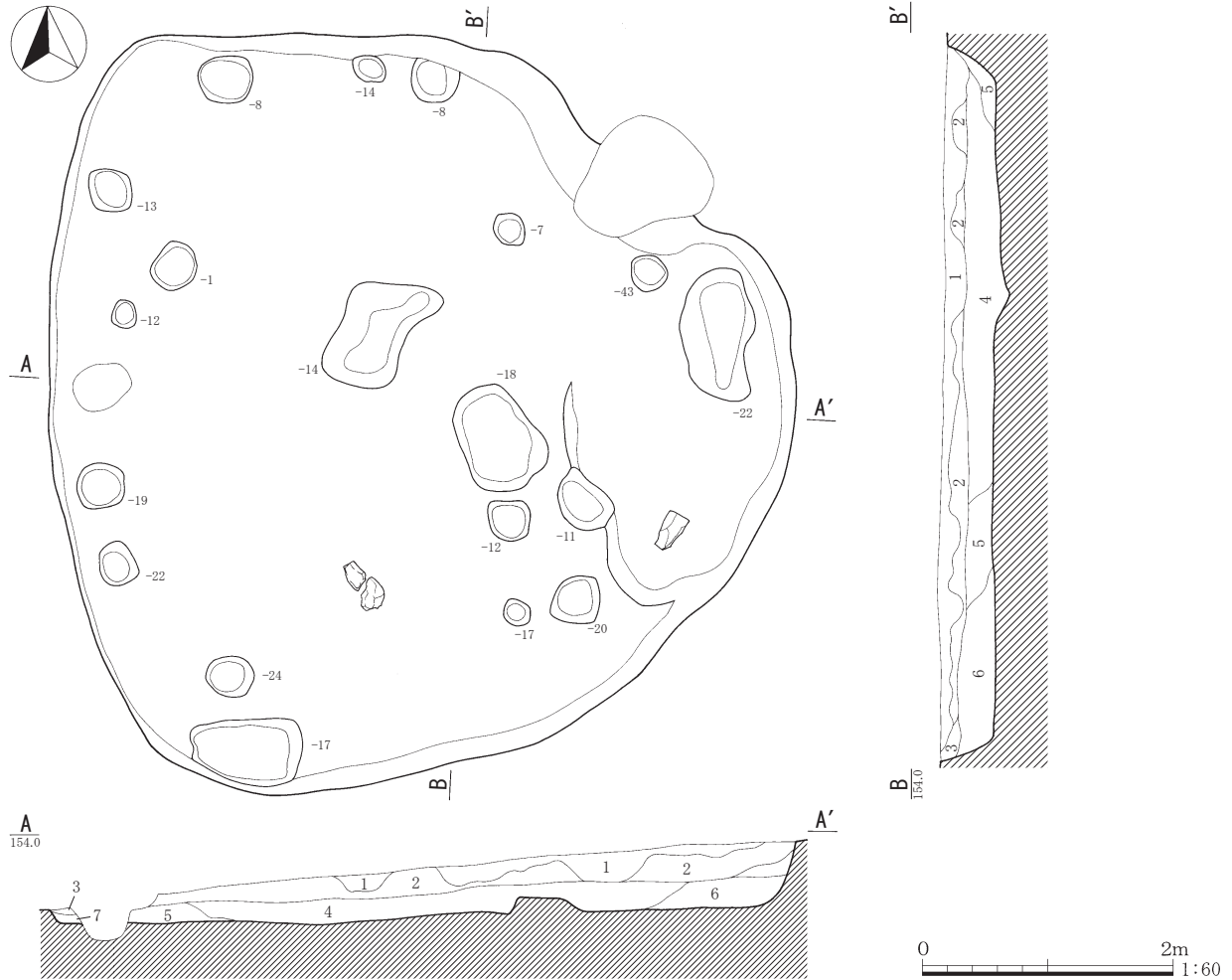
第7図 1号住居跡出土遺物

1号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 杯	A. 口径(12.2)。底径(8.5)。器高2.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。
2	須恵器 杯	A. 口径(12.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部貼付高台欠損。D. 片岩・石英・海綿体骨針・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。G. 酸火焰焼成。H. カマド。
3	須恵器 高台付碗	A. 底径8.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 高台部のみほぼ完形。G. 酸火焰焼成。
4	須恵器 鉢カ	A. 底径(22.4)。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→タテナデ→下位ヨコナデ。内面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 破片。

2号住居跡（第8～10図、写真図版2・20）

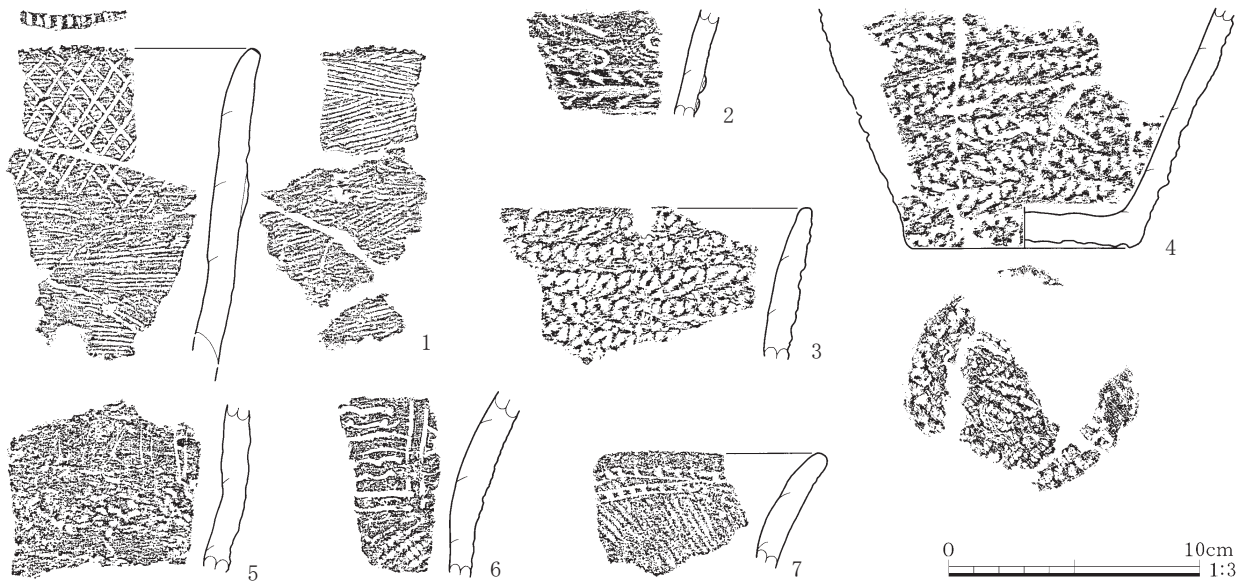
**位置**：調査区の北西側、E4・5、F5グリッドに所在する。数基の土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。**形態**：平面は隅丸長方形を呈し、東壁に土坑状の掘り込みが接する。**主軸方位**：S-2°-W。**規模**：南北軸長6.03m、東西軸長5.97m。**炉**：竪穴の中央に浅い掘り込みが見受けられ、地床炉である可能性が想起される。**柱穴**：15基。浅い小穴が壁際に巡る。**遺物**：やや多量の遺物が竪穴の中央～東側および土坑状の掘り込み内に広く分布する。早期後葉ないし末葉、前期初頭～後葉の縄紋土器片が認められ、前期初頭や後葉が多くを占める。石器は竪穴の東脇で石皿（第10図14）、覆土内で大型の多孔石（15）が検出された。**時期**：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期初頭二ツ木式期に比定され、前期中～後葉の土坑等により損なわれているものと推測される。（高橋）



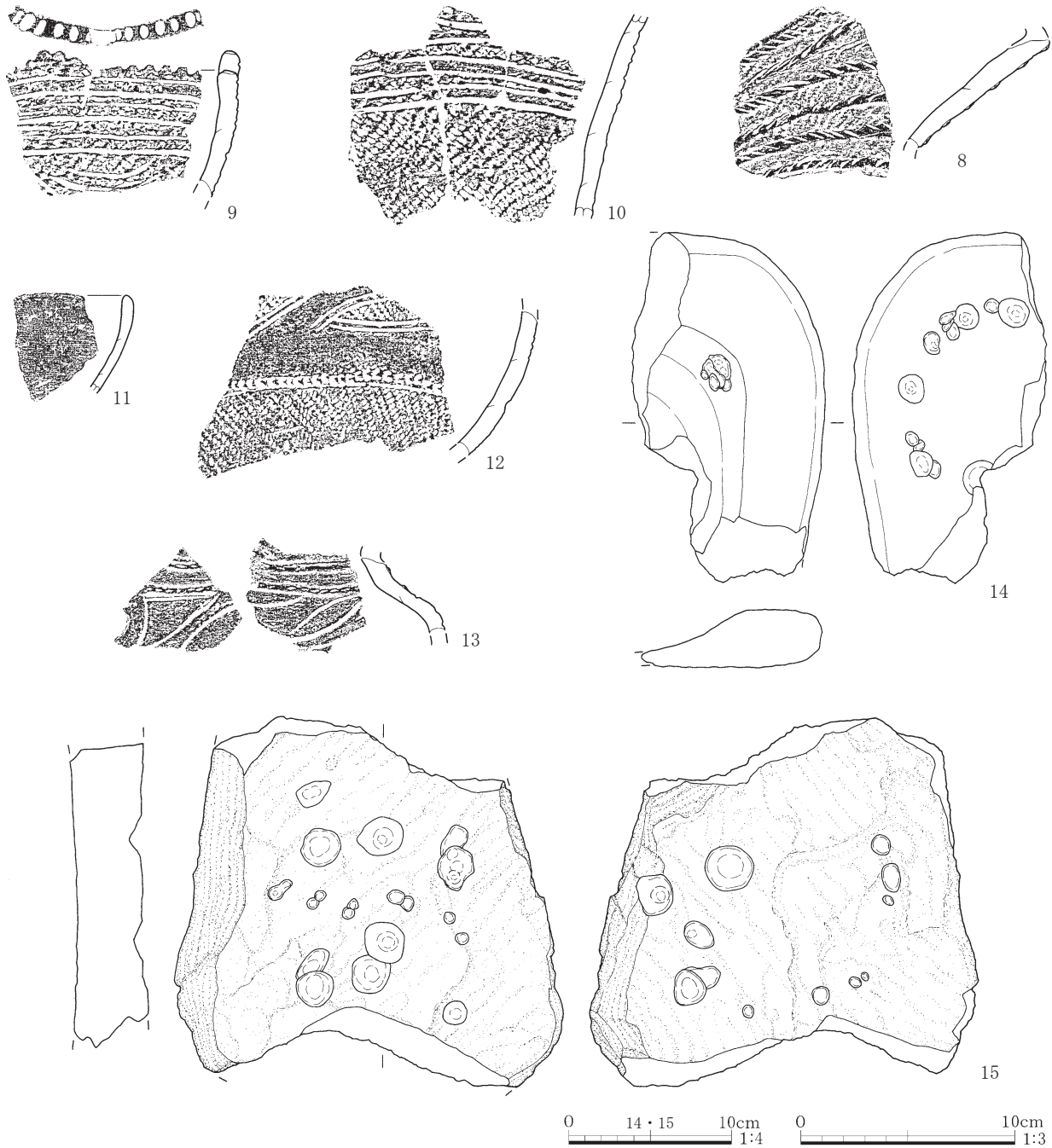
2号住居跡 埋没土層

- |                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1: 暗橙色土層。基本層序Ⅱ層に近似する。白色粒子を微量含む。しまり非常にあり。</p> <p>2: 暗褐色土層。白色粒子を多量含む。しまり非常にあり。</p> <p>3: 暗黄色土層。ロームの風化土主体。粘性・しまりあり。</p> <p>4: 暗黄褐色土層。ローム粒子を多量、白色粒子・黒色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりなし。</p> | <p>5: 暗褐色土層。黒色粒子を多量、ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。炭化物粒子・黒色土ブロックが混じる。粘性・しまりあり。</p> <p>6: 茶褐色土層。ローム粒子・黒色粒子を多量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>7: 黄褐色土層。ローム粒子を多量、ロームブロック・黒色粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第8図 2号住居跡



第9図 2号住居跡出土遺物(1)



第10図 2号住居跡出土遺物(2)

2号住居跡出土遺物観察表(1)

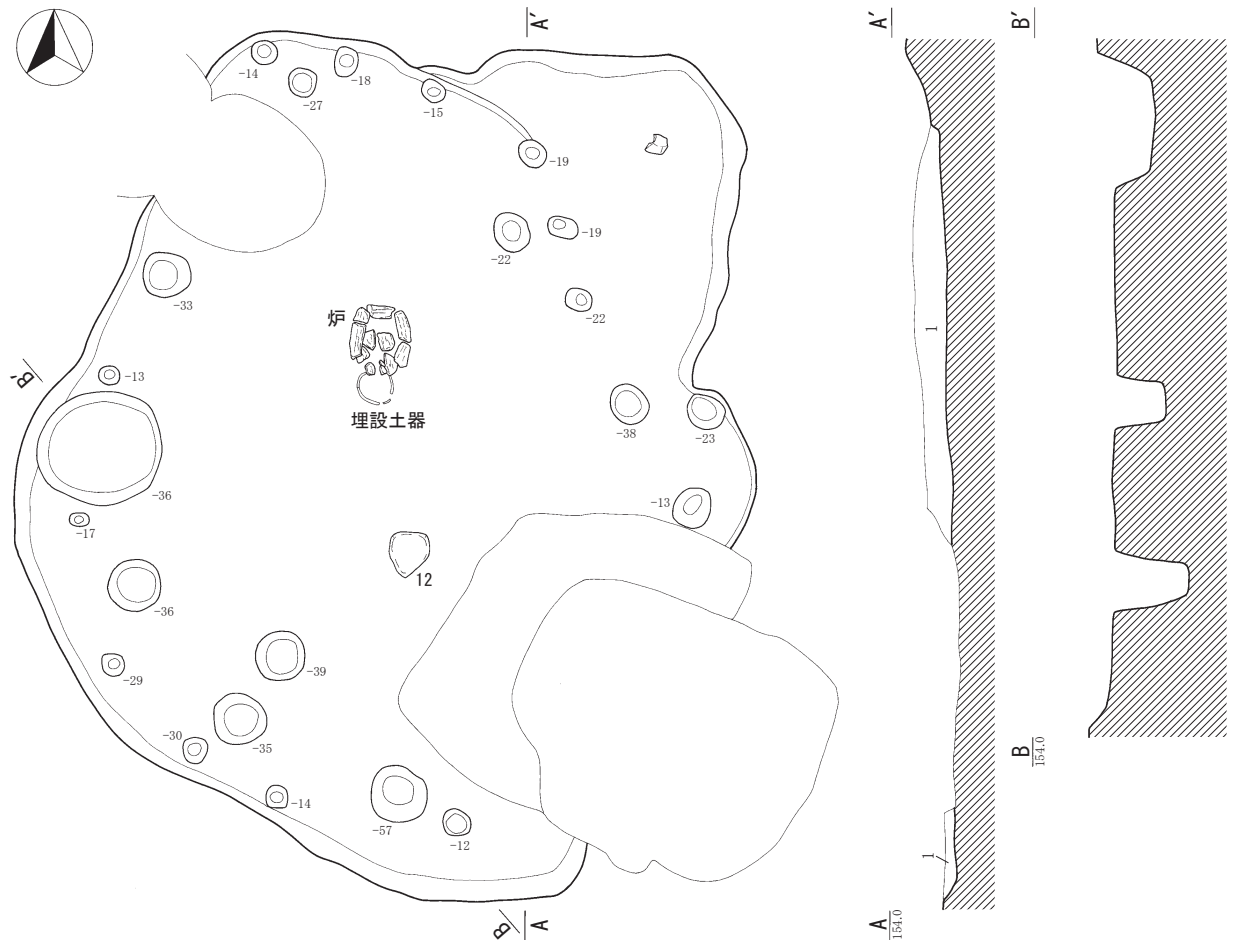
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、低平な隆起で口縁部区画。横位条痕紋→口縁部に平行沈線紋カによる斜格子文。口唇部にキザミ(沈線と同じ工具)。内面、横位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 口縁~胴部片。G. G7G出土遺物と接合。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯で区画。撚糸側面圧痕紋(R・R・L・L)、円紋・刺切紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-黄橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋(RL・LR)。内面、ミガキ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	A. 底径8.8。C. 外面、多段ループ紋(RL・LR)。内面、丁寧なナデ。底面、閉端環付斜縄紋(LR)。D. 繊維。E. 内-浅黄橙色。外-橙色。F. 底部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋地紋。無文部に鋭い沈線による縦位文。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口縁部に平行沈線紋による縦位区画→横位平行沈線紋・コンパス紋(沈線紋と同一工具)を充填。胴部に縄紋(LR)。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。

2号住居跡出土遺物観察表(2)

7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→爪形紋で口縁部区画。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR)→低平なキザミ付浮線紋。内面、ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR)→平行沈線紋による区画・弧線文。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい黄橙色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR)→平行沈線紋による区画等。内面、縦位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。
11	縄紋土器 浅鉢	C. 内外面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
12	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→爪形紋で口縁部区画→平行沈線紋・磨消縄文による木葉状入組文。内面、斜位ミガキ。D. 角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。
13	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、キザミ付隆帯で口縁部区画→鋭い単沈線紋による木葉状入組文。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内外-黒色。F. 口縁部片。
14	石器 石皿	A. 長[20.6]。幅[12.1]。厚3.6。重1,392.3。C. 板状礫を素材とし全体に丁寧な整形。D. 緑色岩類。F. 大半が欠損。G. 皿面は播鉢状に深く窪む。裏面は平滑で漏斗状の凹穴が多数。
15	石器 多孔石	A. 長[22.9]。幅24.1。厚[4.8]。重4,340.0。D. 緑色岩類。F. 上・下端部欠損。G. 板状礫の表・裏面に漏斗状の凹穴が多数。

3号住居跡(第11~14図、写真図版2・21)

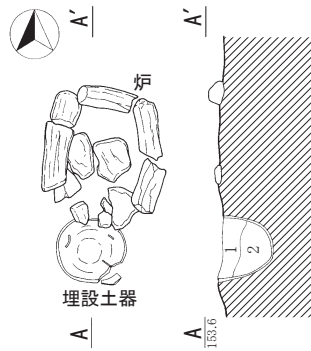
位置：調査区の北側、E6・7、F6・7グリッドに所在する。数基の土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面は不整な長方形を呈しており、複数の住居跡が重複している可能性がある



3号住居跡 埋設土層

1: 暗茶褐色土層。白色粒子を少量、ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。

第11図 3号住居跡(1)



3号住居跡炉 埋没土層  
 1:暗茶褐色土層。  
 2:暗黒褐色土層。

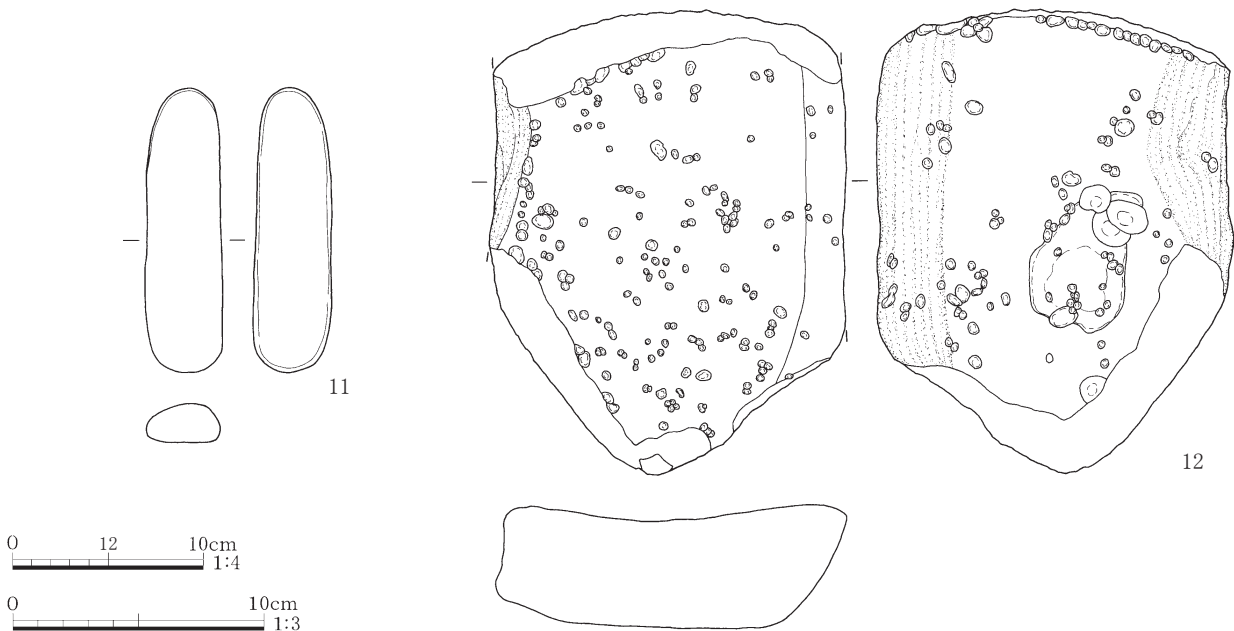


第12図 3号住居跡(2)

る。主軸方位：S - 30° - E。規模：南北軸長 6.84 m、東西軸長 5.87 m。炉：コ字状石囲炉が中央やや北寄りに付設される。炉の石囲は底面にも及ぶ。また、焚口に埋設土器が伴う。柱穴：22基。小穴が壁際に巡る。40～50cmほどの深い小穴も散見されるが、主柱穴の判別は難しい。埋設土器：炉の焚口において深鉢が正位の状態を検出された。遺物：少量の遺物が竪穴の上層に分布する。早期中葉・後葉ないし末葉、前期初頭・中葉～末葉の縄紋土器が認められ、花積下層式ないし二ツ木式が多くを占める。量的には劣るものの有尾式の個体は残存状態がやや良い。石器は大型の台石が床面上で検出された(第14図12)。時期：炉の形態や出土遺物から縄紋時代前期初頭花積下層式ないし二ツ木式期に比定され、早期中葉の住居跡等が重複しているものと推測される。(高橋)



第13図 3号住居跡出土遺物(1)



第 14 図 3号住居跡出土遺物（2）

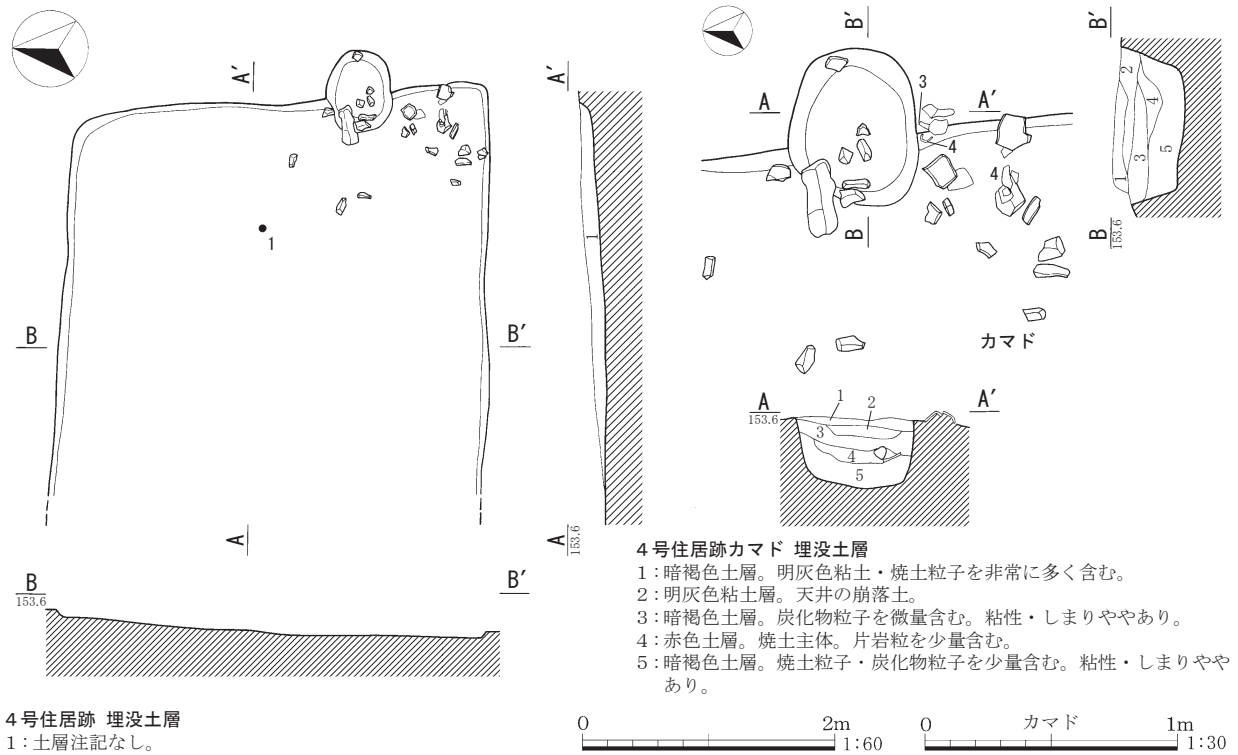
3号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い横位単沈線紋（尖頭状工具）。内面、縦位ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位条痕紋地紋→条痕紋による波状文。口唇部に小突起。内面、横位条痕紋。D. 多量の片岩、繊維。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。G. H6G 出土遺物と同一個体。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（LR）→絡条体圧痕紋（rの撚糸をL巻）。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。G. 輪積部分にキザミ。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、単沈線紋による鋸歯文→刺切紋。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい黄橙・橙色。外一にぶい黄橙・黒褐色。F. 口縁部片。G. 7号住居跡・G10G 出土遺物と同一個体。
5	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋（RL、前々段3条）。口唇下に撚糸側面圧痕紋（L）。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一橙色。外一黒褐色。F. 口縁部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画→羽状縄紋（RL・LR）。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい黄橙色。外一黒褐色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による口縁部区画・菱形文。内面、横位ナデ。D. 多量の片岩、繊維。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。G. F6G 出土遺物と接合。E6G 出土遺物と同一個体。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋（RL・LR）。内面、横位ナデ。D. 多量の片岩、繊維。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、粗い横位ナデ。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 口縁部片。
10	石器 打製石斧	A. 長 11.8。幅 8.2。厚 1.6。重 181.9。C. 割礫の周縁に両面調整。両側縁部中央は敲打により抉入部を作出。D. 緑色岩類。F. 完形。G. 分銅形。偏刃。
11	石器 磨石	A. 長 11.2。幅 3.1。厚 1.6。重 97.7。D. 安山岩。F. 完形。G. 棒状礫の表・裏面に磨耗痕。
12	石器 石皿	A. 長 [24.4]。幅 [18.9]。厚 6.5。重 5,450.0。C. 大形扁平礫を素材とする。D. 緑色岩類。F. 上・下端部欠損。G. 皿面中央は磨耗により浅く窪む。表・裏面の広範囲に敲打痕があり、上端部には欠損後の敲打痕が連続する。

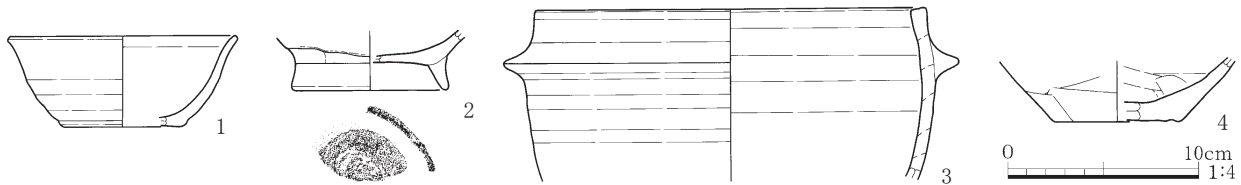
4号住居跡（第 15・16 図、写真図版 2・21）

位置：調査区のほぼ中央、G 10・11 グリッドに所在する。11号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：西端は消失していた。平面は長方形を呈する。主軸方位：N－88°－E。規模：南北軸長 3.35 m。カマド：東壁に付設され、袖部は残存していない。燃焼部は竪穴外に延び、全体が土坑状に落ち込んでいる。貯蔵穴：未検出。柱穴：未検出。周溝：未検出。遺物：礫と共に竪穴内に散在する。土器はカマド右側の上層から検出された。酸化焰焼成の高台付椀や羽釜が出土している。時期：住居跡の形態や出土遺物から平安時代に比定される。（宮本）





第15図 4号住居跡



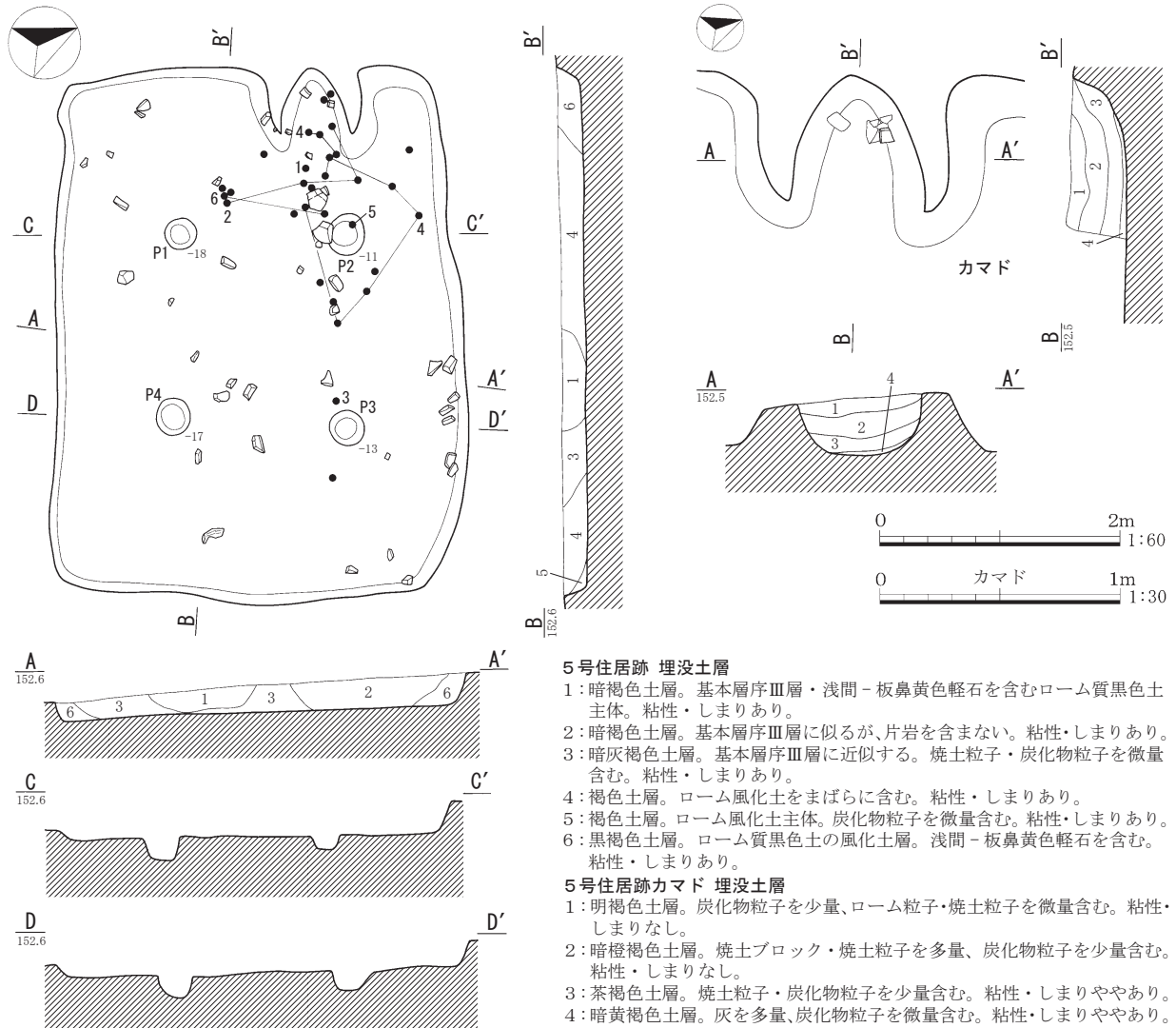
第16図 4号住居跡出土遺物

4号住居跡出土遺物観察表

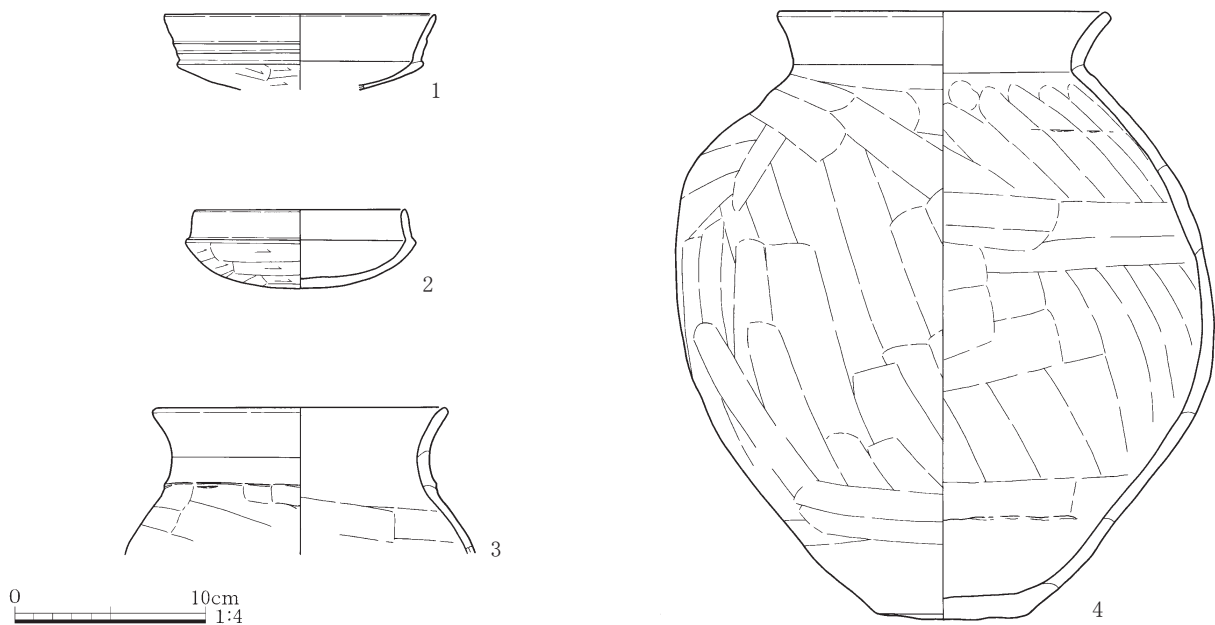
1	須恵器 坏	A. 口径(12.3)。底径(6.6)。器高4.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・雲母・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 酸火焰焼成。
2	須恵器 高台付碗	A. 底径(8.3)。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一浅黄色。F. 破片。G. 酸火焰焼成。H. カマド。
3	羽釜	A. 口径(20.7)。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外一明黄褐色。F. 破片。G. 外面にスス附着。
4	羽釜	A. 底径(6.7)。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ→ナデ。底部ケズリ。D. 石英・白色粒子。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 底部1/3。G. 外面二次被熱。

5号住居跡 (第17～19図、写真図版3・22)

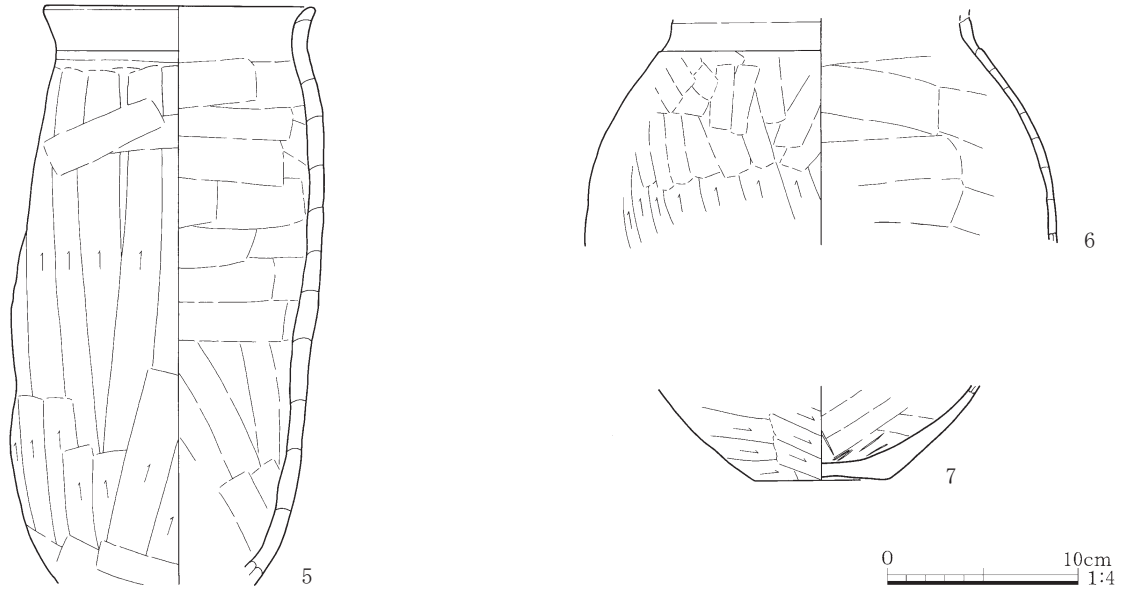
**位置:** 調査区のほぼ中央、F13・14グリッドに所在する。20号住居跡と重複し、本遺構が新しい。**形態:** 平面は長方形を呈する。**主軸方位:** N-62°-W。**規模:** 南北軸長3.44m、東西軸長4.45m。**カマド:** 西壁に付設される。袖部は基盤層を掘り残し、奥壁は住居の壁と一致する。**貯蔵穴:** 未検出。**柱穴:** 4基。全て主柱穴であろう。**周溝:** 未検出。**遺物:** カマド前を中心に遺物や礫が散在している。土器は上層から中層にかけて分布していた。古墳時代後期の須恵器坏身模倣坏や有段口縁坏、壺、長胴甕等が出土した。5の長胴甕はP2において横位の状態で検出された。**時期:** 住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期に比定される。(宮本)



第17図 5号住居跡



第18図 5号住居跡出土遺物(1)



第 19 図 5号住居跡出土遺物（2）

5号住居跡出土遺物観察表

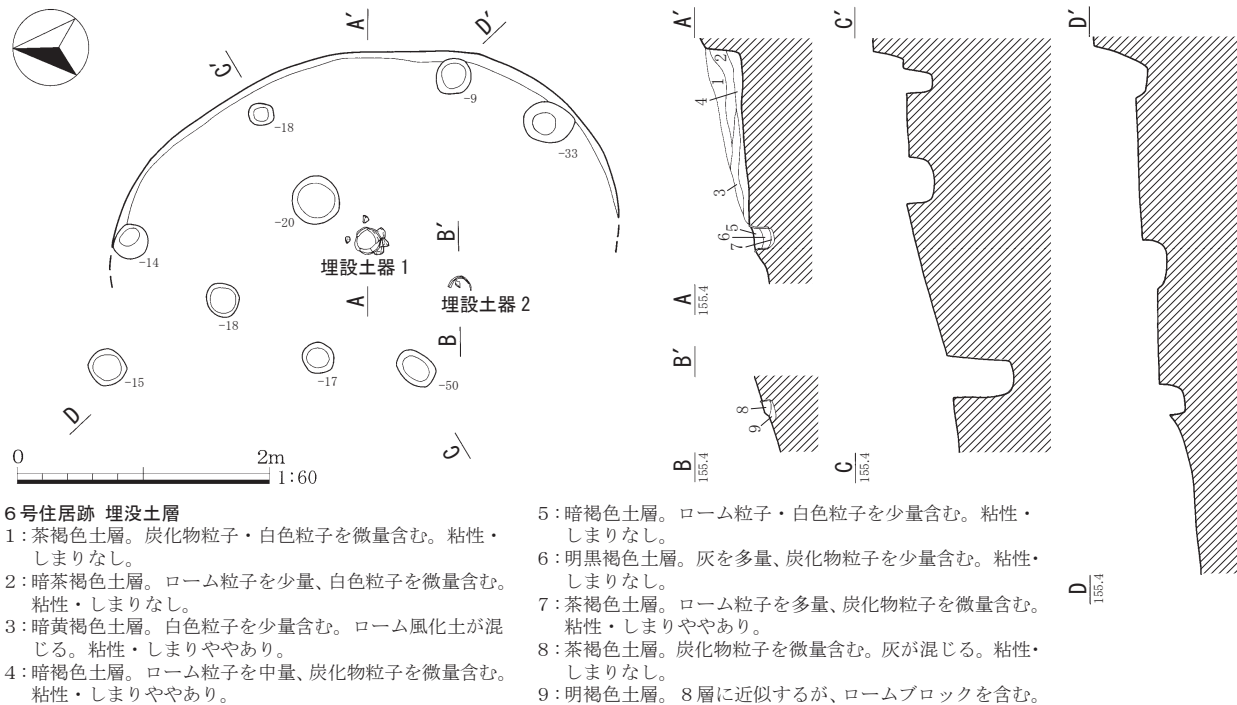
1	土師器 坏	A. 口径 (14.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。
2	土師器 坏	A. 口径 11.4。器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。
3	土師器 壺	A. 口径 (15.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。
4	土師器 壺	A. 口径 17.6。底径 8.0。器高 32.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ→ナナメナデ→上位・下位ヨコナデ。手水部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ～タテナデ→部分的にヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面二次被熱。
5	土師器 甕	A. 口径 14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→部分的にヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 底部以外ほぼ完形。G. 内外面、摩耗著しい。
6	土師器 甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。
7	土師器 甕	A. 底径 7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。工具の当たり痕顕著。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 底部 3/4。

6号住居跡（第 20・21 図、写真図版 3・22）

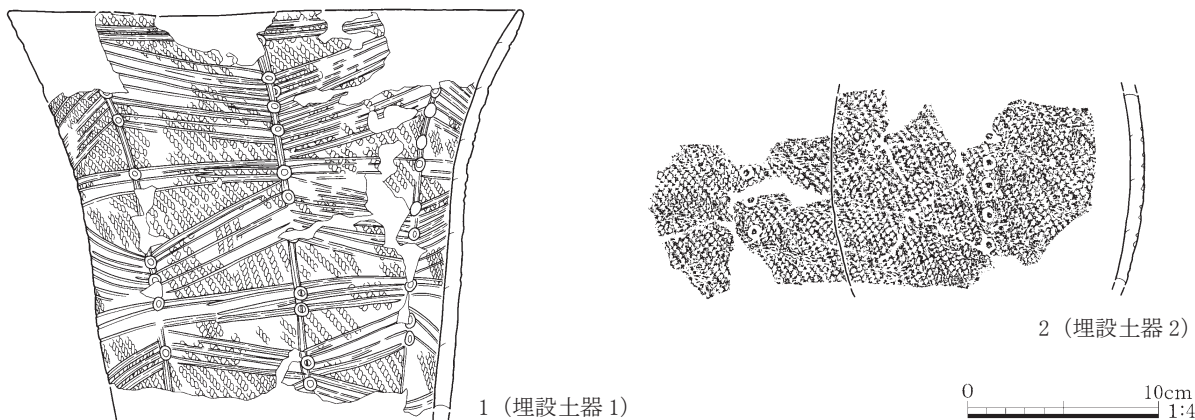
**位置：**調査区の西側、Y 12・13 グリッドに所在する。**形態：**西半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は楕円状を呈するものと推測される。**主軸方位：**不明。**規模：**南北残存長 4.02 m。**炉：**未検出。**柱穴：**9 基。規則的な配置は認められない。**埋設土器：**2 基。埋設土器 1 は竪穴の中央に胴部下半を欠損する深鉢（第 21 図 1）が正位の状態で設置される。埋設土器 2 は埋設土器 1 の南側において口縁部・胴部下半を欠損する深鉢（2）が正位の状態で検出された。**遺物：**少量の遺物が竪穴内に散在し、早期後葉ないし末葉、前期中葉～後葉、中期中葉の縄紋土器片が認められた。これらは埋設土器と同様の前期中葉諸磯 a 式が多くを占める。**時期：**住居跡の形態や埋設土器から縄紋時代前期中葉諸磯 a 式期に比定される。（高橋）

7号住居跡（第 22～27 図、写真図版 4・22～25）

**位置：**調査区の中央、F 8・9 グリッドに所在する。土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。**形態：**



第20図 6号住居跡

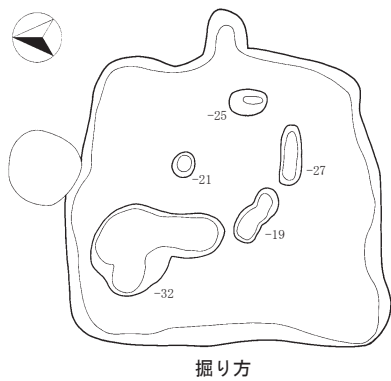
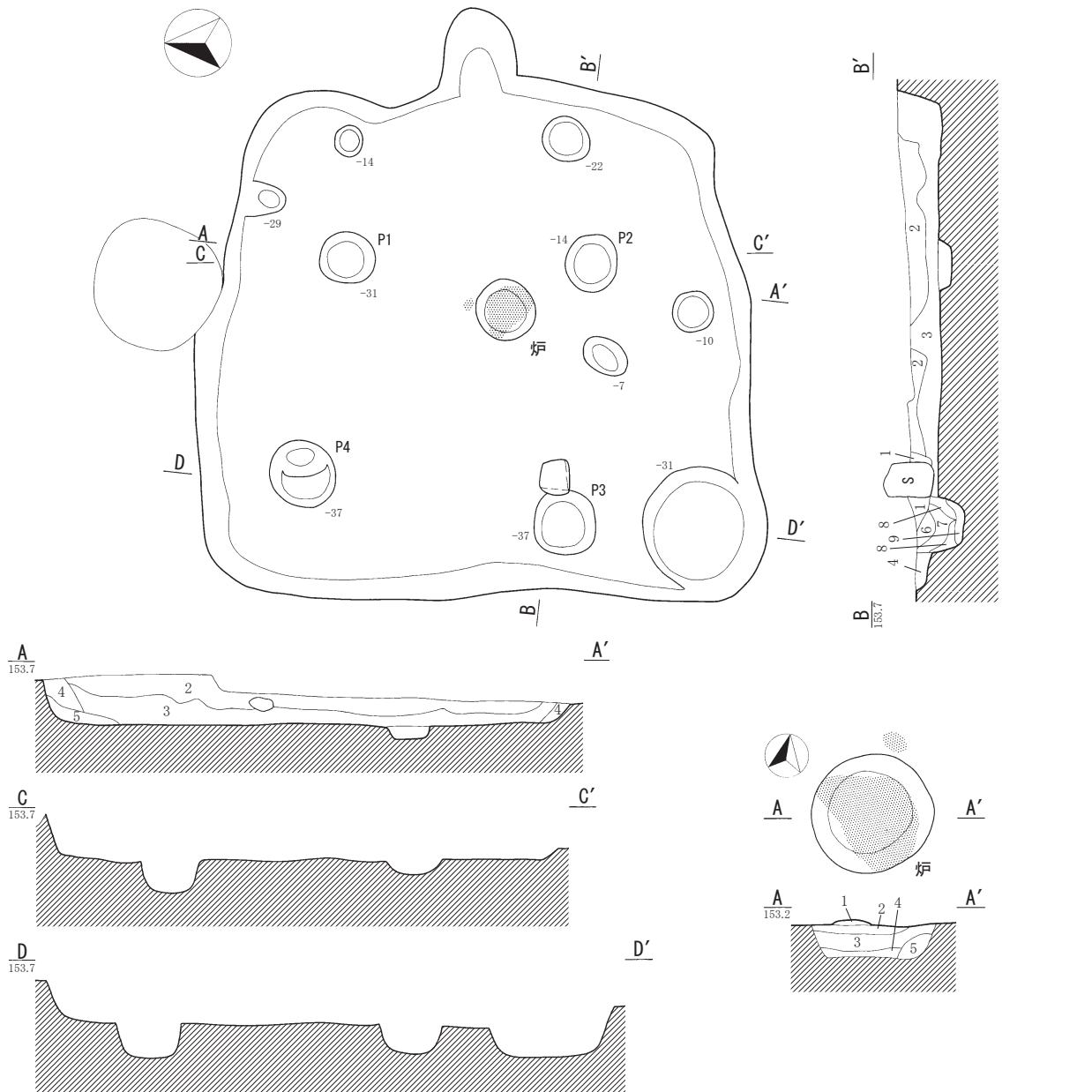


第21図 6号住居跡出土遺物

6号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (27.2)。C. 外面、斜縄紋 (RL) → 平行沈線紋 (内皮痕残存、部分的に同一工具の縁による単沈線) で区画・米字文→交点に円紋。内面、口縁部に横位ミガキ・胴部に縦位ミガキ。D. 角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁~胴部 2/3。H. 埋設土器 1。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) → 円紋。内面、縦位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外-浅黄橙色。F. 胴上半部 1/2。H. 埋設土器 2。

平面は方形を呈する。主軸方位：S - 90° - E。規模：南北軸長 4.98 m、東西軸長 4.62 m。炉：竪穴の中央に地床炉が付設される。柱穴：9基。P 1～4が支柱穴に想定される。ただし、P 3の埋没状況は複雑で、検討の余地がある。遺物：出土量が非常に多い。竪穴内に広く分布し、中央に集中する傾向がある。早期後葉、前期初頭～後葉の縄紋土器が認められ、諸磯b式がほとんどを占める。諸磯b式の個体には残存状態の良好なもの (第25・26図5・6・10・20・29) が多いものの、若干の時期差が認められ、窪地化した竪穴へ継続的に遺棄されてきたものと推測される。時期：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯b式期に比定される。(高橋)



掘り方

7号住居跡 埋没土層

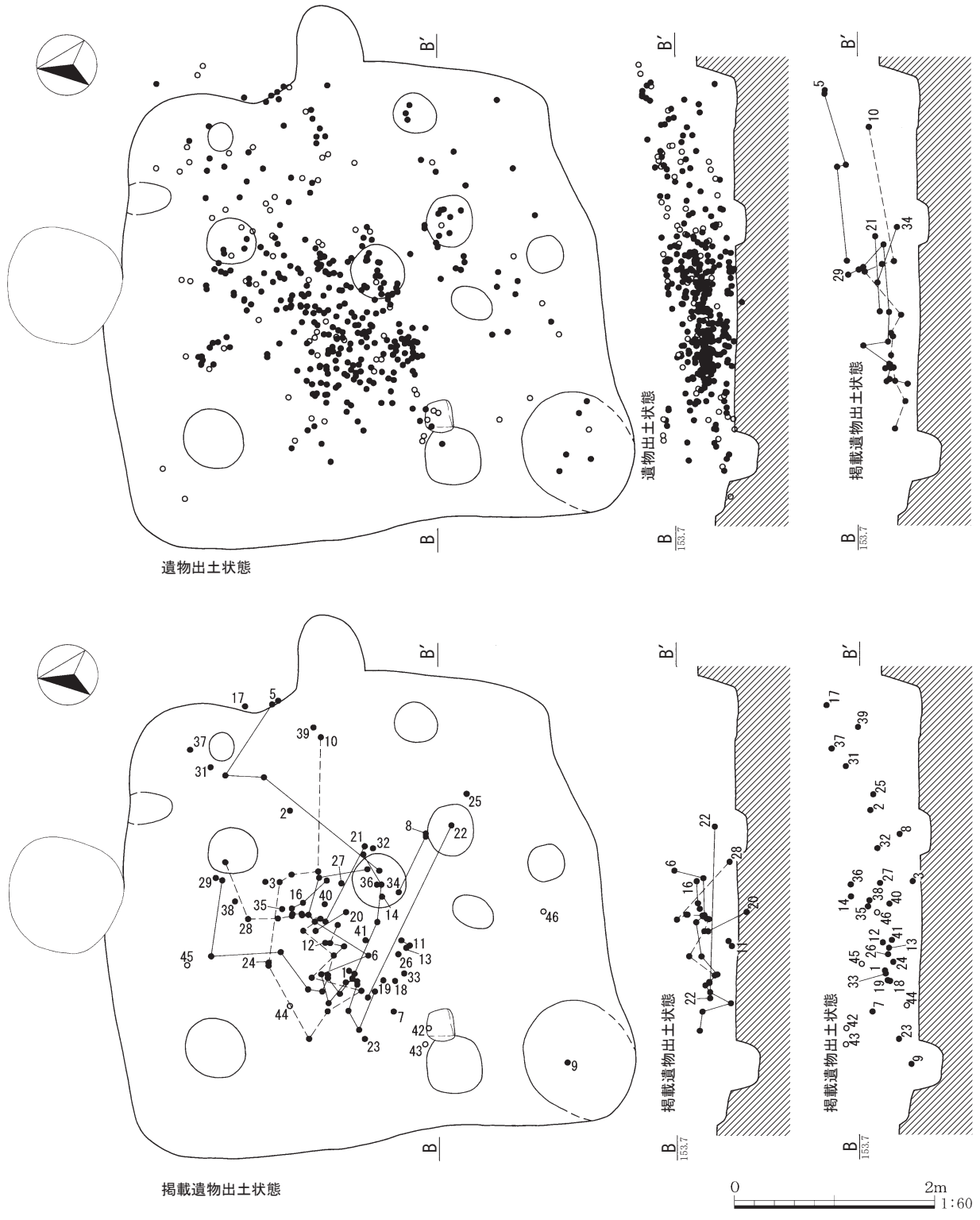
- 1: 暗茶褐色土層。粘性・しまりなし。
- 2: 暗茶褐色土層。1層に近似するが色調がやや明るい。土器・石器を多量含む。
- 3: 黒褐色土層。白色粒子を含む。粘性・しまりあり。
- 4: 暗橙褐色土層。ローム風化土主体。粘性・しまりあり。
- 5: 暗橙褐色土層。4層に近似するが、ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 6: 黒褐色土層。ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 7: 暗褐色土層。6層に近似するが、ローム粒子の含有量がやや多い。
- 8: 暗橙褐色土層。ローム粒子主体。黒色粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
- 9: 明橙褐色土層。明灰色風化粘土主体。粘性非常にあり、しまりあり。

7号住居跡炉 埋没土層

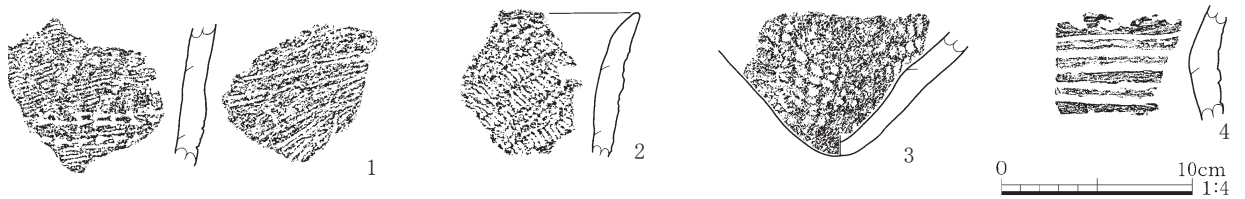
- 1: 赤褐色土層。焼土ブロック主体。
- 2: 明黒褐色土層。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子を中量、焼土粒子・白色粒子を微量含む。ローム風化土が混じる。しまりあり。
- 4: 暗茶褐色土層。3層に近似するが、焼土粒子を含まず、ローム風化土を多量含む。粘性・しまりあり。
- 5: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。



第 22 図 7号住居跡 (1)



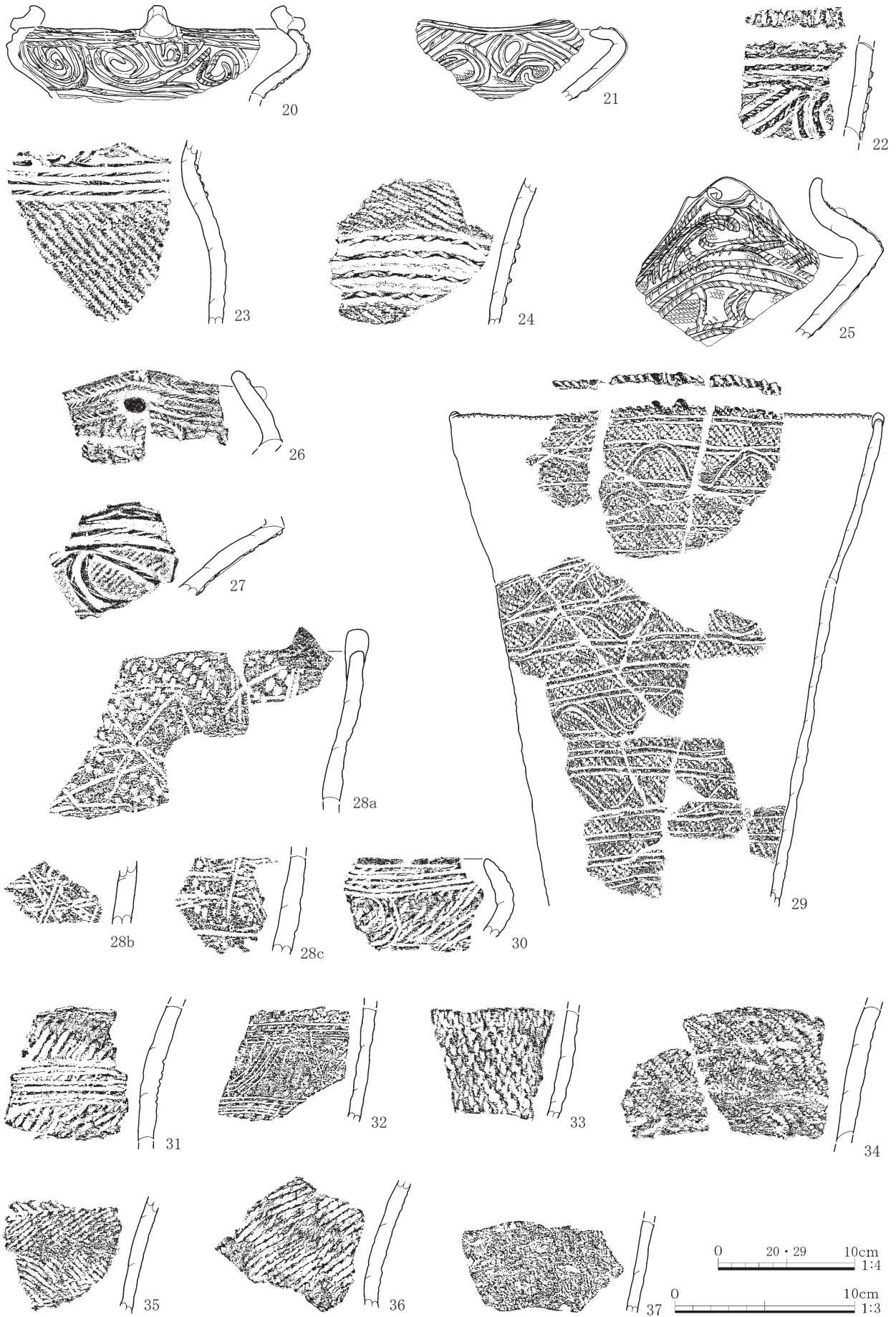
第 23 図 7号住居跡 (2)



第 24 図 7号住居跡出土遺物 (1)

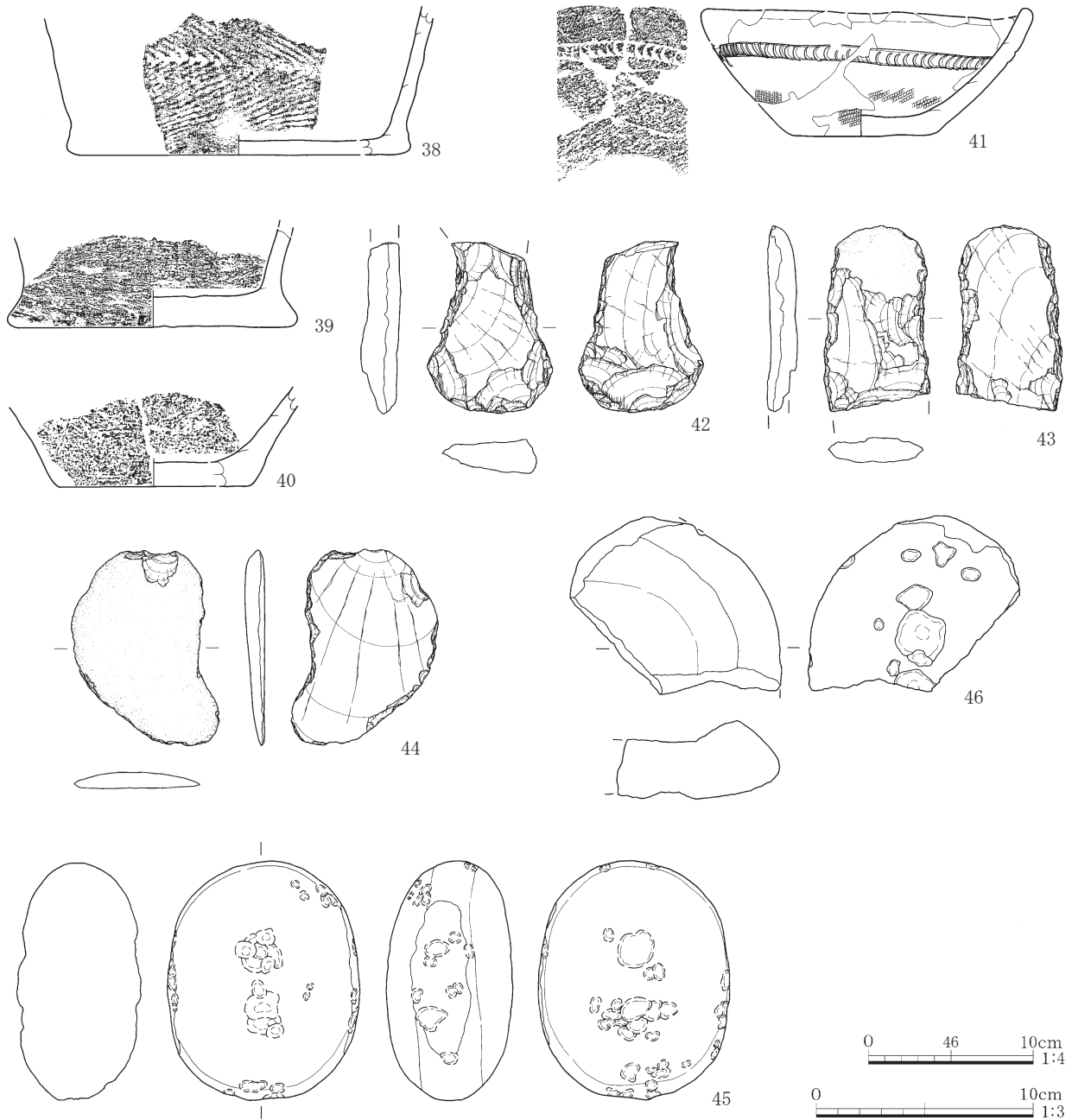


第25图 7号住居跡出土遺物(2)



第26图 7号住居跡出土遺物(3)





第 27 図 7号住居跡出土遺物（4）

7号住居跡出土遺物観察表（1）

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位（絡条体カ）条痕紋→結節平行沈線紋で口縁部区画→絡条体圧痕紋による斜格子文。内面、斜位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（LR）→絡条体圧痕紋（Rの捺糸をL巻き）による斜位文。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（LR）。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 底部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存）。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	A. 口径（18.3）。C. 外面、掠れた斜縄紋（RL）→爪形紋ないし平行沈線紋による口縁部区画・鋸歯状文。口唇部に突起。口唇部・突起にキザミ。内面、斜位ミガキ。D. 多量の粗粒片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁～胴上半部 1/4。G. F8G 出土遺物と同一個体。
6	縄紋土器 深鉢	A. 口径（29.6）。C. 外面、かすれた斜縄紋（RL）→爪形紋による区画・弧状文等。口唇部にキザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-橙・明赤褐色。外-明赤褐色。F. 口縁・胴部片。G. E7G 出土遺物と同一個体。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（RL）→爪形紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。

7号住居跡出土遺物観察表(2)

8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミによる区画等。口唇下にキザミを伴う突起。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。G. E9G出土遺物と接合。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・押捺による区画。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. F10G出土遺物と接合。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・波状文→キザミ・円紋。胴部に縄紋(RL)。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁下半～胴上半部2/3。G. E9G出土遺物と接合。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミ付隆起帯で区画等。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による入組文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一黄橙色。外一明赤褐色。F. 胴部片。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・入組文。内面、ミガキ。D. 片岩。E. 内外一黄橙色。F. 胴部片。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋→爪形紋→梯子状浮線紋で区画。口唇部に突起、円紋・キザミ。内面、横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→部分的なキザミを伴う浮線紋。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一黒褐色。外一灰褐色。F. 胴部片。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→縄紋(RL)を伴う浮線紋で区画・入組文。口唇部に双頭突起。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内外一黄橙色。F. 口縁部片。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→縄紋(RL)を伴う浮線紋で区画。内面、横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外一黄橙色。F. 胴部片。
19	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→縄紋(RL)・交互キザミ付浮線紋による区画。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 胴部片。
20	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付浮線紋による区画・入組文。口唇部に(獣状)突起・キザミ。内面、横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内一黄橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
21	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)→部分的なキザミを伴う浮線紋で区画・入組文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一褐色。外一灰黄褐色。F. 口縁部片。
22	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付浮線紋による区画・入組文。内面、縦位ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 胴部片。G. 輪積部分に角棒状工具による凹凸。
23	縄紋土器 深鉢	C. 外面、胴部に斜縄紋(RL)→キザミ付浮線紋による区画等。内面、横位ミガキ・縦位ナデ。D. チャート・片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一灰黄褐色。F. 胴部片。
24	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→交互キザミ付浮線紋による区画。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。
25	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→貼付紋→低平なキザミ付浮線紋による区画・入組文。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一明赤褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
26	縄紋土器 深鉢	C. 外面、低平なキザミ付浮線紋による区画・入組文、貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
27	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR)→低平なキザミ付浮線紋による区画・入組文。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
28	縄紋土器 深鉢	C. 外面、粗大な斜縄紋(RL)→平行沈線紋による斜格子文等。口唇部に小突起。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一灰黄褐色。F. 口縁・胴部片。
29	縄紋土器 深鉢	A. 口径(32.2)。C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋による区画・波状文。口唇部に小突起・キザミ。内面、口縁～胴上半部に横位ミガキ、胴下半部に縦位ミガキ。D. 特になし。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁～胴部1/3。
30	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)→平行沈線紋(内皮痕残存)による区画・入組文。内面、ナデ・ケズリ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。
31	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)→平行沈線紋(内皮痕残存)による区画。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。G. H8G出土遺物と接合。
32	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR)→ナデ→条線紋(5条1対)による区画・波状文。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 胴部片。
33	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一赤褐色。F. 胴部片。
34	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。
35	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結束羽状縄紋(R・L)。内面、横位ナデ。D. 雲母。E. 内一灰褐色。外一にぶい橙色。F. 胴部片。
36	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい赤褐色。F. 胴部片。
37	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位ナデ。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 胴部片。
38	縄紋土器 深鉢	A. 底径(15.6)。C. 外面、結束羽状縄紋(R・L)。内面、横・斜位ナデ。底面、ナデ。D. 雲母。E. 内一灰褐色。外一にぶい橙色。F. 底部片。

7号住居跡出土遺物観察表(3)

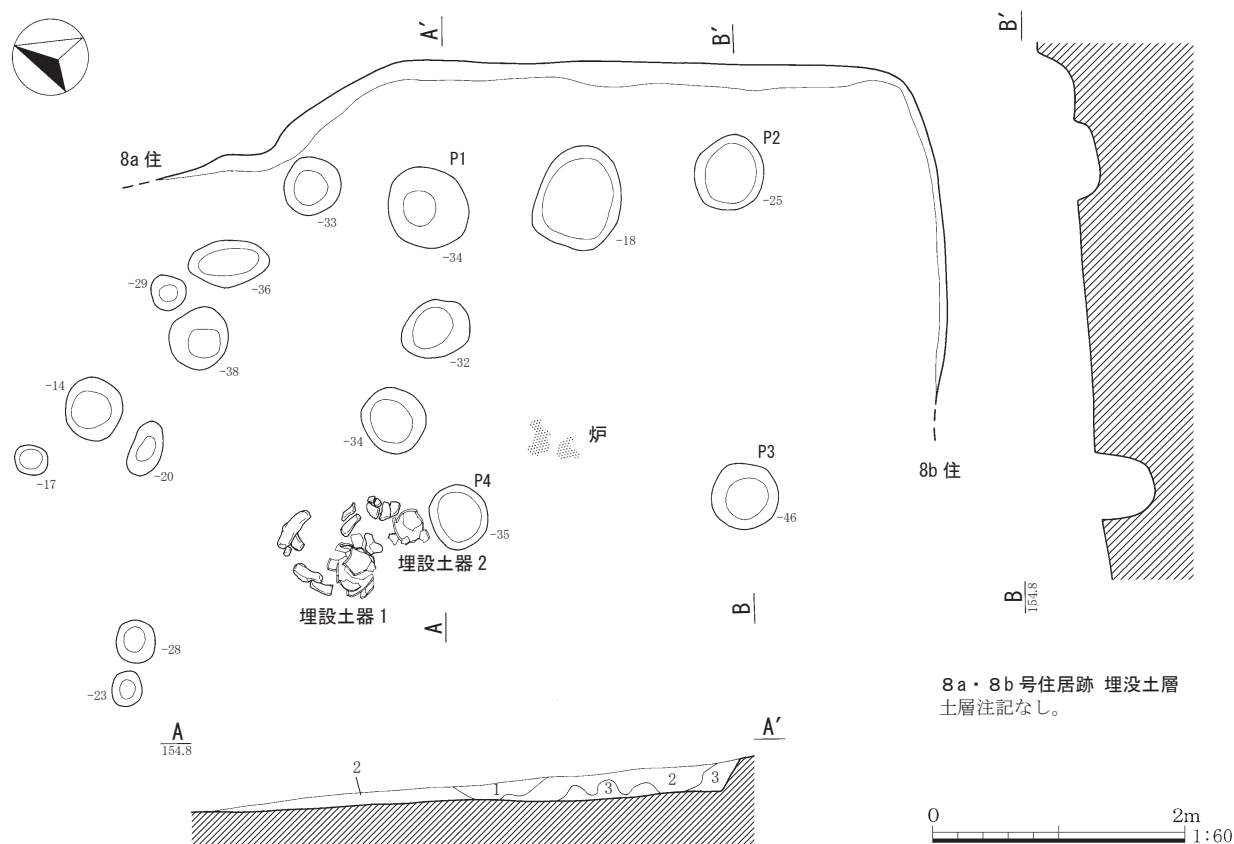
39	縄紋土器 深鉢	A. 底径(13.2)。C. 内外面、横位ナデ。底面、丁寧なナデ。D. 角閃石。E. 内-浅黄橙色。外-にぶい橙色。F. 底部2/3。
40	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.6)。C. 内外面、ナデ。底面、ナデ。D. 多量の粗粒片岩。E. 内外-橙色。F. 底部片。
41	縄紋土器 浅鉢	A. 口径(15.2)。底径6.4。器高5.8。C. 外面、爪形紋による口縁部区画。体部に斜縄紋(LR)。内面、丁寧なナデ。底面、ナデ。D. 特になし。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 2/3。
42	石器 打製石斧	A. 長[7.9]。幅5.8。厚1.9。重83.8。C. 剥片の両側縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 基部欠損。G. 撥形。円刃。刃部周辺に磨耗痕。
43	石器 打製石斧	A. 長[8.6]。幅[5.0]。厚1.4。重69.3。C. 割礫の両側縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 刃部欠損。G. 短冊形。
44	石器 スクレイパー	A. 長9.0。幅6.8。厚1.0。重57.2。C. 割礫の二側縁に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 刃部の一部に微細剥離痕。
45	石器 凹石	A. 長10.9。幅8.8。厚5.8。重843.5。D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。表・裏面や両側縁に磨耗痕や凹穴。両側縁は磨耗により平滑化。凹→磨。
46	石器 石皿	A. 長[8.1]。幅[9.7]。厚3.6。重248.2。C. 自然礫を素材とし全体に丁寧な整形。D. 安山岩。F. 大半が欠損。G. 皿面は播鉢状に窪む。裏面に漏斗状の凹穴が2穴。

8a・8b号住居跡(第28～30図、写真図版4・25)

位置：調査区のやや東側、I 8・9、J 8・9 グリッドに所在する。8a・8b号住居跡は重複しているが、新旧関係は不明である。遺物：少量の遺物が竪穴内に散在する。早期末葉、前期初頭の縄紋土器が認められ、前期初頭がほとんどを占める。2個体の埋設土器は花積下層式ないし二ツ木式に比定される。

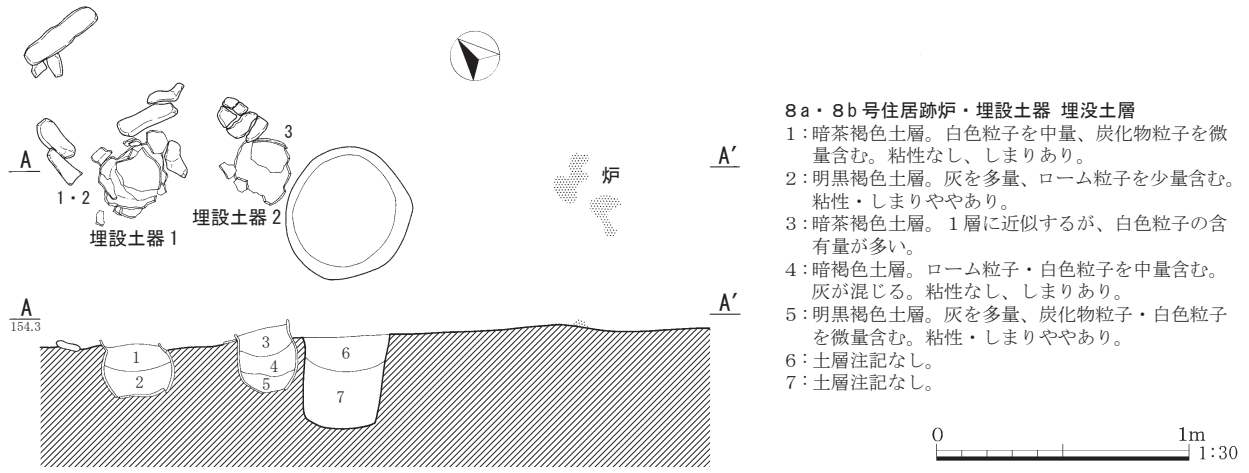
8a号住居跡

形態：西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面形は不明である。主軸方位：不明。規模：不明。炉：埋設土器の北脇で礫がまとまっており、石囲炉の存在が予想される。柱穴：8基。埋設土器：2基。埋設土器1は底部を欠損する深鉢(第30図1)が正位の状態で埋設され、別個体の大型破片(2)

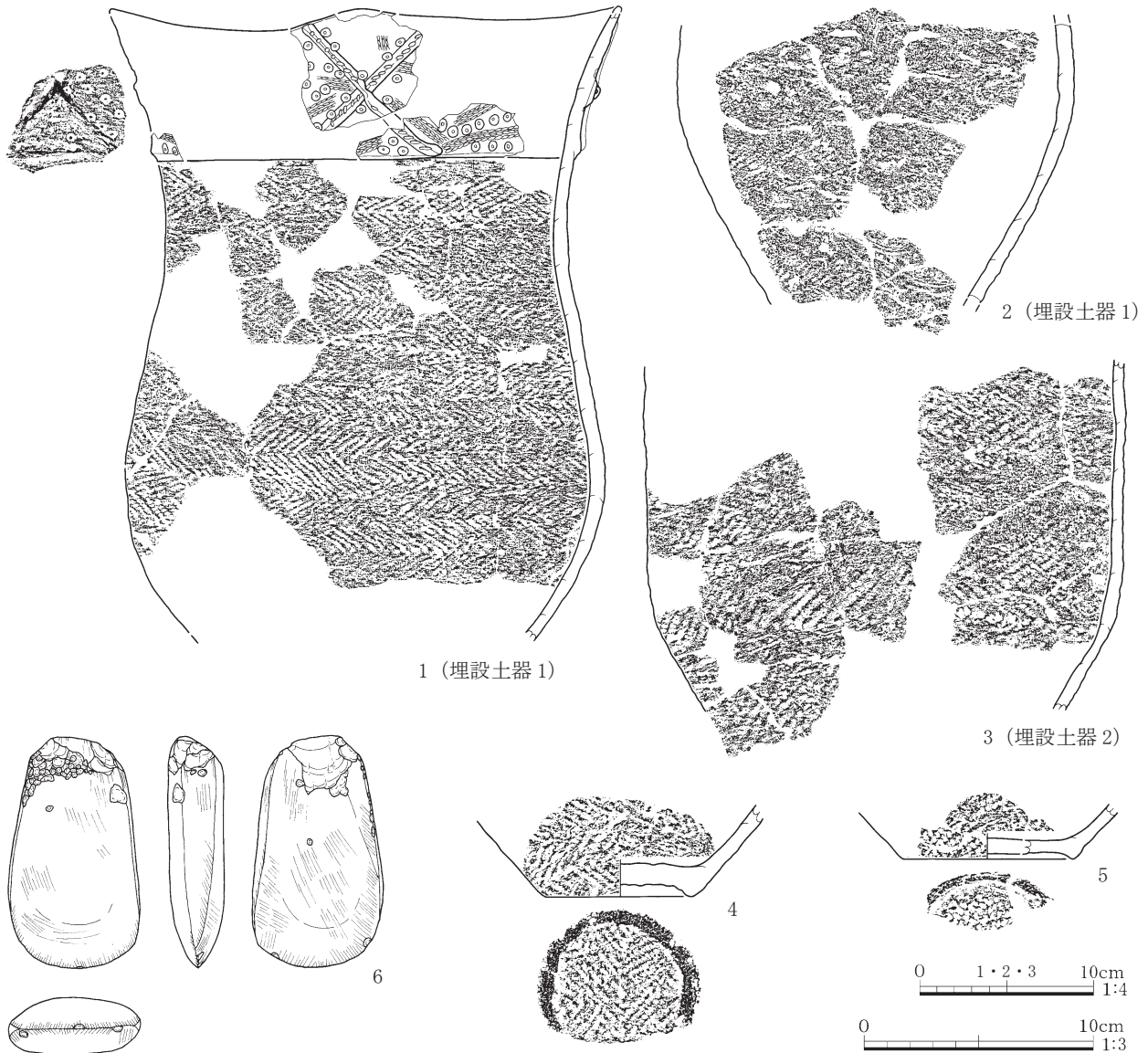


第28図 8a・8b号住居跡(1)

がその底面に敷かれていた。埋設土器2は胴部上半や底部を欠損した深鉢(3)が正位の状態で検出された。時期：埋設土器から縄紋時代前期初頭花積下層式ないし二ツ木式期に比定される。



第29図 8a・8b号住居跡(2)



第30図 8a・8b号住居跡出土遺物

8b号住居跡

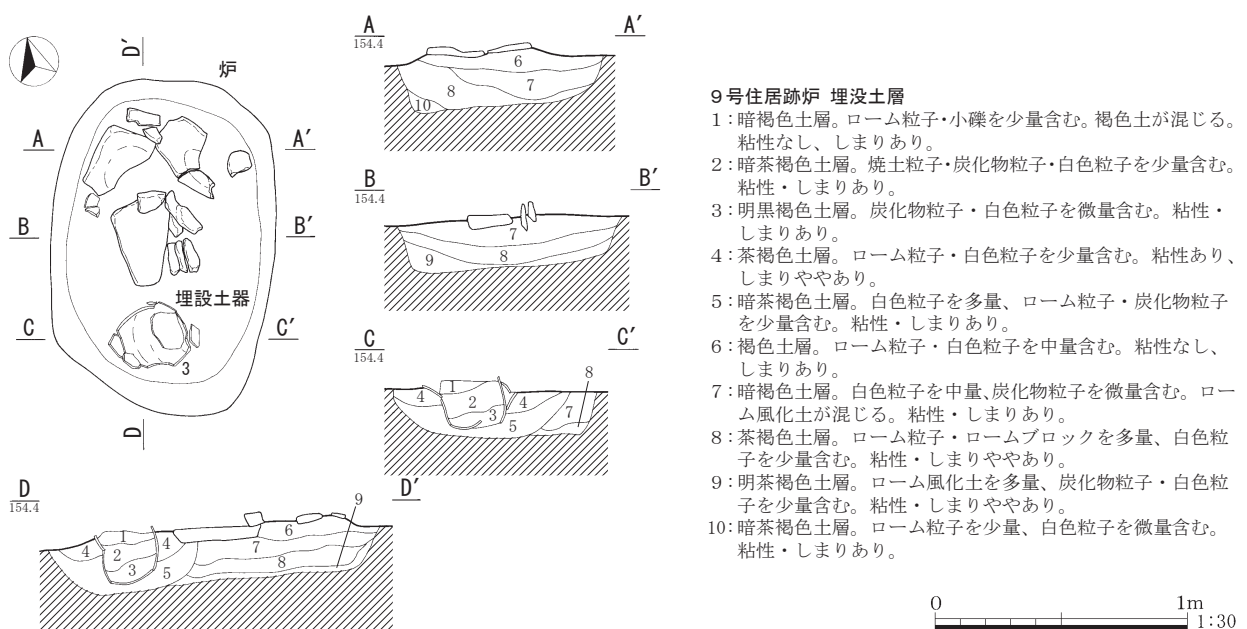
形態：西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は方形を呈するものと推測される。主軸方位：S - 17° - W。規模：不明。炉：地床炉が付設される。柱穴：8基。8a号住居跡のものとの区別が難しい。P 1～4が支柱穴に想定される。時期：当該期の出土遺物は認められないが、住居跡の形態から縄紋時代前期後葉に比定される。（高橋）

8号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (29.7)。B. 折返状口縁。追加成形。C. 外面、キザミ付隆帯→捺糸側面圧痕紋 (R・L・R) →円紋。胴部に幅狭等間隔結束羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内一橙色。外一黒褐色。F. 口縁部 1/5・胴部ほぼ完形。H. 埋設土器 1。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一にぶい褐色。F. 胴下半部 1/4。G. 器面荒れが著しい。H. 埋設土器 1。
3	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、結束羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内一暗褐色。外一にぶい黄褐色。F. 胴部 1/3。G. 器面荒れが著しい。H. 埋設土器 2。
4	縄紋土器 深鉢	A. 底径 (6.2)。C. 外面、幅狭等間隔結束羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。底面、幅狭等間隔結束羽状縄紋 (RL・LR)。D. 片岩・繊維。E. 内外一にぶい褐色。F. 底部 1/2。
5	縄紋土器 深鉢	A. 底径 (7.4)。C. 外面、縄紋 (LR)。内面、ナデ。底面、縄紋 (LR)。D. 繊維。E. 内外一黄橙色。F. 底部 1/3。H. 埋設土器 1。
6	石器 磨製石斧	A. 長 10.0。幅 5.7。厚 2.5。重 223.3。C. 扁平礫を素材とし、研磨による丁寧な整形。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 定格式。刃縁部に磨耗痕。上端部に剥離痕や敲打痕が顕著。敲石に転用の可能性あり。

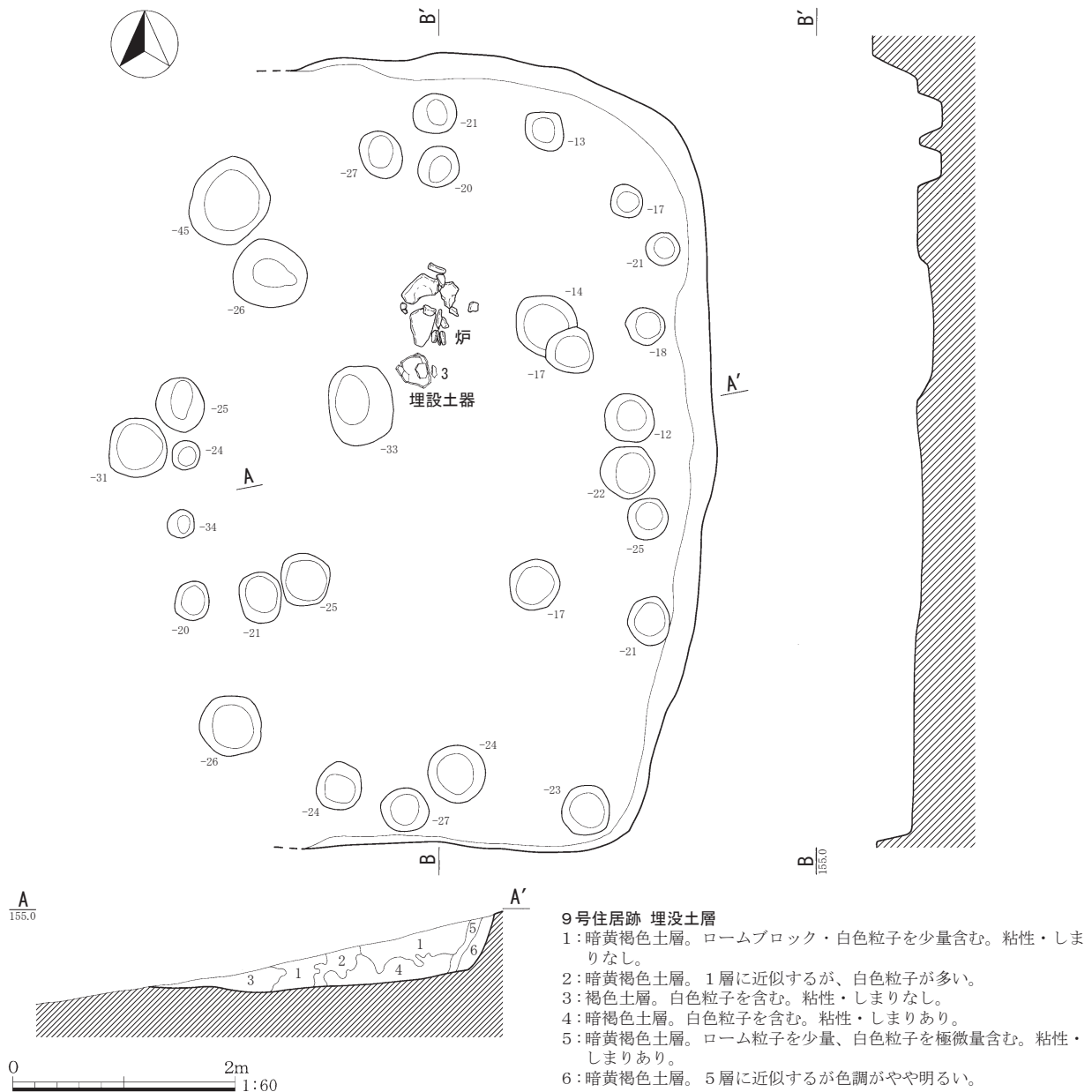
9号住居跡 (第31～34図、写真図版5・26)

位置：調査区の南東側、K 14・15グリッドに所在する。形態：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は隅丸長方形を呈するものと推測される。主軸方位：S - 6° - E。規模：南北軸長 7.08 m。炉：コ字状石囲炉が中央やや北寄りに付設される。炉の石囲は底面にも及ぶ。また、焚口に埋設土器が伴う。柱穴：29基。小穴が壁際に巡る。支柱穴の判別は難しい。埋設土器：炉の焚口で口縁部～胴部上半および底部を欠損した深鉢 (第33図3) が正位の状態を検出された。遺物：少量の遺物が竪穴の上層に散在する。早期末葉、前期初頭の縄紋土器が認められ、前期初頭がほとんどを占める。埋設土

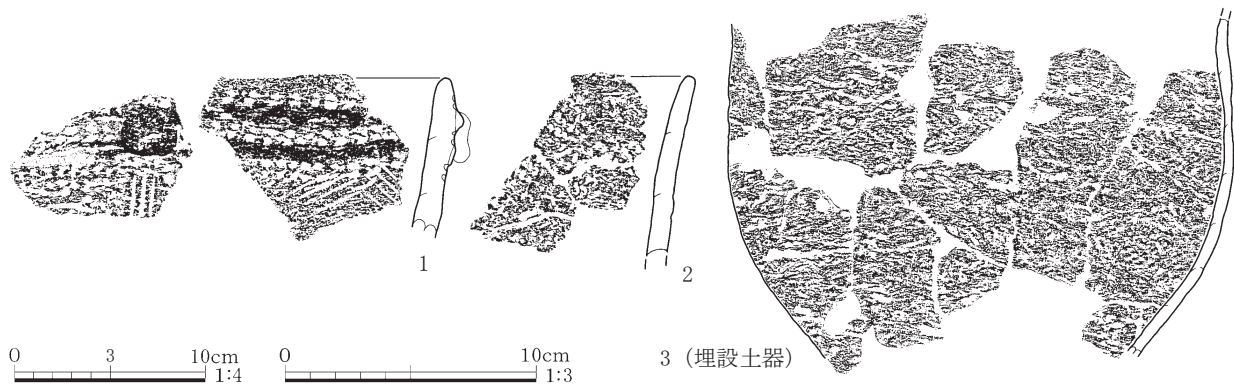


第31図 9号住居跡 (1)

器は前期初頭に比定される。また、炉の北側では台石状の大型礫が出土した。時期：住居跡の形態や埋設土器を含む出土遺物から縄紋時代前期初頭花積下層式ないし二ツ木式期に比定される。（高橋）



第32図 9号住居跡（2）



第33図 9号住居跡出土遺物（1）



第 34 図 9号住居跡出土遺物（2）

9号住居跡出土遺物観察表（1）

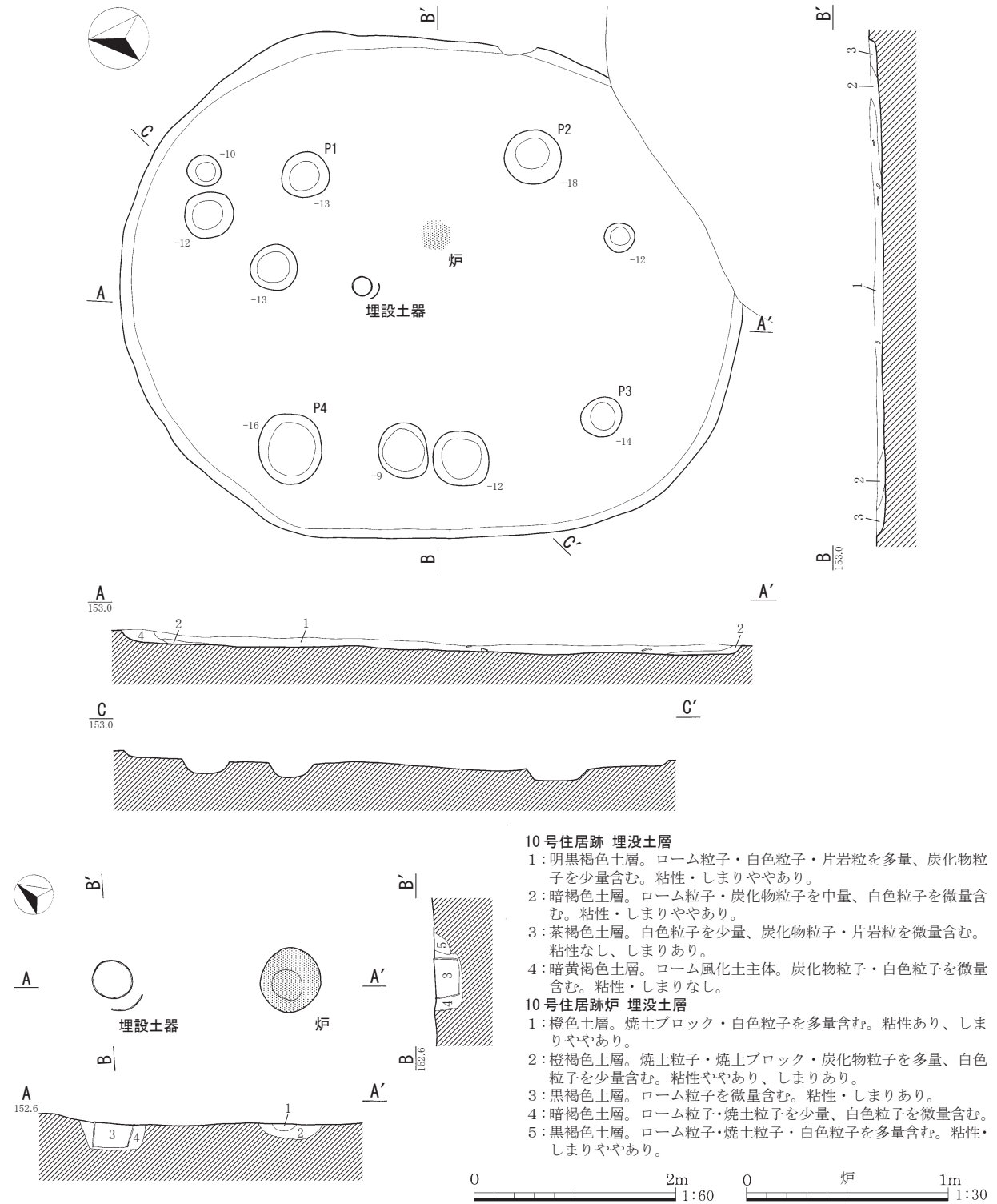
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、2条の隆帯で口縁部区画→隆帯間に突起→隆帯脇に2条1対の刺突列。区画内に単沈線紋による縦位区画・鋸歯文。内面、横位ナデ。D. 多量の石英、繊維。E. 内-橙・にぶい黄橙色。外-橙・にぶい褐色。F. 口縁部片。G. I14G出土遺物と同一個体。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RLR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。H. 炬。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL・LR)、結節縄紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい黄橙色。F. 胴部2/3。H. 埋設土器。
4	石器 打製石斧	A. 長8.3。幅4.8。厚1.6。重70.1。C. 割礫の両側縁に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 撥形。
5	石器 打製石斧	A. 長7.7。幅5.0。厚1.7。重59.5。C. 剥片の両側縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 撥形。
6	石器 スクレイパー	A. 長7.4。幅8.0。厚3.4。重183.4。C. 割礫の周縁に半両面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部の一部に微細剥離痕。
7	石器 スクレイパー	A. 長7.8。幅6.5。厚1.5。重74.5。C. 割礫の二側縁に半両面調整。D. 砂岩。F. ほぼ完形。G. 被熱痕による変色範囲あり。
8	石器 磨石	A. 長[5.2]。幅[10.0]。厚[2.4]。重132.8。D. 安山岩。F. 上半部欠損。G. 円形。扁平礫の表・裏面や両側縁に磨耗痕。
9	石器 凹石	A. 長[8.4]。幅[4.6]。厚1.9。重133.4。D. 緑色岩類。F. 下半部欠損。G. 長方形。表・裏面に磨耗痕。表・裏面中央に敲打による凹欠が顕著。磨→凹。

9号住居跡出土物観察表(2)

10	石器 多孔石	A. 長 [19.5]。幅 14.5。厚 11.9。重 4,140.0。D. 片岩。F. 上・下端部欠損。G. 柱状。表・裏面や右側面に漏斗状の凹穴が多数。被熱痕による変色範囲あり。
----	-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

10号住居跡 (第35~39図、写真図版5・26~28)

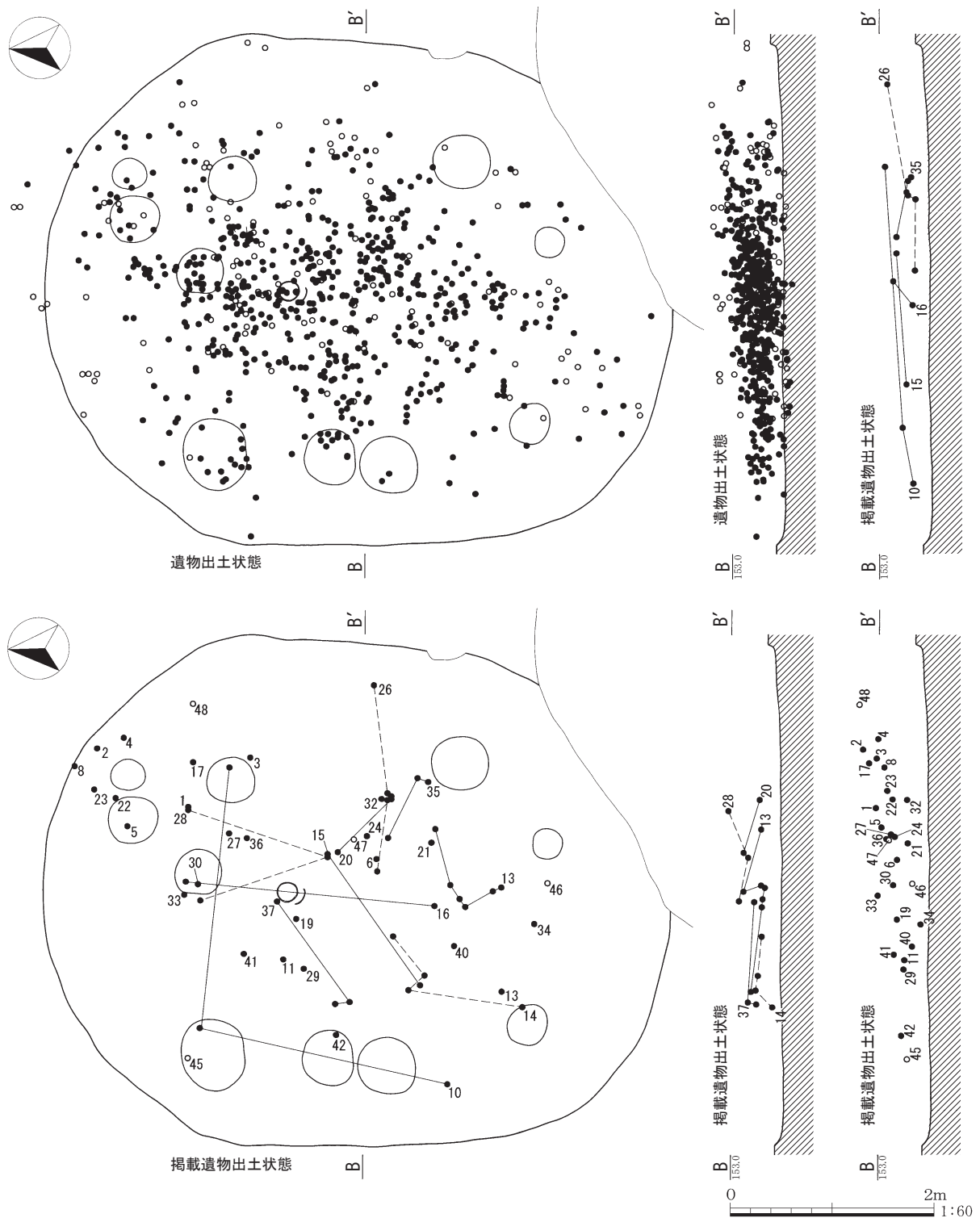
位置: 調査区の中央、F 12・13、G 12・13 グリッドに所在する。14・20号住居跡と重複し、出土遺物から10号住居跡→20号住居跡→4号住居跡(古代)の新旧関係が窺われた。形態: 平面は楕円形を



第35図 10号住居跡(1)



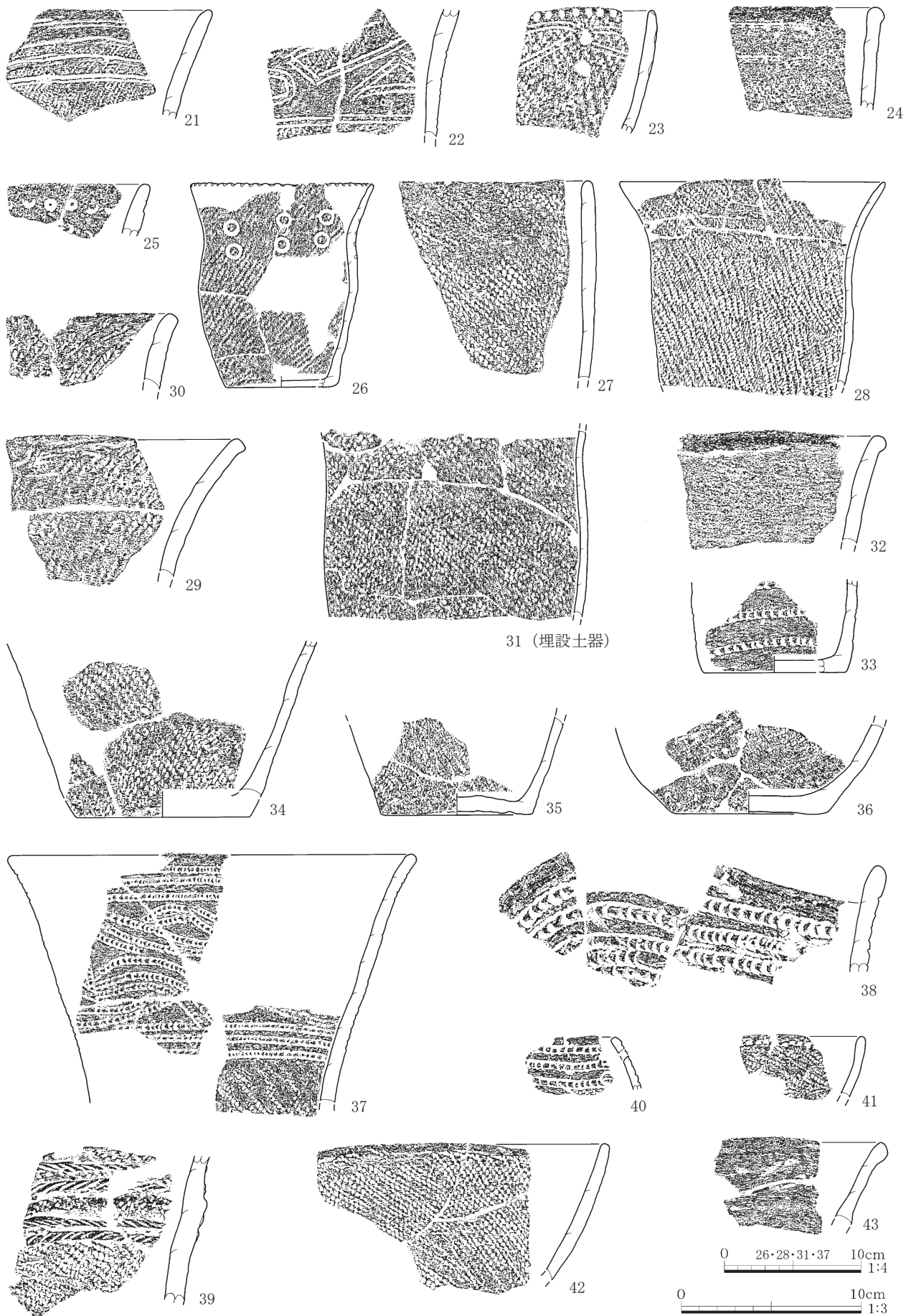
呈する。主軸方位：S - 91° - E。規模：南北軸長 6.17 m、東西軸長 5.01 m。炉：地床炉が中央やや東寄りに付設される。柱穴：10基。P 1 ~ 4 が主柱穴に想定される。埋設土器：中央やや北側に口縁部や胴部下半を欠損した深鉢（第 38 図 31）が埋設される。また、直立する別個体の胴部片がその脇で検出された。遺物：多量の遺物が堅穴内に広く分布し、中央に集中する傾向がある。早期末葉、前期初頭～後葉、中期後葉の縄紋土器が認められ、諸磯 a 式がほとんどを占める。埋設土器も諸磯 a 式に比定されよう。時期：出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯 a 式期に比定される。（高橋）



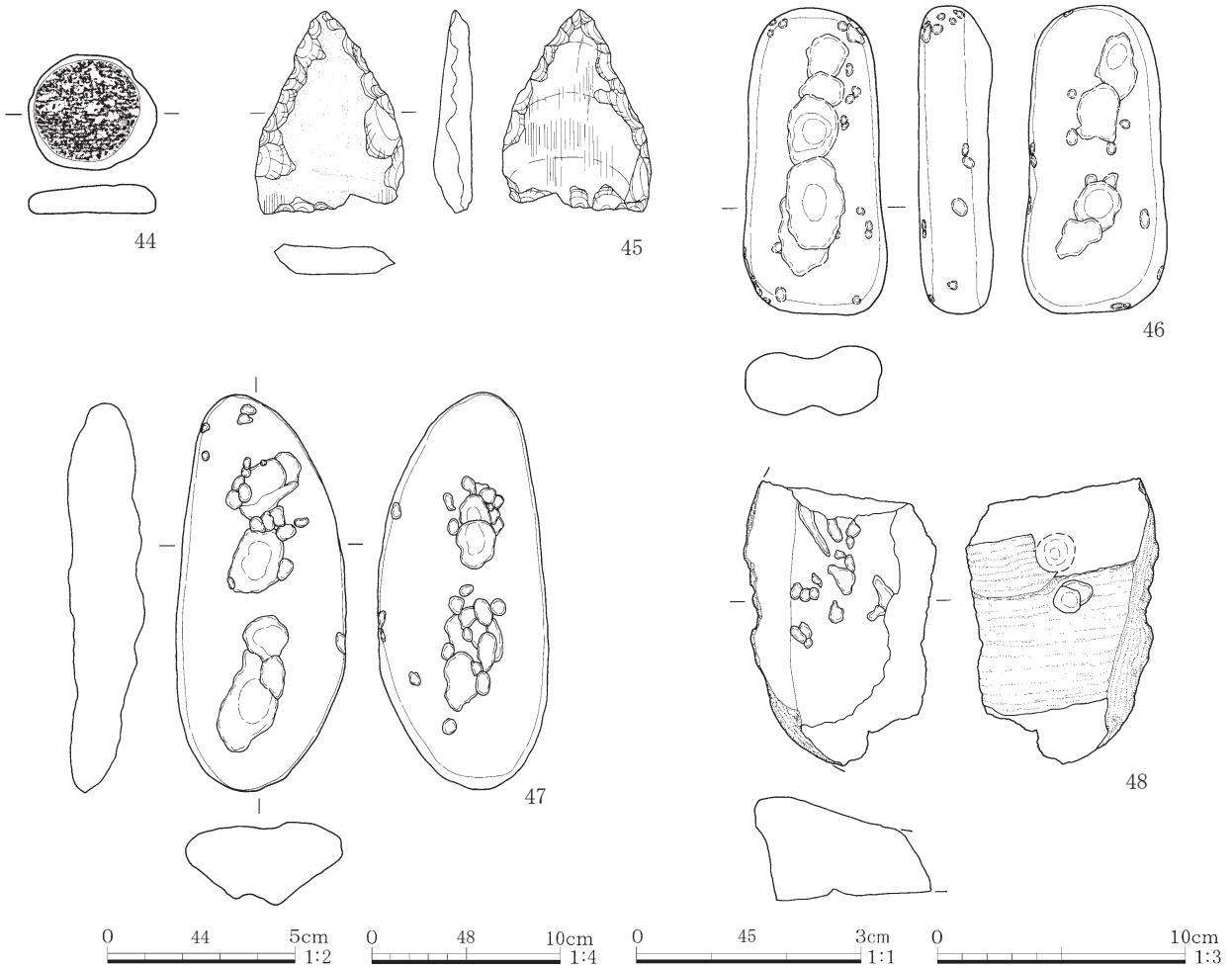
第 36 図 10 号住居跡 (2)



第 37 图 10 号住居跡出土遺物 (1)



第 38 图 10 号住居跡出土遺物 (2)



第39図 10号住居跡出土遺物(3)

10号住居跡出土遺物観察表(1)

1	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)による口縁部区画・蕨手文・鋸歯文→刺切紋→貼付紋。口唇部に白歯状突起。胴部に多段ループ紋(RL)。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部に斜位ミガキ。D. 繊維。E. 内外一橙色。F. 口縁~胴部片。G. H12G出土遺物と同一個体。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口唇下に粗大な梯子状隆帯→結節を伴う縄紋(RL)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位条線紋(8条1対)・コンパス紋(条線紋と同一工具)。口唇部に小突起。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内外一橙色。F. 口縁~胴部片。G. G11G出土遺物と同一個体。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節平行沈線紋による口縁部区画・×字文。胴部に縄紋(LR)。口唇部に小突起。内面、ナデ。D. 片岩・雲母・繊維。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR、前々段多条)。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内一にぶい黄橙色。外一灰黄褐色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(R・L)。内面、横位ミガキ。D. 角閃石・繊維。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
8	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、斜縄紋(RL・LR)。内面、縦・斜位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。
9	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.0)。C. 外面、刺切紋。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 繊維。E. 内一黒褐色。外一橙色。F. 底部片。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋(内皮痕残存)・磨消縄紋による区画→円紋。内面、横位ミガキ・ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い単沈線紋で縦位区画→条線紋(4~5条1対)による区画・肋骨文→交点に円紋。口唇部にキザミ。内面、ミガキ。D. 特になし。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 口縁部片。G. D16G出土遺物と接合。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い単沈線紋で縦位区画→条線紋(5条1対)による区画・肋骨文、区画上に刺突列(条線紋と同一工具)→交点に円紋。内面、丁寧なナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 口縁部片。

10号住居跡出土遺物観察表(2)

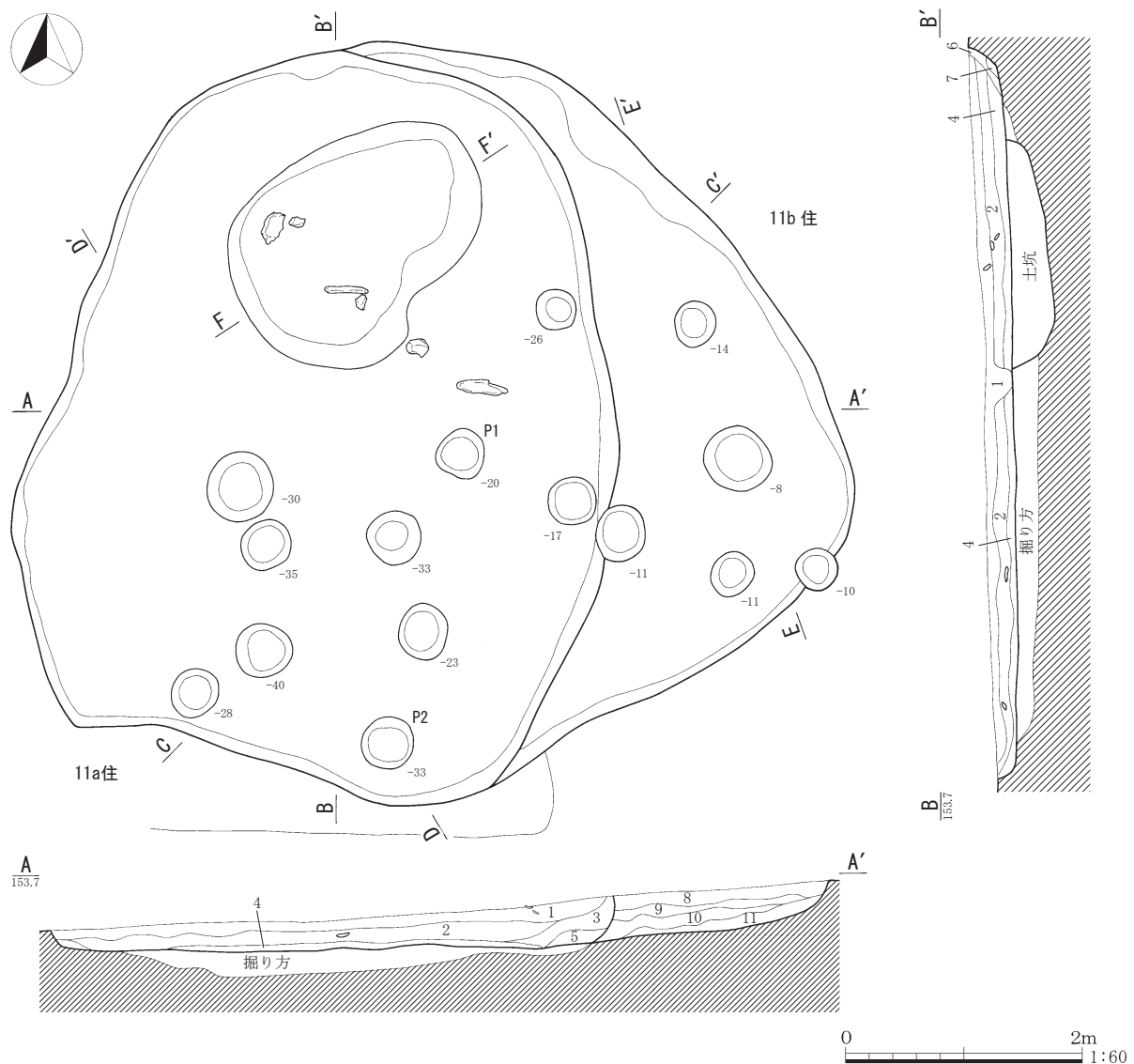
13	縄紋土器 深鉢	A. 口径(30.5)。C. 外面、刺突列・沈線紋(半截竹管状工具の内面ないし側面)で口縁部区画、沈線紋による縦位区画・肋骨文→交点に円紋。胴部に斜縄紋(RL)。口唇部にキザミ。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部に縦位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁・胴部片。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋で口縁部区画→平行沈線紋による縦位区画・肋骨文。内面、斜位ミガキ。D. 特になし。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。G. 15と同一個体カ。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋で口縁部区画→平行沈線紋による縦位区画・肋骨文。胴部に斜縄紋(RL)。内面、斜位ミガキ。D. 特になし。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁～胴部片。G. 14と同一個体カ。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋による区画・綾杉文。内面、斜位ミガキ。D. 角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一褐色。F. 口縁部片。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋(3条1対)による区画・波状文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 口縁部片。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋(3条1対)による波状文・平行沈線紋による横位文。胴部に結節を伴う斜縄紋(LR)。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁～胴部片。
19	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋による口縁部区画・波状文。胴部に斜縄紋(RL)。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部片。
20	縄紋土器 深鉢	A. 口径(24.0)。C. 外面、口縁部に平行沈線紋(内皮痕残存)による横位文、胴部に斜縄紋(LR)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・多量の石英。E. 内外一橙色。F. 口縁～胴上半部1/2。
21	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR、直前段3条)→平行沈線紋(内皮痕残存)による区画・横位文。内面、ミガキ。D. 特になし。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。
22	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋・磨消縄紋(LR)による区画・木葉状入組文。胴部に縄紋(LR)。内面、斜位ミガキ。D. 特になし。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
23	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋による楕円文・窩紋。口唇部にキザミ。内面、斜位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一浅黄褐色。F. 口縁部片。
24	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)→口唇下の無文部に結節沈線紋(櫛歯状工具)による区画。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
25	縄紋土器 深鉢	C. 外面、円紋列。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外一黄褐色。F. 口縁部片。
26	縄紋土器 深鉢	A. 口径(13.5)。底径8.3。器高15.1。C. 外面、斜縄紋(LR)→円紋。口唇部にキザミ。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一橙色。外一明黄褐色。F. 口縁～底部1/2。
27	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL、直前段3条)。内面、丁寧なナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
28	縄紋土器 深鉢	A. 口径(19.6)。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に斜位ミガキ・工具痕。D. 特になし。E. 内一赤褐色。外一橙色。F. 口縁～胴部ほぼ完形。
29	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一明褐色。F. 口縁部片。
30	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
31	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 胴上半部ほぼ完形。H. 埋設土器。
32	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位ナデ。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内一明黄褐色。外一橙色。F. 口縁部片。
33	縄紋土器 深鉢	A. 底径(7.8)。C. 外面、爪形紋。内面、丁寧な横位ナデ。底面、丁寧なナデ。D. 角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一黒褐色。F. 底部片。
34	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、縦位ナデ、底部付近は横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴～底部片。
35	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.4)。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい赤褐色。F. 底部1/4。
36	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.5)。C. 外面、斜縄紋(L)。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内一黒褐色。外一明赤褐色。F. 底部3/4。
37	縄紋土器 深鉢	A. 口径(30.2)。C. 外面、爪形紋による口縁部区画・入組文。胴部に斜縄紋(RL)。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部に横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一浅黄褐色。外一黄褐色。F. 口縁・胴部片。
38	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。内面、斜位ナデ。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
39	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→低平なキザミ付浮線紋。内面、丁寧なナデ。D. 特になし。E. 内一灰褐色。外一橙色。F. 胴部片。
40	縄紋土器 鉢	C. 外面、爪形紋による区画→焼成前穿孔・円紋。内面、縦位ミガキ。D. 特になし。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
41	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、縄紋(RL)→口唇下に刺突列。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。
42	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
43	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、横位ナデ。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。

10号住居跡出土遺物観察表(3)

44	土製品 土製円盤	A. 径3.1~3.4. 厚0.8. C. 表面、縄紋。裏面、ナデ。D. 片岩。E. 表裏一橙色。F. 完形。
45	石器 石鏃	A. 長2.7. 幅2.0. 厚0.6. 重2.8. D. チャート。C. 礫皮をもつ小形剥片の周縁に両面調整。F. 完形。G. やや粗雑な整形。石鏃未成品カ。
46	石器 凹石	A. 長12.3. 幅5.8. 厚3.0. 重291.2. D. 砂岩。F. 完形。G. 隅丸長方形。表・裏面や両側縁に磨耗痕や凹穴が顕著。磨→凹。
47	石器 凹石	A. 長15.8. 幅6.9. 厚3.4. 重432.2. D. 緑色岩類。F. 完形。G. 長楕円形。表・裏面や両側縁に磨耗痕や凹穴が顕著。磨→凹。
48	石器 石皿	A. 長[15.2]. 幅[10.4]. 厚5.6. 重1,077.3. C. 板状礫を素材とし表面のみ整形。D. 片岩。F. 大半が欠損。G. 皿面は使用により播鉢状に浅く窪む。部分的に敲打痕。裏面に漏斗状の凹穴が3穴。

11a・11b号住居跡(第40~42図、写真図版6・29)

位置：調査区の中央、G9~11、H10グリッドに所在する。4・11a・11b・24号住居跡が重複し、11b号住居跡→11a号住居跡→4号住居跡(古代)の新旧関係が窺われた。遺物：少量の遺物が竪穴の東側に分布していた。早期後葉ないし末葉、前期前半の縄紋土器が認められ、前期前半のものが多くを占める。また、土坑内等で大型の礫が検出された。



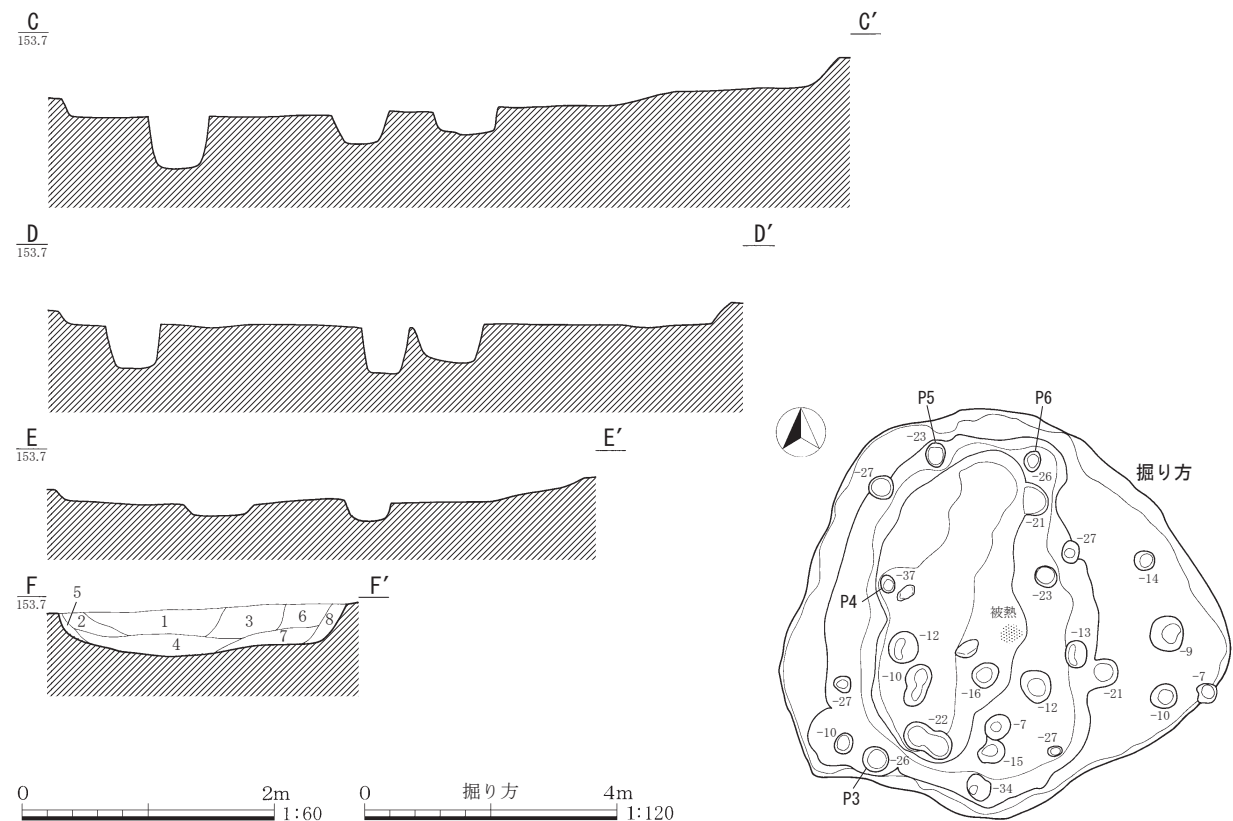
第40図 11a・11b号住居跡(1)

11a 号住居跡

形態：隅丸長方形を呈し、北側に土坑状の掘り込みが認められる。床面下には底面が一定しない掘り方を有する。主軸方位：S - 12° - E。規模：南北軸長 5.88 m、東西軸長 4.95 m。炉：未検出。土坑によって損なわれた可能性がある。また、掘り方の底面に被熱痕が認められた。柱穴：10 基。11b 号住居跡に伴うものと区別できない。柱穴配置は不規則だが、掘り方の状況を斟酌して、P 1・2 および掘り方の P 3～6 の 6 基が支柱穴に想定されよう。時期：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期初頭～中葉に比定される。

11b 号住居跡

形態：不整な長方形を呈するものと推測される。主軸方位：S - 53° - E。規模：不明。炉：未検出。柱穴：5 基。時期：住居跡の新旧関係から縄紋時代初頭～中葉以前に比定される。（高橋）



11a・11b 号住居跡 埋没土層

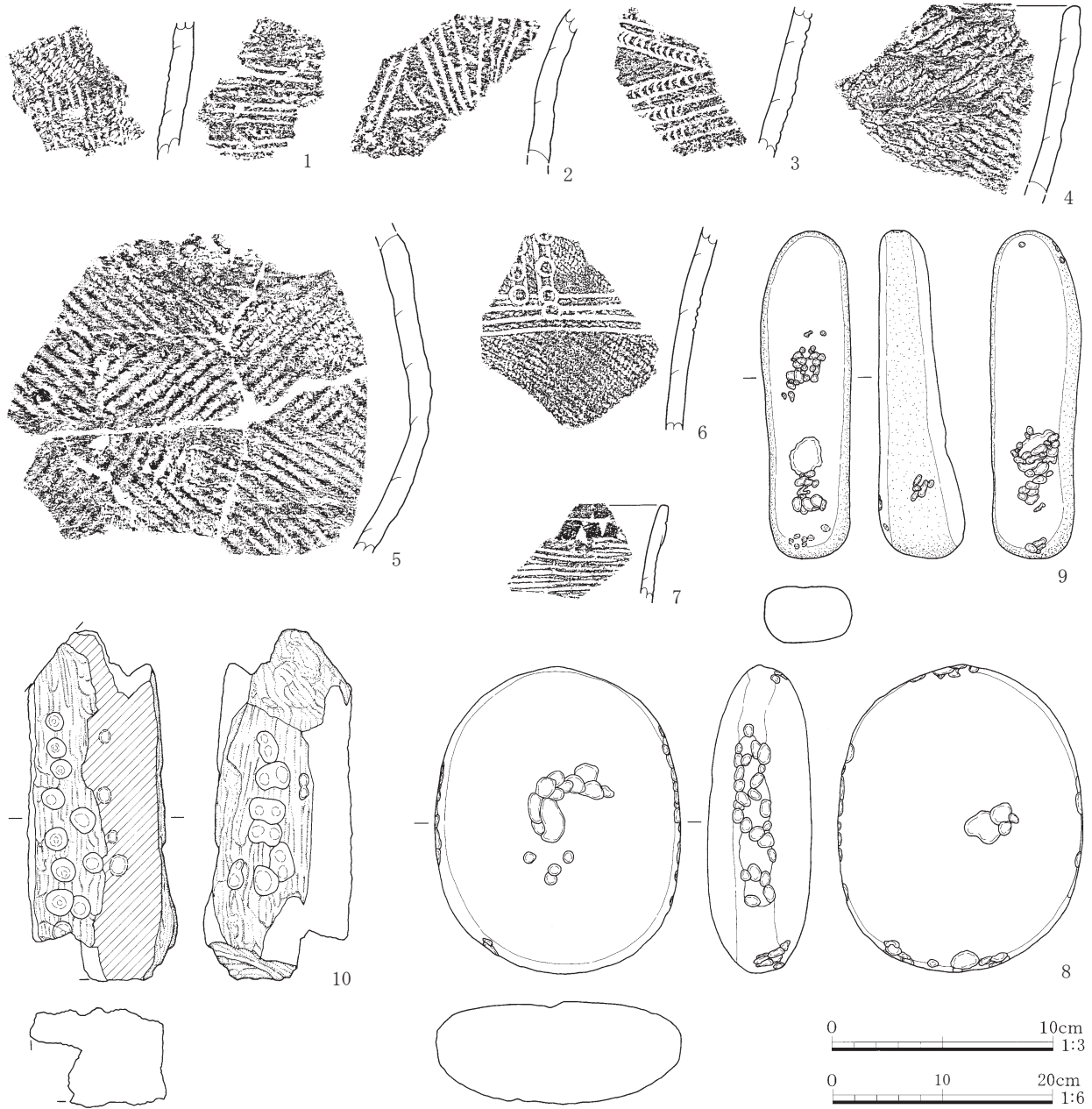
- 1: 明黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子・片岩粒を中量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。
- 2: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 3: 暗茶褐色土層。白色粒子を中量、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4: 明黒褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 5: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりややあり。
- 6: 茶褐色土層。ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。
- 7: 明褐色土層。ローム風化土主体。炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 8: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を多量、片岩粒を少量含む。粘性・しまりなし。
- 9: 明黒褐色土層。ローム粒子を少量、白色粒子・片岩粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。

- 10: 暗茶褐色土層。白色粒子を少量、炭化物粒子・片岩粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 11: 暗褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりややあり。

11 号住居跡土坑 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量を含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを少量を含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 4: 茶褐色土層。ロームブロックを多量含む。粘性・しまりなし。
- 5: 茶褐色土層。白色粒子を少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
- 6: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、炭化物粒子を微量含む。粘性あり、しまりなし。
- 7: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。
- 8: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。

第 41 図 11a・11b 号住居跡 (2)



第42図観察表 11a・11b号住居跡出土遺物

11号住居跡出土遺物観察表(1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 表面、縦位条痕紋→縄紋 (RL)。裏面、横位条痕紋。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 胴部片。H. 11a号住居跡。
2	縄紋土器 深鉢	C. 表面、単沈線紋による鋸歯文→刺切紋。胴部に縄紋カ。裏面、ナデ。D. 灰白色安山岩・繊維。E. 内-暗灰黄色。外-黒褐色。F. 口縁~胴部片。G. 器面荒れが著しい。
3	縄紋土器 深鉢	C. 表面、爪形紋。裏面、縦位ナデ。D. チャート・角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (R・L)。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-暗灰黄色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) → 平行沈線紋による区画→縦位区画上に円紋。内面、斜位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁~胴部片。
7	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋。口唇下に鋸歯状印刻紋。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
8	石器 凹石	A. 長13.8。幅11.1。厚4.7。重1,002.2。D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。扁平礫の表・裏面中央や周縁に磨耗痕および凹穴。両側縁は敲・磨痕により平滑化。磨→凹。
9	石器 凹石	A. 長14.8。幅4.1。厚3.9。重312.5。D. 砂岩。F. 完形。G. 棒状礫の表・裏面に磨耗痕。表・裏面・両側縁の一部に敲打痕とみられる小さな凹穴。磨→凹。

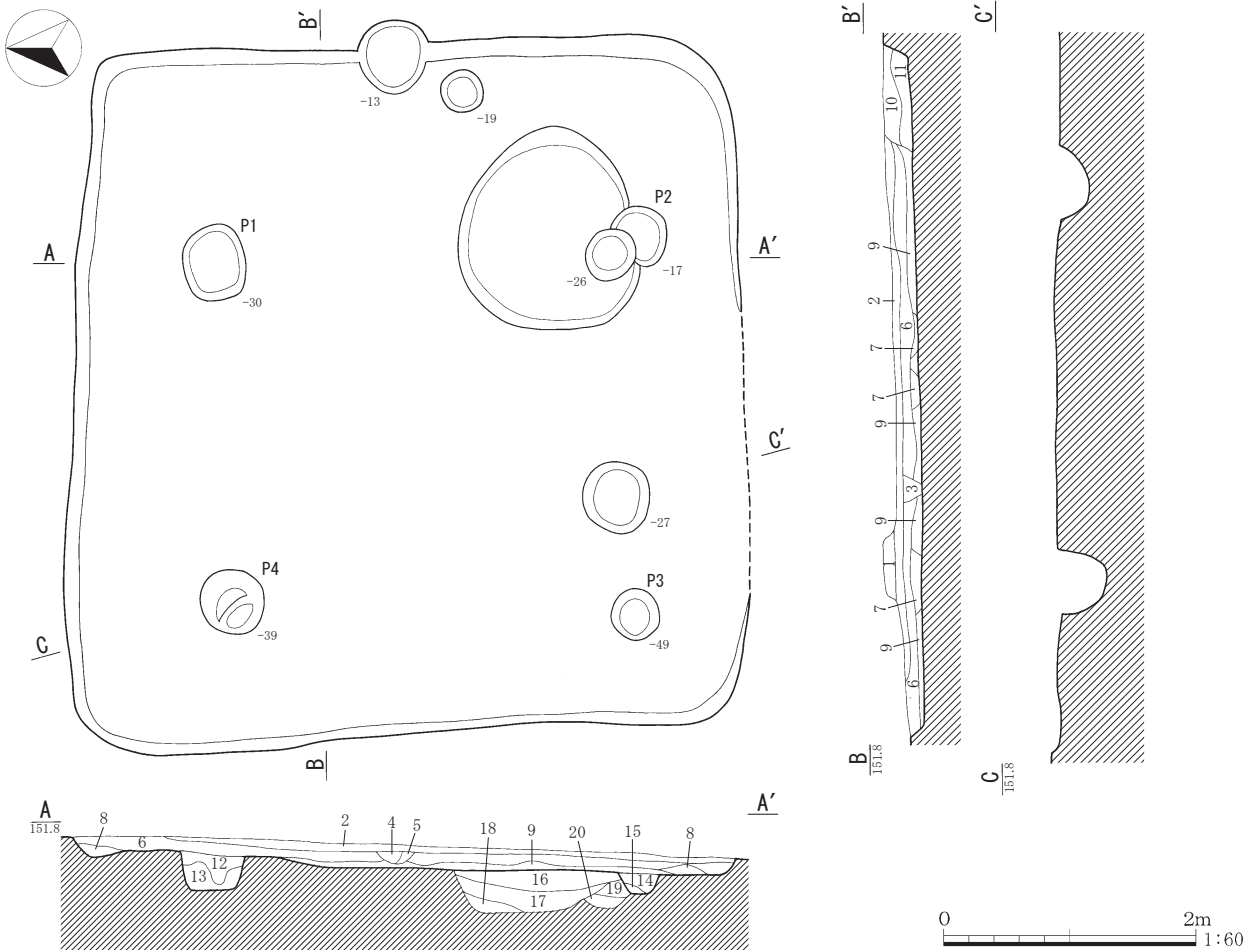


11号住居跡出土遺物観察表(2)

10	石器 多孔石	A. 長 [31.9]。幅 [13.6]。厚 9.1。重 5,560.0。D. 緑色岩類。F. 上端・左側縁部欠損。G. 板状礫の表・裏面に漏斗状の凹穴が多数。裏面の凹穴は大半が連結している。
----	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

12号住居跡(第43図、写真図版6)

位置: 調査区の中央、G 11・12、H 11・12 グリッドに所在する。土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。形態: 平面は方形を呈する。P 2 脇に土坑状の掘り込みが認められる。主軸方位: S - 89° - E。規模: 南北軸長 5.43 m、東西軸長 5.55 m。炉: 未検出。柱穴: 8基。P 1 ~ 4 が主柱穴に



12号住居跡 埋没土層

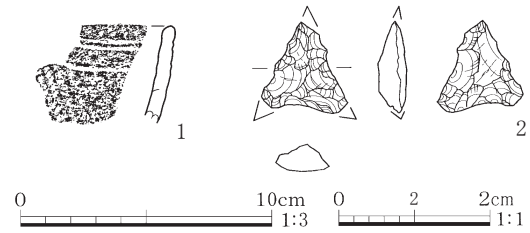
- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1: 暗褐色土層。白色粒子を中量、炭化物粒子・片岩粒を微量含む。粘性なし、しまりややあり。</p> <p>2: 暗茶褐色土層。白色粒子・片岩粒を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。</p> <p>3: 明褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を含む。粘性・しまりなし。</p> <p>4: 茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量、片岩粒を微量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。</p> <p>5: 暗褐色土層。4層に近似するが、ローム風化土は含まない。粘性ややあり、しまりなし。</p> <p>6: 暗褐色土層。片岩粒を多量、ローム粒子・炭化物粒子を微量、焼土粒子を極微量含む。粘性なし、しまりあり。</p> <p>7: 明黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>8: 明褐色土層。白色粒子を中量、炭化物粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。</p> <p>9: 茶褐色土層。雲母粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。</p> <p>10: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、炭化物粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。</p> | <p>11: 茶褐色土層。ローム風化土を多量、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。</p> <p>12: 暗茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。</p> <p>13: 明茶褐色土層。ローム風化土を多量、ローム粒子・炭化物粒子を少量、片岩粒を微量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>14: 黒褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。</p> <p>15: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>16: 明黒褐色土層。白色粒子を多量、炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性・しまりなし。</p> <p>17: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量、片岩粒を微量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりややあり。</p> <p>18: 暗黄褐色土層。ローム風化土主体。炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。</p> <p>19: 茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子・片岩粒を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>20: 暗褐色土層。ロームブロック・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第43図 12号住居跡

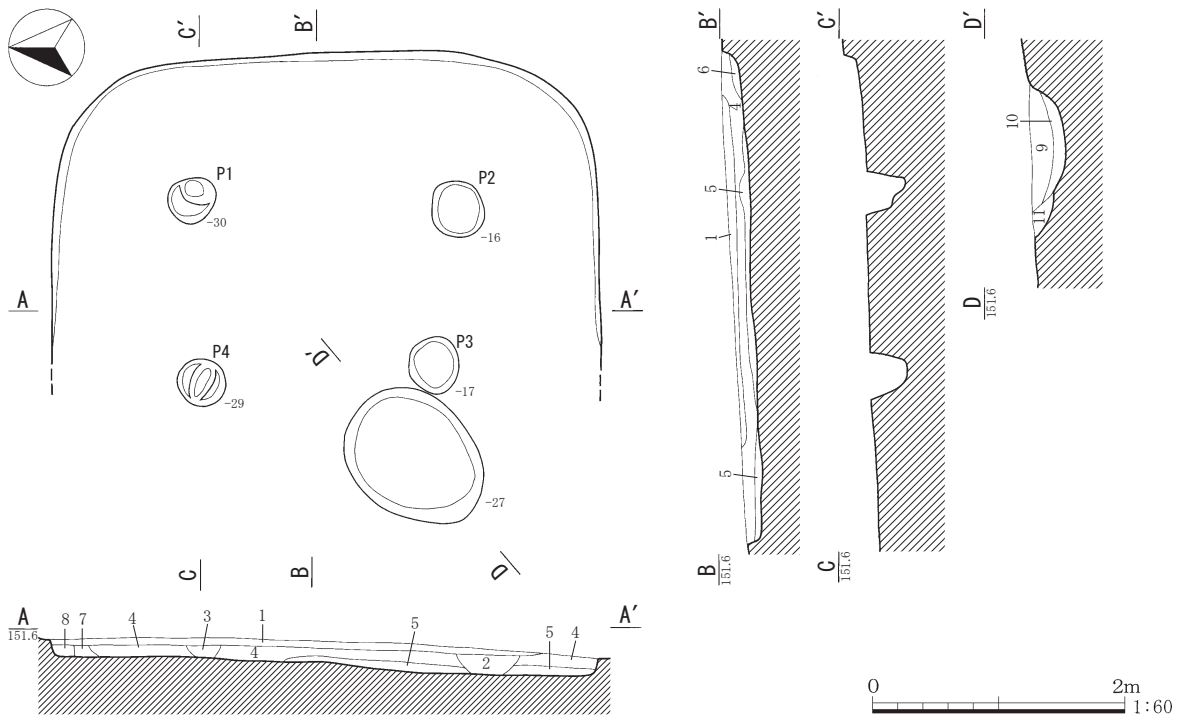
比定される。遺物：出土量は僅かで、前期中葉～後葉の縄紋土器片が認められた。時期：不明であるが、住居跡の形態から古墳時代以降の可能性も予想されよう。（高橋）

13号住居跡（第44・45図、写真図版6・29）

位置：調査区の中央、H 13・I 13 グリッドに所在する。形態：平面は隅丸方形を呈するものと推測される。P 3 脇に土坑状の掘り込みが認められる。主軸方位：S - 90° - E。規模：南北軸長 4.35 m。炉：未検出。柱穴：4 基。いずれも支柱穴に比定される。遺物：出土量は僅かで、早期後葉ないし末葉、前期前半・後葉の縄紋土器片が認められた。時期：住居跡の形態から縄紋時代前期後葉に比定されよう。（高橋）



第44図 13号住居跡出土遺物



13号住居跡 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。白色粒子を中量、炭化物粒子・片岩粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2: 暗茶褐色土層。片岩粒を多量、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 3: 暗茶褐色土層。2層に近似するが、ローム粒子・ロームブロックを含まない。
- 4: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 5: 茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりややあり。
- 6: 暗茶褐色土層。4層に近似するが、白色粒子の含有量が少ない。
- 7: 明褐色土層。ローム風化土主体。炭化物を少量含む。粘性・しまりなし。
- 8: 褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 9: 黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子・片岩粒を中量、ロームブロック・炭化物粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 10: 明黒褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 11: 茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりややあり。

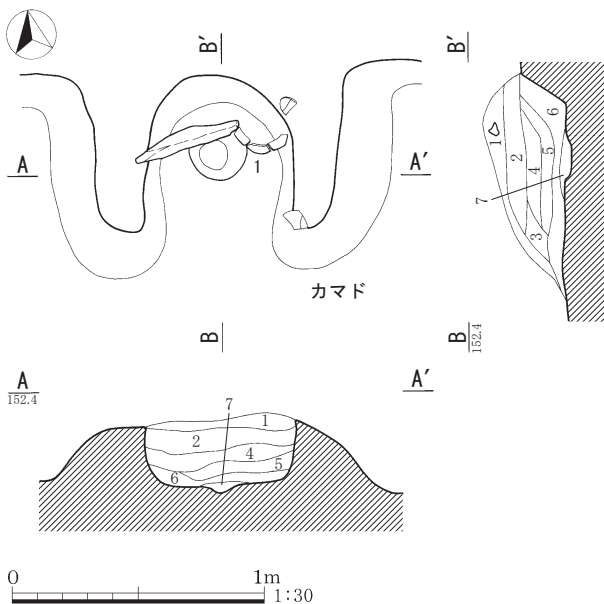
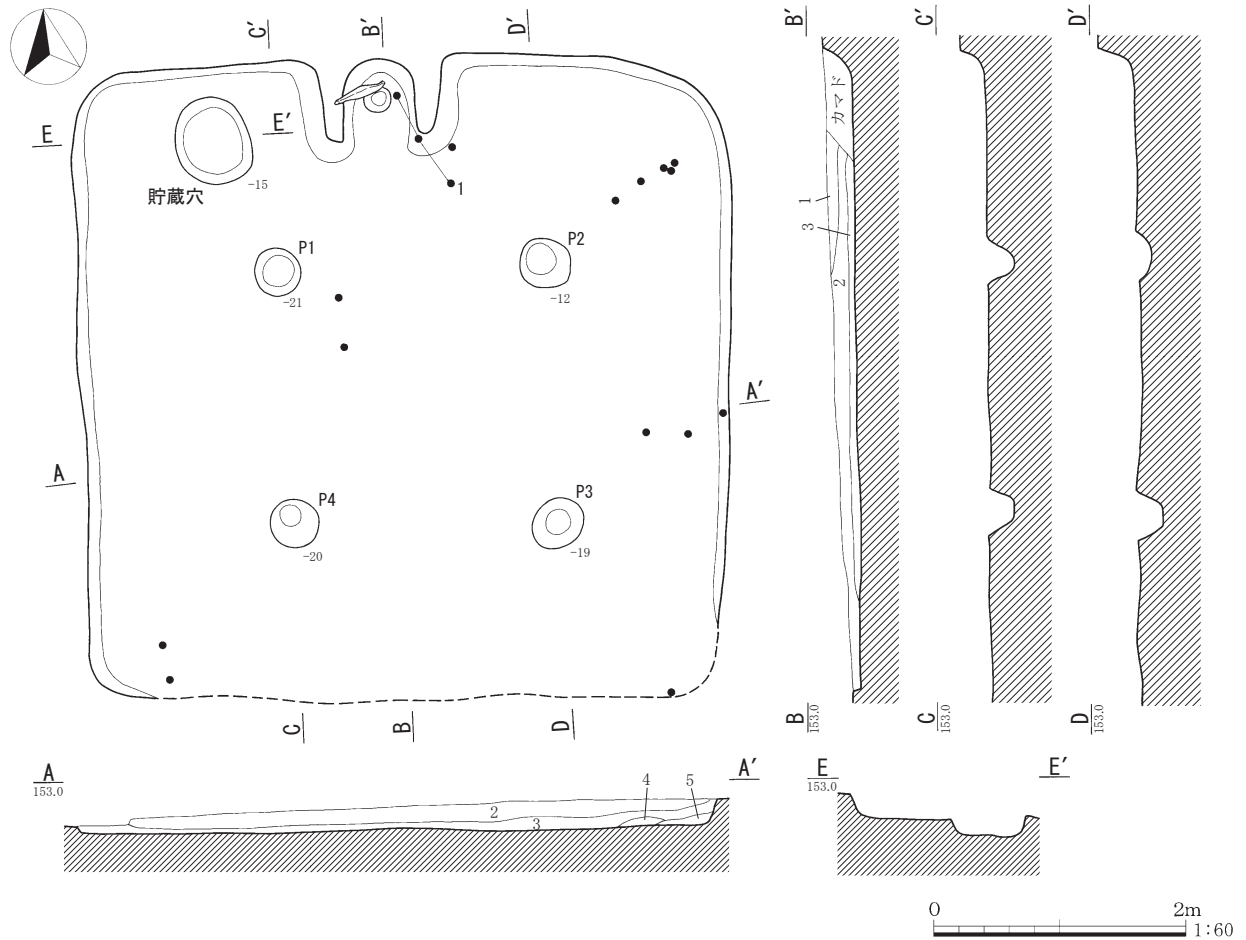
第45図 13号住居跡

13号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL) → 磨消縄紋を伴う細い平行沈線紋 (内皮痕残存) で区画。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。
2	石器 石鏃	A. 長 [1.2]。幅 [1.2]。厚 0.4。重 0.3。D. 黒曜石。F. 先端・両脚部欠損。G. 凹基無茎。

14号住居跡 (第46・47図、写真図版6・29)

位置：調査区のおぼ中央、G 13 グリッド周辺に所在する。10・20号住居跡と重複し、本遺構が新しい。  
 形態：南壁は消失している。平面は方形を呈するものと推測される。主軸方位：N-5°-E。規模：東西軸長 5.17 m。カマド：北壁に付設される。基盤層を掘り残した袖部を有し、燃焼部には支脚の抜き取り痕であろう小穴が検出される。上層には礫も見られ、構築材に用いられたのだろう。貯蔵穴：



14号住居跡 埋没土層

- 1: 明茶褐色土層。白色粒子・片岩粒を少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。白色粒子・片岩粒を多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子・片岩粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4: 明褐色土層。ローム風化土主体。炭化物粒子を少量含む。
- 5: 暗茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。

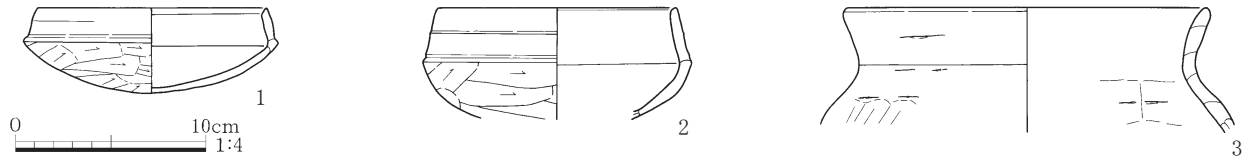
14号住居跡カマド 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・片岩粒を中量、焼土粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2: 暗茶褐色土層。片岩粒を中量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 3: 暗褐色土層。焼土粒子を多量、炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 4: 暗橙褐色土層。焼土粒子・炭化物粒子を多量、片岩粒を微量含む。粘性・しまりややあり。
- 5: 暗赤褐色土層。焼土粒子・炭化物粒子を多量含む。灰が混じる。粘性なし、しまりあり。
- 6: 暗茶褐色土層。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 7: 茶褐色土層。ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。

第46図 14号住居跡

カマドの左側に位置する土坑が貯蔵穴に推定される。平面が円形を呈する。柱穴：4基。全て支柱穴に想定される。周溝：未検出。遺物：堅穴内に散在し、目立った集中箇所は見受けられない。カマドから土師器坏や壺が検出されている。時期：住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期に比定される。

(宮本)



第47図 14号住居跡出土遺物

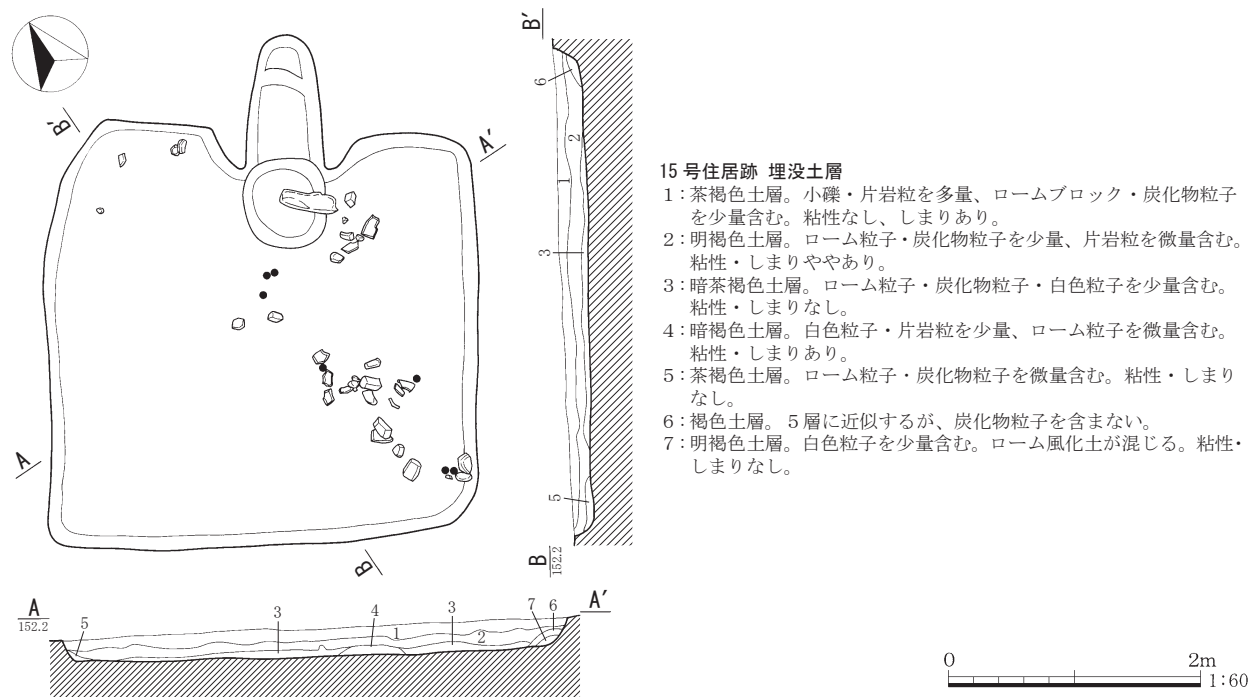
14号住居跡出土遺物観察表

1	土師器坏	A. 口径 12.2。器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 4/5。G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	土師器坏	A. 口径 (12.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/2。
3	土師器壺	A. 口径 (19.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 破片。G. 同一個体に想定される胴部片あり。H. カマド。

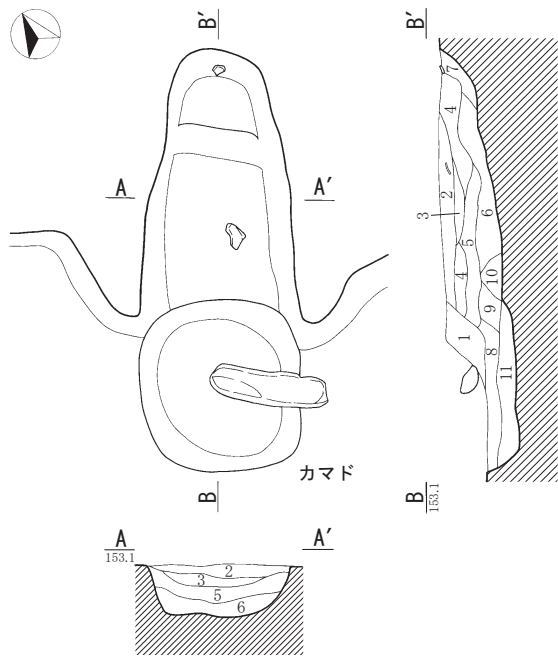
15号住居跡 (第48・49図、写真図版6)

位置：調査区のほぼ中央、F 11・G 11 グリッドに所在する。形態：平面は方形を呈する。主軸方位：N-36°-E。規模：南北軸長 3.36 m・東西軸長 3.45 m。カマド：北東壁に付設される。燃焼部は堅穴内に付設され、土坑状に落ち込んでいる。煙道は堅穴外で緩やかに立ち上がる。袖部は基盤層を掘り残し、出土している礫を構築材としていたのだろう。貯蔵穴：未検出。柱穴：未検出。周溝：未検出。遺物：堅穴の東半に分布しているが、土器は少なくほとんどが礫であった。時期：住居跡の形態や出土遺物から平安時代に比定される。

(宮本)



第48図 15号住居跡 (1)



15号住居跡カマド 埋没土層

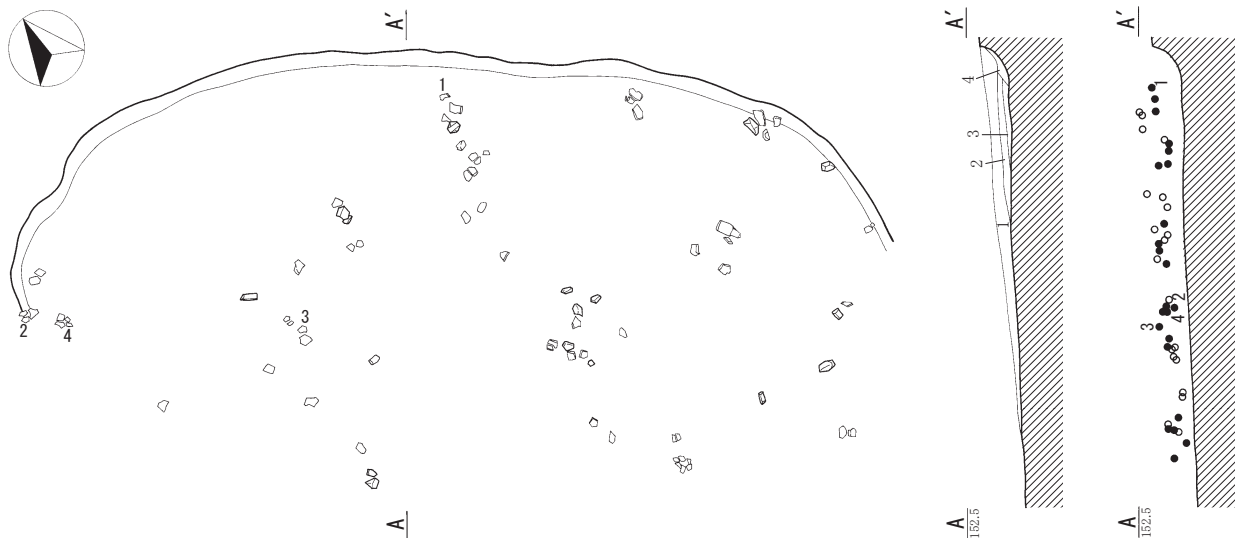
- 1: 暗褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を中量、焼土粒子・片岩粒を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 暗褐色土層。炭化物粒子を多量、白色粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4: 茶褐色土層。ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性なし、しまりあり。
- 5: 暗橙褐色土層。焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性・しまりなし。
- 6: 暗褐色土層。炭化物粒子を多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。灰が混じる。粘性・しまりなし。
- 7: 茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 8: 茶褐色土層。炭化物粒子・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 9: 茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 10: 暗黄褐色土層。ローム風化土主体。炭化物粒子・灰を少量含む。粘性・しまりなし。
- 11: 明褐色土層。焼土粒子・炭化物粒子を多量、ローム粒子を少量含む。灰が混じる。粘性・しまりなし。

0 1m 1:30

第 49 図 15号住居跡 (2)

16号住居跡 (第 50・51 図、写真図版 7・29)

位置：調査区の南側、H 16・I 16 グリッドに所在する。形態：南西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は隅丸長方形を呈するものと推測される。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：未検出。遺物：少量の遺物が竪穴内に散在する。早期後葉ないし末葉、前期初頭・後葉の縄紋土器片が認められ、花積下層式や諸磯 a 式が多くを占める。時期：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期初頭花積下層式期に比定され、諸磯 a 式期の遺構が重複するものと予想される。(高橋)

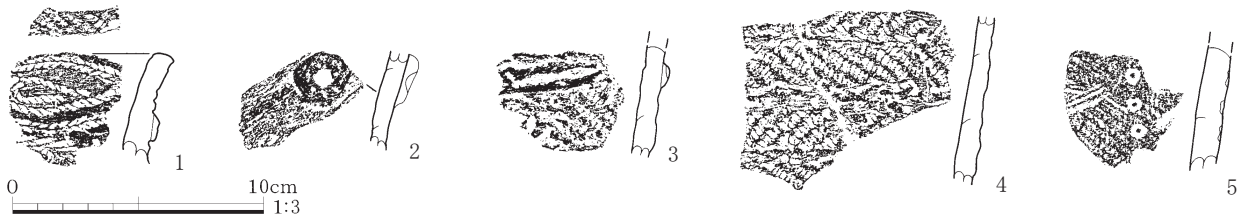


16号住居跡 埋没土層

- 1: 暗茶褐色土層。白色粒子を少量、炭化物粒子・片岩粒を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量、片岩粒を微量含む。粘性・しまりややあり。
- 3: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。
- 4: 茶褐色土層。炭化物粒子・ローム風化土を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。

0 2m 1:60

第 50 図 16号住居跡



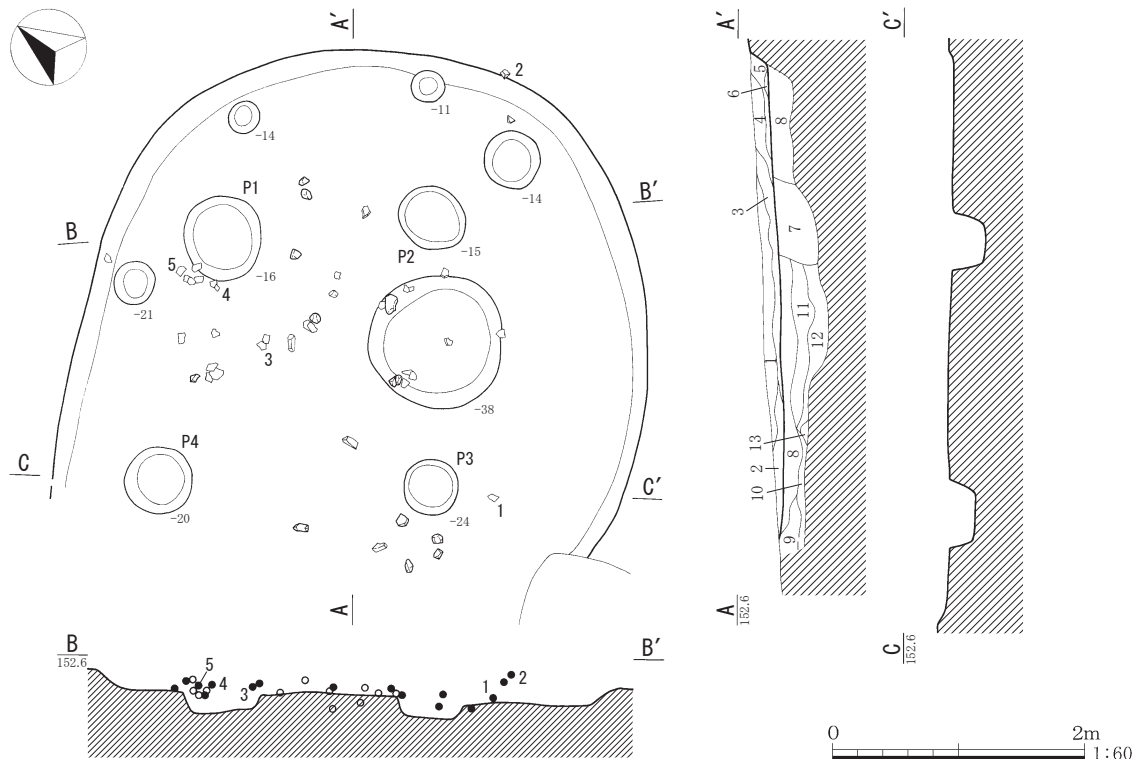
第51図 16号住居跡出土遺物

16号住居跡出土遺物観察表

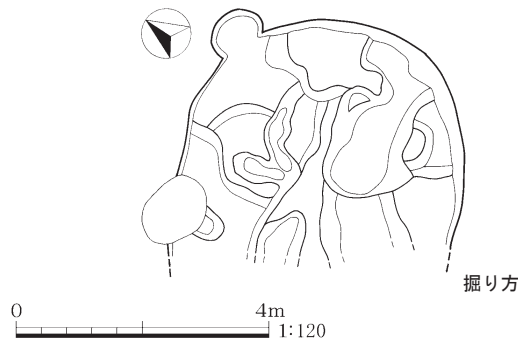
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による口縁部区画→撚糸側面圧痕紋 (R・L)。口唇部・胴部に縄紋 (RL)。内面、ナデ。 D. 繊維。E. 内-暗灰褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯→キザミを伴う環状突起。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい褐色。 外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL) →キザミ付隆帯。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい褐色。外- にぶい褐色。F. 口縁～胴部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う幅狭等間隔羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外- にぶい黄褐色。F. 胴部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL) →平行沈線紋・円紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。 F. 口縁部片。H. 土坑。

17号住居跡 (第52～54図、写真図版7・30)

**位置**：調査区の南側、G 14・15、H 14・15 グリッドに所在する。土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。**形態**：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は不整な楕円形を呈するものと推測される。P 2・P 3 間に土坑状の掘り込みが認められる。また、不定形な掘り方を有する。**主軸方位**：S - 55° - E。**規模**：南北軸長 4.61 m。**炉**：未検出。**柱穴**：8 基。P 1～4 が支柱穴に比定される。北東壁際に小穴が巡る。**遺物**：少量の遺物が竪穴の中央に散在する。早期後葉・前期中葉～末葉の縄紋土器片が認められ、前期中～後葉が多くを占める。**時期**：縄紋時代前期後葉に比定される。(高橋)



第52図 17号住居跡 (1)

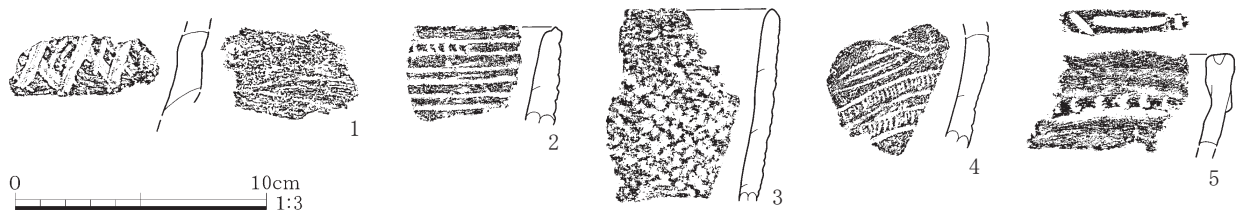


17号住居跡 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを少量・白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。

- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を多量、炭化物粒子を微量含む。粘性あり、しまりなし。
- 4: 暗褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 5: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 6: 明茶褐色土層。ローム風化土主体。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 7: 茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性ややあり・しまりあり。
- 8: 暗褐色土層。ロームブロック・白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性なし。
- 9: 暗褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりややあり。
- 10: 暗褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 11: 暗褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 12: 暗褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりあり。
- 13: 黄褐色土層。ロームブロック主体。

第53図 17号住居跡(2)



第54図 17号住居跡出土遺物

17号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、単沈線紋(角棒状工具)による斜格子文。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内一にぶい赤褐色。外一明赤褐色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)、一部爪形紋。内面、丁寧な斜位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、組紐縄紋。内面、斜位ナデ。D. 繊維。E. 内一褐灰色。外一にぶい橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い平行沈線紋・爪形紋。内面、丁寧なナデ。D. 特になし。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、キザミ(半截竹管状工具による刺突)付隆帯。口唇部に短沈線・キザミ。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。

18a・18b号住居跡(第55～63図、写真図版7・8・30～34)

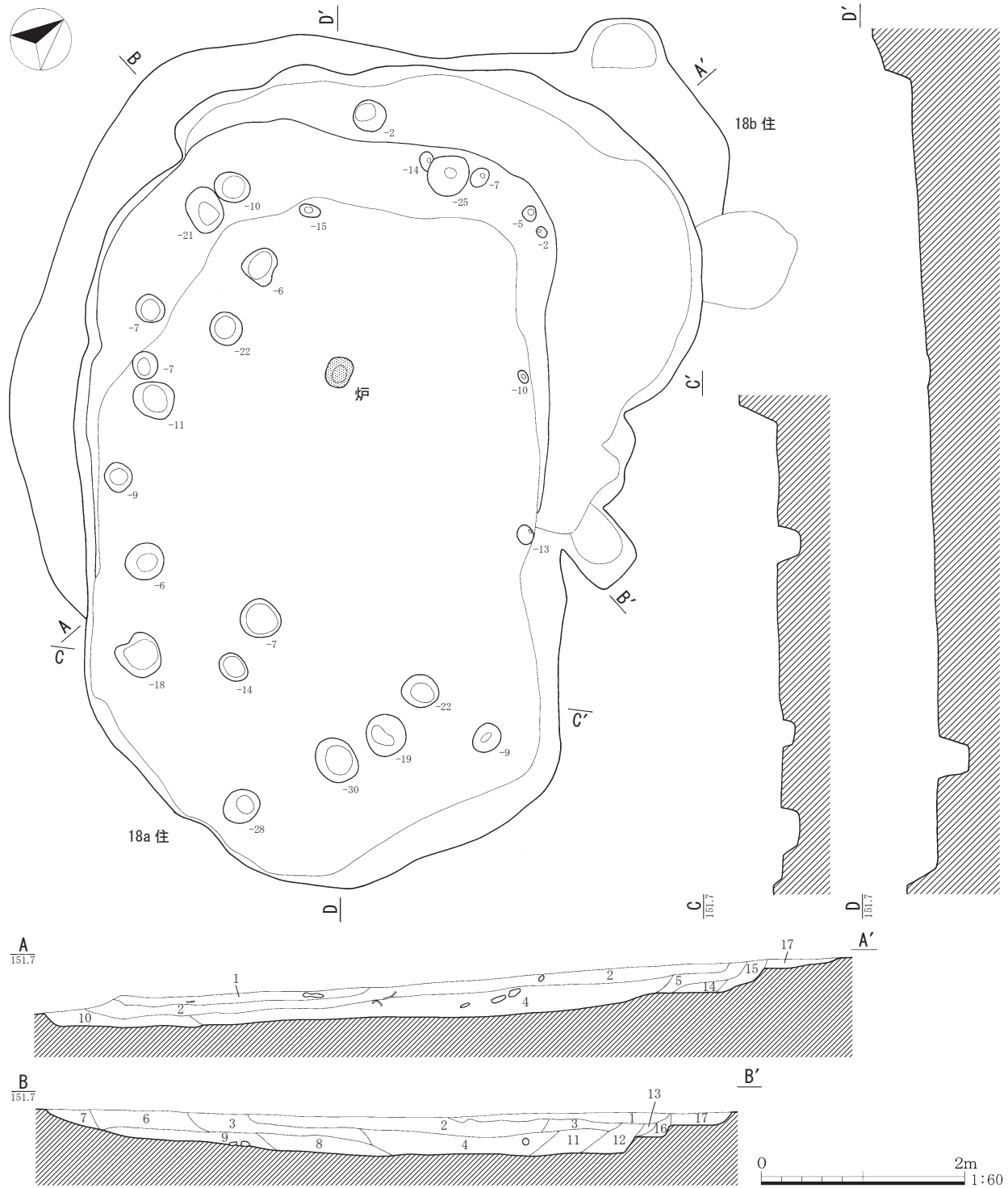
位置: 調査区の南側、E 16・17、F 16・17 グリッドに所在する。18a・18b号住居跡や土坑等が重複し、18b号住居跡→18a号住居跡の新旧関係が窺われた。遺物: 大量の遺物が出土しており、18a号住居跡に集中する。早期後葉ないし末葉、前期初頭～末葉の縄紋土器片が認められ、花積下層式・二ツ木式および有尾式・黒浜式がほとんどを占める。有尾式や黒浜式は接合資料や残存状態の良好な個体も多い(第58～61図19・21・28・29・33～45)。また、大型の石器(第63図67)や礫も散見された。

18a号住居跡

形態: 平面は不整な隅丸長方形を呈する。主軸方位: S-49°-W。規模: 南北軸長4.71m、東西軸長7.47m。炉: 中央やや北西側に地床炉が付設される。柱穴: 25基。南西壁に小穴が巡る。主柱穴の判別は難しい。時期: 出土遺物から縄紋時代前期中葉有尾式期に比定される。

18b号住居跡

形態: 平面形は不明である。北側・東側の壁面上端に段を有する。主軸方位: 不明。規模: 不明。柱



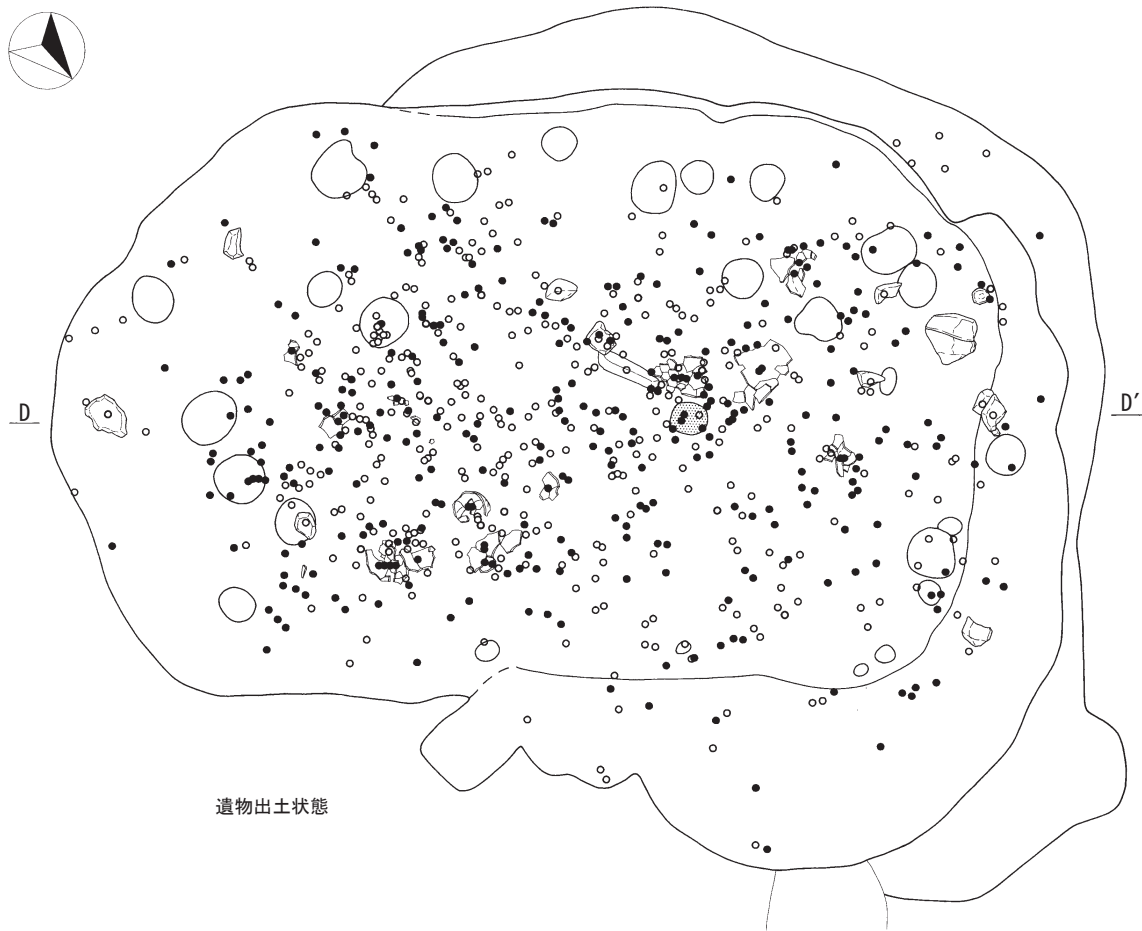
18a・18b号住居跡 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を中量を含む。焼土粒子・小礫が混じる。粘性・しまりややあり。
- 3: 茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 4: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ロームブロックを中量含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性なし、しまりややあり。
- 5: 暗茶褐色土層。ロームブロックを多量、白色粒子を中量含む。粘性なし、しまりあり。
- 6: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
- 7: 褐色土層。ローム粒子・白色粒子を含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 8: 暗褐色土層。白色粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

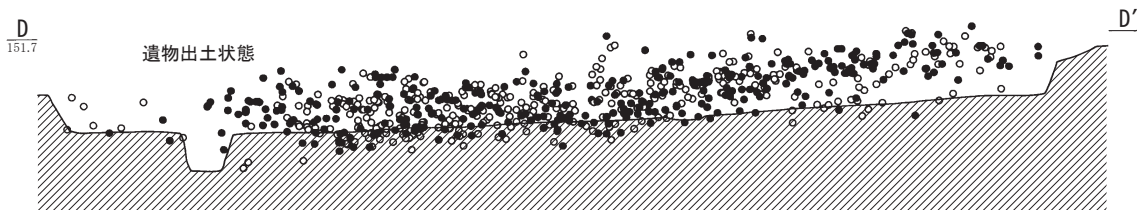
- 9: 茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量、焼土粒子・焼土ブロックを中量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 10: 茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 11: 茶褐色土層。ロームブロックを多量、白色粒子を少量含む。
- 12: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性ややあり。
- 13: 暗褐色土層。ロームブロックを多量、白色粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 14: 暗褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量、炭化物粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 15: 暗褐色土層。ロームブロックを多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性ややあり、しまりあり。
- 16: 褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 17: 土層注記なし。

第 55 図 18a・18b号住居跡 (1)

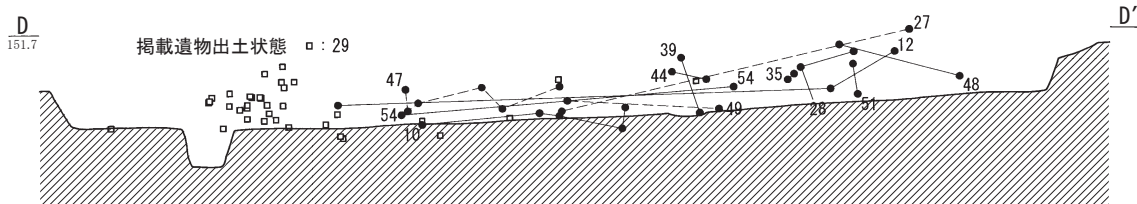




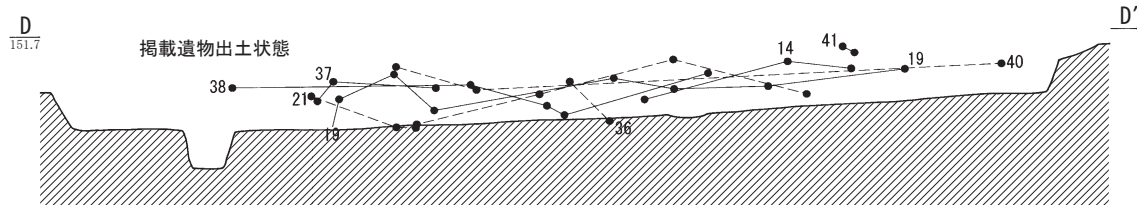
遺物出土状態



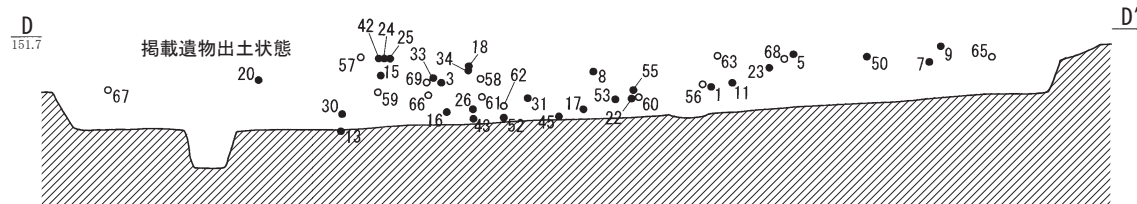
遺物出土状態



掲載遺物出土状態 □ : 29



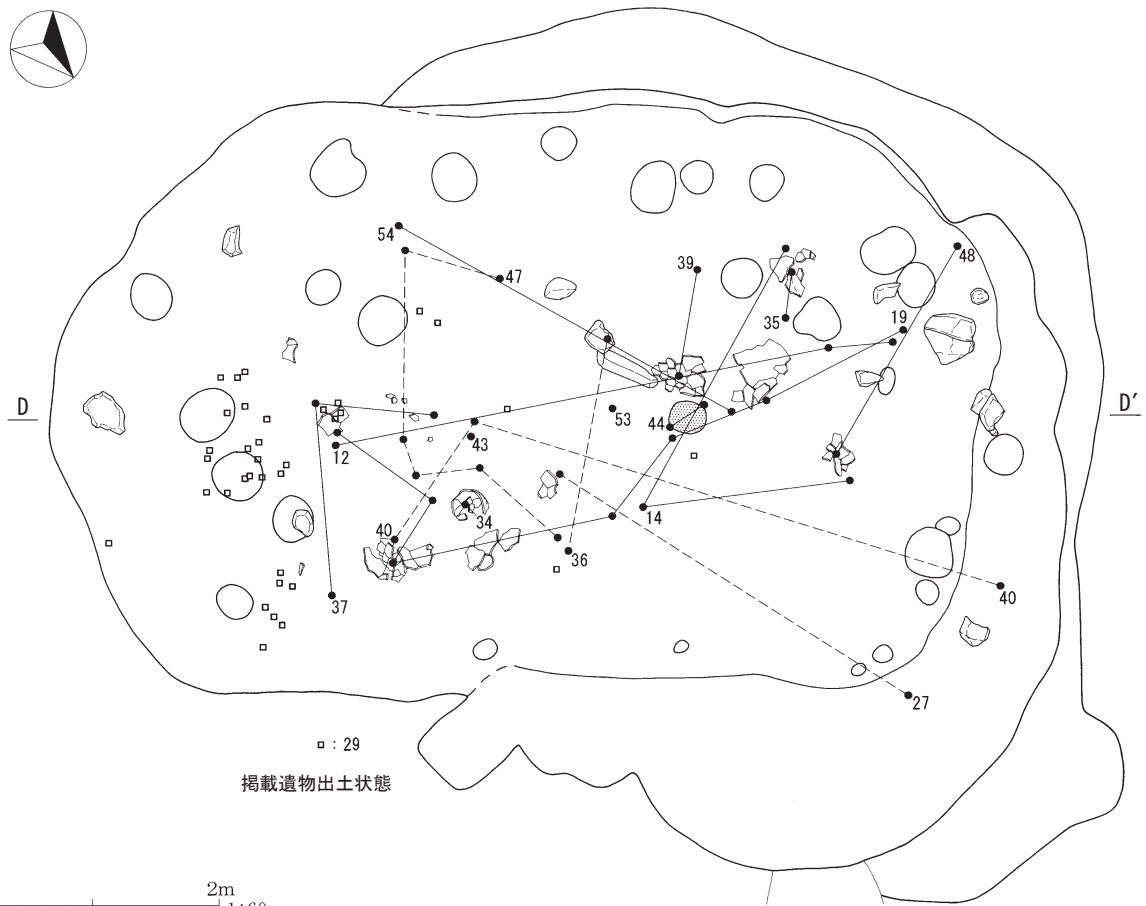
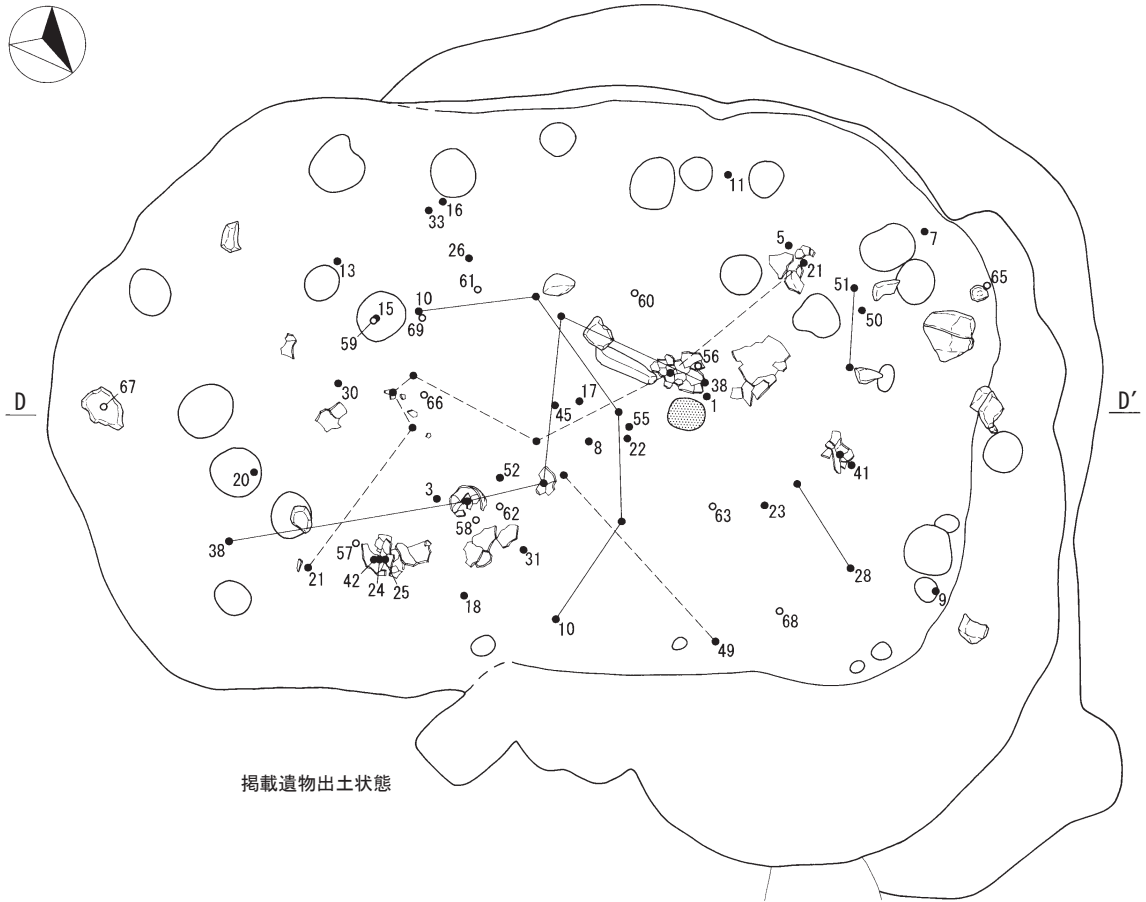
掲載遺物出土状態



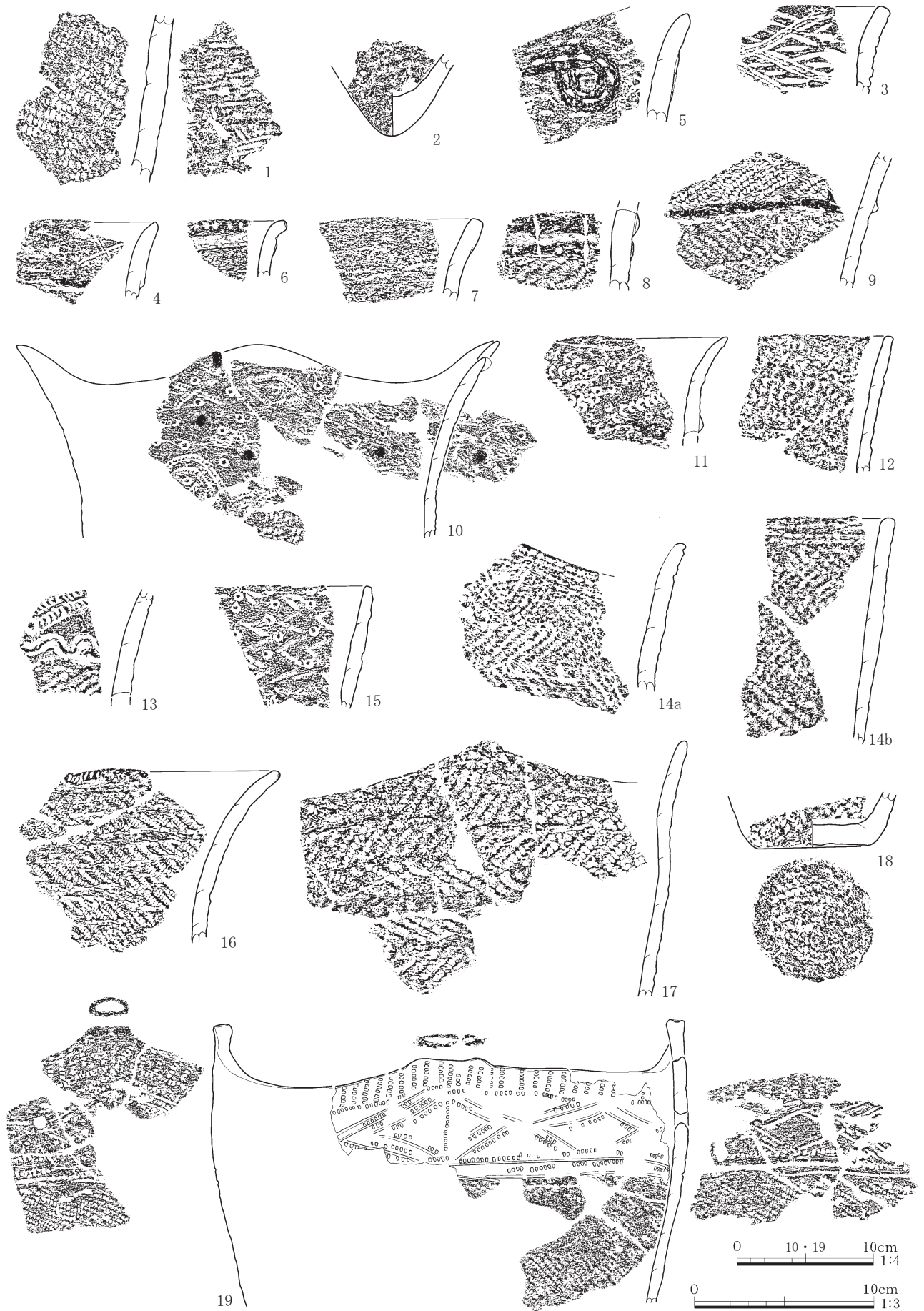
掲載遺物出土状態



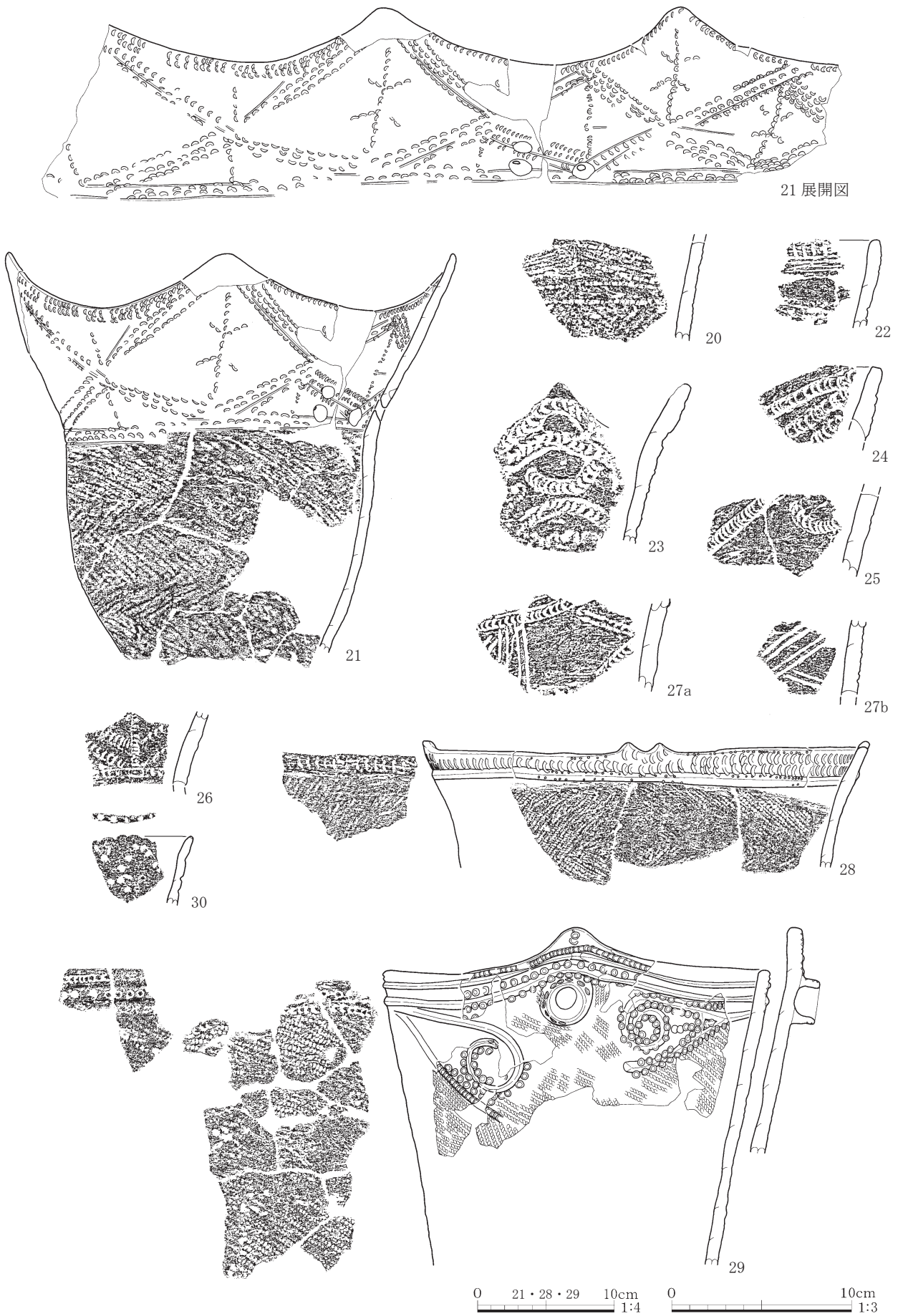
第56図 18a・18b号住居跡(2)



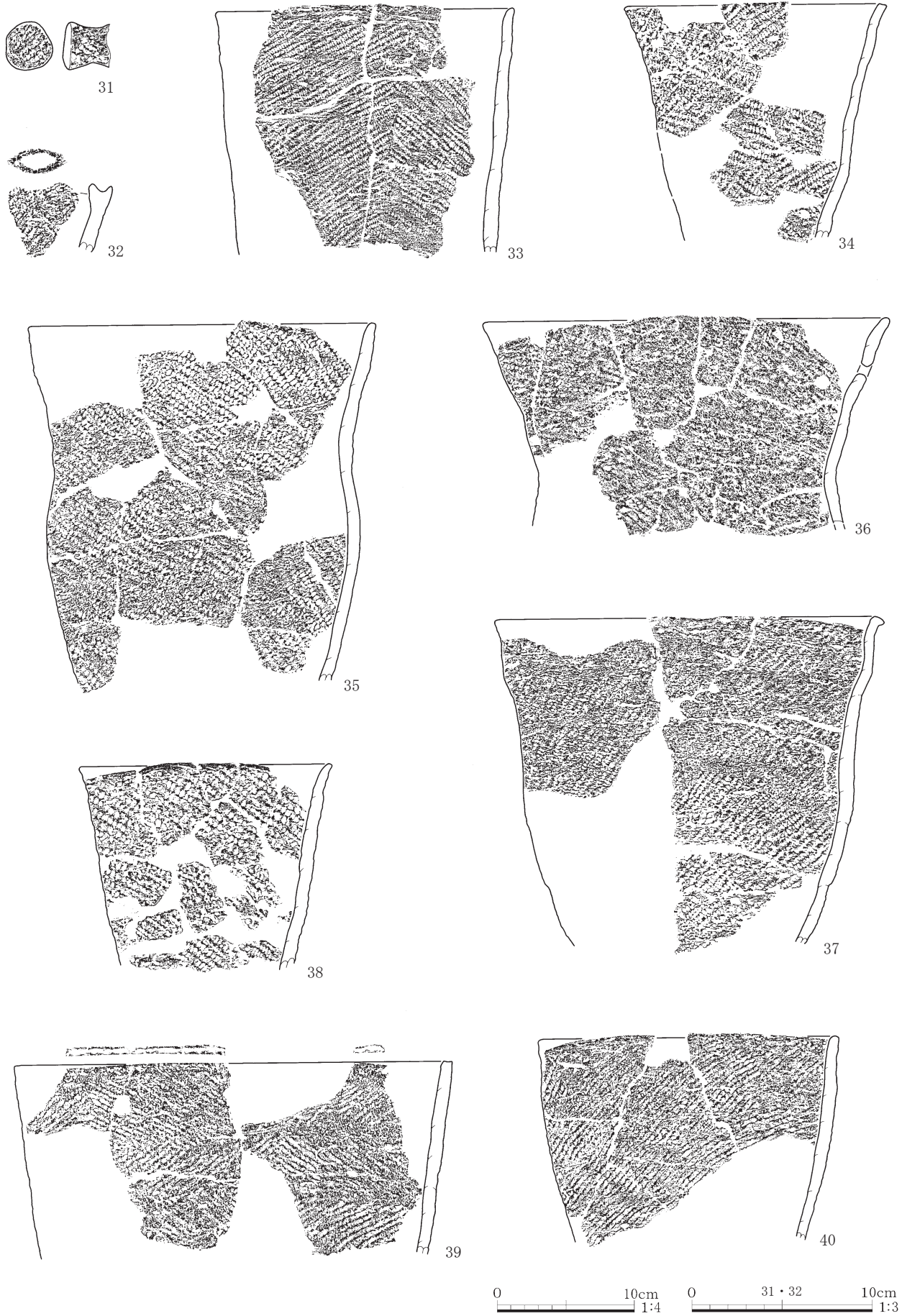
第 57 図 18a・18b 号住居跡 (3)



第 58 图 18a · 18b 号住居跡出土遺物 (1)



第 59 图 18a · 18b 号住居跡出土遺物 (2)



第60图 18a·18b号住居跡出土遺物(3)

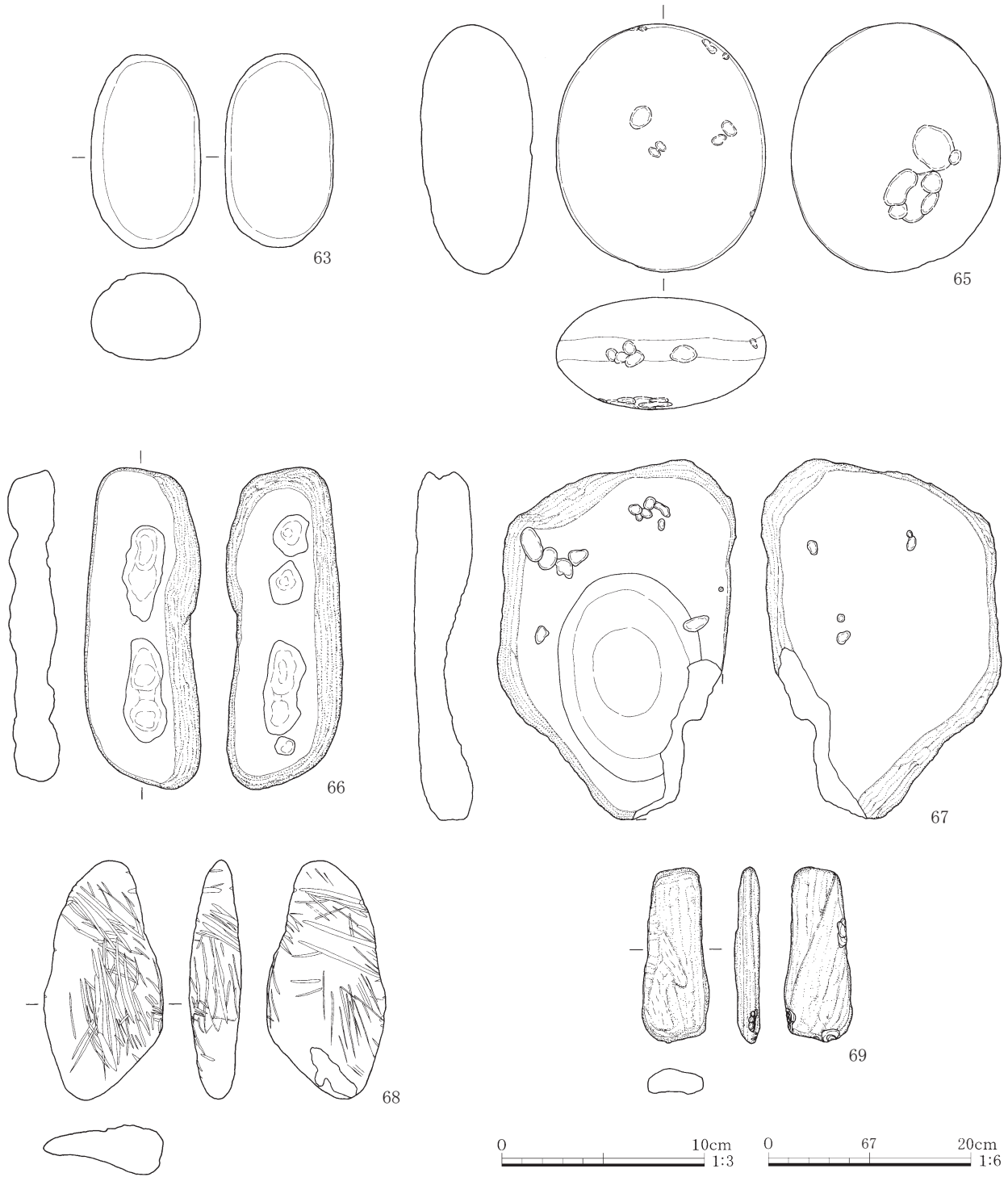


第 61 图 18a · 18b 号住居跡出土遺物 (4)

穴：1基。時期：住居跡の新旧関係や出土遺物から縄紋時代前期初頭花積下層式ないし二ツ木式期に比定される。  
(高橋)



第62図 18a・18b号住居跡出土遺物(5)



第 63 図 18a・18b 号住居跡出土遺物 (6)

18 号住居跡出土遺物観察表 (1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL)。内面、横位条痕紋。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-黒色。外-明褐色。F. 底部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸側面圧痕紋 (L・R・L) → 刺切紋。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、細い平行沈線紋 (内皮痕残存)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、低平な隆帯による蕨手文 → 隆帯上に結節沈線紋 (丸棒状工具) → 刺切紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。G. H16・I8G 出土遺物と同一個体。



18号住居跡出土遺物観察表(2)

6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画→刺切紋・縄紋。口唇部にキザミ。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-黄灰色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画→胴部に縄紋(LR)→隆帯上に鋭いキザミ。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-黄灰色。F. 口縁~胴部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR)。隆帯による横位区画。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-黄灰色。F. 口縁~胴部片。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、貼付紋→結節平行沈線紋による連続菱形文・蕨手文・波状文等→円紋。胴部に多段ループ紋(LR)。内面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁~胴部片。G. D15・E5・E16・F17G 出土遺物と接合。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯による口縁部区画→刺突列(半截竹管状工具)・円紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突列(半截竹管状工具)・円紋。胴部に縄紋カ。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-橙色。外-明褐色。F. 口縁部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)による波状文で口縁部区画、区画内に爪形紋→円紋。胴部に縄紋。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結束羽状縄紋(RL・LR)→結節平行沈線紋による区画・弧状文→円紋。内面、ナデ。D. 多量の粗粒石英、繊維。E. 内外-灰黄褐色。F. 口縁~胴部片。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺切紋による縦位鋸歯文→円紋。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、幅狭等間隔斜縄紋(RL、前々段多条)→口唇下にキザミ付隆帯。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、幅狭等間隔羽状縄紋(RL・LR)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-黄褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。
18	縄紋土器 深鉢	底径(6.2)。C. 外面、縄紋(RL)。内面、ナデ。底面、縄紋(RL)。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-明褐色。F. 底部ほぼ完形。
19	縄紋土器 深鉢	口径(34.8)。C. 外面、平行沈線紋(一部内皮痕残存)による口縁部区画・菱形文→縦位区画および沈線脇に列点状刺突紋。口唇下に列点状刺突紋による区画・縦位文。波下部に皿形突起。内面、横位ナデ。D. 粗大な石英、繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁~胴上半部1/2。G. E17・G16G 出土遺物と接合。
20	縄紋土器 深鉢	C. 外面、列点状刺突紋で横・縦位区画。区画内に列点状刺突紋・条線紋による菱形文カ。胴部に縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。
21	縄紋土器 深鉢	口径(32.9)。C. 外面、刺突列(半截竹管状工具)・沈線による口縁部区画・菱形文・縦位区画等。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に斜位ナデ。D. 繊維。E. 内外-黄褐色。F. 口縁~胴部2/3。
22	縄紋土器 深鉢	C. 外面、鋭い単沈線紋による口唇下区画→区画内に縦位短沈線紋。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-暗赤褐色。F. 口縁部片。
23	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・弧状文等。胴部等にループ紋(LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
24	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。内面、斜位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
25	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-橙色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
26	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋カ→爪形紋による区画等。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
27	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋→平行沈線紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-灰黄褐・にぶい橙色。外-にぶい黄橙・褐色。F. 口縁部片。
28	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による口縁部区画→胴部に羽状縄紋(RL+L・LR+R、付加条1種)。口縁部に刺突列(半截竹管状工具)→口唇下・隆帯脇に刺突紋(尖頭状工具)。口唇部に双頭突起。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁~胴上半部1/4。G. E5・E16・E17G 出土遺物と接合。
29	縄紋土器 深鉢	口径(28.6)。C. 外面、口縁部に注口状突起→隆帯で区画・蕨手文等→斜縄紋(RL)→隆帯脇・突起上に円紋、結節平行沈線紋。口唇部に山形突起。内面、口縁~胴上半部に横位ミガキ、胴下半部に縦位ミガキ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい赤褐色。外-橙色。F. 口縁~胴部1/5。
30	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突列(角棒状工具)による斜格子文。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
31	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(LR)。D. 角閃石・繊維。E. 外-にぶい黄褐色。F. 突起片。
32	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(L)。口唇部に凹紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
33	縄紋土器 深鉢	A. 口径(22.0)。C. 外面、縦位羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に縦位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁~胴部1/5。
34	縄紋土器 深鉢	A. 口径(19.3)。C. 外面、羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部2/3。

18号住居跡出土遺物観察表(3)

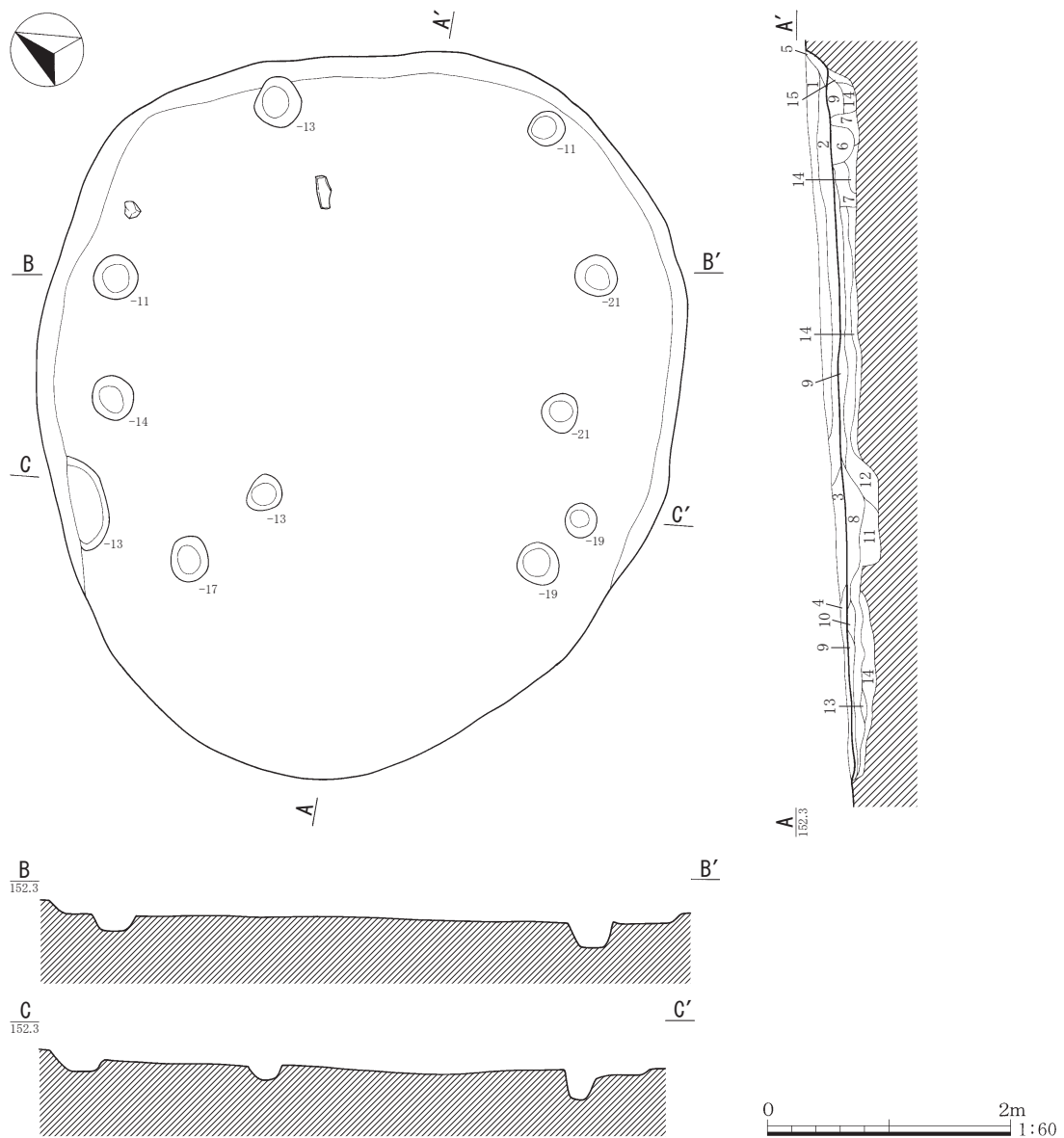
35	縄紋土器 深鉢	A. 口径(25.6)。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内ー灰褐色。外ー橙色。F. 口縁～胴部1/3。
36	縄紋土器 深鉢	A. 口径(29.9)。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ナデ、口唇下は横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外ーにぶい橙色。F. 口縁～胴上半部1/4。G. 焼成後穿孔。
37	縄紋土器 深鉢	A. 口径(28.7)。B. 口唇部の一部が張り出す。追加成形。C. 外面、斜縄紋(LR)。内面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内外ーにぶい黄橙色。F. 口縁部1/3・胴部1/4。
38	縄紋土器 深鉢	A. 口径(18.6)。C. 外面、粗大な斜縄紋(RL)。内面、口縁部に丁寧な横位ナデ、胴部に縦位ナデ。D. 繊維。E. 内ーにぶい黄橙色。外ーにぶい橙・黄橙色。F. 口縁部2/3・胴部1/2。
39	縄紋土器 深鉢	A. 口径(32.2)。B. 口唇部が凹線状を呈する。C. 外面、羽状縄紋(R・L)。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内外ーにぶい黄橙・にぶい橙色。F. 口縁部2/3・胴部1/4。G. E17G出土の大型破片と同一個体。
40	縄紋土器 深鉢	A. 口径(22.1)。C. 外面、斜縄紋(L)。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に斜位ナデ。D. 繊維。E. 内ー橙色。外ーにぶい橙色。F. 口縁～胴上半部1/4。
41	縄紋土器 深鉢	A. 口径(23.2)。C. 外面、斜縄紋(L)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内ーにぶい黄褐色。外ーにぶい黄橙色。F. 口縁～胴部1/5。
42	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR)。内面、丁寧な横位ナデ。凹凸が著しい。D. 繊維。E. 内外ーにぶい褐色。F. 胴部1/2。
43	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR)。内面、丁寧な横・縦位ナデ。D. 繊維。E. 内ーにぶい赤褐色。外ー橙色。F. 胴部1/2。
44	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、縦位ナデ。D. 繊維。E. 内外ー明赤褐色。F. 胴下半部1/2。
45	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ナデ。D. チャート・繊維。E. 内ーにぶい橙色。外ー橙色。F. 胴下半部1/5。
46	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋カー縄紋(LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内ーにぶい黄橙色。外ー灰黄褐色。F. 胴部片。
47	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(Rを横・縦位施文)。内面、ミガキ。D. 繊維。E. 内外ーにぶい橙色。F. 胴部片。
48	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RLR-LL・LRL-RR)。内面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内ー橙・にぶい褐色。外ー橙色。F. 胴部片。
49	縄紋土器 深鉢	A. 底径(6.3)。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、丁寧な縦位ナデ。底面、ナデ。D. 繊維。E. 内ーにぶい褐色。外ー明赤褐色。F. 胴下半～底部1/3。
50	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.3)。C. 外面、斜縄紋(RL、前々段多条)。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 繊維。E. 内ーにぶい黄橙色。外ー明赤褐色。F. 底部1/4。
51	縄紋土器 深鉢	A. 底径(9.2)。C. 外面、縄紋(RL)。底面、ナデ。D. チャート・繊維。E. 内ー橙色。外ーにぶい黄橙色。F. 底部1/3。
52	縄紋土器 深鉢	A. 底径(9.0)。C. 外面、縄紋(RL)。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内ーにぶい黄橙色。外ー橙色。F. 底部1/4。
53	縄紋土器 深鉢	A. 底径(7.2)。C. 外面、斜縄紋(LR)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内ーにぶい褐色。外ー橙色。F. 底部1/2。
54	縄紋土器 深鉢	A. 底径7.0。C. 外面、斜縄紋。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内ー褐色。外ー明褐色。F. 底部2/3。G. 器面荒れが著しい。
55	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.1)。C. 外面、ナデ。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 繊維。E. 内ー明褐色。外ーにぶい褐色。F. 底部2/3。
56	石器 打製石斧	A. 長8.2。幅4.6。厚2.4。重81.2。C. 割礫の周縁に片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 撥形。刃部に微細剥離痕。
57	石器 打製石斧	A. 長6.1。幅5.6。厚1.4。重49.7。C. 剥片の周縁に半両面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 撥形。刃部・左側縁に微細剥離痕や磨耗痕。
58	石器 打製石斧	A. 長10.9。幅7.2。厚3.7。重264.9。C. 自然礫の周縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 不定形。器面の一部に被熱による破砕痕や亀裂痕。
59	石器 礫器	A. 長7.6。幅8.8。厚3.7。重266.1。C. 割礫の三側縁に急角度な片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。
60	石器 スクレイパー	A. 長7.2。幅10.4。厚2.5。重194.8。C. 割礫の縁辺に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。刃部に微細剥離痕。
61	石器 スクレイパー	A. 長[11.5]。幅4.5。厚2.2。重73.7。C. 横長剥片の両側縁に両面調整。D. 頁岩。F. 下部欠損。G. 左側縁部にのみ丁寧な両面剥離痕。石匙の可能性あり。
62	石器 磨石	A. 長12.7。幅7.1。厚4.6。重601.9。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 長楕円形。表・裏面全体に磨耗痕。上・下端部に敲打痕および被熱痕。
63	石器 磨石	A. 長9.5。幅5.4。厚4.3。重320.4。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 長楕円形。表・裏面全体に磨耗痕があり裏面は平滑化。
64	石器 凹石	A. 長10.3。幅7.6。厚4.0。重475.8。D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。表・裏面および両側縁に磨耗痕。表・裏面中央に凹穴。凹→磨。表面にスス附着。
65	石器 凹石	A. 長12.2。幅10.3。厚5.5。重976.1。D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。表・裏面に顕著な磨耗痕。周縁や裏面の一部に敲打痕や凹穴。凹→磨。表面中央や裏面にスス附着。

18号住居跡出土遺物観察表(4)

66	石器 凹石	A. 長 15.8。幅 5.8。厚 2.5。重 327.9。D. 片岩。F. 完形。G. 不整長方形。表・裏面に磨耗痕および凹穴。磨→凹。
67	石器 石皿	A. 長 35.7。幅 23.7。厚 5.8。重 7,250.0。C. 板状礫を素材とし表・裏面を平滑に整形。D. 緑色岩類。F. 右下部欠損。G. 不整形。皿面は播鉢状に窪む。表・裏面の一部に凹穴。
68	石器 砥石	A. 長 11.7。幅 5.9。厚 2.6。重 129.1。D. 砂岩。F. 完形。G. 表・裏面および右側面に線刻や擦痕が顕著。
69	石器 棒状礫	A. 長 8.6。幅 3.3。厚 1.3。重 56.1。D. 緑色岩類。F. 完形。G. 扁平礫の一部に敲打痕。

19号住居跡(第64～66図、写真図版8・34)

位置：調査区の南側、F 15・16、G 15・16 グリッドに所在する。形態：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は楕円形を呈するものと推測される。床面下には不定形な掘り方を有する。主軸方位：S - 60° - E。規模：南北軸長 5.31 m、東西軸長 5.94 m。炉：未検出。柱穴：11基。壁際に小穴が巡る。支柱穴の判別は難しい。遺物：少量の遺物が竪穴の上・下層に散在する。早期後葉ないし

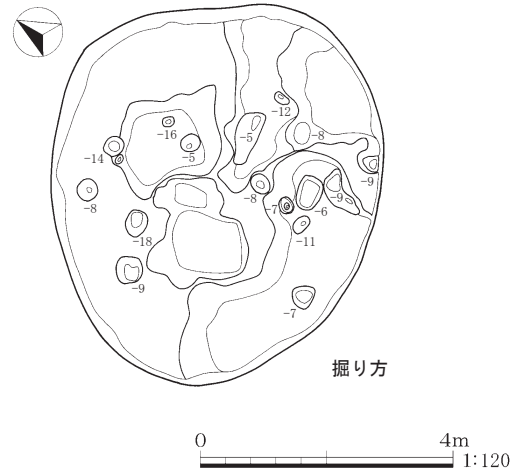


第64図 19号住居跡(1)

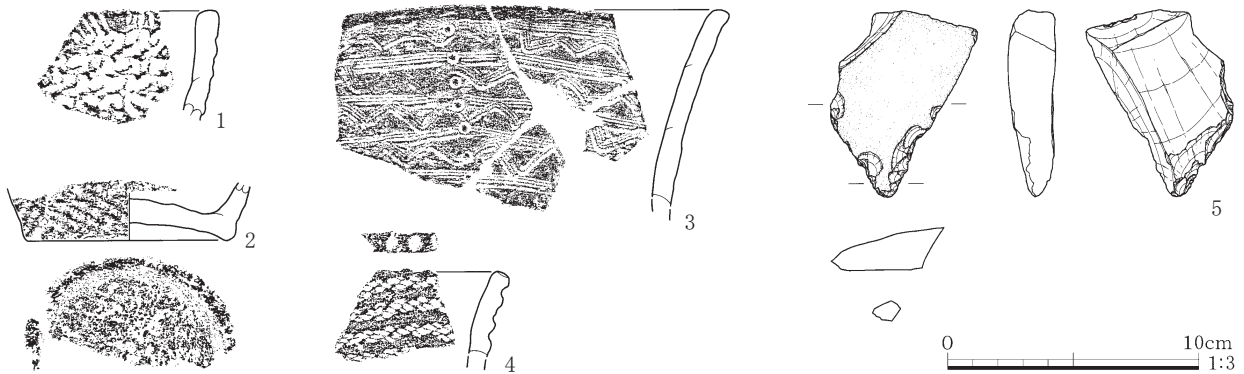
末葉、前期初頭・後葉の縄紋土器片が認められ、前期初頭・後葉が多くを占める。時期：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期に比定される。(高橋)

19号住居跡 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックをやや多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性なし、しまりややあり。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4: 淡茶褐色土層。ローム粒子をやや多量、白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 5: 淡茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子をやや多量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 6: 暗褐色土層。白色粒子を多量含む。粘性なし、しまりあり。
- 7: 茶褐色土層。ローム粒子・黄褐色土ブロックを含む。しまりあり。
- 8: 暗褐色土層。白色粒子・赤色粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 9: 暗褐色土層。白色粒子を微量含む。ローム粒子が混じる。
- 10: 暗褐色土層。ローム粒子・白色粒子を含む。粘性なし。
- 11: 暗褐色土層。白色粒子を密に含む。しまりあり。
- 12: 暗褐色土層。白色粒子を含む。しまりなし。
- 13: 暗褐色土層。白色粒子を少量含む。ローム粒子が混じる。しまりなし。
- 14: 暗褐色土層。焼土粒子を微量含む。白色粒子が混じる。
- 15: 暗褐色土層。白色粒子を微量含む。ローム粒子が混じる。しまりあり。



第 65 図 19号住居跡 (2)



第 66 図 19号住居跡出土遺物

19号住居跡出土遺物観察表

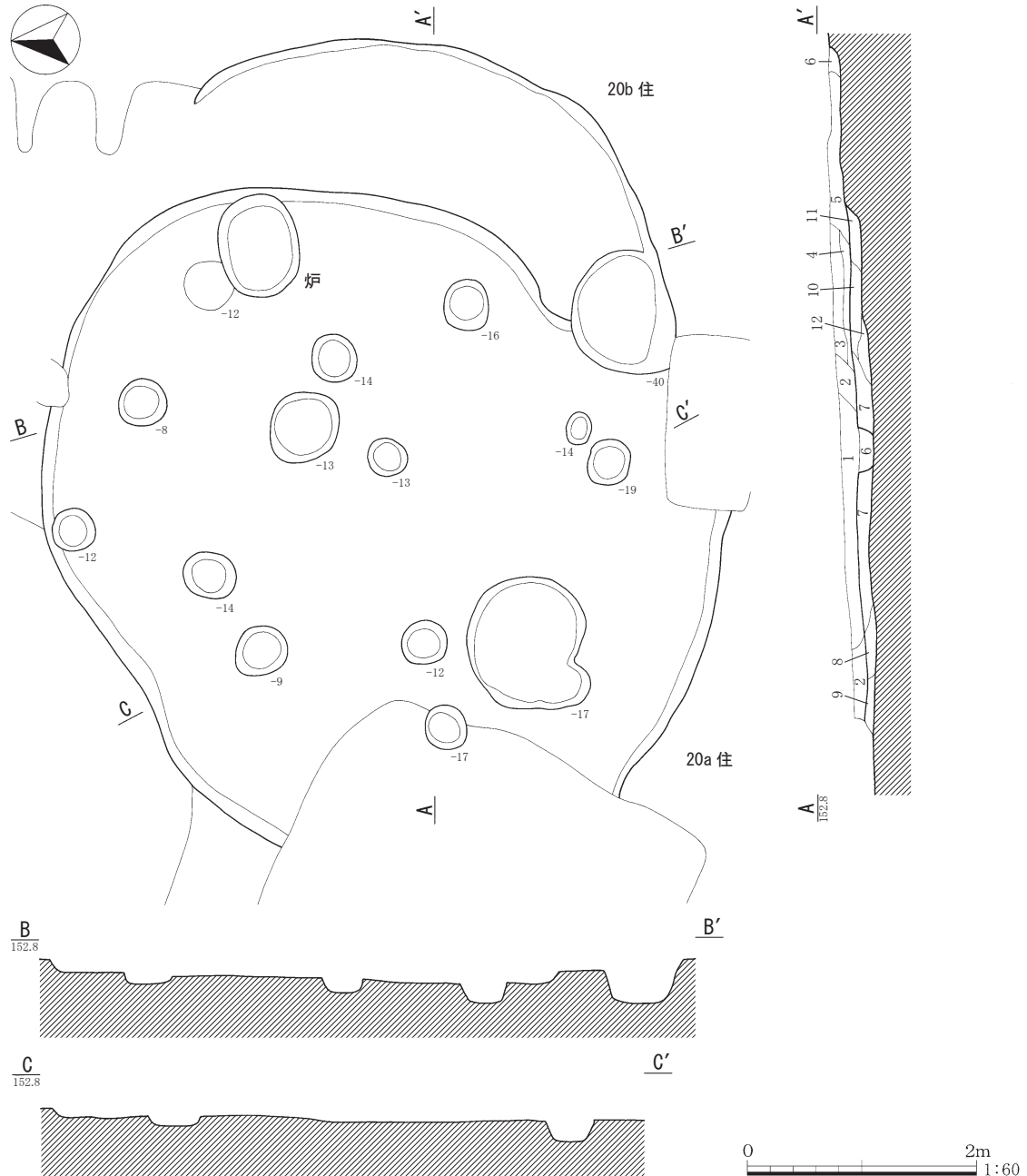
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋(RL・LR)→口唇下に刺切紋。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外—橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	A. 底径(8.0)。C. 外面、結束羽状縄紋(RL・LR)。内面、ナデ。底面、縄紋。D. 繊維。E. 内外—黒褐色。F. 底部 1/2。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋(4条1対)による横位文→波状文→円紋による縦位区画。胴部に縄紋(RL)。内面、横・縦位ミガキ。D. 片岩。E. 内—明赤褐色。外—橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、捺糸側面圧痕紋(RL)。口唇部に押捺(指頭)。内面、丁寧なナデ。D. 多量の粗粒石英。E. 内—黒褐色。外—にぶい褐色。F. 口縁部片。
5	石器 石錐	A. 長7.4。幅5.9。厚1.9。重67.8。D. 頁岩。F. 完形。G. つまみあり。錐部先端はやや磨滅している。

20a・20b号住居跡(第67～69図、写真図版8・35)

位置：調査区のやや南側、F 13・14、G 13・14、H 13・14 グリッドに所在する。5・10・14・20a・20b号住居跡や土坑が重複し、10号住居跡→20a号住居跡→20b号住居跡→5・14号住居跡(古代)の新旧関係が窺われた。遺物：出土量は多量で、20a号住居跡の南側に集中するが、上層に偏ることから多くの遺物は20b号住居跡に伴うものと推測される。20b号住居跡の炉上にも集中域が認められる。前期初頭・中葉～末葉の縄紋土器片が認められ、諸磯c式・十三菩提式がほとんどを占める。十三菩提式には残存状態の良好な個体が多い(第35図5～8)。

20a 号住居跡

形態：平面は不整な楕円形を呈する。その形態から2軒の住居跡がさらに重複している可能性も連想されよう。主軸方位：S - 49° - E。規模：南北軸長 4.95 m、東西軸長 6.45 m。炉：未検出。柱穴：12基。20b 号住居跡に伴うものと区別できない。また、浅い小穴が多く、支柱穴の判別は難しい。時期：



20a・20b 号住居跡 埋没土層

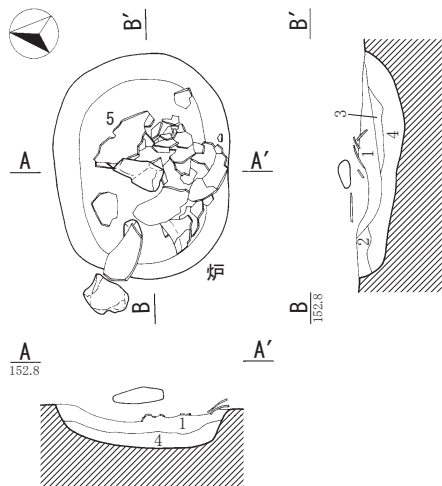
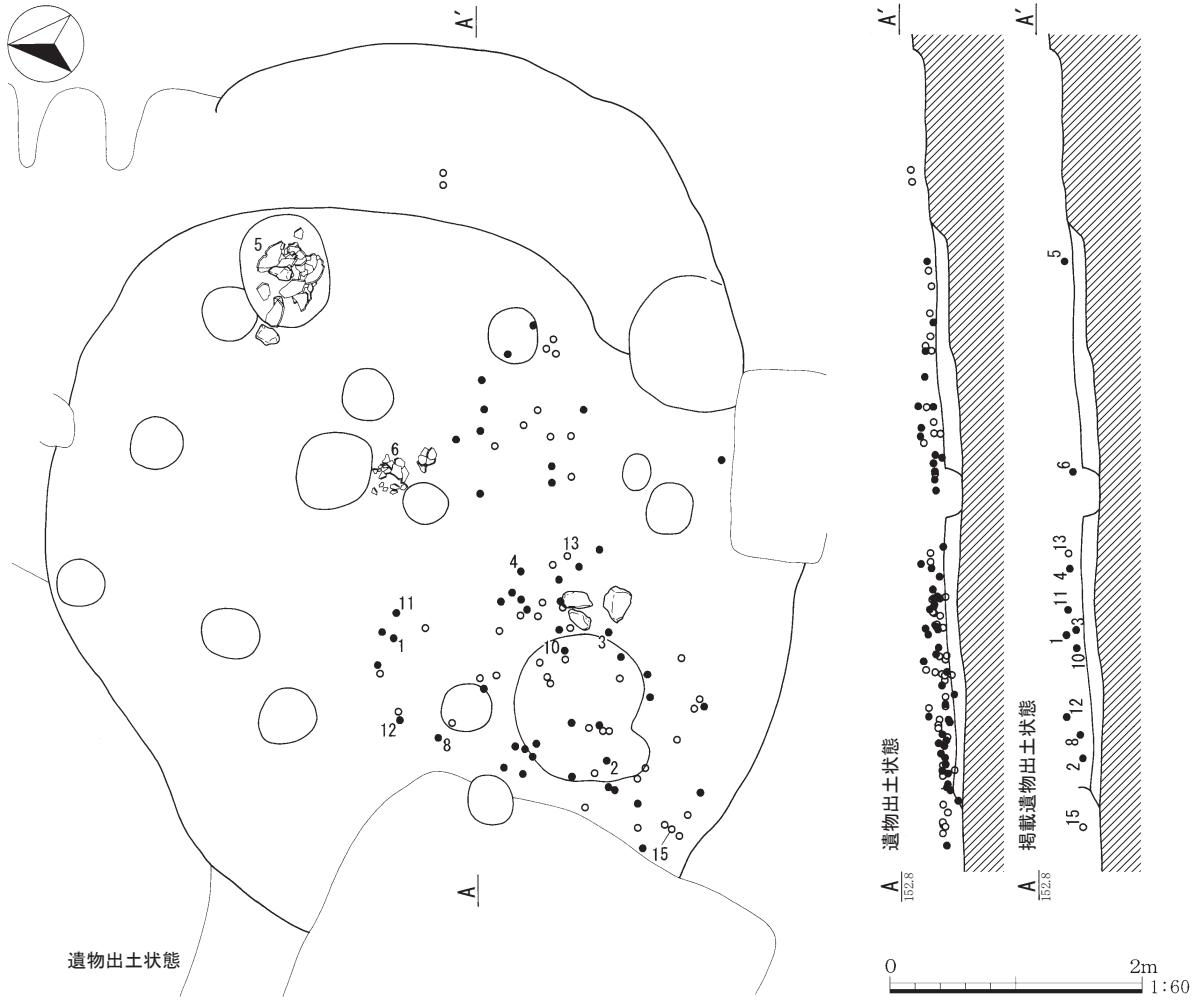
- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。</p> <p>2: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子をやや多量、炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりややあり。</p> <p>3: 暗茶褐色土層。ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。</p> <p>4: 暗茶褐色土層。白色粒子をやや多量、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性なし、しまりややあり。</p> <p>5: 暗褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・ロームブロックをやや多量含む。粘性なし、しまりややあり。</p> <p>6: 淡褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、白色粒子をやや多量含む。粘性なし、しまりあり。</p> | <p>7: 褐色土層。白色粒子を大量、粒系の不均一なロームブロックを多量含む。粘性ややあり、しまりあり。</p> <p>8: 暗褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子をやや多量、ロームブロックを少量含む。粘性ややあり、しまり非常にあり。</p> <p>9: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子をやや多量含む。粘性ややあり、しまりあり。</p> <p>10: 暗茶褐色土層。白色粒子をやや多量、ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性あり、しまりややあり。</p> <p>11: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性あり、しまりややあり。</p> <p>12: 明褐色土層。ロームブロック・ローム風化土主体。白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第 67 図 20a・20b 号住居跡 (1)

住居跡の新旧関係や出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯c式期に比定される。

20b号住居跡

形態：平面は円形ないし楕円形を呈する。主軸方位：不明。規模：不明。炉：竪穴の北東側に地床炉が付設される。柱穴：1基。断面観察でのみ確認できた。時期：出土遺物から縄紋時代前期末葉十三菩提式期に比定される。(高橋)



20b号住居跡炉 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。白色粒子を多量含む。ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックが混じる。粘性ややあり、しまりあり。
- 2: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロック主体。白色粒子を多量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックをやや多量、白色粒子を少量含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 4: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックをやや少量含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性ややあり、しまりあり。

第 68 図 20a・20b号住居跡(2)



第 69 图 20a・20b 号住居跡出土遺物

20号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存）。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→棒状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→棒状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画、平行沈線紋（内皮痕残存）。口唇部にキザミ。内面、横・斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（RL）→ボタン状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、密接平行沈線紋（内皮痕残存）による口縁部区画・入組文→印刻。口唇下に押圧付隆帯。口唇部に突起・キザミ。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。G. 焼成不良。H. 炉上。
6	縄紋土器 深鉢	A. 口径(29.8)。C. 外面、口唇下に多条のキザミ付隆帯。口唇部に突起・キザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部 1/4。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、押圧付隆帯→密接平行沈線紋（内皮痕残存）による区画→2段の鋸歯状印刻紋。胴部に縄紋カ。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい褐・黒褐色。外一にぶい赤褐色。F. 胴部ほぼ完形。
8	縄紋土器 深鉢	A. 口径(24.9)。B. 折返状口縁。C. 外面、密接平行沈線紋（内皮痕残存）による口縁部区画・入組文→三角印刻紋。口唇部・口唇下肥厚部に刺突列（沈線紋と同一工具カ）・三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一浅黄褐色。外一黄褐色。F. 口縁部 1/4。G. G6G 出土遺物と接合。
9	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、口唇下に細い斜位平行沈線紋（内皮痕残存）。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一灰黄褐色。F. 口縁部片。
10	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、キザミ列。口唇部にキザミ。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外一黄褐色。F. 口縁部片。
11	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、結節を伴う結束羽状縄紋（RL・LR）。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、粗い横位ナデ。内面、粗い横位ナデ・工具痕。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 胴部片。
13	石器 凹石	A. 長 10.3。幅 6.2。厚 4.2。重 456.0。D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。表・裏面および両側縁に顕著な磨耗痕。両側縁は磨耗により平滑化。裏面中央や下端部に凹穴。凹→磨。
14	石器 凹石	A. 長 11.2。幅 6.1。厚 5.6。重 712.7。D. 砂岩。F. 完形。G. 長方形。表・裏面や両側縁に顕著な磨耗痕。両側面や上・下は敲・磨痕により平滑化。下端部に顕著な敲打痕。凹→磨。
15	石器 敲石	A. 長 14.3。幅 5.6。厚 2.8。重 281.3。D. 頁岩。F. 完形。G. 棒状礫の表面上部に敲打痕。下端部は敲打による剥離痕が顕著。剥離痕の周辺に磨耗痕。

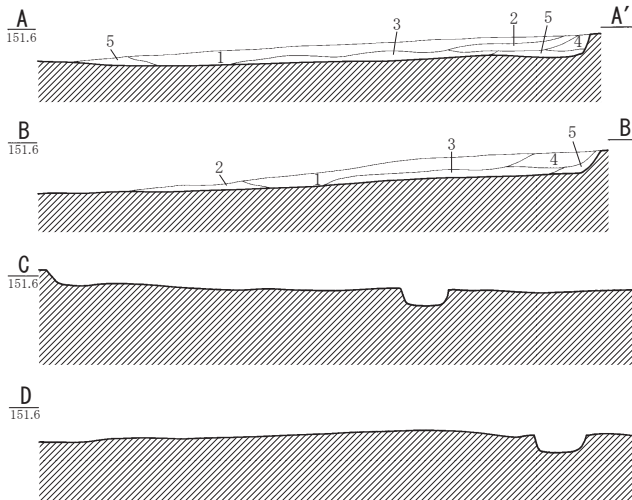
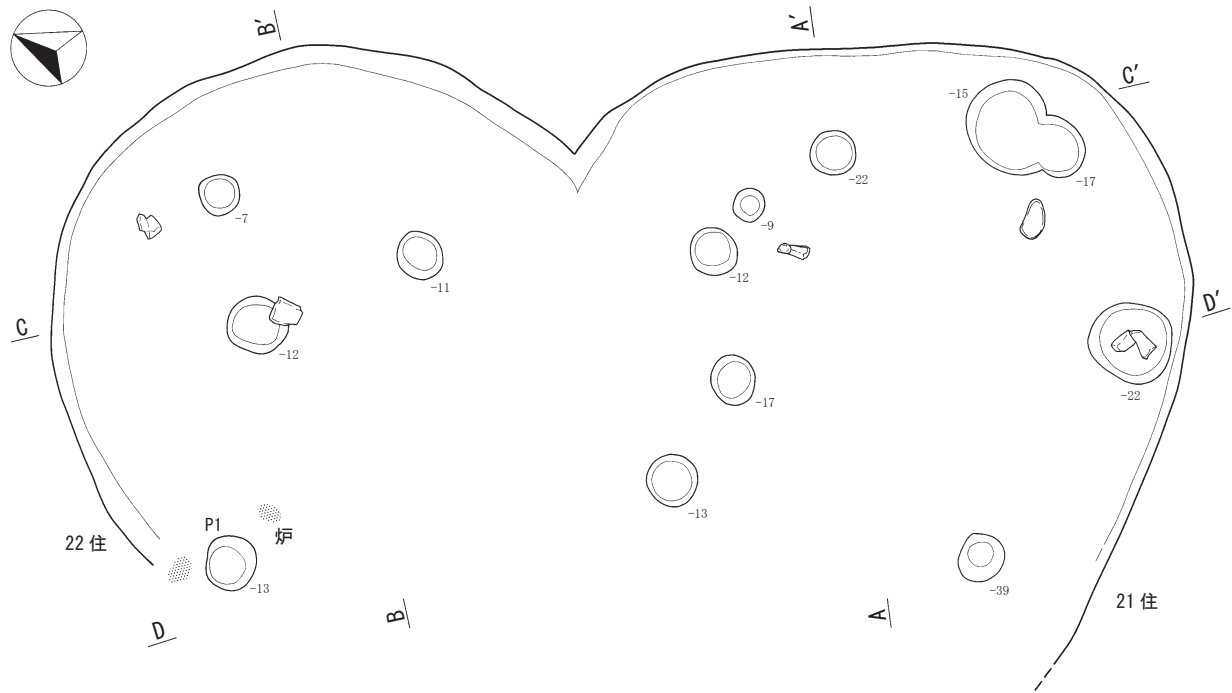
21号住居跡（第70・71図、写真図版8・35）

**位置**：調査区の南西側、C 16・17、D 16・17 グリッドに所在する。22号住居跡と重複し、出土遺物から本遺構が新しいと想定される。**形態**：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は不整な隅丸方形を呈するものと推測される。**主軸方位**：不明。**規模**：不明。**炉**：未検出。**柱穴**：9基。規則的な配置は認められない。**遺物**：少量の遺物が散在する。早期後葉ないし末葉、前期前葉・後葉の縄紋土器片が認められ、前期前葉・後葉が多くを占める。**時期**：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯 a 式に比定され、関山Ⅱ式期の遺構が重複するものと推測される。（高橋）

22号住居跡（第70・72図、写真図版9・36）

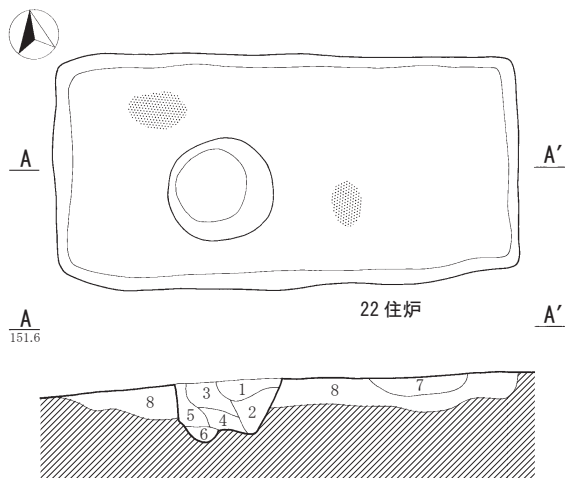
**位置**：調査区の南西側、C 15・16、D 15・16 グリッドに所在する。21号住居跡と重複し、出土遺物から本遺構が古いと想定される。**形態**：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は不整な楕円形を呈するものの、炉の位置と整合しない。**主軸方位**：S - 27° - W。**規模**：東西軸長 4.65 m。**炉**：西壁際に焼土集中部分が認められ、その周囲にも焼土粒や炭化物が広がる。また、掘り方を有する。**柱穴**：4基。焼土集中部分脇の P 1 内には多量の焼土粒や炭化物が混入する。**遺物**：少量の遺物が竪穴の北東側を中心に散在する。前期初頭・中葉～後葉、中期中葉の縄紋土器片が認められ、有尾式がほとんどを占める。**時期**：出土遺物から縄紋時代前期中葉有尾式期に比定される。（高橋）





21号住居跡 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を含む。
- 2: 茶褐色土層。白色粒子を多量含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 3: 茶褐色土層。ロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
- 5: 茶褐色土層。ロームブロックを多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性なし、しまりあり。

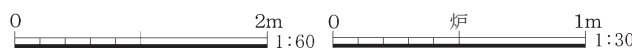


22号住居跡 埋没土層

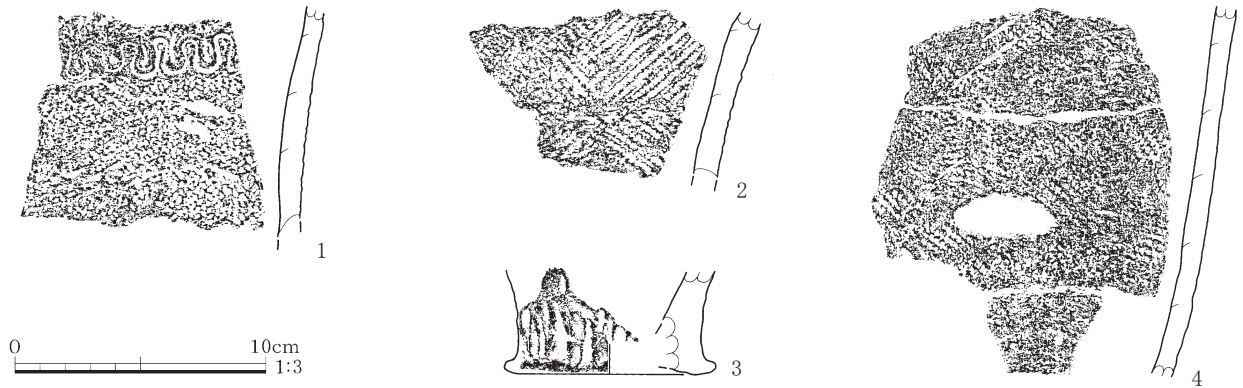
- 1: 黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を多量含む。粘性なし、しまりややあり。
- 3: 黒褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量含む。粘性なし、しまりややあり。
- 4: 黒褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 5: 黒褐色土層。ローム粒子を多量、白色粒子を中量、小礫を微量含む。粘性・しまりややあり。

22号住居跡炉 埋没土層

- 1: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を多量、白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2: 褐色土層。ローム粒子・焼土粒子を多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性なし、しまりあり。
- 3: 黄褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、焼土粒子を少量、炭化物粒子・白色粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 4: 黄褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 5: 茶褐色土層。ローム粒子を少量、焼土粒子・白色粒子を微量含む。
- 6: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 7: 茶褐色土層。ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 8: 淡茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性ややなし、しまりあり。



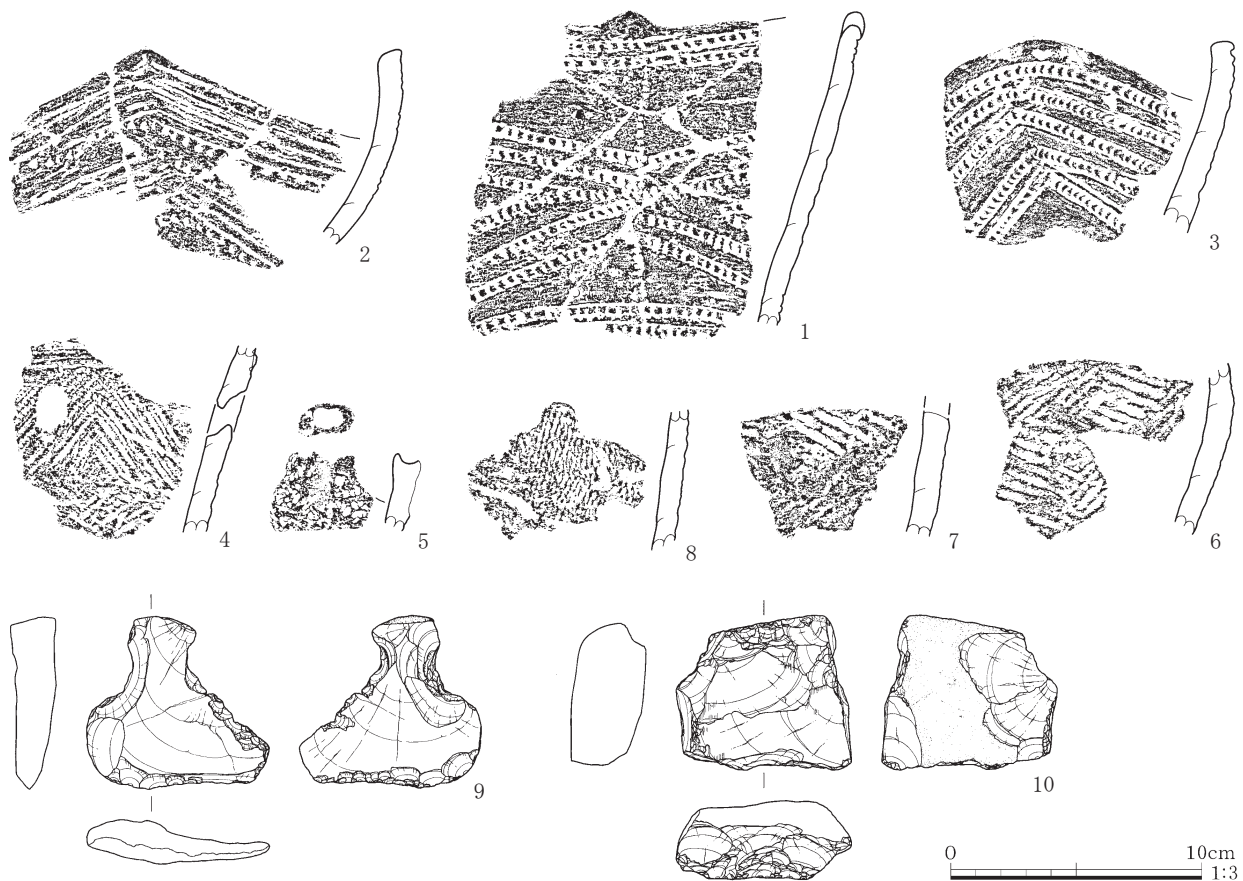
第70図 21・22号住居跡



第71図 21号住居跡出土遺物

21号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、組紐縄紋→コンパス紋（内皮痕残存）。内面、縦位ミガキ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋（RL+L・LR+R、付加条1種）。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-黄橙色。F. 胴部片。
3	縄紋土器 深鉢	A. 底径（8.3）。C. 外面、縦位短凹線紋。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 繊維。E. 内-灰褐色。外-明赤褐色。F. 底部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-黄橙色。外-明赤褐色。F. 胴部片。



第72図 22号住居跡出土遺物

22号住居跡出土遺物観察表（1）

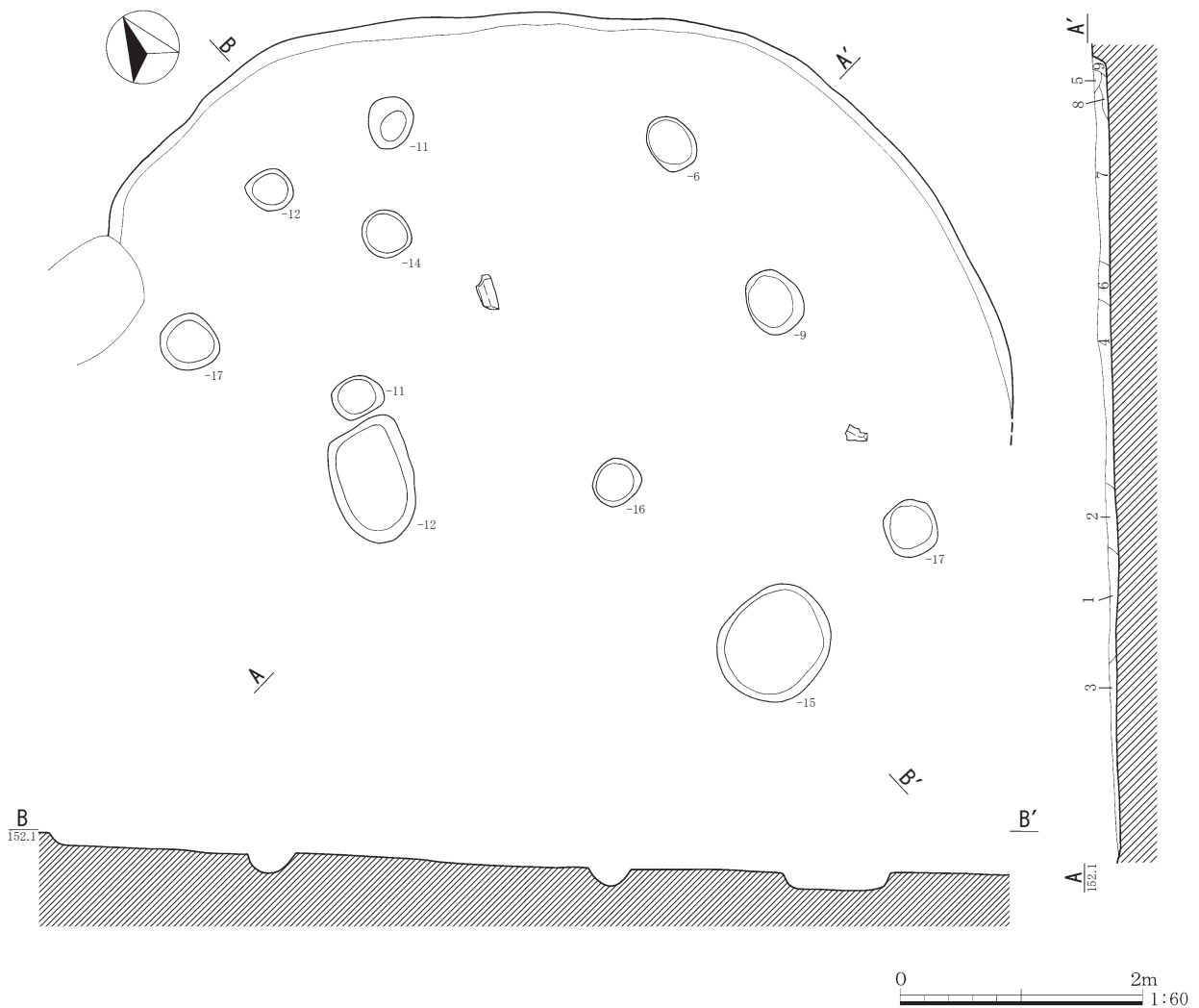
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による口縁部区画・菱形文。列点状刺突紋で縦位区画。口唇部に小突起。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。G. C15G 出土遺物と接鉢。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存）による区画・菱形文カ→沈線紋に沿う刺突列（沈線紋と同一工具の背面カ）。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。

22号住居跡出土遺物観察表(2)

3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・菱形文カ。内面、斜位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)による区画→胴部に羽状縄紋(RL+L・LR+R、付加条1種)。沈線の上に細かい刺突列。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-橙色。外-褐灰色。F. 口縁~胴部片。G. 焼成後穿孔。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、ループ紋(RL)。口縁波頂部に凹紋を伴う突起。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR、前々段多条)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 胴部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(R・L)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸紋(R)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-灰黄褐色。外-橙色。F. 胴部片。G. 23号住居跡出土遺物と接合。
9	石器 石匙	A. 長6.9。幅7.3。厚1.8。重54.8。C. 剥片の縁辺部に両面調整を施し刃部とする。やや粗雑な整形。D. 頁岩。F. 完形。G. 横型。つまみあり。刃部周辺に微細剥離痕。被熱により表面の一部に亀裂痕。
10	石器 礫器	A. 長6.2。幅7.0。厚3.2。重166.3。C. 割礫の三側縁に急角度な片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。

23号住居跡(第73・74図、写真図版9・36・37)

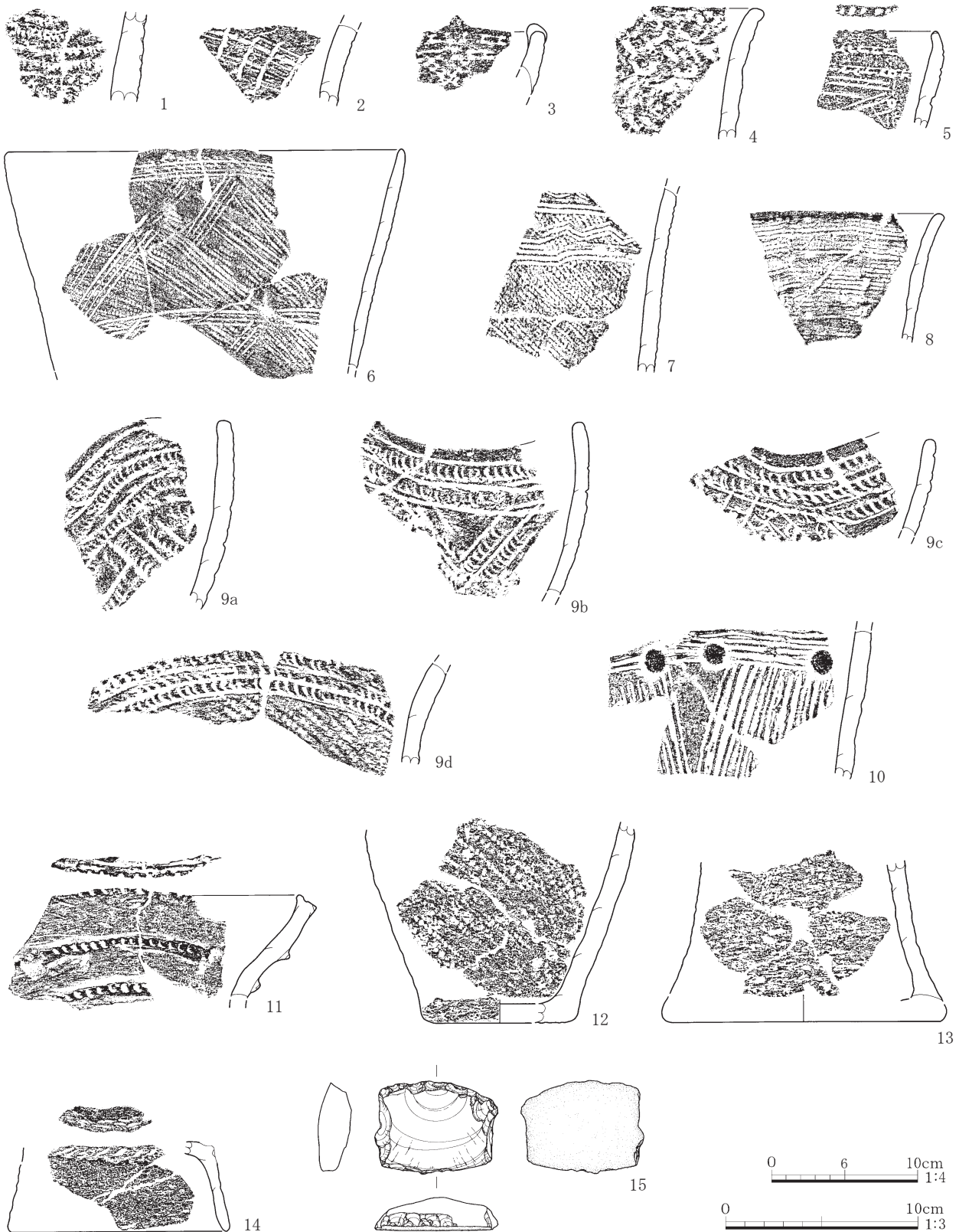
位置: 調査区の南西側、D 14・15 グリッドに所在する。形態: 南西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は楕円形を呈するものと推測される。主軸方位: 不明。規模: 不明。炉: 未検出。



第73図 23号住居跡

23号住居跡 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。炭化物粒子が混じる。粘性あり、しまりややあり。  
 2: 褐色土層。ローム風化土・炭化物粒子を含む。粘性・しまりなし。  
 3: 淡褐色土層。ローム粒子を多量含む。ロームブロックが混じる。粘性・しまりなし。  
 4: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・ロームブロックを少量、炭化物粒子を微量含む。粘性ややあり、しまりあり。  
 5: 褐色土層。ローム風化土主体。粘性なし、しまりあり。  
 6: 褐色土層。ロームブロックを多量、白色粒子を少量含む。粘性ややあり、しまりなし。  
 7: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ロームブロックを少量含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性ややあり、しまりあり。  
 8: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。  
 9: 淡茶褐色土層。ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりややあり。



第74図 23号住居跡出土遺物

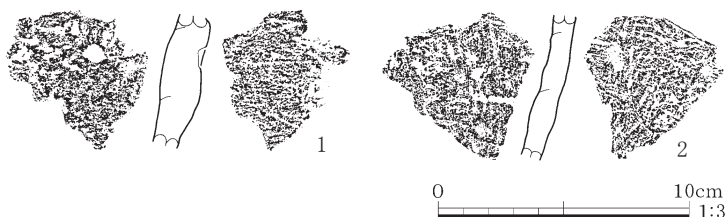
柱穴：11基。規則的な配置は認められない。遺物：やや多量の遺物が竪穴中央から北側にかけて分布する。前期前葉～末葉の縄紋土器片が認められ、前期後葉が多くを占める。時期：出土遺物から縄紋時代前期後葉に比定される。(高橋)

23号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ(尖頭状工具)を伴う単沈線紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-明褐色。外-黒褐色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(多截竹管状工具)→キザミ(沈線紋と同一工具カ)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節平行沈線紋による区画等。口唇部に小突起。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節縄紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-明褐色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)→爪形紋で横位、細い単沈線紋で縦位区画→条線紋(4条1対)による米字文カ→円紋。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外-浅黄色。F. 口縁部片。
6	縄紋土器 深鉢	A. 口径(27.8)。C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋による区画・鋸歯文等。内面、横・斜位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁～胴部片。G. 17号住居跡出土遺物と接合。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL、直前段3条)→条線紋(3条1対)による区画、波状文・横位文。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋(5条1対)による横位文。内面、横・斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. 土坑。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画等。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-橙・にぶい橙色。F. 口縁・胴部片。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横・斜位集合沈線紋→ボタン状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯貼付→隆帯上・口唇部外縁に刺突列(半截竹管状工具)。口唇部に単沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。G. C14G出土遺物と接合。
12	縄紋土器 深鉢	A. 底径(7.8)。C. 外面、縄紋(RL)。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 片岩・多量の石英。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 底部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位ケズリ。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 底部片。
14	縄紋土器 台付鉢	A. 底径(11.3)。C. 内外面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 脚部片。G. 接合部分に爪による刺突。
15	石器 礫器	A. 長5.0。幅6.4。厚1.8。重63.2。C. 割礫の周縁に急角度な片面調整。D. 頁岩。F. 完形。

24号住居跡(第75・76図、写真図版9・37)

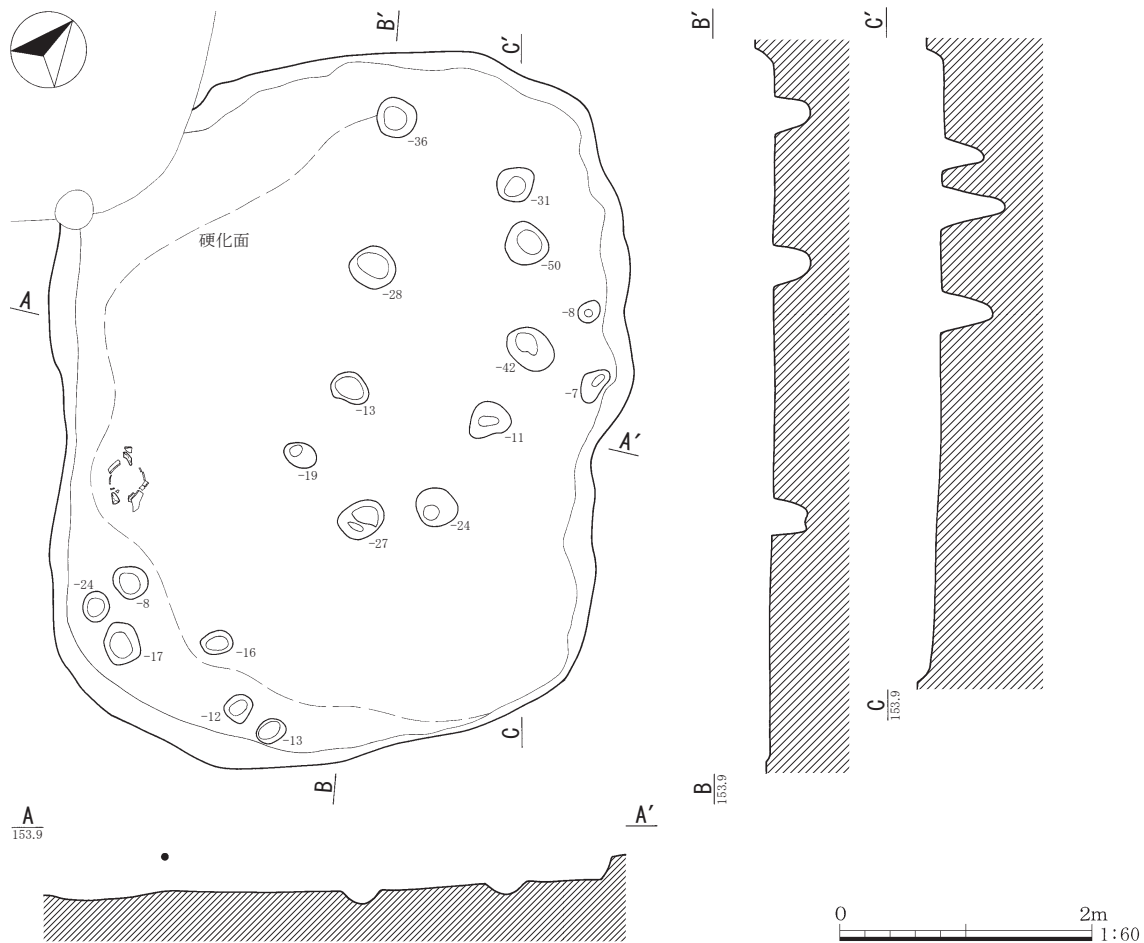
位置：調査区の中央、H 10・11、I 10・11グリッドに所在する。11b号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面は隅丸長方形を呈する。床面に硬化面が見受けられ、中央部分が僅かに窪む。主軸方位：S-37°-W。規模：南北軸長5.61m、東西軸長4.56m。炉：未検出。柱穴：18基。規則的な配置は認められない。遺物：南東壁際の上層において縄紋土器の深鉢が逆位の状態で出土した。他に、早期後葉ないし末葉の土器片が数点検出されている。時期：住居跡の形態等から縄紋時代に比定される。(高橋)



第75図 24号住居跡出土遺物

24号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、ナデ。内面、斜位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片カ。H. 床下。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位条痕紋。内面、斜位条痕紋。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 胴部片。H. 床下。



第 76 図 24 号住居跡

25 号住居跡 (第 77 図、写真図版 9)

**位置**：調査区の南側、G 19・H 19 グリッドに所在する。南側の大半は調査区外にかかる。26 号住居跡と重複し、本遺構が新しい。**形態**：平面は方形ないし長方形を呈するものと推測される。床面下には掘り方を有する。なお、埋没土中に粘土や灰が見受けられることから、カマドの存在が予想されよう。**主軸方位**：N - 13° - E。**規模**：東西軸長 4.77 m。**カマド**：未検出。**柱穴**：1 基。**遺物**：未検出。**時期**：不明であるが、住居跡の形態や埋没土の状態から古墳時代以降に想定される。(高橋)

26a・26b・26c 号住居跡 (第 77～81 図、写真図版 9・10・37・38)

**位置**：調査区の南側、G 18・19、H 18・19、I 18・19 グリッドに所在する。南側は調査区外にかかる。25・26a・26b・26c・27b 号住居跡や土坑が重複し、27b 号住居跡→26c 号住居跡→26b 号住居跡→26a 号住居跡→25 号住居跡の新旧関係が窺われた。**遺物**：多量の遺物が出土し、早期後葉ないし末葉、前期初頭～末葉の縄紋土器片が認められた。前期前半および諸磯 a・b・c 式が多くを占める。諸磯 a・c 式は残存状態が比較的良い。26a 号住居跡の上層から珧状耳飾 (第 81 図 39) が出土している。また、26c 号住居跡の下層ないし床面上では土器の底部 (第 80 図 31・32) やミニチュア土器 (24) および大型礫が検出された。

26a 号住居跡

**形態**：平面は隅丸長方形を呈するものと推測される。**主軸方位**：S - 42° - W。**規模**：不明。**炉**：未検出。

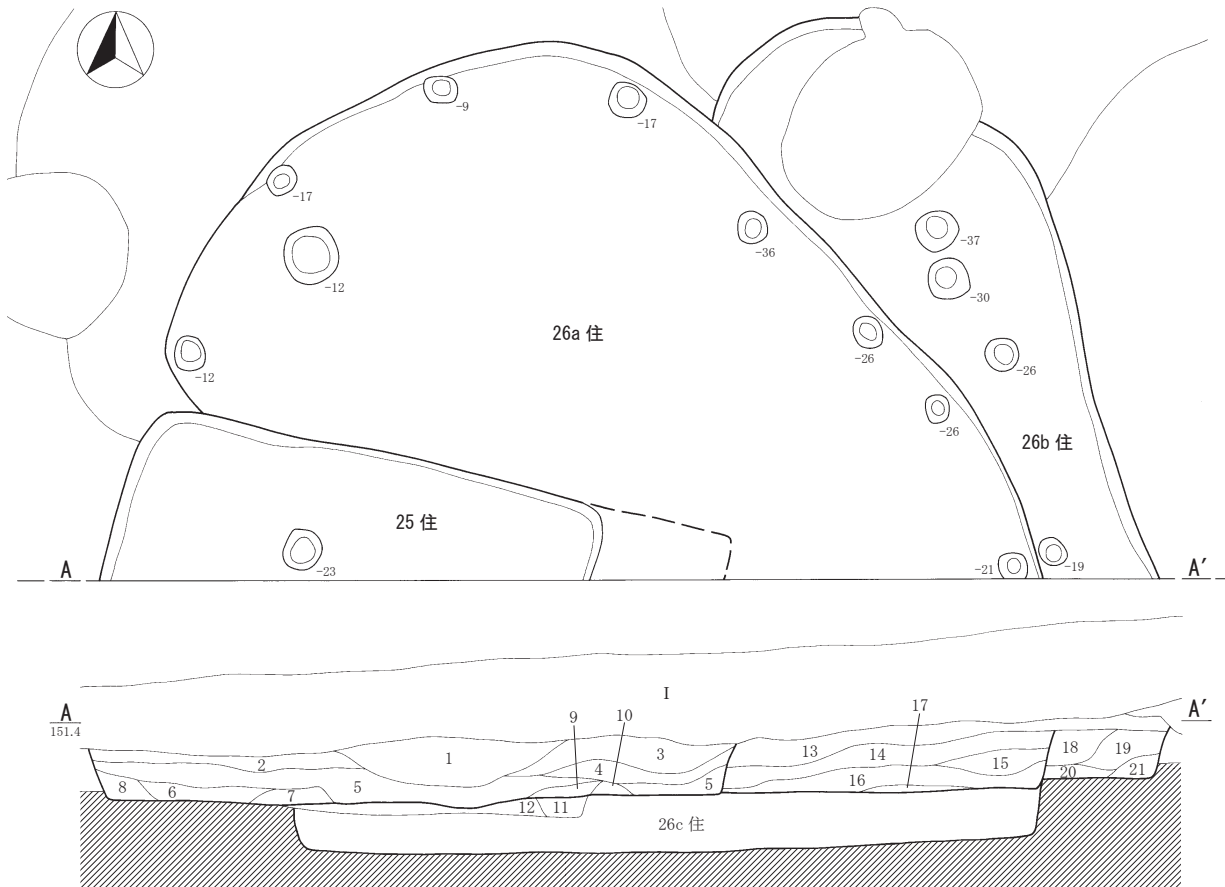
柱穴：9基。小穴が壁際に巡る。時期：住居跡の新旧関係や出土遺物より縄紋時代前期後葉諸磯b式～末葉十三菩提式期に比定される。

26b号住居跡

形態：不明。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：4基。時期：住居跡の新旧関係や出土遺物より縄紋時代前期後葉諸磯b式～末葉十三菩提式期に比定される。

26c号住居跡

形態：平面は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推測される。主軸方位：S-2°-E。規模：

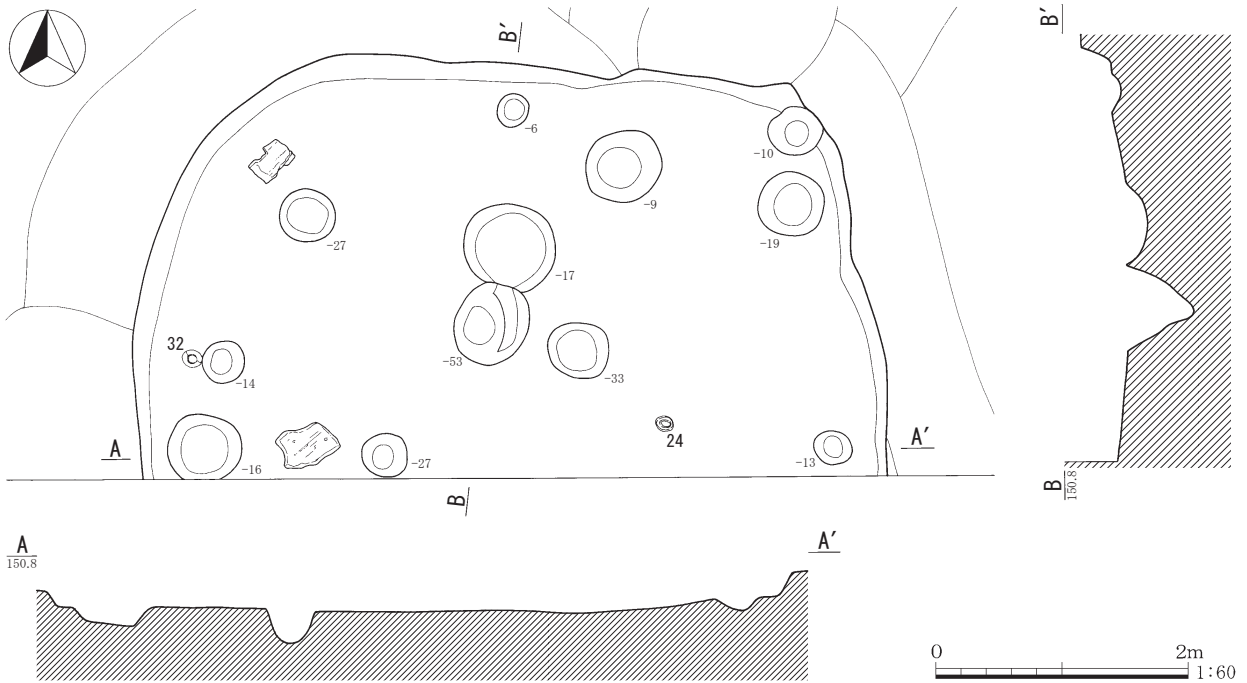


25・26a・26b号住居跡 埋没土層

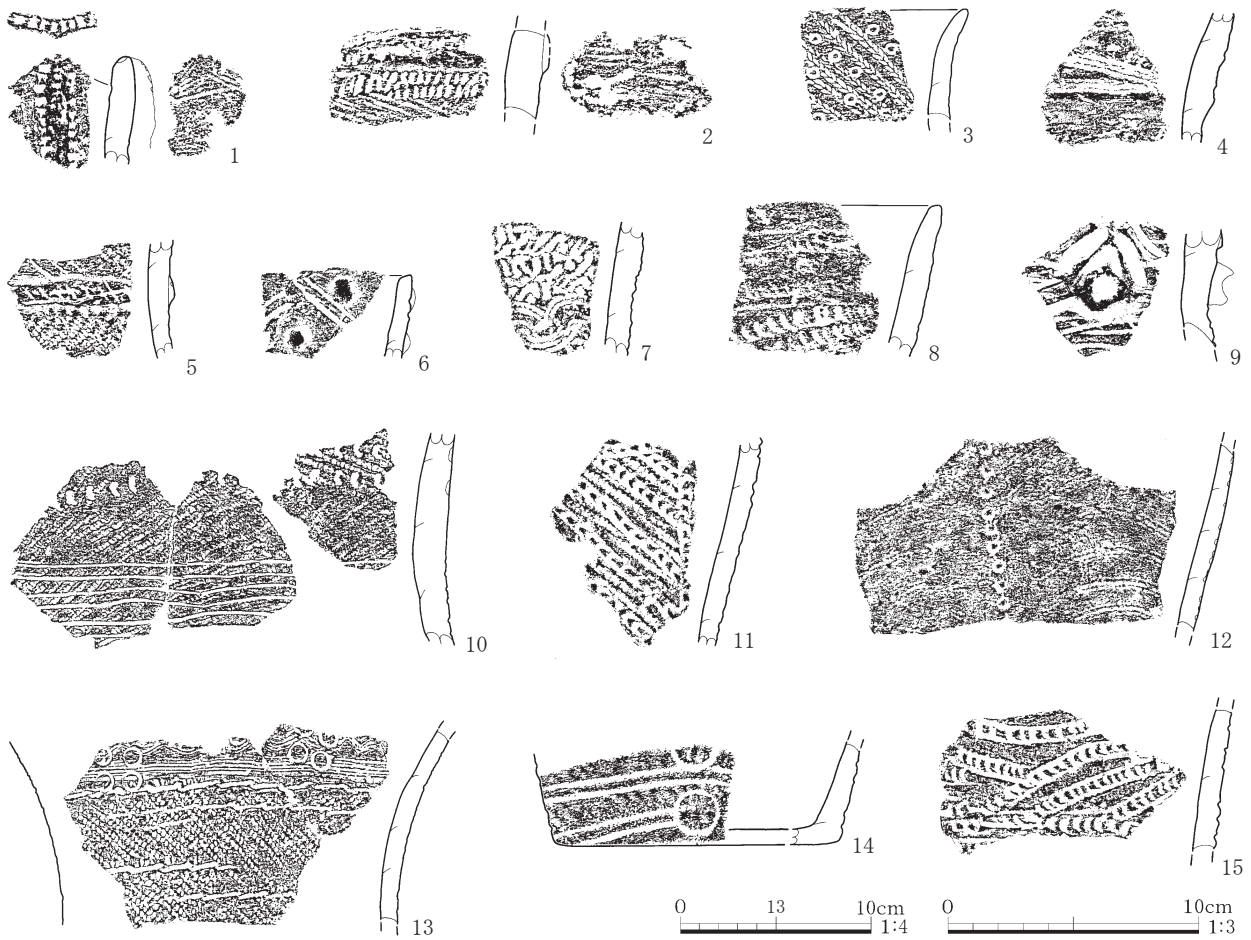
- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1: 暗茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・片岩粒を少量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>2: 明褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・小礫を含む。粘性・しまりあり。</p> <p>4: 暗茶褐色土層。3層に近似するが、色調が暗く、大径の炭化物を含む。</p> <p>5: 茶褐色土層。炭化物粒子を多量、ローム粒子・小礫を少量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>6: 明褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>7: 明黒褐色土層。白色粒子を少量、炭化物ブロックを微量含む。褐色土が混じる。粘性・しまりあり。</p> <p>8: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を微量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりややあり。</p> <p>9: 明黒褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>10: 明灰褐色土層。粘土を主体とし、炭化物粒子・小礫を含む。</p> <p>11: 明黒褐色土層。炭化物粒子を多量含む。灰が混じる。粘性・しまりややあり。</p> | <p>12: 黒色土層。ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。茶褐色土が混じる。粘性・しまりあり。</p> <p>13: 茶褐色土層。斑状の黒色土を少量、炭化物粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。</p> <p>14: 暗茶褐色土層。ローム粒子を少量、炭化物粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。</p> <p>15: 茶褐色土層。ローム粒子を微量含む。白色粒が混じる。粘性・しまりややあり。</p> <p>16: 明黒褐色土層。ローム粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。ローム風化土が混じる。粘性あり、しまりなし。</p> <p>17: 黒褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>18: 茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>19: 明黒褐色土層。白色粒子を微量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりあり。</p> <p>20: 暗茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。</p> <p>21: 黒褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第 77 図 25・26a・26b号住居跡

東西軸長 5.97 m。炉：未検出。柱穴：12 基。小穴が壁際に巡る。主柱穴の判別は難しい。時期：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯 b 式期に比定される。（高橋）



第 78 図 26c 号住居跡

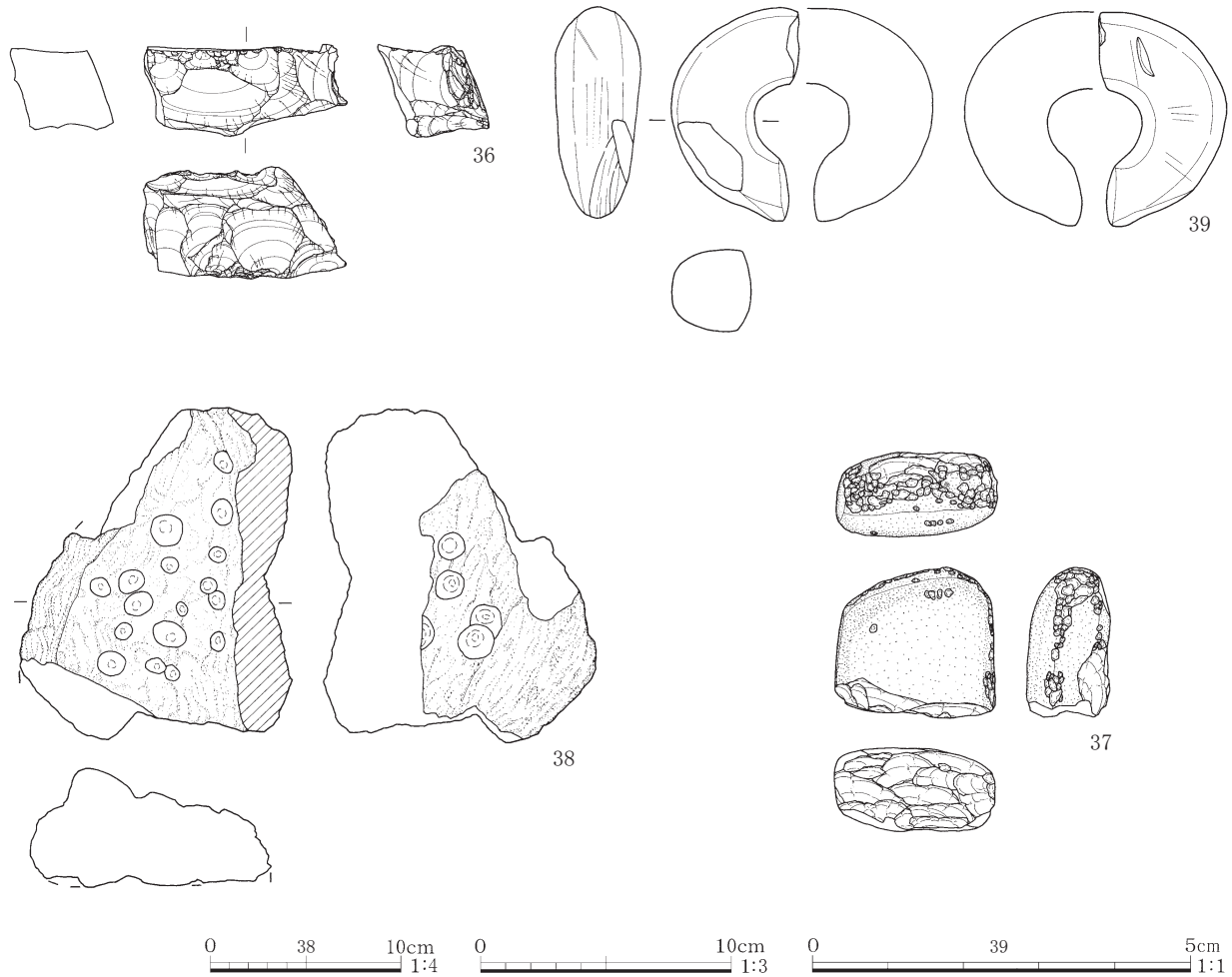


第 79 図 26a・26b・26c 号住居跡出土遺物 (1)





第 80 图 26a · 26b · 26c 号住居跡出土遺物 (2)



第 81 図 26a・26b・26c 号住居跡出土遺物 (3)

26 号住居跡出土遺物観察表 (1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、垂下隆帯→隆帯上・隆帯脇・口唇部に結節沈線紋 (多截竹管状工具)。内面、横位条痕紋。 D. 片岩・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位条痕紋。横位隆帯→絡条体圧痕紋 (角棒状の軸にLの撚糸をR巻)。内面、横位条痕紋。 D. 片岩・繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁~胴部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸側面圧痕紋 (L・R) →円紋。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、撚糸側面圧痕紋 (L・R・L) →刺切紋。胴部に縄紋 (LR)。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL・LR) →隆帯による口縁部区画→隆帯上・脇にキザミ (尖頭状工具)。口縁部に単沈線紋 (尖頭状工具)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋→貼付紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-明褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節縄文カ→コンパス紋 (楯歯状工具、4条1対)。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯で口縁部区画→環状突起・隆起線紋→半截竹管状工具による調整→鋭い横位単沈線紋 (調整と同一工具カ)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。H. 26b 号住居跡。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR) →刺突列 (半截竹管状工具)・平行沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。G. F15G 出土遺物と同一個体。H. 26c 号住居跡。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL) →爪形紋による米字文カ。内面、丁寧なナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-褐色。F. 胴部片。

26号住居跡出土遺物観察表(2)

12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋(3条1対)による肋骨文→円紋で縦位区画。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋(5条1対)による口縁部区画・波状文→円紋で縦位区画。胴部に結節を伴う斜縄紋(RL)。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 口縁~胴部片。
14	縄紋土器 深鉢	A. 底径(11.2)。C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋(内皮痕残存)→円紋。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 特になし。E. 内-黄橙色。外-橙色。F. 底部片。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う縄紋(RL)→平行沈線紋(内皮痕残存)。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。H. 26c号住居跡。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画→集合沈線紋。内面、ケズリ→横位ミガキ。D. 特になし。E. 内外-橙色。F. 胴部片。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。
19	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状集合沈線紋→結節浮線紋・ボタン状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
20	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→結節浮線紋→ボタン状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-灰褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
21	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)→ボタン状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
22	縄紋土器 深鉢	A. 底径(9.0)。C. 外面、横位集合沈線紋。内面、横位ナデ。底面、工具痕カ。D. 片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 底部3/4。
23	縄紋土器 浅鉢	A. 底径(9.5)。C. 外面、隆帯による区画→斜縄紋(LR、再湿化後施紋)・平行沈線紋。内面、丁寧な横位ナデ。底面、ナデ。D. 特になし。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 底部片。
24	縄紋土器 ミニチュア土器	A. 口径(5.8)。底径(4.9)。器高(5.0)。C. 外面、ナデ。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 多量の角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部1/2、底部完形。H. 26c号住居跡。
25	縄紋土器 深鉢	A. 口径(12.7)。C. 外面、集合沈線紋による区画・鋸歯文→三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-橙色。F. 口縁~胴部片。H. 26c号住居跡。
26	縄紋土器 深鉢	C. 外面、押圧付隆帯・密接平行沈線紋(内皮痕残存)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁~胴部片。
27	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縦位集合沈線紋→単沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい褐色。外-明赤褐色。F. 口縁部片。
28	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→単沈線紋→三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。
29	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節沈線紋(櫛歯状工具)・単沈線紋。内面、斜位ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。
30	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、斜縄紋(LR)。内面、斜位ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい褐色。F. 胴部片。
31	縄紋土器 深鉢	A. 底径11.4。C. 外面、斜縄紋(LR)。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内-黒褐色。外-にぶい褐色。F. 底部完形。
32	縄紋土器 深鉢	A. 底径(12.2)。C. 外面、縄紋(LR)。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい褐色。外-橙色。F. 底部3/4。H. 26c号住居跡。
33	土製品 土製円盤	A. 径3.8。厚0.8。C. 表面、縄紋(RL)。裏面、縦位ナデ。D. 片岩。E. 表-褐色。裏-にぶい褐色。F. 折損。
34	石器 石鏃	A. 長2.6。幅2.2。厚0.7。重3.8。D. チャート。F. 完形。G. 未成品。
35	石器 打製石斧	A. 長7.9。幅5.2。厚2.5。重125.7。C. 割礫の両側縁に半両面調整。刃部は片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 短冊形。刃部に微細剥離痕。
36	石器 礫器	A. 長3.8。幅8.2。厚4.5。重151.2。C. 割礫の二側縁に急角度な片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。
37	石器 敲石	A. 長5.9。幅6.4。厚3.3。重201.9。D. 頁岩。F. 完形。G. 割礫の両側縁および上端部に顕著な敲打痕。下端部に剥離痕。H. 26c号住居跡。
38	石器 多孔石	A. 長[17.6]。幅[14.4]。厚6.3。重1,770.8。D. 緑色岩類。F. 大半が欠損。G. 板状礫の表・裏面に漏斗状の凹欠が多数。
39	石製品 球状耳飾	A. 長2.8。幅[1.7]。厚1.2。重6.9。C. 整形はやや粗雑。D. 滑石。F. 1/2。G. 円環状。断面は丸みを帯びる。切り込みの工具痕は不明瞭。

27a・27b号住居跡(第82・83図、写真図版9・10・39)

位置：調査区の南側、I 18・19、J 18・19 グリッドに所在する。南・東側は調査区外にかかる。26・27a・27b・28号住居跡や土坑が重複し、26号住居跡→27b号住居跡→27a号住居跡の新旧関係が窺われた。遺物：多量の遺物が堅穴内に広く分布する。早期後葉ないし末葉、前期初頭・末葉、中期初

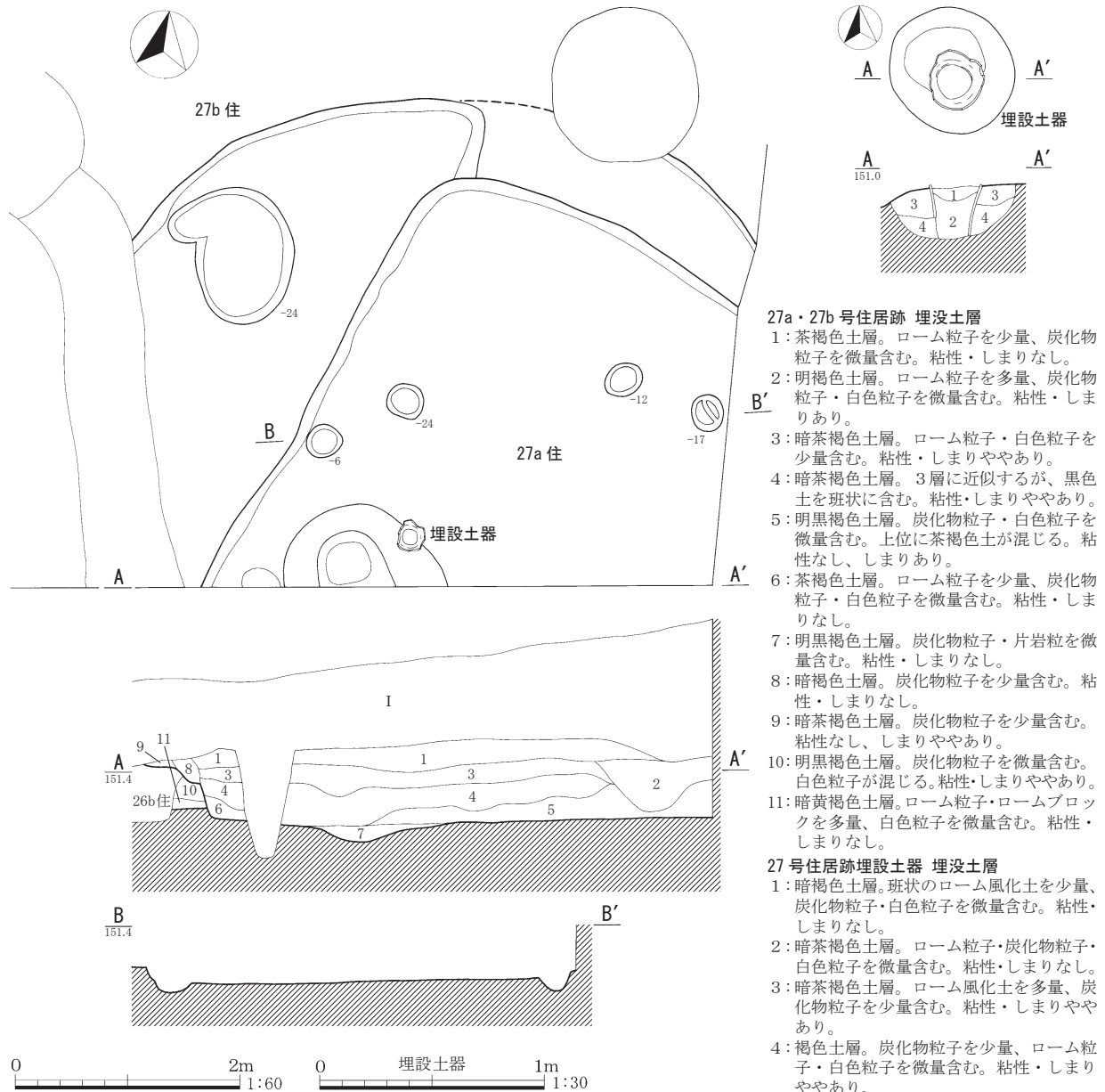
頭の縄紋土器片が認められ、前期前葉および諸磯b式・十三菩提式が多くを占める。27a号住居跡で十三菩提式の深鉢（第39図6）を使用した埋設土器が検出された。

27a号住居跡

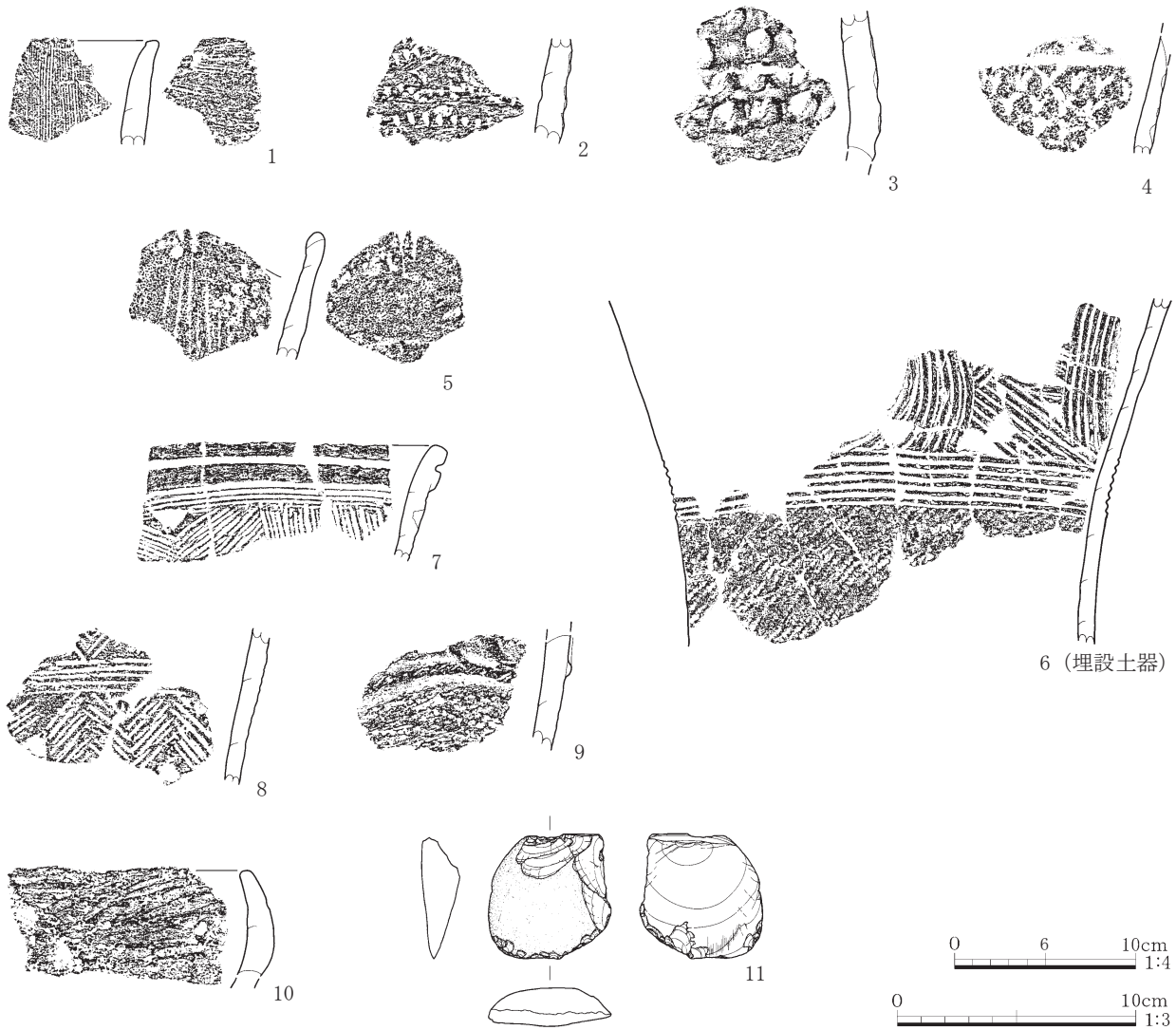
形態：平面は方形ないし長方形を呈するものと推測される。埋設土器の脇には土坑状の掘り込みが認められる。主軸方位：S - 22° - E。規模：不明。炉：未検出。柱穴：4基。規則的な配置は認められない。埋設土器：口縁部や胴部下半を欠損する深鉢が正位の状態検出された。時期：埋設土器から縄紋時代前期末葉十三菩提式期に比定される。

27b号住居跡

形態：平面は円形ないし楕円形を呈するものと推測される。床面に段を有し、土坑状の掘り込みが認められる。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：未検出。時期：住居跡の新旧関係より縄紋時代前期末葉十三菩提式期以前に比定される。（高橋）



第 82 図 27a・27b号住居跡



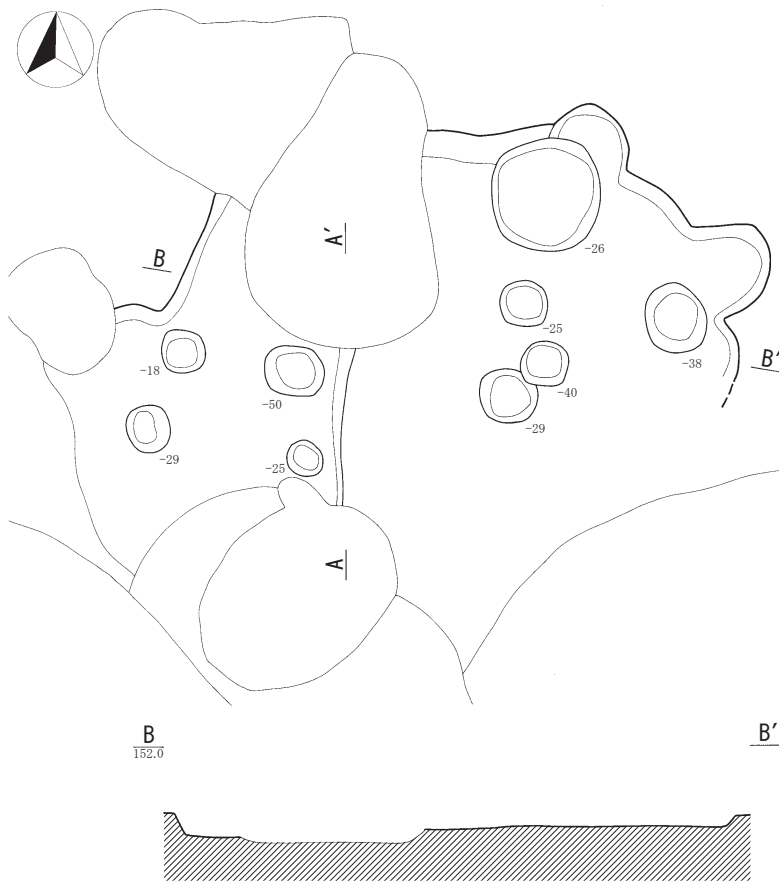
第 83 図 27a・27b 号住居跡出土遺物

27 号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細かい縦位条痕紋。内面、細かい横位条痕紋。D. 繊維。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯による口縁部区画等。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、凹凸紋(指頭)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一橙色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片カ。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、凹凸紋(指頭)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片カ。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位集合沈線紋カ。波頂部にキザミ。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、密接平行沈線紋(内皮痕一部残存)による区画・入組文→印刻。胴部に斜縄紋(LR)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部片。G. 焼成不良。H. 埋設土器。
7	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、条線紋(5条1対)による区画、縦位羽状文・縦位文→三角印刻紋。口唇下に単沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。G. I16G 出土遺物と接合。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋による区画・鋸歯文→三角印刻紋。内面、横・縦位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一橙色。F. 胴部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯→縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 雲母。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 胴部片。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、粗い横・斜位ナデ。内面、粗い横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部片。
11	石器 スクレイパー	A. 長 5.3。幅 5.2。厚 1.6。重 47.8。C. 割礫の縁辺に両面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部周辺に磨耗痕。

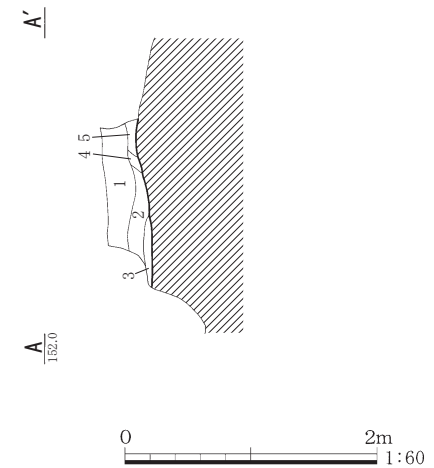
28号住居跡（第84～86図、写真図版9・10・39）

位置：調査区の南側、H 18・I 18 グリッドに所在する。26・27・29号住居跡や土坑・小穴と重複し、本遺構が土坑より古い。形態：平面形は不整である。床面に段が見受けられる。軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：9基。規則的な配置は認められない。遺物：多量の遺物が竪穴内に広く分布する。早期後葉～末葉、前期初頭・中葉～末葉の縄紋土器片が認められる。前期前半および諸磯 a・b 式が多く、前期前半には大型破片（第85・86図8・9）が見受けられる。東関東系の浮島Ⅲ

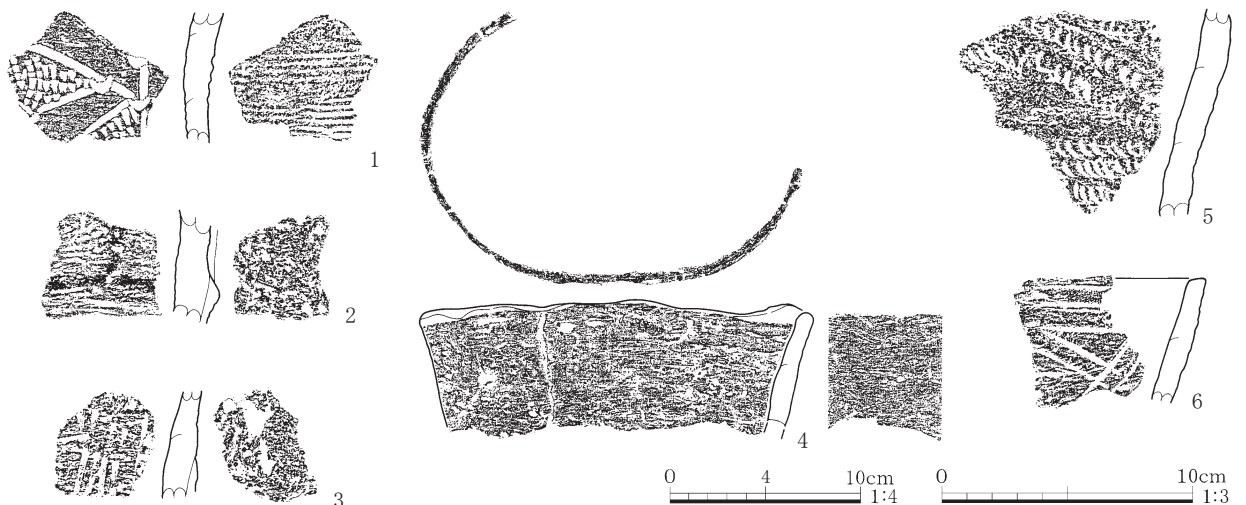


28号住居跡 埋没土層

- 1: 暗茶褐色土層。白色粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。ブロック状の黒色土が混じる。粘性・しまりややあり。
- 2: 明黒褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・細砂を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 3: 暗黄褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量を含む。黒褐色土が層状に混じる。粘性・しまりあり。
- 4: 茶褐色土層。白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 5: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を微量含む。ブロック状の黒色土やローム風化土が混じる。粘性・しまりややあり。



第84図 28号住居跡



第85図 28号住居跡出土遺物（1）

式(14)や関西系の北白川下層Ⅱb式(15)も伴出する。なお、早期後葉の大型破片(4)も検出されており、周囲の小穴等に起因するものと推測される。時期：縄紋時代前期に比定される。(高橋)



第86図 28号住居跡出土遺物(2)

28号住居跡出土遺物観察表(1)

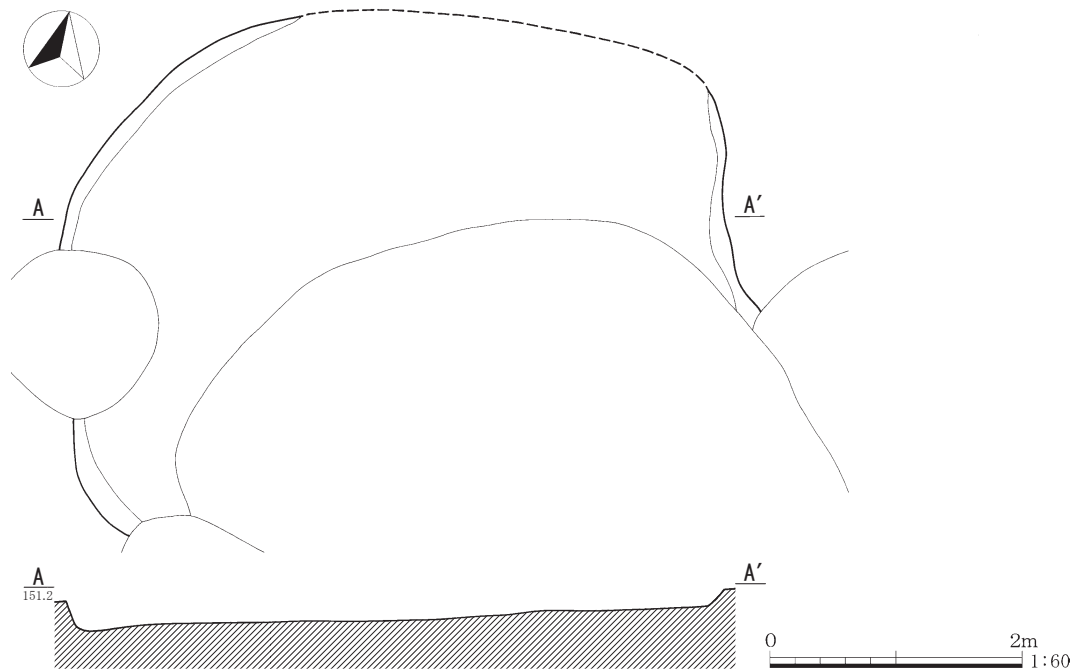
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、単沈線紋による縦位・樽状分割→分割内に結節沈線紋(2本1対の丸棒状工具)→分割の交点に刺突紋(竹管状工具)。内面、横位条痕紋。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯で横・縦位区画→区画内に貝殻背圧痕紋。胴部に横位貝殻条痕紋。内面、斜位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁部片。H. 土坑。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位刺突列(半截竹管状工具)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	A. 口径(14.8~20.7)。C. 内外面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部3/4。G. 平断面が楕円状を呈する。G. 26号住居跡出土遺物と接合。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による菱形文カ。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい褐色。外-橙色。F. 口縁部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)による区画等。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RLL)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-明黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-浅黄色。外-明黄褐色。F. 胴部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)。内面、横・斜位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 胴下半部1/2。
10	縄紋土器 深鉢	A. 底径(10.1)。C. 外面、多段ループ紋(LR)。内面、ナデ。底面、多段ループ紋(LR)。D. 繊維。E. 内-黒褐色。外-橙色。F. 底部1/4。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)→平行沈線紋(内皮痕残存)による波状文・横位文→縦位円紋列。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁~胴部片。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ケズリ→ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋→条線紋(4条1対)による波状文等。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。

28号住居跡出土遺物観察表(2)

14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、三角紋。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴部片。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、幅広爪形紋。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 胴部片。G. 外面に赤彩痕。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→三角印刻紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 胴部片。
17	石器 スクレイパー	A. 長5.9。幅6.2。厚2.5。重103.0。C. 割礫の周縁に両面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 小形撥形。刃部に微細剥離痕。小形の打製石斧カ。

29号住居跡(第87図、写真図版9)

**位置**：調査区の南側、G 18・19、H 18 グリッドに所在する。25・26・28号住居跡や土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。**形態**：平面は不整ながら楕円形を呈するものと推測される。**主軸方位**：S-73°-E。**規模**：東西軸長5.35m。**炉**：未検出。**柱穴**：未検出。**遺物**：未検出。**時期**：住居跡の形態等から縄紋時代に比定される。(高橋)



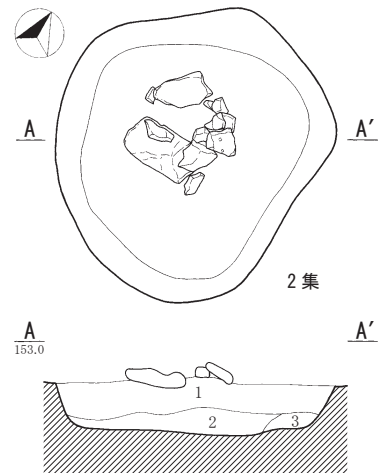
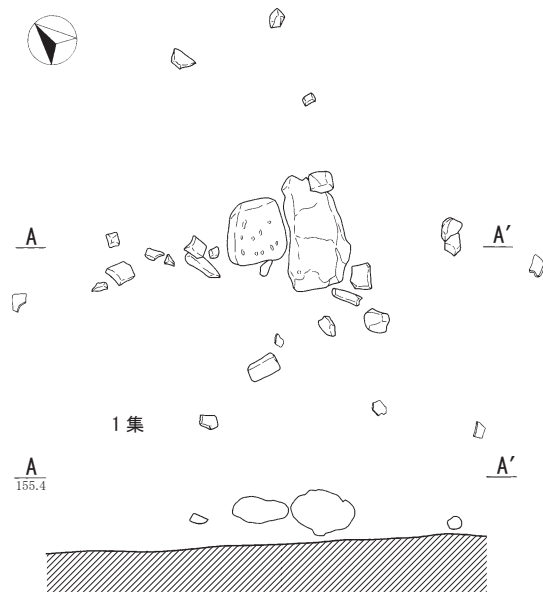
第87図 29号住居跡

2. 集石遺構(第88図、写真図版10・40)

4基を確認した(1~4号集石遺構)。分布は調査区北側・中央・南側(H 5・D 10・F 18グリッド、3号集石遺構の位置は不明)に分散する。その構造は多様で、大型の多孔石や礫が集積される1・2号集石遺構、小型礫で構成される3号集石遺構、小型の集石に大型の多孔石が伴う4号集石遺構が調査された。なお、2・4号集石遺構には不整な土坑が伴う。

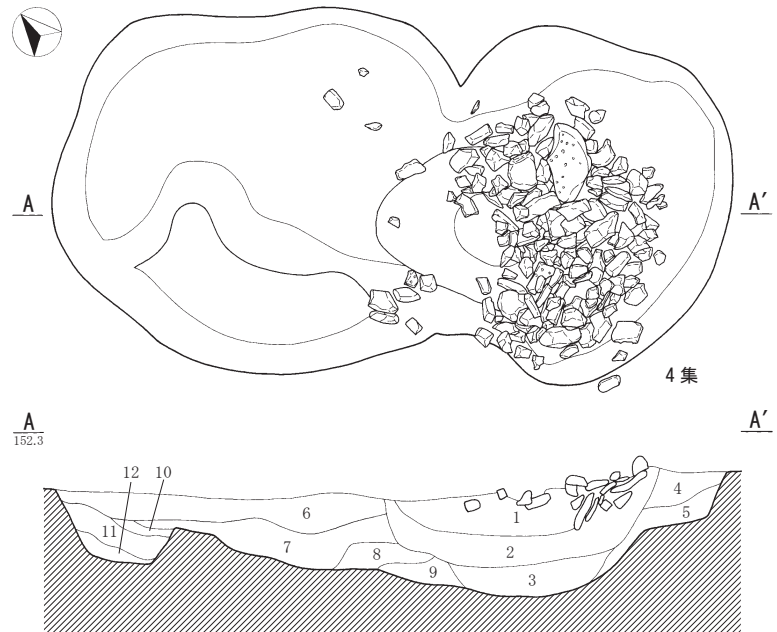
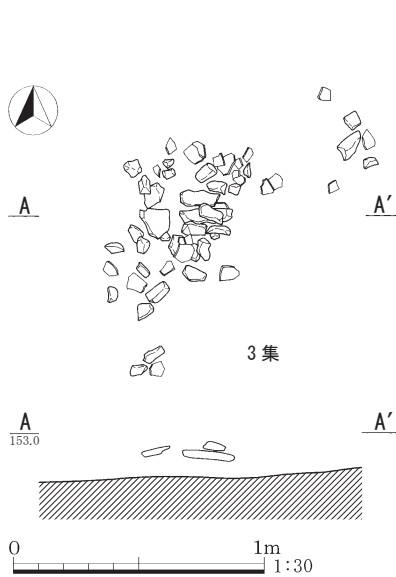
1・4号集石遺構からは少量の縄紋土器片が出土した。1号集石遺構では前期前半・後葉のものが認められ、諸磯c式がやや多くを占める。4号集石遺構は前期後半の胴部片のみであった。また、多孔石に加えて、打製石斧・スクレイパー類・凹石(第88図1)・磨製石斧(2)が検出されている。(高橋)





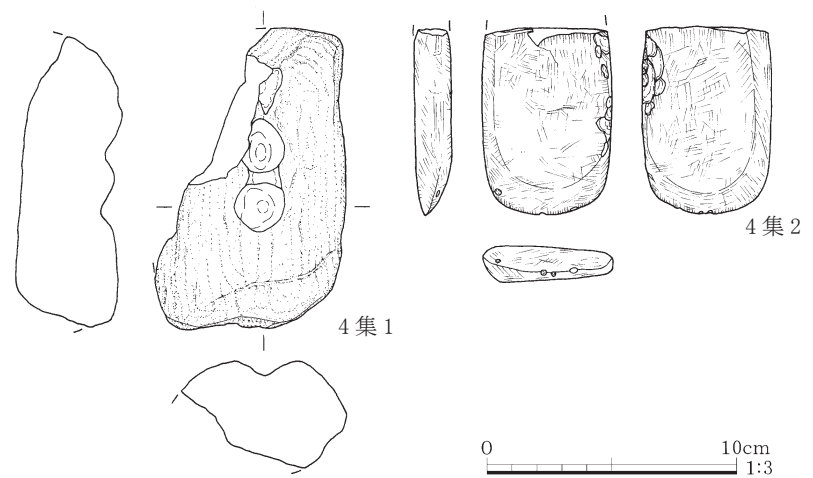
2号集石遺構 埋没土層

- 1: 褐色土層。ローム風化土・礫を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。礫をやや多量、炭化物粒子を少量含む。
- 3: 茶褐色土層。炭化物粒子・礫を少量を含む。粘性・しまりややあり。



4号集石遺構 埋没土層

- 1: 暗灰褐色土層。礫を大量、白色粒子を少量含む。
- 2: 暗茶褐色土層。ローム粒子・礫・片岩粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 3: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量を含む。粘性・しまりややあり。
- 4: 明褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、片岩粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 5: 茶褐色土層。ローム風化土主体。白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 6: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 7: 暗褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、炭化物粒子・片岩粒を微量含む。粘性・しまりややあり。
- 8: 茶褐色土層。ローム風化土を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 9: 黄褐色土層。ローム主体。
- 10: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量を含む。粘性・しまりややあり。
- 11: 茶褐色土層。8層に近似するが、炭化物粒子が多い。
- 12: 褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。



第88図 集石遺構

4号集石遺構出土遺物観察表

1	石器 凹石	A. 長 12.0。幅 [7.6]。厚 4.3。重 448.7。D. 片岩。F. 上部・裏面欠損。G. 長方形。表面に漏斗状の凹穴。
2	石器 磨製石斧	A. 長 [7.4]。幅 5.2。厚 1.5。重 94.3。C. 研磨により丁寧な調整。D. 頁岩。F. 基部欠損。G. 扁平。両刃。刃部周辺に磨耗痕や微細剥離痕。

3. 土坑 (第5・89～96図、写真図版10・40～43)

126基を確認した(1～126号土坑)。分布は調査区全体に広がるものの、中央から北側および南端に集中し、住居跡の周囲にまとまる傾向がある。平面形は円形・楕円形・方形・長方形・隅丸方形・隅丸長方形・不整形を呈し、円形・楕円形が半数以上を占める。長軸長の平均は137cmで、最大247cm(111号土坑)・最小61cm(116号土坑)を測る。断面形は逆台形を呈するものが多い。深さの平均は39cmで、最大106cm(115号土坑)・最小11cm(91号土坑)を測る。なお、底面に小穴状の掘り込みを有するものが散見される。

出土遺物として縄紋土器や石器が38基<sup>1)</sup>の土坑から伴出したものの、多くは少数の破片が伴う程度である。そのうち、4・7・40・51・54・55・126号土坑では残存状態の良好な個体や多数の破片が検出されている。4号土坑は土器や石器と共に多量の礫を包含していた。

所産時期が明瞭なものは縄紋時代に限られ、4号土坑が前期中葉有尾式期、126号土坑が前期前半、51号土坑が前期後葉諸磯a式期、40・54号土坑が前期後葉諸磯b式期、55号土坑が前期後葉諸磯c式期、7号土坑が前期末葉十三菩提式期に比定される。(高橋)

【註】1) : 1・3・4・6・7・8・11・32・38・39・40・42・43・46・50・51・52・54・55・65・77・84・85・86・92・93・95・96・103・105・106・114・115・116・119・120・125・126号土坑

土坑計測表(1)

単位: cm

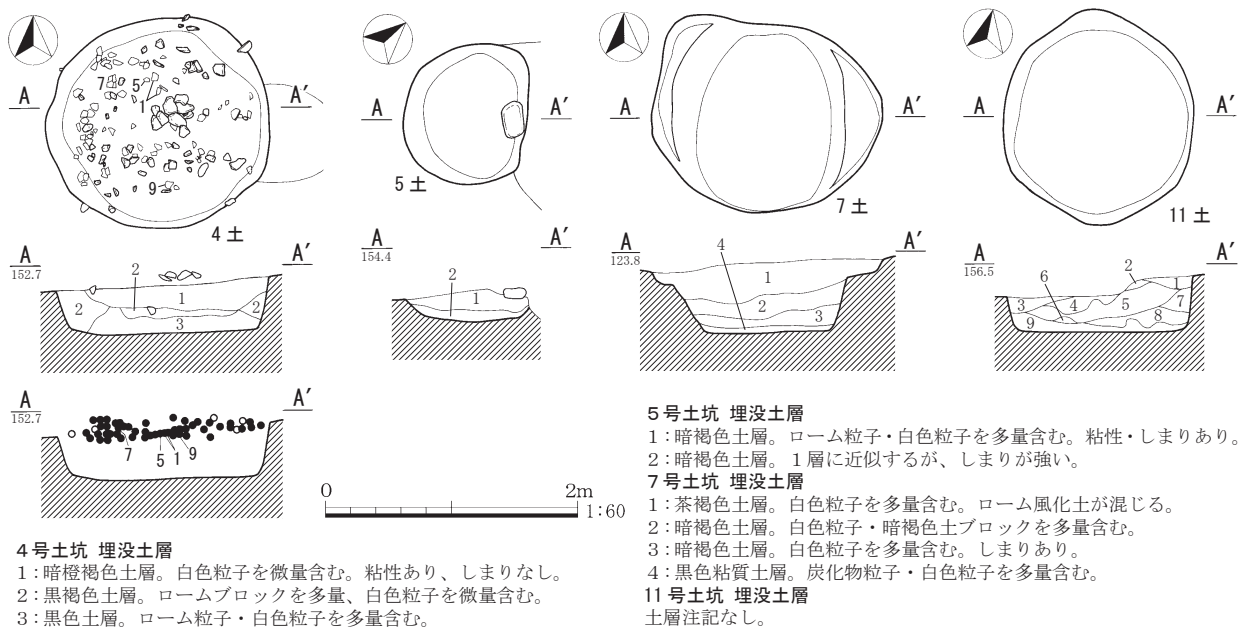
遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
1号土坑	I2G	円形	—	112	109	58
2号土坑	H2G	円形	—	97	91	43
3号土坑	G3G	不整形	N-83°-E	122	80	59
4号土坑	E7G	円形	—	175	164	41
5号土坑	F5G	楕円形	N-58°-E	111	96	25
6号土坑	D5G	隅丸方形	N-0°-E	158	136	19
7号土坑	F6G	不整形	—	182	148	55
8号土坑	E4G	不整形	N-65°-W	125	114	48
9号土坑	E4G	不整形	N-42°-E	161	119	52
10号土坑	G14G	長方形	N-90°-E	156	82	42
11号土坑	I10G	円形	—	171	151	43
12号土坑	G8G	円形	—	146	140	62
13号土坑	G8G	円形	—	128	117	34
14号土坑	G8G	円形	—	144	142	48
15号土坑	F10G	円形	—	87	75	54
16号土坑	F10G	円形	—	76	73	60
17号土坑	F10G	円形	—	130	128	48
18号土坑	F10G	円形	—	122	112	53
19号土坑	F10G	楕円形	N-45°-E	82	69	54
20号土坑	E10G	楕円形	N-60°-E	85	71	34
21号土坑	E10G	楕円形	N-70°-E	80	61	37
22号土坑	E10G	円形	—	116	113	76
23号土坑	E10G	円形	—	93	86	30
24号土坑	E10G	円形	—	124	110	24
25号土坑	E10G	円形	—	102	90	25
26号土坑	F8G	不整形	N-79°-W	248	132	65
27号土坑	G9G	楕円形	N-90°-E	180	158	16
28号土坑	G9G	円形	—	90	87	19
29号土坑	H9G	円形	—	92	86	16
30号土坑	H9G	円形	—	102	98	15
31号土坑	H9G	円形	—	86	81	14
32号土坑	H9G	円形	—	144	137	17
33号土坑	I9G	円形	—	81	79	18
34号土坑	D16G	円形	—	88	87	16
35号土坑	D16G	長方形	N-32°-W	264	79	46
36号土坑	C15G	長方形	N-22°-W	229	72	38
37号土坑	F16G	楕円形	N-90°-E	314	272	32
38号土坑	F16G	楕円形	N-88°-E	214	162	34
39号土坑	G11G	円形	—	118	104	41
40号土坑	F11G	不整形	N-50°-W	187	142	49
41号土坑	F10G	隅丸方形	N-67°-W	141	136	48
42号土坑	F11G	楕円形	N-60°-E	170	131	41
43号土坑	F11G	円形	—	95	88	32
44号土坑	F11G	楕円形	N-88°-E	131	115	32
45号土坑	F11G	円形	—	96	80	20
46号土坑	F11G	円形	N-37°-E	167	150	22
47号土坑	F11G	楕円形	N-20°-W	98	90	32
48号土坑	E11G	楕円形	N-38°-E	109	82	38
49号土坑	E11G	楕円形	N-59°-E	120	98	31
50号土坑	E11G	楕円形	N-43°-E	82	71	32
51号土坑	E12G	円形	—	122	120	40
52号土坑	E12G	楕円形	N-19°-W	161	102	23
53号土坑	F10G	楕円形	N-18°-W	113	101	50

土坑計測表 (2)

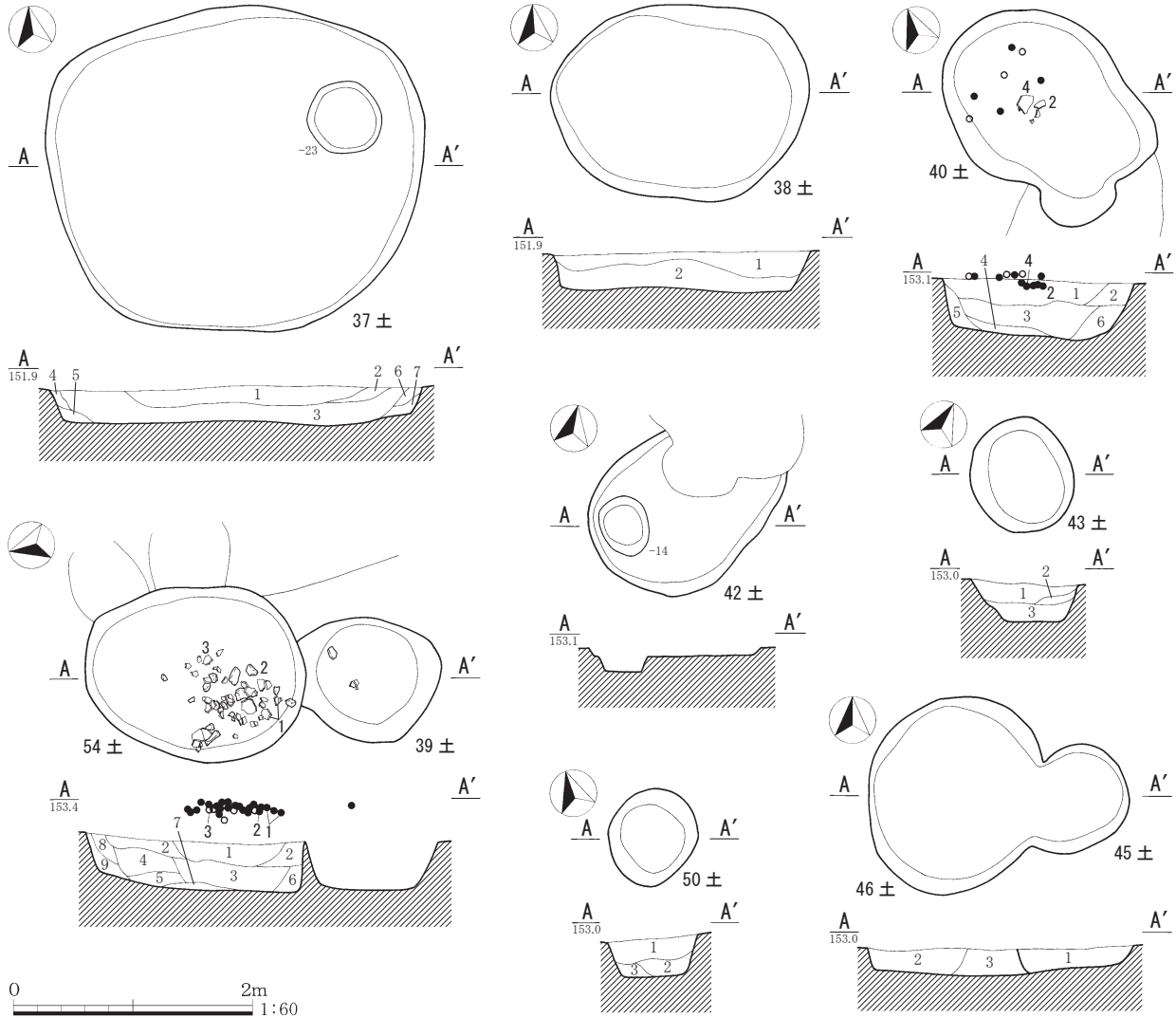
単位: cm

遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
54号土坑	G11G	橢円形	N-14°-E	185	146	42
55号土坑	E14G	橢円形	N-36°-W	179	154	22
56号土坑	I4G	橢円形	N-33°-W	211	160	64
57号土坑	H3G	橢円形	N-76°-W	202	127	44
58号土坑	G4G	円形	-	115	111	47
59号土坑	H5G	円形	-	140	134	27
60号土坑	H6G	円形	-	131	121	23
61号土坑	F5G	橢円形	N-87°-E	102	87	47
62号土坑	I7G	不整形	N-85°-E	203	64	44
63号土坑	J7G	円形	-	97	93	27
64号土坑	J8G	不整形	N-56°-E	101	68	18
65号土坑	A12G	長方形	N-22°-W	166	104	53
66号土坑	F7G	隅丸長方形	N-60°-W	261	246	85
67号土坑	F8G	橢円形	N-5°-W	250	196	41
68号土坑	E7G	円形	-	92	87	19
69号土坑	E16G	橢円形	N-50°-E	(80)	90	25
70号土坑	J10G	円形	-	104	95	24
71号土坑	J11G	円形	-	138	132	31
72号土坑	J12G	円形	-	104	101	24
73号土坑	E13G	不整形	N-16°-E	141	99	21
74号土坑	K6G	不整形	N-85°-E	154	134	54
75号土坑	K4G	円形	-	116	110	22
76号土坑	L10G	円形	-	109	93	26
77号土坑	C12G	不整形	N-90°-E	199	175	20
78号土坑	B12G	橢円形	N-15°-W	150	118	24
79号土坑	C11G	橢円形	N-87°-E	166	119	13
80号土坑	B11G	長方形	N-10°-E	177	117	18
81号土坑	C10G	不整形	N-5°-W	211	106	30
82号土坑	C11G	不整形	N-15°-E	153	131	20
83号土坑	C12G	不整形	N-56°-E	100	85	24
84号土坑	C13G	不整形	N-71°-E	160	113	18
85号土坑	E11G	円形	-	69	64	33
86号土坑	E8G	橢円形	N-15°-W	109	69	19
87号土坑	E9G	橢円形	N-56°-E	100	88	29
88号土坑	C14G	円形	-	103	90	16
89号土坑	D13G	不整形	N-70°-W	113	95	32

90号土坑	C13G	橢円形	N-33°-E	115	67	29
91号土坑	D13G	橢円形	N-48°-E	129	95	11
92号土坑	G14G	橢円形	N-70°-W	111	85	74
93号土坑	H17G	不整形	N-89°-E	193	(183)	44
94号土坑	H17G	円形	-	87	78	50
95号土坑	G17G	円形	-	117	111	32
96号土坑	G17G	橢円形	N-87°-E	100	90	52
97号土坑	G17G	橢円形	N-62°-E	116	92	38
98号土坑	G16G	橢円形	N-87°-E	120	91	32
99号土坑	G16G	円形	-	106	98	43
100号土坑	G17G	円形	-	88	82	47
101号土坑	G16G	円形	-	81	79	46
102号土坑	G17G	円形	-	88	81	63
103号土坑	G17G	橢円形	N-83°-E	105	81	58
104号土坑	G18G	橢円形	N-60°-W	161	107	48
105号土坑	F6G	橢円形	N-36°-W	132	105	36
106号土坑	G7G	方形	N-43°-W	182	175	52
107号土坑	G8G	橢円形	N-60°-E	117	103	71
108号土坑	G8G	橢円形	N-80°-W	87	72	54
109号土坑	G8G	円形	-	73	63	50
110号土坑	G8G	円形	-	70	69	34
111号土坑	G7G	橢円形	N-70°-E	247	190	60
112号土坑	F8G	橢円形	N-13°-W	165	129	60
113号土坑	E8G	方形	N-69°-W	146	128	53
114号土坑	C13G	円形	-	98	94	21
115号土坑	J15G	橢円形	N-12°-W	197	171	106
116号土坑	G8G	円形	-	61	56	46
117号土坑	G18G	円形	-	180	169	59
118号土坑	G18G	円形	-	131	130	31
119号土坑	H17G	不整形	N-66°-E	200	171	56
120号土坑	I18G	不整形	N-8°-E	231	158	61
121号土坑	I18G	橢円形	N-40°-E	168	129	49
122号土坑	J18G	円形	-	140	136	31
123号土坑	G19G	円形	-	99	96	46
124号土坑	G19G	不整形	N-89°-E	167	(97)	64
125号土坑	E11G	円形	-	122	119	24
126号土坑	G16G	橢円形	N-25°-E	101	86	37



第 89 図 土坑 (1)



**37号土坑 埋没土層**

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子を多量、白色粒子を少量含む。粘性あり。
- 2: 茶褐色土層。白色粒子を中量含む。粘性あり、しまりややあり。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を多量含む。
- 4: 褐色土層。ローム粒子・白色粒子を多量含む。粘性・しまりなし。
- 5: 暗褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを少量含む。
- 6: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を多量含む。
- 7: 暗茶褐色土層。白色粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりややあり。

**38号土坑 埋没土層**

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 2: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を多量含む。粘性・しまりややあり。

**40号土坑 埋没土層**

- 1: 茶褐色土層。白色粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。白色粒子を微量含む。粘性・しまりややあり。
- 3: 暗茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりあり。
- 4: 灰茶褐色土層。白色粒子を微量含む。ロームブロックが混じる。粘性・しまりあり。
- 5: 明茶褐色土層。白色粒子を多量含む。ロームブロックが混じる。
- 6: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。

**43号土坑 埋没土層**

- 1: 茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 2: 褐色土層。ローム風化土を多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりややあり。
- 3: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。

**45・46号土坑 埋没土層**

- 1: 暗褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。45号土坑。
- 2: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。46号土坑。
- 3: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。46号土坑。

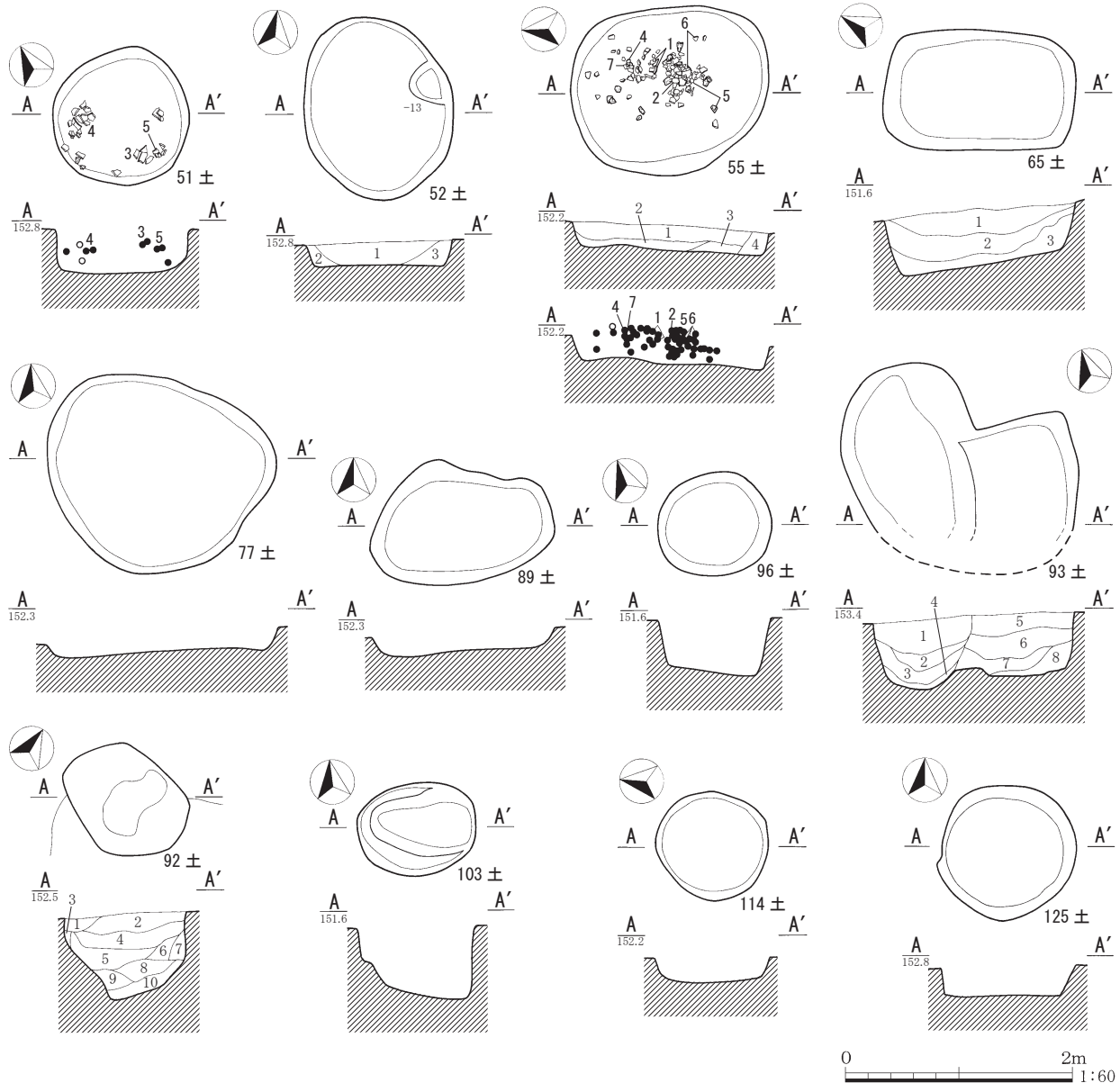
**50号土坑 埋没土層**

- 1: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 2: 暗茶褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子を少量含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 3: 茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量含む。粘性・しまりなし。

**54号土坑 埋没土層**

- 1: 茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を多量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。ロームブロックを多量、白色粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 暗茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を少量含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 4: 茶褐色土層。ロームブロックを多量、白色粒子を少量含む。炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 5: 暗茶褐色土層。ロームブロック・白色粒子を少量含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 6: 茶褐色土層。ロームブロック・ローム風化土を多量含む。焼土粒子・炭化物粒子が混じる。粘性・しまりなし。
- 7: 茶褐色土層。ローム粒子・ローム風化土を多量、白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 8: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。
- 9: 黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子・黒色土ブロックを含む。粘性・しまりややあり。

第90図 土坑(2)



52号土坑 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。焼土粒子・炭化物粒子を含む。粘性・しまりややなし。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子を少量含む。粘性ややあり・しまりなし。
- 3: 暗茶褐色土層。炭化物粒子を多量、ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性あり。

55号土坑 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、炭化物粒子を中量含む。粘性ややあり、しまりなし。
- 3: 褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 4: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を多量含む。粘性なし、しまりややあり。

65号土坑 埋没土層

- 1: 茶褐色土層。白色粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 黄褐色土層。褐色土粒子・黒色土ブロックを少量含む。粘性・しまりなし。

92号土坑 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。黄色粒子・白色粒子を微量含む。ローム粒子が混じる。粘性あり、しまりなし。
- 2: 暗褐色土層。焼土粒子を微量を含む。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子が混じる。粘性ややあり、しまりあり。
- 3: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を含む。粘性・しまりあり。
- 4: 暗褐色土層。焼土粒子を微量含む。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子が混じる。粘性・しまりあり。

- 5: 暗褐色土層。焼土粒子を微量含む。ローム粒子・白色粒子・黄色粒子が混じる。粘性・しまりあり。

- 6: 暗褐色土層。赤色粒子を微量含む。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子・黄色粒子が混じる。粘性・しまりあり。

- 7: 暗褐色土層。ローム粒子を多量、ロームブロック・白色粒子・赤色粒子・黄色粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

- 8: 暗褐色土層。ローム粒子を多量、白色粒子・赤色粒子・黄色粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

- 9: 暗褐色土層。ローム粒子を多量、赤色粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

- 10: 暗褐色土層。ローム粒子を多量、白色粒子・黄色粒子・赤色粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

93号土坑 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。炭化物粒子・白色粒子・黄色粒子・赤色粒子を含む。

- 2: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を含む。

- 3: 黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子・黄色粒子を含む。

- 4: 褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を微量を含む。ローム粒子が混じる。粘性・しまり非常にあり。

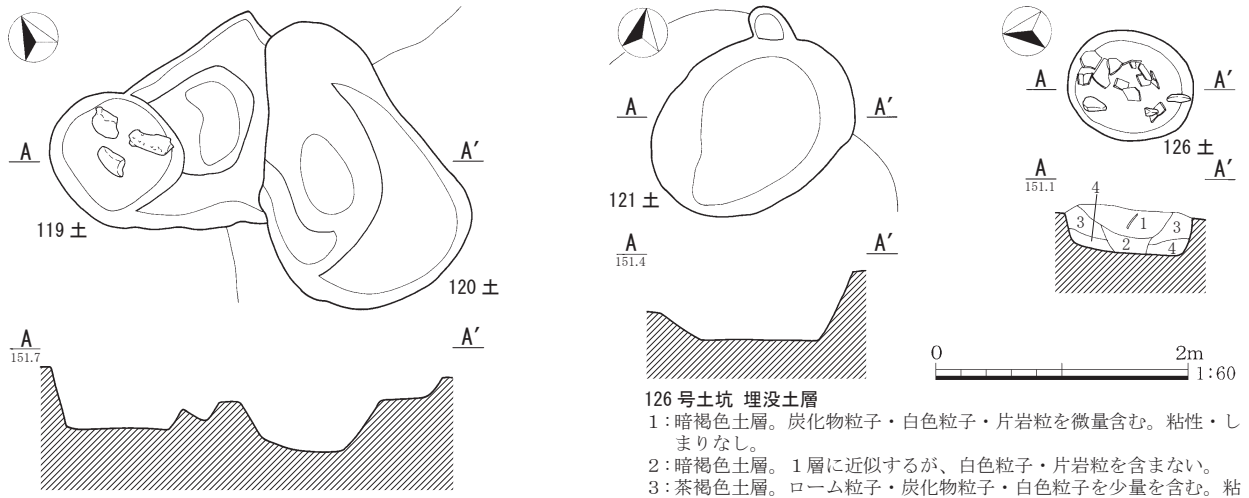
- 5: 暗褐色土層。ローム粒子を多量、赤色粒子を微量含む。炭化物粒子が混じる。粘性ややなし、しまりあり。

- 6: 暗褐色土層。ローム粒子・赤色粒子・黄色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。

- 7: 暗褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・黄色粒子を含む。

- 8: 黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子・黄色粒子・赤色粒子を含む。粘性・しまりややあり。

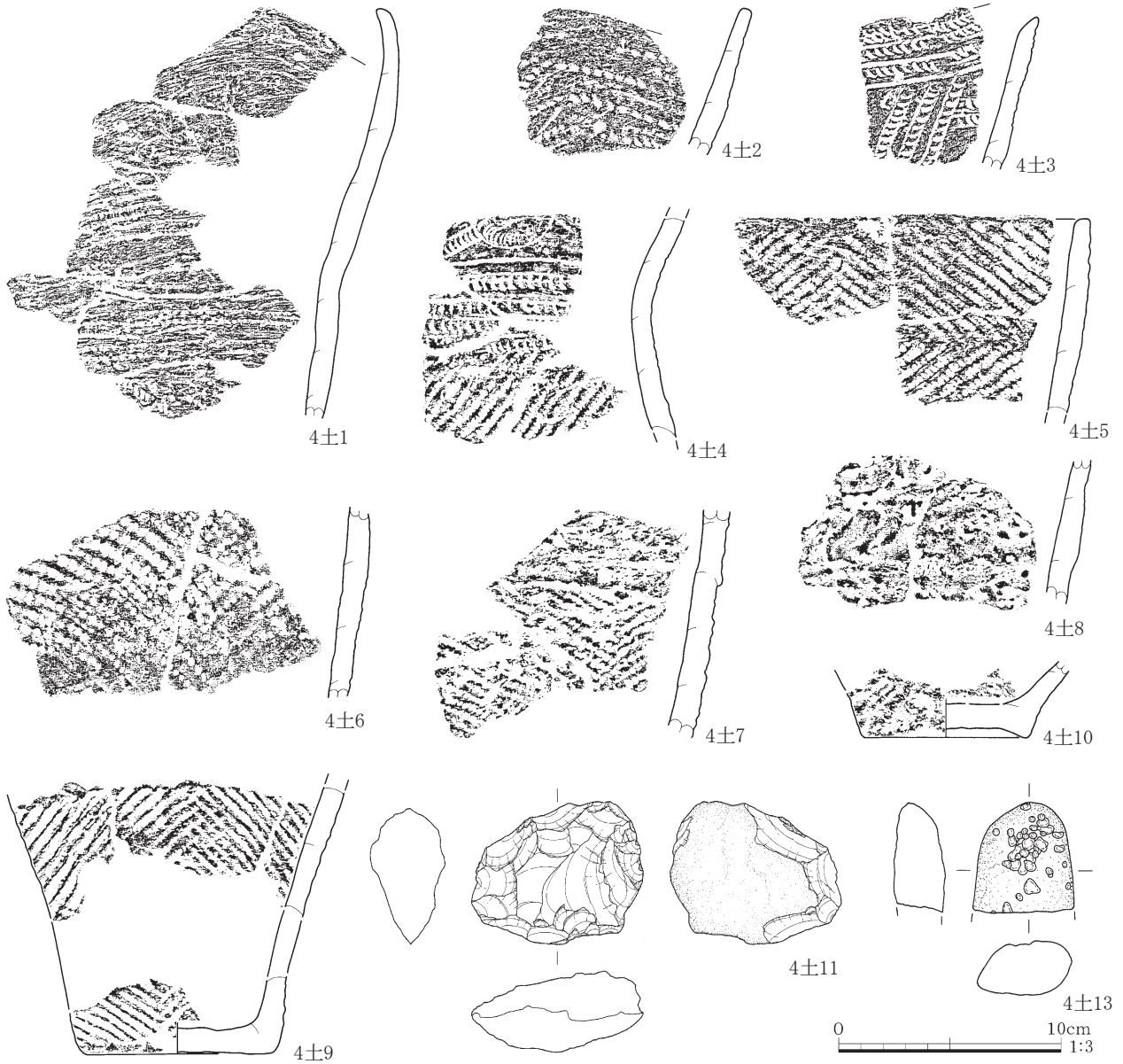
第91図 土坑(3)



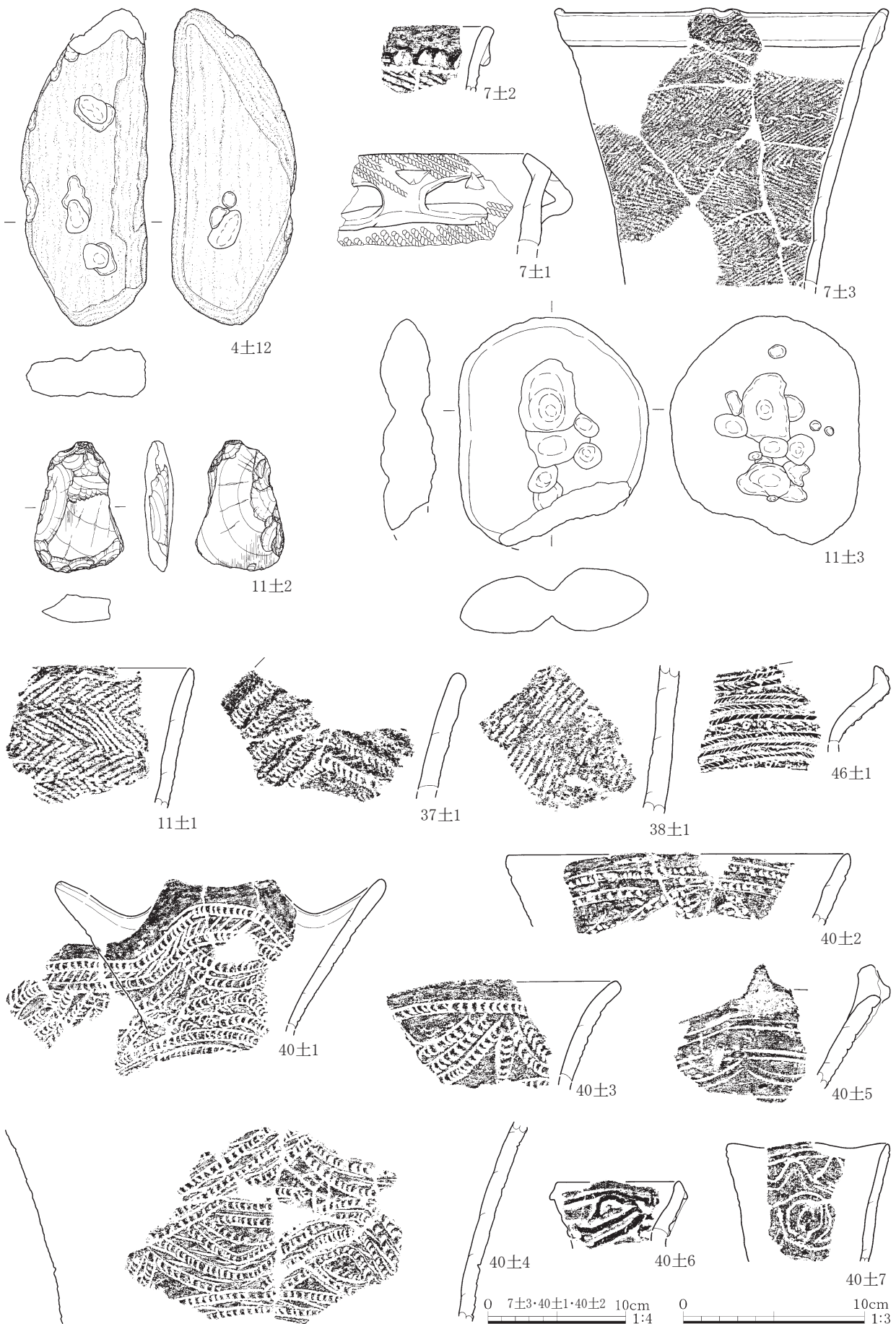
126号土坑 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。炭化物粒子・白色粒子・片岩粒を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 暗褐色土層。1層に近似するが、白色粒子・片岩粒を含まない。
- 3: 茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量を含む。粘性・しまりややあり。
- 4: 暗茶褐色土層。3層に近似するが、片岩粒を微量含む。

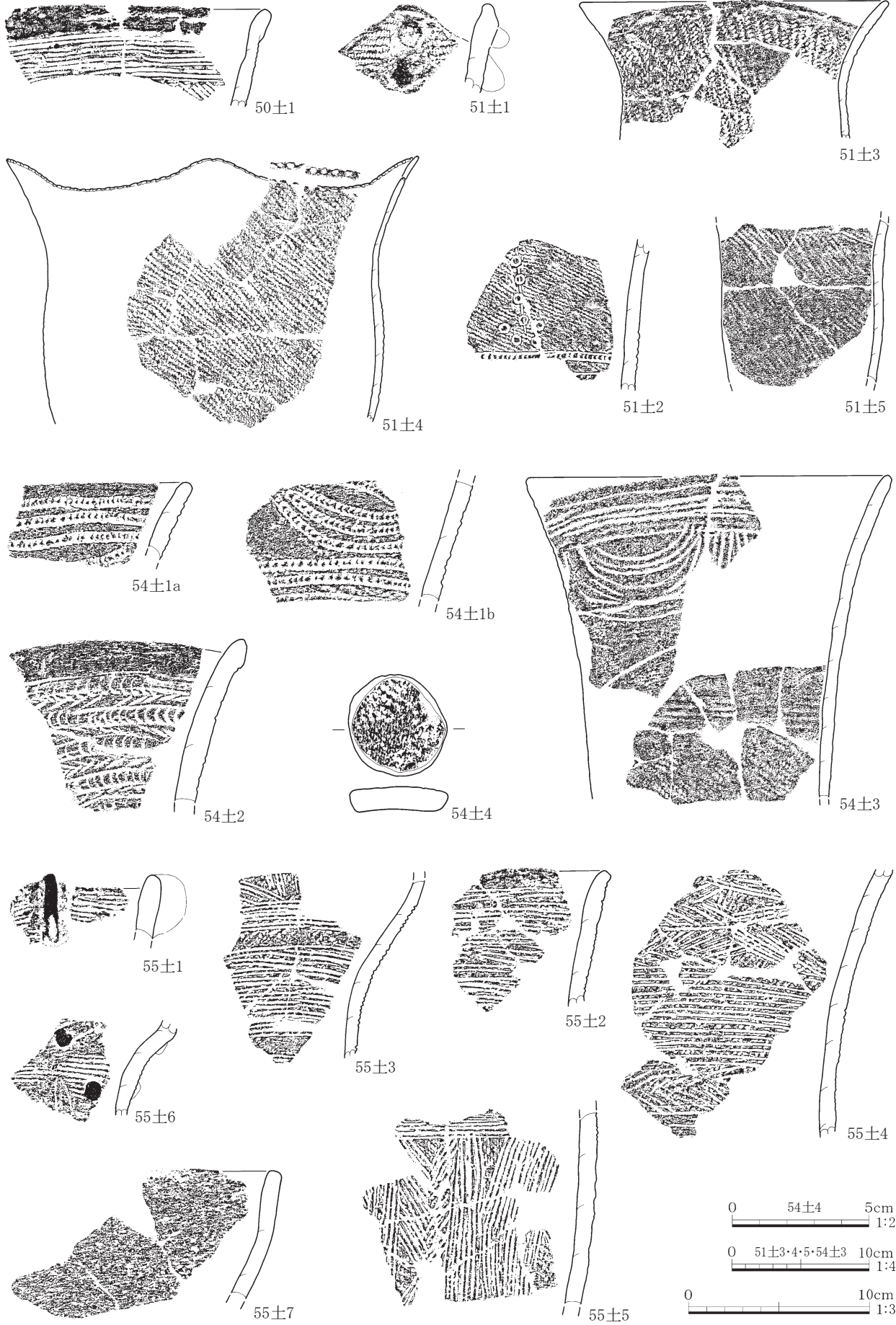
第92図 土坑(4)



第93図 土坑出土遺物(1)

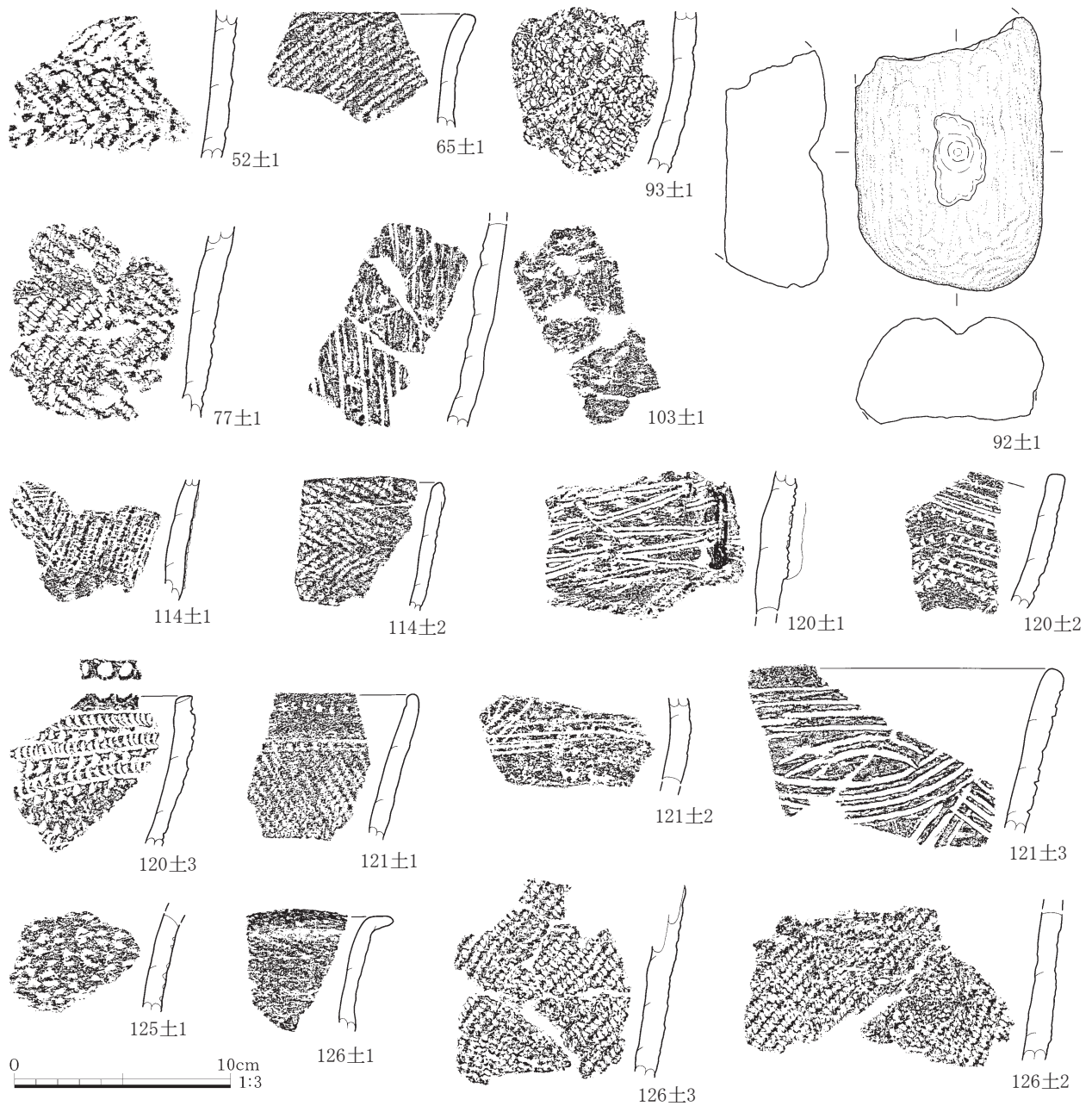


第 94 图 土坑出土遺物 (2)



第 95 图 土坑出土遺物 (3)





第 96 図 土坑出土遺物（4）

土坑出土遺物観察表（1）

4土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・平行沈線紋（内皮痕残存）による区画等。胴部に縄紋（RL）。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-褐色。F. 口縁~胴部片。
4土 2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画等。内面、丁寧なナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
4土 3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画等。内面、丁寧な斜位ナデ。D. 繊維。E. 内-暗灰黄色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
4土 4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋等による区画、菱形文・円文カ。胴部に縄紋（LR、前々段多条）。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁~胴部片。
4土 5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋（RL・LR、前々段多条）。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-黄灰色。F. 口縁部片。
4土 6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋（RL・LR）。内面、丁寧なナデ。D. 黒曜石・片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 胴部片。
4土 7	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、羽状縄紋（RL・LR）。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-灰褐色。外-橙-灰褐色。F. 胴部片。
4土 8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、粗い斜位ナデ。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 胴部片。
4土 9	縄紋土器 深鉢	A. 底径（8.4）。B. 追加成形。C. 外面、羽状縄紋（RL・LR、前々段多条）。内面、横位ナデ。底面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 胴部片。底部ほぼ完形。

土坑出土遺物観察表（2）

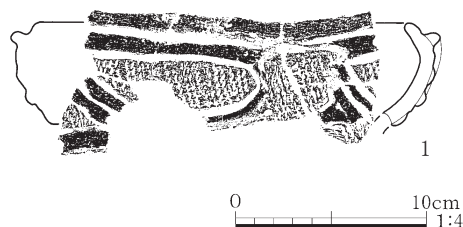
4土10	縄紋土器 深鉢	A. 底径(7.3)。C. 外面、縄紋。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 底部ほぼ完形。
4土11	石器 礫器	A. 長6.4。幅7.8。厚3.7。重168.0。C. 周縁に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。
4土12	石器 凹石	A. 長[17.3]。幅7.0。厚[2.7]。重451.8。D. 緑色岩類。F. 上端部欠損。G. 長楕円形。表・裏面に漏斗状の凹穴。
4土13	石器 敲石	A. 長[5.0]。幅[4.6]。厚2.4。重83.1。D. 緑色岩類。F. 小片。G. 棒状礫の表・裏面に敲打痕多数。
7土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、橋状把手→斜縄紋(RL)→三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
7土2	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋(R)。口唇下の肥厚部にキザミ。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一明赤褐色。F. 口縁部片。
7土3	縄紋土器 深鉢	A. 口径(24.4)。B. 折返状口縁。C. 外面、結節を伴う結束羽状縄紋(RL・LR)。口唇部に押捺を伴う突起。内面、横位ナデ。D. 多量の細片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁～胴部2/3。
11土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
11土2	石器 打製石斧	A. 長7.3。幅5.0。厚1.6。重60.2。C. 剥片の一侧縁に急角度の片面調整。D. 安山岩。F. 完形。G. 撥形。刃部周辺に磨耗痕。
11土3	石器 凹石	A. 長[12.4]。幅10.4。厚3.5。重593.8。D. 緑色岩類。F. 下部欠損。G. 不整楕円形。表・裏面中央に凹穴が多数。器面全体に磨耗痕。磨→凹。
37土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内一にぶい黄褐色。外一橙色。F. 口縁部片。
38土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(L)。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内一黒褐色。外一浅黄色。F. 胴部片。
40土1	縄紋土器 深鉢	A. 口径(23.8)。C. 外面、斜縄紋(RL)→爪形紋・キザミによる区画・入組文。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
40土2	縄紋土器 深鉢	A. 口径(25.1)。C. 外面、爪形紋による区画等。内面、ナデ。D. 粗粒片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
40土3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・弧状文等。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内一黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
40土4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミによる区画・入組文等。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内一にぶい赤褐色。外一橙・にぶい褐色。F. 胴部片。
40土5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)による区画等。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
40土6	縄紋土器 ミニチュア土器	A. 口径(6.7)。C. 外面、浮線紋(一部キザミ付)。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
40土7	縄紋土器 ミニチュア土器	A. 口径(8.9)。C. 外面、平行沈線紋による区画、波状文・円文等。内面、ケズリ→ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 口縁～胴部片。
46土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→キザミ付浮線紋・円紋。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
50土1	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、条線紋(3条1対)による区画等→三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一明黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。G. F6G出土遺物と接合。
51土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、突起→縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。
51土2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→爪形紋による横位、鋭い単沈線紋による縦位区画→円紋。内面、斜位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。
51土3	縄紋土器 深鉢	A. 口径(22.6)。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横・斜位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一浅黄色。F. 口縁部1/4。
51土4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。口唇部にキザミ。内面、丁寧なナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部片。
51土5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一褐色。F. 胴部片。
52土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状結節縄紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外一黒褐色。F. 胴部片。
54土1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による口縁部区画・入組文。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部に横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一浅黄橙・橙色。外一黄褐色。F. 口縁・胴部片。
54土2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミによる区画。焼成前穿孔。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
54土3	縄紋土器 深鉢	A. 口径(26.8)。C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)による口縁部区画・対弧状文。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁・胴部片。G. 7号住居跡、46・51号土坑、D12・G11G出土遺物と接合ないし同一個体。
54土4	土製品 土製円盤	A. 径3.7～3.8。厚0.8。C. 表面、縄紋(RL)。裏面、ナデ。D. 片岩。E. 表裏一黄褐色。F. 完形。

土坑出土遺物観察表（3）

55土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位集合沈線紋→耳状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
55土 2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位集合沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
55土 3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR) →集合沈線紋による区画等。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
55土 4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR) →集合沈線紋による区画・矢羽状文等。内面、縦位ミガキ。D. 特になし。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。
55土 5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) →集合沈線紋による区画、弧状文・矢羽状文等。内面、縦・斜位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 胴部片。
55土 6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→ボタン状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 胴部片。
55土 7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位ケズリ。内面、横位ナデ、口唇下は横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
65土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (L)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 口縁部片。
77土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。内面、横・縦位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 胴部片。
92土 1	石器 凹石	A. 長 [12.6]。幅 8.7。厚 [4.9]。重 767.7。D. 片岩。F. 欠損あり。G. 長方形カ。自然礫の表面に凹穴。
93土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。内面、斜位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
103土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位貝殻条痕紋。内面、ナデ・指頭痕。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 胴部片。
114土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位集合沈線紋→結節浮線紋。内面、丁寧な横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。
114土 2	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 口縁部片。
120土 1	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縦位隆帯→細い平行沈線紋 (内皮痕残存) →刺突列 (沈線と同一工具)。胴部に縄紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 口縁部片。
120土 2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋 (内皮痕残存) による区画→沈線に沿う刺突列 (沈線と同一工具の背面カ)。爪形紋による菱形文。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
120土 3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (LR) →爪形紋・刺突列 (爪形紋と同一工具カ) による区画等。口唇部にキザミ。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい褐色。外-褐色。F. 口縁部片。
121土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL) →口唇下の無文部に爪形紋による区画。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-橙色。外-灰褐色。F. 口縁部片。
121土 2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋 (内皮痕残存) による区画等。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 胴部片。
121土 3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋 (内皮痕残存) による区画・入組文。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内-黄褐色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。G. F11G 出土遺物と接合。
125土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突紋 (半截竹管状工具)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-褐色。外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
126土 1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-黒褐色。外-明褐色。F. 口縁部片。
126土 2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR)。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 胴部片。
126土 3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 胴部片。

4. 小穴 (第 97 図、写真図版 43)

調査区全体に展開し、土坑と同様に、住居跡の周囲に集中する傾向がある。出土遺物は非常に少ない。E 14 グリッド P 1 からは縄紋土器片が出土している (第 97 図 1)。その個体は 10 号住居跡出土遺物と接合し、深鉢口縁部の 1/3 ほどが復元できた。中期後葉加曽利 E I 式に比定される。一方、P 3 (位置不明) では多数の片岩片 (16 点、0.3 ~ 7.3g) やホルンフェルス片 (1 点、1.5g) が検出されている。(高橋)



第 97 図 小穴出土遺物

小穴出土遺物観察表

P 1	縄紋土器	C. 外面、撚糸紋 (L) → 隆帯による区画。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一
1	深鉢	ぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。G. 10号住居跡出土遺物と接合。

5. 遺構外出土遺物 (第 98 ~ 109 図、写真図版 43 ~ 51)

表土層・遺物包含層・攪乱内等から出土した遺物を対象とする。古墳時代以降の遺構から出土した縄紋時代の遺物等、当該遺構と懸隔する遺物もここで扱った。遺構外出土遺物は縄紋土器や石器が大多数を占め、他に土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品・瓦・古銭・鉄砲玉・焼成粘土塊が検出されている。ほとんどは遺物包含層 (基本層序Ⅲ) から出土し、地形の傾斜がやや緩い調査区中央から南側に多く分布する。

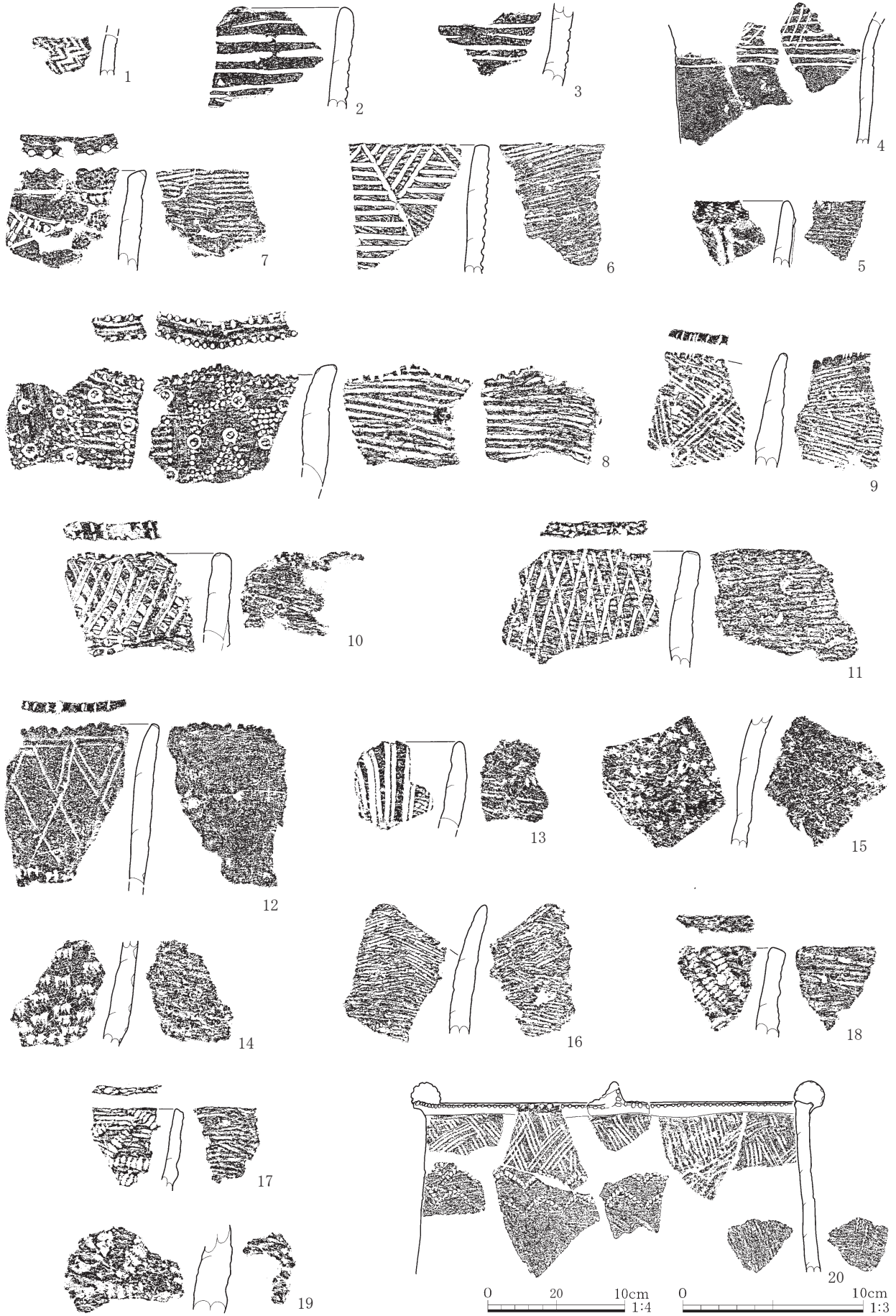
縄紋土器は早期中葉～中期後葉のものが認められ、前期を主体としていた。細別型式の判明するものとして、押型紋系土器 (第 98 ~ 104 図 1)、田戸下層式 (2 ~ 4)、子母口式 (5)、野島式 (6)、鶴ヶ島台式 (7・8)、茅山下層式 (9・10)、茅山上層式 (11・12・15・16)、絡条体圧痕紋系土器 (17 ~ 19)、打越式 (20)・神ノ木台式 (22)、下吉井式 (23)、縄紋条痕紋系土器 (30)、花積下層式ないし二ツ木式 (31 ~ 52・76)、関山 I 式 (53)、関山 II 式 (55・56)、有尾式および黒浜式 (59 ~ 72)、諸磯 a 式 (78 ~ 90・131 ~ 133)、諸磯 b 式 (91 ~ 111・134 ~ 137)、諸磯 c 式 (113 ~ 127・138)、浮島式ないし興津式 (128・129・130)、十三菩提式 (139 ~ 151)、栗島台式 (152)、五領ヶ台式 (159 ~ 165)、阿玉台 I b 式 (166 ~ 168)、加曾利 E I 式 (169)、加曾利 E II 式 (170)、加曾利 E IV が挙げられる。また、前期の土器片を利用した土製円盤も検出されている (171 ~ 173)。これらの中で、押型紋系土器、子母口式、打越式、神ノ木台式、下吉井式、加曾利 E I 式、加曾利 E II 式は本調査地点のみの事例である。打越式は数片が出土したものの、すべて 1 個体 (20) に帰するもので、25 m ほどを隔てた地点に分散していた。主体である前期の集中域は調査区の中央から南側に展開する。ただし、羽状縄紋土器を特徴とする前半は後葉の集中域と比べて東西に広い。また、末期の諸磯 c 式および十三菩提式になると南側に偏向する。検出量は減少するが、中期以降も同様の傾向が見受けられる。一方、早期後葉から末葉は北東側に偏っており、急斜面地への志向性が窺われる。

石器は、石鏃 (第 105 ~ 109 図 174・175)、楔形石器、石匙 (176)、打製石斧 (177 ~ 183)、礫器 (184 ~ 186)、三角錐形石器 (187・188)、スクレイパー類 (189 ~ 193)、リタッチドフレイク (194)、磨石 (195・196)、凹石 (197 ~ 199)、石皿 (200)、台石 (201)、砥石、扁平石 (202)、棒状礫、多孔石 (203)、石核、剥片が認められる。リタッチドフレイクや剥片が多く、スクレイパー類、打製石斧、磨石、礫器、凹石が続く。石材はホルンフェルスが多く、頁岩、黒曜石、安山岩、閃緑岩、片岩が続く。

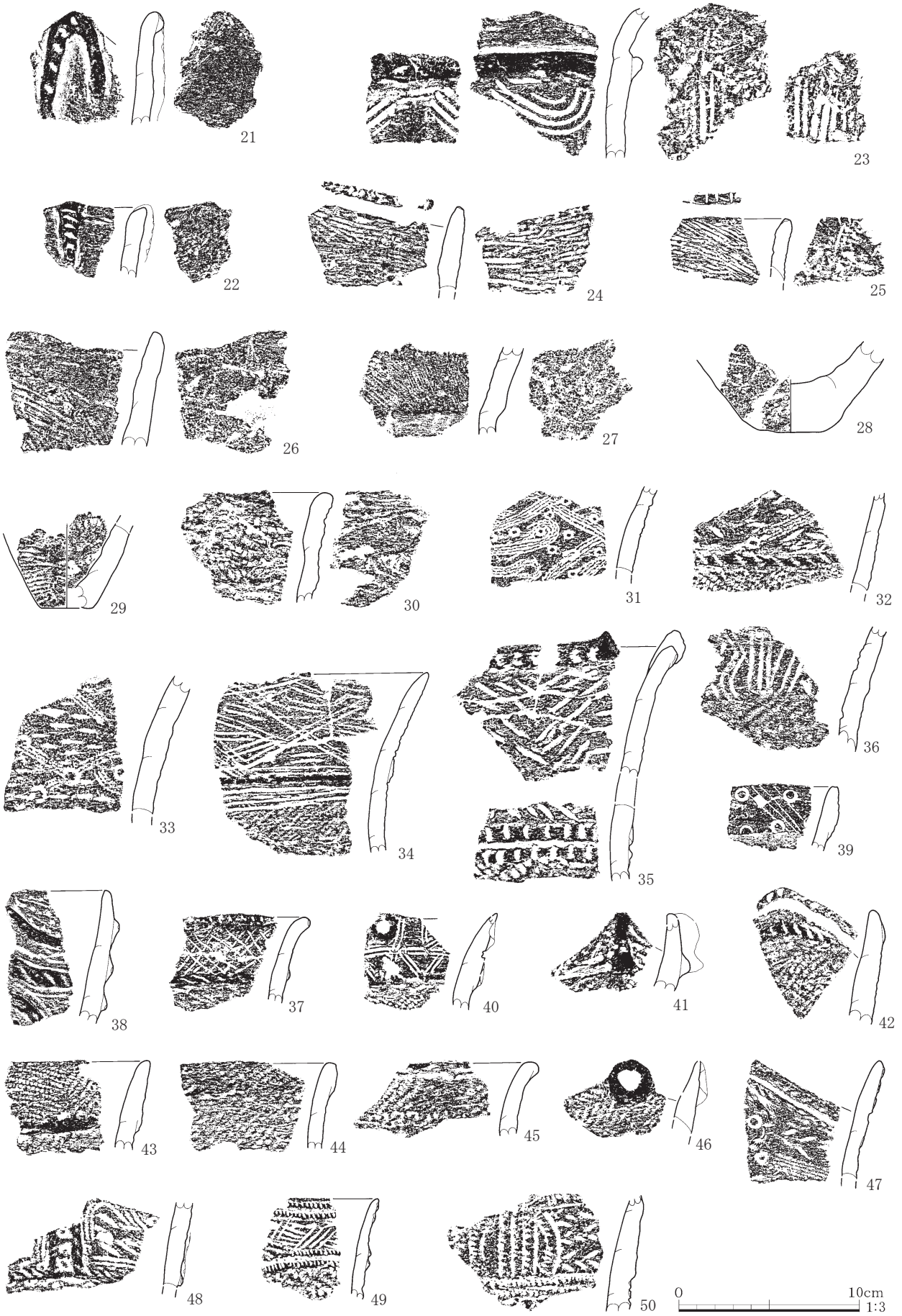
掲載した須恵器 (204) や灰釉陶器 (205) は表採資料である。平安時代に比定され、検出遺構の傾向に整合する。また、剣形石製模造品 (208) が出土しており古墳時代における祭祀の痕跡が窺われる。

古銭 (206) は近世、鉄砲玉 (207) は近世以降に帰属する。当該期の遺構は検出されていないものの、近世以降における土地利用の存在が示されよう。本資料の鉄砲玉と直接関係はないかもしれないが、調査区周辺は射撃訓練の場として使用されていたという証言が地元住民から得られている。

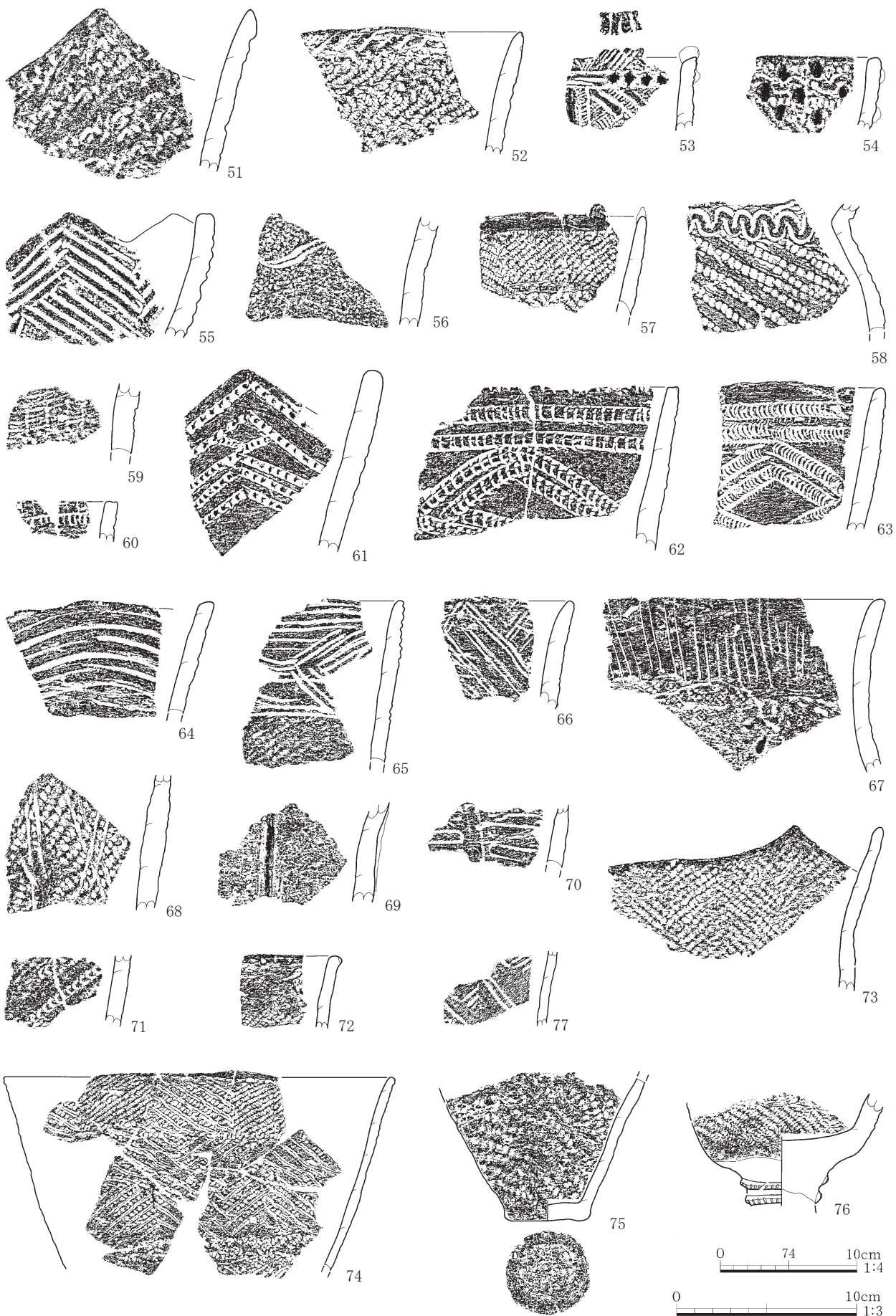
焼成粘土塊 (209・210) は 35 点検出されている。長径 5 ~ 10 cm ほどを呈し、定型的な形態を有しない。成形痕や角棒状の工具痕を伴うものも見受けられる。調査区全域に散在するが、H 10・11、I 10・11 グリッドに集中する。所産時期や用途等は不明であるが鋳型の可能性が高い。 (高橋)



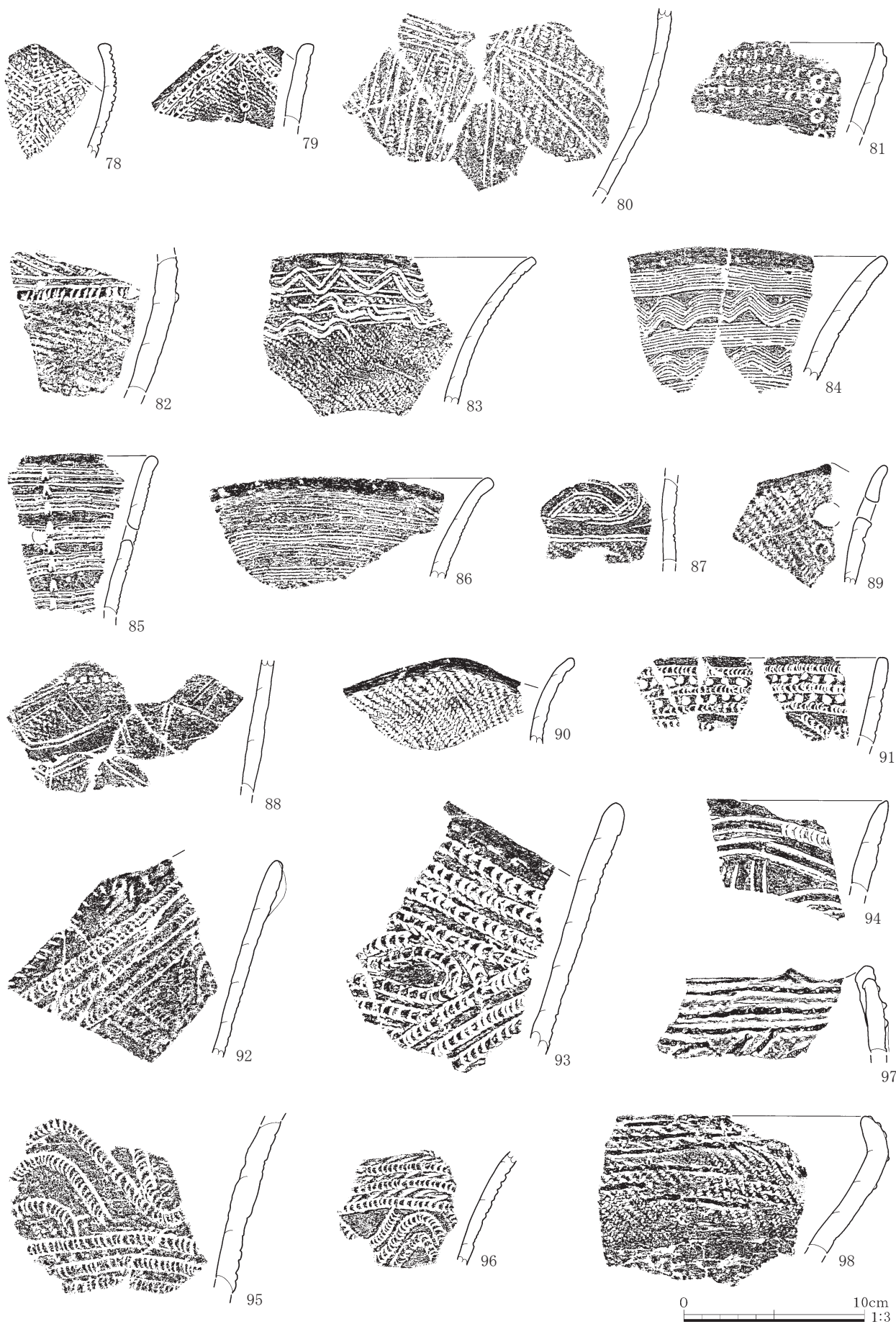
第 98 圖 遺構外出土遺物 (1)



第 99 図 遺構外出土遺物 (2)

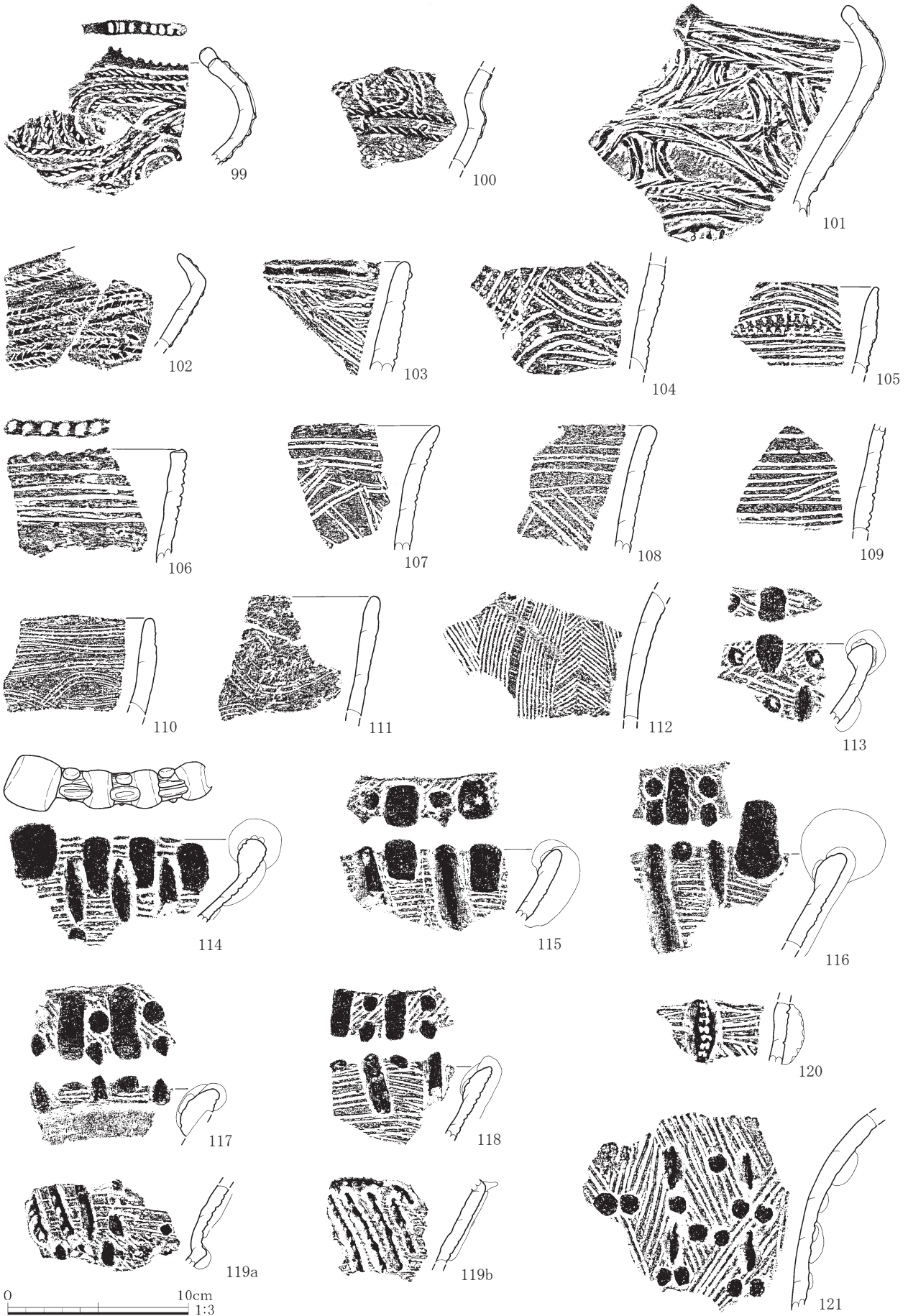


第 100 圖 遺構外出土遺物 (3)



第101圖 遺構外出土遺物(4)

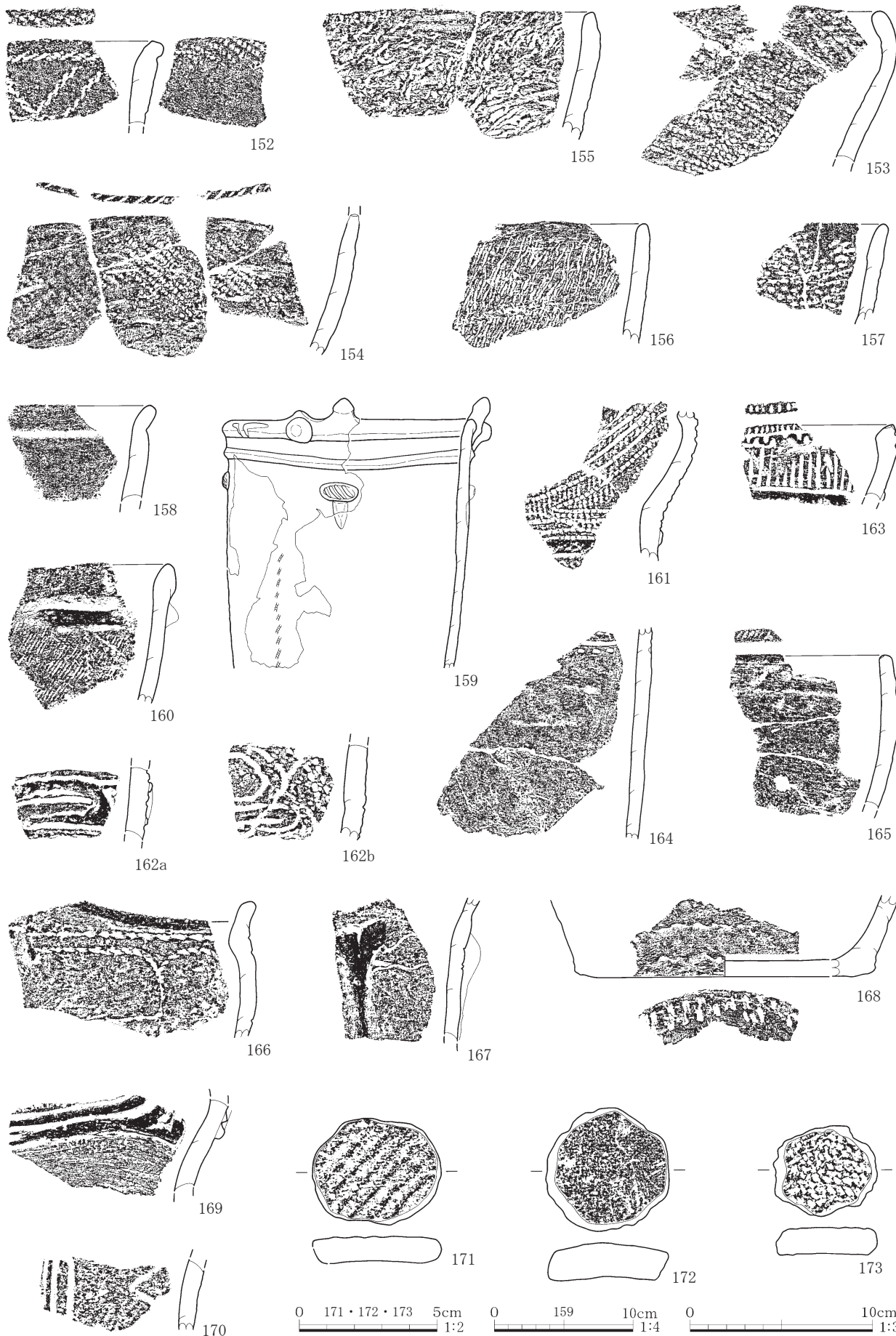




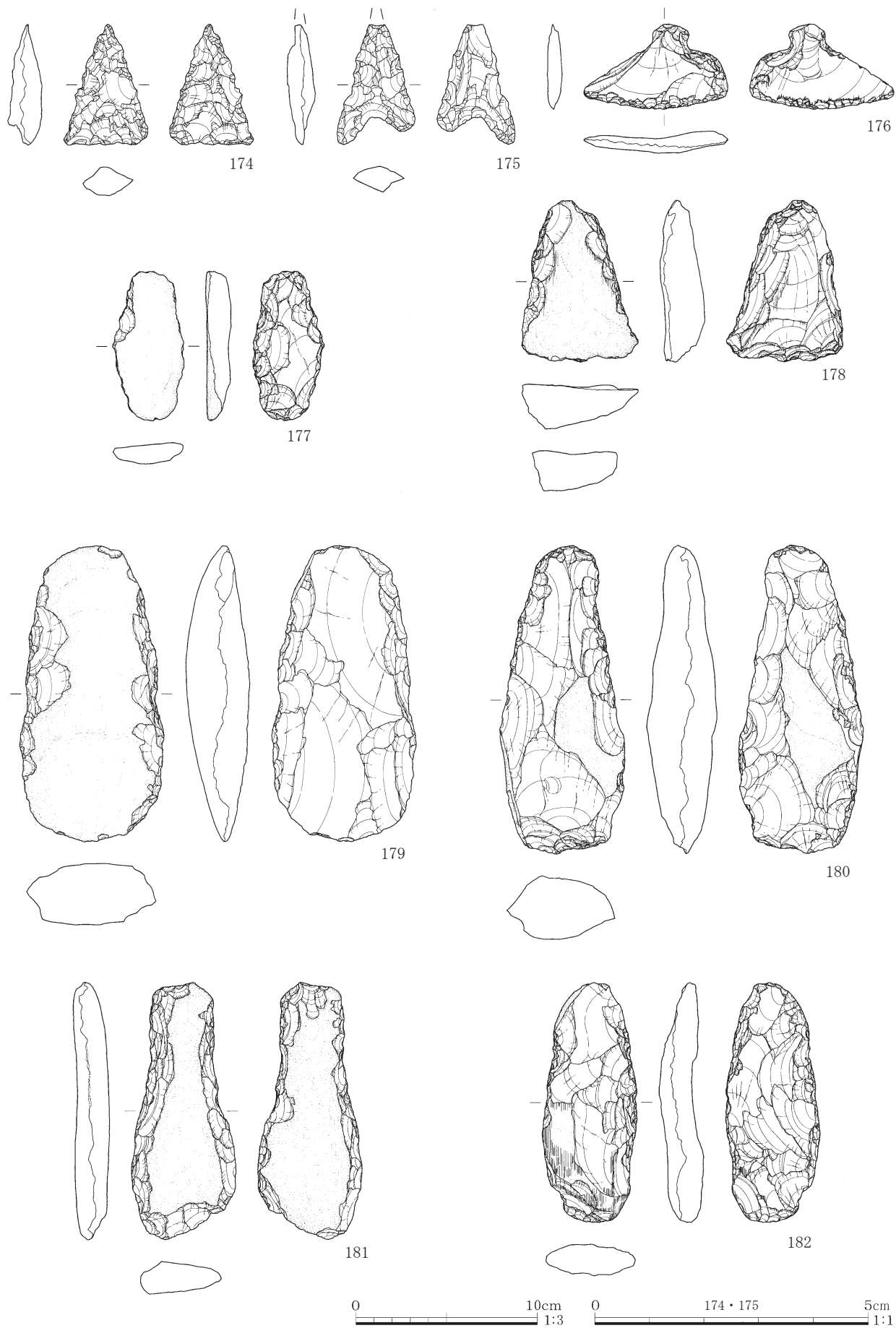
第 102 図 遺構外出土遺物 (5)



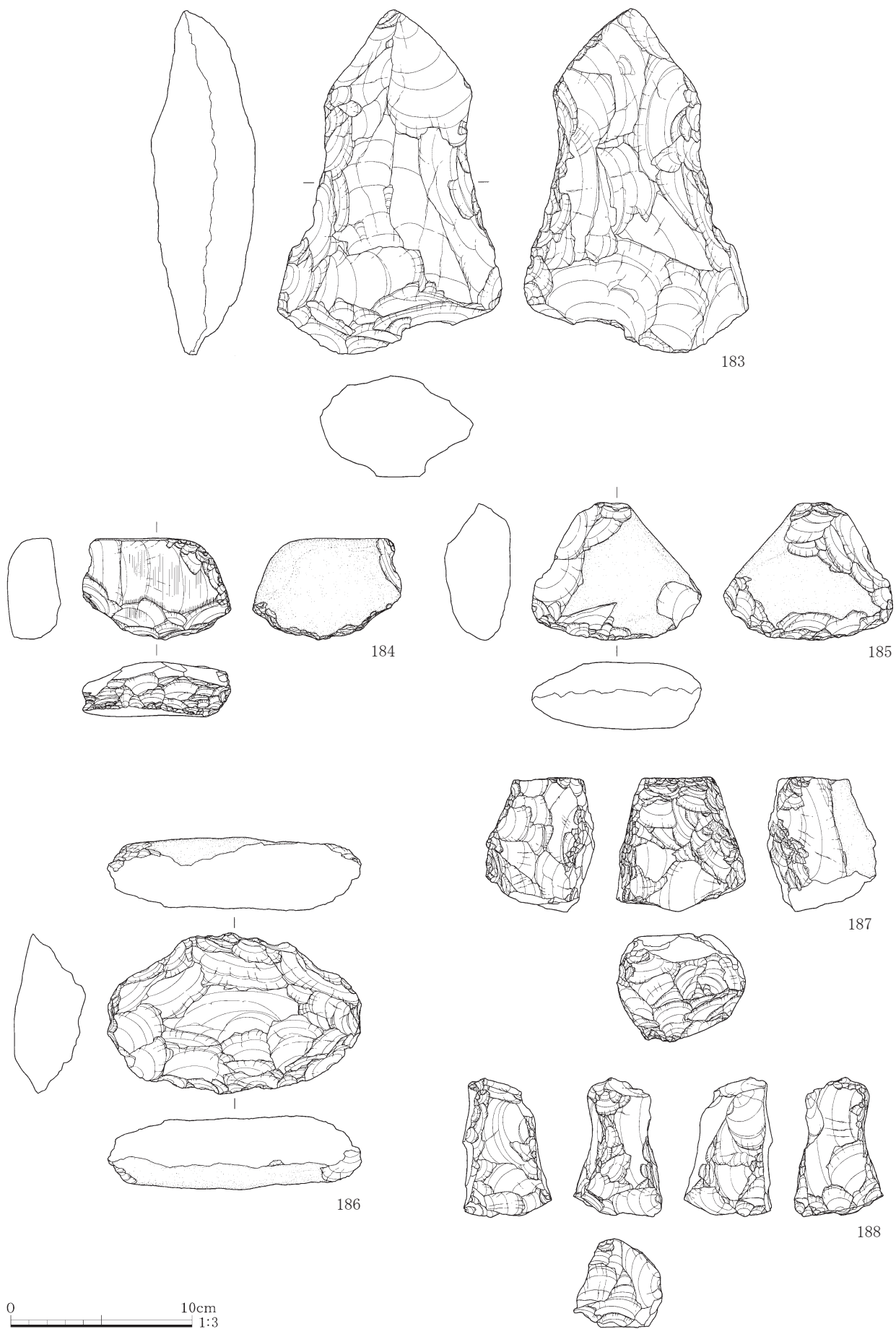
第103圖 遺構外出土遺物(6)



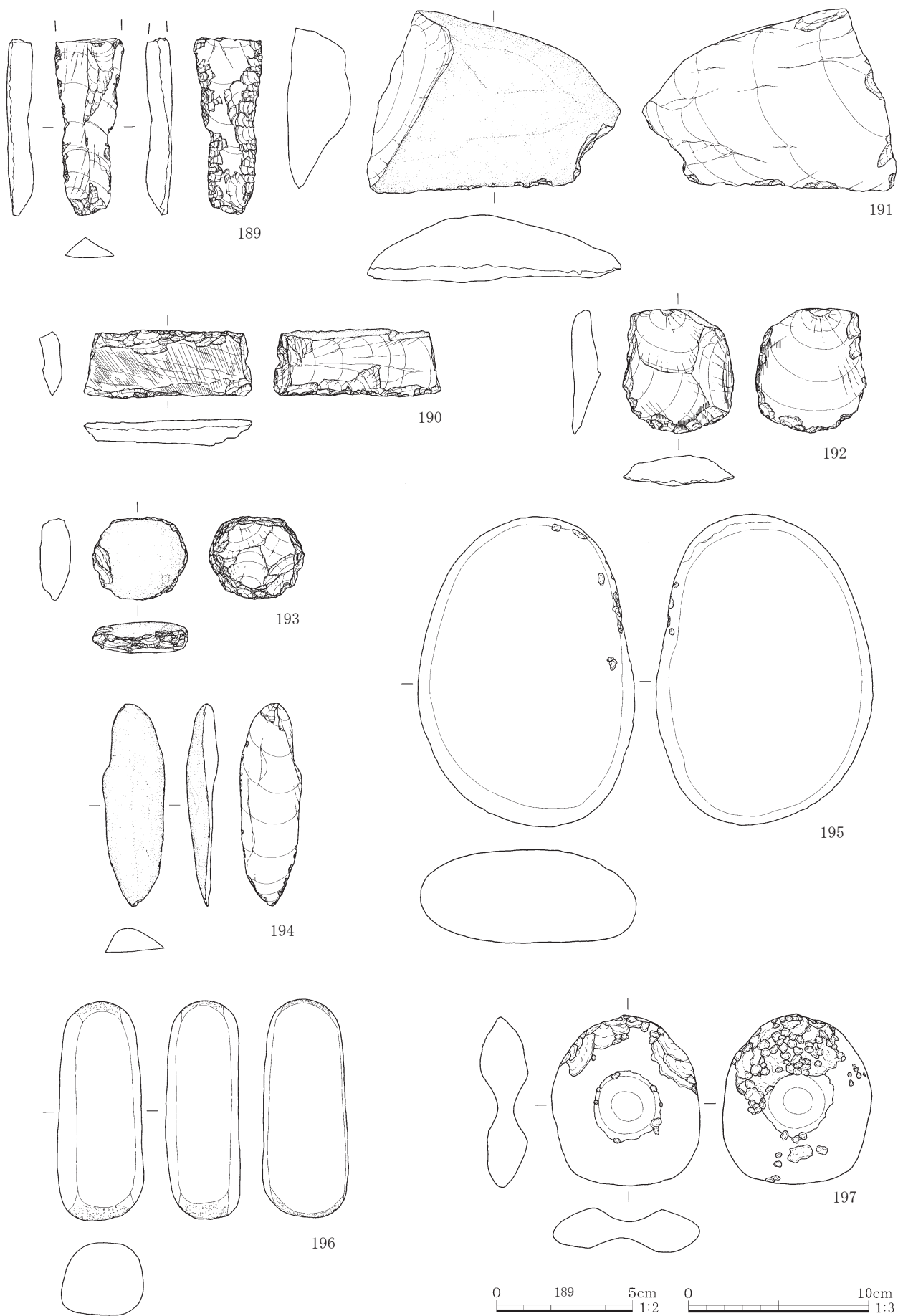
第 104 図 遺構外出土遺物 (7)



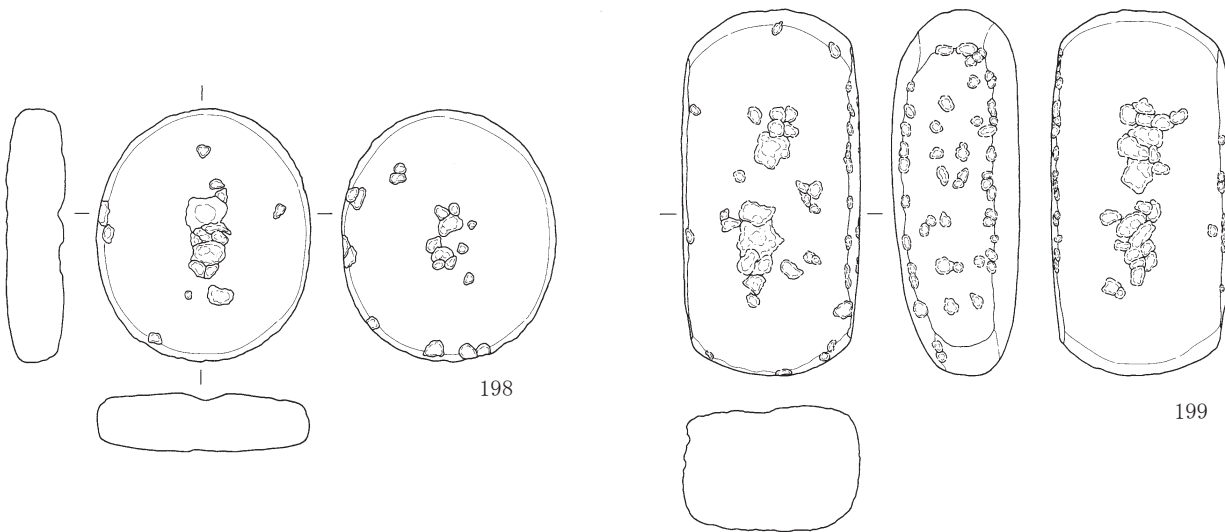
第105図 遺構外出土遺物(8)



第 106 図 遺構外出土遺物 (9)

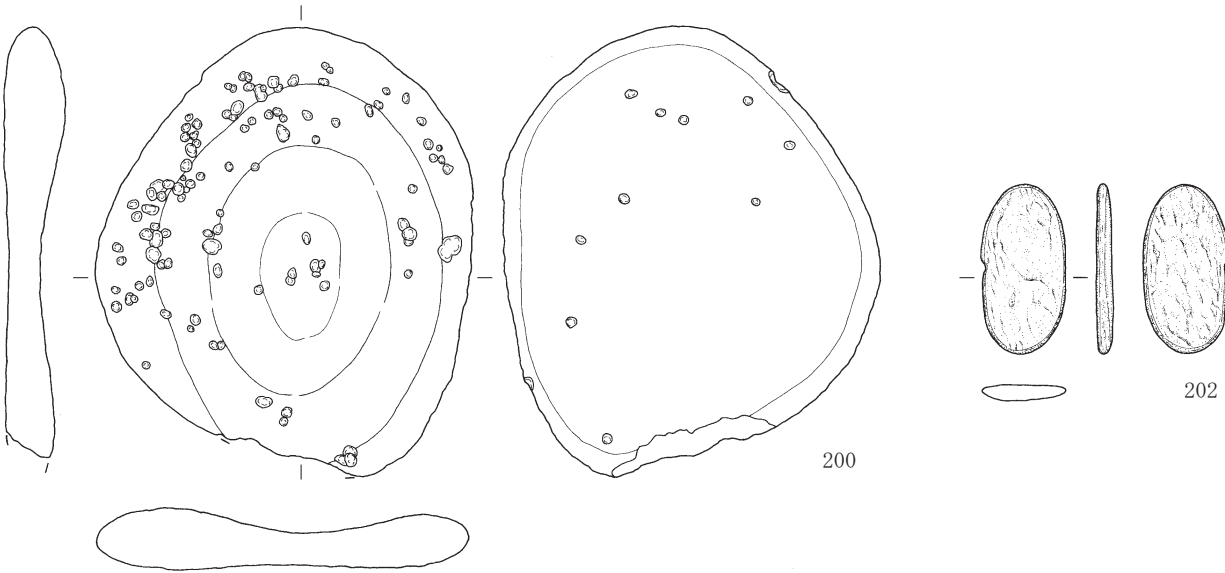


第107図 遺構外出土遺物(10)



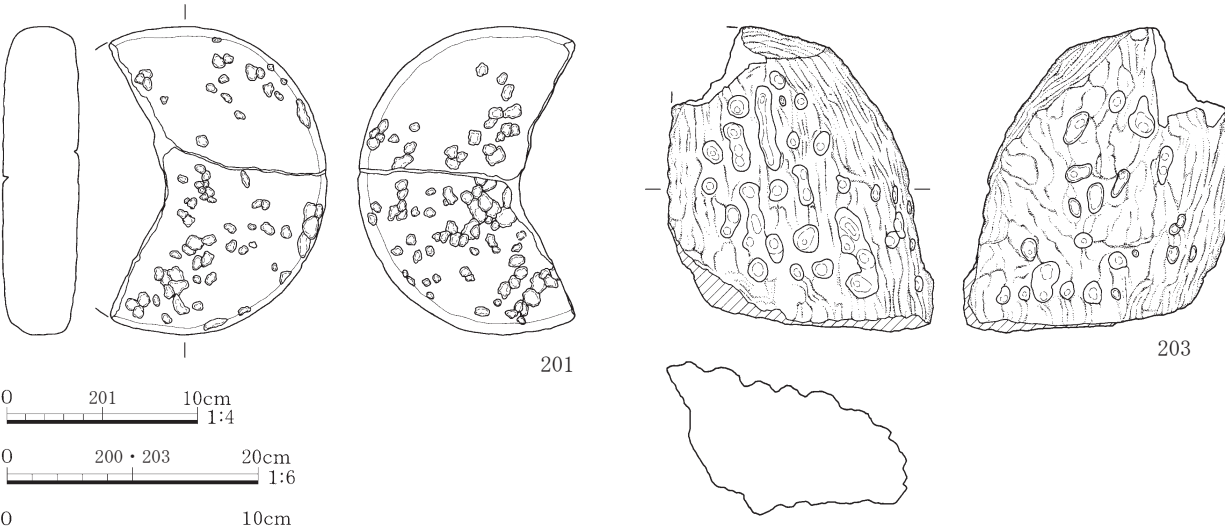
198

199



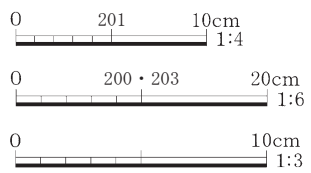
200

202

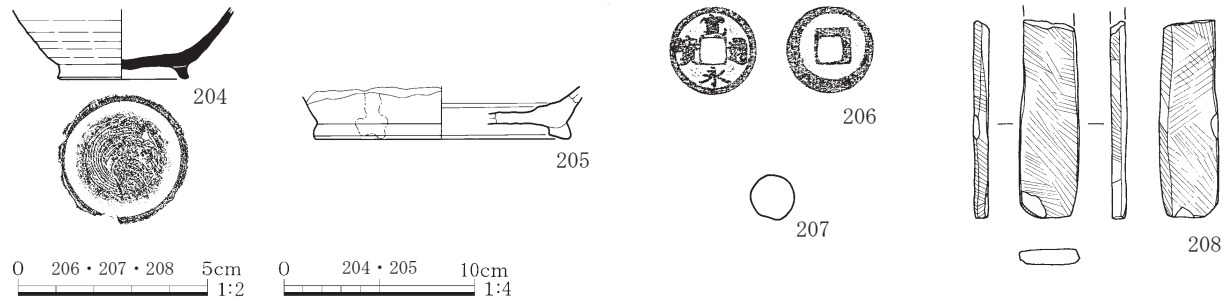


201

203



第 108 図 遺構外出土遺物 (11)



第109図 遺構外出土遺物(12)

遺構外構出土遺物観察表(1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位山形押型紋。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴部片。H. G18G。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位単沈線紋(尖頭状工具)・短沈線紋(丸棒状工具)。内面、横・斜位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. F6G。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位単沈線紋(尖頭状工具)。内面、縦位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. F6G。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横・斜位単沈線紋(尖頭状工具)。内面、縦位ミガキ。D. 片岩・雲母・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁~胴部片。H. E10G。
5	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、細かい斜位条痕紋→微隆起線紋→絡条体圧痕紋(rの捺糸をR巻きカ)。内面、細かい横位条痕紋。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. I6G。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横・斜位貝殻条痕紋→単沈線紋(丸棒状工具)による分割・充填。内面、斜位貝殻条痕紋。D. 繊維。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。H. I3G。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、単沈線紋(丸棒状工具)で分割→結節沈線紋(2本1対の丸棒状工具)による充填→分割線上に刺突(竹管状工具)。口唇部外縁にキザミ。内面、横位貝殻条痕紋。D. 繊維。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. I6G。
8	縄紋土器 深鉢	B. 口縁の平断面がやや方形を呈し稜が生じる。C. 外面、横位条痕紋→刺突列(竹管状工具)による分割・充填→分割線上等に円紋。口唇部内・外縁にキザミ。内面、横位条痕紋。D. 繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. G6・H8G。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節平行沈線紋。口唇部にキザミ(へら状工具)。内面、横・斜位条痕紋。D. 粗大な片岩・石英、繊維。E. 内一にぶい黄橙色。外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. J6G。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯で口縁部区画→隆帯・口唇部に刺突列(へら状工具)→区画内に単沈線紋(刺突列と同一工具カ)による斜格子文。内面、横位条痕紋。D. 粗大な片岩、繊維。E. 内一灰褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. H7G。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位条痕紋→単沈線紋(角棒状工具)による斜格子文。口唇部に絡条体圧痕紋(Lの捺糸をL巻きカ)。内面、横位条痕紋。D. 粗大な片岩、繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. I10G。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋・刺突(両者共に多載竹管状工具)で口縁部区画・斜格子文。口唇部にキザミ。内面、ナデ。D. チャート・角閃石・繊維。E. 内外一黄褐色。F. 口縁部片。H. I12G。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位条痕紋→平行沈線紋(2本1対の角棒状工具)による縦位文。口唇部にキザミ。内面、横位条痕紋。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. 07G。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突列(櫛歯状工具)による区画・縦位文。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. I12G。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突列(半載竹管状工具)。内面、ナデ。D. 粗大な片岩、角閃石・繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. H9G。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横・斜位絡条体条痕紋→絡条体圧痕紋。内面、横・斜位絡条体条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. H7G。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位絡条体条痕紋→絡条体圧痕紋による区画・鋸歯文。口唇部に絡条体圧痕紋。内面、横位絡条体条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. F5G。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位条痕紋→絡条体圧痕紋(L巻)。口唇部に絡条体圧痕紋カ。内面、横位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内一にぶい橙色。外一褐色。F. 口縁部片。H. I6G。
19	縄紋土器 深鉢	C. 外面、絡条体圧痕紋(R巻)。内面、横位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内一にぶい橙色。外一褐色。F. 口縁部片。H. G6G。
20	縄紋土器 深鉢	A. 口径(28.8)。B. 折返状口縁。C. 外面、条痕紋→ナデ→口縁部に貝殻条痕紋による斜格子文・貝殻腹縁紋による鋸歯文。口唇部に突起・キザミ。内面、横位ナデ、一部に貝殻腹縁紋。D. 角閃石・繊維。E. 内外一赤褐色。F. 口縁・胴部片。H. G6・G7・H6・H7・H10・G8・G9G。
21	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯→隆帯上に捺糸側面圧痕紋(R)によるキザミ。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. H12G。
22	縄紋土器 深鉢	C. 外面、垂下隆帯→隆帯上にキザミ(へら状工具)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい橙色。外一褐色。F. 口縁部片。H. D11G。



遺構外構出土遺物観察表(2)

23	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位隆帯→条痕紋による弧状文。内面、粗い縦位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内-に ぶい赤褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. F8・H7G。
24	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位条痕紋。口唇部にキザミ。内面、横位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。 F. 口縁部片。H. H5G。
25	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位条痕紋。口唇部にキザミ(尖頭状工具)。内面、工具痕。D. 繊維。E. 内外-明赤褐色。 F. 口縁部片。H. H3G。
26	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位条痕紋。内面、条痕紋→ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部片。 H. H13G。
27	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細かい斜位条痕紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 口縁部片。 H. I6G。
28	縄紋土器 深鉢	A. 底径3.6。C. 外面、斜位ナデ。内面、条痕紋。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-明赤褐色。 外-橙色。F. 底部完形。H. F8G。
29	縄紋土器 深鉢	A. 底径(2.8)。C. 外面、横位条痕紋。内面、斜位条痕紋・ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-明赤褐色。 外-橙色。F. 底部1/3。H. B10G。
30	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)。内面、横位条痕紋・ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。H. F17G。
31	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸側面圧痕紋(R・R・L)→円紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-に ぶい橙色。F. 口縁部片。H. F10G。
32	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯による口縁部区画。撚糸側面圧痕紋(L・L・R・R)→刺切紋。胴部に縄紋(RL)。 内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-灰黄褐色。外-黒色。F. 口縁~胴部片。H. D11G。
33	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸側面圧痕紋(R・L・R)→円紋・刺切紋。内面、横・斜位ミガキ。D. 繊維。E. 内-橙色。 外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。H. D10G。
34	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による口縁部区画→平行沈線紋→刺切紋(沈線紋と同一工具)。胴部に縄紋(LR)。内面、 横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。H. G10・J8G。
35	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ(多截竹管状工具による刺突)付隆帯による口縁部区画→刺切紋(刺突と同一工具カ)。 胴部に粗大な縄紋(LR)。口唇部に突起。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-黄褐色。外-橙色。 F. 口縁~胴部片。H. I14・G16G。
36	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋。胴部に縄紋(LRカ)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-暗褐色。外- 黒褐色。F. 口縁~胴部片。H. H10G。
37	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯で口縁部区画→単沈線紋(尖頭状工具)による斜格子紋。口唇部にキザミ。 胴部に縄紋(RLカ)。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. I9G。
38	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯→隆帯脇に平行沈線紋(部分的に内皮痕残存)→口唇下に刺突紋(細い竹 管状工具)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-浅黄褐色。F. 口縁部片。H. D15G。
39	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、単沈線紋(尖頭状工具)→円紋。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
40	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、円環状突起→平行沈線紋(内皮痕残存)。胴部に縄紋(LR)。内面、横位ナデ。 D. 繊維。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. G5G。
41	縄紋土器 深鉢	C. 外面、突起・隆帯→縄紋(LR)→刺切紋。内面、ミガキ。D. 繊維。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部片。H. G7G。
42	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯・羽状縄紋(RL・LR)。口唇部にキザミ。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-明褐色。 外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. H11G。
43	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、羽状縄紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-褐色。F. 口縁部片。 H. I8G。
44	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋(LRカ)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-明赤褐色。外-灰黄褐 色。F. 口縁部片。H. H11G。
45	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋(LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-黒褐色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。G. 器面荒れが著しい。H. F7G。
46	縄紋土器 深鉢	C. 外面、環状突起→羽状縄紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。 H. G10G。
47	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯による区画・渦巻文カ、撚糸側面圧痕紋・円紋・刺切紋。内面、丁寧なナデ。 D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. H10G。
48	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯による区画→撚糸側面圧痕紋・円紋・刺切紋。胴部にループ紋。内面、ナデ。 D. 繊維。E. 内-黒色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。H. I8G。
49	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯による区画等→刺切紋。胴部に多段ループ紋(RL・LR)。内面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-暗褐色。F. 口縁~胴部片。H. I11G。
50	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ(尖頭状工具)を伴う並行沈線紋で区画・縦位文・弧状文→刺切紋。内面、丁寧な ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-灰黄褐色。F. 口縁部片。H. D14G。
51	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋(LR)。口唇下にキザミ。内面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。 外-にぶい褐色。F. 口縁部片。
52	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結束羽状縄紋(RL・LR)。口唇部にキザミ(爪)、口唇下に刺切紋。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。H. D12G。
53	縄紋土器 深鉢	C. 外面、部分的にキザミを伴う平行沈線紋で区画等→刺切紋・貼付紋。口唇部に臼歯状突起。内面、 横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. G12G。

遺構外構出土遺物観察表（3）

54	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋 (RL) →コンパス紋 (内皮痕残存) →貼付紋。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外一明黄褐色。F. 口縁部片。H. G11G。
55	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋→密接平行沈線紋 (内皮痕残存)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一明黄褐色。F. 口縁部片。H. G12G。
56	縄紋土器 深鉢	C. 外面、組紐縄紋→平行沈線紋 (内皮痕残存)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一浅黄褐色。F. 胴部片。H. D16G。
57	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う閉端環付羽状縄紋 (RL・LR、前々段多条)。口唇部に鋸歯状突起。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外一にぶい黄橙・明赤褐色。F. 口縁部片。H. D13G。
58	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RLL) →コンパス紋 (内皮痕残存)。内面、横・縦位ミガキ。D. 繊維。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。H. D7G。
59	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋・刺突紋 (いずれも櫛歯状工具、5条1対)。胴部に縄紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁～胴部片。H. H14G。
60	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。口唇下に縦位短沈線紋 (尖頭状工具)。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内一にぶい褐色。外一暗褐色。F. 口縁部片。H. G10G。
61	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・菱形文カ。内面、横位ミガキ。D. 角閃石・粗大な石英・繊維。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. F11G。
62	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・菱形文。口唇部外縁にキザミ。内面、横位ミガキ。D. 片岩・繊維。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. D7・E7G。
63	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・菱形文。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. I11G。
64	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内一褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. I17G。
65	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋による区画等。胴部に縄紋。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい褐色。外一灰黄褐色。F. 口縁～胴部片。H. C15・E13G。
66	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋 (内皮痕残存) による複合鋸歯文。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. H5G。
67	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。口唇下の無紋部に平行沈線紋による縦位文。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁～胴部片。H. G16G。
68	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR) →平行沈線紋による斜格子文。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。H. G10G。
69	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位隆帯。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内一にぶい褐色。外一褐色。F. 口縁部片。H. G10G。
70	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋による縦位区画・横位文。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内一褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. I18G。
71	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (LR) →爪形紋。内面、横位ミガキ。D. 角閃石・繊維。E. 内一褐色。外一暗褐色。F. 胴部片。H. G17G。
72	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (LR)。口唇部外縁にキザミ (角棒状工具)。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内外一黄褐色。F. 口縁部片。H. H7G。
73	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR)。内面、横・縦位ナデ。D. 繊維。E. 内一褐色。外一黒褐色。F. 口縁部片。H. G16G。
74	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (28.8)。C. 外面、羽状縄紋 (RLR-RR・LRL-RR・LR、前々段多条)。ループ紋 (RL・LR)。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に縦位ナデ。D. 繊維。E. 内一褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁～胴部片。H. C17G。
75	縄紋土器 深鉢	A. 底径 (4.6)。C. 外面、斜縄紋 (RL)。内面、丁寧なナデ。底面、縄紋 (RL)。D. 片岩・繊維。E. 内一黒褐色。外一明褐色。F. 胴下半～底部ほぼ完形。H. I11G。
76	縄紋土器 鉢	B. 脚付。C. 外面、縄紋 (RL、前々段3条)。脚部にキザミ付隆帯。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 胴～底部片。H. H15G。
77	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋 (3条1対) による斜格子文。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内一にぶい黄褐色。外一褐色。F. 胴部片。H. H18G。
78	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) →爪形紋。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内一灰黄褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. I6G。
79	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) →爪形紋で口縁部区画→細い単沈線紋で縦位区画→円紋。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内一褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. C13G。
80	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR) →平行沈線紋 (内皮痕残存)。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一褐色。F. 口縁部片カ。H. E16・E17G。
81	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋で口縁部区画→条線紋・円紋による肋骨文。口唇部にキザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. I9G。
82	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) →キザミ (へら状工具) 付隆帯・平行沈線紋による区画等。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁～胴部片。H. G7G。
83	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) →平行沈線紋による横位文→波状文 (前者のみ内皮痕残存)。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内一にぶい黄褐色。外一灰黄褐色。F. 口縁～胴部片。H. 14号住居跡。
84	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋 (8条1対) による横位文→波状文。内面、横位ミガキ。D. チャート・片岩。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. F10・F11G。

遺構外構出土土物観察表（４）

85	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋（5条1対）による横位文→刺突列（尖頭の半截竹管状工具）で縦位区画。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。G. 焼成後穿孔。H. G7・G8G。
86	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋（5条1対）による横位文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. 15号住居跡カマド。
87	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（RL）→平行沈線紋（内皮痕残存）・磨消縄紋による木葉状入組文。内面、縦位ミガキ。D. 角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 口縁～胴部片。H. D15G。
88	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（RL）→刺突列（半截竹管状工具）で口縁部区画→平行沈線紋（内皮痕残存）・磨消縄紋による木葉状入組文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. H11G。
89	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→円紋。焼成前穿孔。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一浅黄色。F. 口縁部片。H. H14G。
90	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. F10G。
91	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・刺突列による区画等。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. C11・E13G。
92	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画等。口唇部に突起・キザミ（ヘラ状工具）。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. I14G。
93	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・入組文。内面、斜位ナデ。D. 粗大な片岩・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. H10G。
94	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存、一部爪形紋）。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一黄褐色。F. 口縁部片。H. E11G。
95	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・波状文。内面、ナデ。D. 粗大な片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。H. H13G。
96	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミによる区画・波状文。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。H. E10G。
97	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→縄紋（RL）を伴う浮線紋で区画等。口唇部に小突起。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内一黄橙色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. H7G。
98	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→縄紋（RL）を伴う浮線紋で区画等。内面、横位ナデ。D. 粗大な片岩。E. 内一にぶい褐色。外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. I9G。
99	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→キザミ付浮線紋による入組文。口唇部に突起・キザミ。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内一灰黄色。外一暗灰黄色。F. 口縁部片。H. D4G。
100	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（LR）→キザミ付浮線紋による区画等。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一暗褐色。F. 胴部片。H. H15G。
101	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（LR）→浮線紋・キザミ付浮線紋による区画・入組文。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外一浅黄褐色。F. 口縁～胴部片。H. F11G。
102	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（R）→低平なキザミ付浮線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一褐色。F. 口縁部片。H. 5号住居跡・F14G。
103	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画。縄紋→平行沈線紋。内面、ケズリ→斜位ナデ。D. チャート・片岩・角閃石。E. 内一褐色。外一黄褐色。F. 口縁部片。H. I7G。
104	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→平行沈線紋（内皮痕残存）による入組文。内面、ケズリ→横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一褐色。F. 胴部片。H. E9G。
105	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存）→キザミ（細い竹管状工具による刺突）。内面、ナデ。D. 多量の石英。E. 内一浅黄褐色。外一灰黄褐色。F. 口縁部片。H. E11G。
106	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋。口唇部にキザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. F5G。
107	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存）による区画等。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. E11G。
108	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋による区画等。内面、ナデ。D. 多量の角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一黒褐色。F. 口縁部片。H. G11G。
109	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内一褐色。外一灰黄褐色。F. 胴部片。H. I18G。
110	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋による区画等。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. E17G。
111	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一灰黄褐色。外一褐色。F. 口縁部片。H. G11G。
112	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→縦位・弧状・矢羽状集合沈線紋。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。H. G14G。
113	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、矢羽状集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. F16G。
114	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→耳状・棒状・ボタン状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一褐色。F. 口縁部片。H. D12G。
115	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→耳状・棒状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. D14G。

遺構外構出土遺物観察表（5）

116	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→耳状・棒状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. I8G。
117	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→棒状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。G. 接合面で剥離。H. G7G。
118	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→棒状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. F6G。
119	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 雲母・角閃石。E. 内外一暗灰黄色。F. 口縁部片。H. G5・G6G。
120	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→刺突列（半截竹管状工具）を伴う耳状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 胴部片カ。H. D15G。
121	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。内面、横・斜位ナデ。D. 片岩。E. 内一橙色。外一にぶい黄褐色。F. 胴部片。H. C13G。
122	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状集合沈線紋→結節平行沈線紋・ボタン状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい橙色。外一褐色。F. 口縁部片。H. H18G。
123	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位集合沈線紋→結節浮線紋による渦巻文等。内面、丁寧な横位ナデ。D. 特になし。E. 内外一黄褐色。F. 口縁部片。H. C13G。
124	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→結節浮線紋。内面、縦位ミガキ。D. 角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁部片。H. E10G。
125	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→結節浮線紋。内面、縦位ミガキ。D. 特になし。E. 内一灰褐色。外一にぶい黄褐色。F. 胴部片。H. E10G。
126	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→浮線紋・ボタン状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 胴部片。H. G7G。
127	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋（RL）→浮線紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴部片。H. G10G。
128	縄紋土器 深鉢	C. 外面、三角紋。口唇下に刺切状のキザミ。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一灰黄褐色。F. 口縁部片。H. H18G。
129	縄紋土器 深鉢	C. 外面、三角紋。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内一浅黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 胴部片。H. A17G。
130	縄紋土器 深鉢	C. 外面、凹凸紋（指頭）。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部片カ。H. J16G。
131	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、縄紋（LR）→口唇下に爪形紋。内面、斜位ミガキ。D. 特になし。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. H6G。
132	縄紋土器 浅鉢	A. 口径（18.5）。底径5.8。器高（9.1）。C. 外面、胴部に斜縄紋（RL）。口唇部に貼付紋。稜部分にキザミ。内面、横位ミガキ。底面、ナデ。D. 特になし。E. 内一赤褐色。外一にぶい橙色。F. 口縁・胴～底部片。G. 内面に焼成前赤彩。H. D14G。
133	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、斜縄紋（RL）→爪形紋による区画。内面、横位ミガキ。D. 多量の角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 口縁～胴部片。H. E5G。
134	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、刺突列（半截竹管状工具）による口縁部区画→平行沈線紋（内皮痕残存）・磨消縄紋で木葉状入組文カ。胴部に斜縄紋（RL、直前段3条）。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一橙色。F. 口縁～胴部片。H. G11G。
135	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、平行沈線紋（内皮痕残存）→稜部分にキザミ。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内一明黄褐色。外一にぶい橙色。F. 口縁～胴部片。H. F8G。
136	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、（LR）爪形紋・磨消縄紋による木葉状入組文。内面、斜位ミガキ。D. 特になし。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. F15G。
137	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、口唇下にキザミ付隆帯。内面、横位ナデ。D. 角閃石・雲母。E. 内一黒褐色。外一にぶい橙色。F. 口縁～胴部片。H. I4G。
138	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、口唇下に隆帯。焼成前穿孔。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部片。H. H18G。
139	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋による区画・円文等→三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一灰黄褐色。F. 胴部片。H. F8G。
140	縄紋土器 深鉢	C. 外面、密接平行沈線紋（内皮痕残存）→印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい橙色。F. 胴部片。H. E14G。
141	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節平行沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴部片。H. I10G。
142	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節浮線紋。口唇部に筒状突起。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。H. G6G。
143	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突列（半截竹管状工具）を伴う横位隆帯。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。H. H14G。
144	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ（細い角棒状工具）付隆帯→結節を伴う縄紋（RL）。内面、縦位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。H. D13G。
145	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯。内面、横位ナデ・工具痕。D. 片岩。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁～胴部片。H. F17G。

遺構外構出土遺物観察表(6)

146	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯→縄紋(LR)。棒状突起。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい赤褐色。F. 口縁~胴部片。H. I9G。
147	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、斜縄紋(LR)→口唇下に三角印刻紋。内面、ナデ・工具痕。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁~胴部片。H. I14G。
148	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、口唇下に鋸歯状印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部片。H. C17G。
149	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、縄紋(RL)。口唇下の肥厚部にキザミ(指頭)。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
150	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、結節を伴う縄紋(RL)。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. C12G。
151	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、口唇下に斜縄紋(LR)。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. F14G。
152	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸側面圧痕紋(RL)。口唇部に縄紋(RL)。内面、口唇下に斜縄紋(RL)。D. 多量の石英。E. 内外-灰黄褐色。F. 口縁部片。H. C13G。
153	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. G2G。
154	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。G. 擬口縁、輪積部分にキザミ。H. C9・G11・H9G。
155	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う斜縄紋(L)。内面、ケズリ→ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-褐色。F. 口縁部片。H. C16G。
156	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う斜縄紋(L)。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. D16G。
157	縄紋土器 深鉢	C. 外面、貝殻背圧痕紋。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. G7G。
158	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位ナデ。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. K11G。
159	縄紋土器 深鉢	A. 口径(17.5)。B. 折返状口縁。C. 外面、隆帯・キザミを伴う突起・印刻紋・結節縄紋。口唇部に突起・印刻紋。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁~胴部片。H. H13G。
160	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、棒状突起→縦位結束羽状縄紋(R・L)。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-褐色。F. 口縁部片。H. G15G。
161	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯で口縁部区画→縄紋(LR)→結節沈線紋(丸棒状工具)。内面、丁寧なナデ。D. 雲母。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. C11・C12G。
162	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画→縄紋(RL)→結節沈線紋(丸棒状工具)。内面、横位ナデ。D. 雲母。E. 内外-にぶい褐色・褐色。F. 口縁~胴部片。H. G6G。
163	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯で口縁部区画。複合鋸歯紋→密接沈線紋(いずれも同一の細い竹管状工具カ)。口唇部・口唇下にキザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-褐色。F. 口縁部片。H. D15G。
164	縄紋土器 深鉢	C. 外面、単沈線紋・刺突列(いずれも同一の細い竹管状工具カ)。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 胴部片。H. D10G。
165	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位ナデ。口唇部にキザミ。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. D16G。
166	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節沈線紋(尖頭状工具)・ヒダ状圧痕紋。内面、横位ナデ。D. 多量の雲母。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. C17G。
167	縄紋土器 深鉢	C. 外面、ヒダ状圧痕紋→Y字状垂下隆帯→単沈線紋(尖頭状工具)。内面、ナデ。D. 多量の雲母。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。H. C16G。
168	縄紋土器 深鉢	A. 底径(16.2)。C. 外面、ヒダ状圧痕紋。内面、横位ナデ。底面、網代痕。D. 多量の雲母。E. 内-褐色。外-にぶい赤褐色。F. 底部片。H. F5G。
169	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸紋(L)→隆帯で口縁部区画。内面、丁寧な横・縦位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. E14G。
170	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋→縦位・縦位波状単沈線紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-灰黄褐色。外-褐色。F. 胴部片。H. E12G。
171	土製品 土製円盤	A. 径3.9~4.7。厚0.9。C. 表面、縄紋(LR)。裏面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 表-にぶい褐色。裏-褐色。F. 完形。H. G10G。
172	土製品 土製円盤	A. 径4.5。厚1.2。C. 表裏面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 表-褐色。裏-にぶい褐色。F. 完形。H. F17G。
173	土製品 土製円盤	A. 径3.3~3.7。厚0.9。C. 表面、縄紋(RL)。裏面、ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 表-褐色。裏-にぶい褐色。F. 完形。H. G5G。
174	石器 石鏃	A. 長2.2。幅1.6。厚0.7。重1.2。D. 黒曜石。F. 完形。G. 平基無茎。H. I7G。
175	石器 石鏃	A. 長[2.2]。幅1.4。厚0.5。重0.9。D. チャート。F. 先端部欠損。G. 凹基無茎。H. H10G。
176	石器 石匙	A. 長4.7。幅8.0。厚1.3。重32.4。C. 剥片の縁辺に両面調整。打面周辺につまみ部をもつ。D. 頁岩。F. 完形。G. 横型石匙。刃部周辺に磨耗痕。H. G6G。

遺構外構出土遺物観察表（7）

177	石器 打製石斧	A. 長 8.2. 幅 3.9. 厚 1.5. 重 53.8. C. 割礫の周縁に片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 短冊形。H. H6G。
178	石器 打製石斧	A. 長 8.9. 幅 6.5. 厚 2.6. 重 123.1. C. 割礫の両側縁に両面調整、刃部に急角度な片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 撥形。表・裏面中央に磨耗痕。H. E15G。
179	石器 打製石斧	A. 長 16.2. 幅 8.0. 厚 3.6. 重 517.9. C. 割礫の両側縁に両面調整。D. 砂岩。F. 完形。G. 短冊形。刃部に微細剥離痕。H. E11G。
180	石器 打製石斧	A. 長 16.9. 幅 7.0. 厚 3.9. 重 411.8. C. 扁平礫の周縁に両面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 撥形。基部に浅い抉りをもつ。刃部および両側縁部に微細剥離痕。H. I8G。
181	石器 打製石斧	A. 長 14.2. 幅 5.8. 厚 2.1. 重 186.7. C. 扁平礫の両側縁に両面調整。D. 緑色岩類。F. 完形。G. 撥形。両側縁の上部に浅い抉りをもつ。偏刃。H. G13G。
182	石器 打製石斧	A. 長 13.2. 幅 5.3. 厚 2.5. 重 156.3. C. 割礫の両側縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 短冊形。刃部周辺に磨耗痕や微細剥離痕が顕著。H. D11G。
183	石器 打製石斧	A. 長 19.0. 幅 12.4. 厚 5.8. 重 1,020.7. C. 大形剥片の周縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 撥形。両側縁の中央に浅い抉りをもつ。H. D12G。
184	石器 礫器	A. 長 5.8. 幅 8.3. 厚 3.0. 重 191.8. C. 割礫の二側縁に急角度な片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。表面に磨耗痕が顕著。H. D11G。
185	石器 礫器	A. 長 7.6. 幅 9.4. 厚 3.8. 重 298.0. C. 扁平礫の二側縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。H. I16G。
186	石器 礫器	A. 長 8.9. 幅 14.0. 厚 4.1. 重 544.2. C. 割礫の周縁に(亀甲状の)片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 周縁の一部に微細剥離痕。H. E16G。
187	石器 三角錐形石器	A. 長 7.4. 幅 7.2. 厚 6.1. 重 370.6. C. やや柱状の割礫を素材とし、上面は直接打撃により平坦面を作出。表・左・下面は直接打撃による急角度調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 表・裏面の稜上に連続する微細剥離痕。H. I14G。
188	石器 三角錐形石器	A. 長 7.6. 幅 4.9. 厚 4.9. 重 194.4. C. 厚手の剥片に直接打撃による調整を施し柱状に成形。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 表・裏面の稜上に小さな剥離痕。H. G10G。
189	石器 スクレイパー	A. 長 [6.5]. 幅 [2.6]. 厚 1.0. 重 13.9. C. 縦長剥片の二側縁を押圧剥離による片面調整。D. チャート。F. 上部欠損。G. 刃部に微細剥離痕。H. F10G。
190	石器 スクレイパー	A. 長 3.8. 幅 9.3. 厚 1.6. 重 58.0. C. 板状剥片の側縁に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 刃部周辺に微細剥離痕および磨耗痕。表面上部に磨耗痕より新しい剥離痕。H. G6G。
191	石器 スクレイパー	A. 長 10.2. 幅 14.1. 厚 3.8. 重 496.3. C. 割礫の側縁に不連続な片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 刃部の一部に微細剥離痕。H. E12G。
192	石器 スクレイパー	A. 長 6.9. 幅 6.2. 厚 1.7. 重 67.6. C. 割礫の二側縁に両面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部に磨耗痕および微細剥離痕。H. C10G。
193	石器 スクレイパー	A. 長 4.6. 幅 5.3. 厚 1.8. 重 56.8. C. 割礫の周縁に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。H. I10G。
194	石器 リタッチドフリック	A. 長 11.1. 幅 3.4. 厚 1.8. 重 57.8. D. 頁岩。F. 完形。G. 割礫の二側縁に磨耗痕および微細剥離痕。H. I12G。
195	石器 磨石	A. 長 17.1. 幅 11.9. 厚 5.2. 重 1,645.5. D. 閃緑岩。F. 完形。G. 楕円形。自然礫の表・裏面に磨耗痕。側縁の一部に敲打痕。磨→敲。H. E16G。
196	石器 磨石	A. 長 12.0. 幅 4.8. 厚 4.1. 重 393.3. D. 閃緑岩。F. 完形。G. 棒状。自然礫の表・裏面および両側縁に磨耗痕。裏面は顕著な磨耗により平滑化。表面や両側縁にスス付着。H. F6G。
197	石器 凹石	A. 長 9.4. 幅 8.3. 厚 2.7. 重 267.5. D. 砂岩。F. 完形。G. 不整楕円形。器面全体に磨耗痕。表・裏面中央に播鉢状の深い凹穴。上部に顕著な敲打痕。磨→凹。H. G11G。
198	石器 凹石	A. 長 10.0. 幅 8.5. 厚 2.4. 重 296.7. D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。自然礫の表・裏面に顕著な磨耗痕。表・裏面中央や周縁の一部に敲打による凹穴。磨→凹。H. J10G。
199	石器 凹石	A. 長 14.5. 幅 7.1. 厚 5.0. 重 740.1. D. 安山岩。F. 完形。G. 長楕円形。器面全体に磨耗痕。表・裏面中央に敲打による凹穴。両側縁は敲・磨痕により平滑化。磨→凹。H. F16G。
200	石器 石皿	A. 長 [36.1]. 幅 30.4. 厚 5.0. 重 8,550.0. C. 整形痕なし。D. 緑色岩類。F. 下端部欠損。G. 扁平礫の表・裏面に磨耗痕や敲打痕。皿面は磨耗により浅く窪む。裏面は平滑化。
201	石器 台石	A. 長 16.3. 幅 [11.5]. 厚 4.1. 重 906.0. C. 自然礫を磨耗・敲打により円形に成形。D. 安山岩。F. 3/5. G. 表・裏面に敲打痕が顕著。部分的に被熱痕。H. I8G。
202	石器 扁平礫	A. 長 6.7. 幅 3.4. 厚 0.7. 重 23.0. D. 緑色岩類。F. 完形。G. 扁平な自然礫。全体に磨滅しているが擦痕などの人為的な痕跡は認められない。H. M10G。
203	石器 多孔石	A. 長 [24.4]. 幅 21.3. 厚 12.3. 重 7,250.0. D. 片岩。F. 上端部欠損。G. 自然礫の表・裏面に漏斗状の凹穴が多数。一部の凹穴は連結。H. G18G。
204	須恵器 坏	A. 底径 6.9. B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・石英。E. 内外-灰色。F. 体部下半～底部ほぼ完形。G. 還元焼成。H. 表採。
205	灰釉陶器 瓶	A. 底径 (13.5). B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ケズリ→高台貼付。D. 白色粒子。E. 内外-灰白色。F. 体部 1/5. G. 外面に灰釉あり。H. 表採。
206	金属製品 古銭	A. 径 2.3. 厚 0.1. 重 3.0. F. 完形。G. 「寛永通宝」。H. 表採。
207	金属製品 鉄砲玉	A. 径 1.1. 重 8.4. F. 完形。G. 鉛製カ。H. 倒木痕。

遺構外構出土遺物観察表（8）

208	石製品 剣形模造品	A. 長 [5.2]。幅 1.6。厚 0.5。重 6.6。D. 蛇紋岩。F. 上部欠損。G. 全体に研磨痕。各研磨面には斜位方向の擦痕が顕著。H. G5G。
209	焼成粘土塊	A. 長 7.7。幅 5.8。厚 1.9～2.9。重 150.9。C. 成形痕あり。単位・工具は不明瞭。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。G. 外面に黒斑。二次被熱。H. J16G。
210	焼成粘土塊	A. 長 8.2。幅 5.8。厚 4.3。重 194.2。C. 不整形。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。G. 内面に黒斑。二次被熱。H. I11G。

石器組成表（器種別点数）

	石鏃	石錐	石匙	楔形 石器	打製 石斧	礫器	三角 錐形	S c	R F	磨石 類	石皿	敲石	砥石	台石	多孔 石	磨製 石斧	石核	剥片	棒状 礫類	合計
1住																		1		1
2住								1			1				1					3
3住	1			1	2	1		1	4	1	1							6		18
4住									1									2		3
5住								1	1								3	16		21
6住																		1		1
7住					2			7	3	1	1		1				1	7		23
8住																1		3		4
9住					4			3	2	2					1			4	1	17
10住	1							3	3	3	1						2	11		24
11住						1		4		5					2			1		13
13住	1								1									3		5
14住								1												1
15住																		1		1
16住		1						1	3									2		7
17住								2										2		4
18住					5	4		14	17	10	1		2	1	1		4	52	1	112
19住		1			1			1	2									4		9
20住					3			2		3		1						6		15
21住								1										2		3
22住				2	1	1		2												6
23住						1			3									2		6
24住																				0
26住	1			1	3	3		4	4			1			2			15		34
27住					1			1	1									9		12
28住					1			2									1	5		9
29住									1									1		2
1集															1					
2集															1					
4集					1			2	1	2					1	1				7
4土					1	1		2	5	4		2						1		16
7土					1			1	1									2		5
11土					1			1		1								1		4
39土																		1		1
42土					1															1
43土								1										1		2
50土																		1		1
52土																				0
54土																				0
55土															1					1
77土																				0
84土										2										2
92土										1										1
93土																		1		1
96土																				0
119土								1												1
120土									1									1		2
遺構外	18		4	1	110	75	3	141	329	151	7		3	10	26		9	443	4	1334
合計	22	2	7	2	138	87	3	200	383	186	12	4	6	11	37	2	20	608	6	1736

S c : スクレイパー R F : リタッチドフレイク

中山遺跡

石器組成表（石材別点数）

	Ob	Ch	Ban	Ag	Sh	SS	Ho	An	Di	Sc	GrR	軽石	石英	合計
1住	1													1
2住					1						2			3
3住	6	4			1		4	1			2			18
4住	3													3
5住	13		1		1		6							21
6住					1									1
7住		2			3	1	13	2			2			23
8住		3					1							4
9住		1			2	1	9	1		1	2			17
10住	2	6	2		3	1	7			1	2			24
11住		1				2	5	2		1	2			13
13住	3				1		1							5
14住					1									1
15住							1							1
16住	3	1			1		2							7
17住		2					2							4
18住	4	17	3		18	5	53	4	2	4	2			112
19住	1	1			3		3				1			9
20住	4				3	1	4	1	1		1			15
21住							3							3
22住					2	1	3							6
23住					4		2							6
24住														0
26住	2	8	1	1	7		13				2			34
27住	1	4			2		5							12
28住		2			3		4							9
29住					1		1							2
1集										1				
2集										1				
4集					1		4	1		2				7
4土	1						8	2			5			16
7土					3		2							5
11土							2	1			1			4
39土		1												1
42土							1							1
43土							2							2
50土							1							1
52土														0
54土														0
55土										1				1
77土														0
84土						1				1				2
92土										1				1
93土							1							1
96土														0
119土					1									1
120土							2							2
遺構外	132	130	33		141	22	679	105	18	39	30		5	1334
合計	176	183	40	1	204	35	844	120	21	53	54	0	5	1736

Ob: 黒曜石 Ch: チャート Ban: 黒色安山岩 Ag: 瑪瑙 Sh: 頁岩 SS: 砂岩 Ho: ホルンフェルス An: 安山岩 Di: 閃緑岩 Sc: 片岩 GrR: 緑色岩類

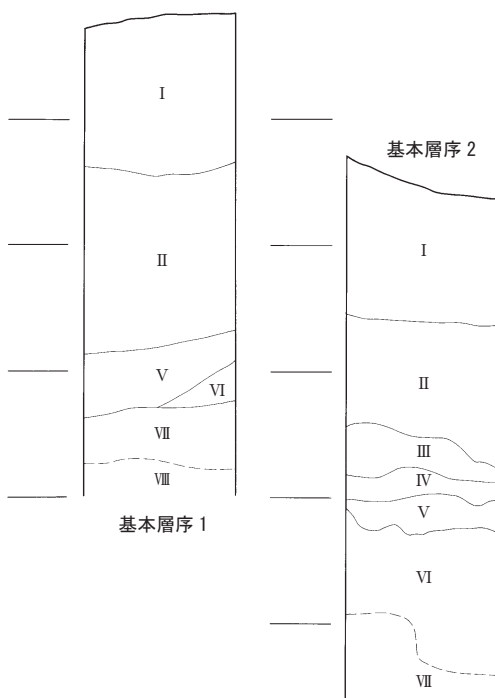


## 第IV章 竹ノ平遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

調査区は山地を南北に下刻する谷戸に沿った西斜面に位置する。東から西に傾斜しており、段状を呈する部分も調査区中央等で見受けられた。

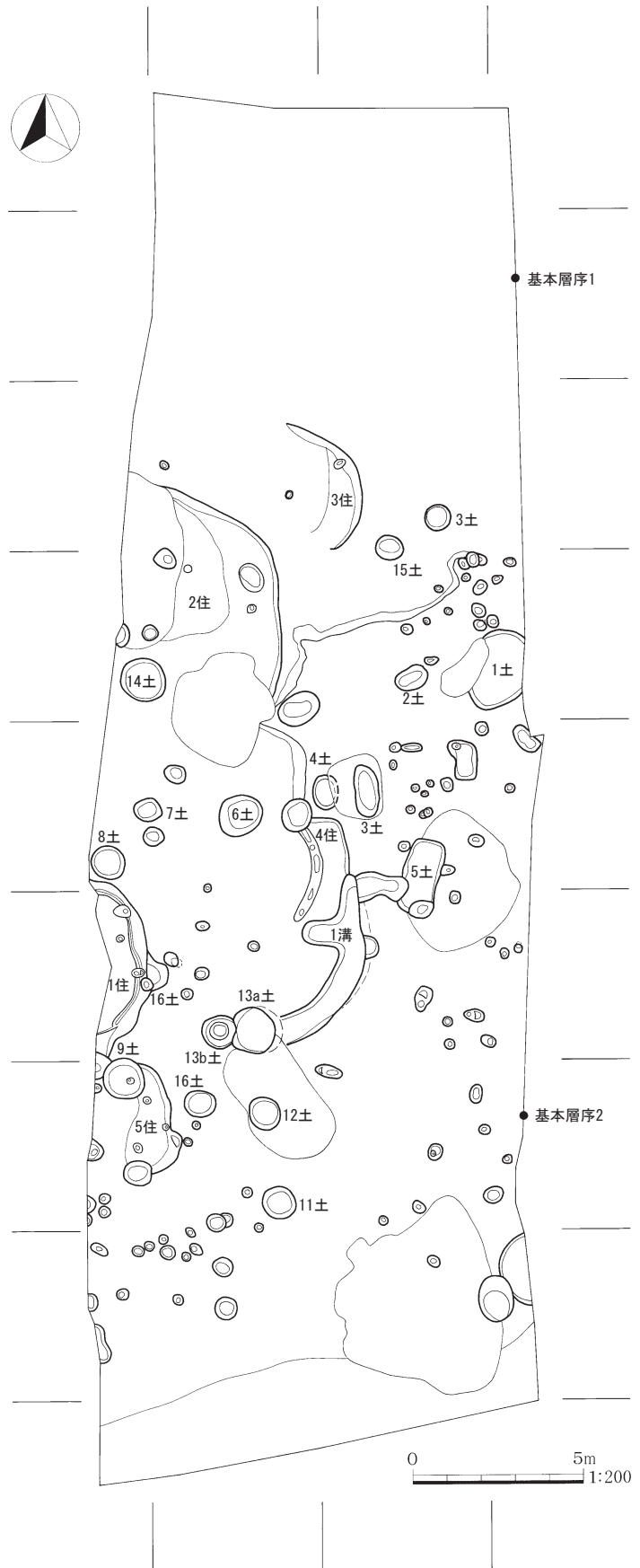
調査区内には表土のⅠ層、遺物を包含するⅡ・Ⅲ層、ローム層およびその漸移層のⅣ・Ⅴ・Ⅵ層、粘質のⅦ層、片岩を主体とするⅧ層が堆積する。表土層の上端は腐植土が一面に広がっていた。Ⅱ・Ⅲ層には縄文時代前期に比定される遺物



#### 竹ノ平遺跡 基本層序

- I：暗褐色土層。微量のロームブロック・片岩、土器片が混じる。粘性・しまりが強い。
- II：暗橙褐色土層。ロームブロック・土器片を多量含む。粘性・しまりが強い。
- III：黒褐色土層。黒色土ブロックを多量含む。土器片が混じる。粘性はなく、しまりが強い。
- IV：暗黄色ローム質土層。浅間一板鼻黄色軽石を微量含む。しまりが強い。
- V：暗黄色ローム土層。浅間一板鼻黄色軽石を大量含む。ローム風化土を主体とする部分がある。しまりが強い。
- VI：黄色ローム土層。しまりは強いものの、上端はやや弱い。
- VII：明灰色粘質土層。風化した片岩を主体とする。粘性・しまりがある。
- VIII：片岩塊ないし砂礫層。

第110図 基本層序



第111図 全体図

が混入する。IV層はIII層とローム層の漸移層で、ローム質を呈する。V・VI層はローム層で、V層はVI層より色調が暗い。浅間一板鼻黄色軽石(As-YP)を多量に含んでおり、その形成時期は噴出した13,000～14,000年前に求められよう。VII層は風化した片岩を主体とする。VIII層は片岩による岩盤層や砂礫層に相当する。層位が一定せず、調査区北側等で部分的に露出した。なお、調査はIV層ないしV層上面で実施している。

検出された遺構は、竪穴住居跡5軒、集石遺構1基、土坑17基、および多数の小穴、倒木痕・植栽等の掘り込みである。

竪穴住居跡は全て縄紋時代に比定され、前期後葉諸磯a式期(5号住居跡)、諸磯b式期(1・2号住居跡)、細別時期不明(3・4号住居跡)のものが認められる。調査区中央の西側に集中し、地形の傾斜に沿った削平が著しい。土坑や小穴は調査区中央に集中する。土坑に関しては、倒木痕や植栽等との区別が難しく、発掘調査時の所見に従った。縄紋土器を伴出する事例が多い。

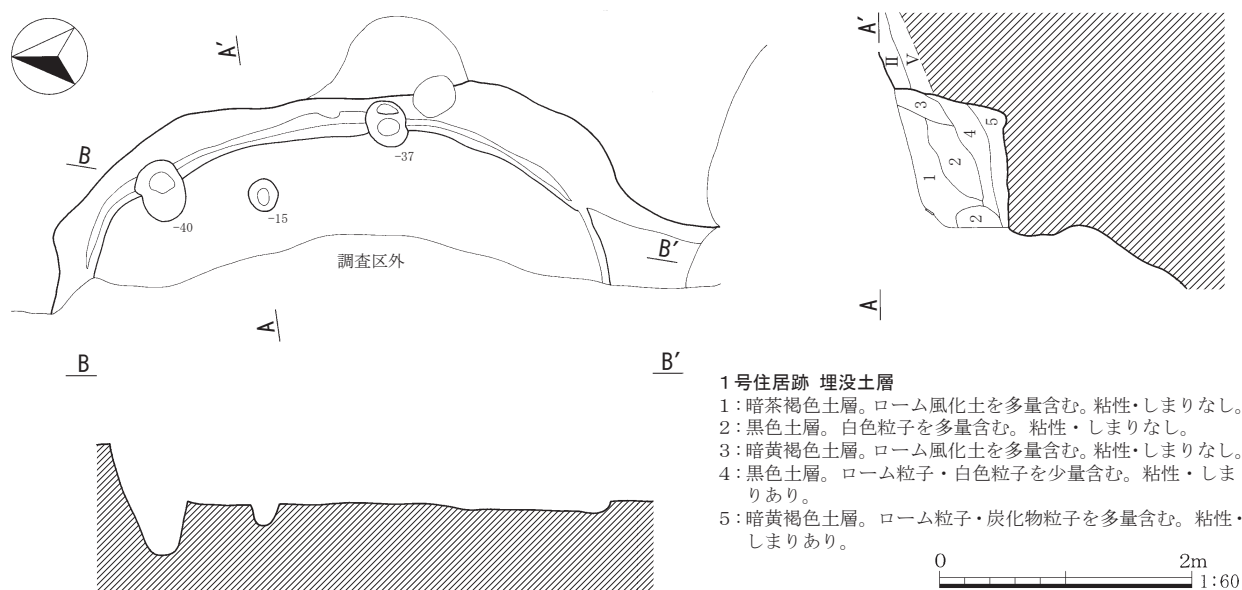
検出された遺物は縄紋土器や石器である。遺構に伴うものに加えて、包含層中から出土したものも多い。縄紋土器は前期全般を主体としていた。(高橋)

## 第2節 遺構と遺物

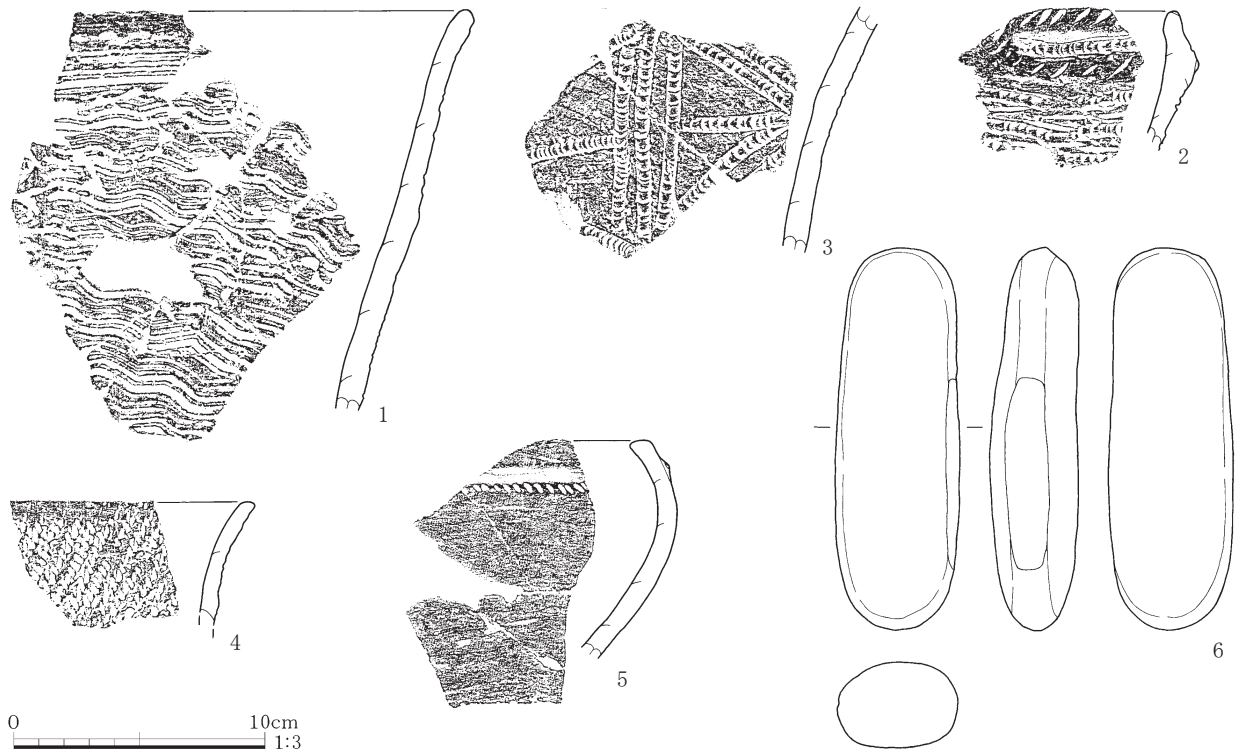
### 1. 竪穴住居跡

#### 1号住居跡(第112・113図、写真図版11・52)

**位置:** 調査区の西側に所在する。住居跡の西側は調査区外にかかる。土坑と重複するが、新旧関係は不明である。**形態:** 西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推測され、壁際に周溝が巡る。**主軸方位:** 不明。**規模:** 不明。**炉:** 未検出。**柱穴:** 3基。**遺物:** 少量の遺物が竪穴内に散在する。早期後葉ないし末葉、前期前半・後葉の縄紋土器片が認められ、諸磯b式が多くを占める。**時期:** 出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯b式期に比定される。(高橋)



第112図 1号住居跡



第113図 1号住居跡出土遺物

1号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋（5条1対）による口縁部区画・波状文。内面、ミガキ。D. 片岩。E. 内—橙色。外—にぶい橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミによる区画。口唇部に爪形紋・キザミを伴う突起。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内—明赤褐色。外—橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内—にぶい橙色。外—橙色。F. 胴部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋（LR）。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内—にぶい褐色。外—にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、横位ミガキ。口唇下にキザミ付隆帯。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部にナデ。D. 特になし。E. 内外—浅黄橙色。F. 口縁～胴部片。
6	石器 磨石	A. 長15.1。幅4.9。厚3.5。重412.4。D. 砂岩。F. 完形。G. 長楕円形。表・裏面全体に磨耗痕。右側面中央部は敲・磨痕により平滑化。

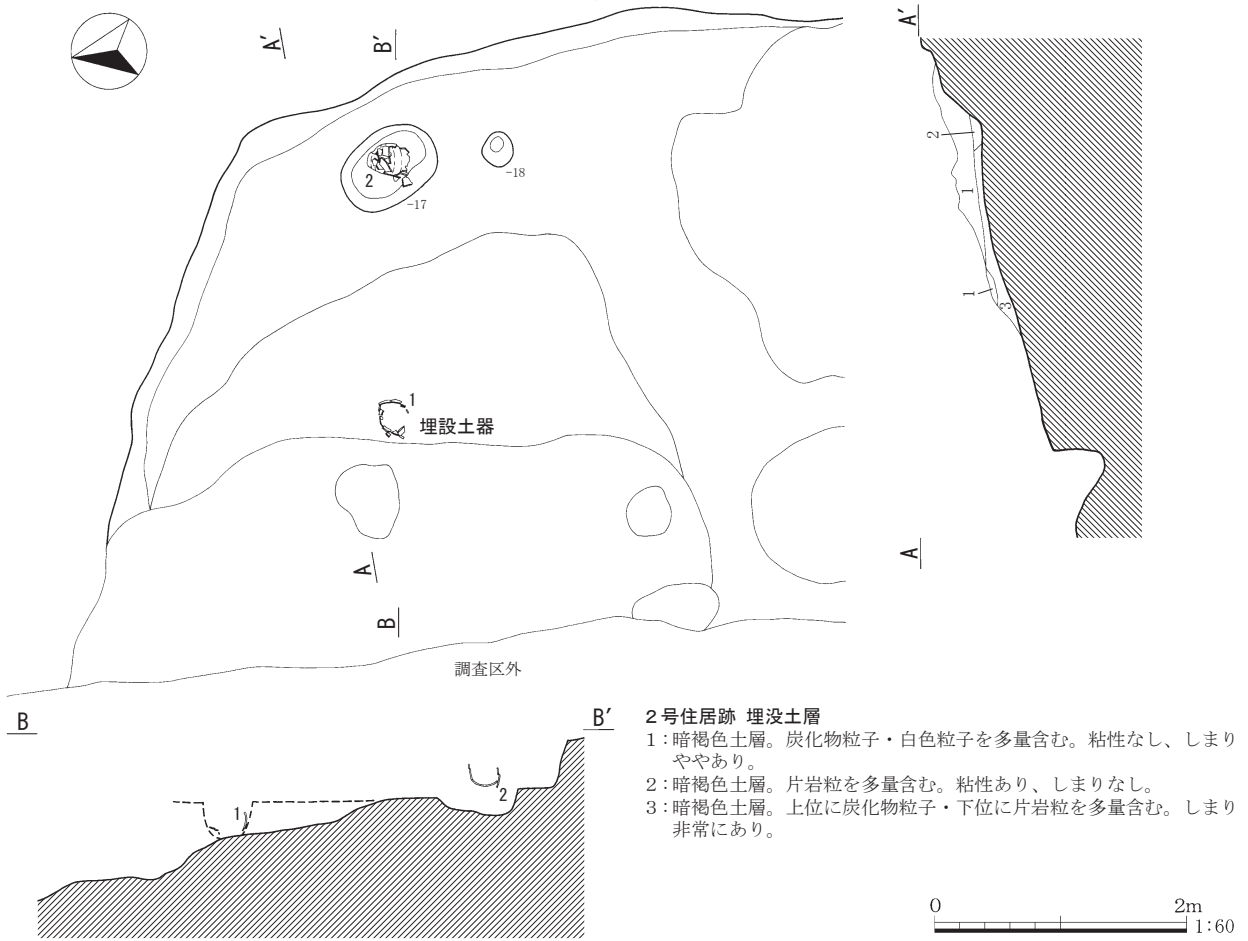
2号住居跡 □ 第114・115図、写真図版12・52

位置：調査区の西側に所在する。住居跡の西側は調査区外にかかる。遺構の南側で土坑や倒木痕と重複するが、新旧関係は不明である。形態：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面形態は不明である。床面は硬化しており、土坑状の掘り込みが見受けられた。断面の観察から周溝の存在が予想される。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：2基。埋設土器：深鉢の胴部（第115図1）が正位の状態検出された。遺物：出土量は僅かで、前期後葉の縄紋土器が認められた。埋設土器は諸磯a式ないし諸磯b式に比定される。なお、竪穴の北東側では無紋の深鉢（第115図2）が斜

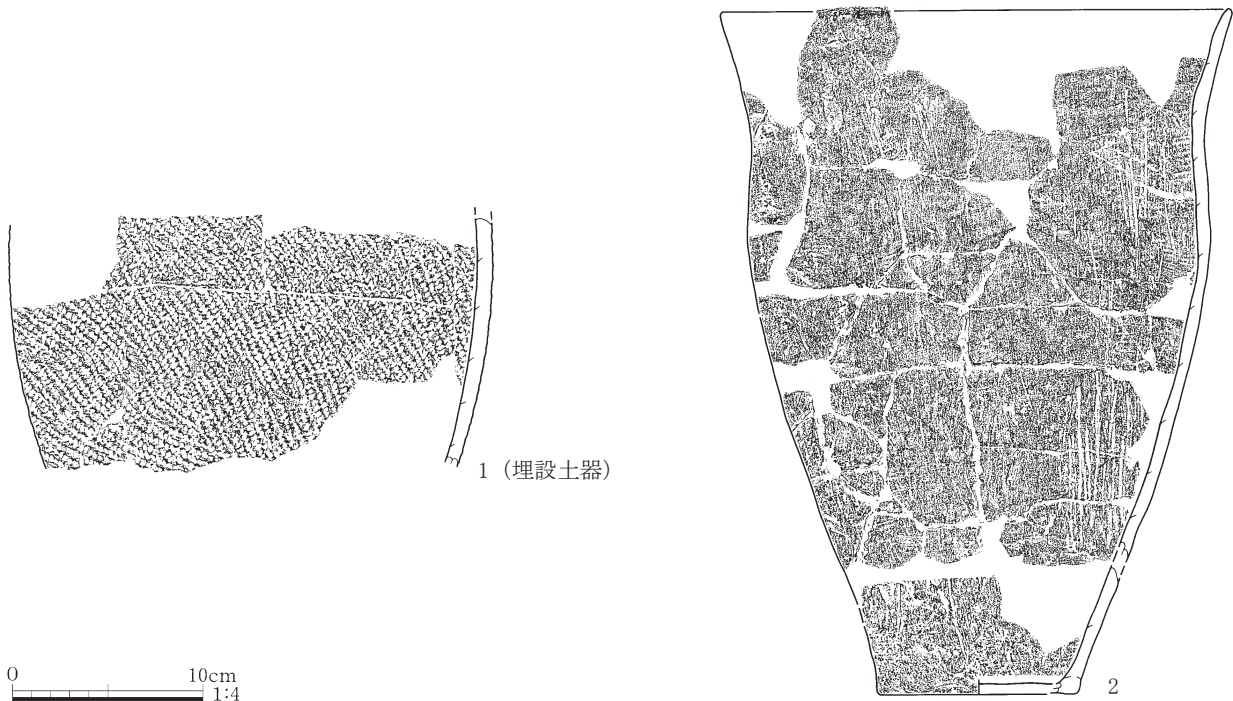
2号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う斜縄紋（RL）。内面、縦・斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内—橙色。外—にぶい橙色。F. 胴上半部1/3。H. 埋設土器。
2	縄紋土器 深鉢	A. 口径（27.2）。底径（10.7）。器高（36.0）。C. 外面、縦位ケズリ。内面、口縁部に斜位ミガキ、胴部に縦位ミガキ、底部に横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外—にぶい黄橙色。F. 口縁部1/5、胴部～底部ほぼ完形。

めに倒れた状態で出土した。下位の掘り込みを斟酌すると、重複する土坑に伴う可能性も予想されよう。**時期**：埋設土器から縄紋時代前期後葉諸磯 a 式ないし諸磯 b 式期に比定される。(高橋)



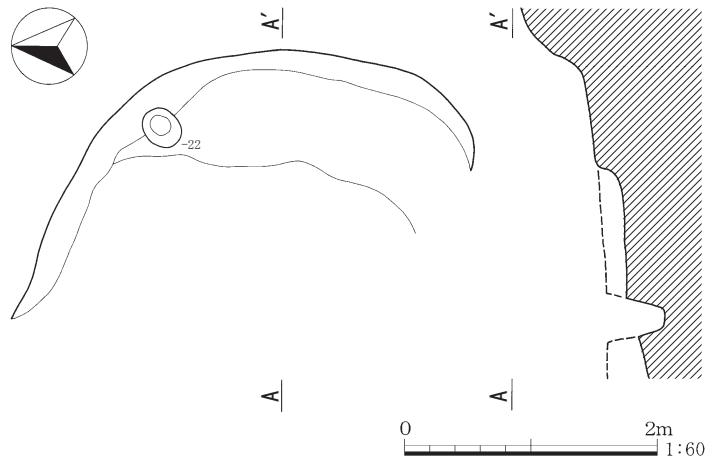
第 114 図 2号住居跡



第 115 図 2号住居跡出土遺物

## 3号住居跡 (第116図、写真図版12)

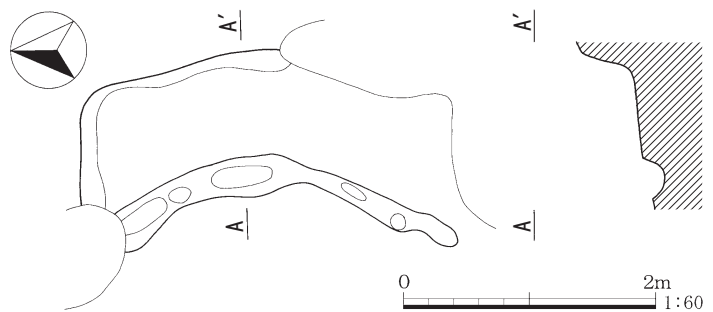
位置：調査区の北側に所在する。形態：西側の大半が地形の傾斜に沿って消失し、不明瞭である。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：1基。遺物：未検出。時期：縄紋時代。(高橋)



第116図 3号住居跡

## 4号住居跡 (第117図、写真図版13)

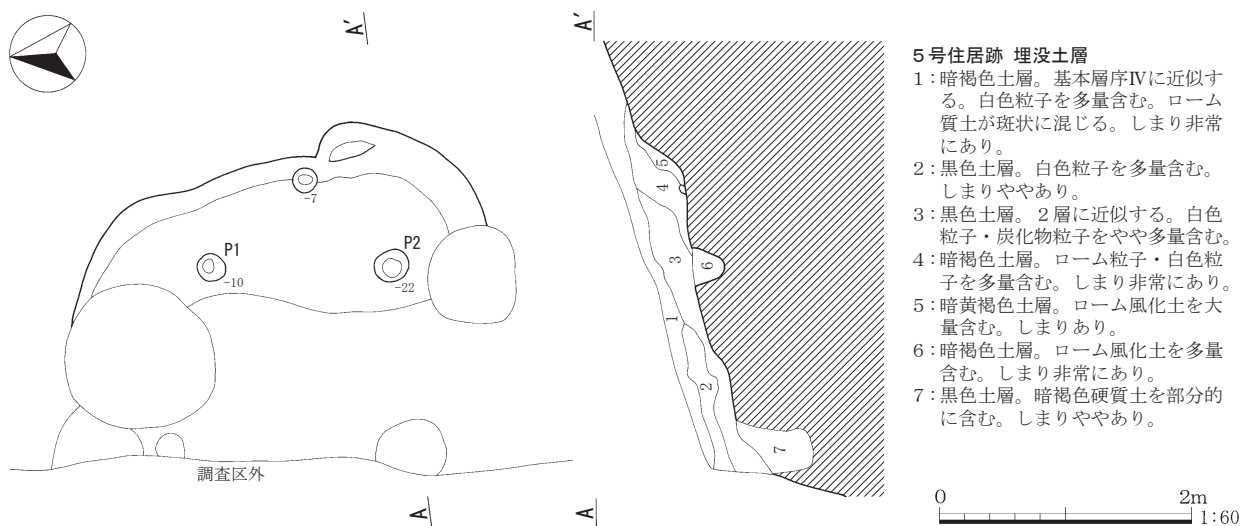
位置：調査区の中央に所在する。溝跡や土坑と重複するが、新旧関係は不明である。形態：西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は方形ないし長方形を呈するものと推測される。床面は硬化し、細い溝状の掘り込みが認められた。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：未検出。遺物：出土量は僅かで、前期前半・後葉の縄紋土器片が認められた。時期：縄紋時代前期。(高橋)



第117図 4号住居跡

## 5号住居跡 (第118・119図、写真図版13・52)

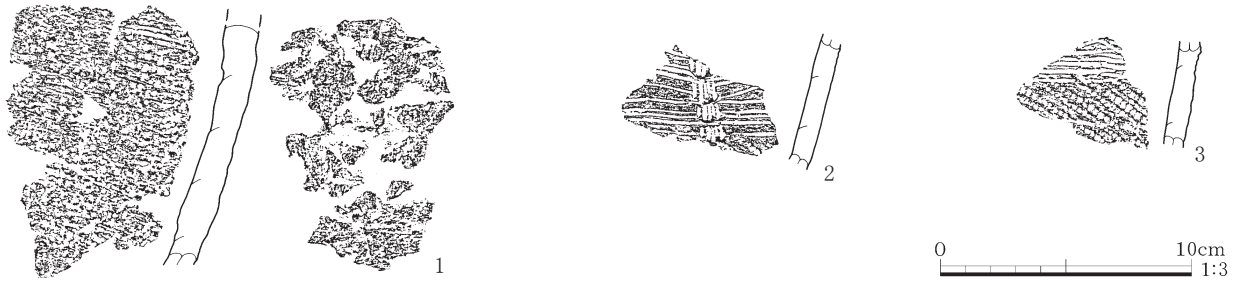
位置：調査区の西側に所在する。土坑や小穴と重複するが、新旧関係は不明である。形態：西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。締まりのある4～6層が残存する本遺構の覆土に想定されよう。平面形は不明である。主軸方位：不明。規模：不明。炉：未検出。柱穴：3基。P1・2は主柱穴に比定される。遺物：出土量は僅かで、早期末葉、前期後葉諸磯a式の縄紋土器片が認められた。時期：出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯a式期に比定される。(高橋)



## 5号住居跡 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。基本層序IVに近似する。白色粒子を多量含む。ローム質土が斑状に混じる。しまり非常にあり。
- 2: 黒色土層。白色粒子を多量含む。しまりややあり。
- 3: 黒色土層。2層に近似する。白色粒子・炭化物粒子をやや多量含む。
- 4: 暗褐色土層。ローム粒子・白色粒子を多量含む。しまり非常にあり。
- 5: 暗黄褐色土層。ローム風化土を大量含む。しまりあり。
- 6: 暗褐色土層。ローム風化土を多量含む。しまり非常にあり。
- 7: 黒色土層。暗褐色硬質土を部分的に含む。しまりややあり。

第118図 5号住居跡



第119図 5号住居跡出土遺物

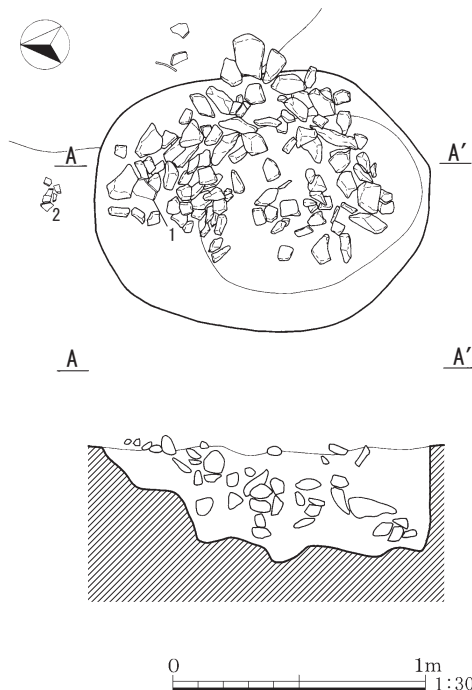
5号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条痕紋上に貝殻背圧痕紋。内面、掠れた条痕紋。D. 繊維。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋（5条1対）による横位文→刺突列（条線紋と同一工具）で縦位区画。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内一にぶい黄橙色。外一橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、胴部に縄紋（RL）→口縁部に条線紋（5条1対）による区画・波状文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部片。

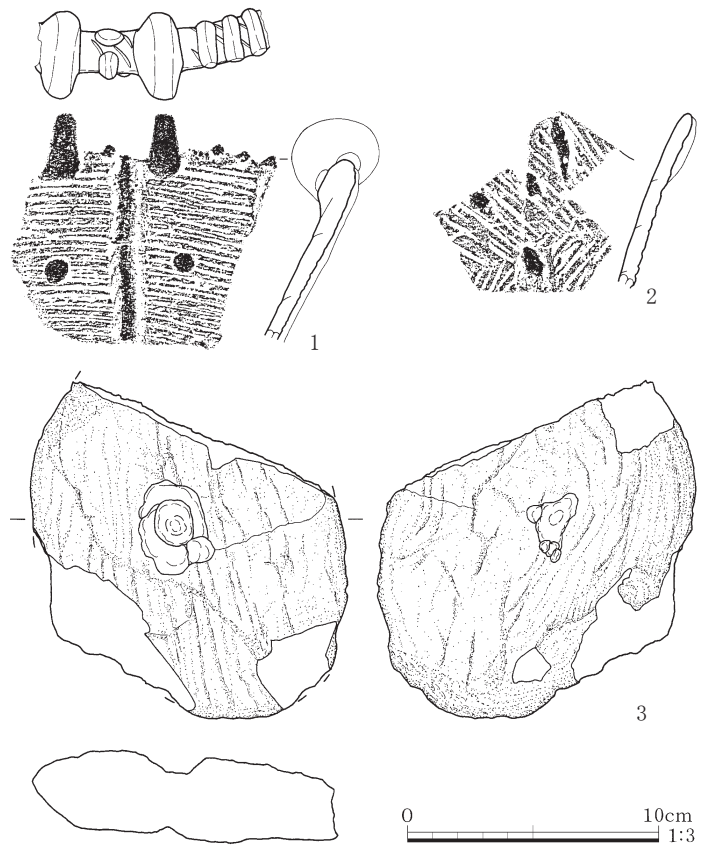
2. 集石遺構

1号集石遺構（第120・121図、写真図版13・52）

**位置：**調査区の南東端に所在する。遺構の北東側で土坑状の掘り込みと重複しており、礫の散布状態から本遺構が新しいものと推測される。**形態：**土坑内に5～15cmほどの礫が多量に混入する。土坑の平面は楕円形で、断面形は不整である。**主軸方位：**S-2°-W。**規模：**土坑の長軸133cm・短軸102cm・深さ44cm。**遺物：**出土量は僅かで、礫の周囲に分布する傾向がある。早期後葉ないし末葉、前期後葉の縄紋土器片や凹石が検出された。**時期：**縄紋時代前期後葉諸磯c式期に比定される。（高橋）



第120図 1号集石遺構



第121図 1号集石遺構出土遺物

1号集石遺構出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、横位集合沈線紋→耳状・棒状・ボタン状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→棒状・ボタン状貼付紋。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状集合沈線紋→貼付紋。内面、ケズリ→ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
3	石器 凹石	A. 長 [10.4]。幅 12.6。厚 2.7。重 696.2。D. 片岩。F. 上・下端部欠損。G. 扁平礫の表・裏面中央に凹穴。部分的に亀裂痕。

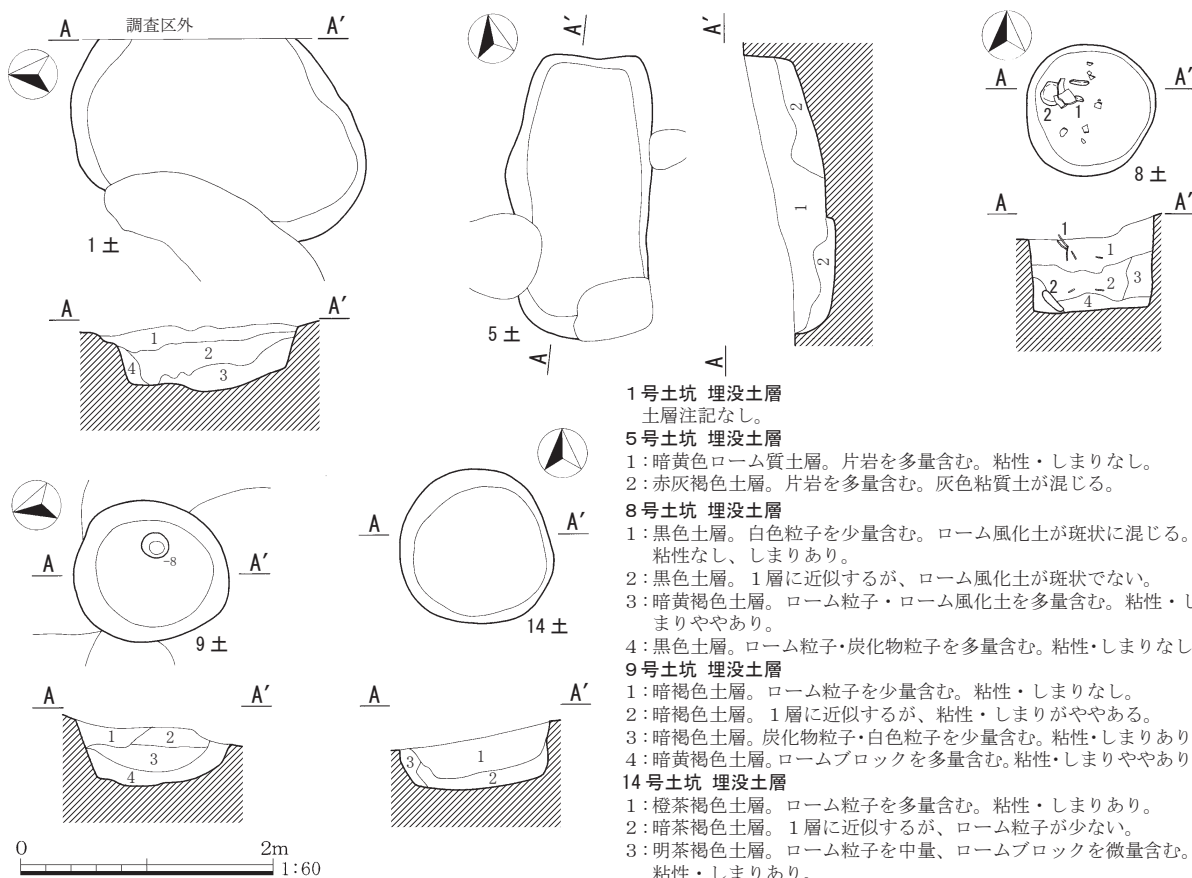
3. 土坑 (第 111・122・123 図、写真図版 13・53)

17 基を確認した(1~12・13a・13b・14~16号土坑)。分布は調査区中央に展開する。平面形は円形・楕円形・隅丸長方形を呈し、円形が大多数を占める。長軸長の平均は 123cm で、最大 240cm (1号土坑)・最小 72cm (7号土坑) を測る。断面形は逆台形を呈するものが多い。13a号土坑は袋状を呈する。深さの平均は 46cm で、最大 95cm (16号土坑)・最小 19cm (15号土坑) を測る。

土坑計測表

単位: cm

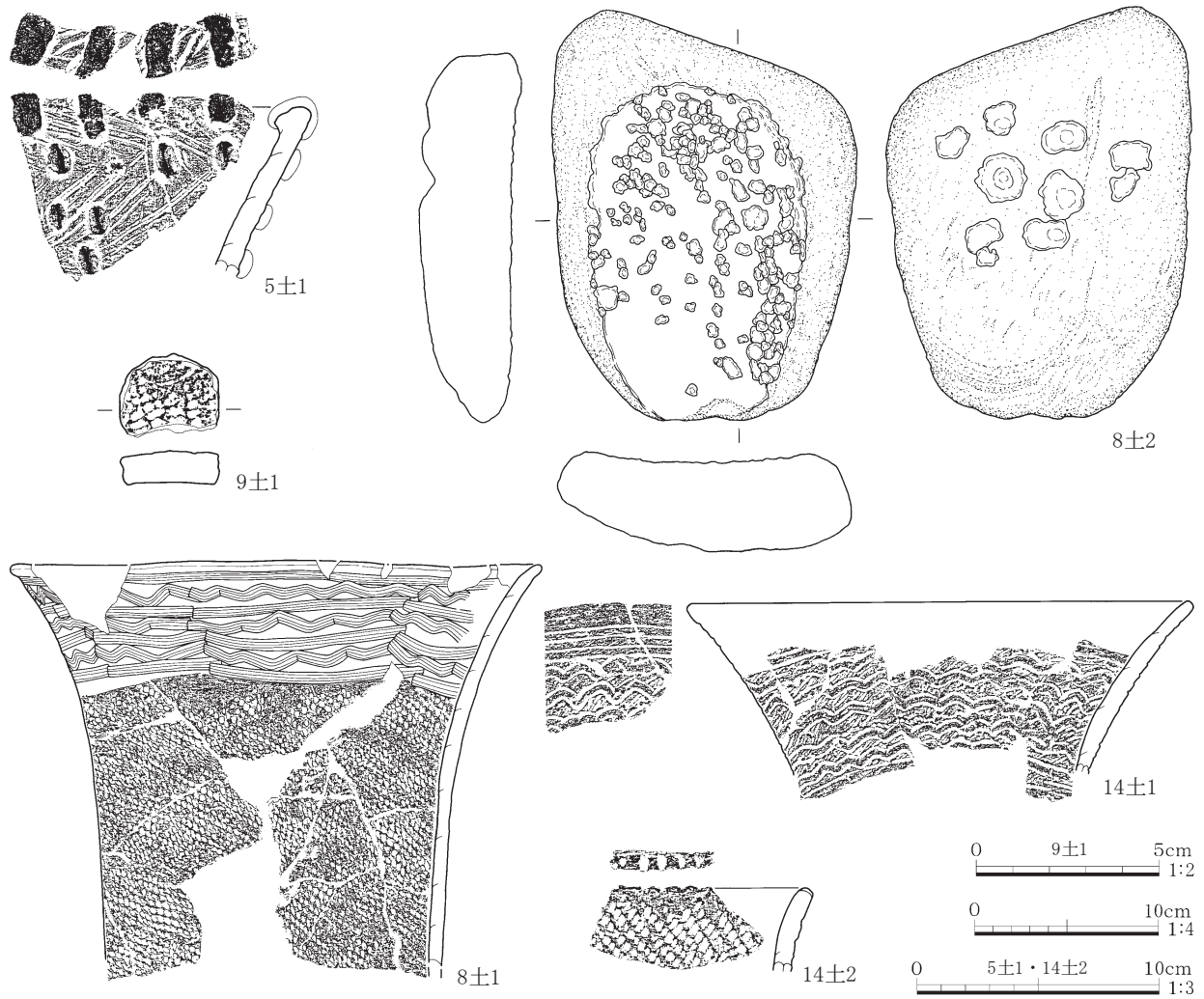
遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
1号土坑	中央	楕円形	N-18°-E	240	-	51
2号土坑	中央	楕円形	N-64°-E	90	60	40
3号土坑	中央	楕円形	N-8°-W	150	70	21
4号土坑	中央	楕円形	N-3°-W	110	-	26
5号土坑	中央	隅丸長方形	N-15°-E	222	112	75
6号土坑	中央	円形	-	124	122	36
7号土坑	中央	円形	-	72	68	32
8号土坑	中央	円形	-	110	96	70
9号土坑	南側	円形	-	120	114	44
10号土坑	中央	円形	-	104	-	38
11号土坑	南側	円形	-	98	90	32
12号土坑	南側	円形	-	110	98	32
13a号土坑	中央	円形	-	146	140	84
13b号土坑	南側	円形	-	96	94	42
14号土坑	中央	円形	-	125	123	42
15号土坑	中央	円形	-	82	74	19
16号土坑	南側	円形	-	92	90	95



第 122 図 土坑

出土遺物は、縄紋土器や石器が8基の土坑（3～9・12～14土坑）から出土した。ただし、ほとんどは少数の破片が伴う程度である。一方、8・14号土坑では、比較的残存状態の良好な個体や大型の石器が検出された（第123図5土1・2、14土1）。1号土坑の上層にはやや多量の礫がまとまって出土しており、集石遺構に相当する可能性がある。

土坑の所産時期が明瞭なものとして、8号土坑が縄紋時代前期後葉諸磯a式期、14号土坑が前期後葉諸磯b式期に比定される。（高橋）



第123図 土坑出土遺物

土坑出土遺物観察表

5土1	縄紋土器 深鉢	B. 内面折返状口縁。C. 外面、矢羽状集合沈線紋→ボタン状貼付紋。内面、口唇下に斜位集合沈線紋→耳状貼付紋。D. 片岩。E. 内外一橙色。F. 口縁部片。
8土1	縄紋土器 深鉢	A. 口径(29.1)。C. 外面、口縁部に条線紋(5条1対)による波状文・横位文、胴部に斜縄紋(RL)。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部に縦・斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁～胴部ほぼ完形。
8土2	石器 石皿	A. 長22.5。幅16.7。厚5.6。重3,241.0。C. 扁平礫を素材とし表面のみ整形。D. 緑色岩類。F. 完形。G. 皿面に敲打痕が多数。裏面に漏斗状の凹穴が10穴。
9土1	土製品 土製円盤	A. 径2.7。厚0.9。C. 表面、縄紋(RL)。裏面、ナデ。D. 角閃石。E. 表一橙色。裏一にぶい黄褐色。F. 1/2欠損。
14土1	縄紋土器 深鉢	A. 口径(17.8)。C. 外面、結節を伴う斜縄紋(LL)→平行沈線紋(内皮痕残存)による口縁部区画・波状文。内面、横・斜位ナデ。D. 特になし。E. 内一明黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 口縁部1/3。
14土2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)。口唇部にキザミ。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部片。

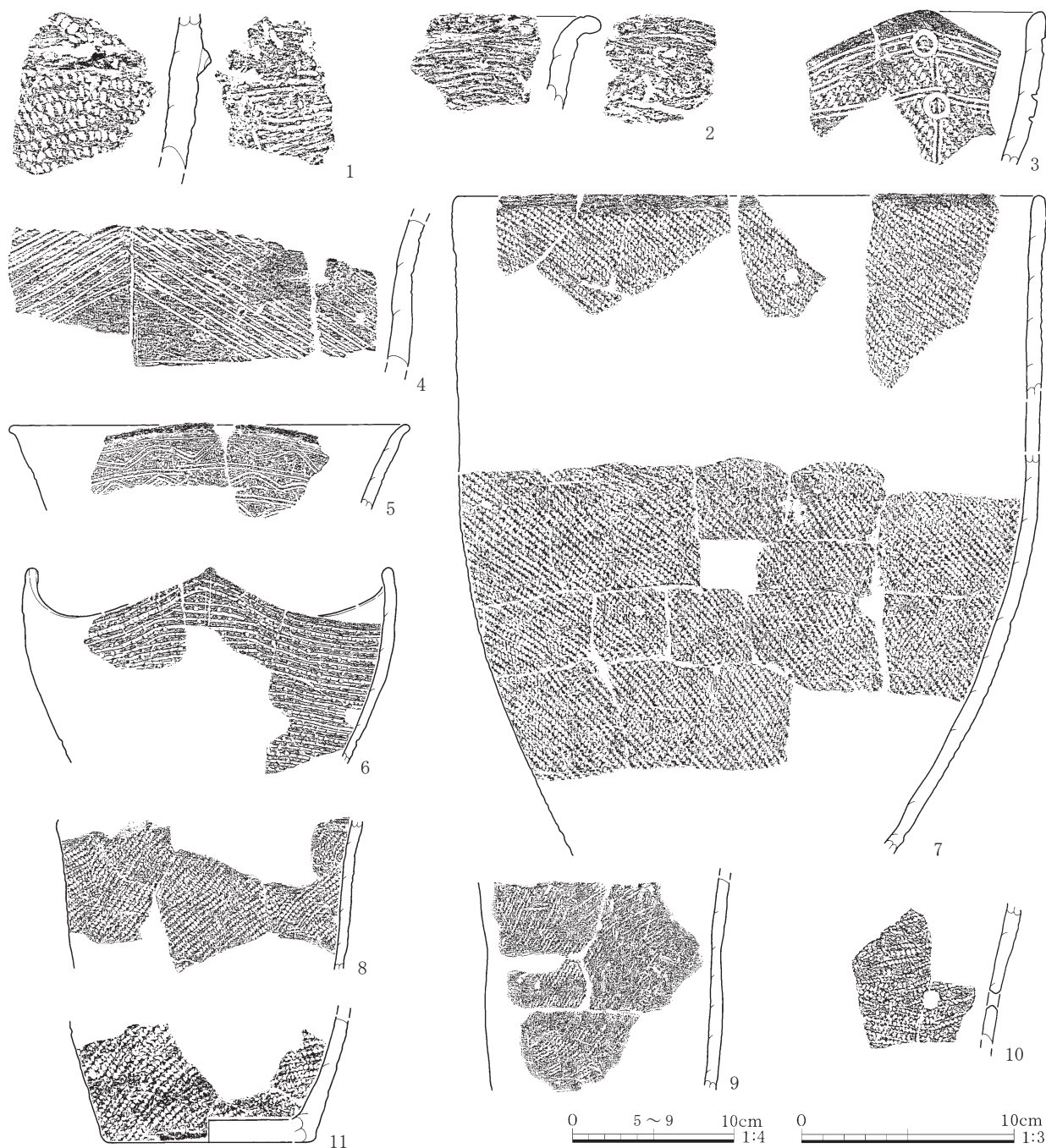


## 4. 遺構外出土遺物 (第 124 ~ 126 図、写真図版 53・54)

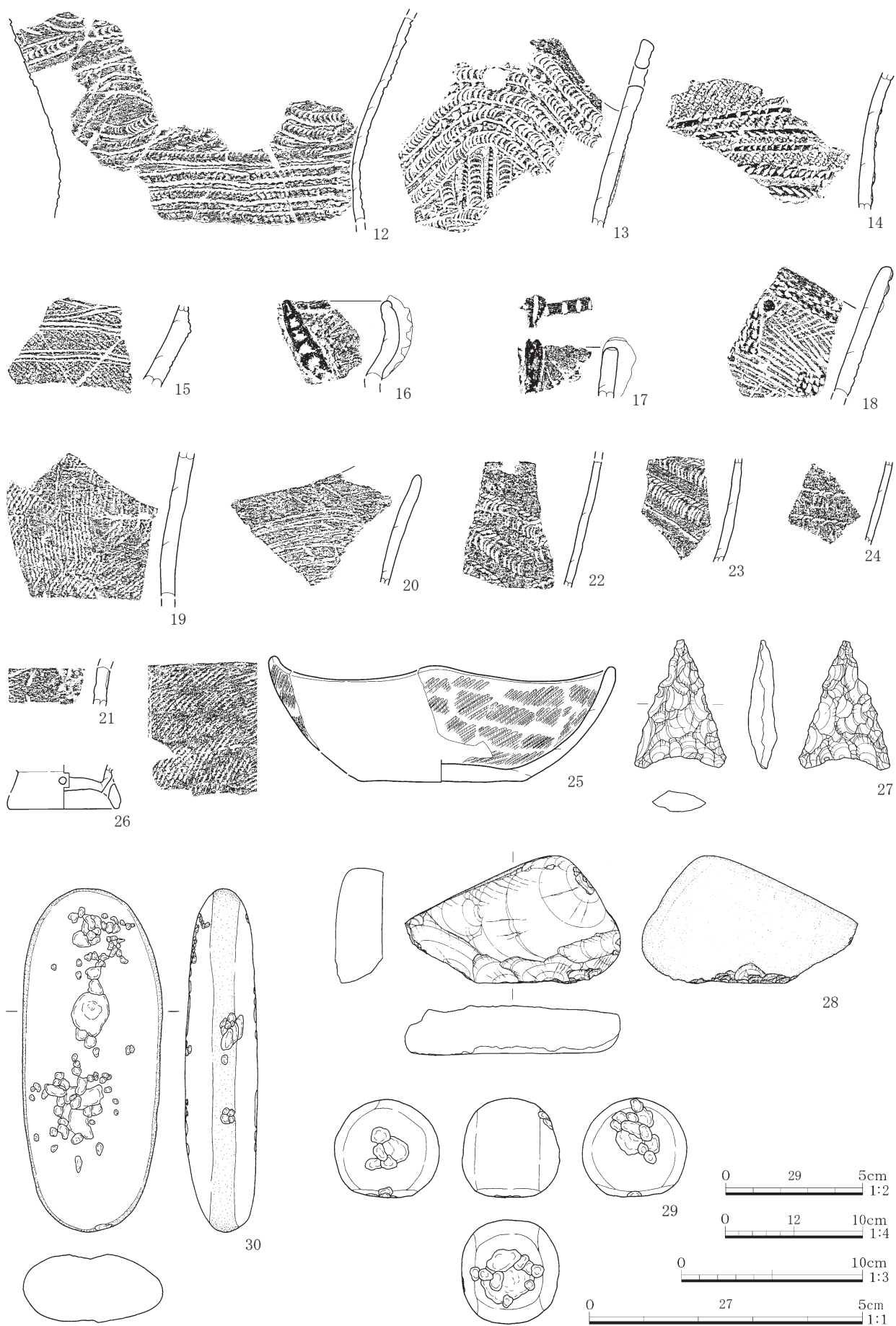
ここでは表土層・遺物包含層・攪乱内等から出土した遺物を対象とする。縄紋土器や石器が検出されており、遺物包含層（基本層序Ⅱ・Ⅲ）から多く出土した。調査区の中央やや北側に集中する。

縄紋土器は早期後葉～前期後葉のものが認められ、前期後葉を主体としていた。いずれも破片資料だが、接合により復元された個体も見受けられる。細別型式の判明するものとして、絡条体圧痕紋系土器（第 124 ~ 126 図 1）、花積下層式、諸磯 a 式（3 ~ 11・25）、諸磯 b 式（12 ~ 15）、諸磯 c 式（16 ~ 18）、浮島式（21）、北白川下層Ⅱ b 式（22 ~ 24）が挙げられる。

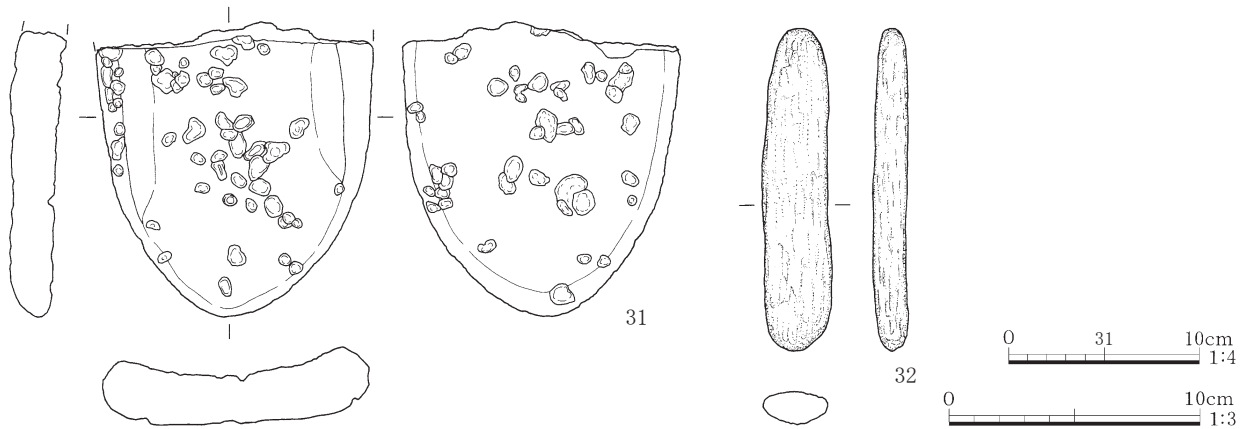
石器は、石鏃（27）、打製石斧、礫器（28）、スクレイパー類、リタッチドフレイク、磨石（29）、凹石（30）、石皿（31）、棒状礫（32）、石核、剥片が認められ、剥片が多い。石材はホルンフェルスが傑出する。（高橋）



第 124 図 遺構外出土遺物（1）



第125図 遺構外出土遺物(2)



第 126 図 遺構外出土遺物 (3)

遺構外出土遺物観察表 (1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位隆帯による口縁部区画→口縁部に褶曲状、胴部に横位密接の絡条体圧痕紋 (長さ 3 cm 程の軟質軸に 1 の撚糸を R 巻)。内面、横位貝殻条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁~胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、掠れた横位条痕紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-黄灰色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL) → 平行沈線紋 (多截竹管状工具) による区画→交点に円紋。内面、ミガキ。D. 特になし。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋による横・縦位区画、綾杉文。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-明赤褐色。外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。
5	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (25.0)。C. 外面、平行沈線紋による波状文・横位文。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-黄橙色。外-明黄褐色。F. 口縁部 1/5。
6	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (22.7)。C. 外面、刺突を伴う平行沈線紋 (沈線・刺突共に 2 本 1 対の細いへら状工具) による口縁部区画・横位文→細い平行沈線紋で縦位区画。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部 1/4。
7	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (36.5)。C. 外面、斜縄紋 (RL)。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に縦位ナデ。D. 特になし。E. 内外-橙色。F. 口縁部 1/5、胴部 1/2。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR)。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい黄橙色。F. 胴上半部 1/2。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (L)。内面、縦位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-橙色。F. 胴部 1/5。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、不揃いな斜縄紋 (RL)。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内-明赤褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。G. 焼成後穿孔。
11	縄紋土器 深鉢	A. 底径 (9.6)。C. 外面、斜縄紋 (LR)。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-橙色。F. 底部 1/3。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋による区画・入組文。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-橙色。F. 胴部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・刺突列による区画→爪形紋・キザミ付浮線文を充填→口縁部に焼成前穿孔。内面、丁寧な横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR) → キザミ付浮線文。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細かい斜縄紋 (RL) → 平行沈線紋 (内皮痕残存)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・多量の黒色鉱物。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (L) → 刺突列を伴う棒状突起。内面、横位ナデ・工具痕。D. 片岩。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部片。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、棒状突起。口唇部・突起の頂部にキザミ。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内外-浅黄色。F. 口縁部片。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状集合沈線紋→結節浮線紋・ボタン状貼付紋。内面、横・斜位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-明黄褐色。外-橙色。F. 口縁部片。
19	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸紋 (R)。内面、斜位ミガキ。D. 角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。
20	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位ケズリ。内面、横位ケズリ→ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
21	縄紋土器 深鉢	C. 外面、波状貝殻紋。内面、ナデ・工具痕。D. 特になし。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。
22	縄紋土器 深鉢	C. 外面、幅広で掠れた爪形紋。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 胴部片。

遺構外出土遺物観察表（2）

23	縄紋土器 深鉢	C. 外面、幅広で掠れた爪形紋。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 胴部片。
24	縄紋土器 深鉢	C. 外面、幅広で掠れた爪形紋。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内外一浅黄橙色。F. 胴部片。
25	縄紋土器 浅鉢	A. 口径(19.0)。底径9.0。器高(6.3)。C. 外面、斜縄紋(L)。内面、横位ミガキ。底面、ミガキ。D. 特になし。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。H. II層。
26	縄紋土器 ミニチュア土器	A. 底径6.0。C. 外面、横位ナデ。胴部・底部間に焼成前穿孔。内面、ナデ。底面、ナデ。D. 海綿体骨針。E. 内外一灰黄褐色。F. 底部ほぼ完形。G. 内面に赤彩痕。
27	石器 石鏃	A. 長2.4。幅1.7。厚0.6。重1.3。D. チャート。F. 完形。G. 凹基無茎。浅いかりをもつ。
28	石器 礫器	A. 長7.0。幅11.9。厚2.8。重266.6。C. 割礫の縁辺に急角度な片面調整。D. 貢石。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。
29	石器 磨石	A. 長3.7。幅3.6。厚3.9。重75.1。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 小形円礫の器面全体に磨耗痕。裏・両側・下面には敲打痕が顕著。磨→敲。
30	石器 凹石	A. 長18.8。幅7.7。厚4.0。重906.7。D. 砂岩。F. 完形。G. 楕円形。自然礫の表・裏面に磨耗痕。磨耗範囲や右側縁に敲打痕。部分的に凹穴を形成。磨→凹。一部に被熱痕。
31	石器 石皿	A. 長[15.6]。幅[14.7]。厚4.2。重437.1。D. 軽石(安山岩)。F. 上半部欠損。G. 皿面に磨耗痕。表・裏面に敲打痕とみられる凹穴多数。磨→敲。
32	石器 棒状礫	A. 長12.7。幅2.8。厚1.4。重71.9。D. 片岩。F. 完形。G. やや扁平な自然礫。

石器組成表（器種別点数）

	石鏃	石錐	石匙	楔形石器	打製石斧	礫器	三角錐形	Sc	RF	磨石類	石皿	敲石	砥石	台石	多孔石	磨製石斧	石核	剥片	棒状礫類	合計
1住									2	1									2	5
2住																			1	1
5住								1	1										2	4
1土								2	1											3
3土																			2	2
4土																			1	1
5土																			1	1
7土									1											1
8土											1									1
12土	1																			1
13土									1										2	3
14土								1											2	3
1集										1										1
遺構外	2				5	2		9	6	2	1						1	31	2	61
合計	3	0	0	0	5	2	0	13	12	4	2	0	0	0	0	0	1	44	2	88

Sc: スクレイパー RF: リタッチドフレイク

石器組成表（石材別点数）

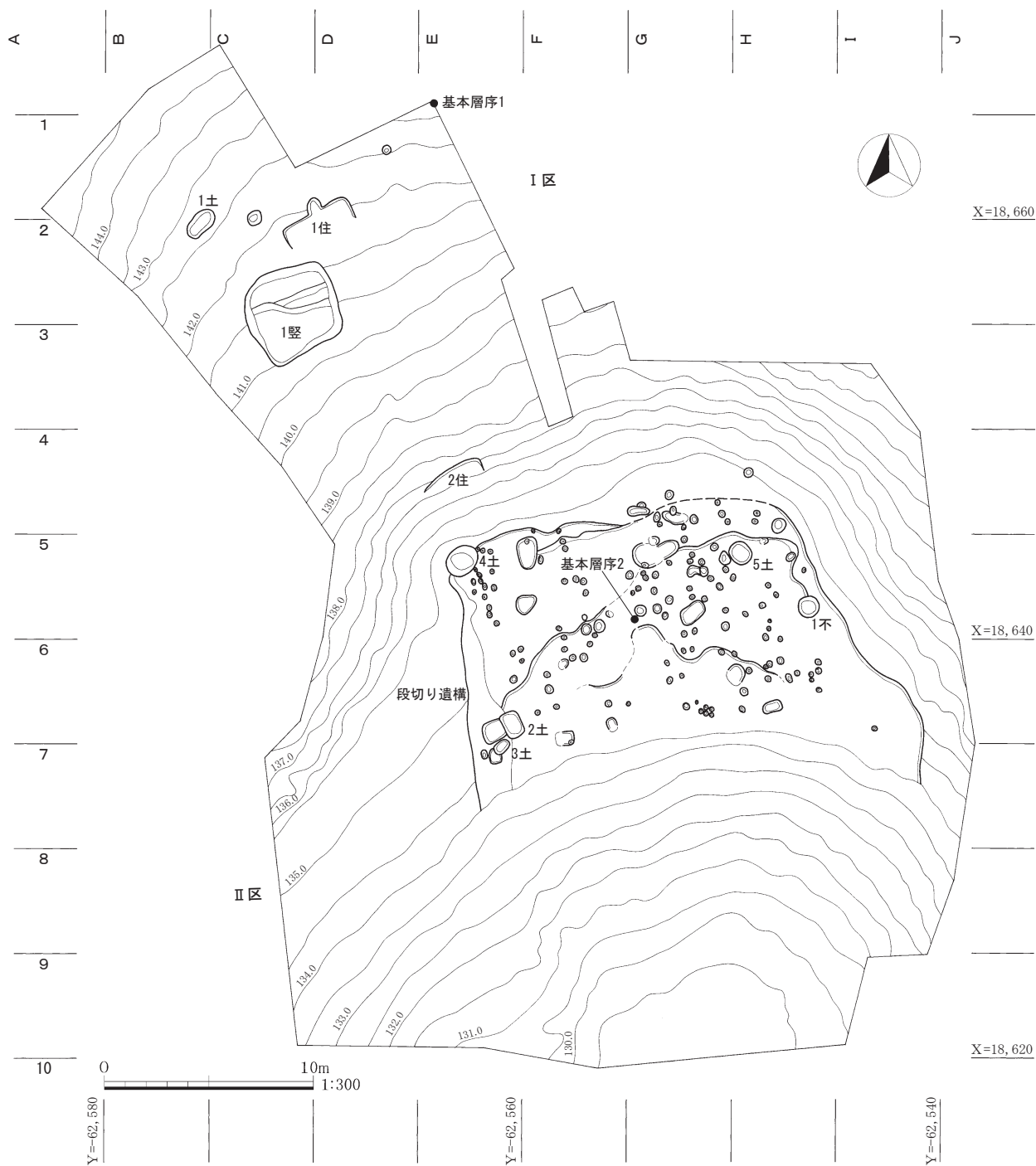
	Ob	Ch	Ban	Ag	Sh	SS	Ho	An	Di	Sc	GrR	軽石	石英	合計
1住	1					1	3							5
2住	1													1
5住		1			2		1							4
1土					1		2							3
3土		1	1											2
4土							1							1
5土					1									1
7土		1												1
8土											1			1
12土		1												1
13土	1	1					1							3
14土	1				1		1							3
1集										1				1
遺構外	7	8	3		9	4	25		1	1	2		1	61
合計	11	13	4	0	14	5	34	0	1	2	3	0	1	88

Ob: 黒曜石 Ch: チャート Ban: 黒色安山岩 Ag: 瑪瑙 Sh: 頁岩 SS: 砂岩 Ho: ホルンフェルス An: 安山岩 Di: 閃緑岩 Sc: 片岩 GrR: 緑色岩類

## 第V章 神原遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

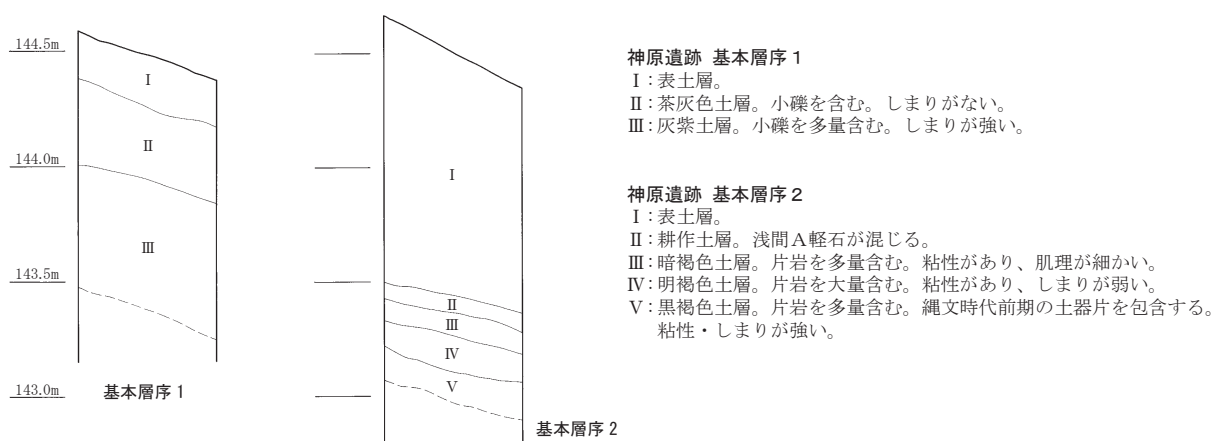
調査区は山地を南北に下刻する谷戸に沿った東斜面に位置する。標高は129.5～144.5 mで、北から南に激しく傾斜し、高低差は15 mを測る。調査区は北の張り出し部をI区、南をII区と呼称している。II区の標高135.0 m付近では岩盤を切り出した平場（以下段切り遺構と呼称する）が確認され、ここに遺構・遺物が集中している。



第127図 全体図



第128図 II区全体図



第 129 図 基本層序

II 区の段切り遺構内には表土が厚く堆積していた。表土層には浅間A軽石 (As-A) が混入しているため、その形成時期は噴出した 1783 年以降に求められよう。表土以下には片岩が多く含まれ、V 層に縄文時代前期の土器が包含される。下位に岩盤層が認められ、II 区の東側で露出している。

遺構は、竪穴住居跡 2 軒、竪穴状遺構 1 基、集石遺構 1 基、土坑 5 基、多数の小穴や焼土範囲、炉だと思われる性格不明遺構 1 基が検出されている。住居跡は奈良時代・平安時代に属し、竪穴状遺構は平安時代に比定される。土坑・小穴は II 区の段切り遺構内に集中し、土層観察用ベルトを残しながら掘削を進めていたため、把握しきれなかったものもあると思われる。

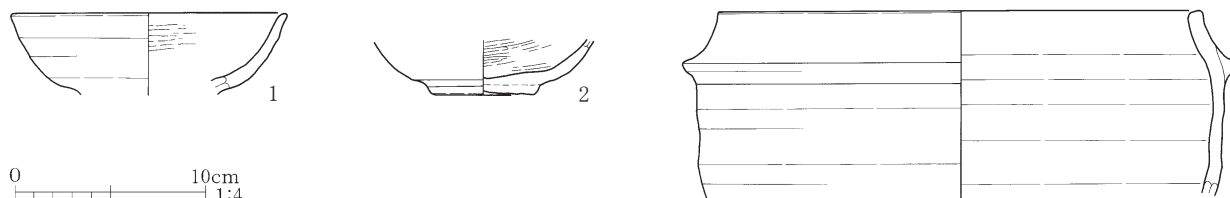
検出された遺物は、縄文土器・石器・土師器・須恵器・陶磁器・古銭・煙管・刀子等が見受けられ、多くは II 区の表土中から出土した。I 区は古代の遺物のみで、中・近世のものはない。(宮本)

## 第 2 節 遺構と遺物

### 1. 竪穴住居跡

1 号住居跡 (第 130・131 図、写真図版 55)

位置: I 区 (C 2・D 2 グリッド) に所在する。形態: 地形の傾斜に沿って南半分は消失している。

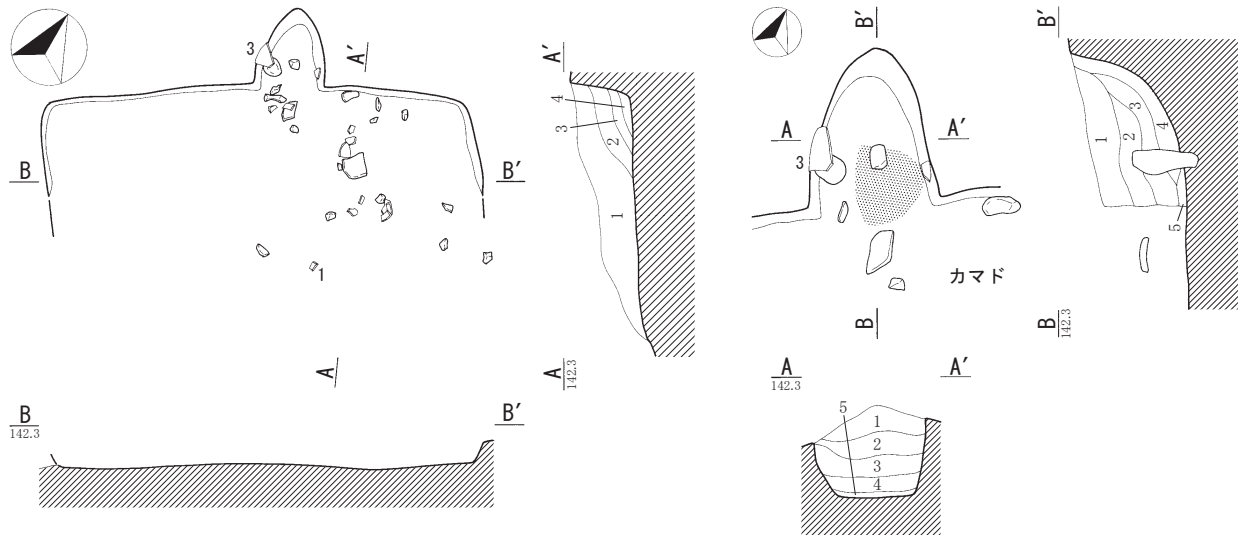


第 130 図 1 号住居跡出土遺物

#### 1 号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径 (14.7)。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。内面、回転ナデ→ヨコミガキ。D. 片岩・石英など小砂礫が目立つ。E. 内外—明褐色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。
2	須恵器 坏	A. 底径 (5.6)。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。底部高台貼付→ケズリ。内面、回転ナデ→ヨコミガキ。D. 角閃石・赤色粒子・白色粒子。E. 内—黒色。外—にぶい黄橙色。F. 1/5。G. 酸化焰焼成。体部内面黒色処理。
3	須恵器 羽釜	A. 口径 (25.6)。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外—橙色。F. 破片。G. 内外面に粘土付着。

平面は方形を呈するだろう。主軸方位：N - 27° - W。規模：東西軸長 3.45 m。カマド：北壁に付設される。燃焼部と煙道は住居外に構築される。燃焼部の中心には支脚である礫が直立した状態で検出された。柱穴：未検出。周溝：未検出。遺物：カマド周辺から竪穴東半分の覆土上層に集中して出土した。羽釜、土師器の坏・甕、須恵器の鉢、内面黒色処理を施した酸化焰焼成の坏が出土している。また、礫の混入が目立つ。時期：住居跡の形態や出土遺物から平安時代に比定される。（宮本）

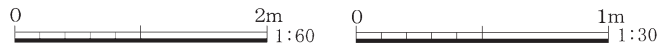


1号住居跡 埋没土層

- 1: 明灰色土層。片岩を多量含む。粘性・しまりあり。
- 2: 明灰色土層。砂礫・片岩を含む。カマドの崩落土が混じる。粘性・しまりあり。
- 3: 暗灰色土層。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 4: 暗灰色土層。焼土粒子・炭化物粒子を多量含む。粘性・しまりあり。

1号住居跡カマド 埋没土層

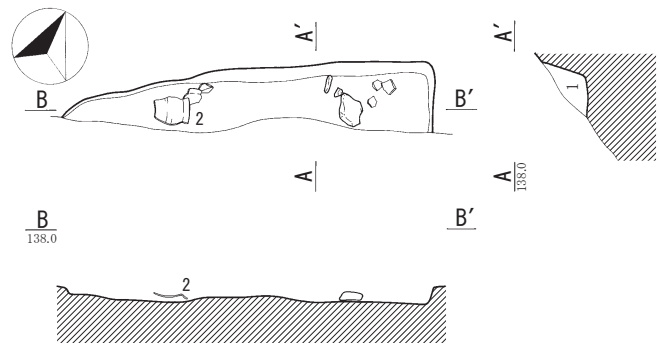
- 1: 茶灰色土層。砂礫を多量含む。しまりあり。
- 2: 暗茶灰色土層。砂礫を中量含む。粘性あり。
- 3: 暗茶褐色土層。焼土粒子を含む。粘性あり。天井の崩落土カ。
- 4: 暗茶褐色土層。片岩粒を多量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。
- 5: 暗赤褐色土層。焼土粒子を含む。粘性ややあり。火床面。



第131図 1号住居跡

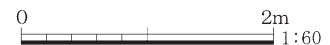
2号住居跡（第132・133図、写真図版55）

位置：I区(E4グリッド)に所在する。形態：削平を受け、竪穴の北東隅付近のみの検出である。平面は方形を呈するだろう。主軸方位：N - 28° - W。規模：不明。カマド：未検出。柱穴：未検出。周溝：未検出。遺物：床面直上より土師器の甕が出土するほか、土師器と須恵器の坏・甕が見受けられる。時期：出土遺物から奈良時代に比定される。（宮本）



2号住居跡 埋没土層

- 1: 明灰色粘質土層。片岩を多量含む。粘性ややあり、しまりあり。

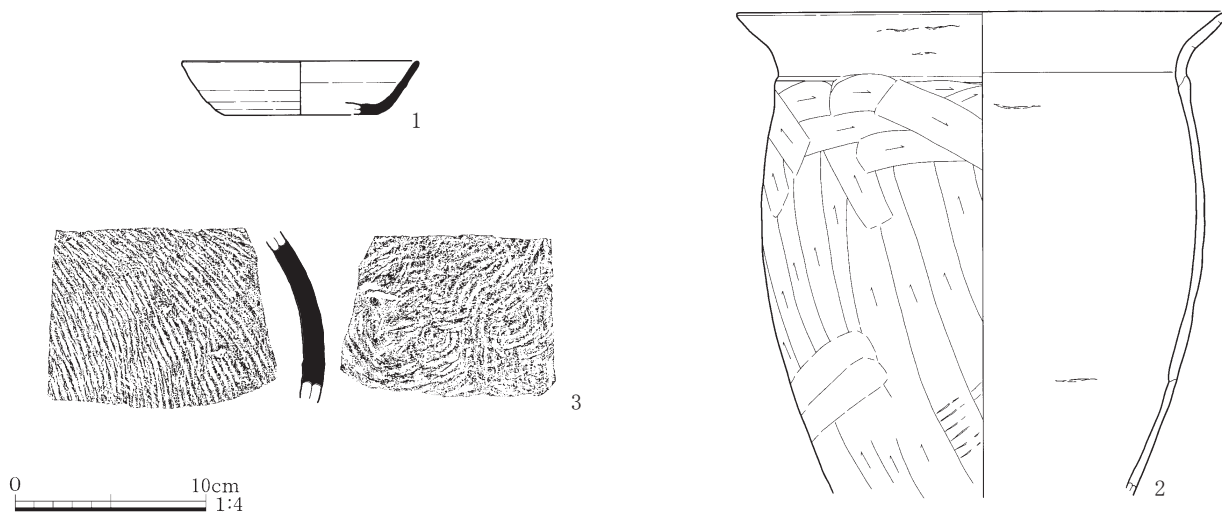


第132図 2号住居跡

2号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(12.6)。底径(8.2)。器高2.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ケズリ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。
2	土師器 甕	A. 口径(26.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位ヨコケズリ。内面、ヨコナデだが、単位不明瞭。D. 石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/4。
3	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目。内面、同心円文当て具痕。D. 片岩・白色粒子。E. 内-暗灰青色。外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。



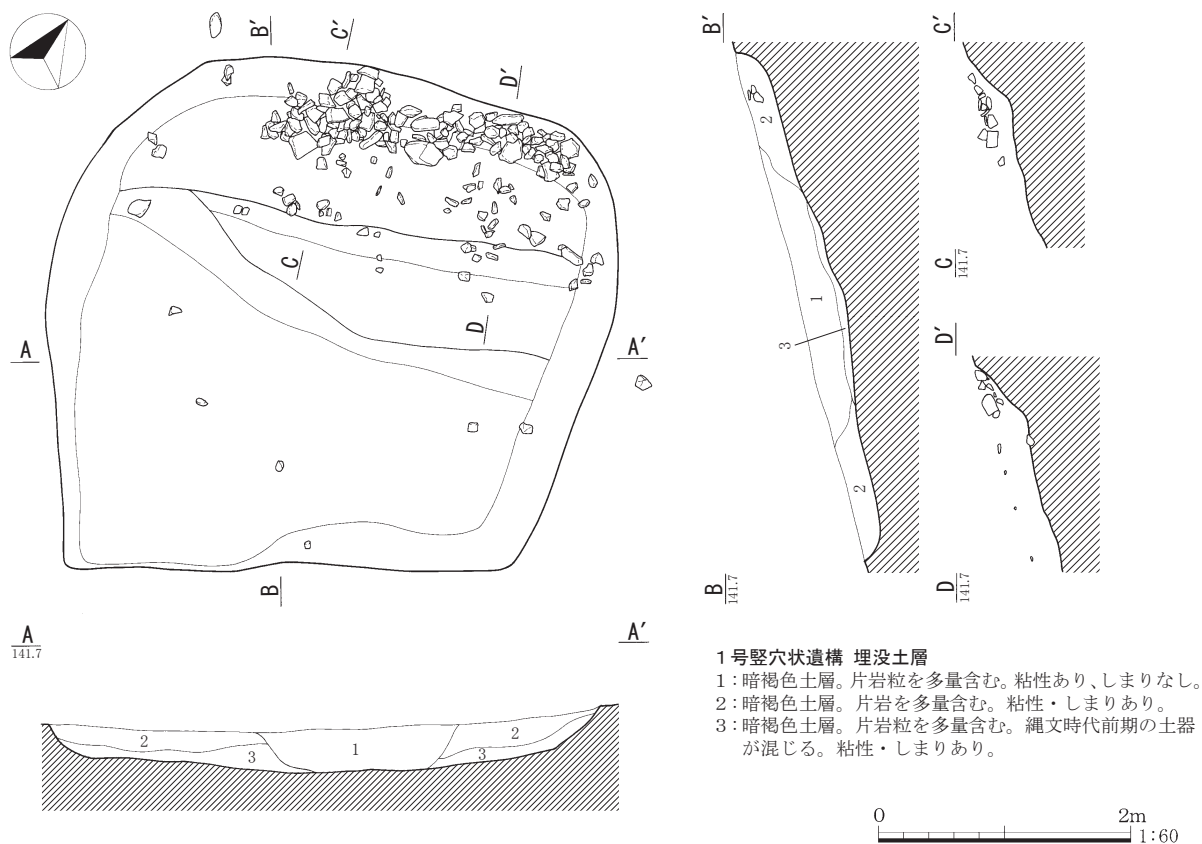


第 133 図 2号住居跡出土遺物

## 2. 竪穴状遺構

### 1号竪穴状遺構 (第 134 図)

位置：I 区、C 2・3、D 2・3 グリッドに位置する。形態：平面は方形を呈する。床面は南に向かって傾斜しており、途中に階段状の落ち込みが 2 段確認される。主軸方位：N - 23° - W。規模：南北軸長 4.03 m、東西軸長 4.32 m。遺物：土師器の甕・坏、須恵器の高台付椀が出土しているが、どれも凶化に耐えうる遺物ではない。なお、北壁寄りの覆土上層から多量の礫が検出された。時期：出土遺物から平安時代に比定される。 (宮本)

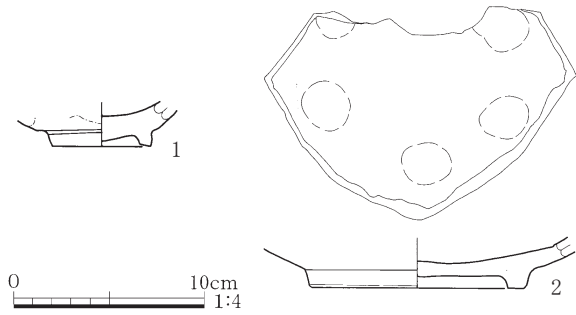


第 134 図 1号竪穴状遺構

### 3. 集石遺構

1号集石遺構 (第135・136図、写真図版55)

位置：Ⅱ区 (I 6グリッド)、段切り遺構の西端に所在する。形態：傾斜に沿って礫が集中している。礫の種類や大きさおよび配置に規則性は見られない。礫の下に1層を挟み、岩盤層に至る。遺物：礫とともに近世の陶器が出土している。時期：出土遺物から近世に比定される。(宮本)



第135図 1号集石遺構出土遺物

#### 1号集石遺構出土遺物観察表

1	陶器碗	A. 底径5.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、施釉。削り出し高台。D. 石英。E. 内-褐色。外-明黄褐色。F. 底部のみほぼ完形。
2	陶器皿	A. 底径11.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、施釉。内面に白泥で圏線。D. 特になし。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい赤褐色。F. 底部のみほぼ完形。G. 見込みに重ね焼き痕5。



第136図 1号集石遺構

### 4. 土坑 (第127・128図)

土坑はⅠ区で1基、Ⅱ区で4基検出された。2号土坑からは古代の須恵器坏蓋が出土している。これ以外の土坑から遺物は検出されていない。(宮本)

土坑一覧表

遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
1号土坑	B2G	楕円形	N-44°-E	154	98	48
2号土坑	E6G	長方形	N-35°-E	90	60	32

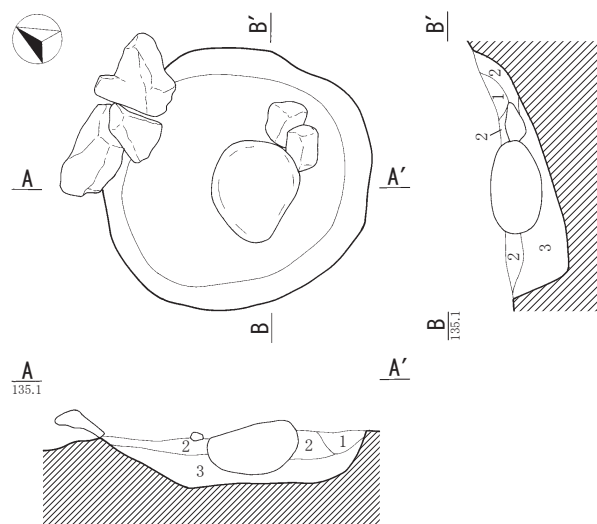
単位：cm

3号土坑	E7G	長方形	N-30°-E	133	98	49
4号土坑	E5G	楕円形	N-24°-E	152	128	113
5号土坑	H5G	円形	N-5°-E	104	100	25

5. 性格不明遺構

1号性格不明遺構 (第137図)

位置：Ⅱ区 (H5グリッド)、段切り状遺構の東側に所在する。形態：平面は円形を呈する。上層には礫が確認され、ほぼ中央にも楕円形の礫が据えられている。規模：径2.10m。埋没状況：覆土より焼土と炭化物が観察される。特に2層は炭化物主体層となっている。遺物：未検出。性格：覆土に焼土・炭化物を含むことから炉ないしは窯の可能性が考えられる。時期：近世だと思われる。(宮本)



1号性格不明遺構 埋没土層  
 1：明灰色土層。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。  
 2：黒灰色土層。炭化物主体。焼土粒子を少量含む。粘性・しまりなし。  
 3：土層注記なし。  
 0 1m 1:30

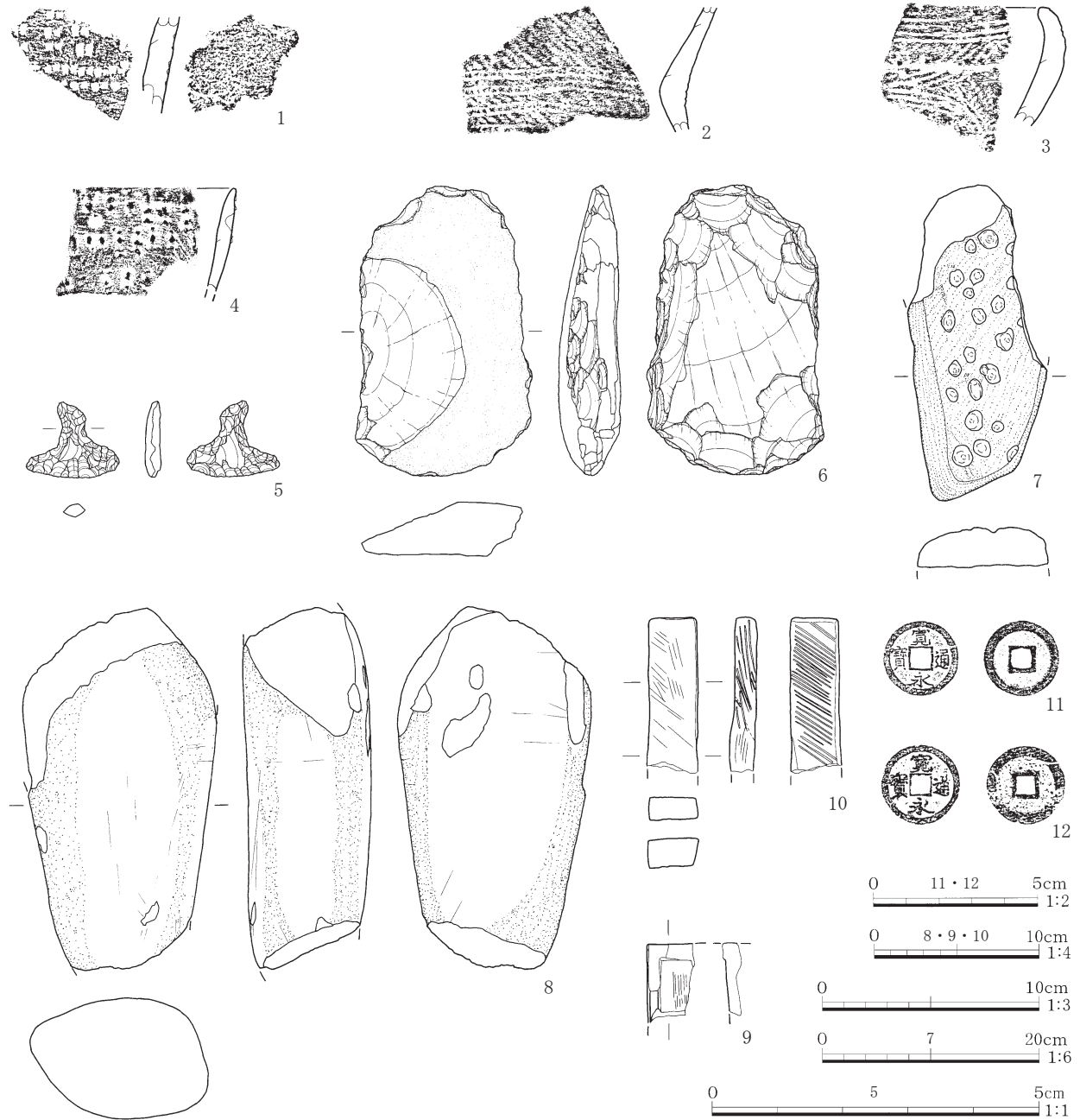
第137図 1号性格不明遺構

6. 遺構外出土遺物 (第138図、図版55)

遺構外からも縄紋土器や須恵器・土師器等が少量ながら出土している。縄紋土器は早期後葉ないし末葉、前期前半・後葉、中期中葉があり、前期後葉が主体であった。石器の出土量は少ない。剥片やリタッチドフレイクが多く、石材は黒曜石やチャートが目立つ。土師器・須恵器には坏や甕が見られ、Ⅰ区で確認されている住居跡と同時期のものであろう。近世の遺物もあり、陶磁器類の他に砥石や硯といった石製品、銭・刀子・煙管等の金属製品も出土している。これらの遺物はⅡ区に集中している。(宮本)

遺構外出土遺物観察表(1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、刺突紋(2本1対の角棒状工具)による口縁部区画・縦位文。胴部に条痕紋カ。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 口縁~胴部片。
2	縄紋土器 浅鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→爪形紋による区画。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。H. 2区G5G。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋による区画・入組文等。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。H. Ⅰ区E1G。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位集合沈線紋→結節浮線紋。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。G. 焼成後窩孔。H. Ⅱ区。
5	石器 石匙	A. 長1.2。幅1.5。厚0.3。重0.3。C. 剥片の周縁を押圧剥離による両面調整。D. 黒曜石。F. 完形。G. 横型石匙。つまみあり。
6	石器 打製石斧	A. 長13.4。幅8.2。厚2.9。重365.4。C. 割礫の周縁部に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 短冊形。刃部の一部に微細剥離痕。H. Ⅱ区G7~8・H7~8G。
7	石器 多孔石	A. 長[29.3]。幅[12.9]。厚[3.7]。重1,858.1。D. 片岩。F. 上部・裏面欠損。G. 板状礫の表面に漏斗状の凹穴が22穴。表面下部に被熱による変色あり。
8	石器 砥石	A. 長[22.2]。幅[11.9]。厚7.8。重2,975.8。D. 緑色岩類。F. 上・下端部欠損。G. 大形棒状礫の3面に顕著な磨耗痕。器面の一部に被熱痕とみられる変色部分あり。
9	硯	A. 厚1.2。F. 破片。G. 磨り面は良く研磨される。H. Ⅱ区G5G。
10	砥石	A. 長[9.6]。幅3.2。厚1.7。重94.5。C. 粗砥面あり。D. 流紋岩。F. 3/4。G. 3面良く研磨される。H. Ⅱ区。



第138図 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表 (2)

11	古銭	A. 径2.3。厚0.1。重2.7。D. 銅製。F. 完形。G. 「寛永通宝」。H. 表土。
12	古銭	A. 径2.4。厚0.1。重2.4。D. 銅製。F. 完形。G. 「寛永通宝」。H. 表土。

石器組成表 (器種別点数)

	石鏃	石錐	石匙	楔形石器	打製石斧	礫器	三角錐形	Sc	RF	磨石類	石皿	敲石	砥石	台石	多孔石	磨製石斧	石核	剥片	棒状礫類	合計
遺構外	3		1	1	1			2	10				2		1		3	12		36

Sc: スクレイパー RF: リタッチドフレイク

石器組成表 (石材別点数)

	Ob	Ch	Ban	Ag	Sh	SS	Ho	An	Di	Sc	GrR	軽石	石英	合計
遺構外	16	14			1		3			1	1			36

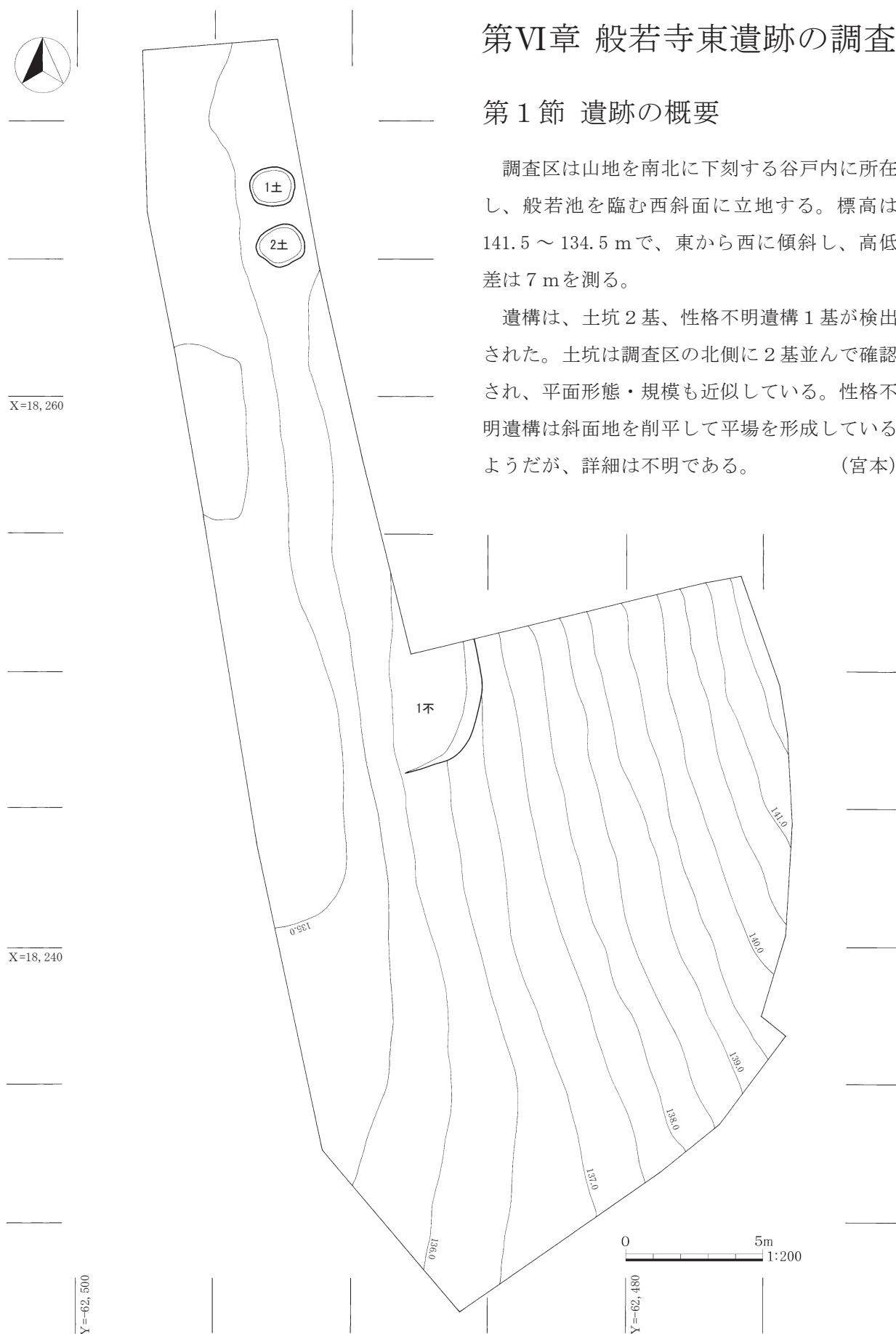
Ob: 黒曜石 Ch: チャート Ban: 黒色安山岩 Ag: 瑪瑙 Sh: 頁岩 SS: 砂岩 Ho: ホルンフェルス An: 安山岩 Di: 閃緑岩 Sc: 片岩 GrR: 綠色岩類

## 第VI章 般若寺東遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

調査区は山地を南北に下刻する谷戸内に所在し、般若池を臨む西斜面に立地する。標高は141.5～134.5 mで、東から西に傾斜し、高低差は7 mを測る。

遺構は、土坑2基、性格不明遺構1基が検出された。土坑は調査区の北側に2基並んで確認され、平面形態・規模も近似している。性格不明遺構は斜面地を削平して平場を形成しているようだが、詳細は不明である。 (宮本)



第139図 全体図

## 第Ⅶ章 北飯盛遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

調査区は、山地を南北に下刻する谷戸とその小枝谷が交わる南東斜面に位置する。標高は137.5～143.5 mで、北西から南東に傾斜していた。調査区中央やや北東側や南東側では段切りによる平坦面が見受けられる。

調査区内にはローム層のV層上にI～IV層が堆積する。調査はV層上面で実施した。検出された遺構は、竪穴住居跡3軒、溝跡1条、土坑22基および少数の小穴である。

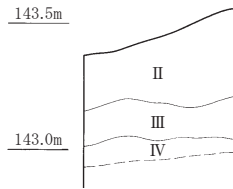
竪穴住居跡は、縄紋時代前期後葉諸磯b式期(1号住居跡)、諸磯a式ないし諸磯b式期(2号住居跡)、古墳時代後期(3号住居跡)のものが認められる。縄紋時代は標高142.0～144.0 mの高位、古墳時代は標高139.0 mほどの低位に占地する。いずれも斜面に立地しており、地形の傾斜に沿った削平が著しい。溝跡の性格は不明で、等高線に平行する。土坑は調査区北西側の高位に集中する。多くは縄



第140図 全体図

紋時代に帰属するものと推測されるが、平面が方形の22号土坑は古墳時代以降に比定される。

検出された遺物は縄紋土器・石器・土師器・須恵器・軟質陶器・中世瓦である。主に、遺物包含層中から出土した。縄紋土器は早期中葉～末葉および前期初頭～後葉を主体とする。土師器・須恵器は古墳時代後期や平安時代のものが見受けられる。(高橋)



北飯盛遺跡 基本層序

- I：暗茶褐色土層。白色粒子・片岩粒を多量、炭化物粒子を微量含む。粘性はなく・しまりが強い。
- II：明黒褐色土層。炭化物粒子・小礫を微量含む。白色粒子が均一に混じる。粘性・しまりがない。
- III：明褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりがない。
- IV：茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子・小礫を少量含む。粘性・しまりがない。
- V：暗黄褐色ローム層。

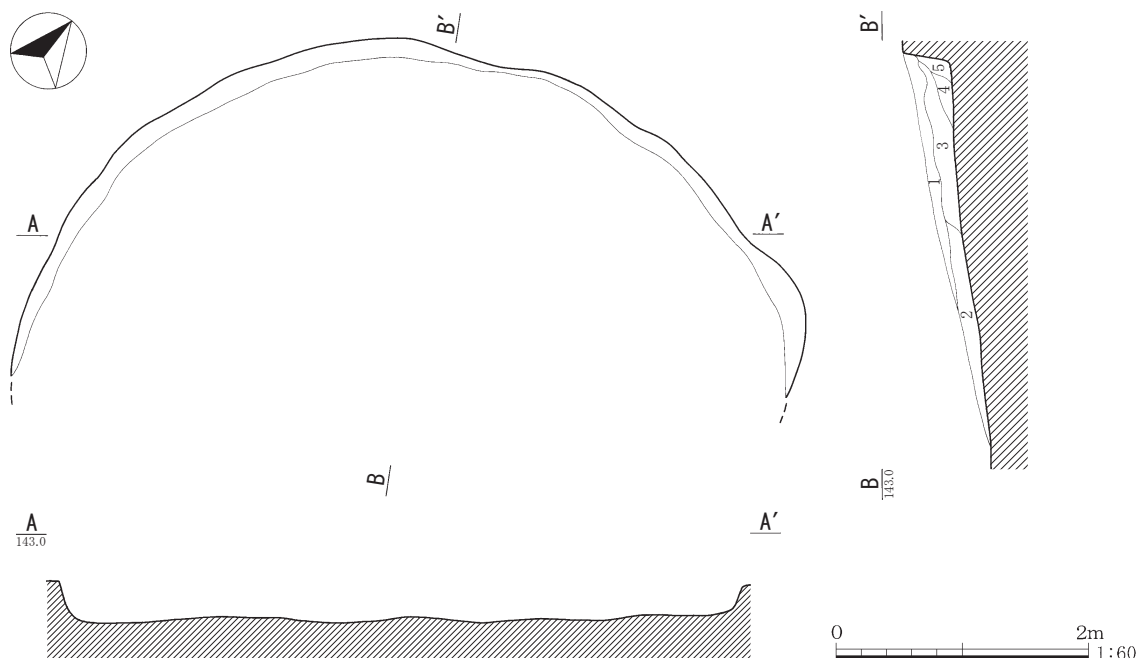
第141図 基本層序

## 第2節 遺構と遺物

### 1. 竪穴住居跡

1号住居跡 (第142・143図、写真図版15・56)

位置：調査区の北側、H4・5、I4・5グリッドに所在する。形態：南東側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は円形ないし楕円形を呈するものと推測される。主軸方位：不明。規模：東西長6.24m。炉：未検出。柱穴：未検出。遺物：少量の遺物が竪穴の南西側に散在する。早期後葉ないし末葉、前期前葉～後葉の縄紋土器片が認められる。諸磯b式が多く、大型破片(第143図3)を伴う。時期：出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯b式期に比定される。(高橋)

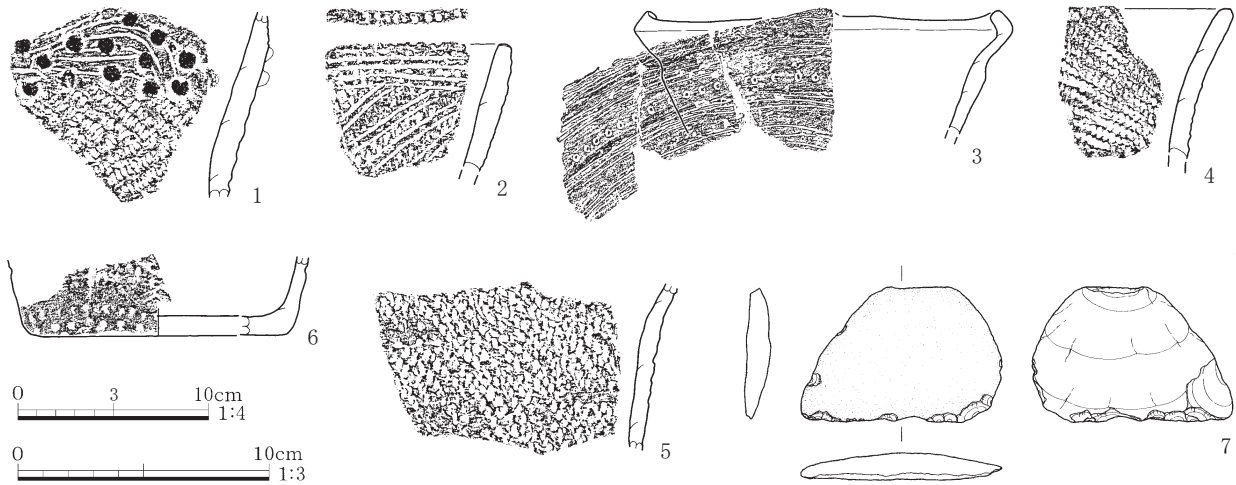


1号住居跡 埋没土層

- 1：暗茶褐色土層。白色粒子を中量、砂礫を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2：暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を微量を含む。ローム風化土がブロック状に混じる。粘性・しまりなし。
- 3：明黒褐色土層。白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4：明茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 5：明褐色土層。ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。

第142図 1号住居跡

北飯盛遺跡



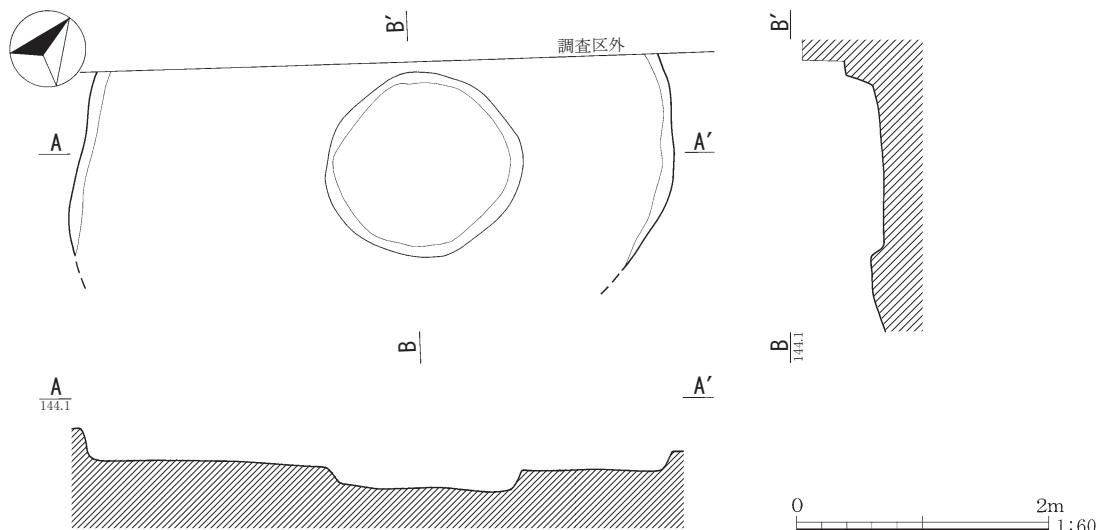
第 143 図 1号住居跡出土遺物

1号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口縁部に単沈線紋(尖頭状工具)による曲線文→貼付紋。胴部に結束羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-浅黄橙色。F. 口縁~胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋(内皮痕残存)による口縁部区画・米字文。口唇部にキザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい赤褐色。外-赤褐色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	A. 口径(18.5)。C. 外面、横位集合沈線紋・円紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁~胴部1/4。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、ケズリ→丁寧な横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい赤褐色。外-明赤褐色。F. 胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	A. 底径(10.1)。C. 外面、爪形紋による区画→爪形紋や平行沈線紋による鋸歯文を充填。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 底部1/5。
7	石器 スクレイパー	A. 長5.4。幅8.0。厚1.2。重45.9。C. 礫皮をもつ横長剥片の縁辺に両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 刃部に微細剥離痕。

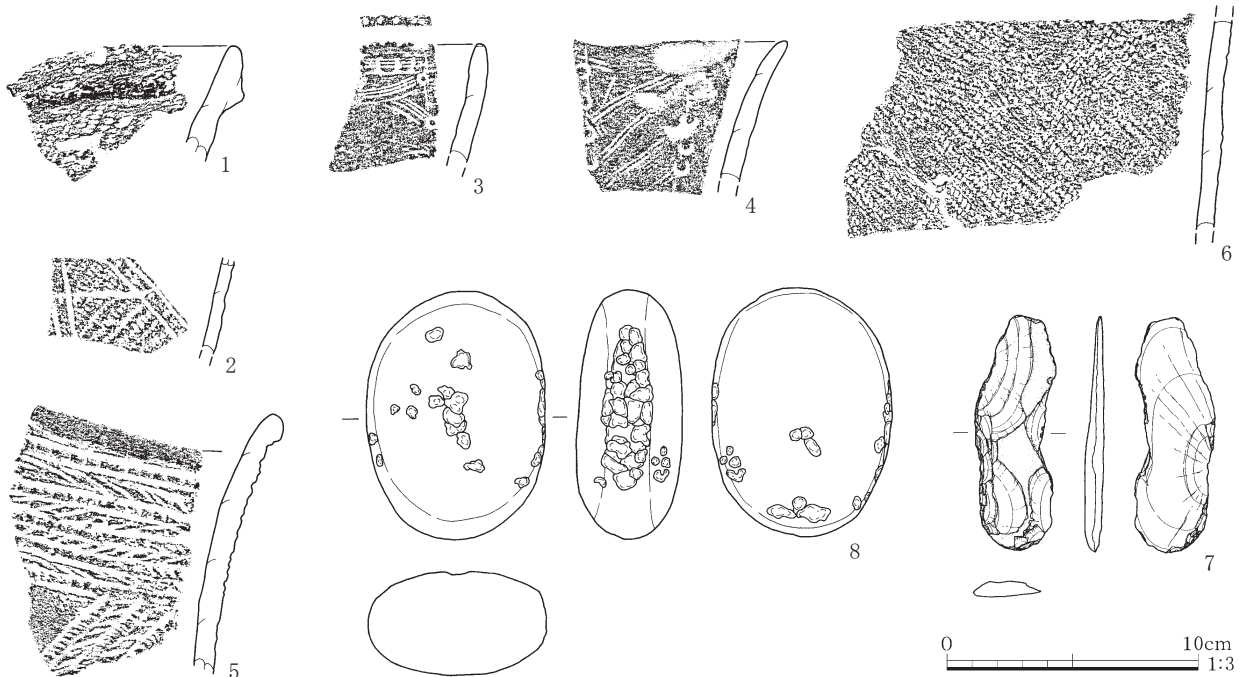
2号住居跡(第144・145図、写真図版15・56)

位置：調査区の北側、H2・3グリッドに所在する。住居跡の北西側は調査区外にかかる。形態：南東側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面形は不明で、中央に土坑が認められる。主軸方位：不明。規模：東西長4.75m。炉：未検出。柱穴：未検出。遺物：早期後葉ないし末葉、前期初頭・後葉の縄紋土器片が認められ、諸磯a・b式がやや多い。時期：縄紋時代前期後葉に比定される。(高橋)



第 144 図 2号住居跡





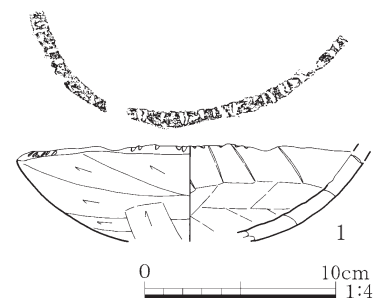
第 145 図 2号住居跡出土遺物

2号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	B. 折返状口縁。C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR) →口唇下ナデ。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (LR) →平行沈線紋 (内皮痕残存) による米字文。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内一橙色。外一にぶい黄橙色。F. 胴部片。H. 土坑。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋 (4条1対) による口縁部区画 (押引)・肋骨文→細い単沈線紋による縦位区画→交点に円紋。内面、横位ミガキ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、条線紋 (3条1対) による口縁部区画・綾杉文→鋭い単沈線紋による縦位区画→交点に円紋。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内一明赤褐色。外一暗褐色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・キザミによる区画等。内面、縦位ナデ、口唇下は横位ミガキ。D. 片岩。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL、直前段3条)。内面、縦位ミガキ。D. 特になし。E. 内一赤褐色。外一橙色。F. 胴部片。
7	石器 スクレイパー	A. 長9.4。幅3.3。厚0.8。重21.7。C. 礫皮をもつ横長剥片の二側縁に片面調整。D. 緑色岩類。F. 完形。G. 刃部周辺に微細剥離痕。
8	石器 凹石	A. 長9.8。幅7.1。厚4.2。重426.7。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 楕円形。表・裏面や右側縁に敲打痕。特に右側縁は顕著な敲・磨痕により平滑化。

3号住居跡 (第 146・147 図、写真図版 15・56)

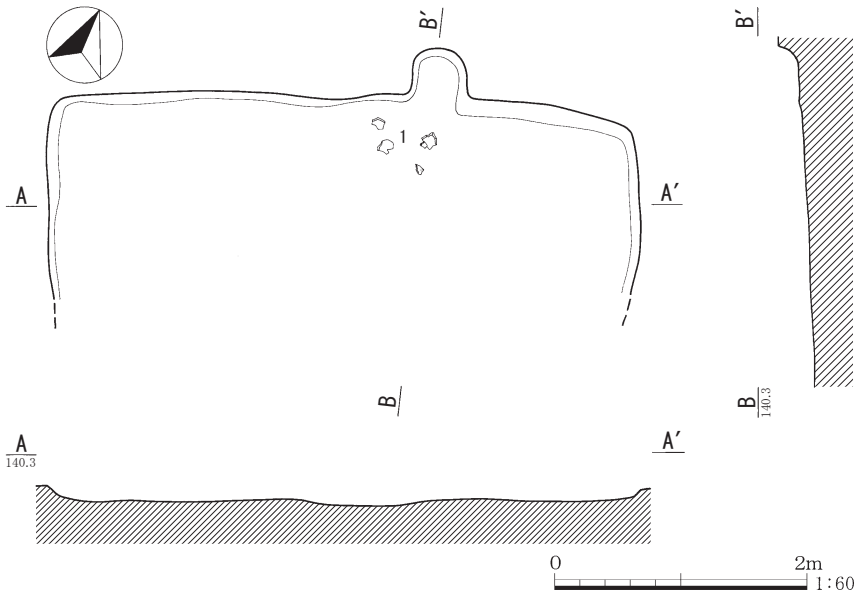
位置：調査区の東側、E 7・8 グリッドに所在する。形態：南東側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は方形ないし長方形を呈するものと推測される。主軸方位：N - 20° - W。規模：東西軸長 4.71 m。カマド：北壁に付設される。燃烧部は壁外に位置する。貯蔵穴：未検出。柱穴：未検出。周溝：未検出。遺物：カマド脇で1個体の土師器鉢 (第 146 図 1) が分散した状態で検出された。時期：出土遺物から古墳時代後期に比定される。(高橋)



第 146 図 3号住居跡出土遺物

3号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 鉢カ	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ケズリ。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内外一橙色。F. 胴下半~底部 1/3。G. 輪積部分にキザミ。
---	-----------	------------------------------------------------------------------------



第 147 図 3号住居跡

## 2. 溝跡

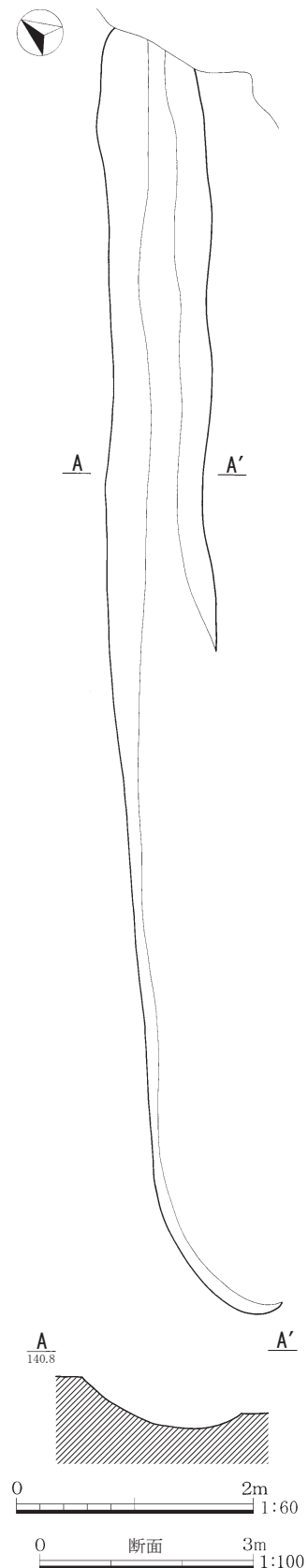
### 1号溝跡 (第 148 図)

位置：調査区の中央から南西側、D 1・2、E 2・3、F 3・4 グリッドに所在する。形態：等高線に沿って直線的に走行する。断面形は浅い弧状を呈する。ただし、地形に沿って南壁の立ち上がりが低くなり、一部消失している。底面は若干傾斜しており、16 m間で北東側が 20cm ほど低くなる。主軸方位：N - 54° - E。規模：幅 1.31 ~ 1.58 m、深さ 25 ~ 52cm。遺物：未検出。時期：不明。(高橋)

### 3. 土坑 (第 140・149 図、写真図版 15・56)

22 基を確認した (1 ~ 22 号土坑)。分布は調査区北西側に偏る。平面形は円形・楕円形・隅丸方形を呈し、円形が大多数を占める。長軸長の平均は 140cm で、最大 237cm (5 号土坑)・最小 84cm (19 号土坑) を測る。断面形は逆台形を呈するものが多い。深さの平均は 33cm で、最大 89cm (10 号土坑)・最小 10cm (1 号土坑) を測る。なお、5・9・11 ~ 13 号土坑では底面に小穴状の掘り込みが認められた。

出土遺物は少ない。石器が 9 号土坑 (第 149 図 1)、縄紋土器や土師器の細片が 22 号土坑から出土した。よって、所産時期が明瞭なものとして 9 号土坑が縄紋時代、22 号土坑が古墳時代以降に比定される。(高橋)



第 148 図 1号溝跡

土坑一覧表 (1)

遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
1号土坑	C1G	楕円形	N - 0°	97	84	10
2号土坑	D0G	楕円形	N - 45° - E	120	113	19

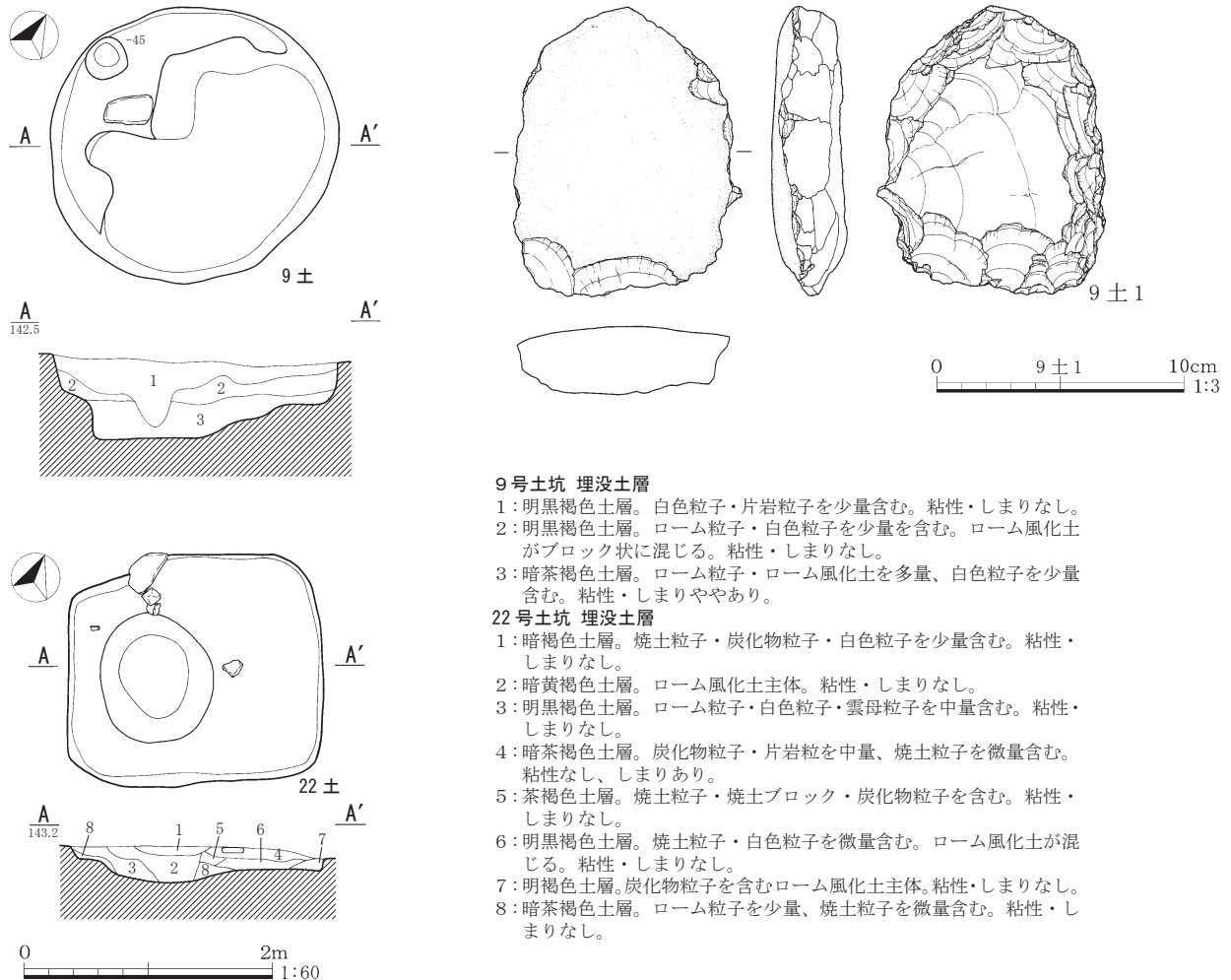
単位：cm

3号土坑	D1G	楕円形	N - 80° - W	125	109	15
4号土坑	D1G	円形	-	100	91	15
5号土坑	D1G	円形	-	237	217	40

土坑一覧表 (2)

単位: cm

遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
6号土坑	E1G	楕円形	N-62°-E	193	154	30
7号土坑	E1G	円形	-	153	-	20
8号土坑	E1G	円形	-	103	-	27
9号土坑	F1G	円形	-	230	213	61
10号土坑	F1G	円形	-	209	207	89
11号土坑	G3G	円形	-	98	93	27
12号土坑	G4G	楕円形	N-8°-E	168	157	21
13号土坑	F4G	円形	-	113	108	12
14号土坑	G4G	円形	-	-	-	89 85 38
15号土坑	H4G	円形	-	-	-	131 - 40
16号土坑	H3G	円形	-	-	-	105 - 21
17号土坑	I4G	円形	-	-	-	132 129 21
18号土坑	H6G	円形	-	-	-	87 84 80
19号土坑	F3G	楕円形	N-25°-E	84	69	47
20号土坑	F2G	楕円形	N-44°-E	164	143	57
21号土坑	H5G	楕円形	N-33°-E	144	115	17
22号土坑	G3G	隅丸方形	N-21°-W	206	188	29



9号土坑 埋没土層

- 1: 明黒褐色土層。白色粒子・片岩粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 明黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量を含む。ローム風化土がブロック状に混じる。粘性・しまりなし。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ローム風化土を多量、白色粒子を少量含む。粘性・しまりややあり。

22号土坑 埋没土層

- 1: 暗褐色土層。焼土粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 暗黄褐色土層。ローム風化土主体。粘性・しまりなし。
- 3: 明黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子・雲母粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
- 4: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・片岩粒を中量、焼土粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。
- 5: 茶褐色土層。焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子を含む。粘性・しまりなし。
- 6: 明黒褐色土層。焼土粒子・白色粒子を微量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。
- 7: 暗褐色土層。炭化物粒子を含むローム風化土主体。粘性・しまりなし。
- 8: 暗茶褐色土層。ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。

第 149 図 土坑・土坑出土遺物

土坑出土遺物観察表

9土	石器	A. 長11.6。幅9.2。厚3.2。重465.2。C. 割礫の周縁に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。
1	打製石斧	G. 不整形。磨耗痕はみられない。

4. 遺構外出土遺物 (第 150 図、写真図版 56・57)

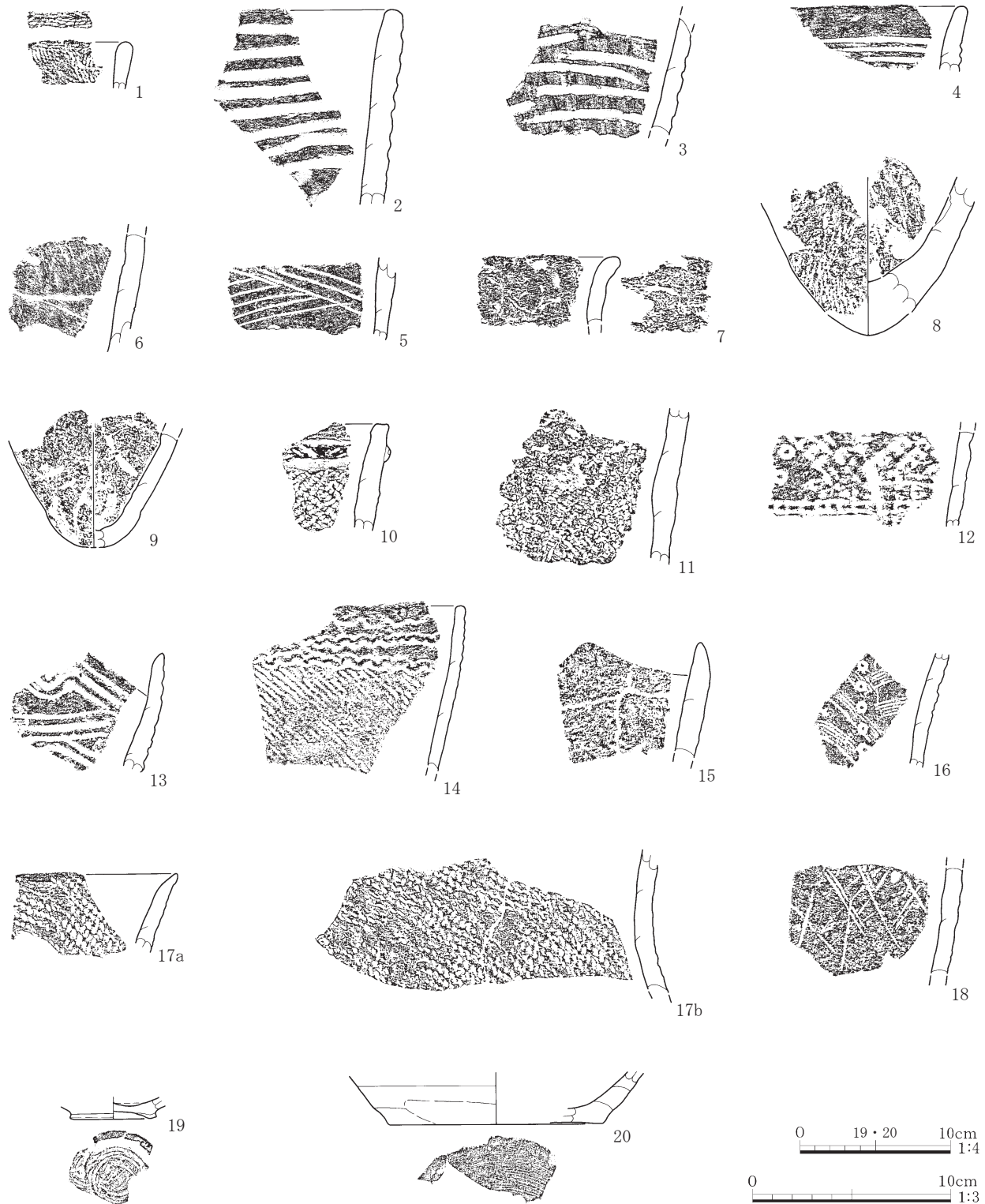
表土層・遺物包含層・攪乱内等から出土した遺物を対象とする。縄紋土器・石器・土師器・須恵器・軟質陶器・瓦等が検出された。これらは遺物包含層から多く出土している。

縄紋土器は草創期～前期後葉の破片資料が認められた。細別型式の判明するものとして、井草Ⅱ式(第 150 図 1)、田戸下層式(2～6)、縄紋条痕紋系土器、花積下層式(10・11)、二ツ木式(12)、関山Ⅰ式(13)、黒浜式(14)、諸磯 a 式(16・17)、諸磯 b 式、諸磯 c 式(18)が挙げられる。井草Ⅱ

式は本調査地点でのみ検出された。また、田戸下層式は他地点よりも比較的まとまって出土している。

石器は、礫器、打製石斧、スクレイパー類、リタッチドフレイク、磨石、凹石、台石、砥石、剥片が認められ、スクレイパー類、リタッチドフレイク、剥片が多い。石材はホルンフェルスが傑出する。

土師器・須恵器は、住居跡が検出された古墳時代に帰属するものに加えて、平安時代に比定される資料が目立つ（19・20）。また、中世の遺物も散見された。（高橋）



第150図 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口唇部・口唇下に横位、口縁部に斜位の燃糸紋 (R)。内面、縦位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい褐色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位凹線紋 (丸棒状工具)。内面、縦位ミガキ。D. 特になし。E. 内-明赤褐色。外-暗褐色。F. 口縁部片。H. F25G。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位凹線紋 (丸棒状工具)。内面、縦位ミガキ。D. チャート。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。H. G4G。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位単沈線紋 (尖頭状工具)。内面、横位ナデ。D. 特になし。E. 内-灰黄褐色。外-黒褐色。F. 口縁部片。H. F25G。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い斜位単沈線紋 (尖頭状工具)。内面、縦位ナデ。D. 多量の石英。E. 内外-橙色。F. 胴部片。H. F26G。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、鋭い斜位単沈線紋。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 胴部片。H. F2G。
7	縄紋土器 深鉢	C. 内外面、ナデ。D. 繊維。E. 内-黒褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. E4G。
8	縄紋土器 深鉢	C. 内外面、縦位条痕紋。D. 片岩・繊維。E. 内-黒色。外-橙色。F. 底部片。H. F3G。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位ナデ。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい橙色。F. 底部片。H. G5G。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR、前々段多条) →口唇下にキザミ付隆帯。内面、縦位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. G6G。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、異方向縄紋 (RL、前々段3条)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。H. G5G。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節平行沈線紋による区画・鋸歯文。空白部に円紋。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-灰黄褐色。F. 口縁部片。H. F3G。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋 (内皮痕残存) による区画等。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-明黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. F5G。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口縁部にコンパス紋 (内皮痕残存)、胴部に斜縄紋 (R)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁~胴部片。H. F2G。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋。内面、ナデ。D. チャート・繊維。E. 内外-明褐色。F. 口縁部片。H. F2・3G。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い単沈線紋で縦位区画→条線紋 (5条1対) による肋骨文→円紋で縦位区画。内面、横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. E4G。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL)。内面、横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁~胴上半部片。H. G4G。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、細い平行沈線紋による斜格子文。内面、横位ナデ・工具痕。D. 片岩・角閃石。E. 内外-橙色。F. 胴部片。H. F3G。
19	須恵器 高台付碗	A. 底径 (5.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・石英。E. 内-にぶい褐色。外-橙色。F. 底部のみ 3/4。G. 酸火焼成。H. E5G。
20	須恵器 鉢	A. 底径 (14.5)。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ→ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内-灰黄色。外-にぶい黄褐色。F. 破片。G. 内面やや摩耗。還元焼成だが、還元不良。H. E5G。

石器組成表 (器種別点数)

	石鏃	石錐	石匙	楔形石器	打製石斧	礫器	三角錐形	Sc	RF	磨石類	石皿	敲石	砥石	台石	多孔石	磨製石斧	石核	剥片	棒状礫類	合計
1住					1			2	4									8		15
2住								1		1										2
9土					1															1
22土						1		2												3
遺構外					1	5		9	12	3			1	1				11		43
合計	0	0	0	0	3	6	0	14	16	4	0	0	1	1	0	0	0	19	0	64

Sc: スクレイパー RF: リタッチドフレイク

石器組成表 (石材別点数)

	Ob	Ch	Ban	Ag	Sh	SS	Ho	An	Di	Sc	GrR	軽石	石英	合計
1住		11			2		2							15
2住									1		1			2
9土							1							1
22土					1		2							3
遺構外		2			10	4	26	1						43
合計	0	13	0	0	13	4	31	1	1	0	1	0	0	64

Ob: 黒曜石 Ch: チャート Ban: 黒色安山岩 Ag: 瑪瑙 Sh: 頁岩 SS: 砂岩 Ho: ホルンフェルス An: 安山岩 Di: 閃緑岩 Sc: 片岩 GrR: 緑色岩類

## 第Ⅷ章 南飯盛遺跡

### 第1節 遺跡の概要

調査区は山地を南北に下刻する谷戸とその小支谷が交わる南西斜面に位置する。標高は159.5～168.5 mで、北東から南西に傾斜していた。

検出された遺構は、竪穴住居跡11軒、溝跡3条、土坑26基および多数の小穴、倒木痕・植栽等の掘り込みである。

竪穴住居跡は縄紋時代前期（1～4・6・7a～7d・8号住居跡）や平安時代（5号住居跡）のものが認められ、前者が大多数を占める。調査区の南東側に集中し、南西側や北東側にも散見される。いずれも斜面に立地しており、地形の傾斜に沿った削平が著しい。縄紋時代の住居跡で細別時期の判明したものには、前期初頭二ツ木式（7a・8号住居跡）、前葉関山Ⅱ式（6号住居跡）、後葉諸磯b式（1・4・7b号住居跡）および諸磯c式（3号住居跡）が挙げられる。その分布は前期後葉の住居跡が比較的標高の高い位置に占地する傾向がある。

溝跡は3条を精査している。その性格等は不明瞭で、等高線に沿うもの（2号溝跡）と直交するもの（1・3号溝跡）の両者が見受けられた。他にも、断片的な溝状の掘り込みが散在する。

土坑は倒木痕や植栽等との区別が難しく、発掘調査時の所見に従った。分布は調査区中央から南東側に多く、住居跡の周辺に集中する。多くは縄紋時代に帰属するものと推測される。

検出された遺物として、縄紋土器・石器・土師器・須恵器・灰釉陶器・古銭・煙管等が見受けられた。遺構に伴うものに加えて、包含層中からも出土している。縄紋土器や石器がほとんどを占め、縄紋土器は前期全般を主体としていた。近世の遺物も包含層から検出されており、遺構では捉えられなかった当該期の土地利用が窺われる。 (高橋)

### 第2節 遺構と遺物

#### 1. 竪穴住居跡

##### 1号住居跡（第152・153図、写真図版16・57）

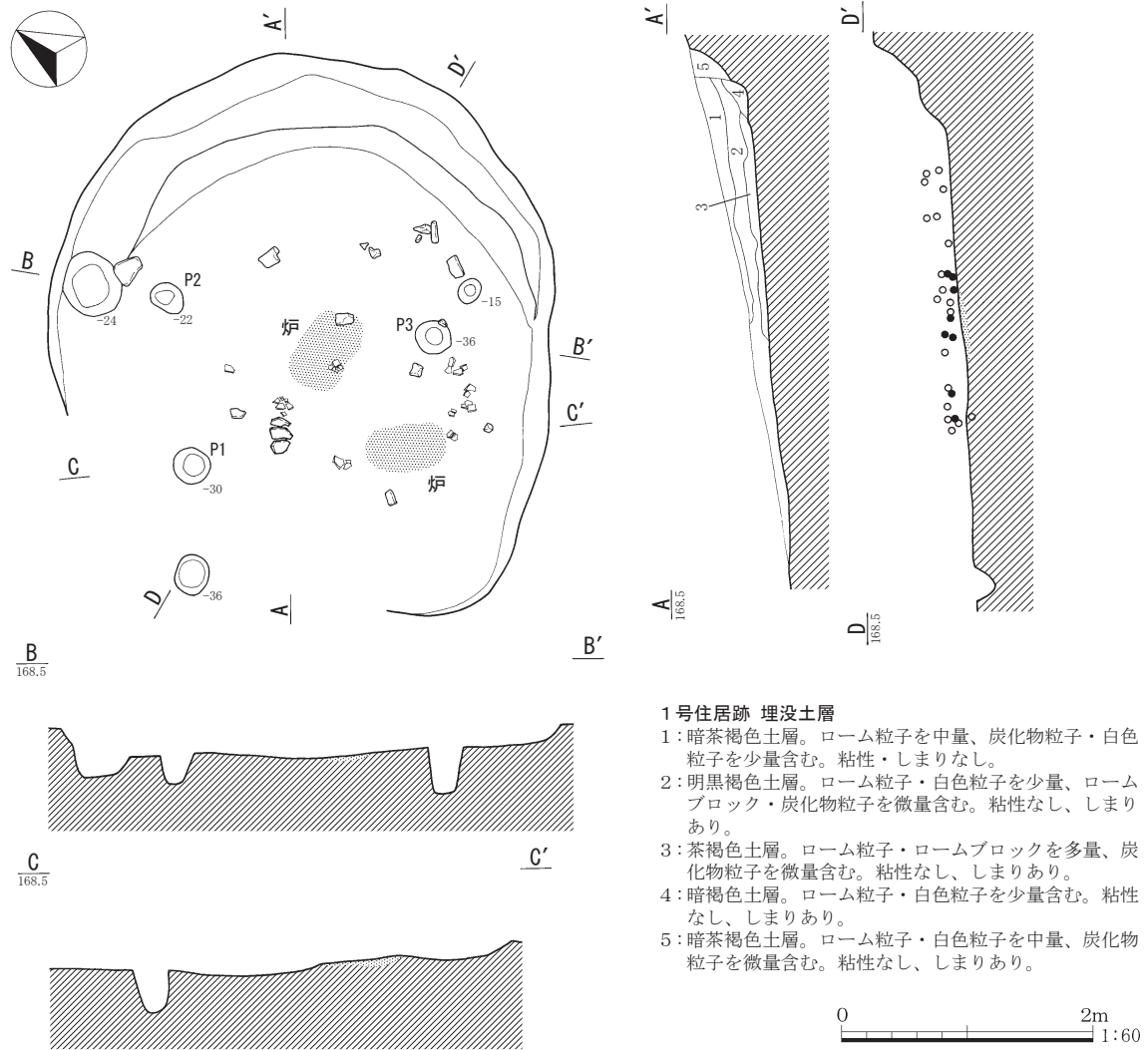
**位置**：調査区の北側、A 11・12 グリッドに所在する。**形態**：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は不整な楕円形を呈するものと推測され、壁面に段を有する。**主軸方位**：N－36°－E。**規模**：南北軸長4.02 m。**炉**：竪穴の中央およびその南側の2箇所にて地床炉が付設される。**柱穴**：6基。P 1～3が支柱穴に想定される。**遺物**：少量の遺物が竪穴の下層に散在する。前期後葉の縄紋土器片が認められ、諸磯a式ないし諸磯b式に帰属する残存状態の良好な深鉢の胴部（第153図1）が検出された。**時期**：出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯a式ないし諸磯b式期に比定される。 (高橋)

##### 1号住居跡出土遺物観察表

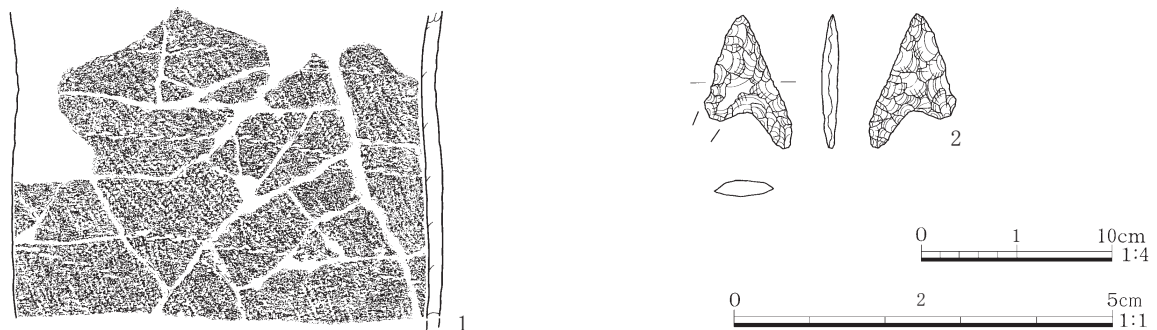
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う斜縄紋（RL、直前段3条）。内面、丁寧な縦位ナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 胴上半部1/2。
2	石器 石鏃	A. 長[1.8]。幅[1.2]。厚0.3。重0.3。D. 黒曜石。F. 片脚部欠損。G. 凹基無茎。やや深い抉りをもつ。



第 151 図 全体図



第152図 1号住居跡

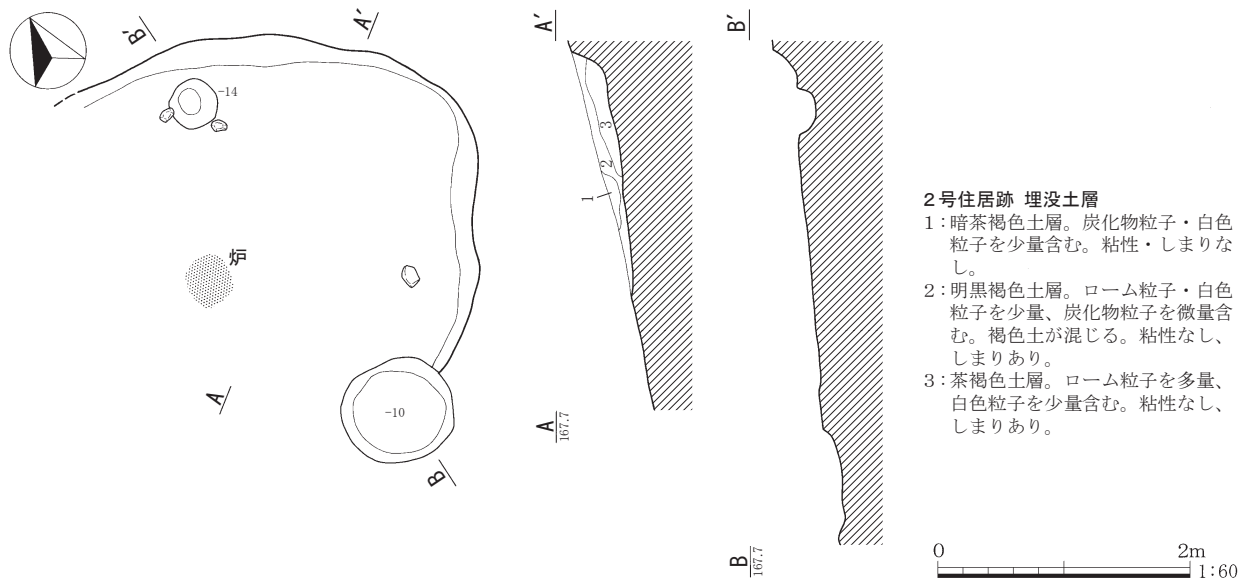


第153図 1号住居跡出土遺物

**2号住居跡** (第154図、写真図版17)

**位置:** 調査区の東側、F 14・G 14 グリッドに所在する。土坑状の掘り込みと重複するが、その関係は不明である。**形態:** 西側の大半は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推測される。**主軸方位:** N-17°-E。**規模:** 不明。**炉:** 竪穴の中央に地床炉が付設される。**柱穴:** 1基。**遺物:** 微量の遺物が竪穴内に散在する。前期後葉の縄紋土器片が認められる。**時期:** 住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期後葉に比定される。(高橋)



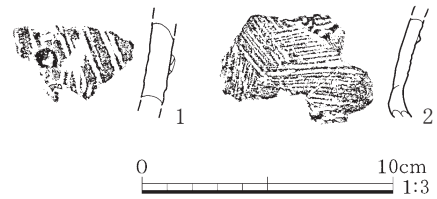


第154図 2号住居跡

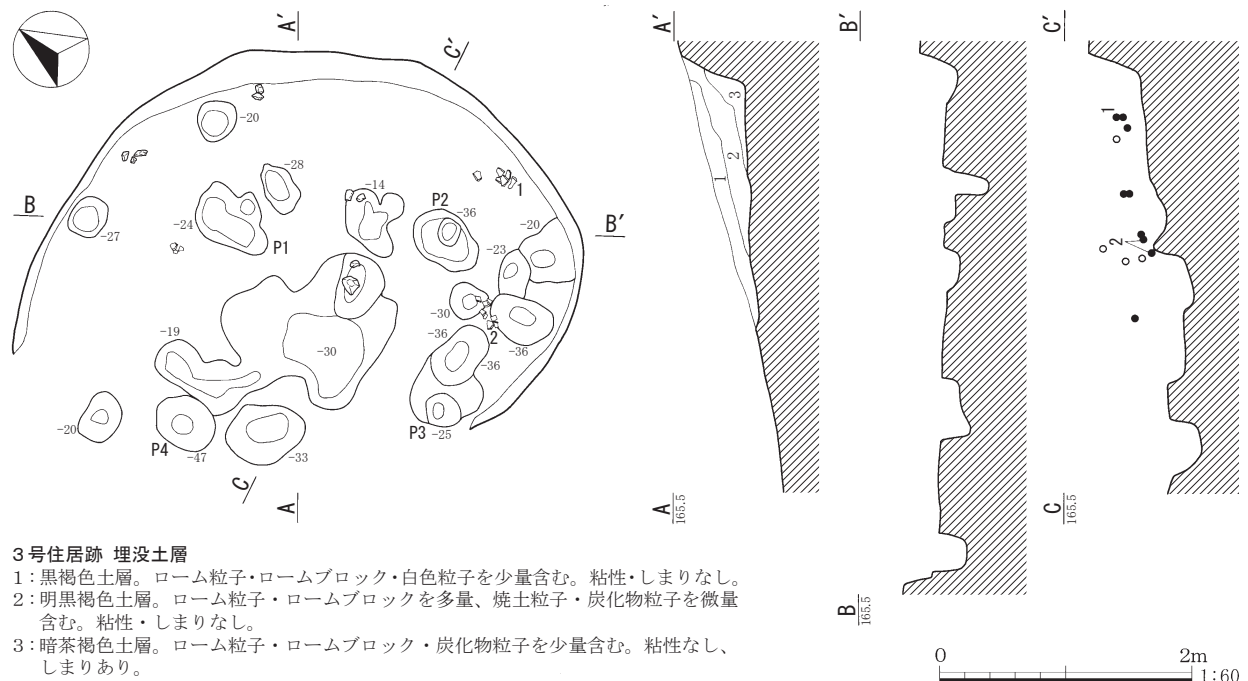
3号住居跡 (第155・156図、写真図版17・57)

**位置：**調査区の東側、I 12・13 グリッドに所在する。**形態：**西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は円形ないし楕円形を呈するものと推測される。中央に土坑状の掘り込みが認められる。**主軸方位：**N - 41° - E。**規模：**不明。**炉：**未検出。**柱穴：**16基。P1～4が支柱穴に想定される。他にも深い小穴が見受けられることから、建て替えが予想されよう。**遺物：**微量の遺物が堅穴の北東側に散在する。前期前半・後葉の縄紋土器片が認められ、諸磯c式が多くを占める。**時期：**出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯c式期に比定される。

(高橋)



第155図 3号住居跡出土遺物



3号住居跡 埋没土層

- 1: 黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 明黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。

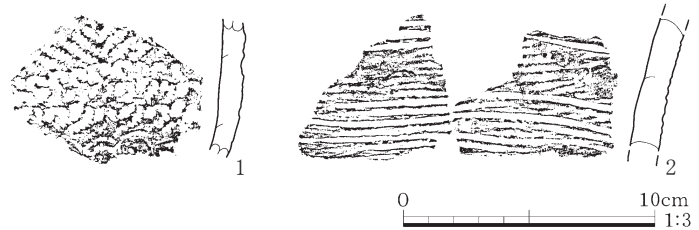
第156図 3号住居跡

3号住居跡出土遺物観察表

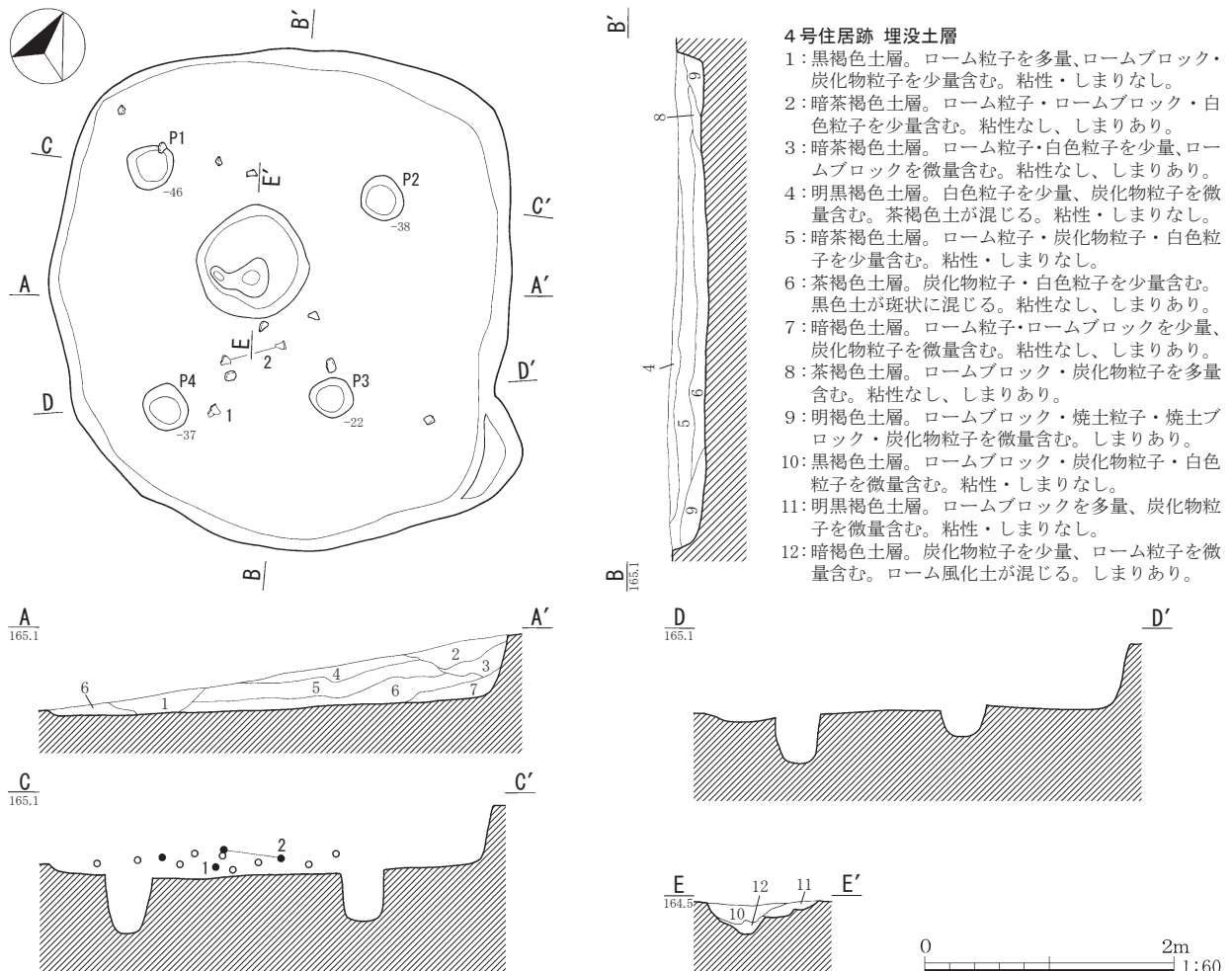
1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→ボタン状貼付紋。内面、ナデ。D. 片岩。E. 内-褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→結節浮線紋。内面、縦・横位ケズリ。D. 角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。

4号住居跡 (第157・158図、写真図版17・57)

位置：調査区の北側、E 8・9グリッドに所在する。形態：平面は隅丸方形を呈する。中央に土坑状の掘り込みが認められる。主軸方位：N - 22° - W。規模：南北軸長 3.99 m、東西軸長 3.72 m。炉：中央の土坑は炉の掘り方を連想させる。柱穴：4基。いずれも支柱穴に想定される。遺物：微量の遺物が竪穴内に散在する。前期前半・後



第157図 4号住居跡出土遺物



第158図 4号住居跡

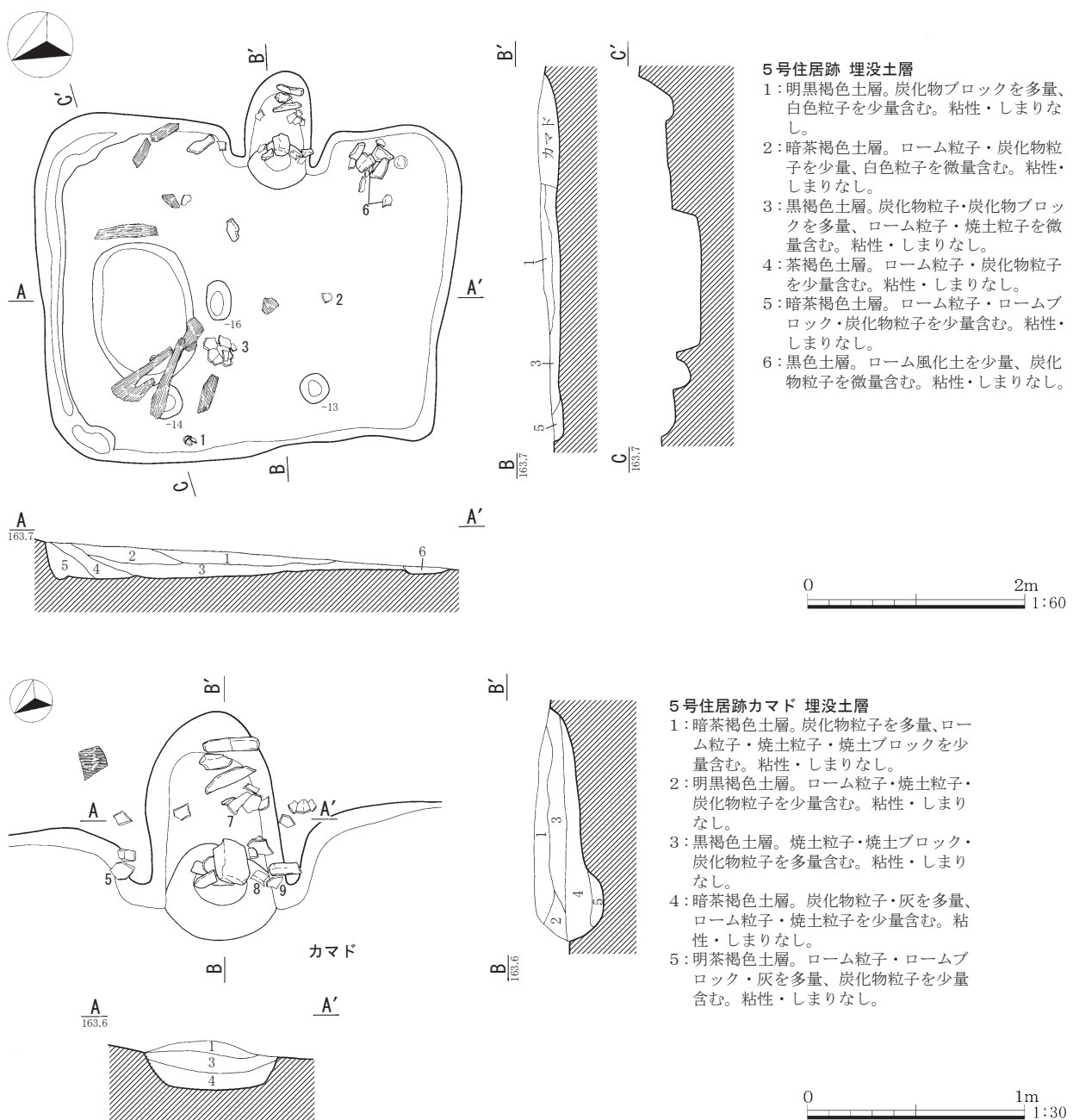
4号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋・羽状縄紋 (RL・LR、前々段多条) →コンパス紋。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (L) →横位平行沈線紋。内面、粗い横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。

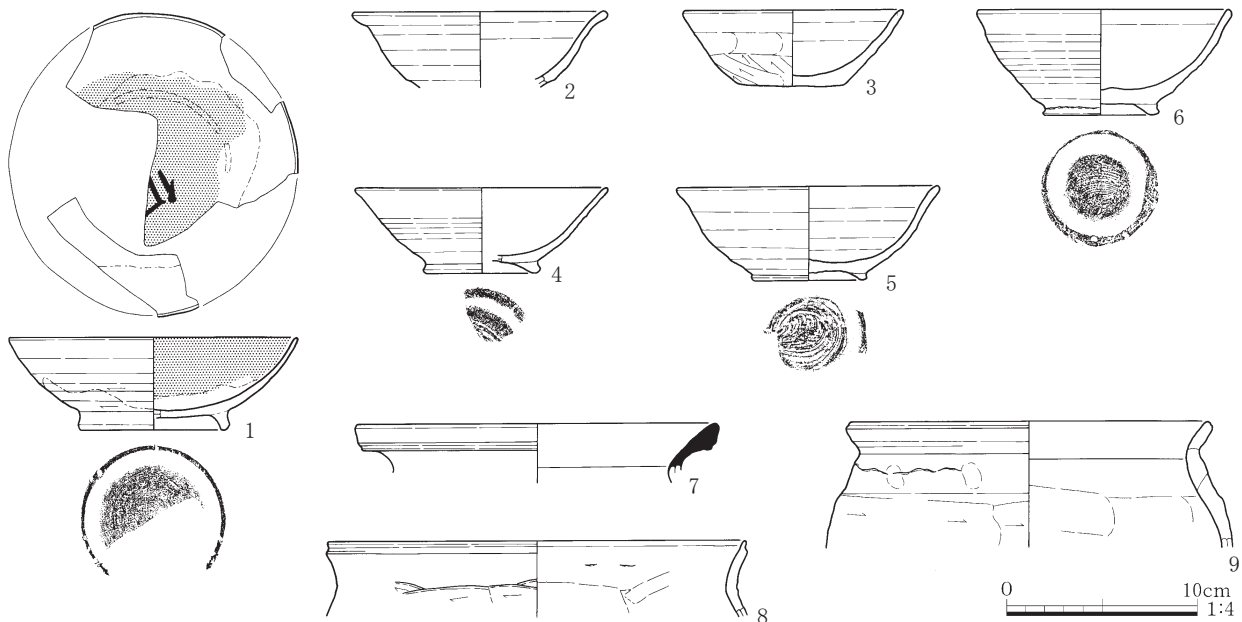
葉の縄紋土器片が認められ、諸磯b式が多くを占める。時期：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期後葉諸磯b式期に比定される。(高橋)

5号住居跡 (第159・160図、写真図版17・18・57)

位置：調査区の中央、I 8・9、J 8・9グリッドに所在する。形態：平面は長方形を呈する。主軸方位：S - 116° - E。規模：南北軸長 3.90 m、東西軸長 3.20 m。カマド：東壁に付設され、袖部のために基盤層を掘り残す。燃烧部は土坑状に落ち込み、煙道は竪穴外へと延びる。礫が多量に検出されており、構築材に用いられたのだろう。貯蔵穴：未検出。柱穴：未検出。周溝：北壁沿いで確認された。床下土坑：平面が楕円形を呈する。遺物：カマド周辺とその右側に遺物や礫が集中する。竪穴の北側には炭化材が散在していた。時期：住居跡の形態と出土遺物から平安時代に比定される。(宮本)



第159図 5号住居跡



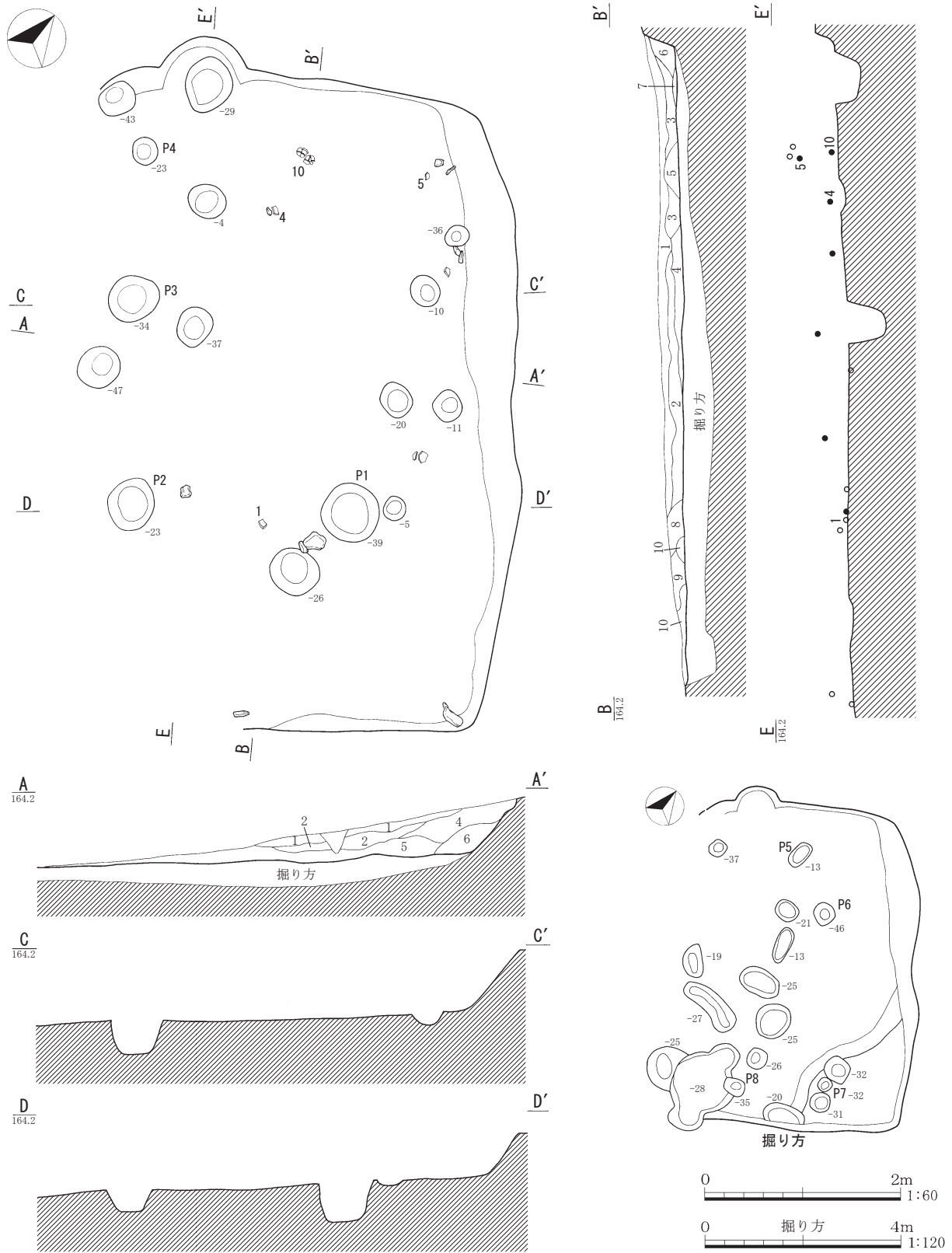
第 160 図 5号住居跡出土遺物

5号住居跡出土遺物観察表

1	灰釉陶器 高台付碗	A. 口径 (15.3)。底径 7.9。器高 4.9。B. ロクロ成形。C. 外面、体部回転ナデ→下位回転ケズリ。底部回転ヘラケズリ→高台貼付→回転ナデ。内面、回転ナデ。D. 特になし。E. 内外-灰白色。F. 2/3。G. 内外面、灰釉漬け掛け。見込みに墨書・朱墨。
2	須恵器 坏	A. 口径 (13.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。
3	須恵器 坏	A. 口径 11.7。底径 5.7。器高 4.1。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→体部下半ナメケズリ→上半ヨコナデ→口縁部回転ナデ。内面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外-にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。
4	須恵器 高台付坏	A. 口径 (13.4)。底径 (6.1)。器高 4.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明褐色。F. 1/5。G. 酸化焰焼成。
5	須恵器 高台付坏	A. 口径 (14.0)。底径 (6.1)。器高 5.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい橙色。外-明赤褐色。F. 1/5。G. 酸化焰焼成。
6	須恵器 高台付坏	A. 口径 (13.5)。底径 6.1。器高 5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。G. 酸化焰焼成。
7	須恵器 壺	A. 口径 (19.2)。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰だが焼成不良。H. カマド。
8	土師器 甕	A. 口径 (22.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 破片。H. カマド。
9	土師器 甕	A. 口径 (19.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・部分的にユビオサエ。胴部上位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-にぶい褐色。F. 破片。G. 外面二次被熱。H. カマド。

6号住居跡 (第 161・162 図、写真図版 17・57・58)

**位置**：調査区の南東側、K 12・13、L 13 グリッドに所在する。**形態**：南西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は長方形を呈するものと推測され、掘り方を有する。**主軸方位**：N-36°-W。**規模**：南北軸長 6.72 m。**炉**：未検出。**柱穴**：15 基。柱穴配置は不規則だが、掘り方の状況を斟酌して、P 1～4 および掘り方の P 5～8 の 8 基が主柱穴に想定されよう。**遺物**：少量の遺物が竪穴内に散在する。早期後葉ないし末葉、前期初頭～前葉・後葉の縄紋土器片が認められ、関山Ⅱ式が多くを占める。また、北壁際の床面上で諸磯 a 式期に比定される浅鉢の大型破片が検出された (第 162 図 10)。**時期**：住居跡の形態や出土遺物から縄紋時代前期前葉関山Ⅱ式期に比定される。浅鉢の検出状況から前期後葉諸磯 a 式期における遺構の重複が予想されよう。(高橋)

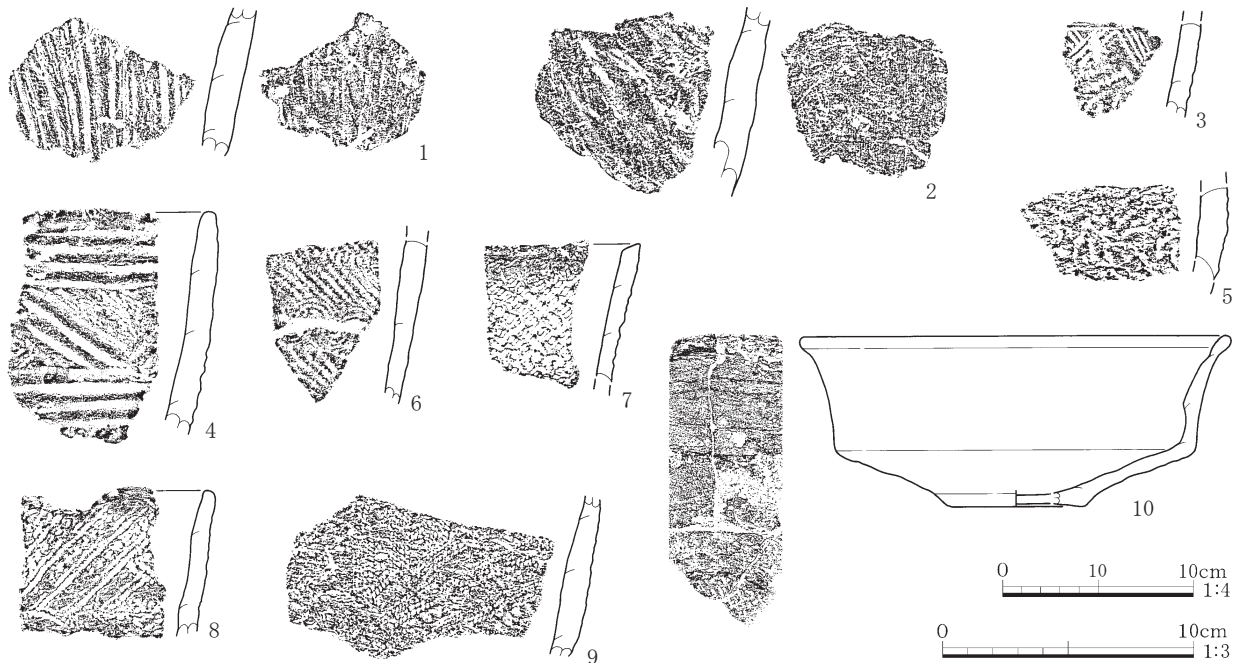


6号住居跡 埋没土層

- 1: 明黒褐色土層。白色粒子を少量、ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 黒褐色土層。1層に似るが、ローム風化土を少量含み、色調が暗い。
- 3: 暗茶褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 4: 暗茶褐色土層。ローム粒子を多量、炭化物粒子を微量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。
- 5: 明黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性なし、しまりあり。

- 6: 黒褐色土層。ローム粒子・焼土ブロック・炭化物粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 7: 明褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。
- 8: 暗茶褐色土層。6層に近似するが、色調がやや明るい。
- 9: 明黒褐色土層。白色粒子を多量、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 10: 暗黄褐色土層。ローム風化土主体。ロームブロックを多量含む。粘性・しまりなし。

第 161 図 6号住居跡



第 162 図 6号住居跡出土遺物

6号住居跡出土遺物観察表

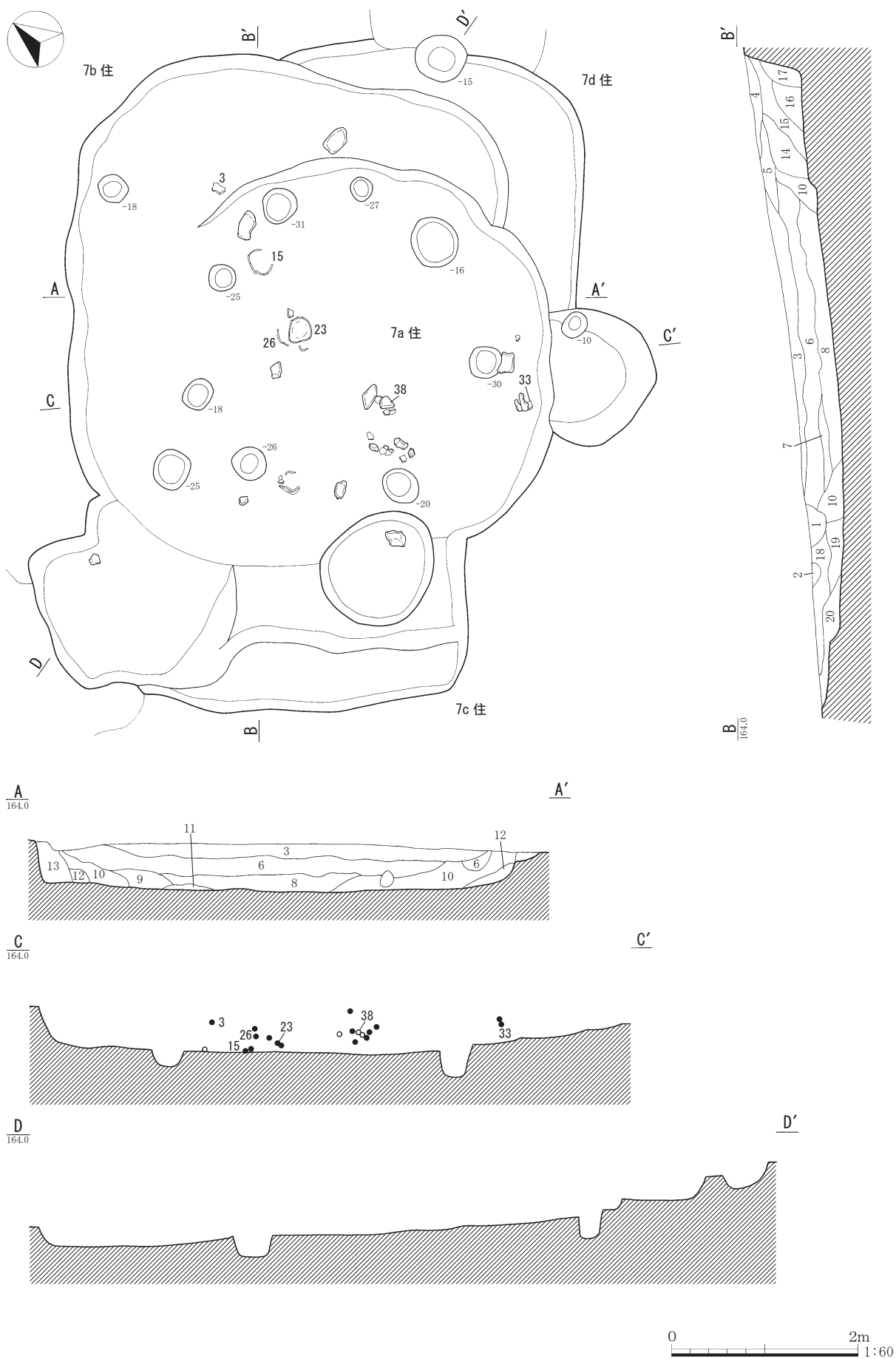
1	縄紋土器 深鉢	C. 内外面、縦位貝殻条痕紋。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位条痕紋→ナデ。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-橙色。F. 胴部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口縁部に密接平行沈線紋による複合鋸歯文等、胴部に羽状縄紋 (RL・LR)。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-明赤褐色。F. 口縁~胴部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR) →平行沈線紋 (内皮痕残存) による区画・鋸歯文。内面、縦位ミガキ、口唇下は横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-明褐色。外-黒褐色。F. 口縁部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋 (RL・LR) →コンパス紋 (内皮痕残存)。内面、丁寧な縦位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい黄褐色。F. 胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、閉端環付斜縄紋 (RL) →コンパス紋 (櫛歯状工具、4条1対)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 胴部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋 (RL)。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内-褐灰色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う縄紋 (LRL-2R)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、不整な斜縄紋 (RL+4R、付加条2種)。内面、縦位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい褐色。外-明褐色。F. 胴部片。
10	縄紋土器 浅鉢	A. 口径 (22.4)。底径 (7.4)。器高 9.0。C. 内外面、横位ミガキ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内-明赤褐色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部 1/6・胴部 1/2。G. 内面の器面荒れが著しい。

7a・7b・7c・7d号住居跡 (第 163 ~ 166 図、写真図版 18・58・59)

位置：調査区の中央、I 10、J 9~11、K 9・10 グリッドに所在する。7a・7b・7c・7d号住居跡や土坑が重複し、遺物の出土状況から7a号住居跡→7b号住居跡の新旧関係が窺われた。埋没状態は再検討を要する。遺物：多量の遺物が7b号住居跡で出土した。早期後葉~末葉、前期初頭~末葉の縄紋土器が認められ、前期前半および諸磯 a・b 式が多くを占める。諸磯 b 式には残存状態の良い個体が見受けられる (第 165 図 23・24)。二ツ木式に比定される深鉢の胴部 (15) は7a号住居跡に伴う埋設土器に想定される。なお、弥生土器片 (35) が1点のみ検出されている。

7a号住居跡

形態：平面は円形ないし楕円形を呈するものの、不明瞭である。主軸方位：不明。規模：不明。炉：



第 163 图 7a・7b・7c・7d号住居跡

7a・7b・7c・7d号住居跡 埋没土層

- 1: 黒褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 2: 明黒褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3: 明黒褐色土層。ローム粒子・白色粒子を少量含む。ローム風化土が斑状に混じる。粘性・しまりなし。
- 4: 明黒褐色土層。ローム粒子を少量含む。褐色土が混じる。粘性・しまりなし。
- 5: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 6: 明黒褐色土層。白色粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。褐色土が混じる。粘性・しまりなし。
- 7: 暗茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を中量含む。粘性・しまりややなし。
- 8: 黒褐色土層。炭化物粒子を多量、ローム粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりややなし。
- 9: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量、白色粒子を微量含む。粘性・しまりややなし。
- 10: 暗茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりややなし。
- 11: 明黒褐色土層。ローム粒子・片岩粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。
- 12: 黒色土層。ロームブロック・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 13: 明茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 14: 暗茶褐色土層。炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 15: 暗茶褐色土層。ローム粒子・片岩粒を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
- 16: 茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを少量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりややなし。
- 17: 明褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。
- 18: 明茶褐色土層。ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性・しまりなし。
- 19: 茶褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 20: 明褐色土層。ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。ローム風化土が混じる。粘性・しまりなし。

未検出。柱穴：9基。規則的な配置は認められない。埋設土器：深鉢の胴部（第165図15）が正位の状態で見出された。時期：埋設土器より縄紋時代前期初頭二ツ木式期に比定される。

7b号住居跡

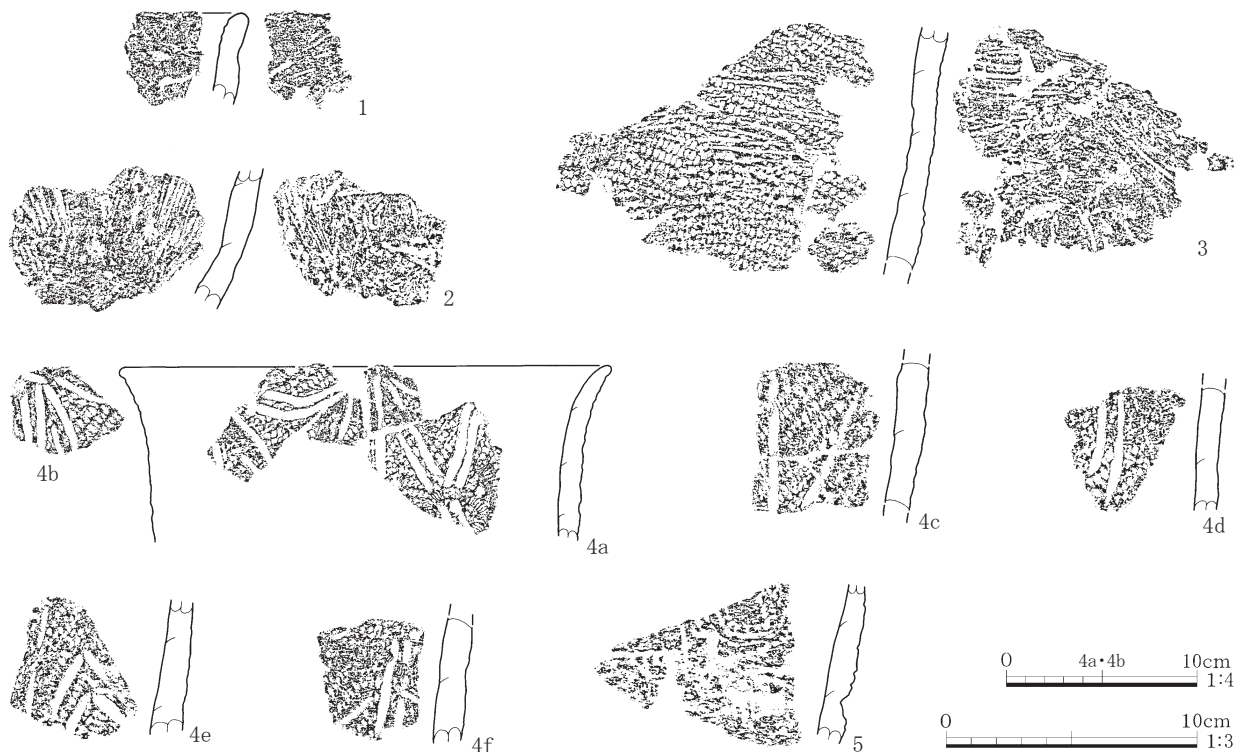
形態：平面は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸方位：S - 56° - E。規模：不明。炉：未検出。柱穴：不明。時期：出土遺物より縄紋時代前期後葉諸磯b式期に比定される。

7c号住居跡

形態：平面は方形ないし長方形を呈するものと推定される。床面に段を持つ。主軸方位：S - 54° - E。規模：不明。炉：未検出。柱穴：不明。時期：縄紋時代。

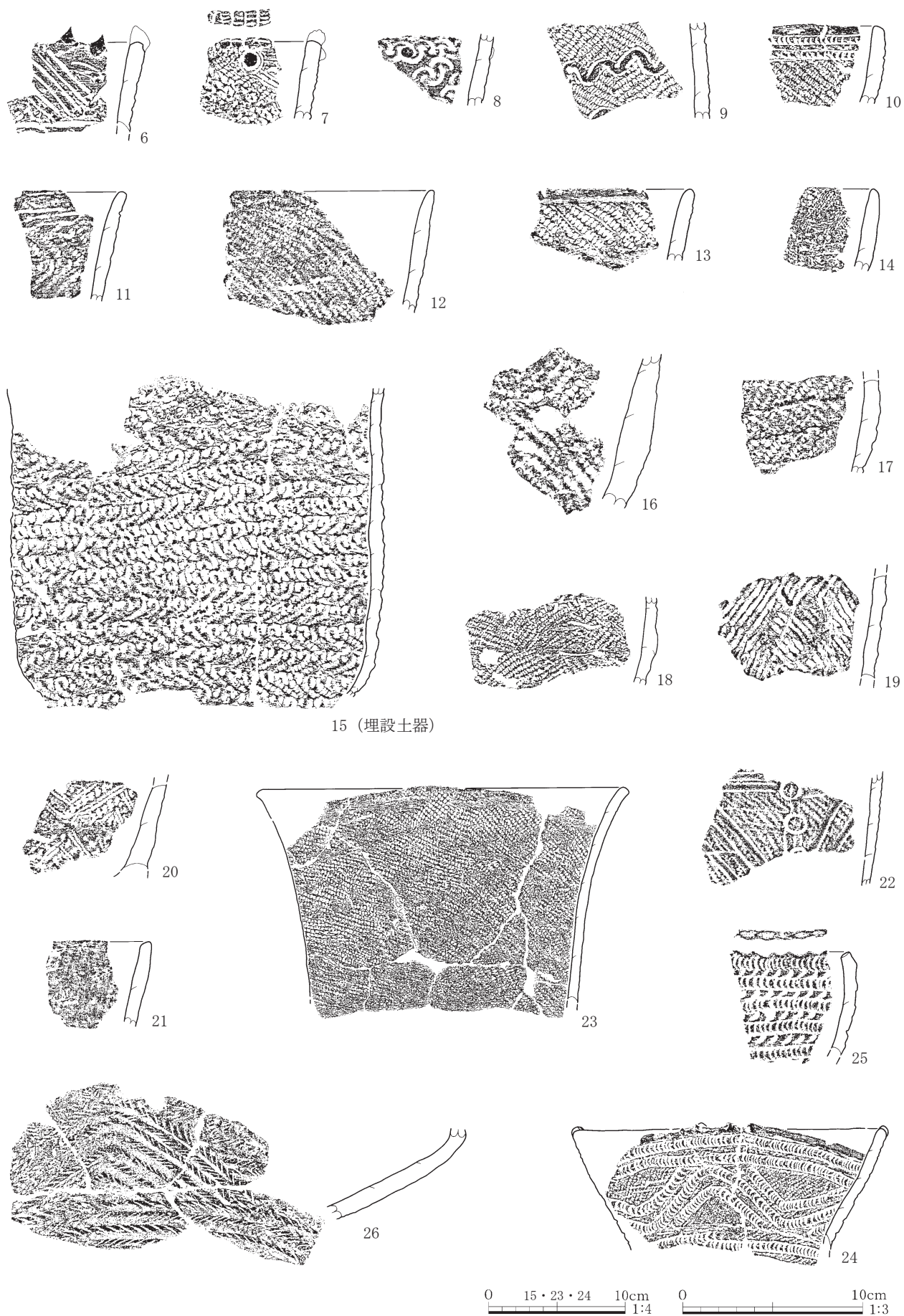
7d号住居跡

形態：平面は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸方位：S - 58° - E。規模：不明。炉：未検出。柱穴：不明。時期：縄紋時代。（高橋）

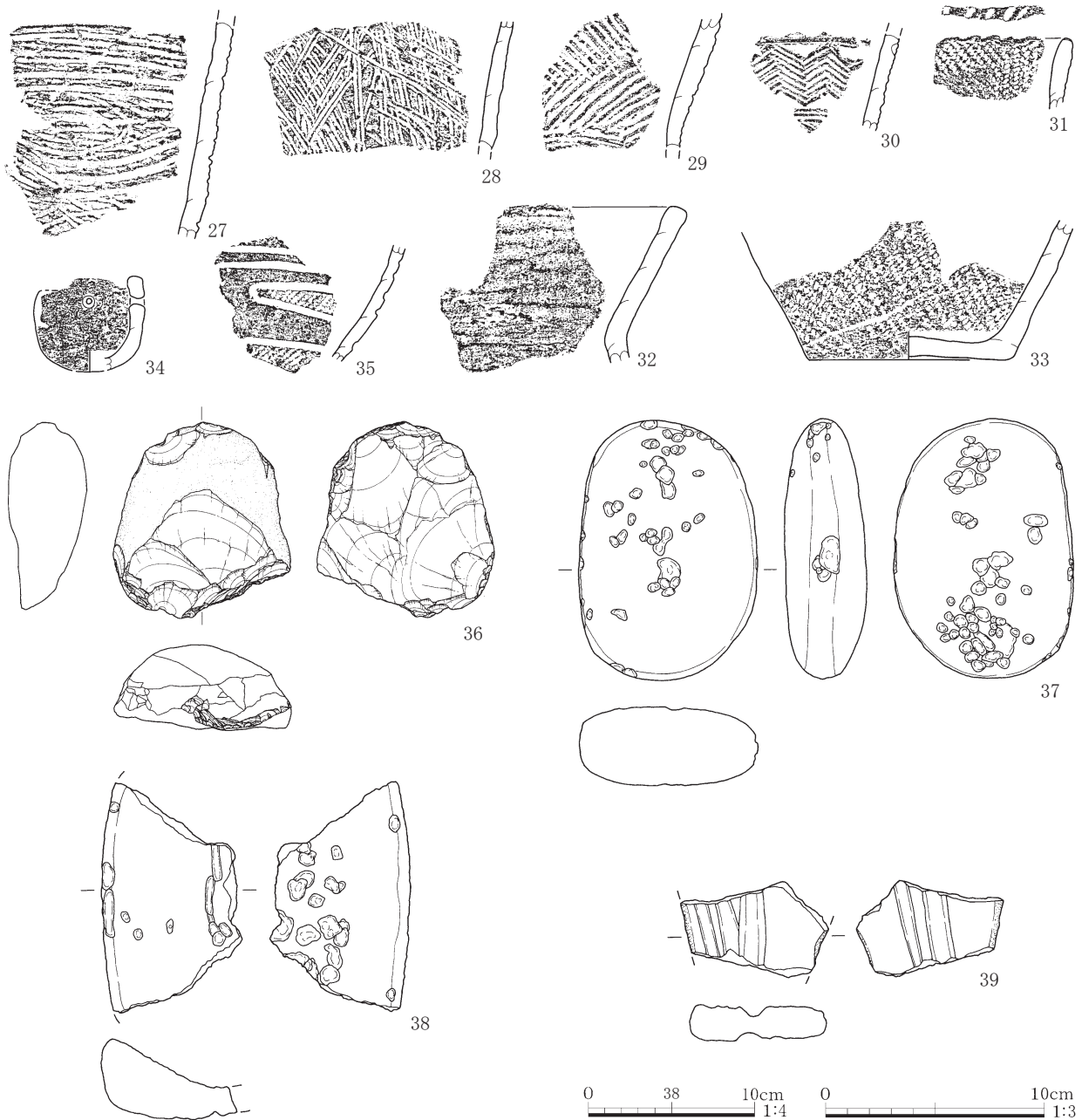


第164図 7a・7b・7c・7d号住居跡出土遺物（1）





第 165 图 7a・7b・7c・7d号住居跡出土遺物 (2)



第166図 7a・7b・7c・7d号住居跡出土遺物(3)

7号住居跡出土遺物観察表(1)

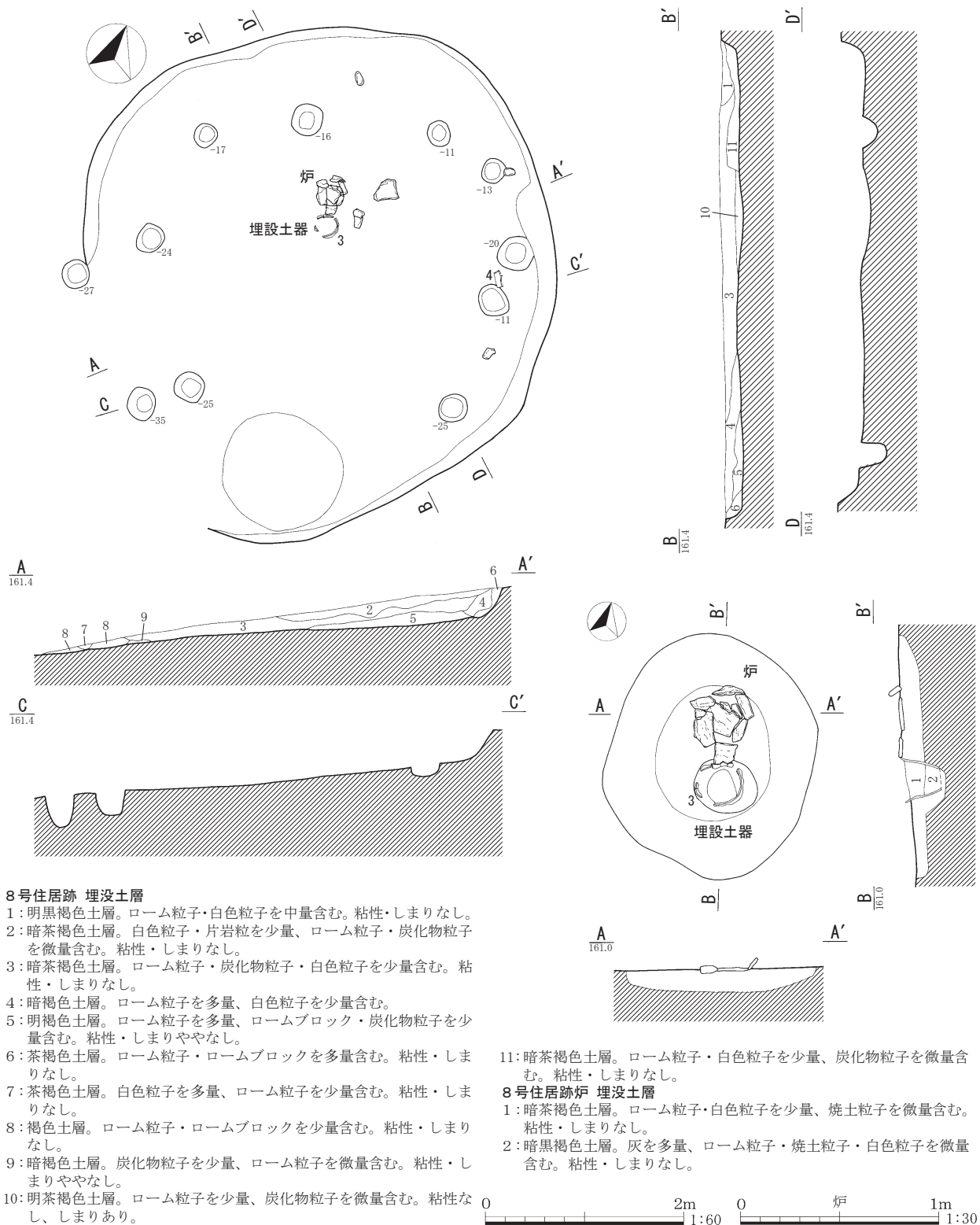
1	縄紋土器 深鉢	C. 内外面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位条痕紋。内面、斜位条痕紋。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 胴部片。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋(半截竹管状工具)→斜縄紋(RL)。内面、斜位条痕紋。D. 片岩・角閃石・繊維。E. 内-灰黄褐色。外-橙色。F. 胴部片。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR)→単沈線紋による弧線文・幾何学文→交点に円文(軟軸絡条体圧痕紋)。内面、斜位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい黄橙・黒色。F. 口縁・胴部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節平行沈線紋による区画・蕨手文。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-暗灰黄色。F. 口縁→胴部片。G. 外面の器面荒れが著しい。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(口縁部の下位のみ)→平行沈線紋(内皮痕残存)による区画・鋸歯文等。口唇部に小突起。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(LR)・多段ループ紋→条線紋(4条1対)による円文等→貼付紋。口唇部に臼歯状突起。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、コンパス紋(内皮痕残存)→貼付紋。内面、丁寧な縦位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。

## 7号住居跡出土遺物観察表(2)

9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)→コンパス紋(内皮痕残存)。内面、丁寧なナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 胴部片。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL、前々段3条)→爪形紋による区画。内面、丁寧な横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい橙色。外-明赤褐色。F. 口縁部片。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、閉端環付羽状縄紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。
12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-橙色。外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL+1、付加条1種)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部片。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL+5R、付加条2種)。内面、ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。
15	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、多段ループ紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-暗褐色。外-にぶい褐色。F. 胴部完形。
16	縄紋土器 深鉢	C. 外面、異方向縄紋(RL)。内面、斜位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 胴部片。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RL・LR、幅狭等間隔施紋)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-橙色。F. 胴部片。
18	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)。内面、丁寧な横位ナデ。D. チャート・片岩・角閃石・繊維。E. 内-明黄褐色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。
19	縄紋土器 深鉢	C. 外面、結節を伴う羽状縄紋(L)。内面、縦位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい褐色。F. 胴部片。
20	縄紋土器 深鉢	C. 外面、羽状縄紋(RLR-2L・LRL-2R)。内面、斜位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 胴部片。
21	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋→ナデ。内面、横位ナデ。D. 片岩・繊維。E. 内-にぶい褐色。外-明赤褐色。F. 口縁部片。
22	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(RL)→平行沈線紋(多截竹管状工具の内皮痕残存)による区画・米字文→縦位区画上に円紋。内面、斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内-橙色。外-にぶい褐色。F. 胴部片。
23	縄紋土器 深鉢	A. 口径27.5。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、口縁部に横位ミガキ、胴部に斜位ミガキ。D. 片岩。E. 内-にぶい褐色。外-褐色。F. 口縁～胴上半部ほぼ完形。
24	縄紋土器 深鉢	A. 口径(23.3)。C. 外面、結節を伴う斜縄紋(LR)→爪形紋による区画・波状文。口唇部に3個1対の小突起。内面、横位ミガキ。D. 特になし。E. 内外-明黄褐色。F. 口縁部1/4。G. K9G出土遺物と接合。
25	縄紋土器 深鉢	C. 外面、爪形紋・刺突列による区画。口唇部に押捺。内面、横位ナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部片。
26	縄紋土器 深鉢	C. 外面、低平なキザミ付浮線紋。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。
27	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(L)→平行沈線紋による区画・入組文。内面、縦位ナデ。D. 片岩。E. 内-明赤褐色。外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。
28	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜格子状集合沈線紋。内面、横位ナデ。D. 角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 胴部片。
29	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位・羽状集合沈線紋。内面、縦位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄褐色。外-褐色。F. 胴部片。
30	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位・鋸歯状密接平行沈線紋→三角印刻紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-灰黄褐色。外-褐色。F. 胴部片。
31	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)。口唇部にキザミ。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-褐色。外-明赤褐色。F. 口縁部片。
32	縄紋土器 深鉢	C. 外面、粗い横位ナデ。内面、横位ナデ・工具痕。D. 片岩。E. 内外-褐色。F. 口縁部片。
33	縄紋土器 深鉢	A. 底径8.9。C. 外面、斜縄紋(RL)。内面、横位ナデ。底面、ナデ。D. 角閃石。E. 内-浅黄褐色。外-明黄褐色。F. 底部完形。
34	縄紋土器 ミニチュア土器	A. 口径(4.6)。器高(4.2)。C. 外面、ナデ。口唇部に突起。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内外-褐色。F. 口縁～胴部1/2。G. 口縁部に穿孔。
35	弥生土器 浅鉢	C. 外面、単沈線紋による区画・変形工字文、磨消縄紋(LR)。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内外-褐色。F. 胴部片。
36	石器 礫器	A. 長8.9。幅8.1。厚4.0。重291.4。C. 割礫の一側縁に急角度な片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 刃部周辺に微細剥離痕。
37	石器 凹石	A. 長11.8。幅8.2。厚3.8。重542.1。D. 砂岩。F. 完形。G. 楕円形。表・裏面は磨耗痕や小さな敲打痕が顕著。左側面は敲・磨痕により平滑化。磨→凹。
38	石器 石皿	A. 長[13.9]。幅[8.6]。厚4.9。重493.3。C. 全体に整形が施され縁部をもつ。D. 安山岩。F. 破片。G. 皿面は使用により播鉢状に深く窪む。裏面には不整形な凹穴多数。
39	石器 砥石	A. 長[4.4]。幅[6.7]。厚1.7。重43.8。D. 砂岩。F. 破片。G. 有溝砥石。板状礫の表・裏面に浅い溝状の砥面がみられる。

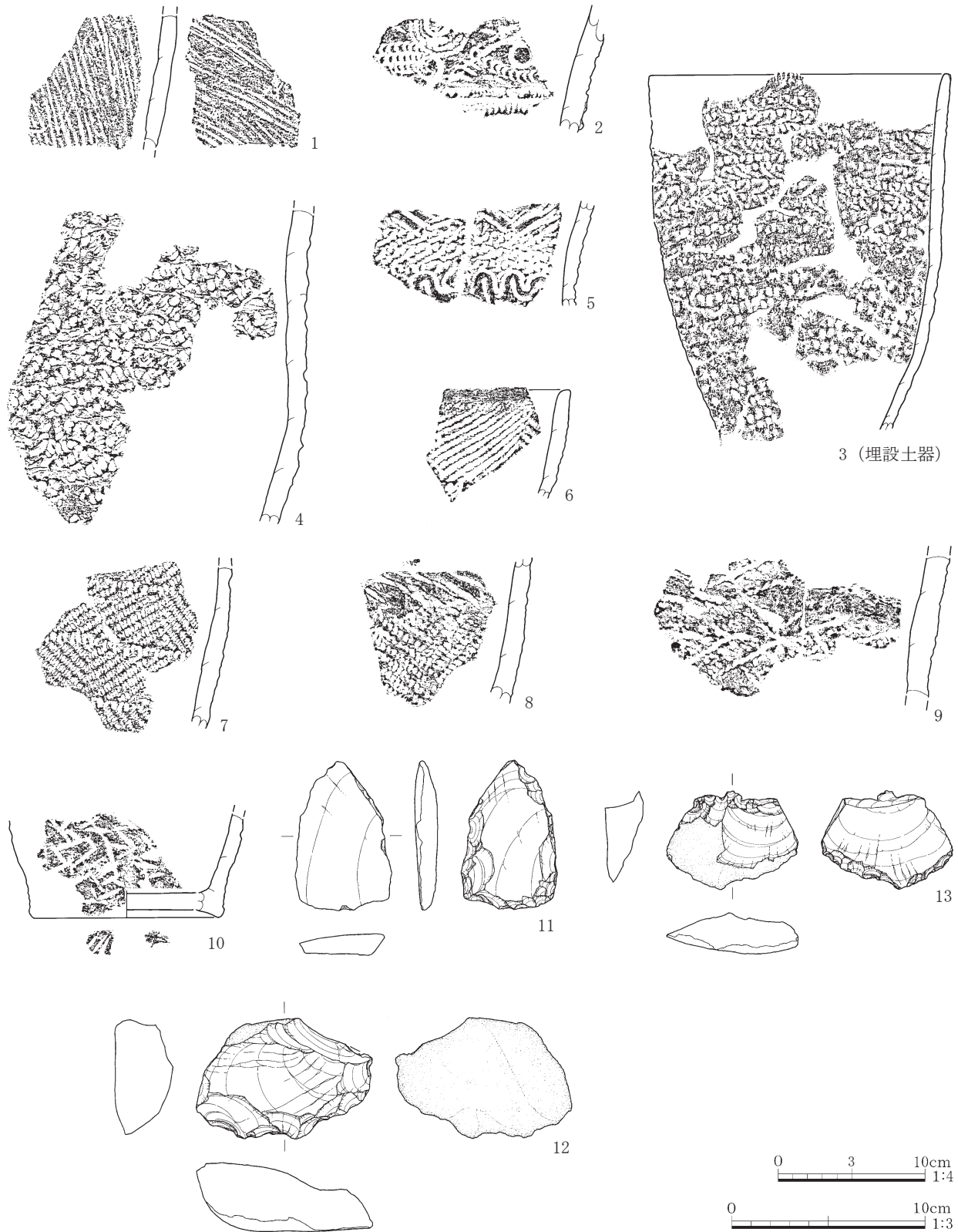
8号住居跡 (第167・168図、写真図版19・60)

位置：調査区の南西側、N5・6、O5・6グリッドに所在する。26号土坑と重複し、本遺構が古い。  
 形態：西側は地形の傾斜に沿って消失していた。平面は不整な隅丸方形を呈するものと推測される。  
 主軸方位：N-35°-W。規模：南北軸長5.04m、東西軸長4.74m。炉：コ字状石囲炉が竪穴の中央やや北寄りに付設される。炉の石囲は底面にも及ぶ。また、焚口に埋設土器が伴う。柱穴：11基。



第167図 8号住居跡

小穴が壁際に巡る。主柱穴の判別は難しい。**埋設土器**：炉の焚口に底部が欠損する深鉢(第168図3)が正位の状態で検出された。**遺物**：少量の遺物が堅穴の下層に散在する。早期後葉ないし末葉、前期初頭～前葉・後葉の縄紋土器片が認められ、二ツ木式が多くを占める。埋設土器も二ツ木式に比定される。**時期**：埋設土器から縄紋時代前期初頭二ツ木式期に比定される。(高橋)



第168図 8号住居跡出土遺物

8号住居跡出土遺物観察表

1	縄紋土器 深鉢	C. 内外面、斜位貝殻条痕紋。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、キザミ付隆帯で区画。捺糸側面圧痕(R・L・R)による蕨手文→円紋→結節平行沈線紋→刺切紋。内面、横・斜位ナデ。D. 繊維。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 口縁部片。
3	縄紋土器 深鉢	A. 口径(20.8)。C. 外面、多段ループ紋(RL・LR)→口唇下に刺切紋。内面、口縁部に丁寧な横位ナデ、胴部に縦位ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁～胴部2/3。H. 埋設土器。
4	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、多段ループ紋(RL・LR)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 胴部片。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋(LR)→平行沈線紋による鋸歯文・コンパス紋(いずれも内皮痕残存)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-黒褐色。外-にぶい黄褐色。F. 胴部片。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、閉端環付羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-明黄褐色。外-橙色。F. 口縁部片。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、閉端環付羽状縄紋(RL・LR、前々段3条)。内面、ナデ。D. 繊維。E. 内-橙色。外-明赤褐色。F. 胴部片。
8	縄紋土器 深鉢	B. 追加成形。C. 外面、羽状縄紋(RL・LR・RR)。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 胴部片。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜縄紋(LR + 2R、付加条3種)。内面、縦位ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 胴部片。
10	縄紋土器 深鉢	A. 底径(9.4)。C. 外面、羽状の刺切紋。内面、ナデ。底面、刺切紋。D. 繊維。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 底部片。
11	石器 打製石斧	A. 長7.7。幅5.0。厚1.3。重51.5。C. 剥片の周縁に片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 撥形。
12	石器 礫器	A. 長6.2。幅9.1。厚3.6。重185.2。C. 割礫の一側縁に急角度な片面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。
13	石器 スクレイパー	A. 長5.1。幅6.9。厚2.2。重54.8。C. 割礫の縁辺に片面調整。D. 頁岩。F. 完形。G. 偏刃。刃部に微細剥離痕。

## 2. 溝跡

### 1号溝跡 (第169図)

**位置**：調査区の中央から北東側、E 14、F 13・14、G 12・13、H 11・12、I 10・11 グリッドに所在する。土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。**形態**：等高線に直交し、直線的に走行する。断面形は弧状を呈する。底面は傾斜しており、23.5 m間で南西側が4.3 mほど低くなる。**主軸方位**：N - 41° - E。**規模**：幅0.57 ~ 1.14 m、深さ11 ~ 48cm。**遺物**：未検出。(高橋)

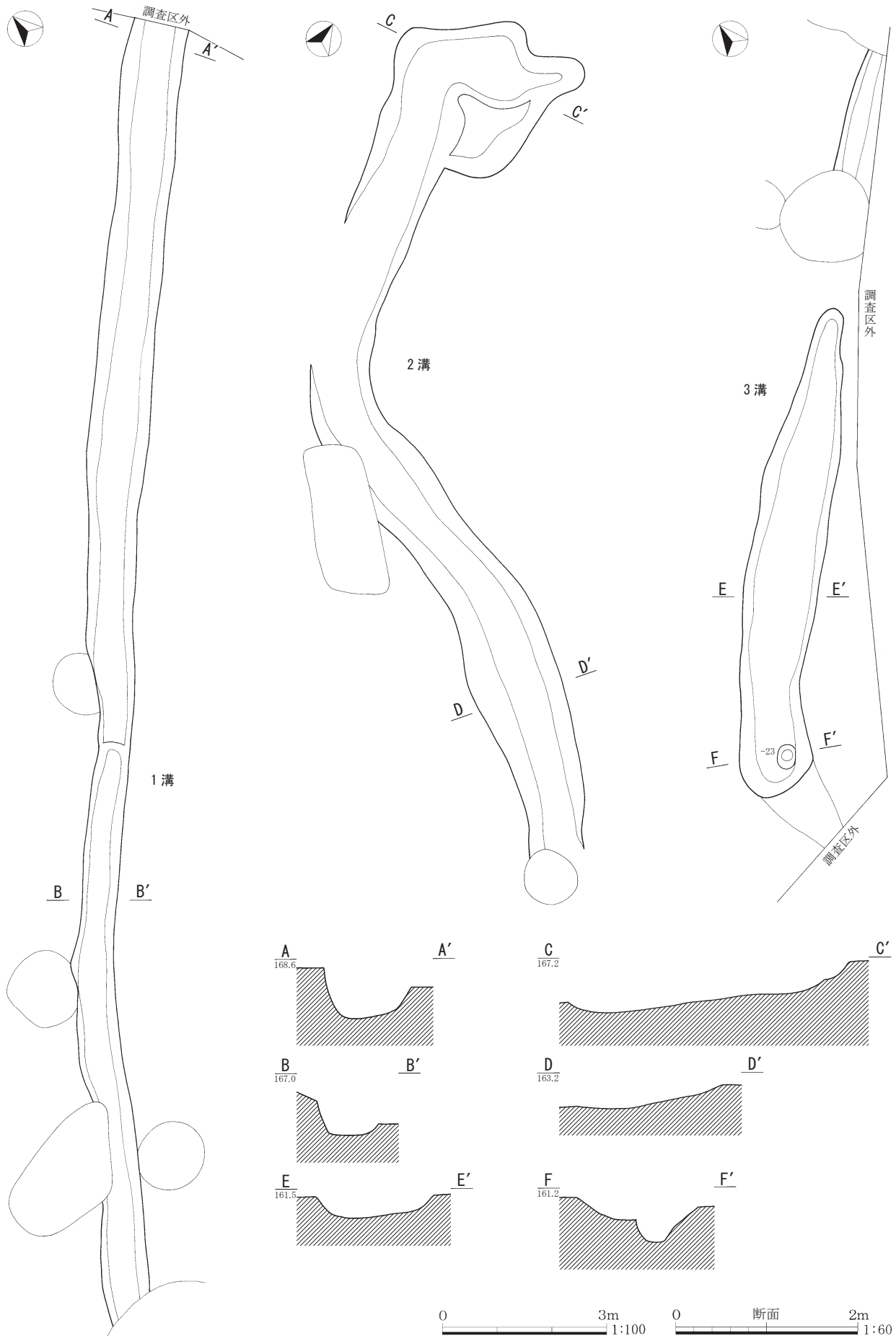
### 2号溝跡 (第169図)

**位置**：調査区の中央から北西側、E 4・5、F 4・5、G 4 ~ 6 グリッドに所在する。土坑等と重複するが、新旧関係は不明である。**形態**：等高線に沿って走行し、彎曲する。北西端は不整な掘り込みに接続している。南東側には走行方向が近似する溝跡が見受けられ、接続する可能性が高い。断面形は浅い弧状を呈し、地形に沿って南西壁の立ち上がりが低くなる。底面はやや傾斜しており、15.3 m間で北西側が0.9 mほど低くなる。**主軸方位**：N - 12° ~ 70° - W。**規模**：幅0.98 ~ 1.62 m、深さ18 ~ 25cm。**遺物**：未検出。(高橋)

### 3号溝跡 (第169図、写真図版19)

**位置**：調査区の南側、M 9、N 7・8、O 7・8 グリッドに所在する。土坑等と重複するが新旧関係は不明である。**形態**：等高線に直交し、直線的に走行する。断面形は浅い弧状を呈する。底面は傾斜しており、13.8 m間で南西側が1.3 mほど低くなる。**主軸方位**：N - 45° - E。**規模**：幅0.48 ~ 1.35 m、深さ7 ~ 23cm。**遺物**：未検出。(高橋)

南飯盛遺跡



第 169 図 溝跡

### 3. 土坑 (第 151・170・171 図、写真図版 19・60)

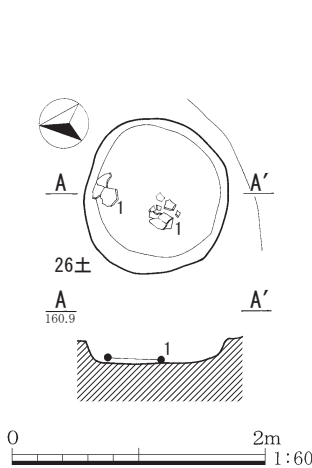
26 基を確認した (1 ~ 26 号土坑)。分布は調査区全体に広がるが、中央から南東側に多く、住居跡の近辺に集中する。平面形は円形・楕円形・隅丸長方形を呈し、円形が大多数を占める。長軸長の平均は 151cm で、最大 264cm (23 号土坑)・最小 89cm (1 号土坑) を測る。断面形は逆台形を呈するものが多い。深さの平均は 28cm で、最大 54cm (24 号土坑)・最小 9cm (7 号土坑) を測る。

出土遺物として 26 号土坑で縄紋土器(第 171 図 1)が検出されている。口縁部から胴部が残る深鉢で、数片に分かれて出土した。縄紋時代前期後葉の諸磯 a 式に比定される。包含層出土遺物の状況も参照すると、諸磯 a 式期の分布は諸磯 b・c 式の遺構より標高が低い位置に展開する傾向が見られる。なお、この事例以外の伴出資料は少なく、24 号土坑で 1 点の剥片が出土したのみであった。(高橋)

土坑計測表

単位：cm

遺構名	位置	平面形態	主軸方位	長軸	短軸	深さ
1 号土坑	I14G	円形	—	89	86	24
2 号土坑	I14G	円形	—	91	83	21
3 号土坑	J13G	円形	—	165	158	40
4 号土坑	J13G	円形	—	124	104	14
5 号土坑	J13G	円形	—	137	128	20
6 号土坑	K13G	円形	—	139	130	47
7 号土坑	J13G	円形	—	142	125	9
8 号土坑	K14G	円形	—	193	169	16
9 号土坑	H11G	円形	—	192	185	28
10 号土坑	H10G	円形	—	101	98	37
11 号土坑	I10G	円形	—	119	117	22
12 号土坑	L12G	円形	—	107	104	24
13 号土坑	L10G	円形	—	136	122	24
14 号土坑	L9G	隅丸長方形	N - 82° - E	258	164	35
15 号土坑	F10G	円形	—	176	165	36
16 号土坑	E8G	円形	—	160	140	23
17 号土坑	E6G	円形	—	134	100	23
18 号土坑	E6G	隅丸長方形	N - 64° - E	170	99	19
19 号土坑	H7G	円形	—	129	124	32
20 号土坑	I9G	円形	—	150	146	19
21 号土坑	I8G	円形	—	147	141	49
22 号土坑	M7G	円形	—	211	196	36
23 号土坑	D7G	隅丸長方形	N - 60° - W	264	100	38
24 号土坑	I10G	隅丸長方形	N - 74° - E	—	155	54
25 号土坑	K9G	楕円形	N - 85° - E	118	111	22
26 号土坑	O5G	楕円形	N - 86° - E	122	113	20



第 170 図 土坑



第 171 図 土坑出土遺物

土坑出土遺物観察表

26 土 1	縄紋土器 深鉢	A. 口径 (31.6)。C. 外面、斜縄紋 (RL)。内面、口縁部に横位ナデ、胴部に斜位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい赤褐色。外-赤褐色。F. 口縁~胴部 1/2。
-----------	------------	---------------------------------------------------------------------------------------

### 4. 遺構外出土遺物 (第 172・173 図、写真図版 61)

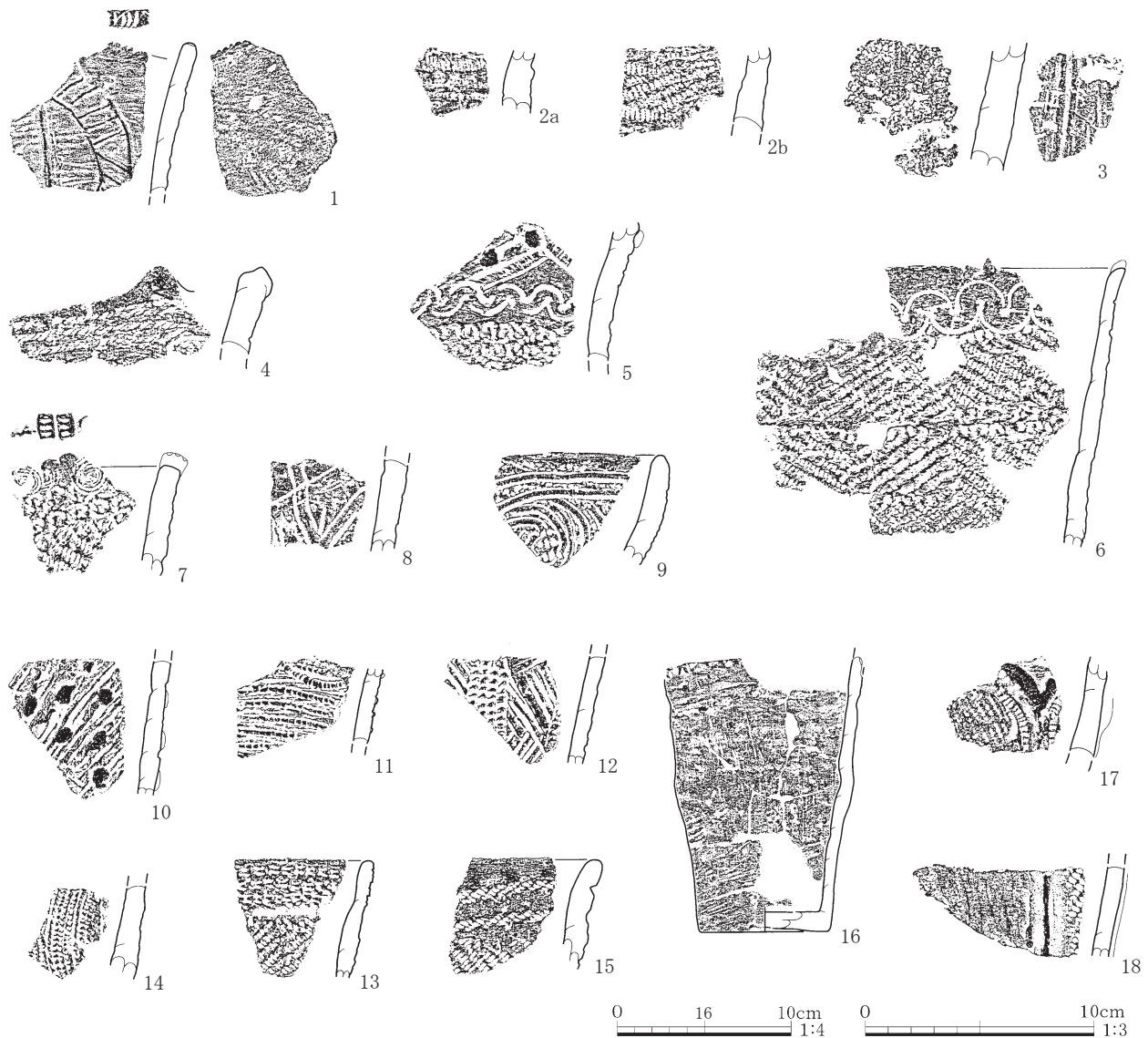
表土層・遺物包含層・攪乱内等から出土した遺物を対象とする。縄紋土器・石器、土師器・須恵器および近世の煙管や古銭が検出された。これらの多くは遺物包含層から出土している。



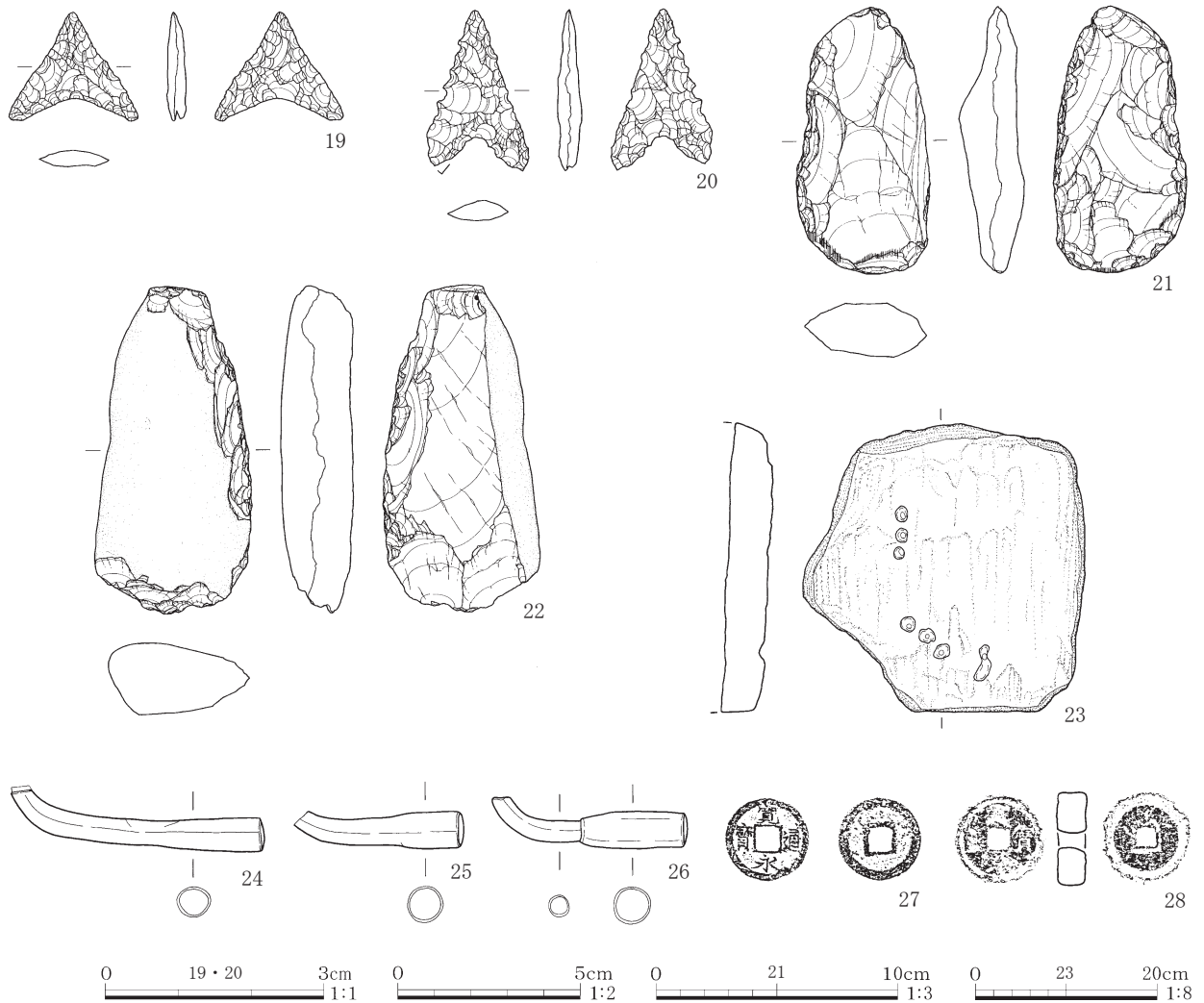
縄紋土器は早期後葉～前期末葉、中期初頭・後葉の破片資料が認められる。遺構の密度が高い調査区の南東側に多い。ただし、遺構の希薄なH8グリッド周辺にも小規模な集中域が認められた。細別型式の判明するものとして、野島式（第172・173図1）、絡条体圧痕紋系土器（2）、縄紋条痕紋系土器（3）、花積下層式（4）、二ツ木式、関山Ⅰ式（5・6）、関山Ⅱ式（7）、黒浜式（8）、諸磯a式、諸磯b式（9）、諸磯c式（10～12）、十三菩提式（13・14）、栗島台式（15）、五領ヶ台式（17）、加曾利EⅣ式（18）が挙げられる。

石器は、石鏃（19・20）、打製石斧（21）、礫器、スクレイパー類（22）、リタッチドフレイク、凹石、多孔石（23）、石核、剥片が認められる。剥片が多く、スクレイパー類やリタッチドフレイクが続く。石材はホルンフェルスが傑出し、頁岩や小型の剥片石器に多用される黒曜石・チャートもやや多い。

近世の遺物も散見され、その分布は調査区の北東側（D～F・9～11グリッド）に偏っている。検出された煙管（24～26）や古銭（27・28）は供物として使用される傾向にあり、墓域との関係が窺われる。分布域には平面が隅丸方形を呈する土坑状の掘り込みがまとまっており、土壇墓の可能性を考慮する必要がある。（高橋）



第172図 遺構外出土遺物（1）



第 173 図 遺構外出土遺物 (2)

遺構外出土遺物観察表 (1)

1	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位条痕紋→微隆起線紋。口唇部にキザミ。内面、斜位条痕紋→ナデ。D. チャート・角閃石・繊維。E. 内外-黄灰色。F. 口縁部片。H. 05G。
2	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋 (RL) →絡条体圧痕紋 (r の撚糸を L 卷)。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内外-にぶい橙色。F. 胴部片。H. L14G。
3	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縦位条痕紋→掠れた斜縄紋 (LR)。内面、縦位貝殻条痕紋。D. 繊維。E. 内-暗褐色。外-明赤褐色。F. 胴部片。H. K13G。
4	縄紋土器 深鉢	C. 外面、撚糸側面圧痕紋 (R)。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-黒褐色。外-にぶい黄橙色。F. 口縁部片。H. L14G。
5	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口縁部にキザミを伴う平行沈線紋 (内皮痕残存) による鋸歯文→コンパス紋 (内皮痕残存) →貼付紋。胴部に多段ループ紋 (RL・LR)。内面、ミガキ。D. 繊維。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁~胴部片。H. L14G。
6	縄紋土器 深鉢	C. 外面、閉端環付羽状縄紋 (RL・LR、前々段多条) →口唇下の無紋部にコンパス紋 (幅広の半截竹管状工具)。口唇部に小突起。内面、横位ナデ。D. 繊維。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁~胴部片。H. I11G。
7	縄紋土器 深鉢	C. 外面、多段ループ紋 (RL・LR) →口唇下の無紋部に条線紋 (4 条 1 対) による渦巻文。口唇部に白歯状突起。内面、横位ミガキ。D. 繊維。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. I10G。
8	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋による斜格子文。内面、ナデ。D. 角閃石・繊維。E. 内-にぶい褐色。外-暗褐色。F. 胴部片。H. I10G。
9	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋→平行沈線紋 (内皮痕残存) による区画・渦巻文。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-にぶい黄橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. I7G。
10	縄紋土器 深鉢	C. 外面、斜位集合沈線紋→ボタン状貼付紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-灰黄褐色。外-褐色。F. 胴部片。H. J8G。
11	縄紋土器 深鉢	C. 外面、横位集合沈線紋→結節浮線紋。内面、横位ミガキ。D. 片岩。E. 内-明赤褐色。外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。H. I8G。

遺構外出土遺物観察表（2）

12	縄紋土器 深鉢	C. 外面、集合沈線紋→結節平行沈線紋。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。H. D10G。
13	縄紋土器 深鉢	C. 外面、口唇下を凹線で区画→結束羽状縄紋(RL・LR)→区画内に結節平行沈線紋文。内面、横位ナデ。D. 片岩。E. 内-灰黄褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. I7G。
14	縄紋土器 深鉢	C. 外面、平行沈線紋(内皮痕残存)→結節沈線紋(同一工具の外側カ)→印刻紋。内面、ナデ。D. 特になし。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。H. J13G。
15	縄紋土器 深鉢	C. 外面、縄紋(RL)。口唇下の無紋部に撚糸側面圧痕紋(RL)。内面、丁寧な横位ナデ。D. 特になし。E. 内-黒色。外-橙色。F. 口縁部片。H. D11G。
16	縄紋土器 深鉢	A. 底径(7.4)。C. 外面、粗い縦位ナデ。内面、粗い横位ナデ。底面、ナデ。D. 片岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 胴下半~底部1/3。G. 輪積部分にキザミ。H. J13G。
17	縄紋土器 深鉢	C. 外面、隆帯による区画→縄紋(RL)充填→隆帯脇に角押紋。内面、横位ナデ。D. 雲母。E. 内-にぶい黄褐色。外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. I8G。
18	縄紋土器 深鉢	C. 外面、微隆起帯による区画→縄紋(RL)充填。内面、横位ミガキ。D. 角閃石。E. 内-淡黄色。外-にぶい黄褐色。F. 胴部片。H. I8G。
19	石器 石鏃	A. 長1.5。幅1.8。厚0.3。重0.4。D. チャート。F. 完形。G. 凹基無茎。やや長脚。H. F9G。
20	石器 石鏃	A. 長[2.2]。幅[1.4]。厚0.4。重0.6。D. 黒曜石。F. 片脚端部欠損。G. 凹基無茎。
21	石器 打製石斧	A. 長11.0。幅5.6。厚2.7。重158.9。C. 割礫の側縁部に半両面調整。D. ホルンフェルス。F. 完形。G. 短冊形。刃部周辺に磨耗痕。H. H5G。
22	石器 スクレイパー	A. 長13.5。幅6.6。厚3.1。重371.0。C. 割礫の三側縁に両面調整。D. 緑色岩類。F. 完形。G. 磨製石斧の未成品カ。H. L14G。
23	石器 多孔石	A. 長31.6。幅30.9。厚[5.7]。重8,190.0。D. 片岩。F. 裏面欠損。G. 大形板状礫の表面に漏斗状の凹穴が7穴。H. H8G。
24	煙管	A. 長7.0。幅1.0。厚0.1。重6.3。D. 銅製。F. 雁首のみ、火皿欠損。H. D9G。
25	煙管	A. 長4.6。幅1.0。厚0.1。重4.0。D. 真鍮製。F. 雁首のみ、火皿欠損。H. D11G。
26	煙管	A. 長5.3。幅1.1。厚0.1。重7.2。D. 真鍮製。F. 雁首のみ、火皿欠損。H. F9G。
27	古銭	A. 径2.2。厚0.1。重2.9。D. 銅製。F. 完形。G. 「寛永通宝」。H. D11G。
28	古銭 型カ	A. 径2.6。厚0.7。重36.1。D. 鉛カ。F. 完形。G. 「寛永通宝」。文字反転。H. E11G。

石器組成表（器種別点数）

	石鏃	石錐	石匙	楔形 石器	打製 石斧	礫器	三角 錐形	Sc	RF	磨石 類	石皿	敲石	砥石	台石	多孔 石	磨製 石斧	石核	剥片	棒状 礫類	合計
1住	2							3							1			13		19
3住								1	1									1		3
4住								1	1									1		3
5住	1																	1		2
6住								1	2								4	5		12
7住						1		4	1	1	1		1					14		23
8住					1	1		2										3		7
24土																		1		1
遺構外	1				3	1		5	10	2			1		1		1	19		44
合計	4	0	0	0	4	3	0	17	15	3	1	0	2	0	2	0	5	58	0	114

Sc: スクレイパー RF: リタッチドフレイク

石器組成表（石材別点数）

	Ob	Ch	Ban	Ag	Sh	SS	Ho	An	Di	Sc	GrR	軽石	石英	合計
1住	14	3					1			1				19
3住					1		2							3
4住	1				1		1							3
5住	1						1							2
6住	9				1		2							12
7住		6	2		2	3	9	1						23
8住					3		4							7
24土					1									1
遺構外	8	6			9	2	15	2		1	1			44
合計	33	15	2	0	18	5	35	3	0	2	1	0	0	114

Ob: 黒曜石 Ch: チャート Ban: 黒色安山岩 Ag: 瑪瑙 Sh: 頁岩 SS: 砂岩 Ho: ホルンフェルス An: 安山岩 Di: 閃緑岩 Sc: 片岩 GrR: 緑色岩類

## 第IX章 般若寺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

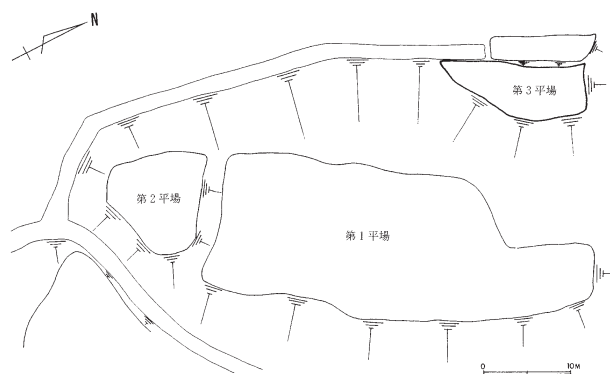
般若寺跡は山地を南北に下刻する谷戸の小支谷に面する東斜面に位置している。

般若寺跡については、『新編武蔵風土記稿』にも触れられており、すでに文化・文政年間（19世紀初頭）には廃寺であったことが知られている。この廃寺跡は、その存在が古くから知られ、瓦当面に「般若寺徳治貳年」の銘をもった軒平瓦が地元好事家に所蔵されており、創建年代（徳治2年：1307年）が知られる中世寺院として重要であるところから、今回のゴルフ場造成工事から除外し保存できるよう調整したものである。その結果、般若寺跡の寺域と推定される区域は、残存緑地帯（残地森林区域）に取り込むことによって現在も保存されているが、寺域の推定と将来の保存・活用に備えて、その一部の地点において若干の試掘調査を行った。

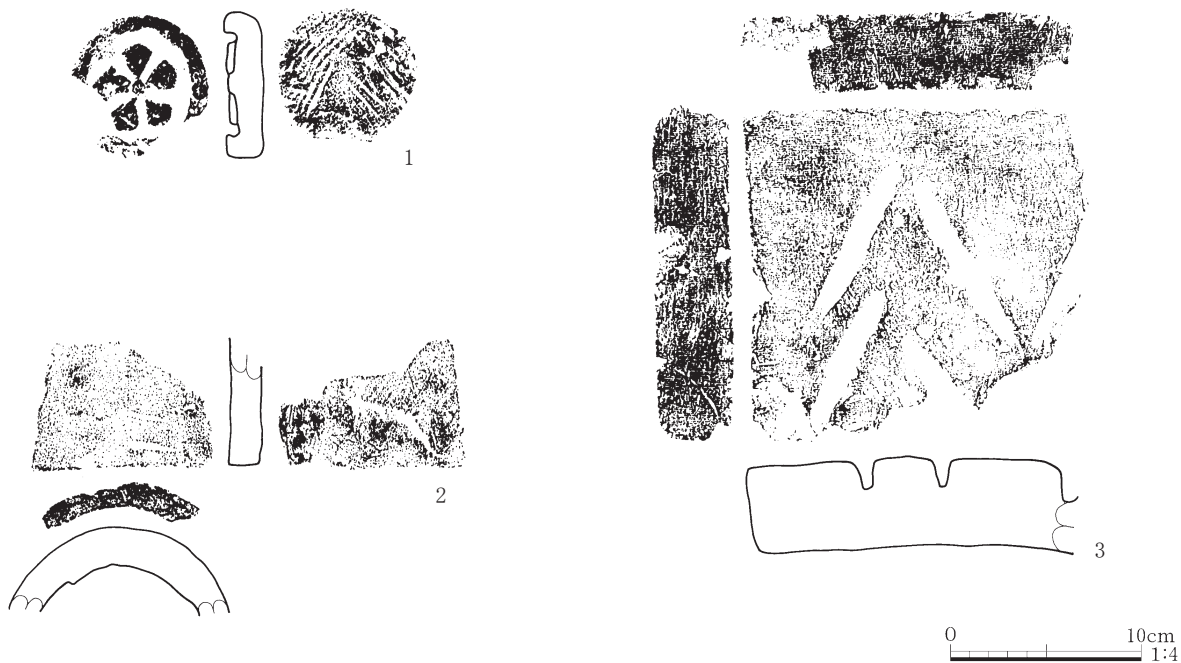
ここに掲載する遺物等は、主に試掘調査によって出土した瓦類である（第175～178図）。なお、『埼玉の中世寺院跡』では、般若寺跡の寺域内に複数の平場の存在と、その試掘等に伴う成果が報告されている（埼玉県教育委員会1992、第174～176図）が、ここでは従来掲載されていない遺物（第177・178図）を加えて報告するものである。（鈴木）

#### 【引用文献】

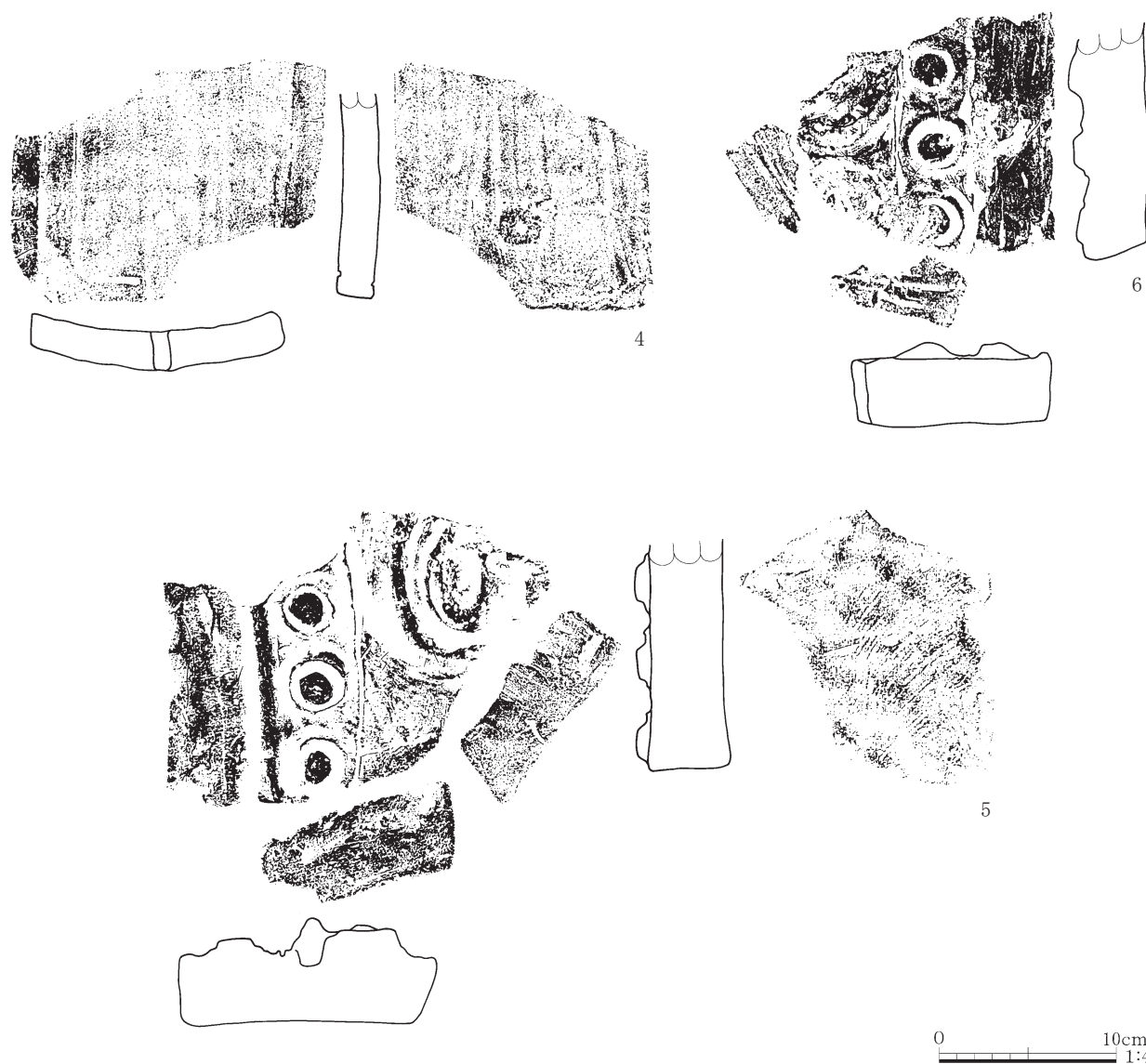
埼玉県教育委員会1992「5.児玉地区の寺院跡」『埼玉の中世寺院跡』埼玉県教育委員会・埼玉県立歴史資料館



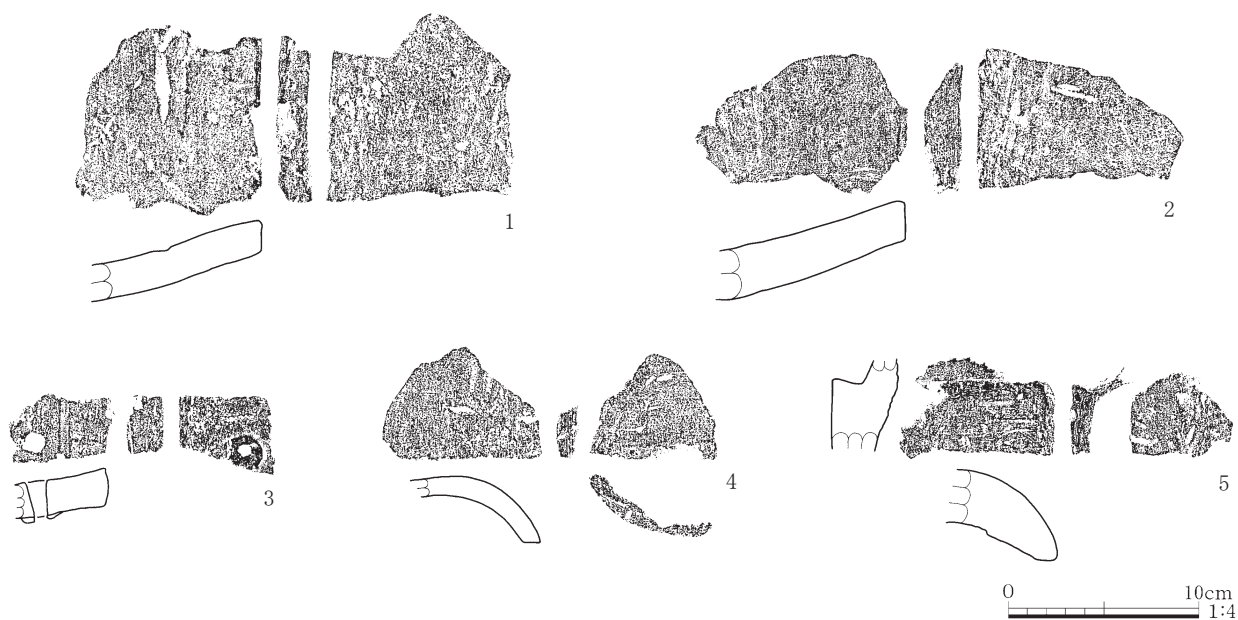
第174図 般若寺跡【埼玉県教育委員会1992】



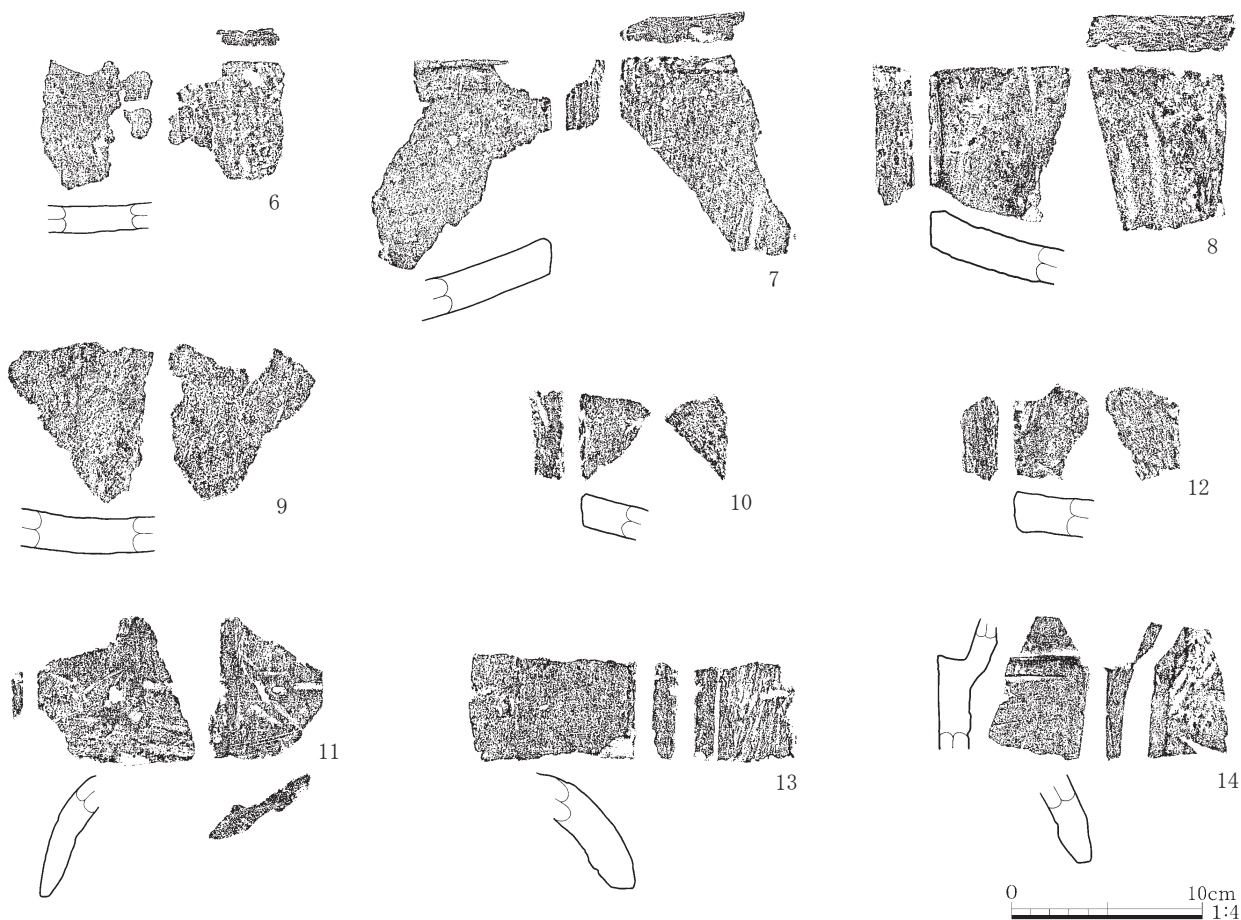
第175図 般若寺跡出土遺物（1）【埼玉県教育委員会1992】



第176図 般若寺跡出土遺物（2）【埼玉県教育委員会 1992】



第177図 般若寺瓦（1）



第 178 図 般若寺瓦 (2)

般若寺瓦観察表

1	瓦 平瓦	A. 厚 1.9. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-褐灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成だが、焼成不良。H. 中山遺跡。
2	瓦 平瓦	A. 厚 2.6. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-褐灰色。F. 破片。G. 還元焰だが、焼成不良。凹面にスス付着。H. 中山遺跡。
3	瓦 平瓦	A. 厚 2.0. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 焼成前穿孔。還元焰焼成。
4	瓦 丸瓦	A. 厚 1.1. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹面、ケズリ→ナデ。凸面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 中山遺跡。
5	瓦 丸瓦 (玉縁)	A. 厚 2.8. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-褐灰色。F. 破片。G. 還元焰だが、焼成不良。H. 中山遺跡。
6	瓦 平瓦	A. 厚 1.4. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰だが、焼成不良。H. 南飯盛遺跡 E4G。
7	瓦 平瓦	A. 厚 1.9. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰だが、焼成不良。H. 南飯盛遺跡 E5G。
8	瓦 平瓦	A. 厚 1.9. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内-灰オリーブ色。外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 南飯盛遺跡 E4G。
9	瓦 平瓦	A. 厚 1.9. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焰焼成。H. 南飯盛遺跡 E4G。
10	瓦 平瓦	A. 厚 1.7. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内-黄灰色。外-浅黄色。F. 破片。G. 還元焰だが、焼成不良。H. 南飯盛遺跡 E4G。
11	瓦 丸瓦	A. 厚 1.5. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹面、布目→ナデ。凸面、ナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。H. 南飯盛遺跡 E4G。
12	瓦 平瓦	A. 厚 2.0. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。H. 南飯盛遺跡 E4G。
13	瓦 丸瓦	A. 厚 2.1. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-灰黄色。F. 破片。G. 還元焰だが、焼成不良。H. 南飯盛遺跡 E4G。
14	瓦 丸瓦	A. 厚 1.7. B. 粘土紐積み上げ→タタキ成形。C. 凹凸面、ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-明黄褐色。F. 破片。G. 酸化焰焼成。H. 南飯盛遺跡 E4G。

## 第X章 総括

### 第1節 縄文土器について

本調査では多量の縄文土器が検出され、その所産時期は草創期後半から中期後葉にまで及ぶ。遺構の量比を反映して前期全般を主体とすると共に、早期後葉ないし末葉の土器群もまとまって出土した。ここでは各遺跡から検出された縄文土器を取りまとめ、遺跡群全体としての傾向を概観していきたい(第179～186図)。

**草創期～早期前半：**草創期は井草Ⅱ式(1)、早期前半は押型紋系土器(2)の細片が各1点検出されたのみである。いずれも胎土に片岩が含まれており、在地で作製されたことが窺われる。早期中葉は田戸下層式(3～5)が確認されている。胎土は堅緻で、崩れた文様を有する5には片岩が含まれる。**早期後半：**条痕紋系土器群に相当し、胎土に繊維を含む。早期後葉では子母口式(6)、野島式(7・8)、鶉ヶ島台式(9・10)、茅山下層式(11～13)、茅山上層式(14～18)が出揃う。子母口式は微隆起線紋と口唇下の絡条体圧痕紋が組み合わせられるもので、新段階(毒島2004)に比定される。絡条体による細かい条痕紋を持つ。野島式は主要文様に7の微隆起線紋、8の単沈線紋を使用する二者が認められる。子母口式と野島式は器壁が比較的薄く、焼成が良好である。鶉ヶ島台式期以降になると検出量は増加し始める。鶉ヶ島台式は文様帯を襷状等に分割する典型的な構成を呈する(9・10)。茅山下層式・茅山上層式には様々な文様が見受けられるなかで、斜格子文が多い。また、茅山上層式には群馬県域を主体とする横川大林類型(小川2008)が組成している(16～18)。絡条体圧痕紋・絡条体条痕紋の使用を特徴とし、粗大な片岩の混入が目につく。

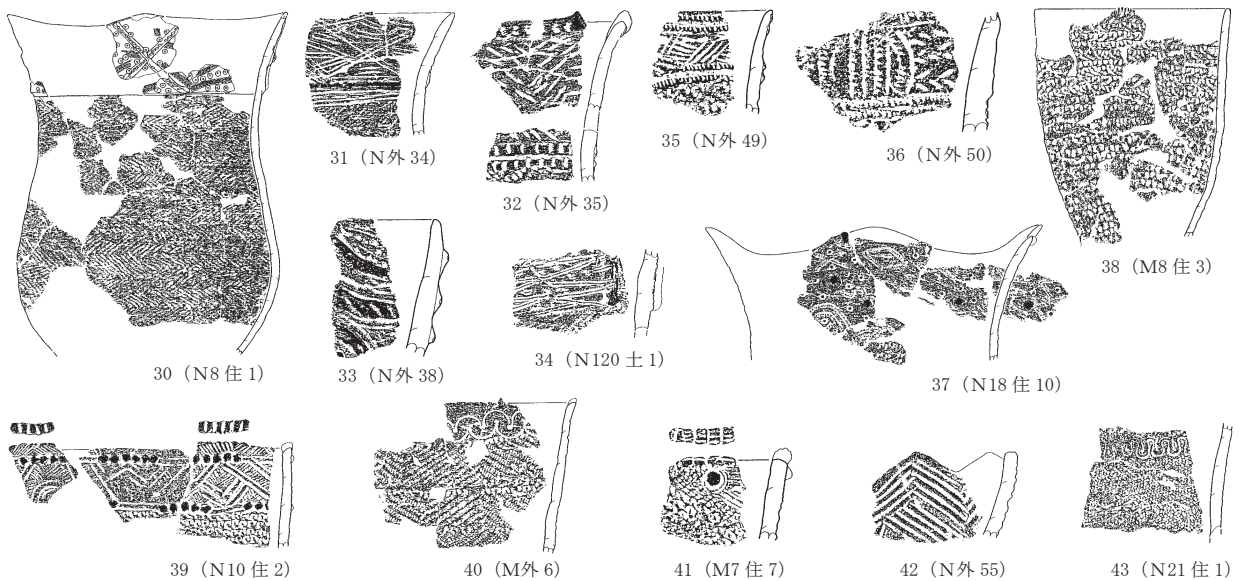
早期末葉(前期初頭に一部帰属する)では絡条体圧痕紋系土器(19～22)、打越式(23)、神ノ木台式(25)、下吉井式(26)、縄文条痕紋系土器(27～29)が認められる。絡条体圧痕紋系土器は粗大な絡条体圧痕紋(19・20)や縄文地紋(21)の使用から中部地方を主要な分布域とする土器群と考えられる。22は単沈線で弧線や幾何学的な文様を描くもので、東北南部・北関東・中部地方に散見される。ただし、交点に絡条体圧痕紋による円文を配することは特異である。27・28は内面に条痕紋、外面に縄文を施す土器群で、29には縄文の代わりに貝殻背圧痕紋が用いられている。南関東系の土器として打越式・神ノ木台式・下吉井式が確認されているものの、出土量は少ない。23は文様・調整・胎土・色調といった諸特徴が標識である打越遺跡出土の個体に酷似している。

**前期初頭：**前期前半は羽状縄文系土器群に相当し、前段階に引き続き胎土に繊維を含む。そのうち前期初頭には花積下層式(30～32)や二ツ木式(35～38)が認められる。花積下層式は撚糸側面圧痕紋・沈線紋・隆帯・円紋・刺切紋等を文様要素とし、折返状口縁を呈するものが目立つ。地紋の縄文が異方向に施文されるような古段階のものも組成するが、等間隔横帯構成の新相が多い。30等には広い口縁部文様帯や充填的な円紋の施文方法など二ツ木式との過渡的な様相が見られる<sup>1)</sup>。二ツ木式は多段ループ紋など幅狭等間隔構成の縄文地紋が志向され、貼付紋が加わる。撚糸側面圧痕紋やキザミ付隆帯を多用する古～中段階(35)、併行沈線紋を主文様要素とする新段階(36)が検出されている。また、結節平行沈線紋を主文様要素とするもの(37)も見受けられ、該当資料の多い群馬県域との関係が窺われる(高橋2008)。34は大ぶりの折返状口縁を有し、半截竹管状工具による施文が為される

N: 中山遺跡 T: 竹ノ平遺跡 Ka: 神原遺跡 Ki: 北飯盛遺跡 M: 南飯盛遺跡



第 179 図 草創期・早期の縄紋土器



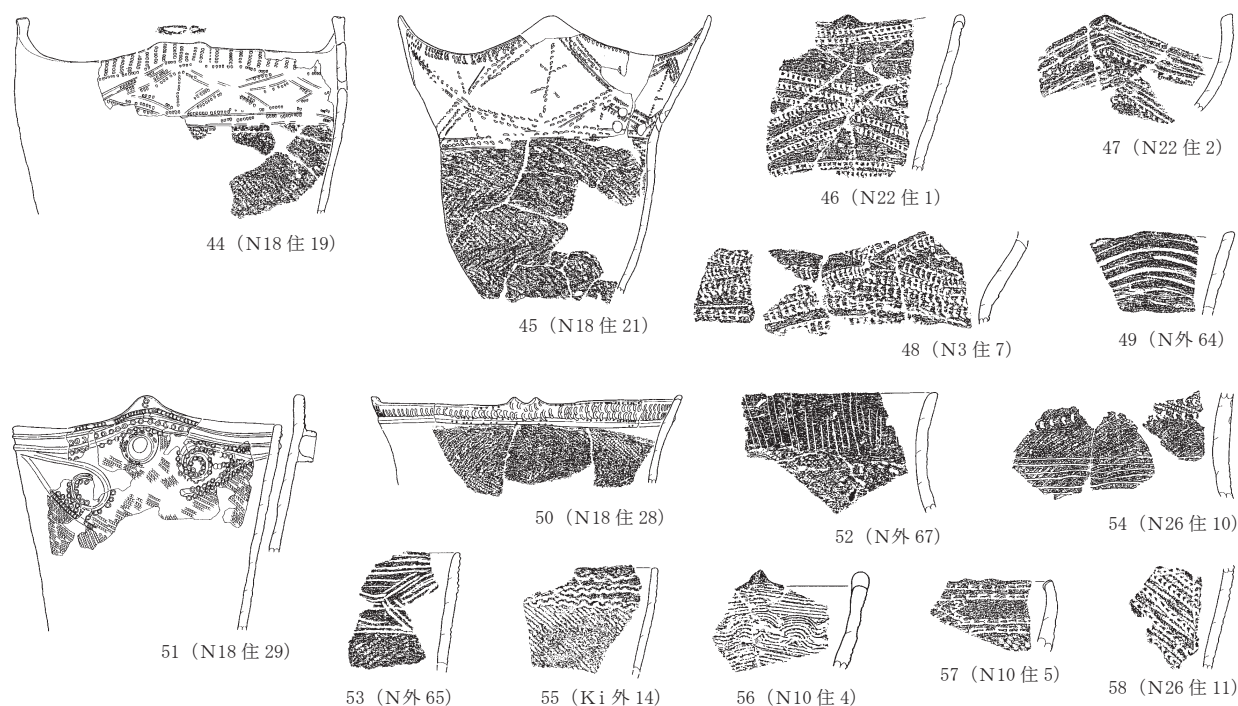
第 180 図 前期初頭・前葉の縄紋土器



もので、東北地方の影響が垣間見られる（澁谷 2006）。

**前期前葉：**主文様要素に平行沈線紋が用いられる段階で、縄紋地紋に異間隔横帯構成が採用される。関山Ⅱ式になると口縁部文様帯に地紋が及び、組紐縄紋が隆盛する。本遺跡群では、関山Ⅰ式古段階（39）・新段階（40）、関山Ⅱ式古段階（41）・新段階（42）の各階梯が少量ずつ確認された。

**前期中葉：**有尾式（44～49）と黒浜式（51～58）が認められ、胎土に片岩を含むものが散見される。古段階は中部地方から関東地方北西部を本拠とする有尾式が大勢を占め、中山遺跡 18 号住居跡において良好な一括資料が得られている（44・45・50・51）。44 は列点状刺突紋によって菱形文を描くもので、口唇下の短縦位文を含め最古段階の典型といえる。45 は大型菱形文を擁するが、施文に半截竹管状工具の刺突列が用いられている。古段階でも新しい時期以降に普及する爪形紋とは異なり、列点状刺突紋を意識した上面からの施文行為が観察される。50 は双頭の突起を有し、刺突列が配される狭い口縁部文様帯を隆帯で区画するもので、本庄市宮内上ノ原遺跡 13 号住居跡（松澤 2005）に類例が求められる（第 182 図 6）。その住居跡出土土器は文様の粗雑化（第 182 図 1～4）や口縁部文様帯の無地紋化（第 182 図 7）が見受けられる関山Ⅱ式の末期に比定され、中部地方の神ノ木式も共出している（第 182 図 8）。この時期に 50 へと連なる土器群は中部地方や東海地方の影響を受けて形成されたものと予想される。51 は注口状の突起や隆帯・結節平行沈線紋・竹管円紋による文様要素を有するものである。類例は見付けづらいが、隆帯・結節平行沈線紋・注口ないし注口状の突起は関山Ⅱ式末から黒浜式古段階に見られる要素で、先述の宮内上ノ原遺跡でも検出されている（第 182 図 1・7・9・10・12・13）。また、蕨手状の文様は関山Ⅱ式からの遺制であろう。中段階以降になると検出量は減少する。爪形紋や平行沈線紋（49）を主文様要素とする有尾式や縦位区画・コンパス紋を取り入れた黒浜式（55・56）が認められる。新段階には米字文等を有する黒浜式（58）のみが検出されており、周辺の動向に呼応して有尾式は無くなっている。



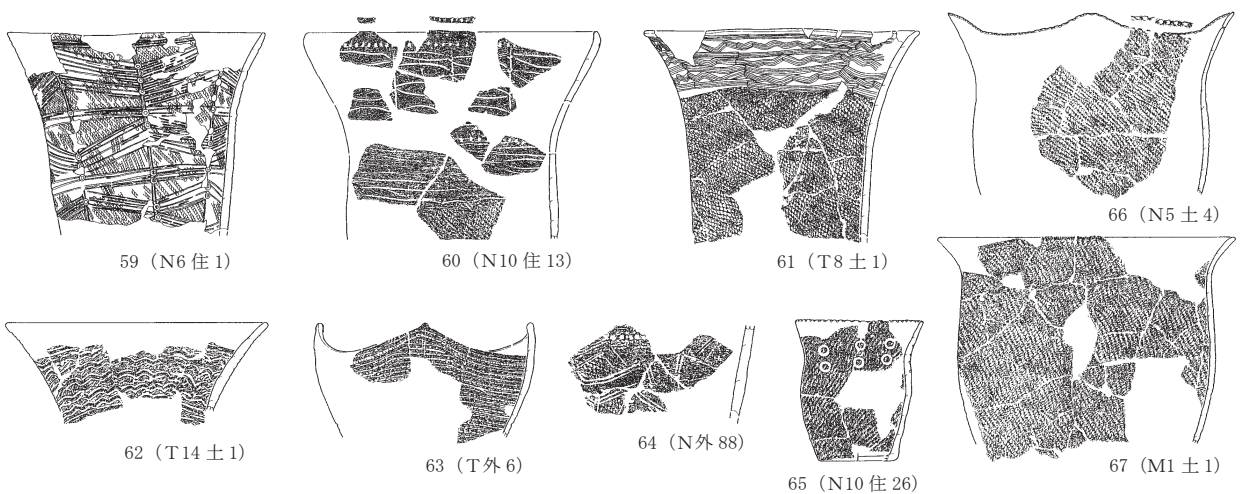
第 181 図 前期中葉の縄紋土器



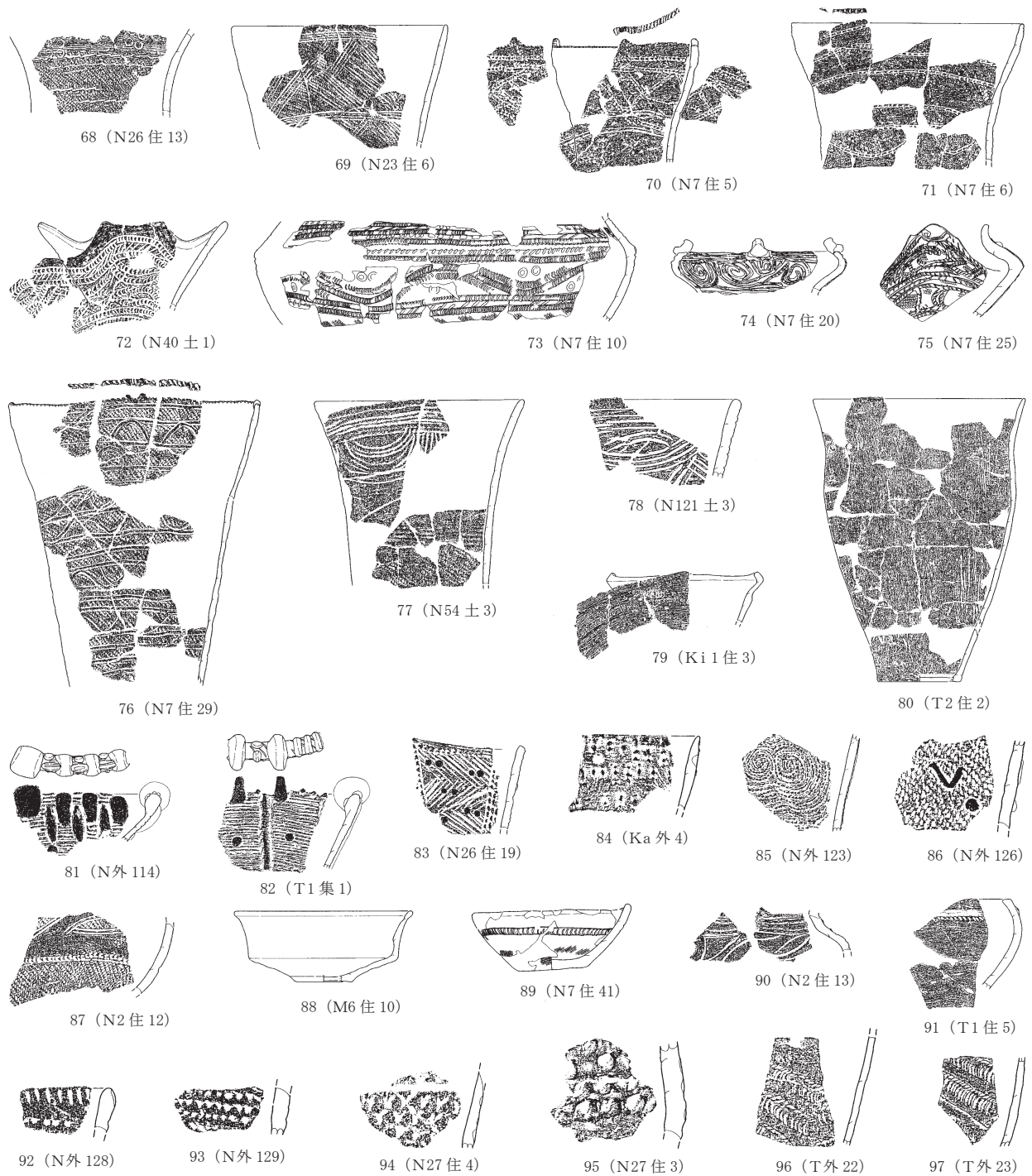
第 182 図 宮内上ノ原遺跡出土の縄文土器（前期中葉）

前期後葉：竹管紋系土器群に相当し、諸磯 a 式（59～67）・諸磯 b 式（68～80）・諸磯 c 式（81～86）が認められる。諸磯 a 式は中山遺跡 10 号住居跡、諸磯 b 式は中山遺跡 7 号住居跡で良好な一括資料が得られた。また、関西系の北白川下層Ⅱ b 式（96・97）、東関東系の浮島Ⅲ式（92・93）が組成する。94・95 は浮島式ないし興津式に比定されるものの、胎土に片岩を含む在り地製である。

諸磯 a 式の成立は前段階から連続的に辿ることができる。ただし、地紋は斜縄紋を主体とし、繊維も混入されなくなる。米字文（59）、肋骨文（60）、波状文・横位文（61～63）が用いられ、新段階には縦位区画意識の減少に伴って木葉状入組文（64）が派生する。縄紋地紋のみの個体（66・67）も



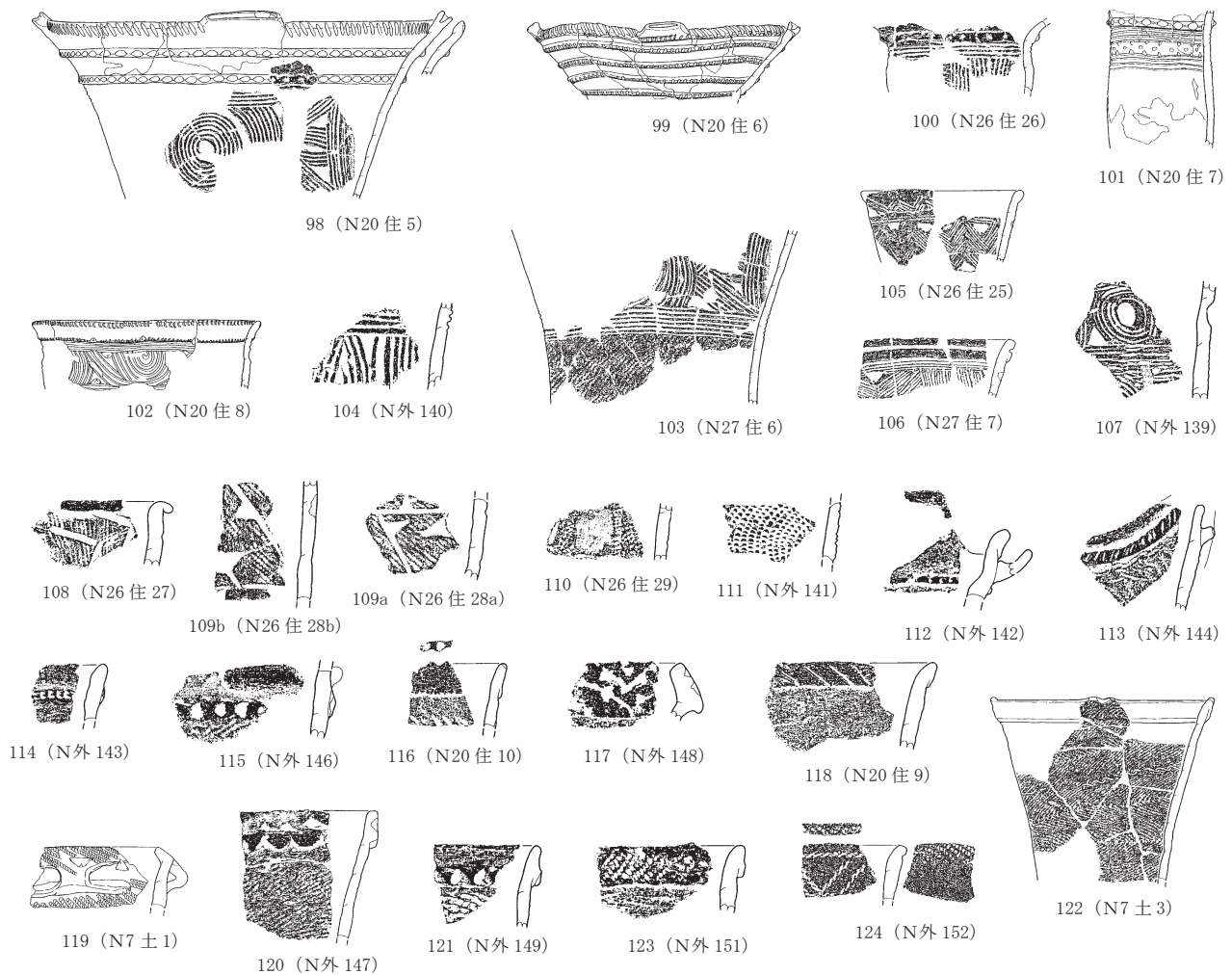
第 183 図 前期後葉の縄紋土器（1）



第184図 前期後葉の縄紋土器(2)

多い。87～89は諸磯a式に伴う浅鉢である。

諸磯b式は木葉状入組文の系譜を引継ぎ、爪形紋を主体とする古段階(72・73)、浮線紋が発達する中段階(74・75)、集合沈線化した平行沈線紋を主体とする新段階(79)に分かれる。古段階には諸磯a式を踏襲するもの(68～71)も多く、縄紋に結節を伴う事例が増える(68)。中段階は口縁部の屈曲化や浮線紋の低平化等からさらに細分することができる。また、平行沈線紋を主体とするもの(76～78)が目を引く。なお、新段階以降になると検出量は減少する傾向にある。80は諸磯b式期に伴う無文の深鉢、90・91は浅鉢に比定される。

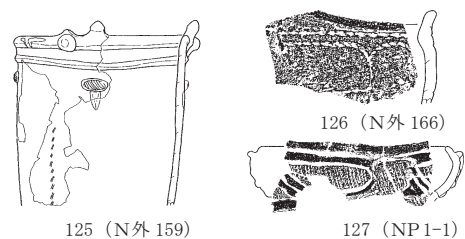


第 185 図 前期末葉の縄紋土器

諸磯 c 式は集合沈線を地紋とし、縦位方向を意識した文様が普及する。内面へのケズリ調整や片岩の混入が際立つ。本遺跡群では口縁部が発達し、貼付紋を多用する新段階が多い。結節平行沈線紋や結節浮線紋を主文様要素とするもの(83～85)や大木 5 式の影響を受けたもの(86)も少量認められる。**前期末葉**：十三菩提式(98～123)が認められ、中山遺跡 20 b 号住居跡で良好な一括資料が得られた。また、東関東系の粟島台式(124)が組成する。十三菩提式は中段階の扇平系を主体とする。焼成が不良で、片岩の混入が目立つ。三角印刻紋が多用され、地紋には結束羽状縄紋が再興する。口縁部に押捺隆帯が巡り、主要文様要素に密接平行沈線紋(98・100～104)、集合沈線紋(105～107)、単沈線文(108・109)、櫛歯状工具による結節沈線紋(110)、結節平行沈線紋(111)が認められる。口縁部が折返状を呈するものも多い。粟島台式には撚糸側面圧痕紋を持つものが見受けられる(124)。

**中期**：中期中頭五領ヶ台式(125)、中期前葉阿玉台 I b 式(126)、中期後葉加曾利 E I・II・IV 式(127)が認められ、いずれも数個体が検出された程度である。(高橋)

【註】 1) ニツ木式の古段階として捉えられる可能性を谷藤保彦氏に御教授いただいた。



第 186 図 中期の縄紋土器

## 第2節 縄紋時代の住居跡および土地利用の変遷について (第187・188図)

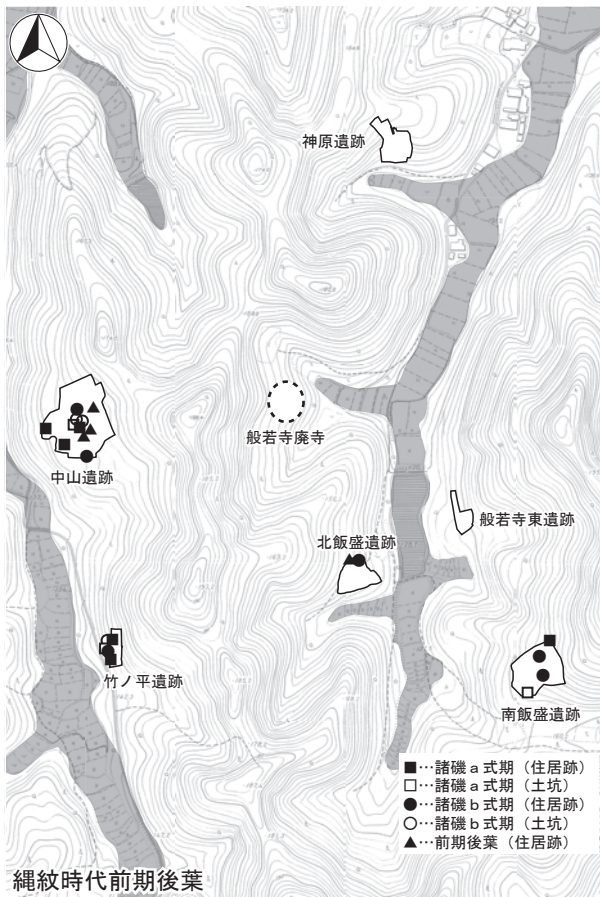
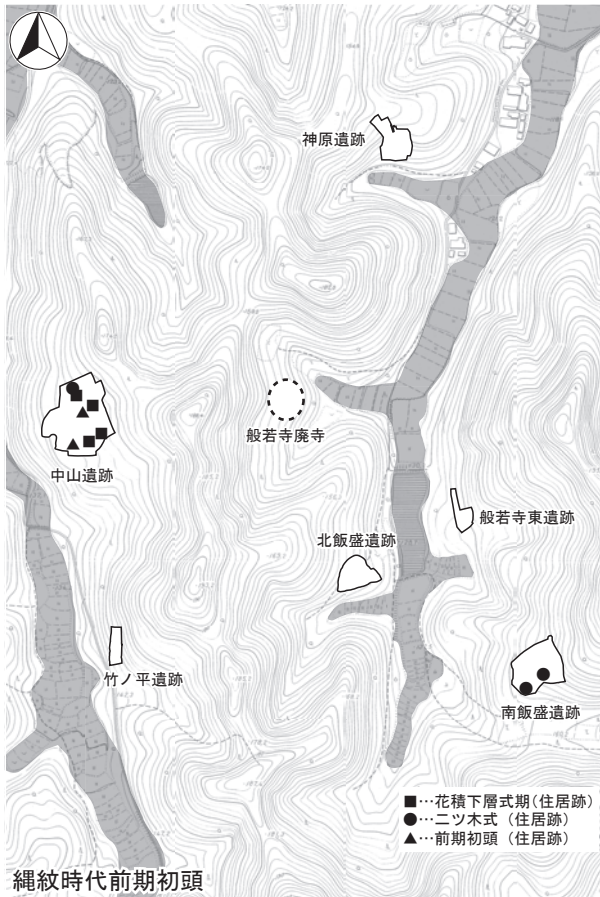
本遺跡群における縄紋時代の痕跡は草創期後半から早期中葉に散見されるようになるが、土器片が僅かに検出された程度である。中山遺跡・北飯盛遺跡において出土しており、同一丘陵の東側・西側に点在している状況である。次いで、早期後葉および末葉になるといずれの遺跡（縄紋時代の痕跡が一貫して無い般若寺東遺跡・般若寺跡は除く、以下同じ）でも遺物が検出されるようになり、その量もまとまったものとなる。ただし、遺構は特定できていない。中山遺跡では強く傾斜する北東側に分布が偏る。また、後続する前期前半と対称的に、急斜面に立地する竹ノ平遺跡（花積下層式古段階を含む）や神原遺跡においても隆盛する状況は当該期における斜面地への志向性が窺われよう。

前期初頭になって竪穴住居跡が確認されるようになり、比較的平坦で南西側が開けた中山遺跡や南飯盛遺跡に占地する。その出現は花積下層式新段階ないし二ツ木式古段階において広い平坦面を持つ中山遺跡から始まり、二ツ木式中～新段階になって南飯盛遺跡まで広がる。また、中山遺跡では出現期の住居跡が登り斜面寄りの平坦面東側に偏在しており、早期後葉から前期初頭古段階の占地傾向を引き継ぐことが予測される。住居跡の平面は長方形ないし隅丸方形を呈する<sup>1)</sup>。支柱穴が壁際に巡る傾向があり、支柱穴の特定はできていない。炉には群馬県を主要な分布域とするコ字状石囲炉が使用される（中山遺跡3・8・9、南飯盛遺跡8号住居跡）。とくに、焚口に埋設土器が据え付けられる本事例は、群馬県でも赤城山南東麓の北毛・中毛地域に多いことから、本遺跡群との地域的な関係が予想される。また、中山遺跡3・8・9号住居跡の炉は花積下層式新段階に帰属する埋設土器付コ字状石囲炉の可能性があり、群馬県三原田城遺跡（谷藤1987）等で報告されているような初現期の事例に位置付けられよう<sup>2)</sup>。周辺では、金鑽川流域の神川町池田遺跡第1地点J-3号住居跡（金子1991）において類例が求められる。

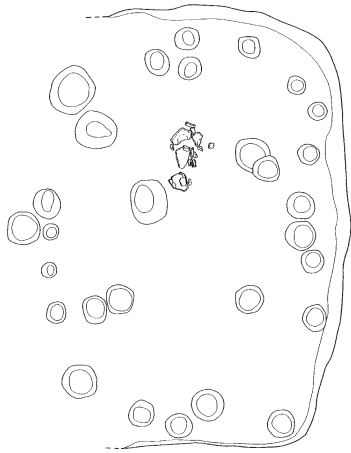
前期前葉～中葉は前段階の動向を継承する。しかし、関山I式や黒浜式新段階の遺構はなく、出土遺物も少ないことから、低調な活動期を挟む状況が見て取れる。住居跡は平面が長方形で、6～8本の支柱穴を擁し、炉には地床炉が採用される。

前期後葉の諸磯a式・諸磯b式期には従来の占地に加えて、比較的標高が低く、急斜面地の竹ノ平遺跡や北飯盛遺跡および中山遺跡の西側に居住域が進出する。住居軒数は当該期が最も多く、諸磯a式古段階から諸磯b式古段階を中心とする。住居跡の平面は楕円形ないし隅丸方形を呈し、4本の支柱穴を擁する。炉には地床炉が採用され、複数個所に及ぶものも認められる。当該期には埋設土器が盛行し<sup>3)</sup>、関東地方北西部の趨勢（岩橋他1992）と合致する。

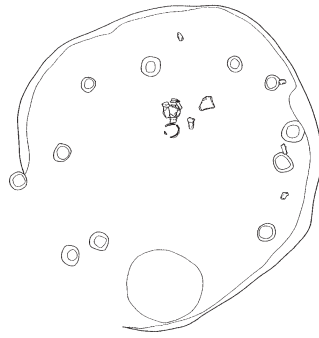
諸磯c式期になると住居跡は中山遺跡や南飯盛遺跡に集約される。さらに、前期末葉の十三菩提式期には出土遺物が竹ノ平遺跡・神原遺跡・北飯盛遺跡で見出されなくなり、遺構も中山遺跡に限られる。関東地域における当該期の動向として遺跡数の著しい減少が知られるところであるが、北西部ではその零落は比較的緩いことも指摘されている（鈴木2006）。縮小しつつも住居跡の構築が継続する本遺跡群の状況はその好例を示しているといえよう。実際に、南関東地域では低地内の微高地上に設営される集落遺跡が認められ<sup>4)</sup>、従来の丘陵に占地を続ける本事例とは対比的である<sup>5)</sup>。周辺における住居跡の低地進出は本庄市大天白遺跡・甕薺神社前遺跡の中期前葉阿玉台Ib式ないしII式期まで下る（浅間2010）。もっとも、当該期は丘陵や山地への占地も盛んであり、多様な生態系に



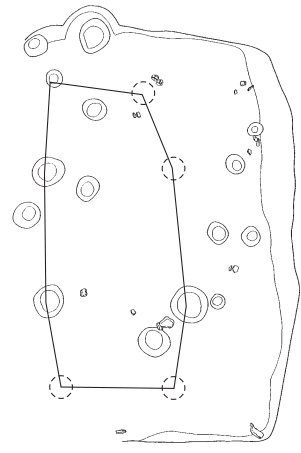
第 187 図 縄紋時代の変遷



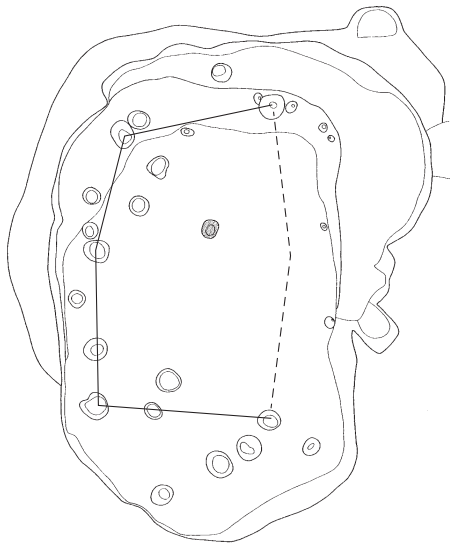
花積下層式～ニツ木式期 (N9 住)



ニツ木式期 (M8 住)



関山Ⅱ式期 (M6 住)

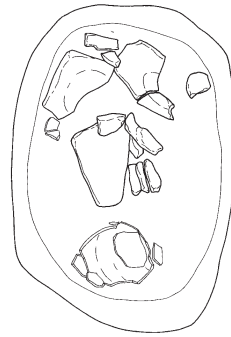


有尾式期 (N18a 住)

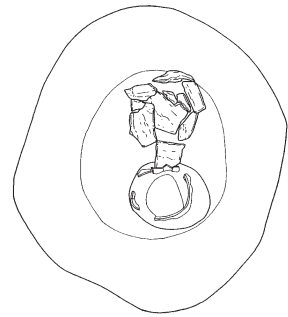
石 囲 炉



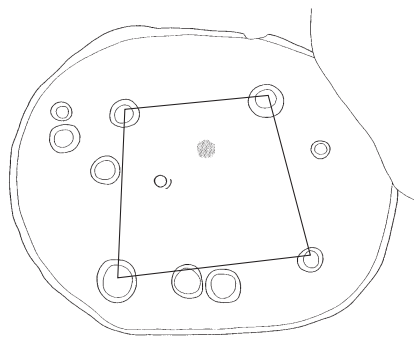
花積下層式期 (N3 住)



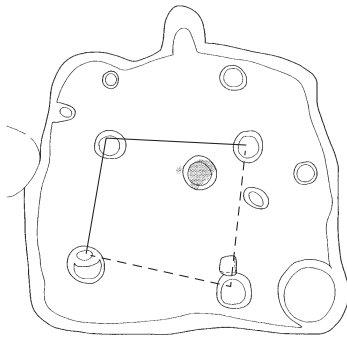
花積下層式～ニツ木式期 (N9 住)



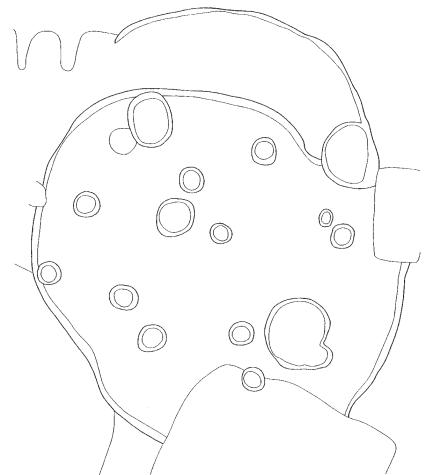
ニツ木式期 (M8 住)



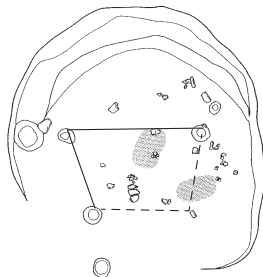
諸磯 a 式期 (N10 住)



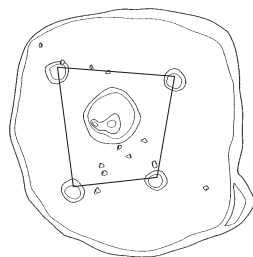
諸磯 b 式期 (N7 住)



諸磯 c 式・十三菩提式期 (N20 住)



諸磯 a 式～諸磯 b 式期 (M1 住)



諸磯 b 式期 (M4 住)



第 188 図 縄紋時代の竪穴住居跡

対して等質的な集落を営む中期的な様相に移行していることが窺われる。ともあれ、その移行には前期後葉から末葉における選地経験が大いに影響したものと推測されよう。なお、当該期の住居跡は不整な楕円形ないし方形を呈する。地床炉や埋設土器が認められるものの、柱穴配置は規格的ではない。

中期になると遺構は見受けられず、出土遺物も僅かである。土地利用は継続されるものの、その活動は低調であったといえよう。出土遺物は中期初頭五領ヶ台式が中山遺跡・南飯盛遺跡、中期前葉阿玉台Ⅰb式が中山遺跡・神原遺跡、中期後葉加曾利EⅠ・Ⅱ式が中山遺跡、加曾利EⅣ式が中山遺跡・南飯盛遺跡において検出されている。(高橋)

#### 【註】

- 1) 南飯盛遺跡7a号住居跡は円形状を呈するが、重複遺構により著しく削平されることから詳細は不明である。
- 2) 西毛地域では安中市中原遺跡(大工原他1994)や富岡市丹遺跡群(腰塚2009)において二ツ木式新段階の事例がまとめて調査されているものの、コ字状石囲炉に埋設土器が伴っていない。ただし、関山Ⅰ式新段階から関山Ⅱ式期における埋設土器の事例は安中市八城二本杉東遺跡16・36号住居跡(長井1997)や安中市三本木Ⅱ遺跡J-1号住居跡(大工原1996)等で認められ、段階的な推移を有するようである。埋設土器自体は南関東地域でも散見される場所であり(三田村1987)、その関係も考慮に入れる必要がある。中毛地域の伊勢崎市五目牛清水田遺跡(藤巻1993)では花積下層式古段階に遡る埋設土器が地床炉に伴って検出されており、汎関東的な分布域に組していることが分かる。一方、北毛地域の渋川市見立相好遺跡(高橋2005)や長野県御代田町下弥堂遺跡等では当該期における石囲炉が発生している。このような状況下で、埋設土器を伴うコ字状石囲炉は次段階において融合したものと推測される。
- 3) 周辺では、美里町羽黒山古墳群3号住居跡(長滝1991)、同町白石古墳群2・4号住居跡(長滝2002)、南志戸川遺跡1・3号住居跡(長滝他2005)、同町北貝戸遺跡21・23号住居址(長滝他2006)、本庄市宮内上ノ原遺跡12・40・41号住居跡(松澤2005、宮田2008)、神川町池田遺跡J-2号住居跡(金子1991)等で検出されている。
- 4) 芝沼堤外遺跡(金子2004)・東野遺跡(宮井他2009)。
- 5) 低地に位置する上里町前原遺跡(丸山1987)において前期後葉から末葉の土器片が確認されており、低地の利用が窺われるものの、集落の検出には至っていない。

### 第3節 縄紋時代の石器について

各遺跡から検出された石器は、中山遺跡1,736点、竹ノ平遺跡88点、神原遺跡36点、北飯盛遺跡64点、南飯盛遺跡144点であり、遺構数に比例して中山遺跡の石器出土が突出している。器種組成を概観すると主体となるのは剥片であり、スクレイパー・リタッチドフレイクといった剥片石器類を合わせるとおよそ7割を占める。次いで打製石斧・礫器・磨石類といった器種が続き、その他の器種に関しては少量の出土に留まっている。石材組成を概観すると、小形の剥片石器には黒曜石・チャート・黒色安山岩が使用され、黒曜石・チャートを主体とする。中・大形の剥片石器には黒色安山岩・頁岩・ホルンフェルス・緑色岩類・砂岩・片岩等がみられ、ホルンフェルスの占有率が圧倒的に高い。磨石類には安山岩・閃緑岩が多用され、片岩・緑色岩類等も一部に認められる。石皿・台石・多孔石などの大形品には安山岩・片岩・緑色岩類・軽石、砥石には砂岩、棒状礫には片岩・緑色岩類がそれぞれ使用されていることから、器種により特定の石材を選択的に使用する傾向が強いようである。これらの使用石材は、遺跡周辺の河川から比較的容易に採取可能で、半径2km圏内に小山川(片岩主体)、半径4km圏内は荒川(ホルンフェルス・チャート・砂質岩等)、半径8km圏内に神流川(チャート・砂質岩・片岩等)や利根川(安山岩・頁岩・黒色安山岩等)が位置している(鈴木1986)。

以下では、住居跡から良好な一括遺物が出土した中山遺跡18号住居跡を中心に概観していきたい。



18号住居跡は前期初頭の土器片を混入するが、前期中葉有尾式期が大半を占める。石器は112点が確認されており、これらの器種組成や石材組成は剥片がやや多いことを除き、先述した遺跡群全体の組成と概ね同様の傾向を示している。ここでは、時期差が捉えられた剥片石器類を中心として前期後葉～末葉に比定される中山遺跡7・10・20号住居跡の資料と対比的に検証していく。

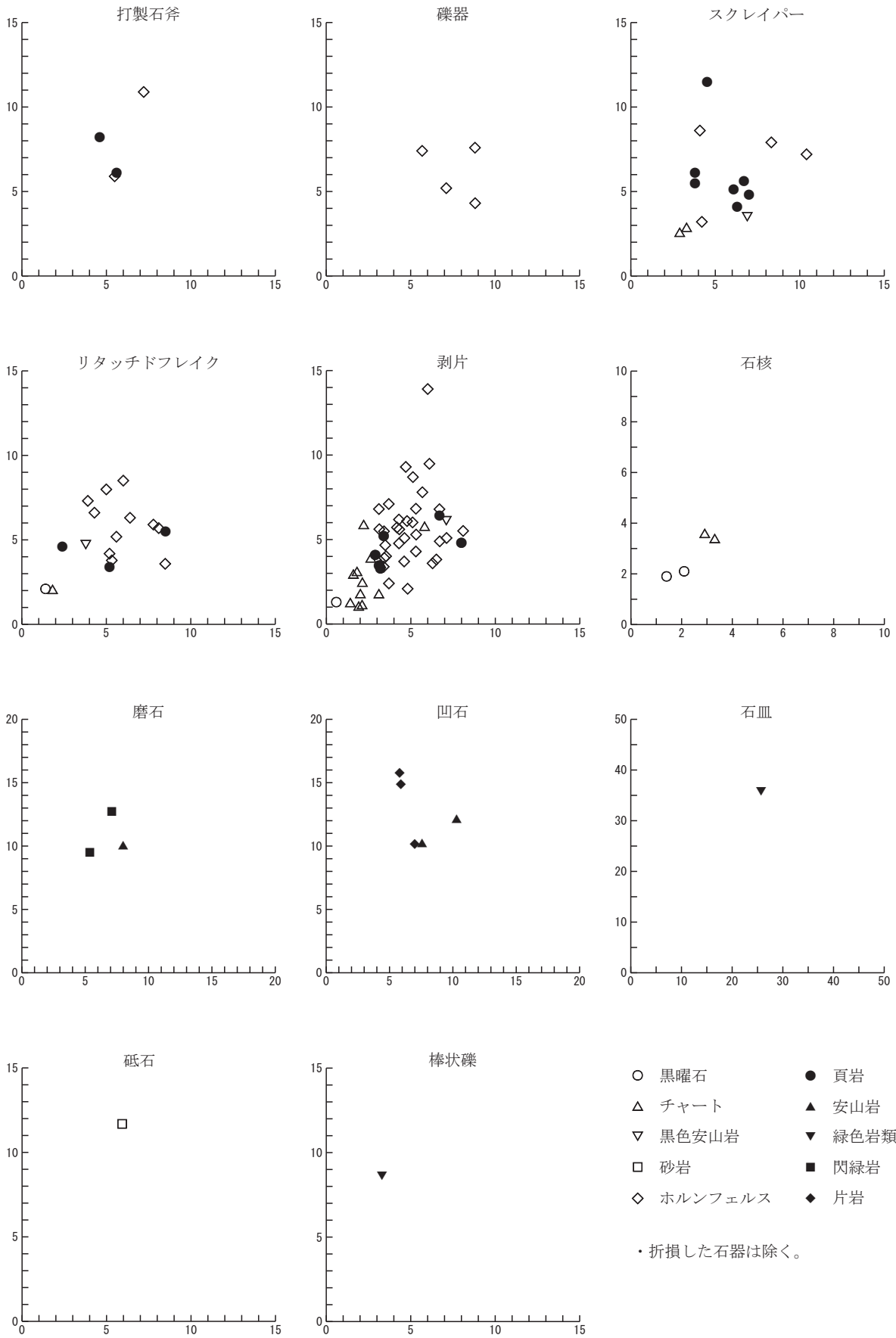
打製石斧は撥形を呈し、片面調整が施される。早期から派生する系統に属し、本遺跡群では前期初頭の中山遺跡9号住居跡等でも認められる。素材には中・大形の扁平礫・割礫・剥片が使用され、割礫や剥片が卓抜する。石材にはホルンフェルス・頁岩が同比率で使用されているが、中山遺跡全体ではホルンフェルスが約7割を占めている状況を考慮すると、頁岩が選択的に利用されていた可能性が想起される。一方、前期後半では、撥形に加えて短冊形を呈するものが並存し、いずれも両面調整により加工されている。打製石斧の形態・調整方法が前期中葉～後葉にかけて大きく変化することが指摘されており（大工原1993・1994・1998）、本遺跡群では有尾式期の後に移行していくことが窺われる。

礫器は早期・前期に通有な石器で、拳大の割礫を素材とし、一側縁や周縁に急角度な片面調整を施す。形態は定型的ではなく、素材の形状がそのまま反映されている。石材は全てホルンフェルス製であるが、中山遺跡全体の使用状況を考慮しても石材の選択性は高い（ホルンフェルス：85%、頁岩：15%）。前期後半の住居跡からは1点も検出されていないことから、有尾式期後に消失していくことが予想される。

スクレイパー・リタッチドフレイクは小・中形の剥片を素材としており、背面に礫皮を残すものが半数近く見受けられる。形態は多様で、素材となる剥片自体の形状を大きく変えずに調整加工されるものが圧倒的に多い。主要石材は前期全般にわたって大きな違いは認められず、4cm以下の小形品ではチャート、5～10cmの中形品ではホルンフェルスが用いられている。ただし、前期中葉は前期後半に比べて頁岩の占める割合が高い。加工方法を概観すると、前期中葉では片面調整のみであるのに対して、前期後半では片面調整に混じって両面調整が観察されるなど、打製石斧や礫器に対応する技法的推移が垣間見られる。

ところで、剥片石器系の長幅比に目を向けてみると（第189図）、スクレイパーやリタッチドフレイクは、剥片の形態や石材を強く反映していることが観察される。しかし、剥片の素材となる石核はチャートや黒曜石といった小形剥片に対応するものしか無いことから、ホルンフェルスや頁岩等は採取地等において剥片剥離が行われていたと予測される。つまり、遺跡内に剥片素材となった状態で搬入された後、石器製作が行われていた可能性が高い。ところで、打製石斧や礫器の素材に見合う礫・割礫・剥片もほとんど検出されていない。剥片には大形が一部で存在しているものの、厚みがなく打製石斧や礫器の素材には適さない形状を呈している。また、加工途中である未成品が1点も検出されていない。このような状況は打製石斧や礫器が母岩の採取地や他の集落等において石器製作を行っていた可能性を示唆するものであろう。

これまで前期中葉を中心に概観してみて、有尾式期は早期から生成・推移してきた石器群の一部に帰属することが確かめられた。一方、前期後半になると中期に隆盛する石器群へと移行している。具体的な移行の経過を知りたいところではあるが、時期の明確な住居跡や出土石器が少なかったこともあり部分的な理解に留まる。当該期の調査資料は周辺地域において増加しつつあり、今後それらを総合していく作業が懸案となるが、本事例はその一翼を担うものと考えられる。（土井）



第 189 図 中山遺跡 18 号住居跡の石器長幅比

## 第4節 古墳時代以降について

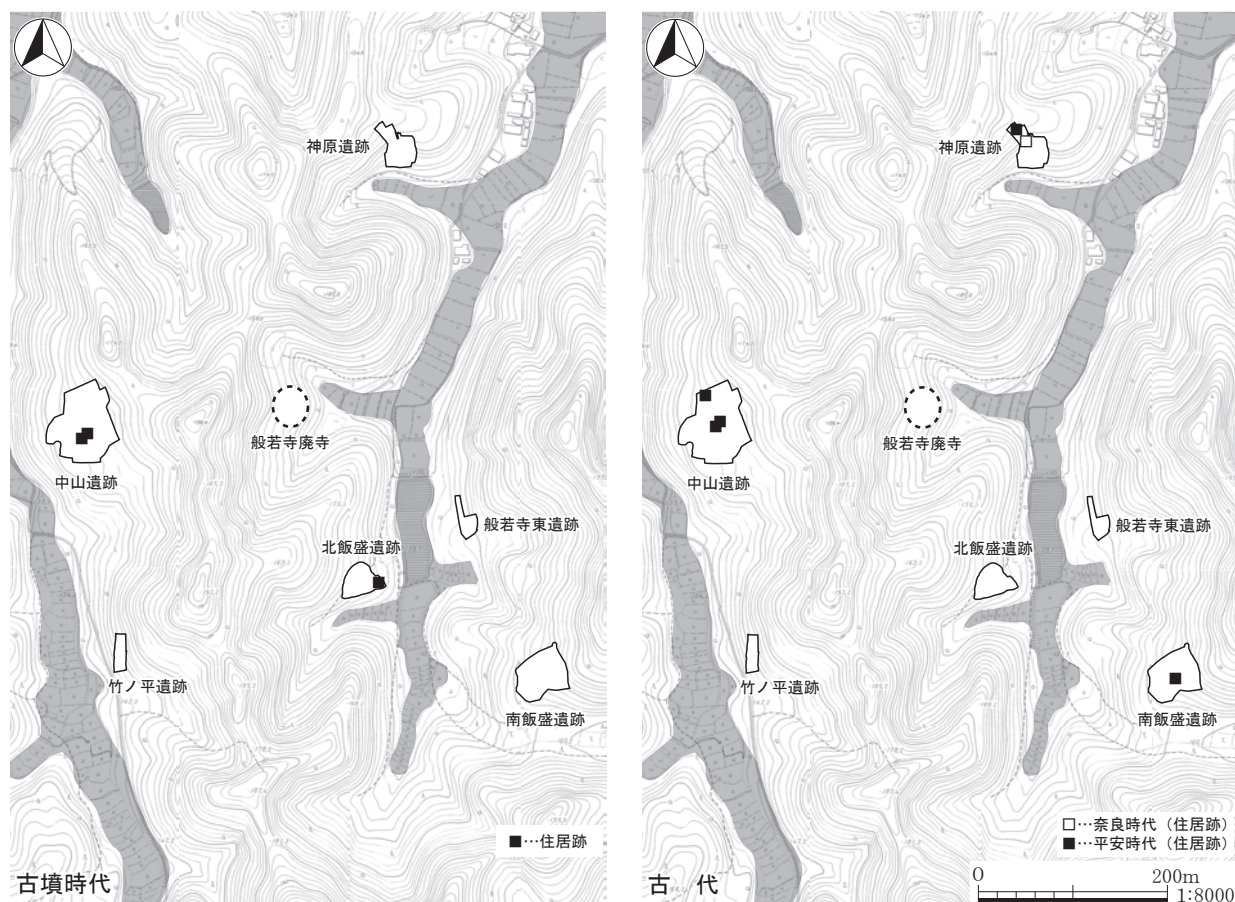
本遺跡群において、古墳時代の住居跡は3軒検出され、いずれも古墳時代後期に帰属している。古代の住居跡は6軒で奈良時代1軒、平安時代5軒となっている。中世は般若寺跡とその瓦群が、近世では神原遺跡から段切り遺構と柱穴群が確認された。

周辺地域の古墳時代集落は、前期から中期の段階で低地部分に進出を開始し、後期に住居軒数を増しつつ低地・台地へ展開する傾向にある。こういった状況の中で、本遺跡群が立地するような丘陵・山地域で当該期の住居跡が検出される事例は少なく、中山遺跡・北飯盛遺跡における集落占地には希少性が認められよう。また、中山遺跡からは剣形の石製模造品も出土しており、注目すべき点である。

古代の住居跡は、古墳時代と比較して増加している。周辺地域では古代における山地や丘陵地への進出が見受けられ、本遺跡群の住居跡の増加傾向と一致している。これは、山地における窯業や製鉄炉といった生産遺跡との関連が指摘されている（鈴木 2011）。本遺跡群周辺では、窯跡や製鉄炉等は検出されていない。しかし、中山遺跡では、時期は不明だが鋳型と思われる焼成粘土塊が多数出土しており、何らかのつながりを想起させる。

中世には徳治2（1307）年の銘を持つ軒平瓦が出土したことで著名な般若寺跡がある。これ以外の遺構は見られないが、同じ支谷に位置する北飯盛遺跡の遺構外からは軟質陶器が検出されている。

近世では、神原遺跡や北飯盛遺跡において、斜面を掘削して平場を構築する段切り遺構が確認されて



第190図 古墳時代・古代の変遷

いる。前者では段切り内に掘立柱建物跡等が見られ、以下詳細に触れてみたい。

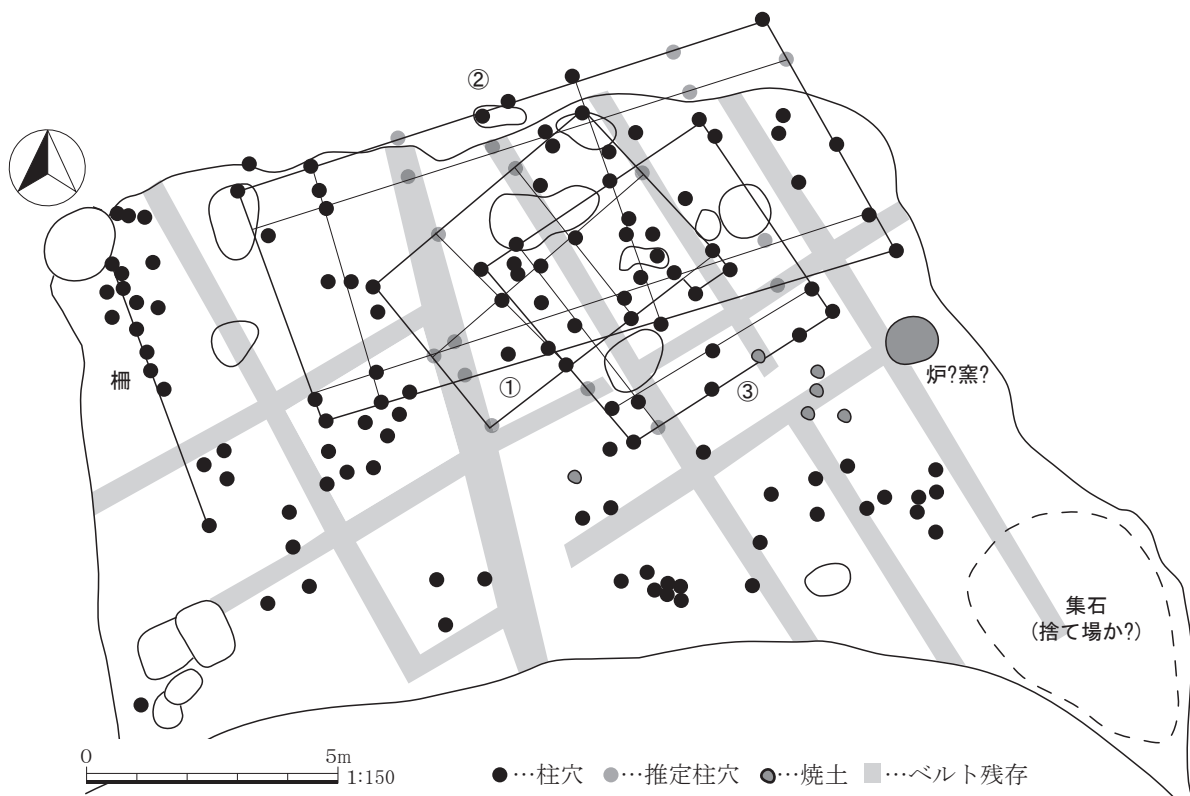
神原遺跡の調査区Ⅱ区では、標高 135.0 ～ 134.0m の間を段切りして面積約 230 m<sup>2</sup> の平坦面を造り出している。段切り遺構内からは、柱穴群・焼土跡・集石遺構・土坑等が検出されている。北側に柱穴が集中する傾向にあり、掘立柱建物跡が配置されたと推測し、3軒の建物跡を復原した<sup>1)</sup>。

- ① 3間×2間の総柱構造に、南東隅に張出を持つ掘立柱建物跡。
- ② 4～5間×2間の総柱構造の身舎に北・南に庇を持つ掘立柱建物跡。
- ③ 2間×2間の側柱構造の身舎に南と西に庇を持つ掘立柱建物跡。

上記3軒の新旧や時期は不明であるが重複関係にある。よって、段切り遺構内においては母屋・付属屋が共存せず、時期差のある単独家屋が立地していたと考える。面積は狭い



第191図 中・近世の変遷



第192図 神原遺跡の段切り遺構内模式図

が②・③は庇を持っており、屋敷として認識しても良いだろう。

掘立柱建物跡以外には、西側に柱穴列があり、柵や入り口が想定される。中央から東にかけて焼土の集中や炉ないし窯に比定される遺構が屋外にみられ、南側に広場や作業空間を擁していたことが推測される。これらのように本事例は丘陵地における土地利用の一端を垣間見る資料となっている。

ところで、南飯盛遺跡では古銭や煙管が土坑群周辺から出土しており、墓域として利用されていた可能性が高い。中山遺跡でも、陶磁器や古銭が出土しており、近世における人の往来が窺える。(宮本)

【註】 1) 未調査の土層観察用ベルト下にも柱穴が有るものとして掘立柱建物跡を復元している。

#### 【参考文献】

- 浅間 陽 (2010) 『児玉大天白遺跡』本庄市遺跡調査会報告書第34集
- 石塚久則他 (1986) 『将監塚－縄文時代－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集
- 石丸敦史 (2010) 『秋山諏訪平遺跡Ⅱ－B地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第38集
- 岩橋陽一他 (1992) 「諸磯b式土器の展開とその様相－多摩丘陵からの視点－」『研究論集』XI 東京都埋蔵文化財センター
- 上野真由美 (1997) 『広木上宿遺跡－縄文時代編－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第185集
- 小川卓也 (2008) 「群馬県における縄文時代早期後半の様相」『群馬考古学手帳』第18号 群馬土器観会
- 小淵良樹他 (1980) 『広木大町古墳群』埼玉県遺跡調査会報告書第40集
- 金子彰男 (1991) 『池田遺跡第1地点』神川町遺跡調査会発掘調査報告第2集
- 金子直行 (1996) 『八木上／八木／八木前／上広瀬北／森坂北／森坂』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第165集
- 金子直行 (2004) 『芝沼堤外遺跡』川島町遺跡発掘調査報告書第2集
- 恋河内昭彦 (1987) 『秋山東遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第2集
- 恋河内昭彦 (1990) 『下大塚遺跡』児玉町文化財調査報告書第11集
- 恋河内昭彦 (1995) 『南共和・新宮遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第6・7集
- 恋河内昭彦 (2000) 『天田遺跡－B地点の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第11集
- 恋河内昭彦 (2001) 『女池遺跡－B・D地点の調査－』児玉町文化財調査報告書第35集
- 恋河内昭彦 (2004) 『女池遺跡－A地点の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第16集
- 恋河内昭彦他 (2006) 『金屋下別所遺跡B地点・塩谷平氏ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡E地点』本庄市埋蔵文化財調査報告書第1集
- 恋河内昭彦 (2008) 「児玉地方の土製支脚について」『塚島遺跡Ⅱ－F地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第22集
- 腰塚徳司他 (2009) 『丹生地区遺跡群』富岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第29集
- 小林朋恵 (2005) 『上ノ台遺跡』群馬県教育委員会
- 坂本和俊他 (1990) 『秋山古墳群』児玉町史資料調査報告 古代第2集
- 澁谷昌彦 (2006) 「縄文時代前期前葉のコンパス文の出自」『いわき地方史研究』第43号
- 菅谷浩之他 (1978) 『日の森遺跡発掘調査概報』美里村教育委員会
- 鈴木徳雄 (1986) 『橋ノ入遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書第6集
- 鈴木徳雄 (1987) 『秋山東遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第2集
- 鈴木徳雄 (1989) 「諸磯a式土器研究史(1)」『土曜考古』第13号 土曜考古学研究会
- 鈴木徳雄 (1994) 「諸磯a式の文様帯と施文域」『縄文時代』第5号 縄文時代文化研究会
- 鈴木徳雄 (1995) 『堀向・藤塚・柿島・内手・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第18集
- 鈴木徳雄 (1996) 「諸磯b式の変化と形式間交渉」『縄文時代』第7号 縄文時代文化研究会
- 鈴木徳雄他 (1997) 『将監塚東・平塚・藤塚遺跡』児玉町文化財調査報告書第26集
- 鈴木徳雄 (2002) 「諸磯b式期における型式間関係と構造」『日々の考古学』
- 鈴木徳雄他 (2007) 『秋山諏訪平遺跡－C地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第17集
- 鈴木徳雄他 (2007) 『児玉清水遺跡Ⅱ－B地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第19集
- 関根慎二 (2008) 「諸磯式土器」『総覧縄文土器』アムプロモーション

- 関根信夫 (2003) 「丘陵地における屋敷地の認識」『和田西遺跡の研究』考古学を楽しむ会
- 大工原豊他 (1993) 『大下原遺跡・吉田原遺跡』安中市教育委員会
- 大工原豊他 (1994) 『中野谷地区遺跡群』安中市教育委員会
- 大工原豊他 (1996) 『落合Ⅱ遺跡・平塚遺跡・三本木Ⅱ遺跡・三本木Ⅲ遺跡』安中市教育委員会
- 大工原豊他 (1998) 『中野谷松原遺跡』安中市教育委員会
- 高橋清文 (2005) 『見立相好遺跡Ⅲ』赤城村埋蔵文化財発掘調査報告書第 39 集
- 高橋清文 (2008) 「見立十三塚遺跡の関山Ⅰ式土器について」『考古学の窓』國學院大學卒業生有志 in 群馬
- 谷口康浩 (1989) 「諸磯式土器様式」『縄文土器大観』小学館
- 谷藤保彦他 (1987) 『三原田城遺跡・八崎城址・八崎塚・上青梨子古墳』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 鳥羽政之他 (1983) 「栗山遺跡の発掘調査」『東京電力美里線埋蔵文化財調査報告』美里村遺跡発掘調査報告書第 1 集
- 永野 巖 (1986) 「埼玉の風土と森林」『新編埼玉県史』別編 3 (自然)
- 永井智則他 (2005) 『脊戸谷遺跡－宮内古墳群の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第 19 集
- 長井正欣他 (1997) 『八城二本杉東遺跡・行田大道北遺跡』松井田町遺跡調査会
- 中沢良一他 (1999) 『鍛冶屋峯遺跡・川向遺跡・森後遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第 10 集
- 長滝歳康 (1991) 『白石古墳群・羽黒山古墳群』美里町遺跡発掘調査報告書第 7 集
- 長滝歳康 (2002) 『白石古墳群－登所地区・中原地区－』美里町遺跡発掘調査報告書第 13 集
- 長滝歳康・中沢良一 (2004) 『白石古墳群Ⅲ－早道場地区－・後海道遺跡・中道遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第 15 集
- 長滝歳康・中沢良一 (2005) 『南志渡川遺跡・志渡川古墳・志渡川遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第 16 集
- 長滝歳康・中沢良一 (2006) 『北貝戸遺跡・南十条遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第 17 集
- 長滝歳康・中沢良一 (2010) 『村後遺跡B地点・大仏廃寺跡・広木上宿遺跡Ⅱ』美里町遺跡発掘調査報告書第 19 集
- 長滝歳康・中沢良一 (2011) 『新倉館跡・烏森遺跡・道灌山古墳』美里町遺跡発掘調査報告書第 20 集
- 中束耕志 (1993) 「本庄市宥勝寺北裏遺跡の爪形紋土器」『利根川』14 利根川同人
- 中村倉司他 (1979) 『白石城』埼玉県遺跡調査会報告書第 36 集
- 中村倉司他 (1980) 「蕨薙神社前遺跡・一本松古墳」埼玉県遺跡調査会報告書第 39 集
- 日沖剛史・高橋清文他 (2007) 『平遺跡発掘調査報告書－A～G地点の調査－』神泉村遺跡調査会文化財調査報告書第 1 集
- 藤巻幸男 (1993) 『五目牛清水田遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 144 集
- 毒島正明 (2004) 「子母口式土器研究の検討 (下)」『土曜考古』第 28 号 土曜考古学研究会
- 細田 勝他 (1984) 『向田・権現塚・村後』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 38 集
- 松澤浩一 (2005) 『宮内上ノ原遺跡－B地点の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第 18 集
- 松澤浩一 (2005) 「河内下ノ平遺跡の発掘調査」『児玉郡市文化財担当者会報』第 5 号 児玉郡市文化財担当者会
- 松田光太郎 (2000) 「関東・中部地方における十三菩提式土器の変遷」『神奈川考古』第 38 号 神奈川考古同人会
- 松本 完他 (2009) 『浅見山Ⅰ遺跡 (Ⅲ次)・久下東遺跡 (Ⅲ次) A1・A2 地点・北堀久下塚北遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 13 集
- 丸山 修 (1987) 『前原遺跡発掘調査報告書』上里町教育委員会
- 三田村美彦 (1987) 『宿遺跡』東京都北区教育委員会
- 宮井英一他 (1989) 『古井戸－縄紋時代－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 75 集
- 宮井英一他 (2009) 『東野 / 平沼一丁田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 360 集
- 宮田忠洋 (2008) 『宮内上ノ原遺跡Ⅲ－E地点の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 10 集
- 宮田忠洋 (2011) 『新宮遺跡Ⅱ－C地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第 42 集
- 宮本久子他 (2011) 『秋山大町遺跡－B・C・D・E地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第 36 集
- 宮本久子 (2011) 『秋山大町東遺跡・秋山諏訪平遺跡Ⅲ－D・E・F地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第 37 集
- 山本 靖他 (1996) 『広木上宿遺跡－古代・中世編－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 170 集
- 渡辺 一 (1983) 『白石城Ⅱ』美里村遺跡発掘調査報告書第 2 集
- 児玉町史編さん委員会 (1990) 『児玉町史』近世資料編
- 児玉町史編さん委員会 (2002) 『児玉町史』近現代資料編
- 埼玉県 (1989) 『新編埼玉県史』資料編 9 (中世 5 金石文・奥書)

## 報告書抄録

ふりがな	あきやませいぶいせきぐん
書名	秋山西部遺跡群
副書名	ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	本庄市遺跡調査会報告書
シリーズ番号	第43集
編著者名	高橋清文・宮本久子・土井道昭・鈴木徳雄
編集機関	本庄市遺跡調査会
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会内 TEL 0495-25-1185
発行年月日	西暦2012(平成24)年3月30日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中山遺跡	本庄市児玉町秋山字中山3025他	54	288	36°10'3"	139°7'59"	1989.7.14 1991.11.14	4,320㎡	ゴルフ場建設
竹ノ平遺跡	本庄市児玉町秋山字竹ノ平3009他	54	290	36°10'11"	139°8'00"	1989.4.10 1989.7.7	460㎡	ゴルフ場建設
神原遺跡	本庄市児玉町秋山字神原3144他	54	290	36°10'8"	139°8'5"	1990.4.14 1990.10.2	1,300㎡	ゴルフ場建設
般若寺東遺跡	本庄市児玉町秋山字天神山3208他	54	291	36°9'57"	139°8'7"	1991.6.18 1991.7.6	650㎡	ゴルフ場建設
北飯盛遺跡	本庄市児玉町秋山字北飯盛3176他	54	292	36°9'55"	139°8'3"	1991.7.9 1991.10.13	1,100㎡	ゴルフ場建設
南飯盛遺跡	本庄市児玉町秋山字天神山3267他	54	293	36°10'10"	139°8'9"	1991.11.12 1991.3.31	2,300㎡	ゴルフ場建設
般若寺跡	本庄市児玉町秋山字北飯盛3165他	54	—	36°10'4"	139°8'2"	1992.3.19 1993.5.16	—	保存区域範囲確認

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中山遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 36軒 集石遺構 4基 土坑 126基	縄文土器・石器 土師器・須恵器 灰釉陶器 古銭・鉄砲玉 焼成粘土塊	縄文時代前期の継続的な集落
竹ノ平遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居跡 5軒 集石遺構 1基 土坑 17基	縄文土器・石器	
神原遺跡	集落 屋敷跡	奈良時代 平安時代 近世	竪穴住居跡 2軒 竪穴状遺構 1基 集石遺構 1基 土坑 5基 段切り遺構	縄文土器・石器 土師器・須恵器 陶磁器 古銭・煙管・刀子	近世屋敷跡
般若寺東遺跡	—	—	土坑 2基	—	
北飯盛遺跡	集落	縄文時代 古墳時代	竪穴住居跡 3軒 溝跡 1条 土坑 22基	縄文土器・石器 土師器・須恵器 軟質陶器	
南飯盛遺跡	集落	縄文時代 平安時代	竪穴住居跡 11軒 溝跡 3条 土坑 26基	縄文土器・石器 土師器・須恵器 灰釉陶器 古銭・煙管	縄文時代前期の継続的な集落
般若寺跡	寺院跡	中世	段切り遺構	瓦	徳治貳年創建の中世寺院跡

# 写真図版

小山川

神原遺跡



中山遺跡



般若寺跡



北飯盛遺跡



般若寺東遺跡



竹ノ平遺跡

南飯盛遺跡









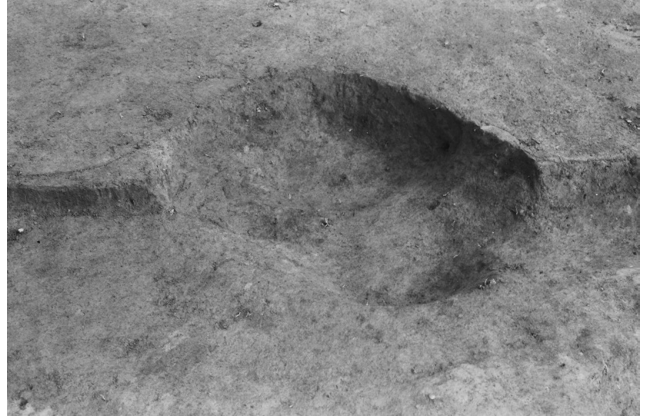
調査区全景



調査区全景



1号住居跡



1号住居跡カマド



2号住居跡



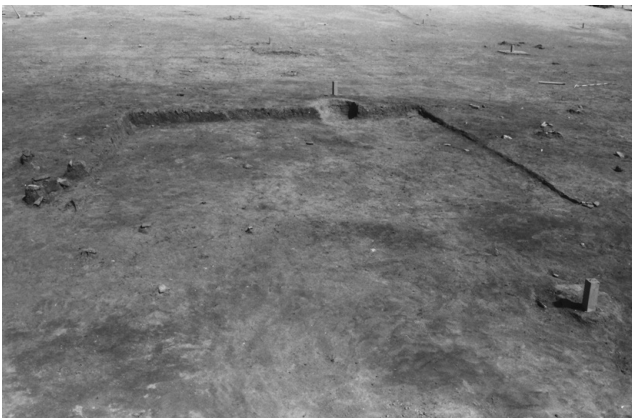
2号住居跡遺物出土状態



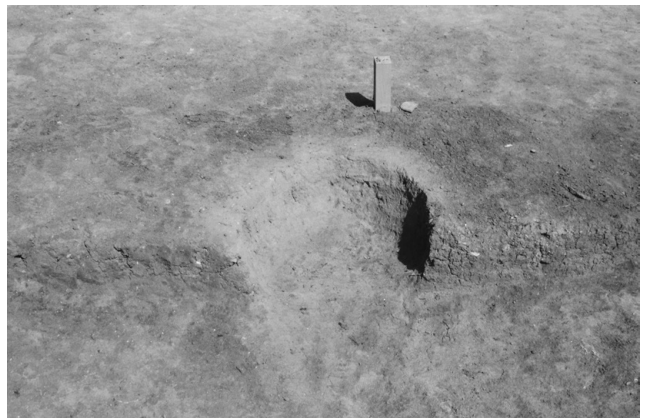
3号住居跡



3号住居跡カマド



4号住居跡



4号住居跡カマド



5号住居跡



5号住居跡遺物出土状態



5号住居跡カマド



6号住居跡



6号住居跡埋設土器



7号住居跡



8a・8b号住居跡



8a号住居跡埋設土器



8a号住居跡埋設土器



8a号住居跡埋設土器



9号住居跡



9号住居跡炉



10号住居跡



10号住居跡遺物出土状態



10号住居跡埋設土器



11a・11b号住居跡



11a・11b号住居跡遺物出土状態



12号住居跡



13号住居跡



14号住居跡



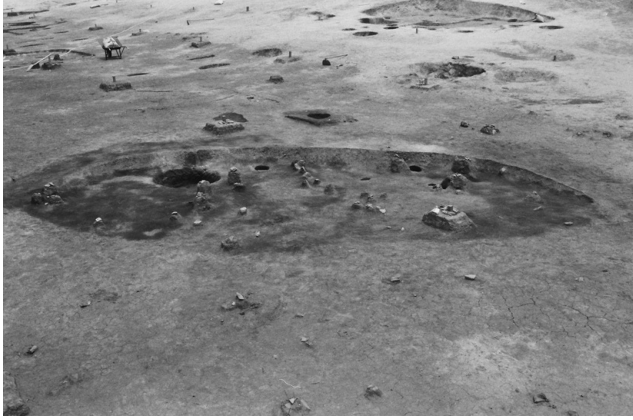
14号住居跡カマド



15号住居跡



15号住居跡カマド



16号住居跡



17号住居跡



18a・18b号住居跡



18a・18b号住居跡遺物出土状態



18a・18b号住居跡遺物出土状態





18a・18b 号住居跡遺物出土状態



19 号住居跡



20a・20b 号住居跡



20a・20b 号住居跡遺物出土状態



21 号住居跡



22号住居跡



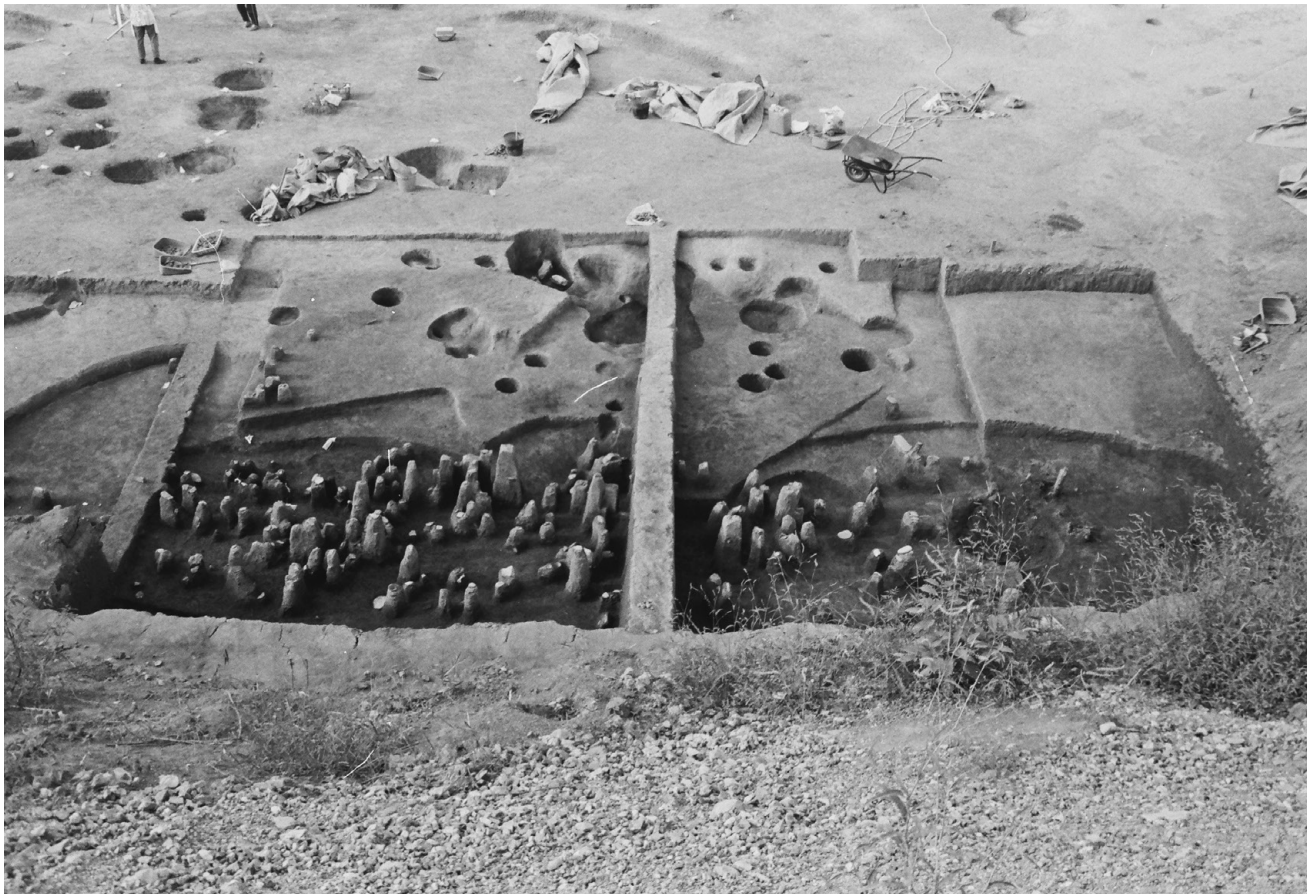
22号住居跡炉



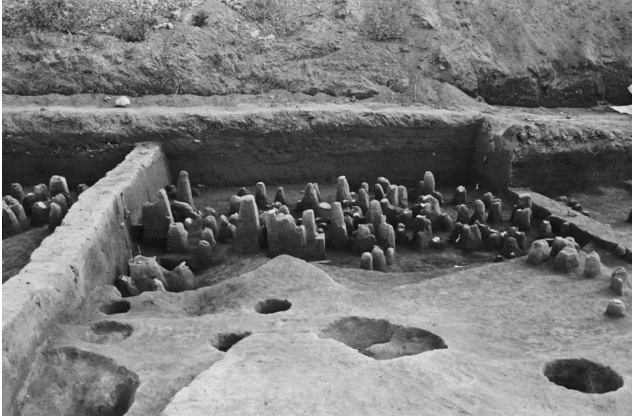
23号住居跡



24号住居跡



25・26・27・28・29号住居跡



26a・26b 号住居跡



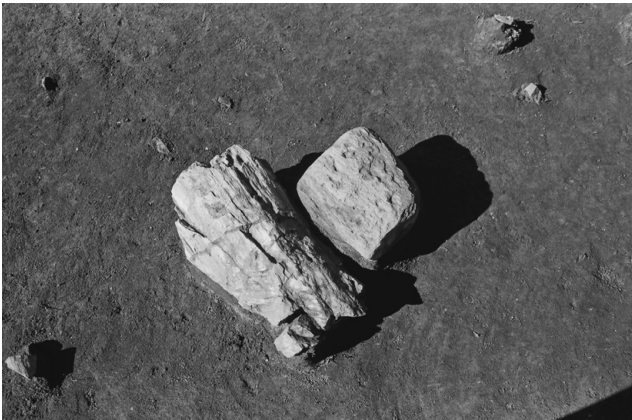
27a・27b 号住居跡



27a 号住居跡埋設土器



28 号住居跡



1 号集石遺構



4 号土坑



51 号土坑



126 号土坑



調査区全景



調査区全景



調査区全景



1号住居跡



1号住居跡遺物出土状態



2・3号住居跡



2号住居跡



2号住居跡埋設土器



2号住居跡遺物出土状態



3号住居跡



4号住居跡



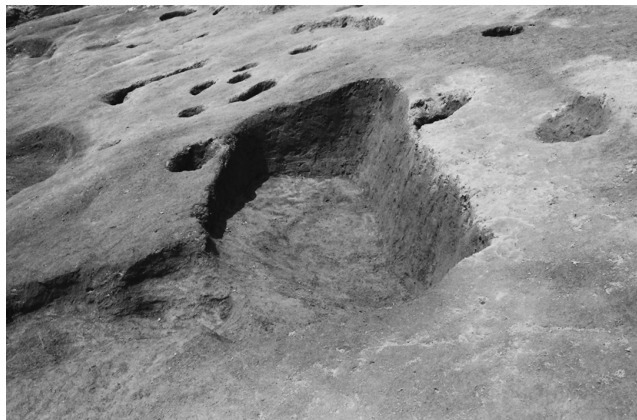
5号住居跡



1号集石遺構



1号土坑



5号土坑



8号土坑



9号土坑



作業風景



調査区全景



調査区全景



調査区全景



1号住居跡



2号住居跡



3号住居跡



22号土坑





調査区全景



1号住居跡



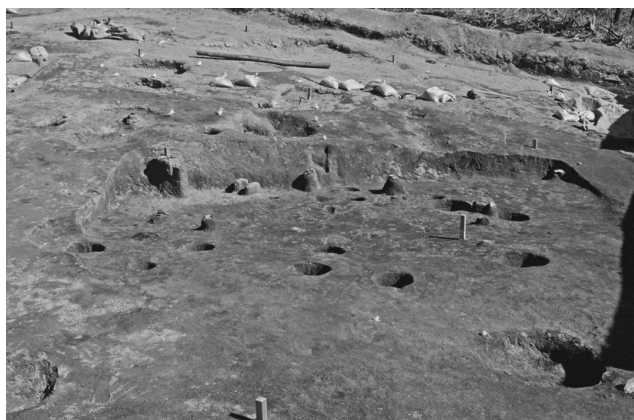
2号住居跡



3号住居跡



4号住居跡



6号住居跡



5号住居跡



5号住居跡カマド



5号住居跡炭化材出土状態



7a・7b・7c・7d号住居跡



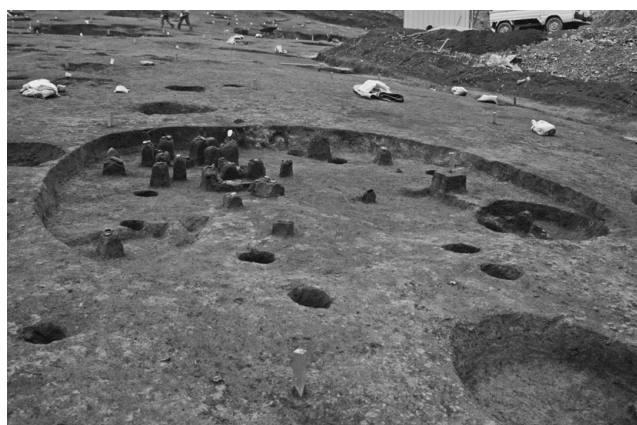
7a号住居跡埋設土器



7b号住居跡遺物出土状態



8号住居跡



8号住居跡遺物出土狀態



8号住居跡炉



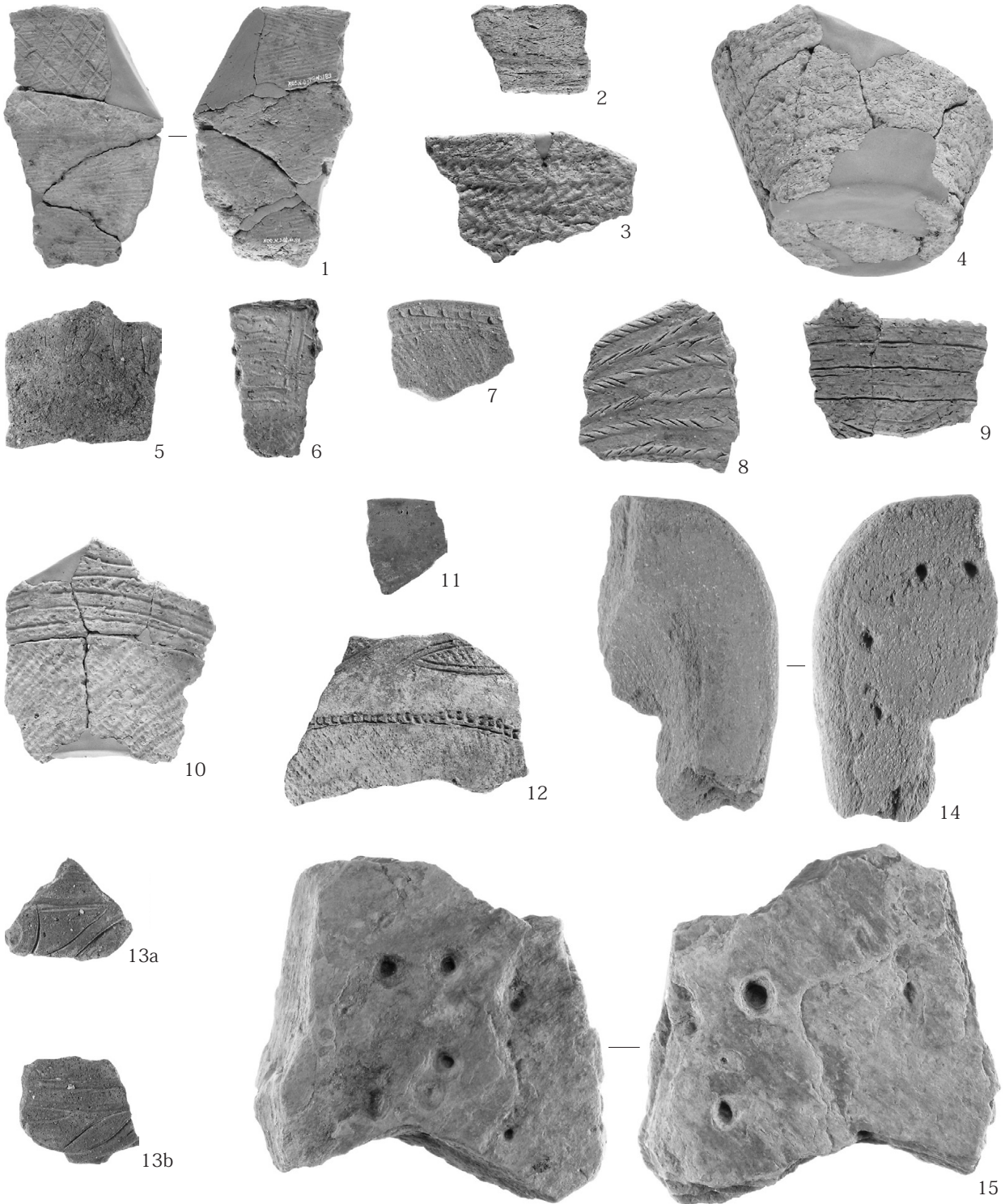
3号溝跡



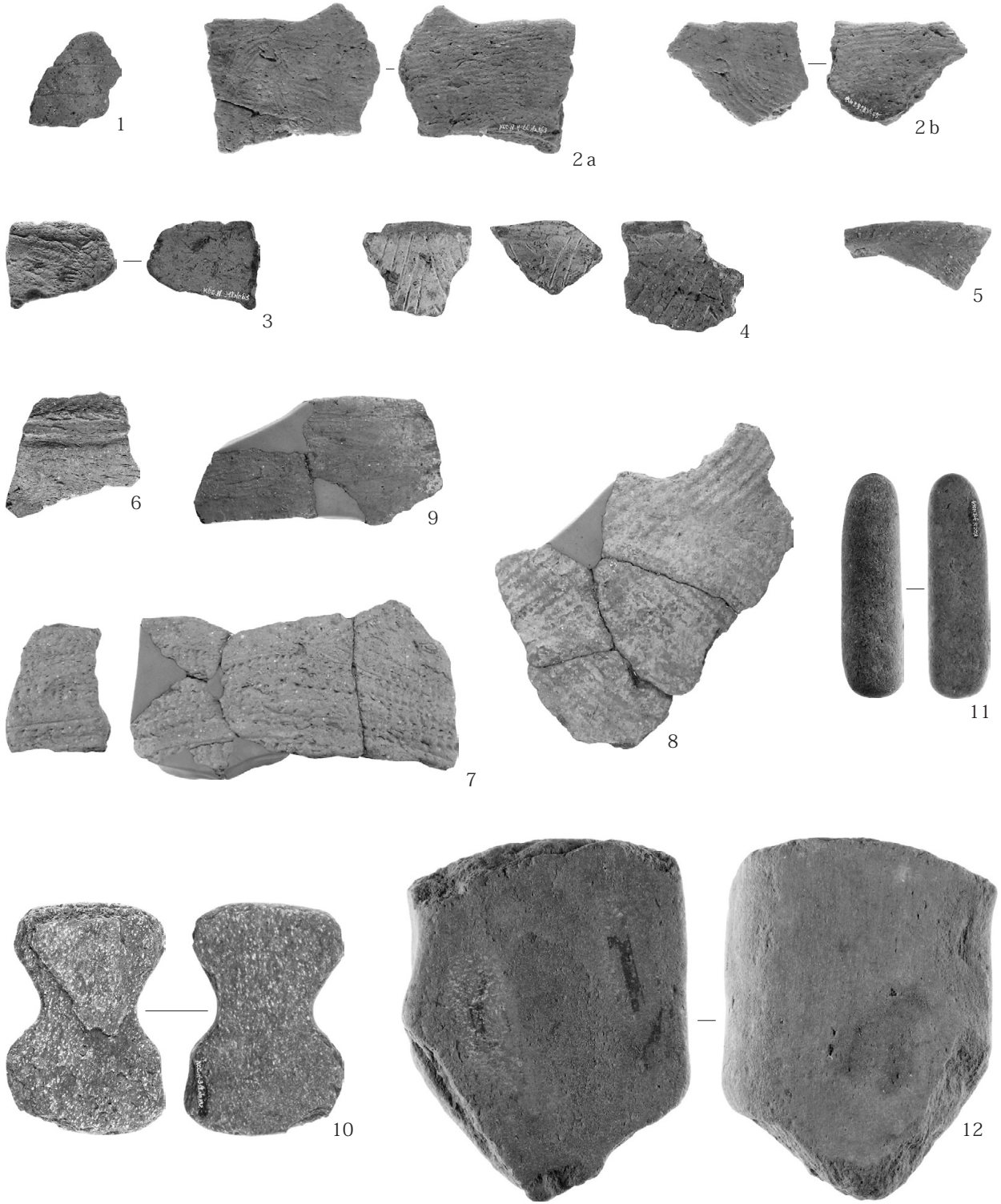
26号土坑



1号住居跡出土遺物



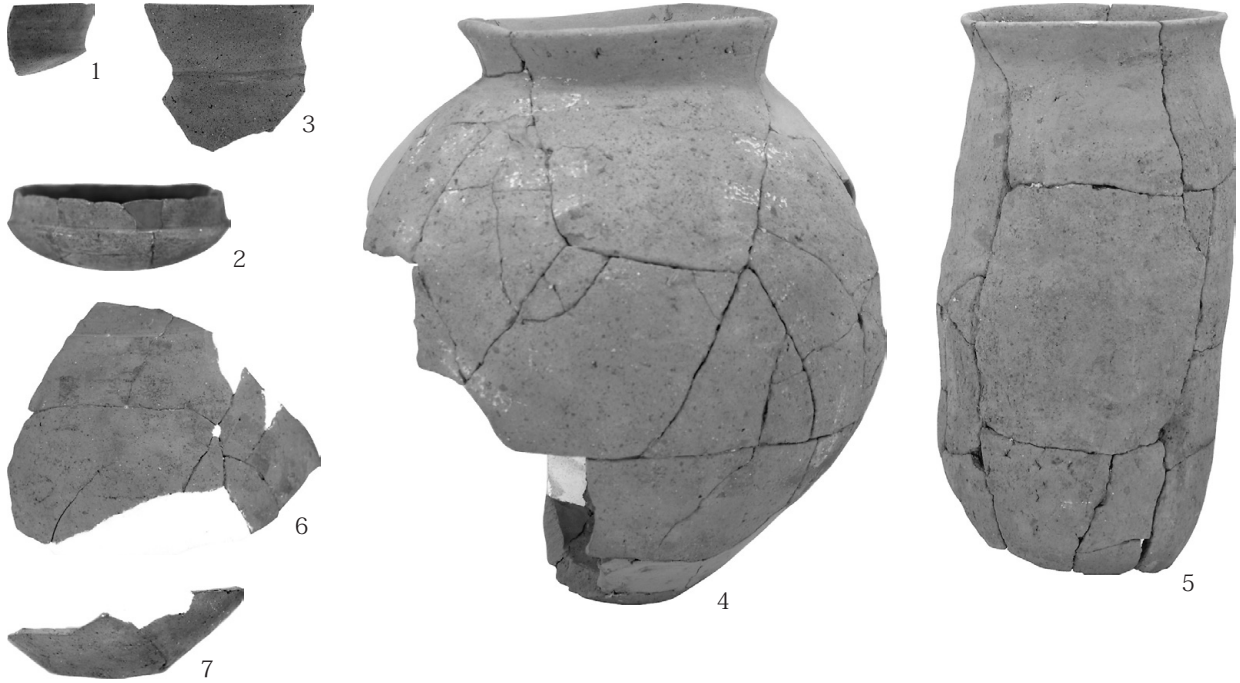
2号住居跡出土遺物



3号住居跡出土遺物



4号住居跡出土遺物



5号住居跡出土遺物



6号住居跡出土遺物

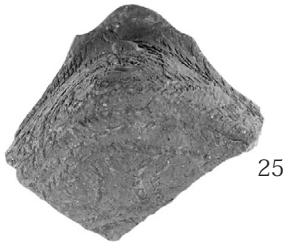


7号住居跡出土遺物 (1)



7号住居跡出土遺物(2)





25



26



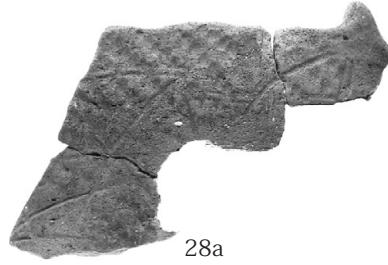
27



30



29



28a



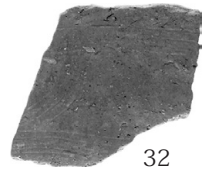
28b



28c



31



32



33



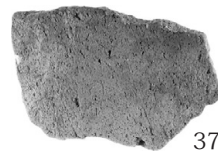
34



35



36



37



38



39

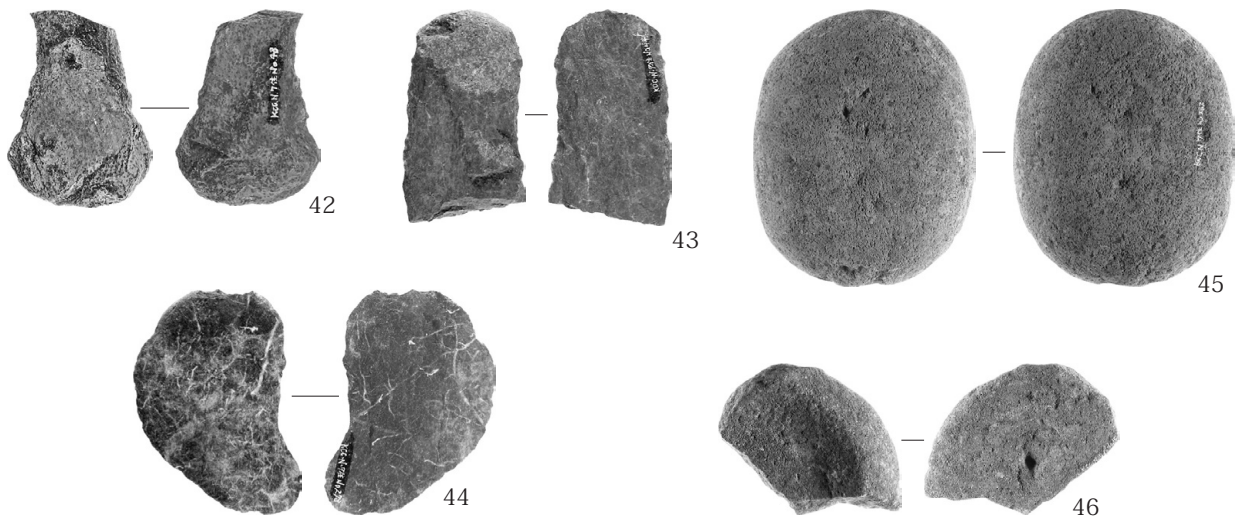


40

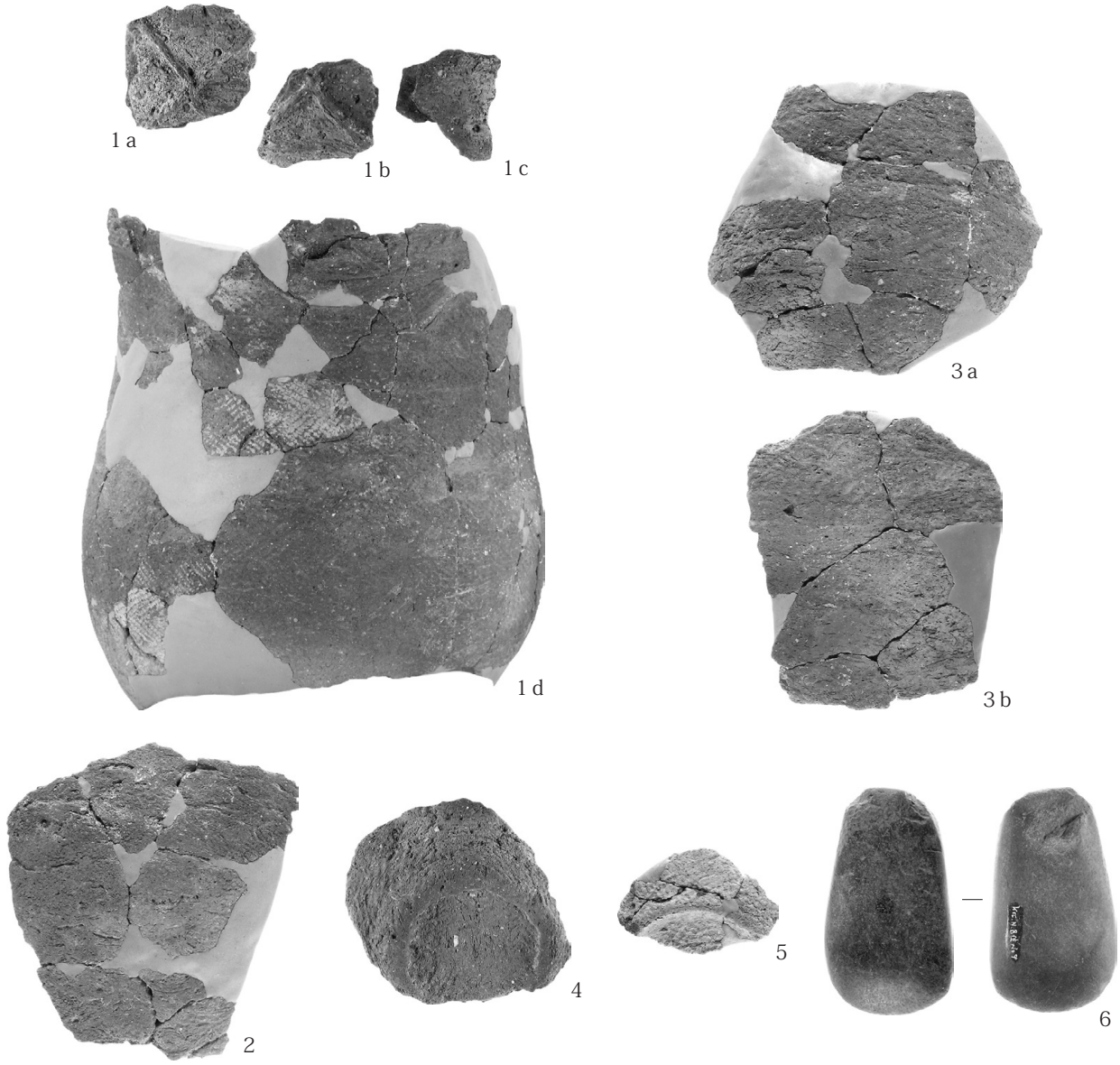


41

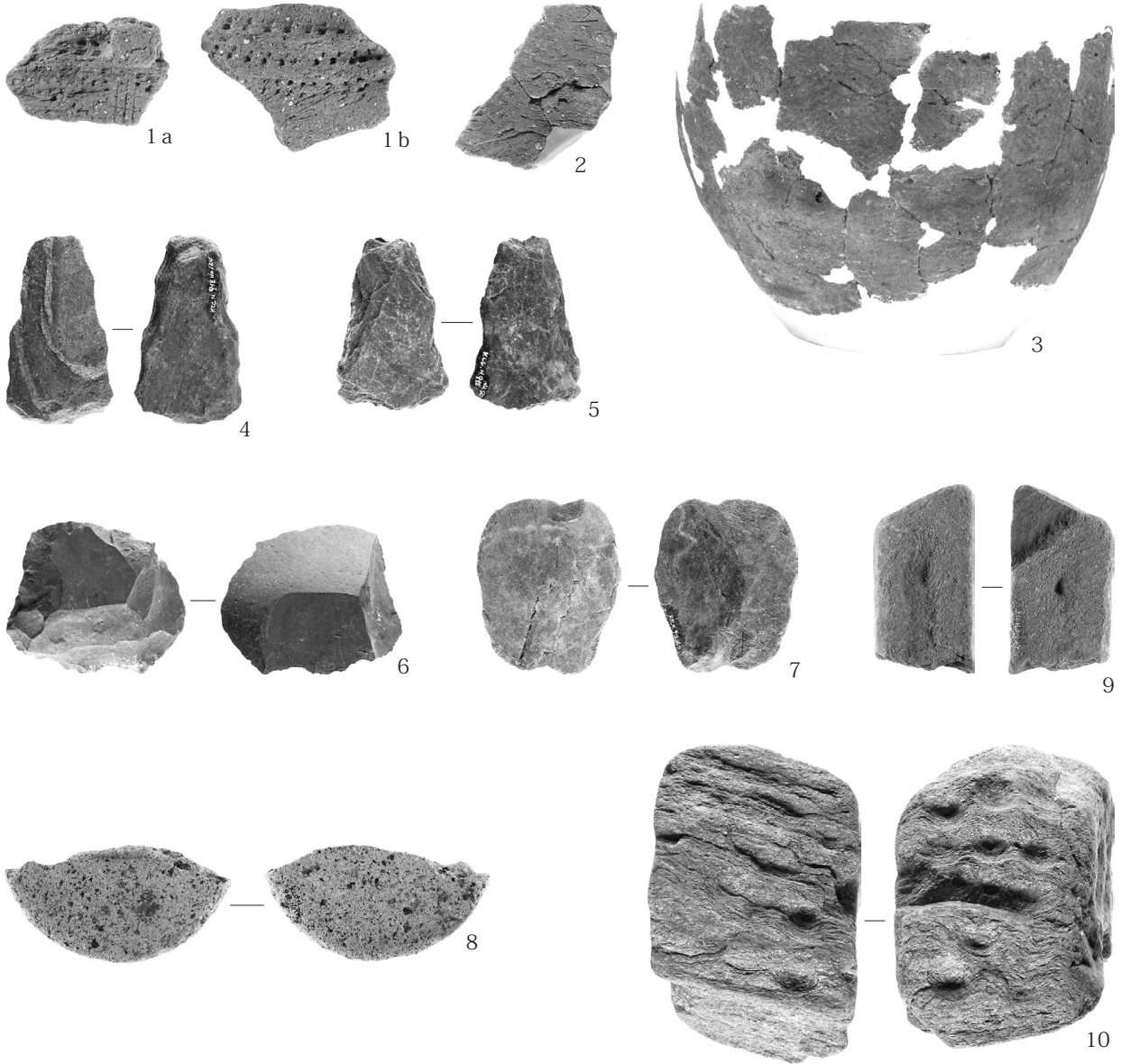
7号住居跡出土遺物 (3)



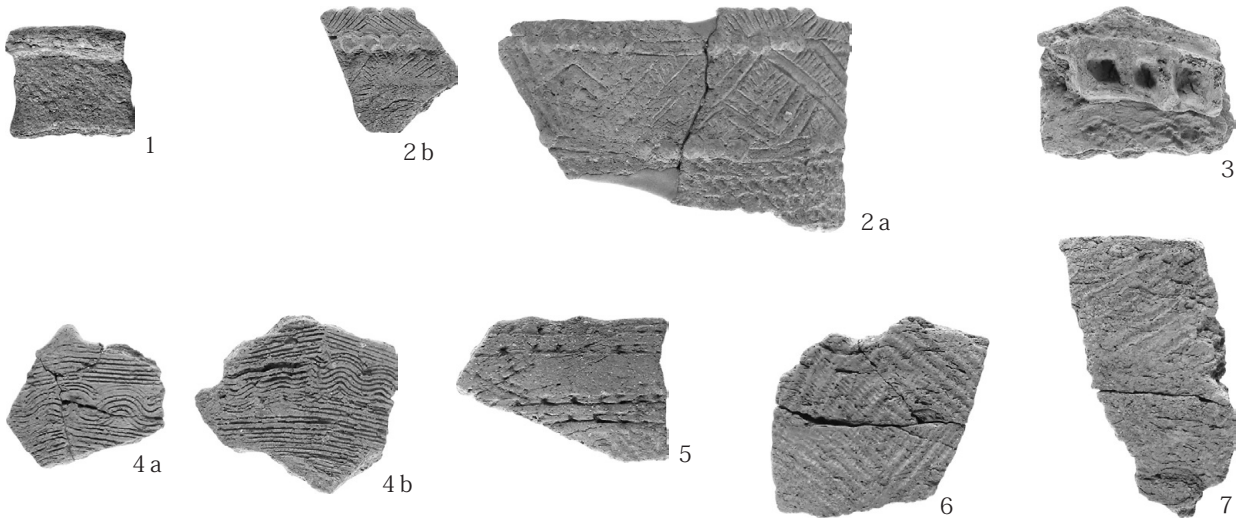
7号住居跡出土遺物 (4)



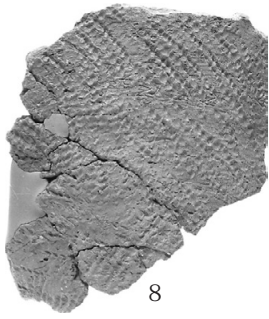
8a・8b号住居跡出土遺物



9号住居跡出土遺物



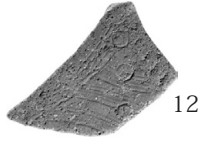
10号住居跡出土遺物(1)



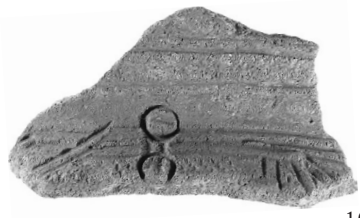
8



9



12



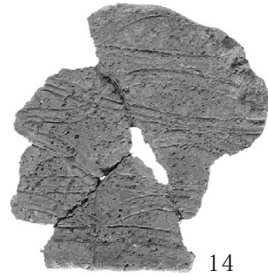
10



11



13



14



15



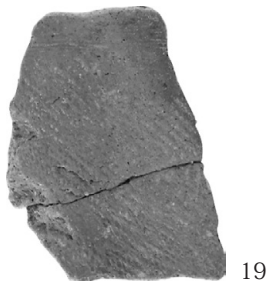
17



16



18



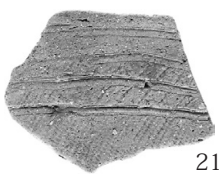
19



20a



20b



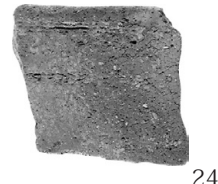
21



22



23



24



25



26

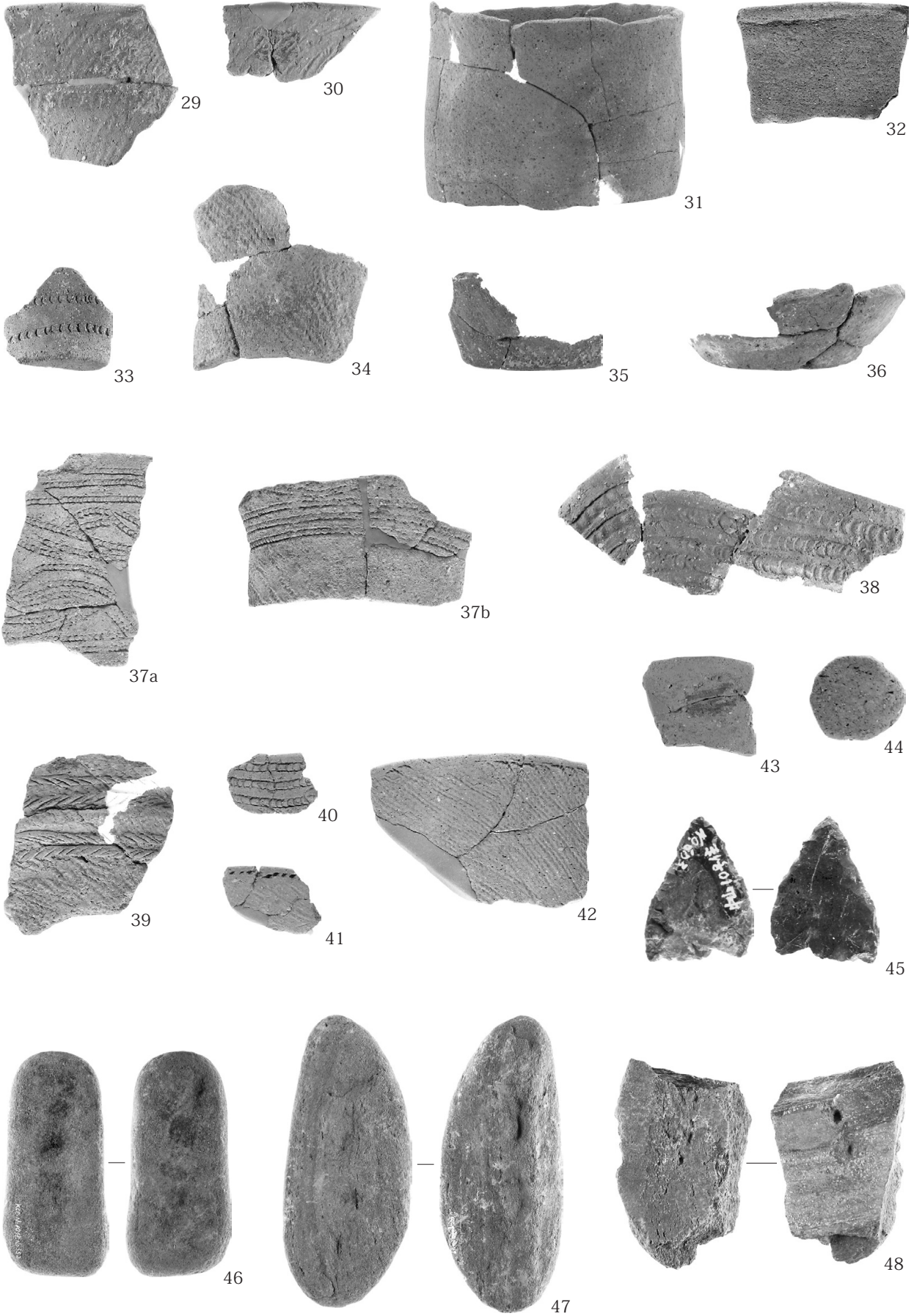


27

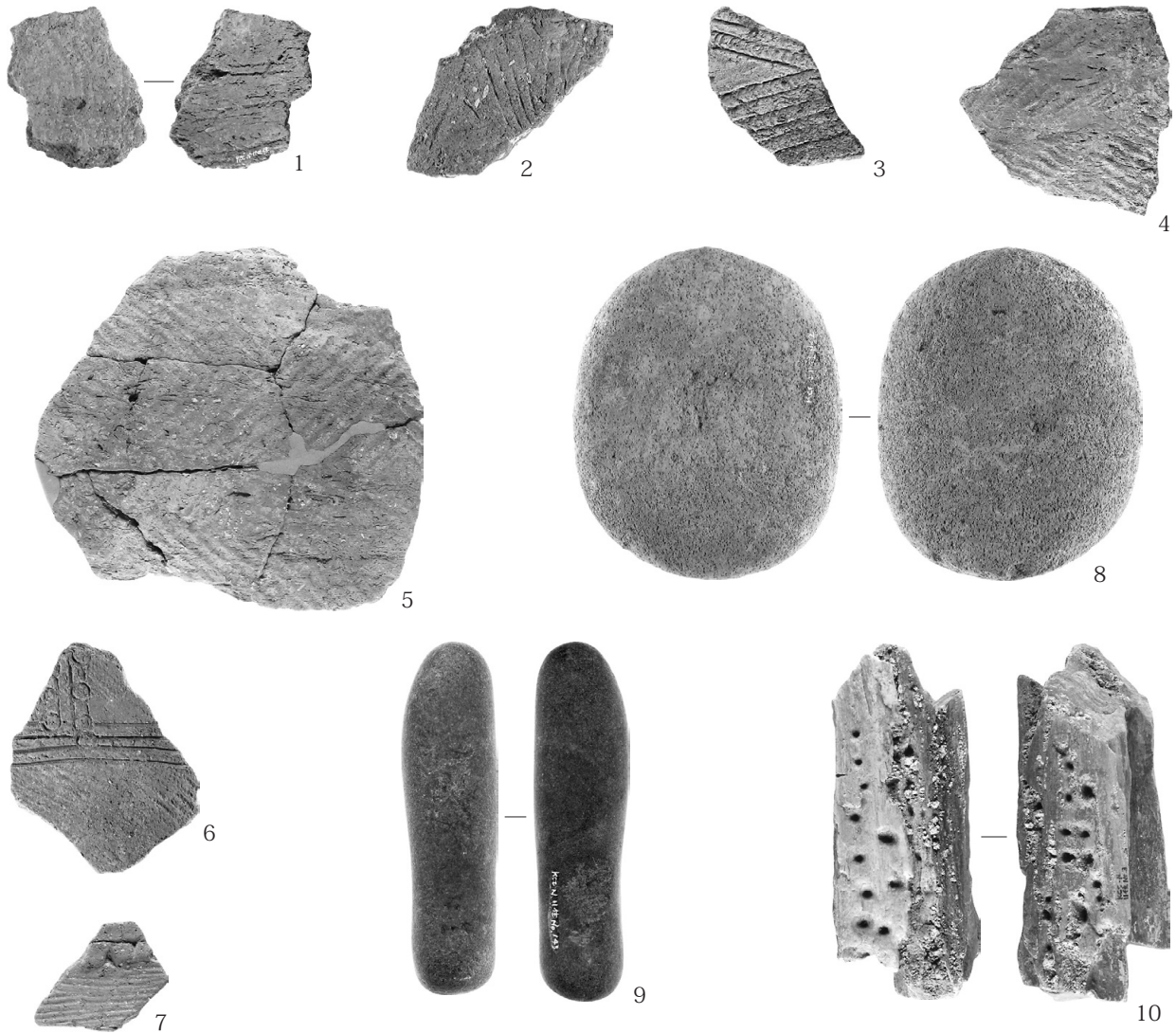


28

10号住居跡出土遺物(2)



10号住居跡出土遺物(3)



11a・11b号住居跡出土遺物

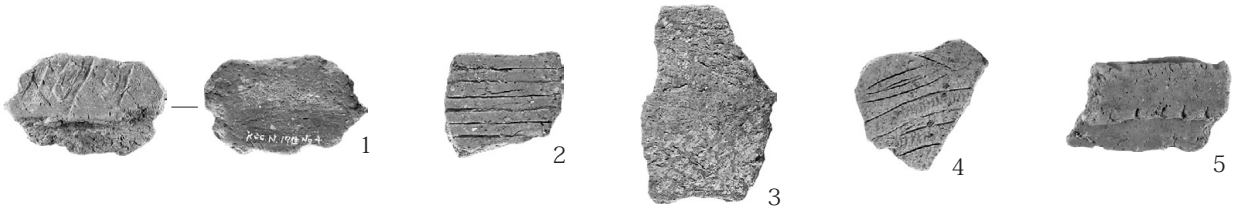


13号住居跡出土遺物

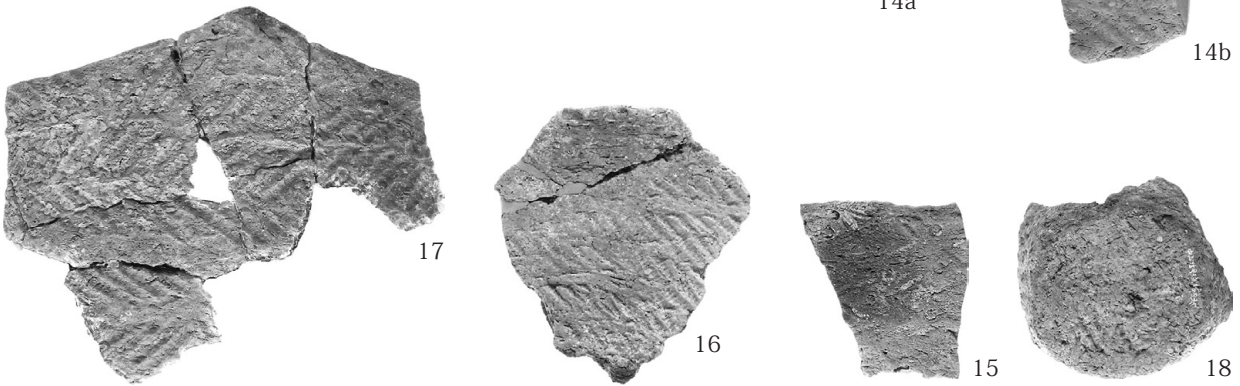
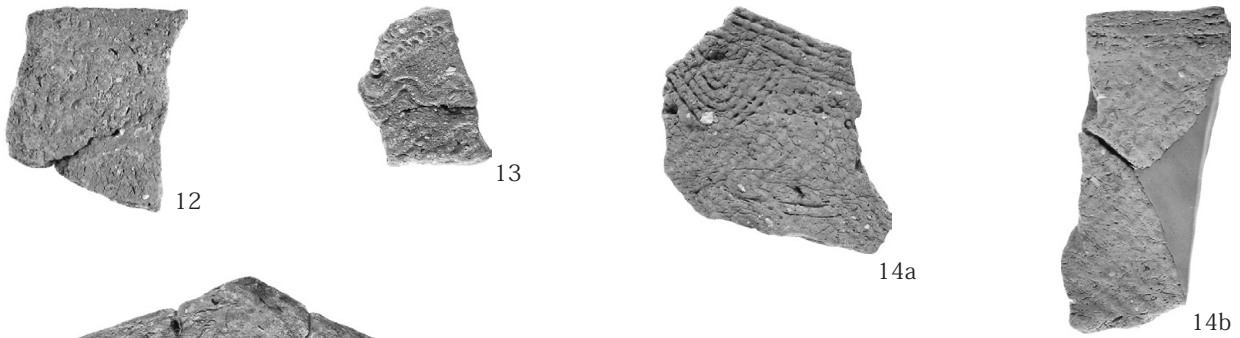
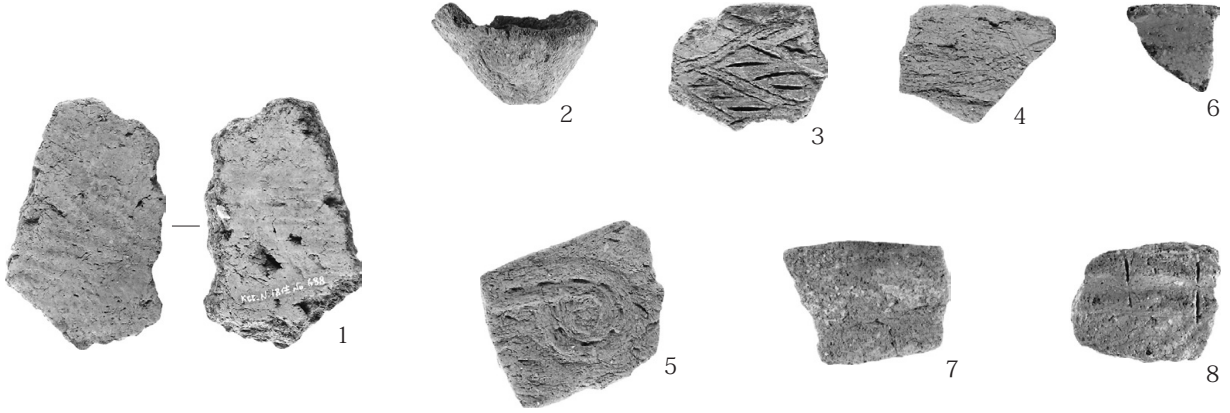
14号住居跡出土遺物



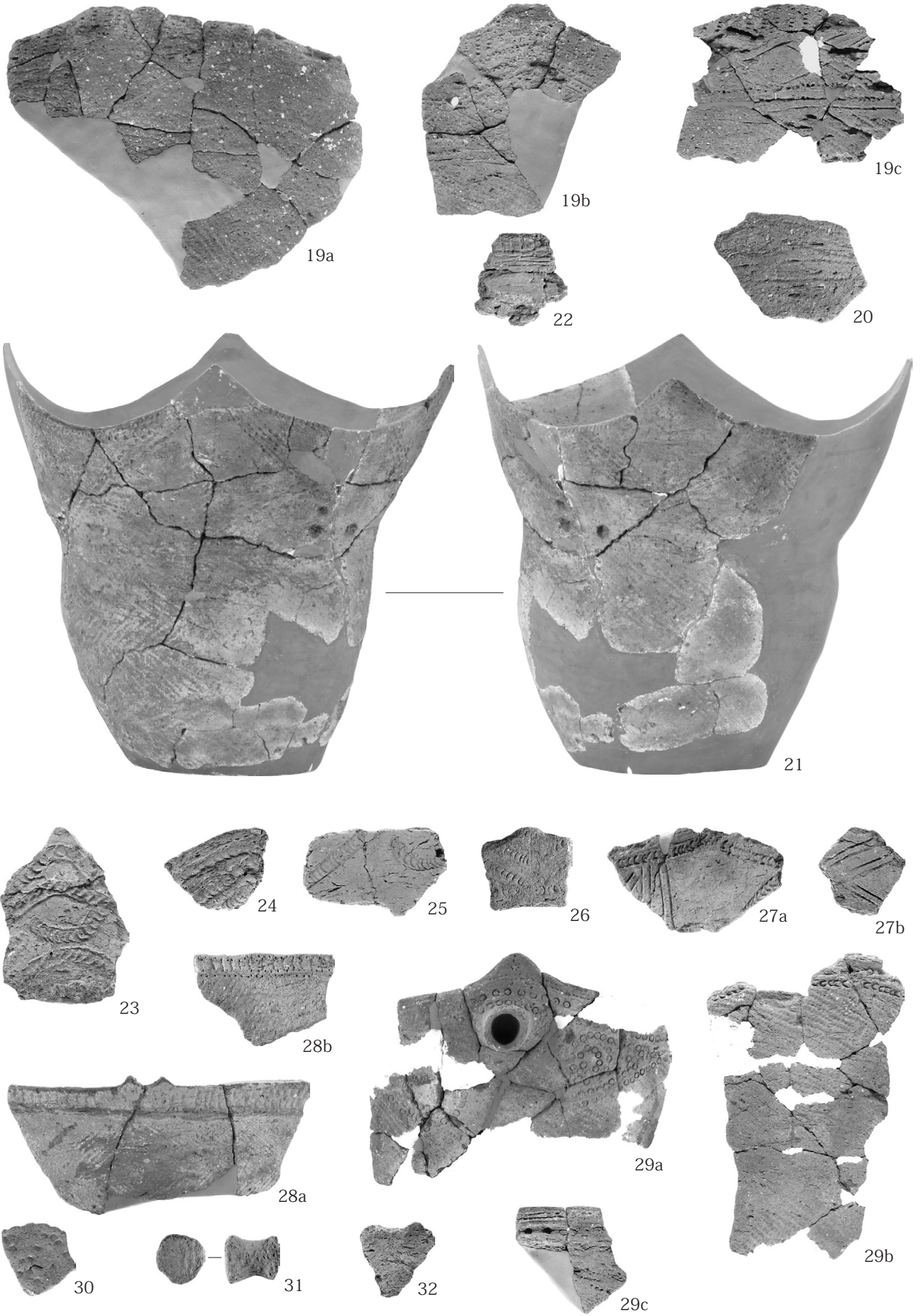
16号住居跡出土遺物



17号住居跡出土遺物



18a・18b号住居跡出土遺物(1)

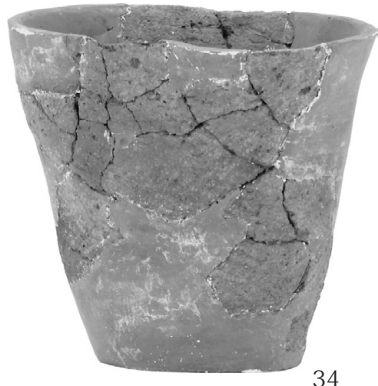


18a・18b号住居跡出土遺物(2)





33



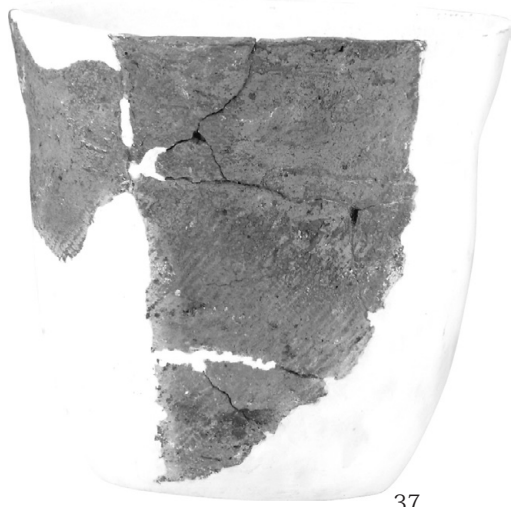
34



36



35



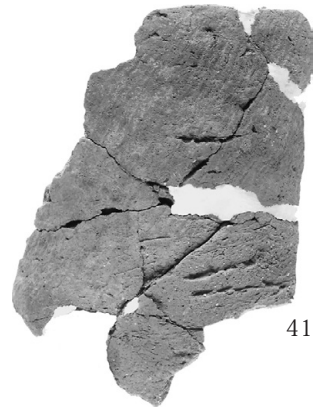
37



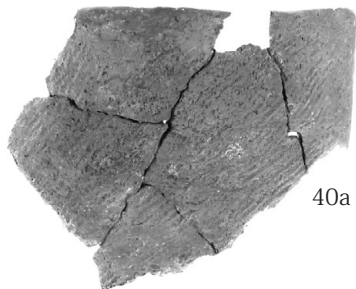
38



39



41



40a



40b

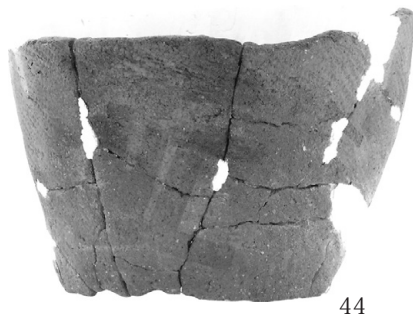


42

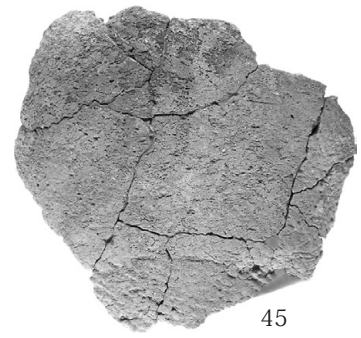
18a・18b 号住居跡出土遺物 (3)



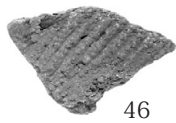
43



44



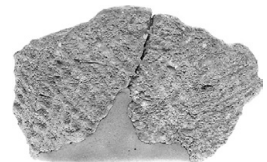
45



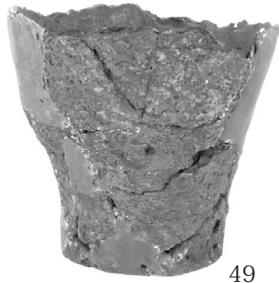
46



47



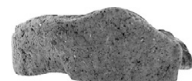
48



49



51



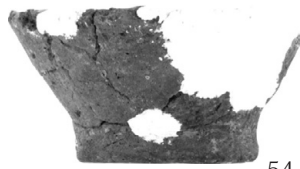
52



50



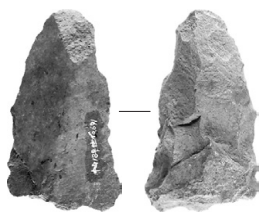
53



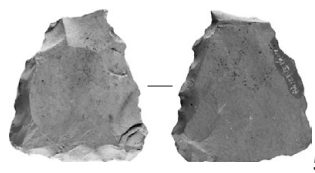
54



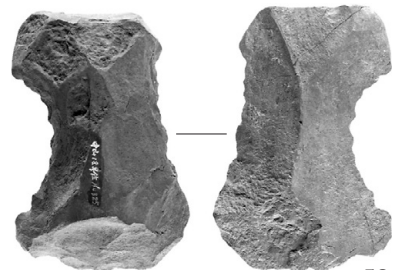
55



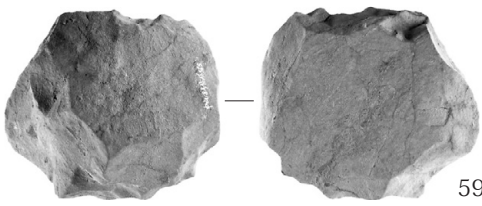
56



57



58

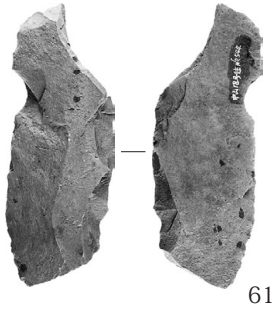


59

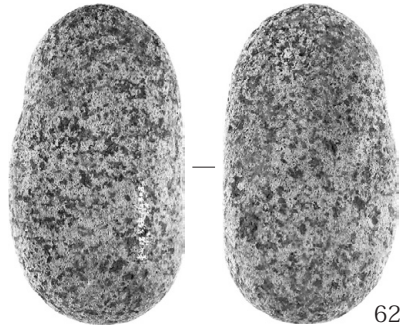


60

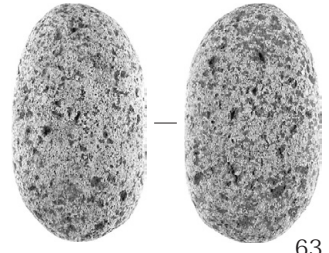
18a・18b号住居跡出土遺物(4)



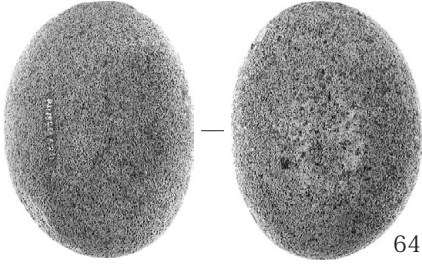
61



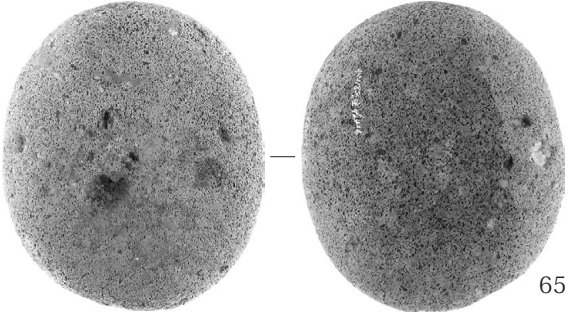
62



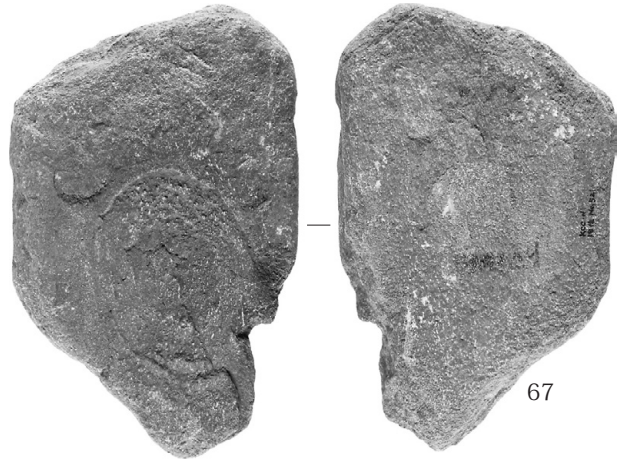
63



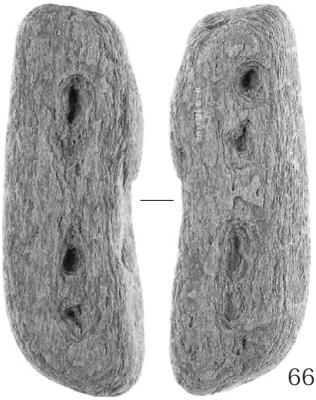
64



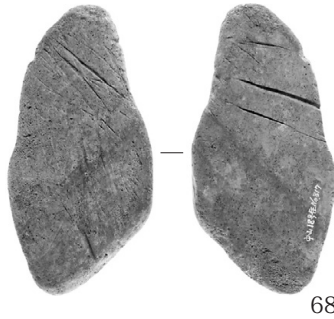
65



67



66

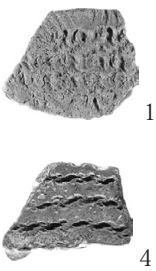


68



69

18a・18b 号住居跡出土遺物 (5)



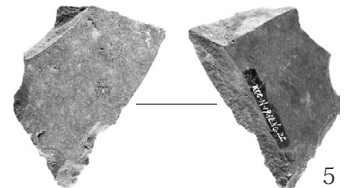
1



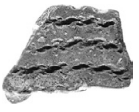
2



3

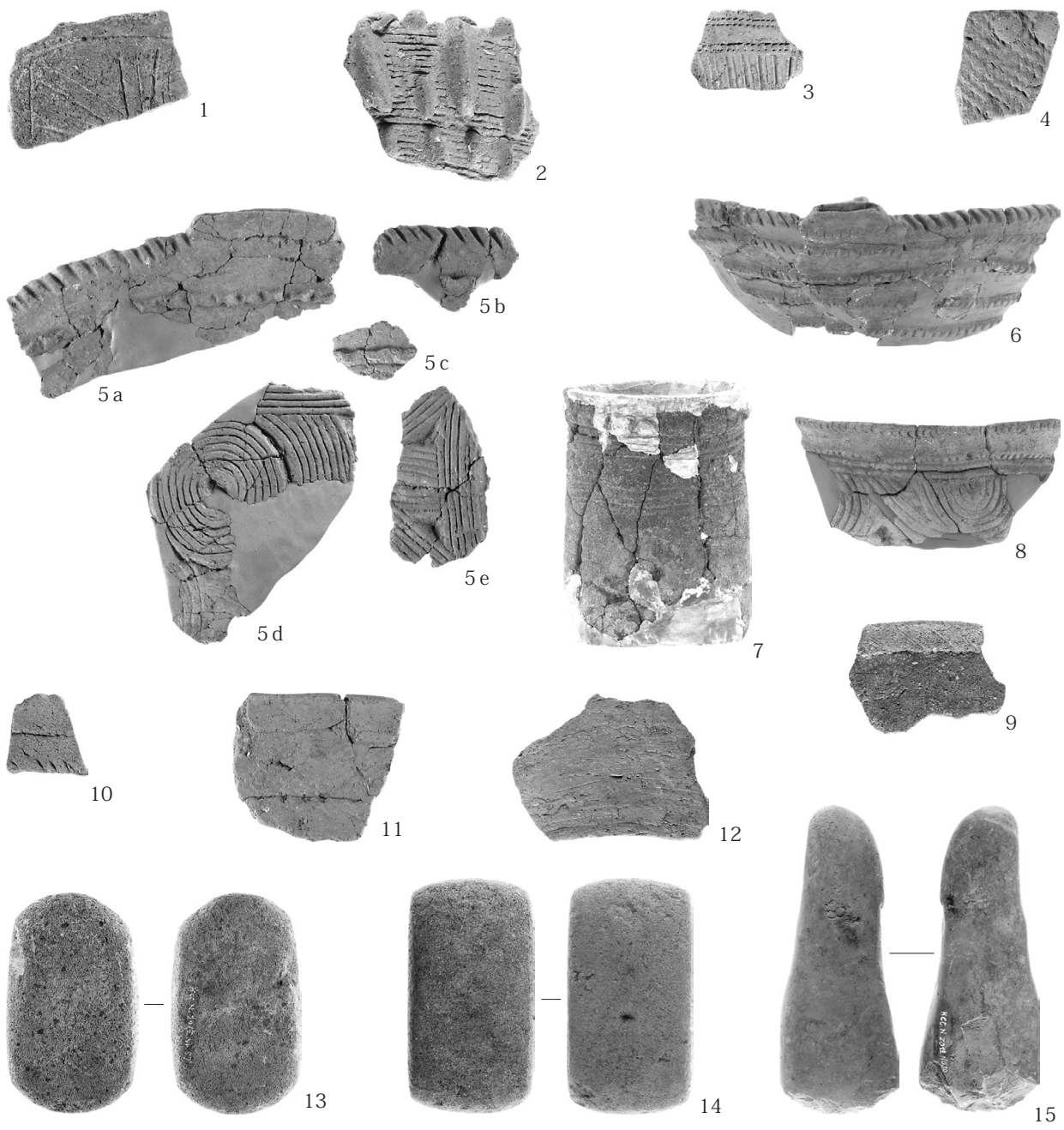


5

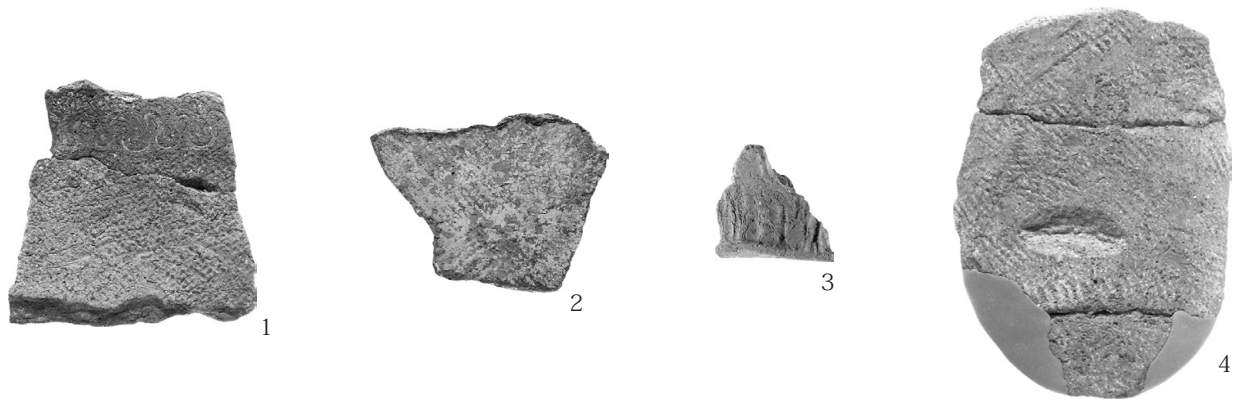


4

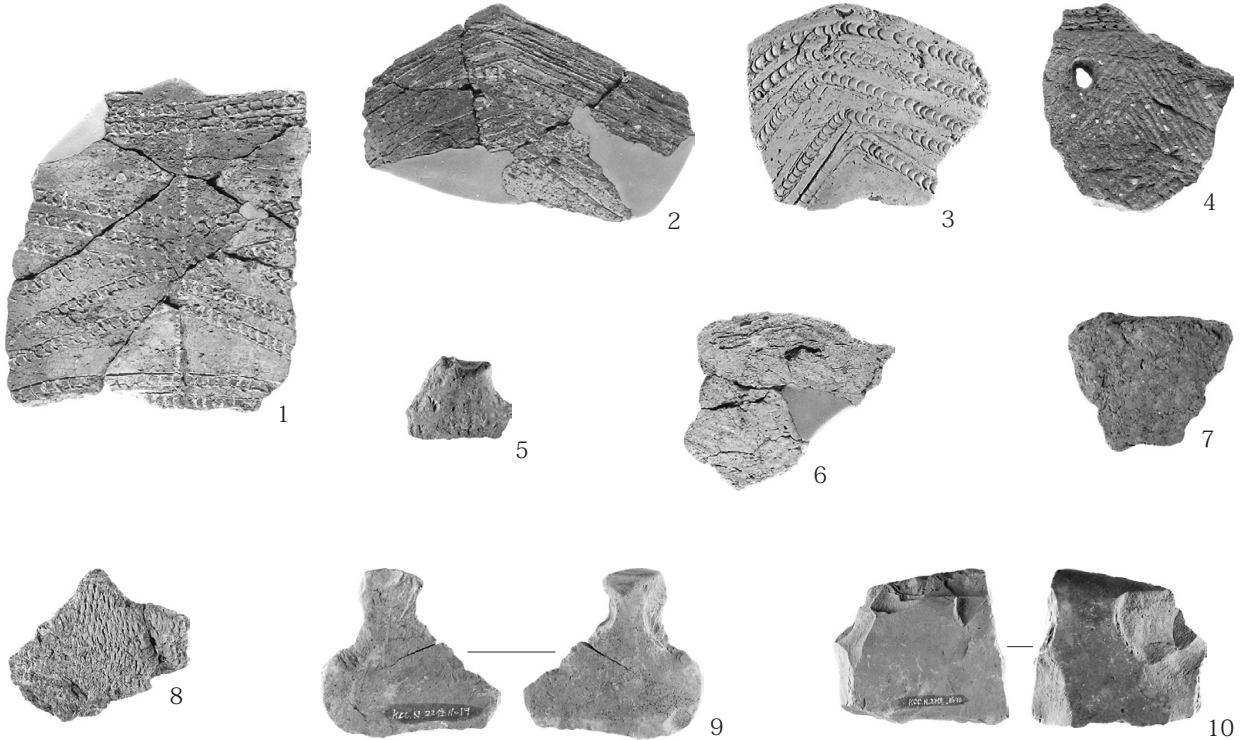
19 号住居跡出土遺物



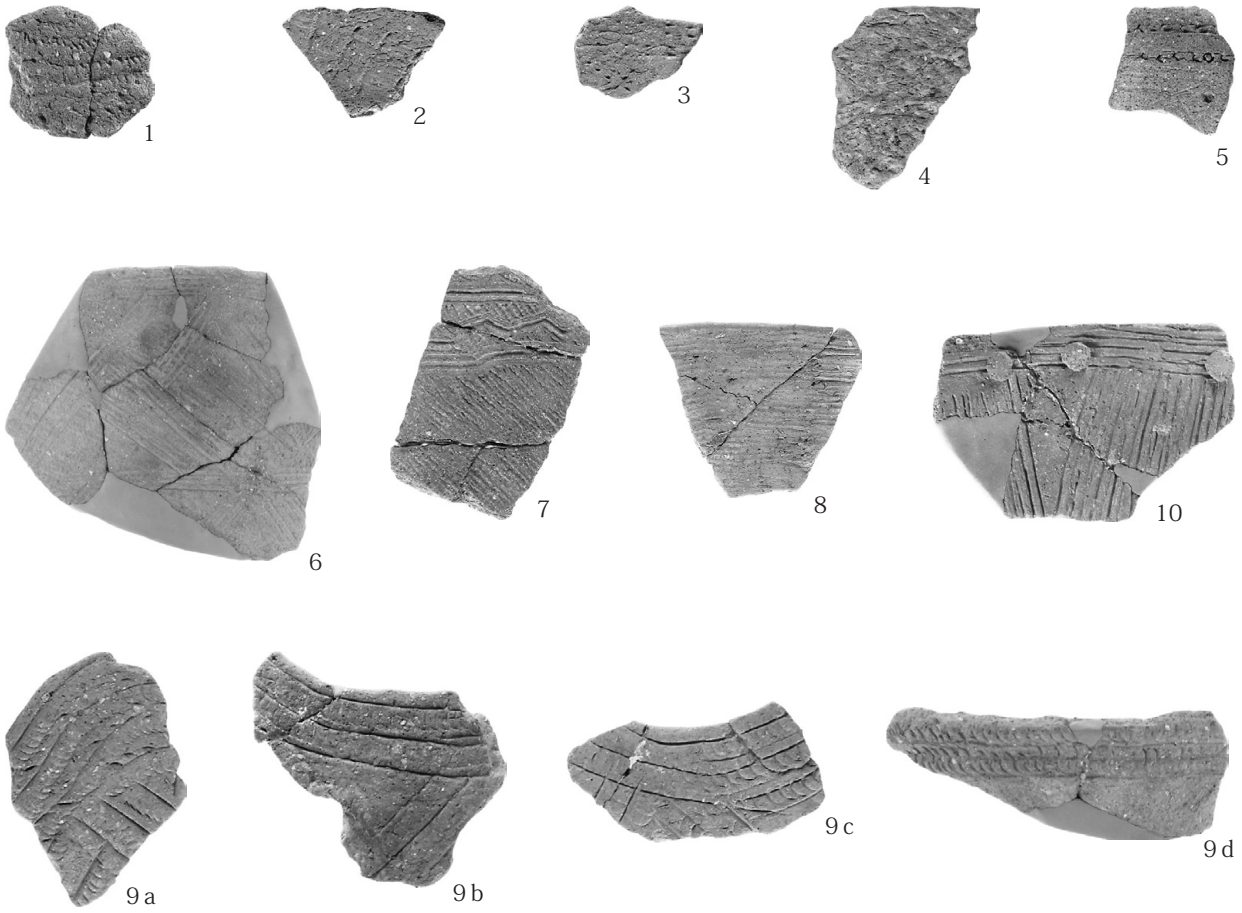
20a・20b号住居跡出土遺物



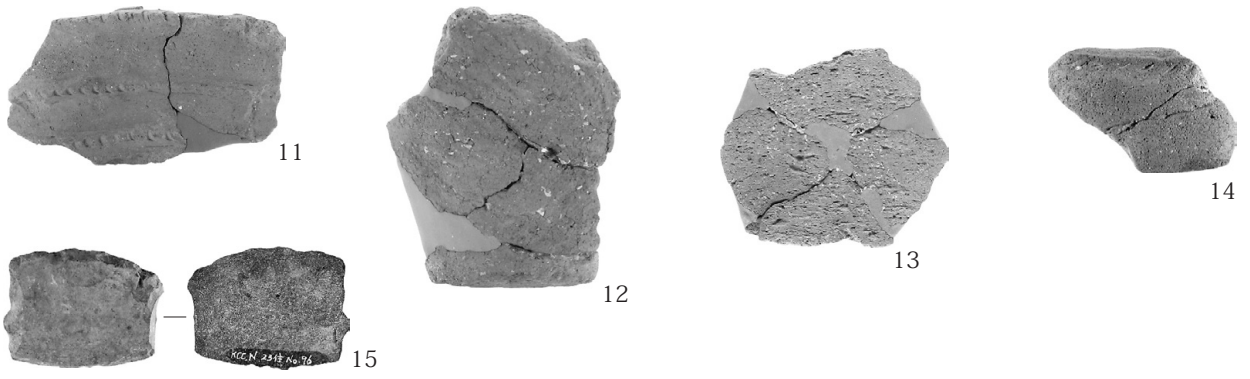
21号住居跡出土遺物



22号住居跡出土遺物



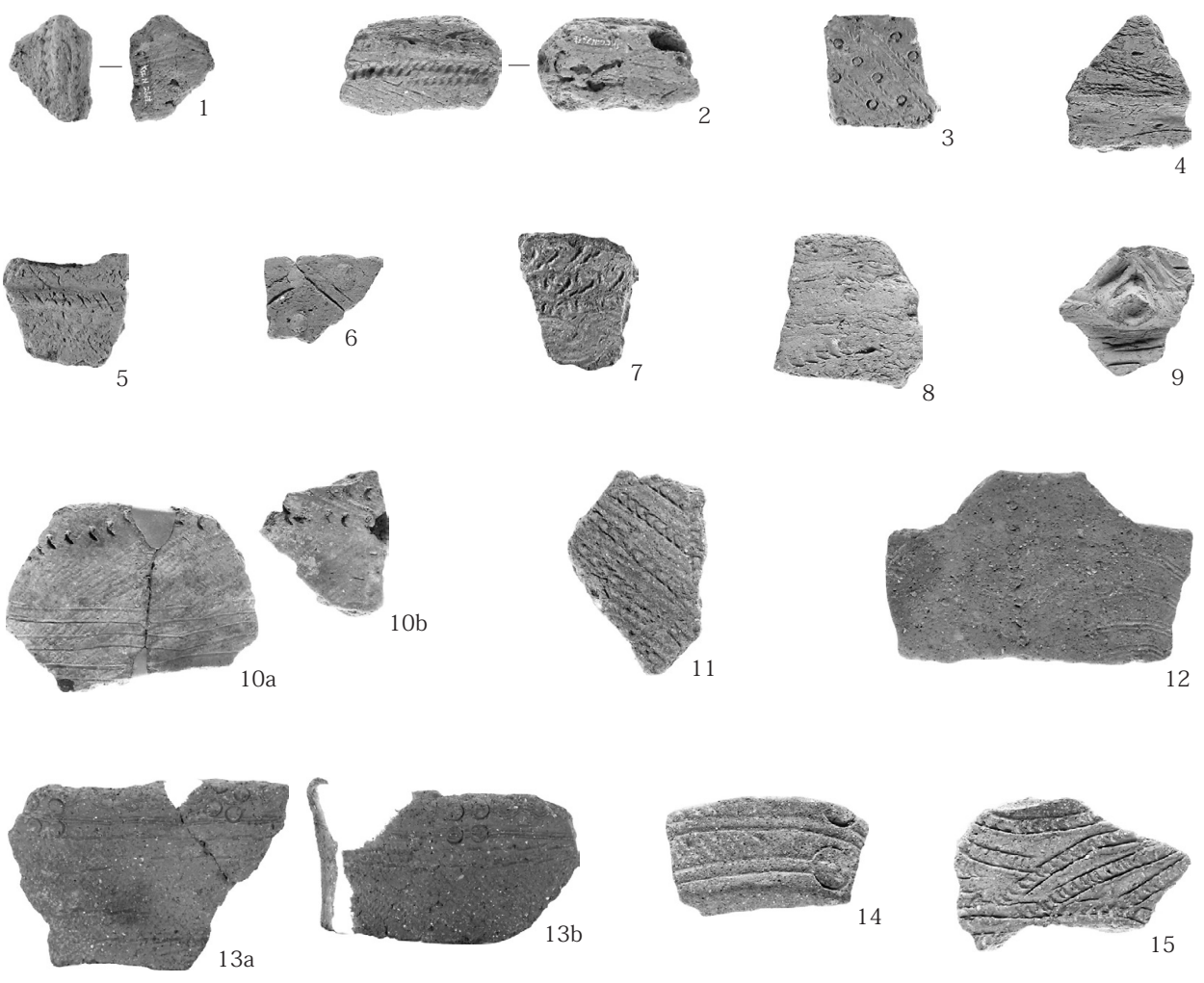
23号住居跡出土遺物(1)



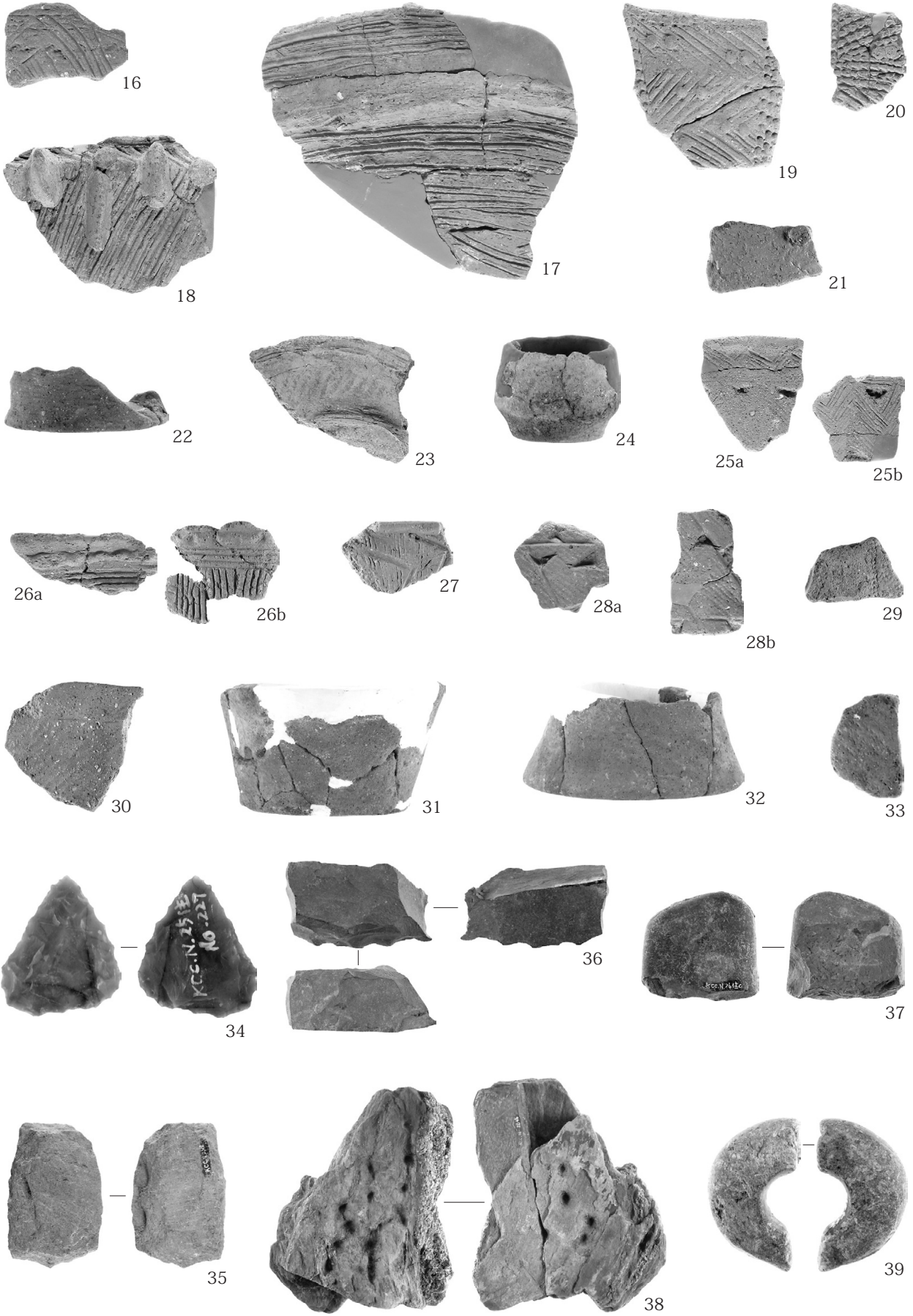
23号住居跡出土遺物(2)



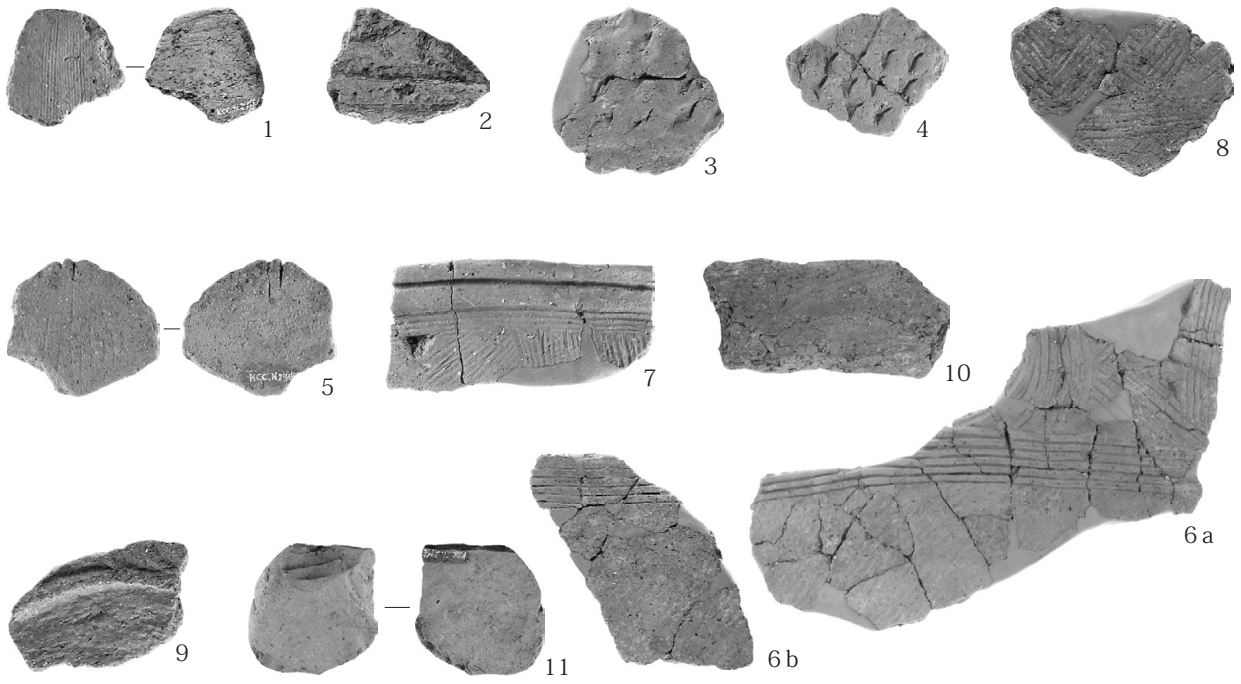
24号住居跡出土遺物



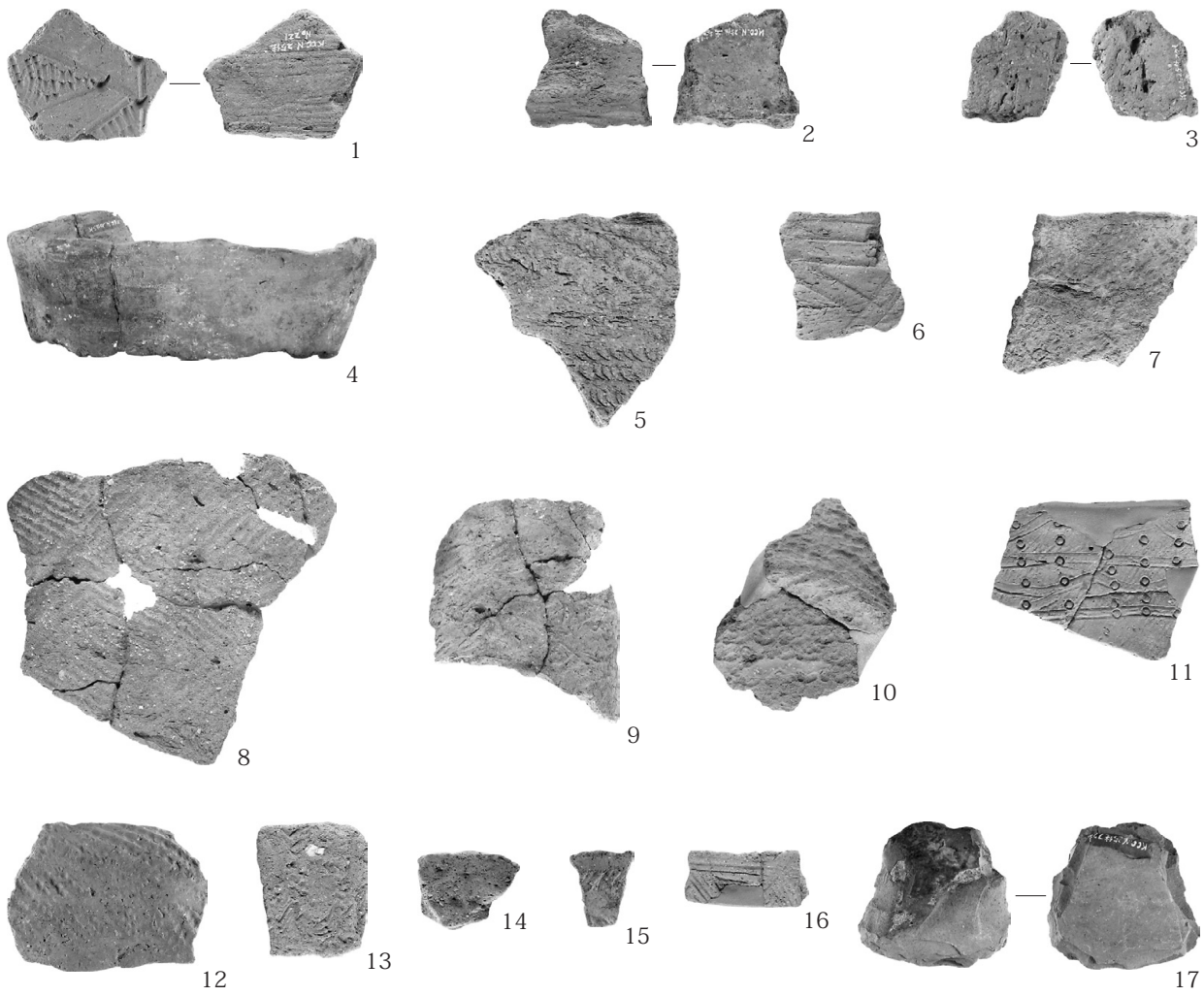
26a・26b・26c号住居跡出土遺物(1)



26a・26b・26c 号住居跡出土遺物 (2)



27a・27b号住居跡出土遺物

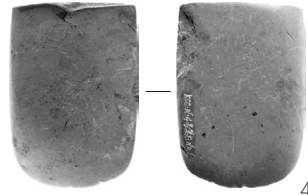


28号住居跡出土遺物





4集1



4集2

集石遺構出土遺物



4±1



4±2



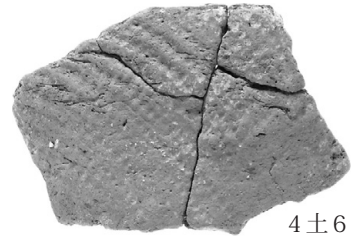
4±3



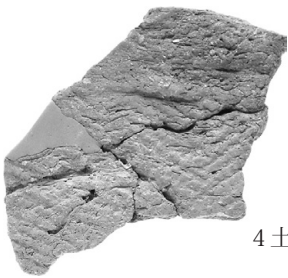
4±4



4±5



4±6



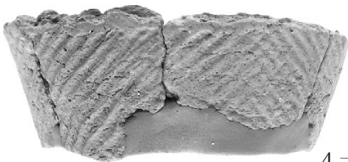
4±7



4±8



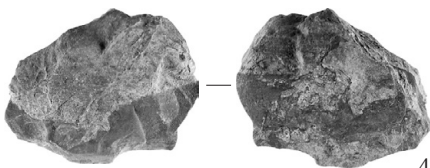
4±10



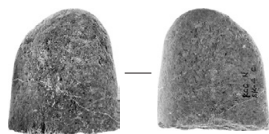
4±9a



4±9b



4±11

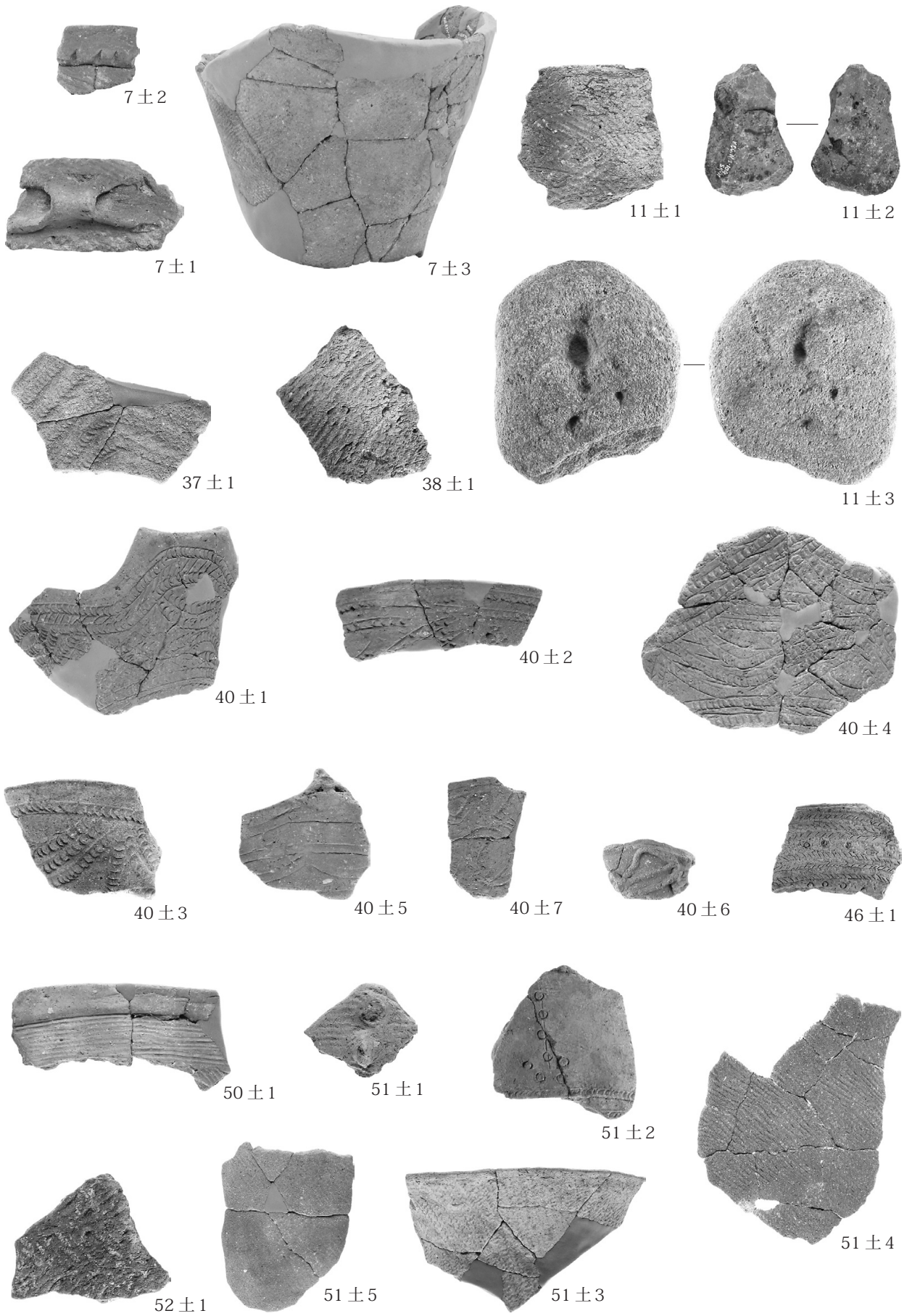


4±13



4±12

土坑出土遺物 (1)



土坑出土遺物 (2)



54 ± 1 a



54 ± 1 b



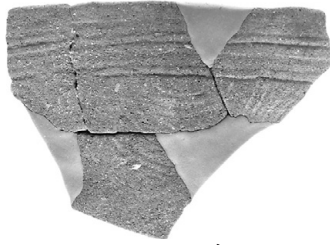
54 ± 2



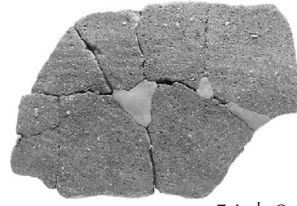
54 ± 4



54 ± 3 a



54 ± 3 b



54 ± 3 c



55 ± 2



55 ± 1



55 ± 4



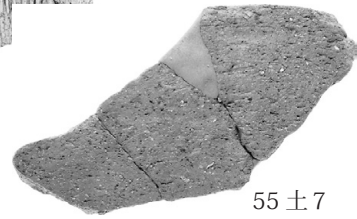
55 ± 5



55 ± 6



55 ± 3



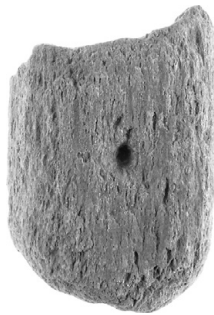
55 ± 7



65 ± 1



77 ± 1



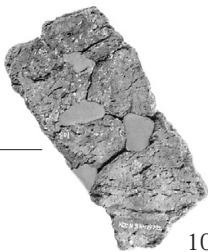
92 ± 1



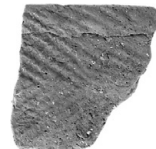
93 ± 1



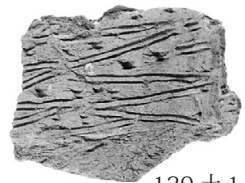
103 ± 1



114 ± 1

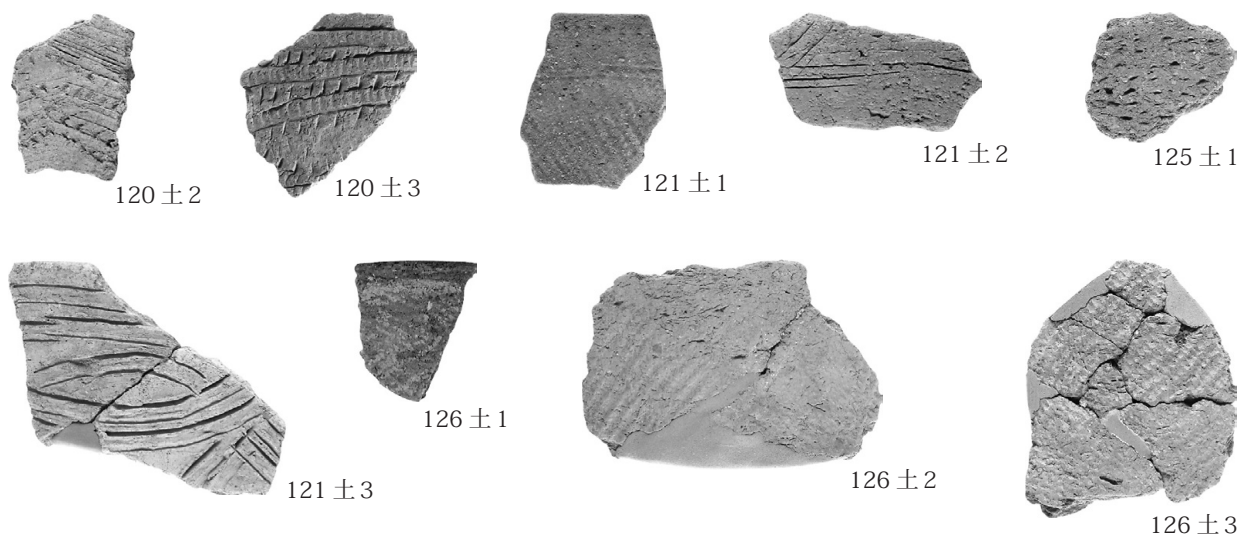


114 ± 2



120 ± 1

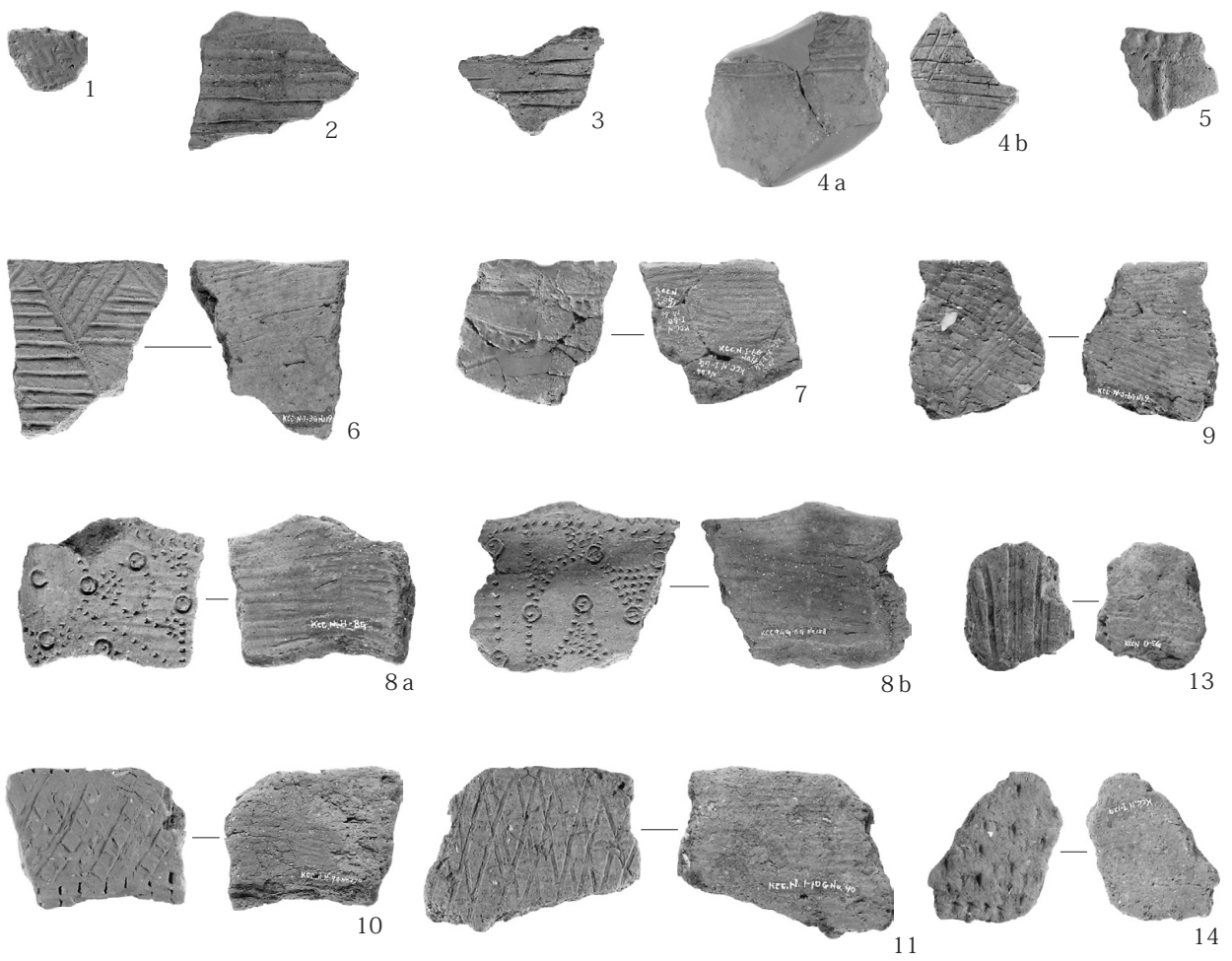
土坑出土遺物 (3)



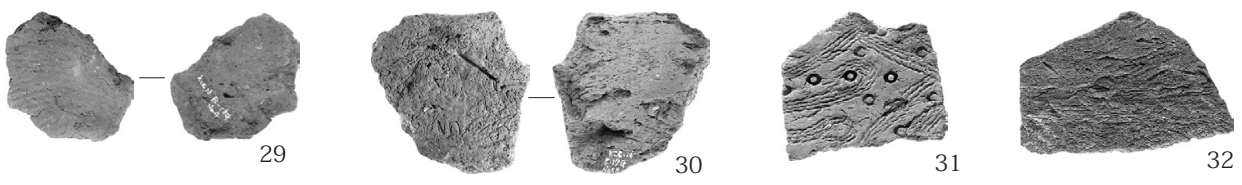
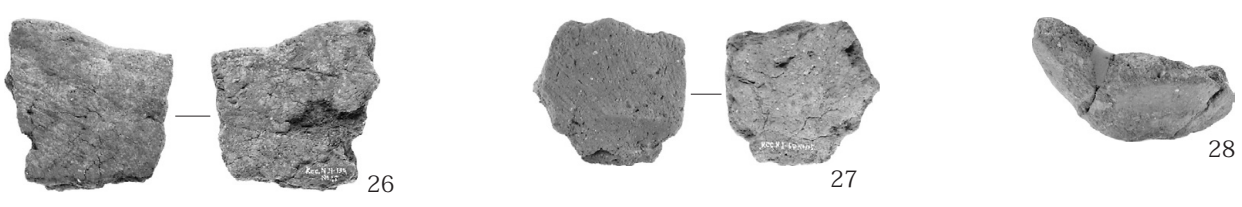
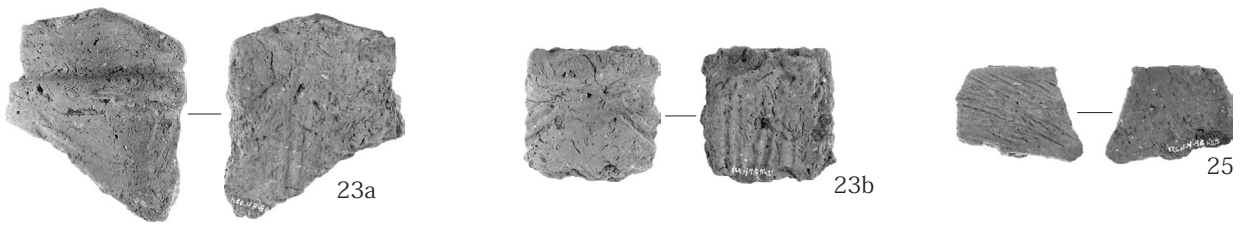
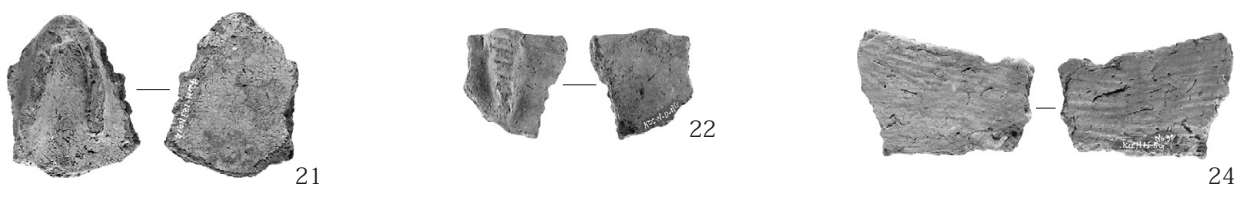
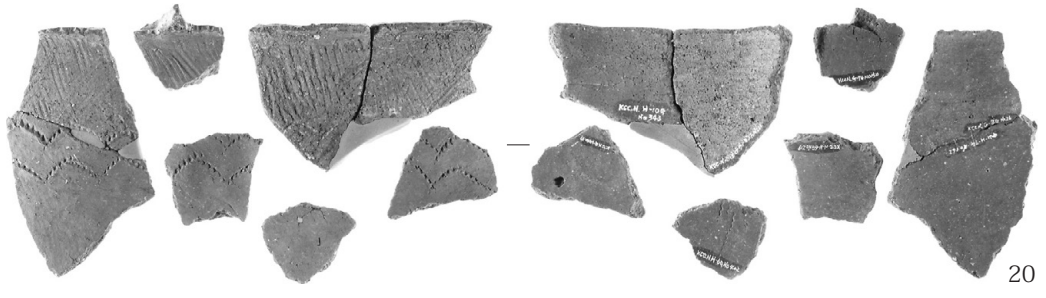
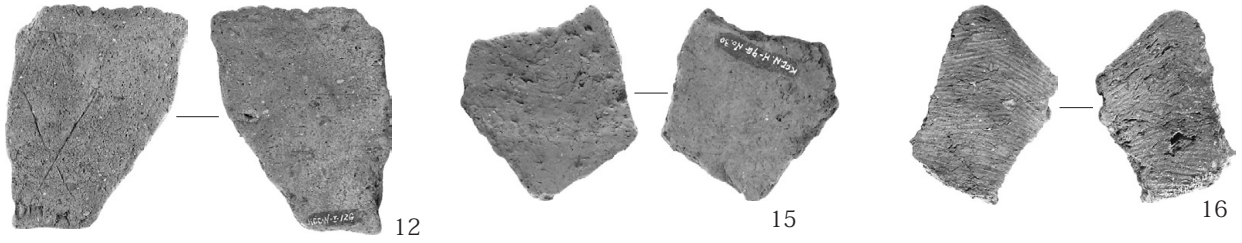
土坑出土遺物 (4)



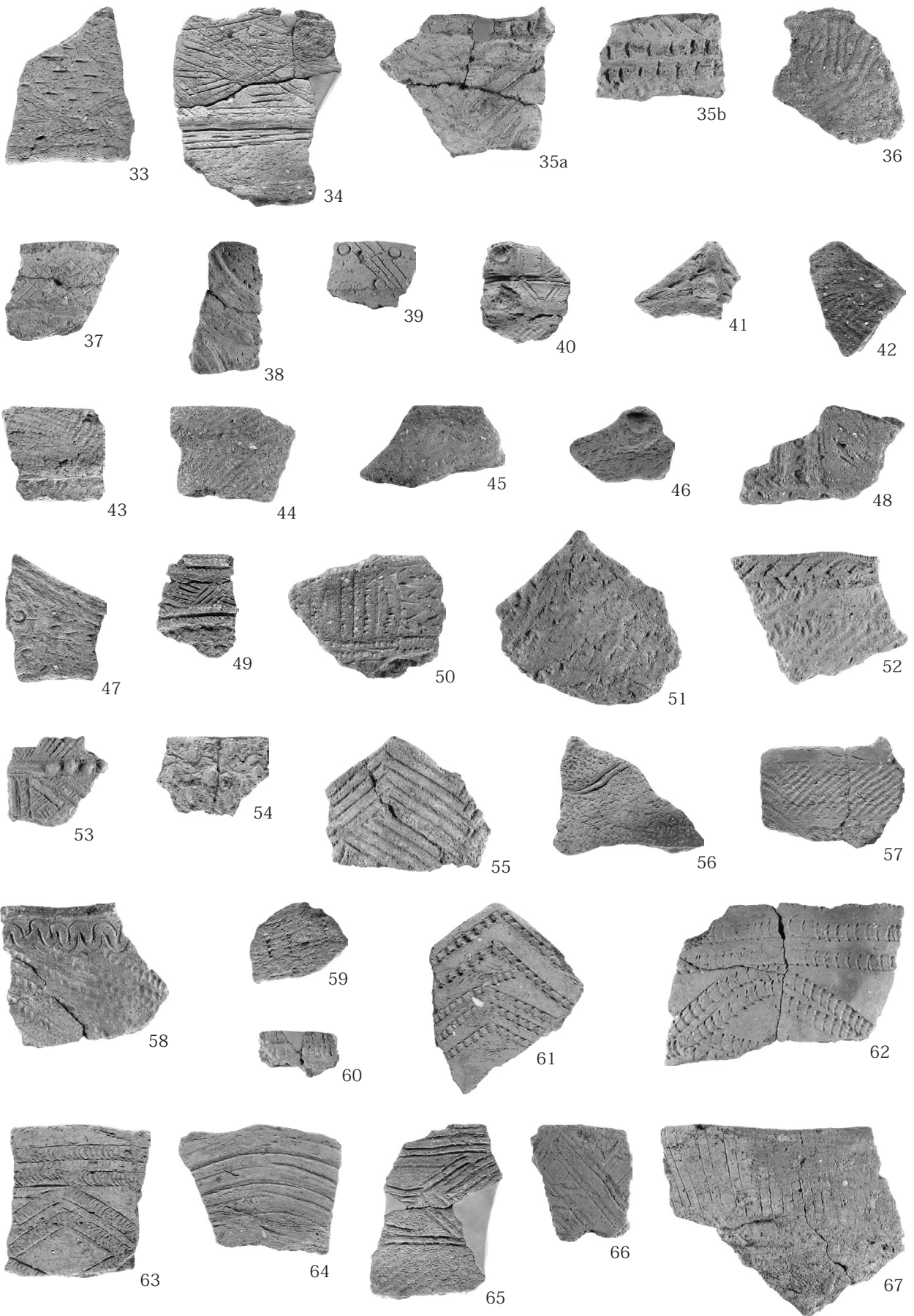
小穴出土遺物



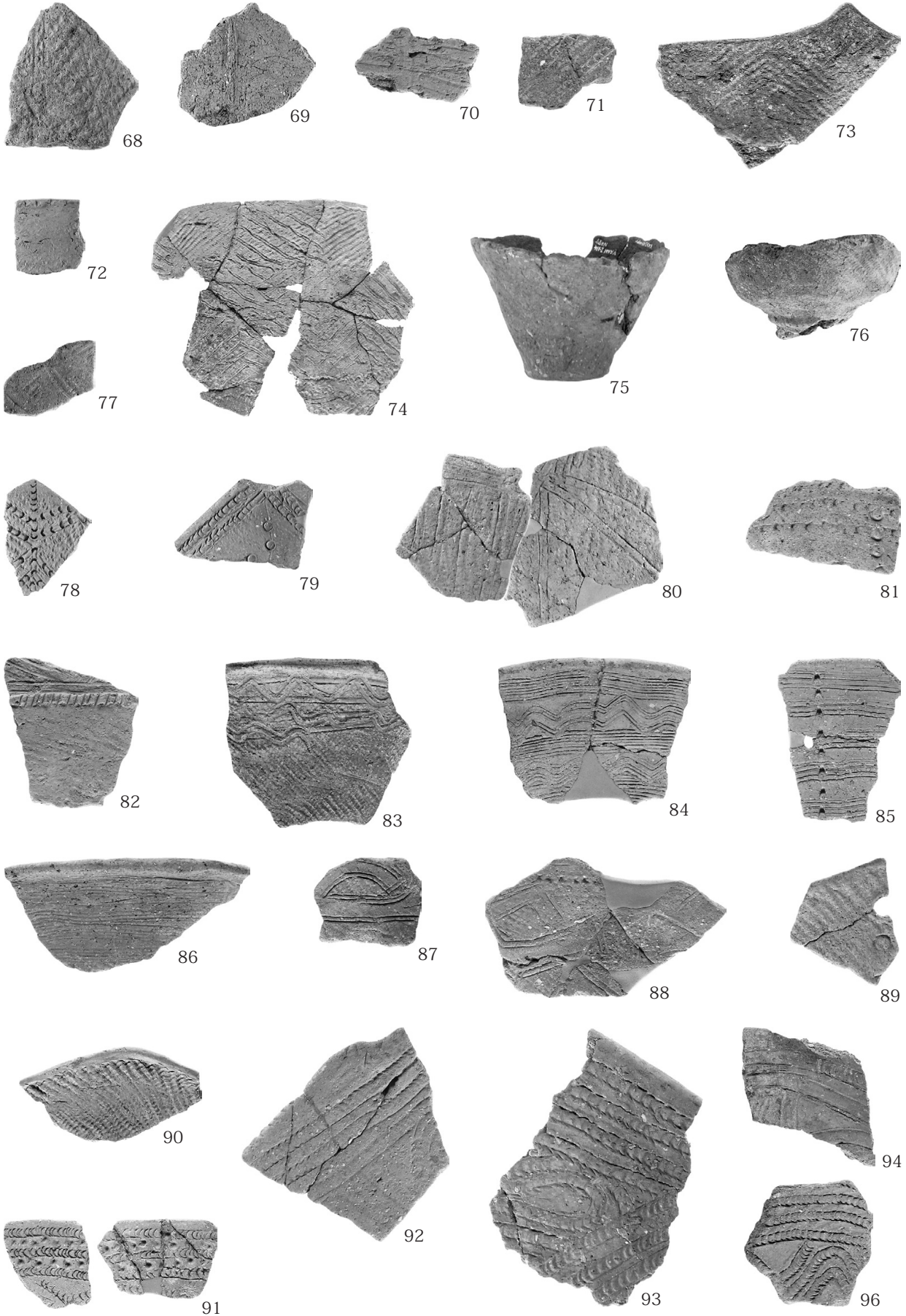
遺構外出土遺物 (1)



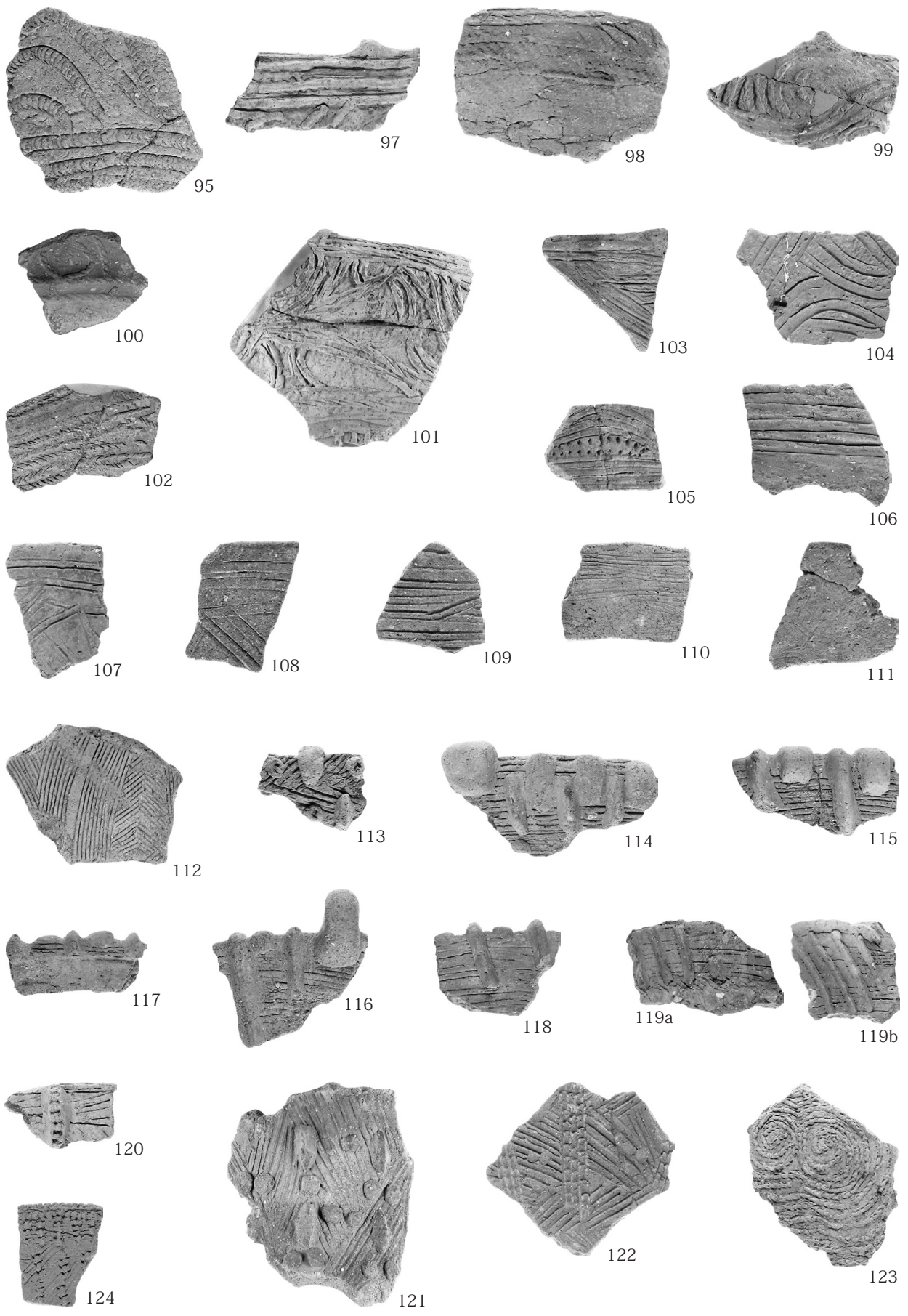
遺構外出土遺物 (2)



遺構外出土遺物 (3)

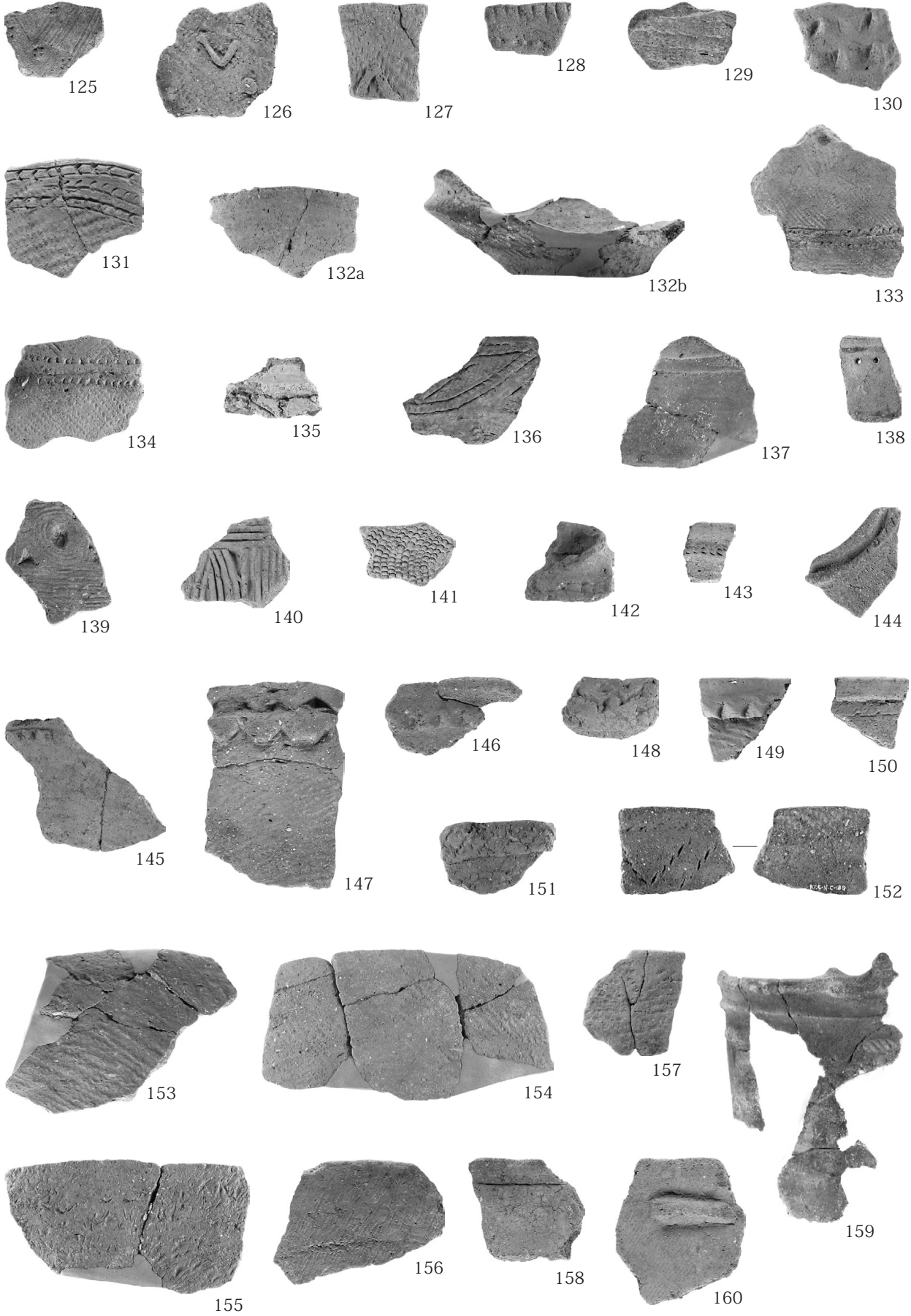


遺構外出土遺物 (4)

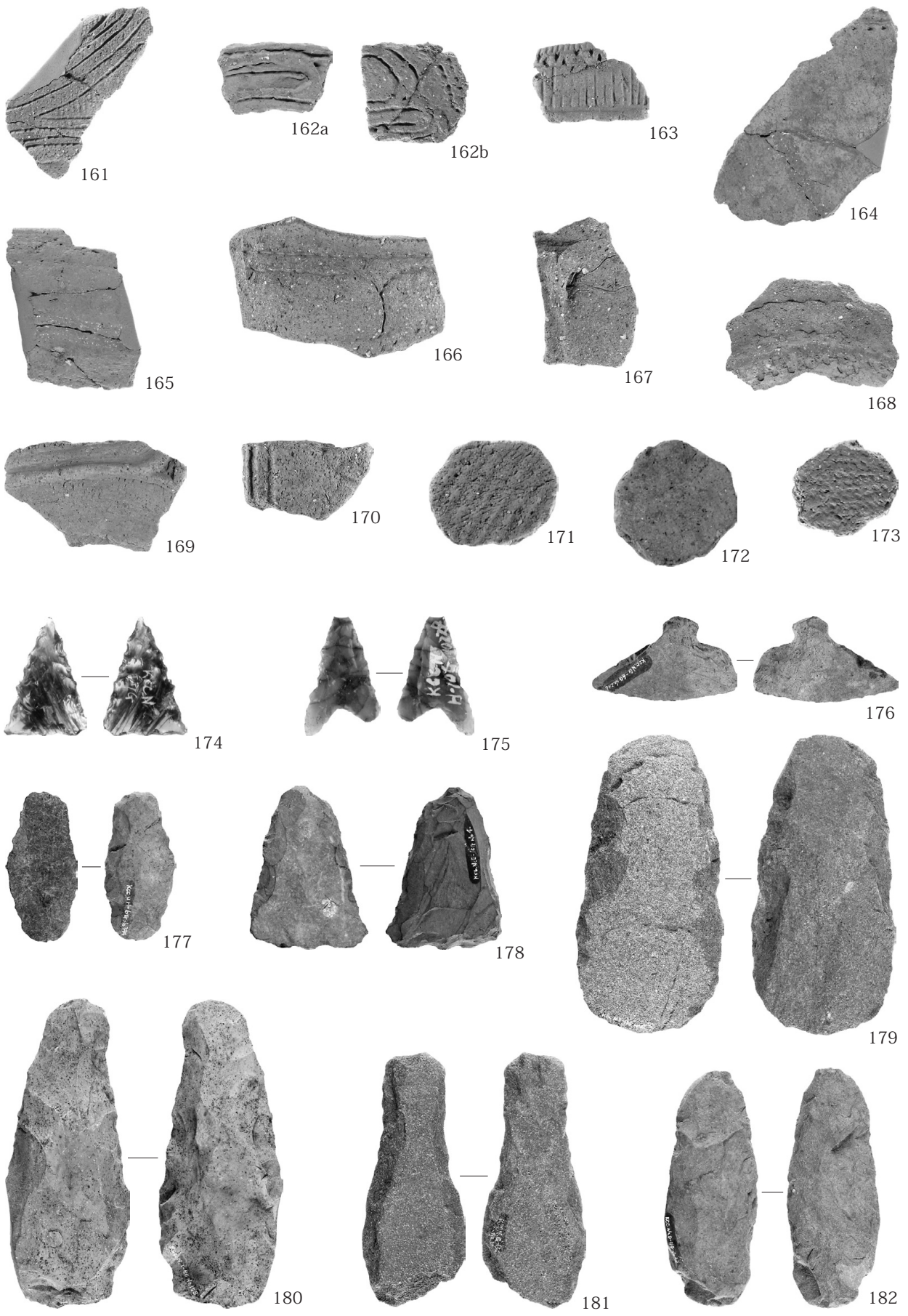


遺構外出土遺物 (5)

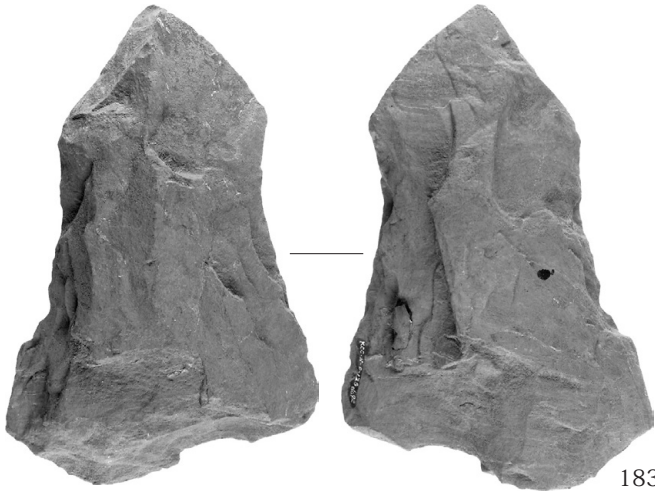




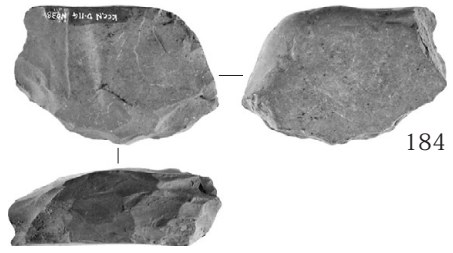
遺構外出土遺物 (6)



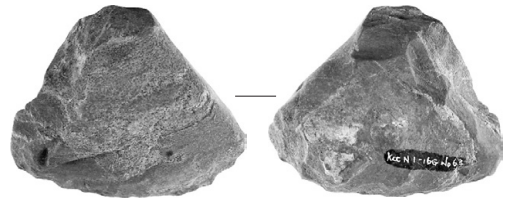
遺構外出土遺物 (7)



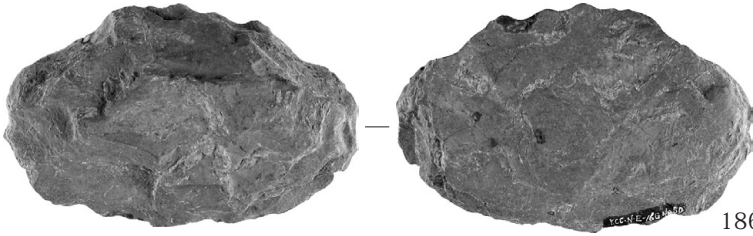
183



184



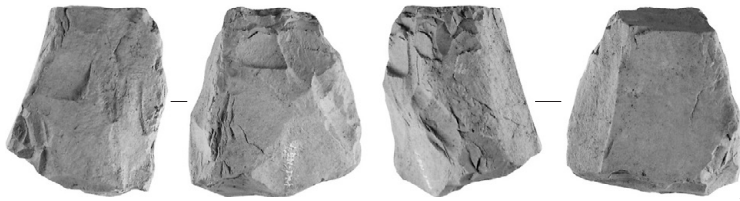
185



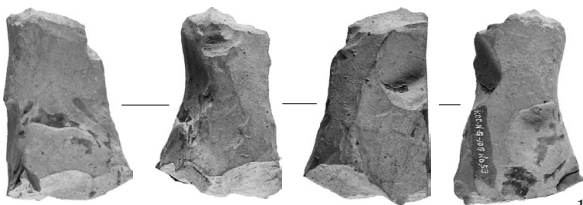
186



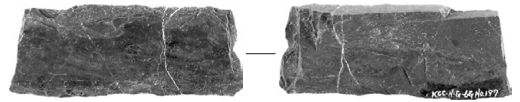
189



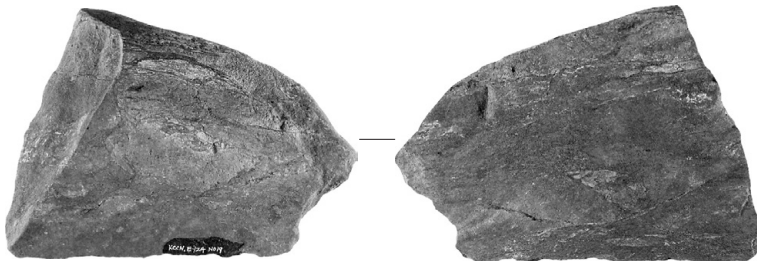
187



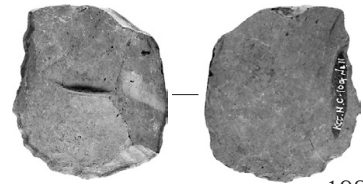
188



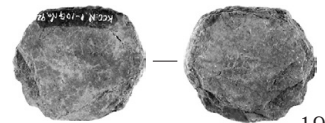
190



191

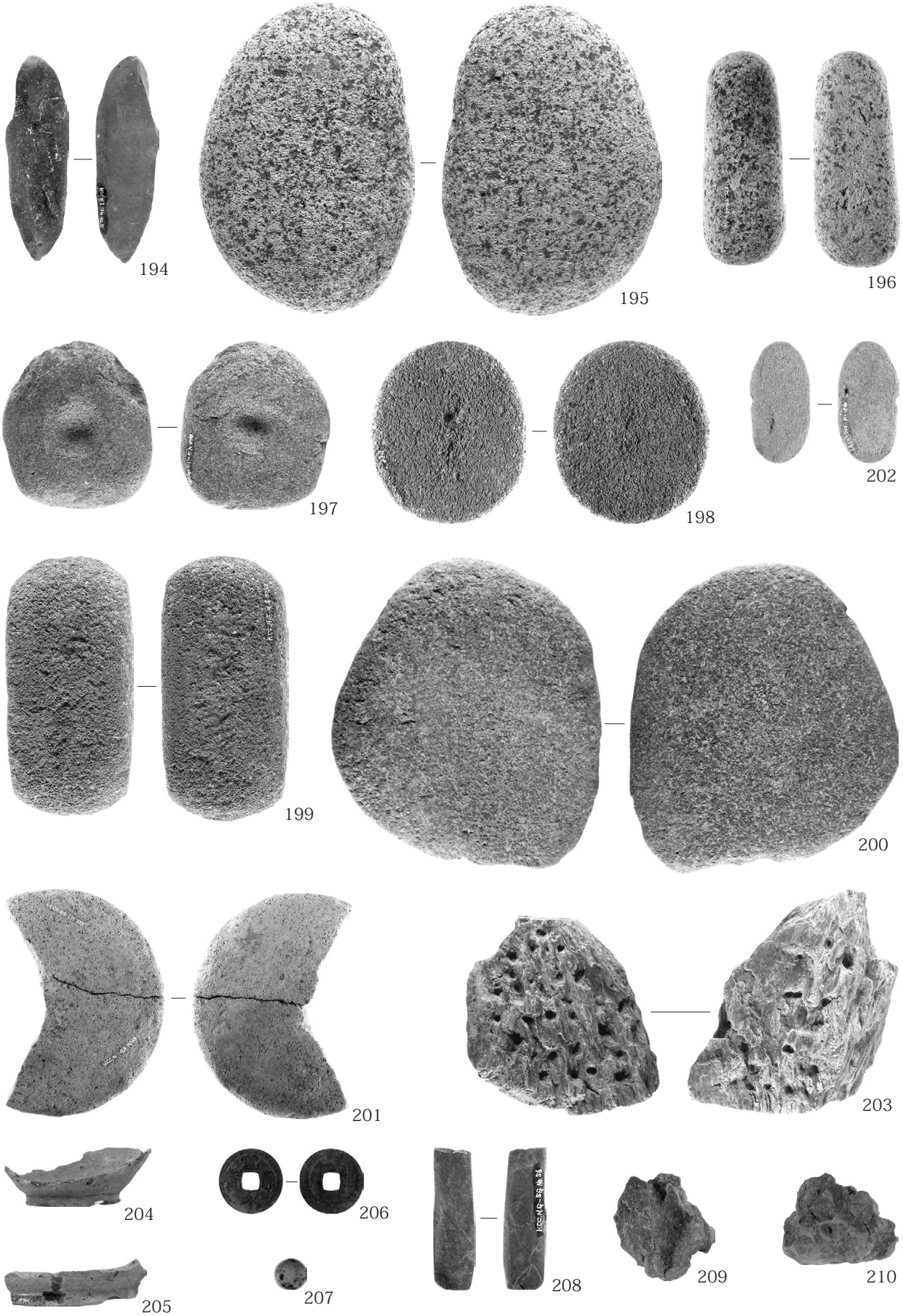


192

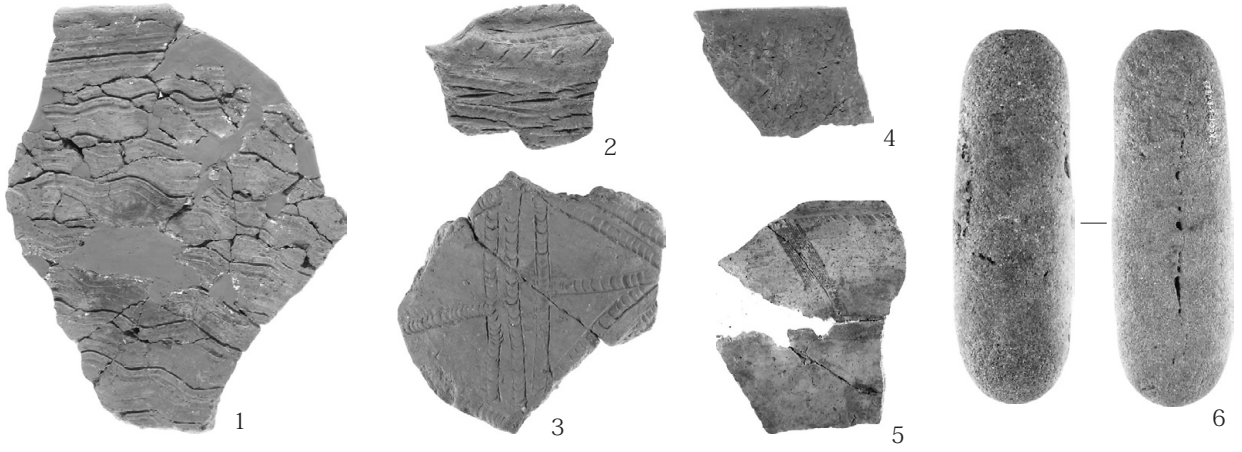


193

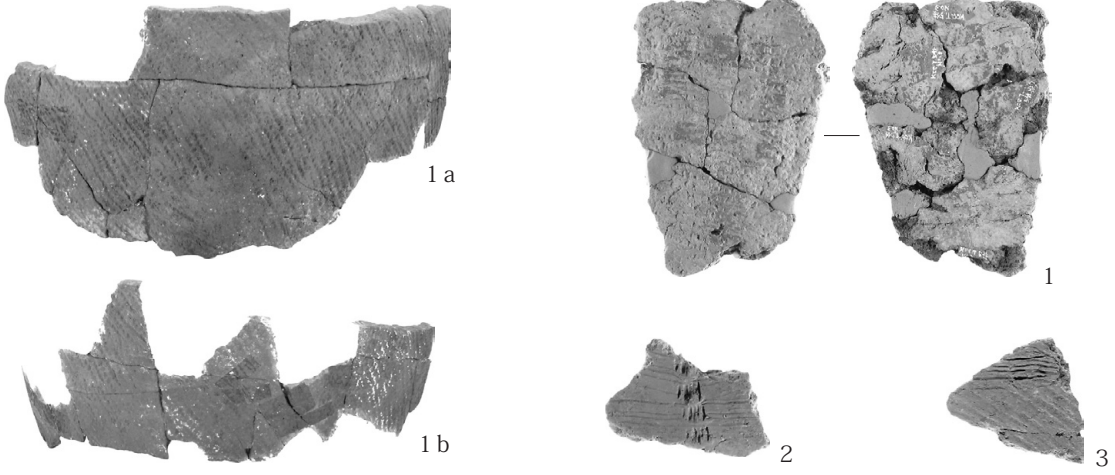
遺構外出土遺物 (8)



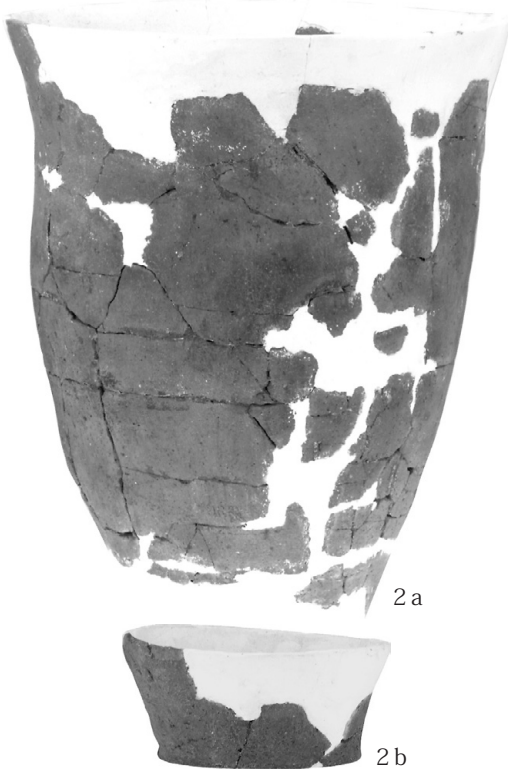
遺構外出土遺物 (9)



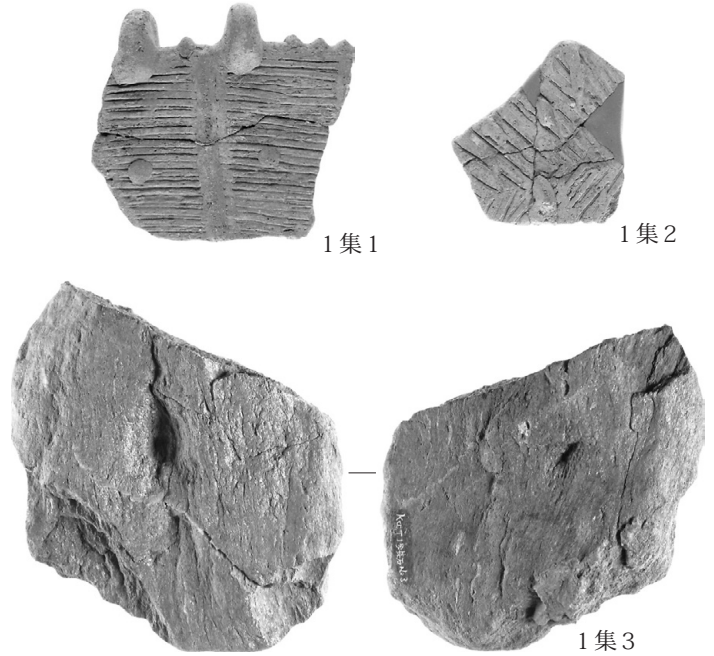
1号住居跡出土遺物



5号住居跡出土遺物



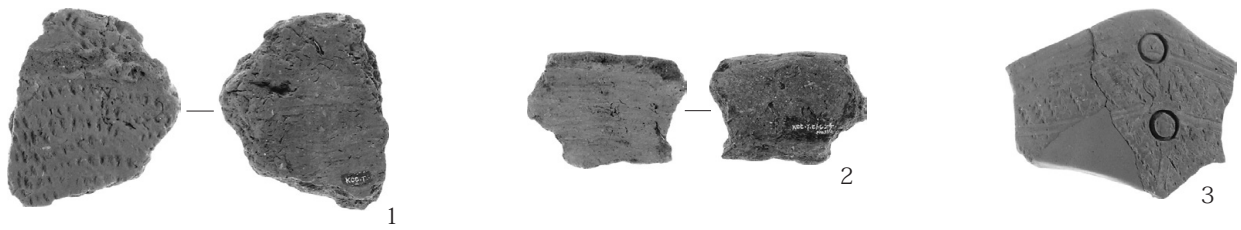
2号住居跡出土遺物



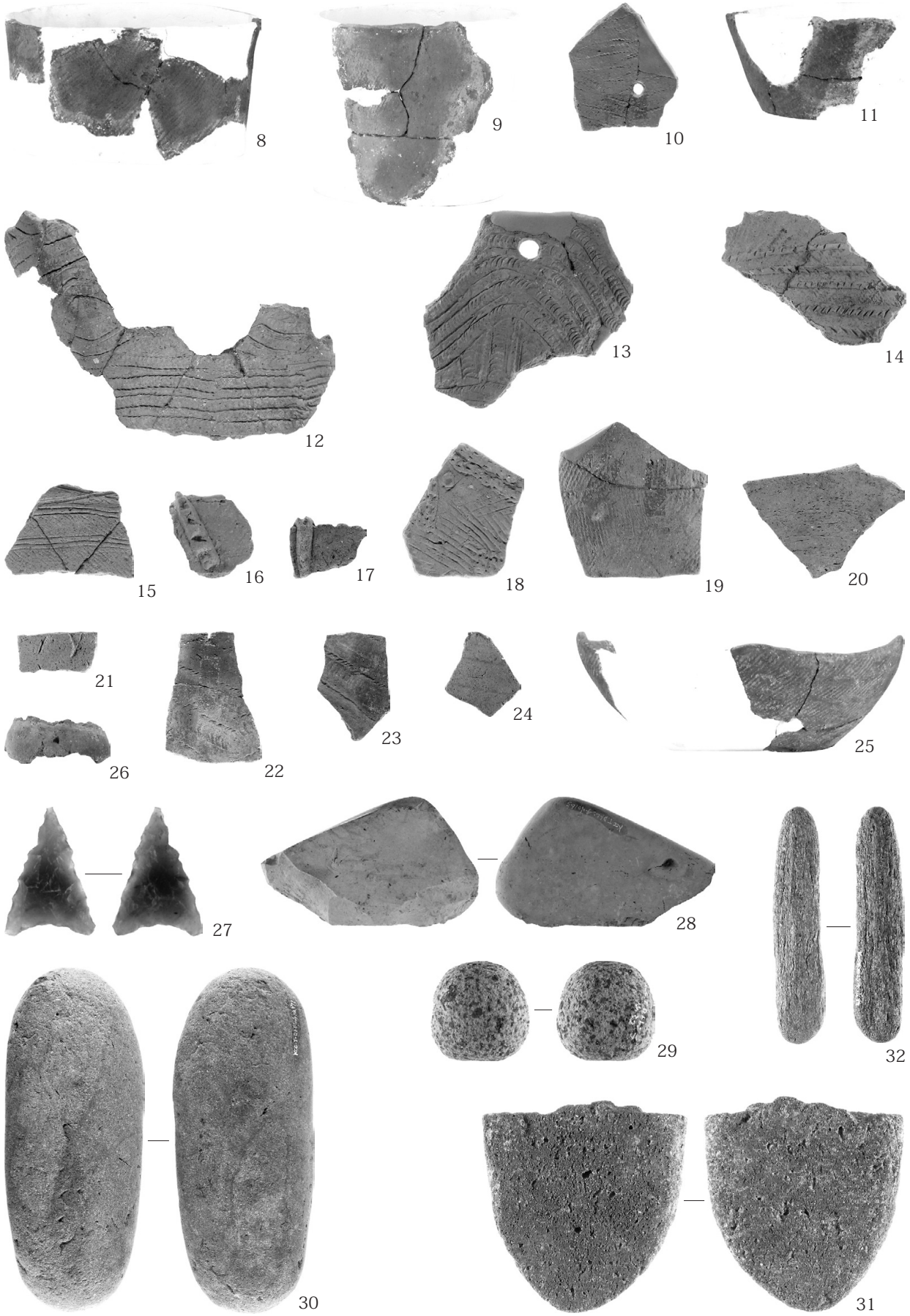
集石遺構出土遺物



土坑出土遺物



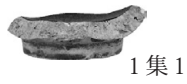
遺構外出土遺物 (1)



遺構外出土遺物(2)



1号住居跡出土遺物

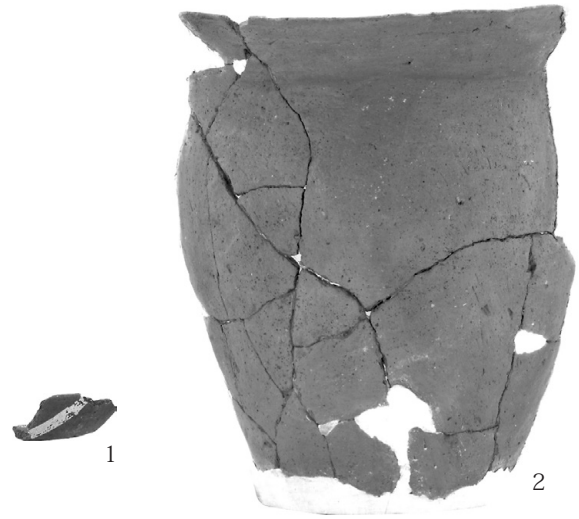


1集1



1集2

集石遺構出土遺物



2

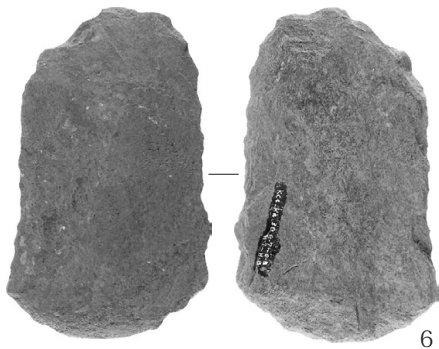


1

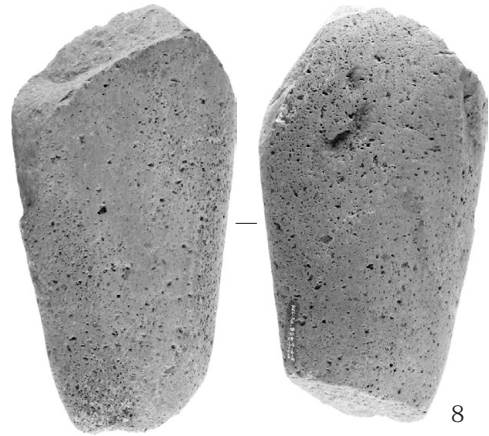


3

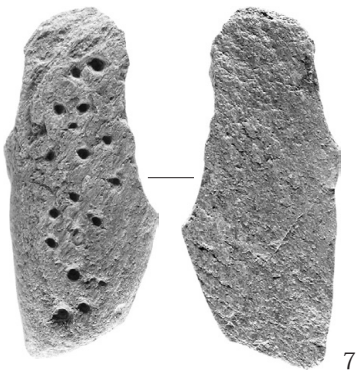
2号住居跡出土遺物



6



8



7



9



10



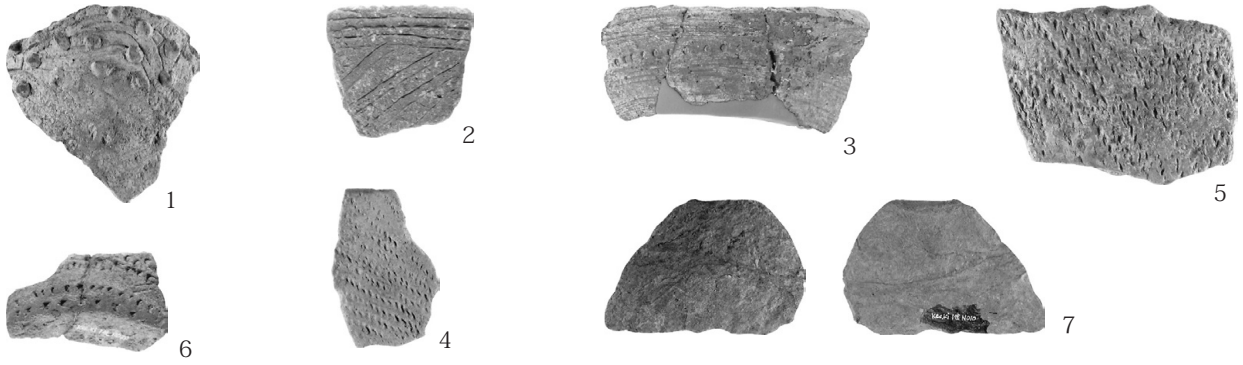
11



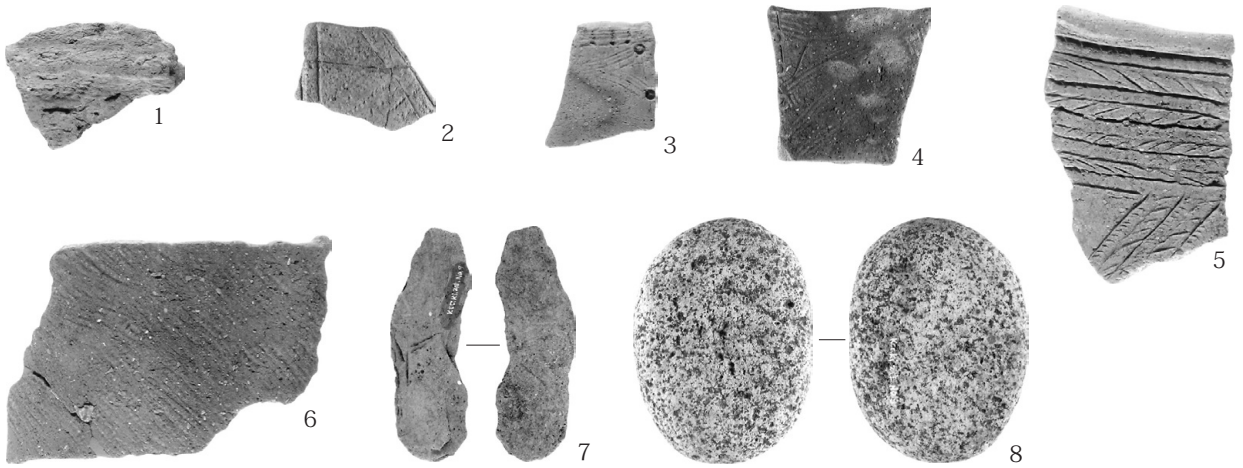
12

遺構外出土遺物





1号住居跡出土遺物

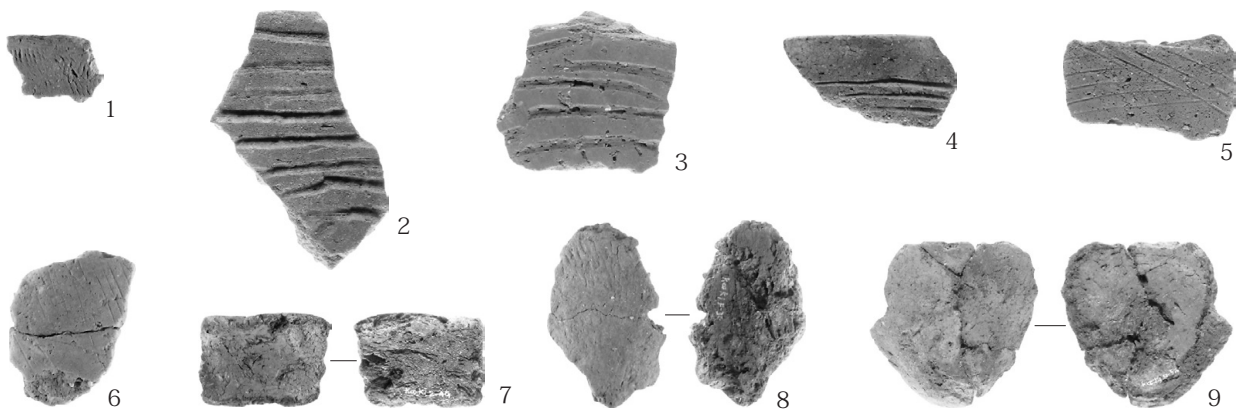


2号住居跡出土遺物

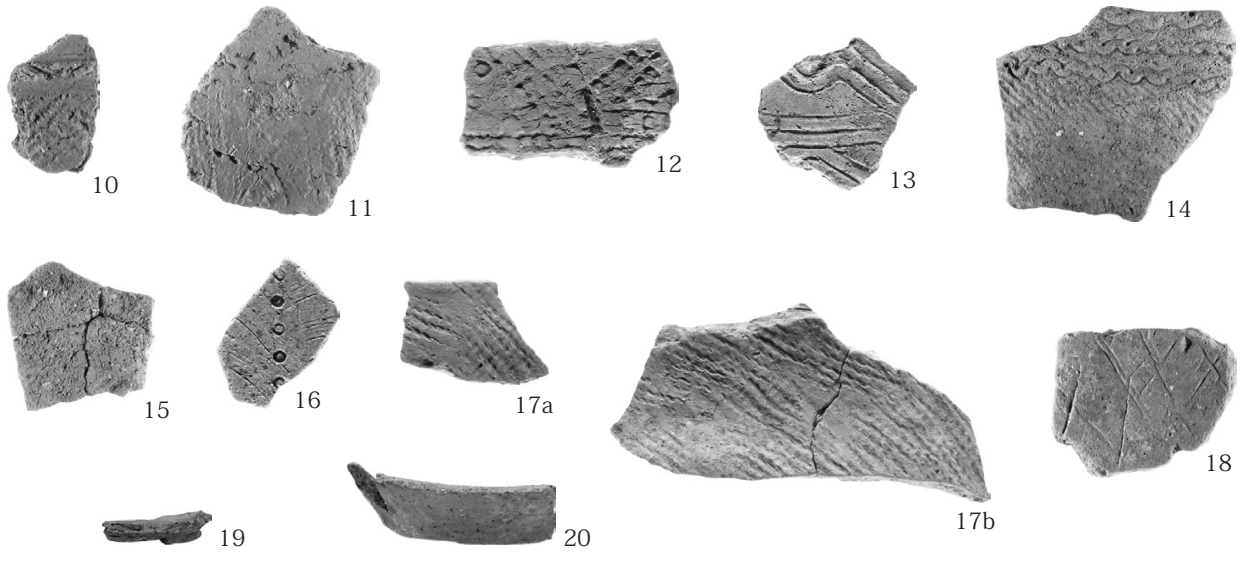


3号住居跡出土遺物

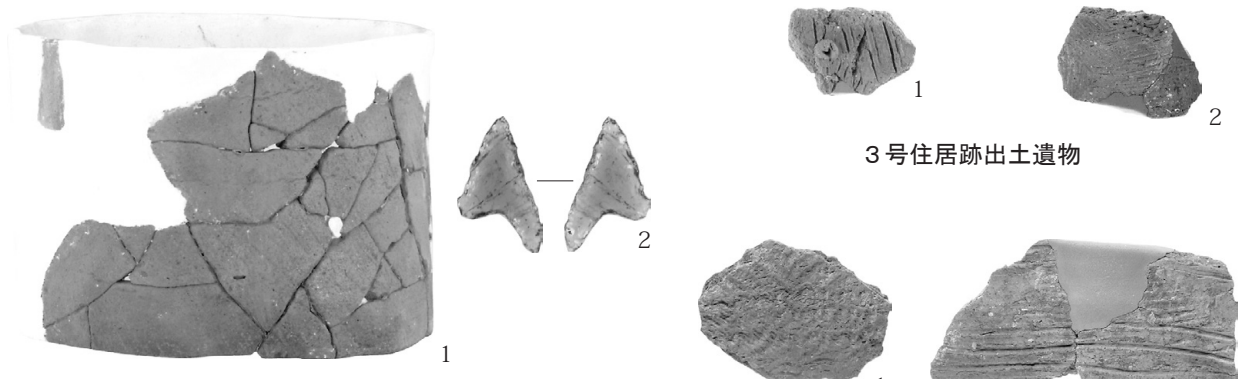
土坑出土遺物



遺構外出土遺物 (1)



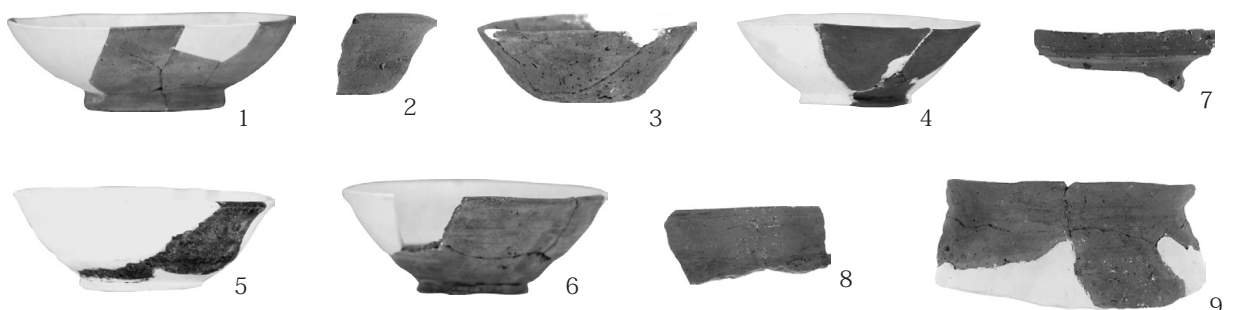
遺構外出土遺物 (2)



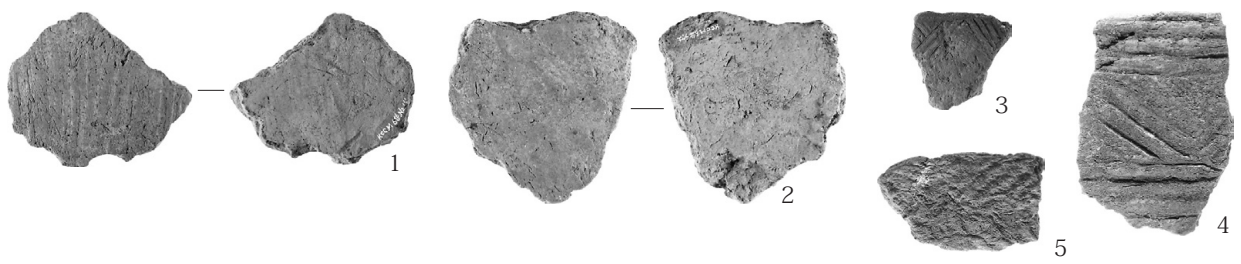
1号住居跡出土遺物

3号住居跡出土遺物

4号住居跡出土遺物



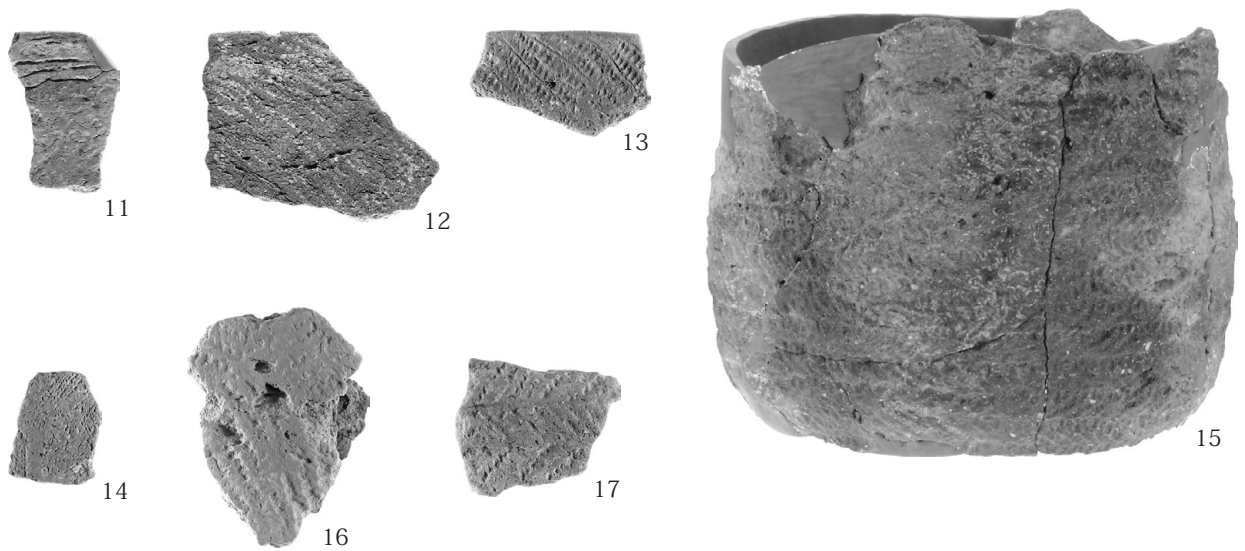
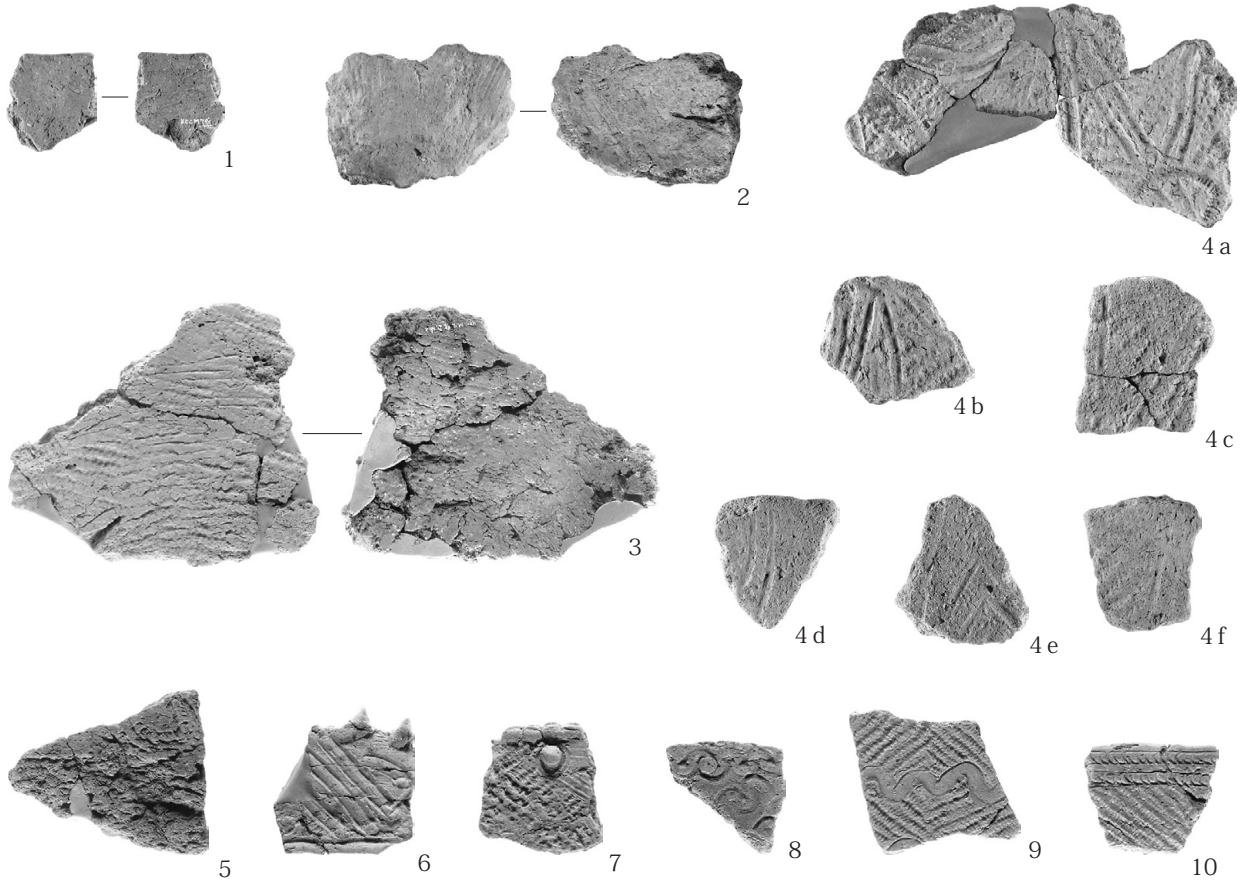
5号住居跡出土遺物



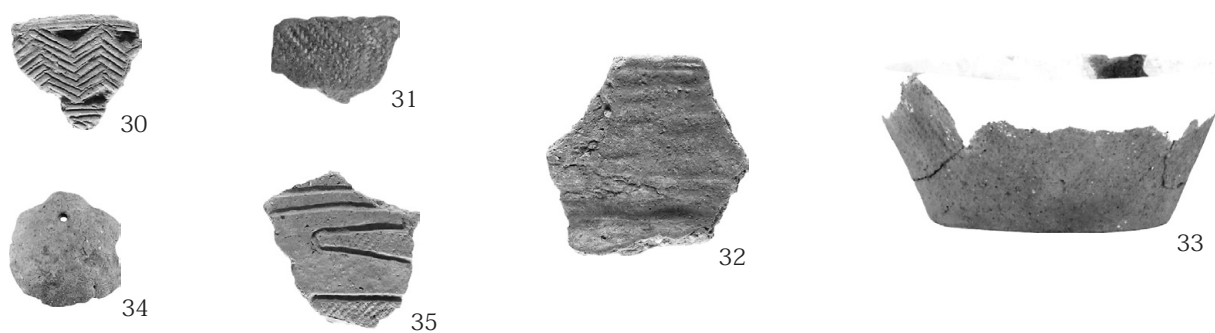
6号住居跡出土遺物 (1)



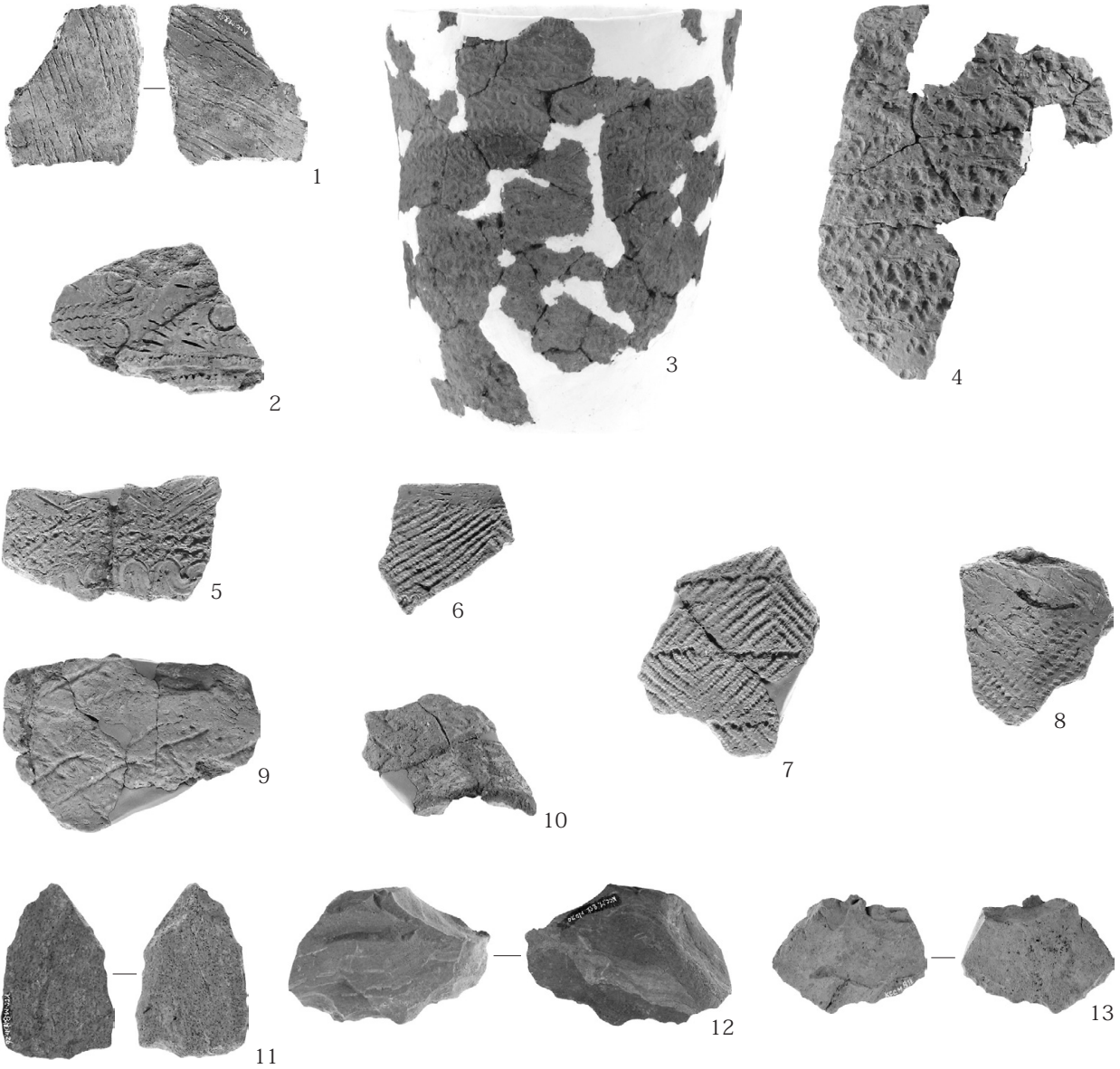
6号住居跡出土遺物 (2)



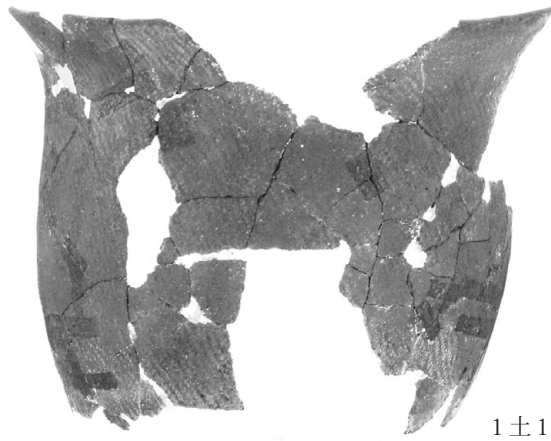
7号住居跡出土遺物 (1)



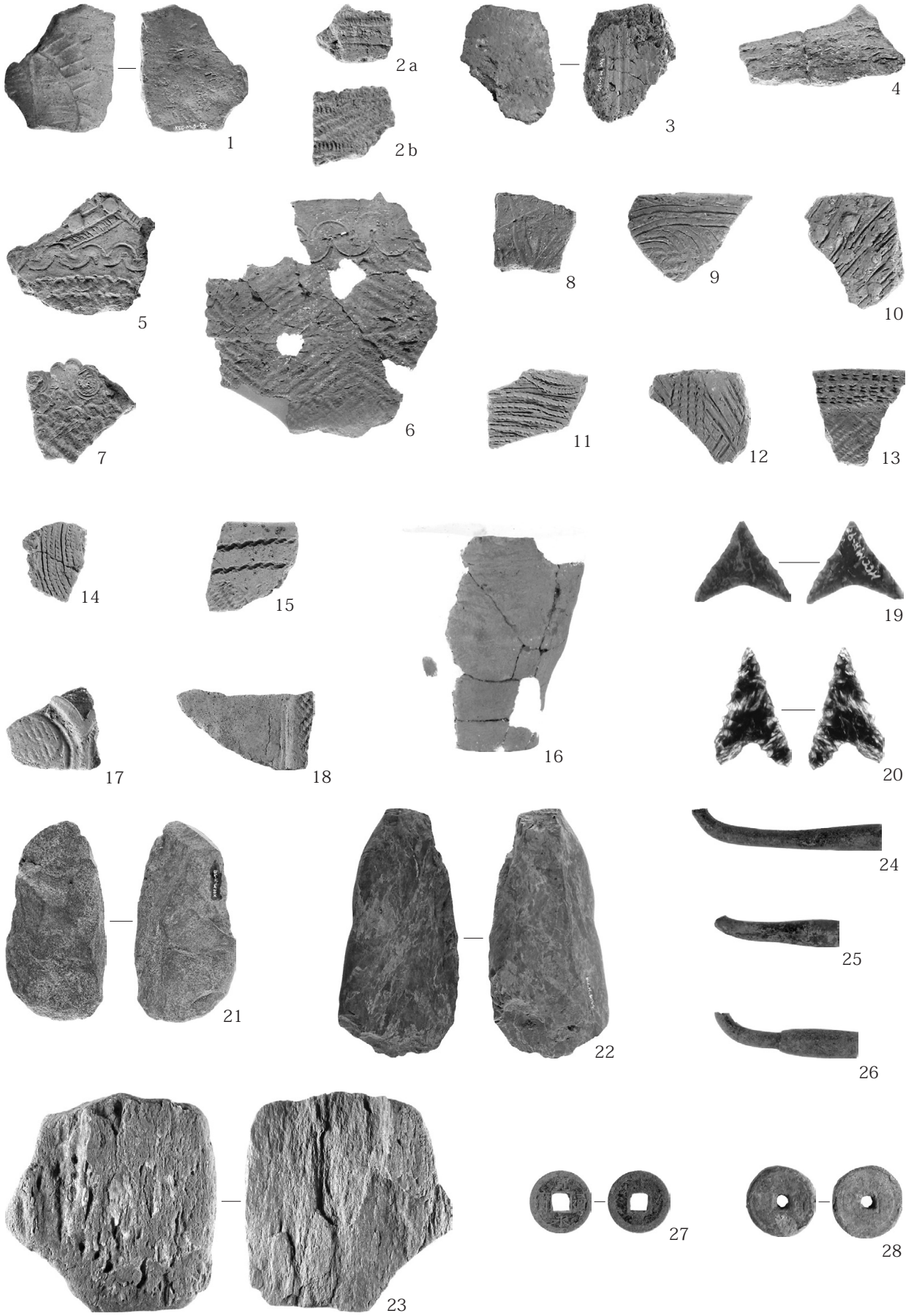
7号住居跡出土遺物(2)



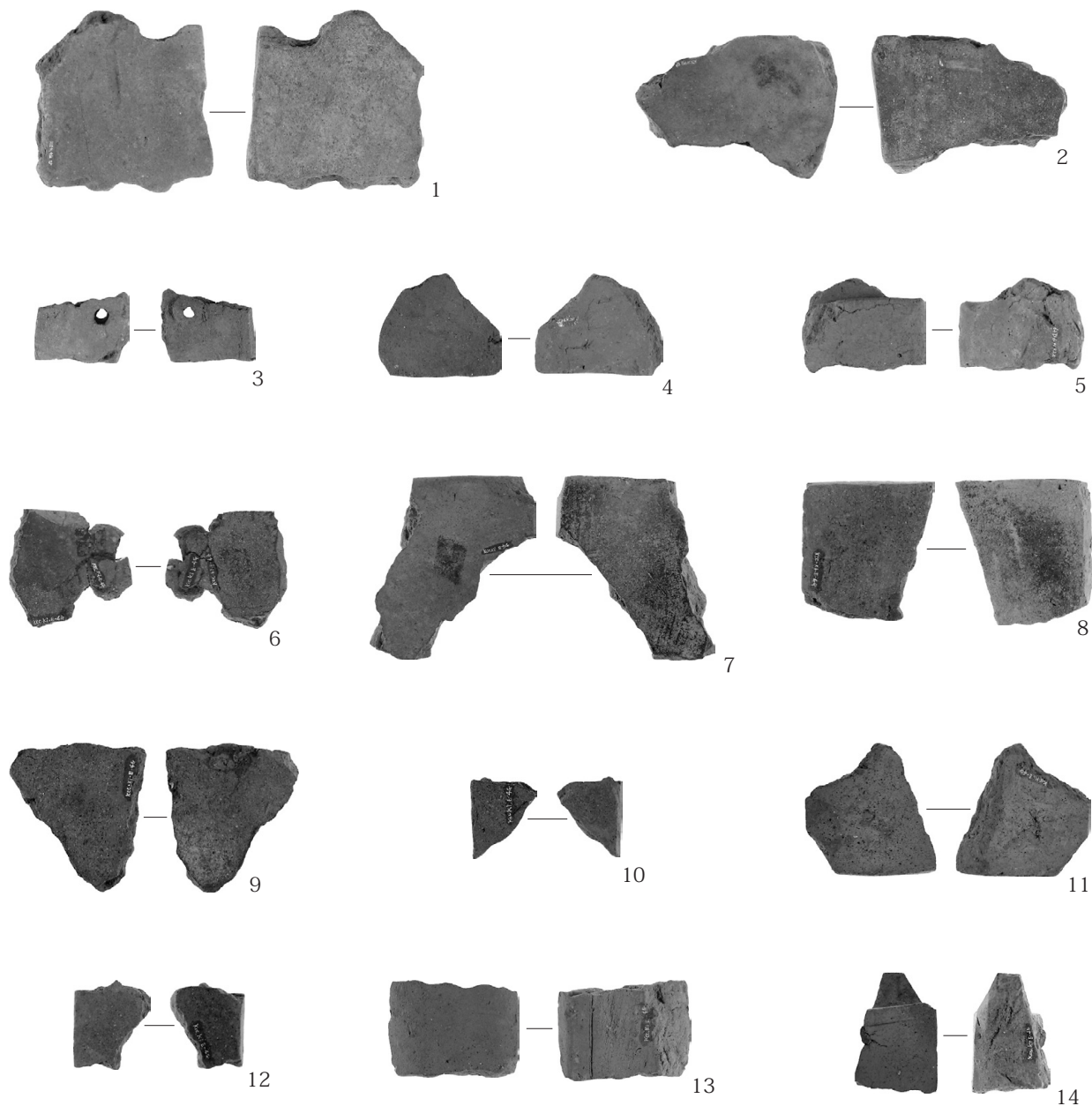
8号住居跡出土遺物



土坑出土遺物



遺構外出土遺物



般若寺瓦

---

本庄市遺跡調査会報告書 第43集

**秋山西部遺跡群**

ゴルフ場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成24年3月30日 印刷

平成24年3月30日 発行

発行／本庄市遺跡調査会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

本庄市教育委員会内

電話 0495 - 25 - 1185

印刷／朝日印刷工業株式会社